

茨城県教育財団文化財調査報告第435集

九重東岡廃寺 金田西遺跡

中根・金田台特定土地地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書 XXI

上 卷

平成 31 年 3 月

独立行政法人都市再生機構
首都圏ニュータウン本部
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第435集

この え ひがし おか
九重東岡廃寺
こん だ にし
金田西遺跡

中根・金田台特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書 XXI

上 卷

平成 31 年 3 月

独立行政法人都市再生機構
首都圏ニュータウン本部
公益財団法人茨城県教育財団



九重東岡廃寺・金田西遺跡全景（北方向から）



金田西遺跡出土 温石



金田西遺跡出土 コップ形土器

序

公益財団法人茨城県教育財団は、国や県などの各事業者から委託を受けて埋蔵文化財の発掘調査と整理業務を実施することを主な目的として、昭和52年に調査課が設置されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部茨城地域事業本部による中根・金田台特定土地区画整理事業に伴って実施した、つくば市九重東岡廃寺、金田西遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって、九重東岡廃寺と金田西遺跡においては、奈良時代から平安時代にかけての竪穴建物跡や掘立柱建物跡が多数確認でき、郡の寺と郡衙に隣接した集落跡の一端を窺い知ることができました。本書が、歴史研究の学術資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上のための資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、多大な御協力を賜りました委託者であります独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部茨城地域事業本部に対して厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、御指導、御協力をいただきました関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

平成31年 3月

公益財団法人茨城県教育財団
理事長 野口 通

例 言

1 本書は、独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部茨城地域事業本部の委託により、公益財団法人茨城県教育財団が平成27・28年度に発掘調査を実施した、茨城県つくば市東岡字海道端252-1番地ほかに所在する九重^{ここのえひがしおか}東岡廃寺及び茨城県つくば市金田字西原1891番地ほかに所在する金田西^{こんだにし}遺跡の発掘調査報告書である。

2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

九重東岡廃寺

調査 平成27年4月1日～8月31日

整理 平成29年12月1日～平成30年3月31日

金田西遺跡

調査 平成27年4月1日～平成27年6月30日

平成27年11月1日～平成28年3月31日

平成28年8月1日～平成29年8月31日

整理 平成30年4月1日～平成31年3月31日

3 発掘調査は、副参事兼調査課長白田正子のもと、以下の者が担当した。

平成27年度 九重東岡廃寺

首席調査員兼班長 駒澤悦郎

次席調査員 作山智彦 平成27年4月1日～8月31日

調査員 大久保芳紀 平成27年4月1日～4月30日

調査員 緑川正實 平成27年4月1日～4月30日

調査員 皆川貴之 平成27年5月1日～8月31日

平成27年度 金田西遺跡

首席調査員兼班長 駒澤悦郎

次席調査員 作山智彦 平成27年4月1日～6月30日 平成27年11月1日～平成28年3月31日

調査員 大久保芳紀 平成27年4月1日～4月30日 平成27年11月1日～平成28年3月31日

調査員 緑川正實 平成27年4月1日～4月30日

調査員 皆川貴之 平成27年5月1日～6月30日

調査員 海老澤稔 平成28年1月1日～1月31日

平成28年度 金田西遺跡

次席調査員 木村光輝 平成28年8月1日～8月31日

次席調査員 永井敦 平成28年8月1日～8月31日

4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長皆川修のもと、以下の者が担当した。

調査員 荒井保雄 平成29年12月1日～平成31年3月31日

5 本書の作成にあたり、石器の石材について、産業技術総合研究所地質調査総合センター斎藤眞氏、宮崎一博氏、昆慶明氏にご指導いただいた。

6 本遺跡の出土遺物及び実測図・写真等は、茨城県埋蔵文化財センターにて保管されている。

凡 例

1 両遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し、 $X = + 10,840 \text{ m}$ 、 $Y = + 26,440 \text{ m}$ の交点を基準点 (A 1 a1) とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m 四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m 四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ A, B, C…、西から東へ 1, 2, 3… とし、「A 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a, b, c…j, 西から東へ 1, 2, 3, …0 と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1 区」のように呼称した。

2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 P - ピット PG - ピット群 SA - 柱穴列 SB - 掘立柱建物跡 SD - 溝跡 SE - 井戸跡
SI - 竪穴建物跡 SK - 土坑
遺物 DP - 土製品 M - 金属製品 Q - 石器 T - 瓦
土層 K - 攪乱

3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は 400 分の 1、各遺構の実測図は原則として 60 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として 3 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

 焼土・施釉・朱墨 火床面 竈部材 柱あたり・墨・油煙・金箔
●土器 ○土製品 □石器 △金属製品 ■瓦 - - - - 硬化面

4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。また、土層解説中の含有物については、各々総量を記述した。

5 遺構一覧表・遺物観察表の表記は、次のとおりである。

(1) 計測値の単位は m, cm, g で示した。なお、現存値は () を、推定値は [] を付して示した。

(2) 遺物番号は通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

(3) 遺物観察表の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

6 竪穴建物跡の「主軸」は、炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸（径）方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N - 10° - E）。

7 今回の報告分で、整理の段階で遺構名を変更したもの及び欠番にしたものは以下のとおりである。

九重東岡廃寺

変更 SB32→SK25 SB33→SK26・27

欠番 SK9~14・23 SX1

金田西遺跡

変更 SI378 (P9) →SK90, SI381→SK91, SI382→SK92, SI389→第2号粘土採掘坑, SB123→SI359 (P1), SB121 (P2) →SK93, SK38→第1号粘土採掘坑, SK45→SI366 (P7), SK120→第1号大型円形土坑, SK71~74・76・77→PG5, SK79~86・88・89 →PG4, SK47・90~102・110・111→PG3, SA4・5→SB121, SD38→SK96, PG2 (P12) →SK94, PG2 (P13) →SK95

欠番 SB121 (P1), SK58・115~117, SD23・27, SF1・2

目 次

- 上 卷 -

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
九重東岡廃寺・金田西遺跡の概要	1
第1章 調査経緯	5
第1節 調査に至る経緯	5
第2節 調査経過	6
第2章 位置と環境	7
第1節 位置と地形	7
第2節 歴史的環境	7
第3章 九重東岡廃寺	14
第1節 調査の概要	14
第2節 基本層序	14
第3節 遺構と遺物	15
1 奈良時代の遺構と遺物	15
(1) 竪穴建物跡	15
(2) 掘立柱建物跡	38
(3) 井戸跡	49
2 平安時代の遺構と遺物	50
(1) 竪穴建物跡	50
(2) 掘立柱建物跡	89
(3) 土 坑	99
(4) 溝 跡	103
3 その他の遺構と遺物	106
(1) 土 坑	106
(2) 柱穴列	109
(3) 溝 跡	110
第4章 金田西遺跡	112
第1節 調査の概要	112
第2節 基本層序	112
第3節 遺構と遺物	112
1 奈良時代の遺構と遺物	112
(1) 竪穴建物跡	112

(2) 掘立柱建物跡	146
(3) 大型円形土坑	157
(4) 土坑	159
(5) 柱穴列	163
(6) 溝跡	163
(7) ピット群	166
2 平安時代の遺構と遺物	167
(1) 竪穴建物跡（第 278 号竪穴建物跡～第 373 号竪穴建物跡）	167

- 下 巻 -

(1) 竪穴建物跡（第 374 号竪穴建物跡～第 392 号竪穴建物跡）	225
(2) 掘立柱建物跡	245
(3) 井戸跡	260
(4) 粘土採掘坑	261
(5) 土坑	265
(6) 柱穴列	270
(7) 溝跡	272
(8) ピット群	273
3 江戸時代の遺構と遺物	274
(1) 土坑	274
(2) 溝跡	275
4 その他の遺構と遺物	277
(1) 土坑	277
(2) 柱穴列	284
(3) 溝跡	285
(4) ピット群	285
(5) 遺構外出土遺物	286
第 5 章 まとめ	291
写真図版	PL 1 ～ PL60
抄録	
付図	

この え びがし おか はい じ こ ん だ に し い せ き 九重東岡廃寺・金田西遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

九重東岡廃寺と金田西遺跡は、つくば市の北東部に位置し、桜川右岸の標高 25 m の台地上に立地しています。

中根・金田台特定土地区画整理事業に伴い、遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、公益財団法人茨城県教育財団が平成 27 年度に九重東岡廃寺の 8,856㎡について、平成 27・28 年度に金田西遺跡の 7,680㎡について発掘調査を行いました。



九重東岡廃寺の調査の内容

調査では、奈良時代の^{たてあなたてもとのあと}竪穴建物跡 9 棟、^{ほったてばしらたてもとのあと}掘立柱建物跡 9 棟、井戸跡 1 基、平安時代の竪穴建物跡 17 棟、掘立柱建物跡 6 棟、^{どこう}土坑 5 基、溝跡 6 条などを確認しました。今回の調査区は、九重東岡廃寺の北部から西部にあたり、奈良時代から平安時代の集落跡であることがわかりました。



調査区遠景



第 64 号 竪穴建物跡 (補強材に甕が活用された竈)



第 73 号 竪穴建物跡 (補強材に瓦が活用された竈)



仏鉢



軒平瓦 (四重弧文軒平瓦)

九重東岡廃寺の調査の成果

7世紀末葉から9世紀後葉の集落跡を確認することができました。集落を構成する竪穴建物跡からは、九重東岡廃寺に関わる建物の屋根に葺かれた軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦・隅切瓦や僧侶が托鉢で布施ものをいただく鉄製の鉢を模した須恵器の仏鉢、コップ形土器などが出土しました。瓦は、竪穴建物跡の竈の両袖に補強材として使用されたり、支脚に転用されたり再利用されていました。この瓦は、九重東岡廃寺の衰退後に再利用されたものと考えられます。9世紀中葉から後葉の竪穴建物跡から出土した瓦から、九重東岡廃寺の衰退時期をうかがい知ることができました。九重東岡廃寺では、平成14年の確認調査で、基壇の一部と瓦溜め土坑、堂宇と想定される掘立柱建物跡が確認されましたが、寺域を区画する溝は見つかりませんでした。今回は基壇の北部と西部の調査を行いました。寺域を区画する溝は見つけることができませんでした。このようなことから今回調査した建物跡は、郡衙や郡寺を維持する人々の集落とみられます。



調査区遠景（北方向から）



平安時代の竪穴建物跡から出土したコップ形土器



平安時代の竪穴建物跡から出土した土器

金田西遺跡の調査の内容

当遺跡は、平成12・13年に河内郡の郡庁域、郡寺域、正倉域の確認調査が行われ、郡庁跡の四面庇建物跡やコの字状に配置された館跡、建物群が一直線上に並ぶ居館跡などや区画溝とその内部に掘立柱建物や礎石建物で構成された正倉域が確認されました。今回の調査区はその西側にあたり、竪穴建物跡49棟、掘立柱建物跡22棟、井戸跡1基、大型円形土坑1基、粘土採掘坑2基、土坑76基、柱穴列5条、溝跡15条、ピット群5か所などを確認しました。九重東岡廃寺と隣接している奈良時代から平安時代（約1,300～1,100年前）の集落跡であることがわかりました。



「天」の則天文字風「市」



ようたいぐ じゆんぽう
腰帯具「巡方」



「里」と記された文字瓦



「寺」と記された墨書土器

金田西遺跡の調査の成果

今回の調査では、^{たてあな} 堅穴建物跡から寺院跡に関わる軒平瓦・丸瓦や、「寺」の文字が書かれた^{ぼくしょどき} 墨書土器、現代のカイロに当たる^{じやもんがん} 蛇紋岩を加工して造った^{ほうじゆ} 宝珠形^{がた}の温石、役人の位を示す^{ようたいぐ} 腰帯具の一部である銅製品の^{じゆんぽう} 巡方、^{けいりょうき} 計量器の^{ます} 升到相当する須恵器の^{こつぽん} コップ形土器などが出土しています。これらの遺物は、郡衙の役人や仏教に関連するものがありますが、郡衙の建物や寺院から出土したのではなく、隣接する集落から出土しています。このように、郡寺や郡衙と関連する出土遺物から、それらを維持する人々が生活した集落と考えられます。また、郡衙関連施設の^{せいりつ} 成立期から^{すいたい} 衰退期を集落の盛衰と併せて考えると、郡衙成立前にあった集落は成立とともに少なくなりますが、衰退期になると増え始めることがわかりました。集落の増減は、郡衙の盛衰と関係しているものと考えられます。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

つくば市では、世界に開かれた国際交流の中心、世界の科学技術をリードする研究開発の拠点として、21世紀の新しい街づくりが進められている。その一環として取り組んでいるのが、2005年に開業した「つくばエクスプレス」の沿線開発である。中根・金田台地区については、住宅・都市整備公団つくば開発局（平成9年10月から住宅・都市整備公団茨城地域支社に、平成11年10月から都市基盤整備公団茨城地域支社に、平成16年7月から独立行政法人都市再生機構茨城地域支社に、平成23年7月から独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部茨城地域事業本部に名称を変更）が事業主体として、土地地区画整理事業を進めている。

九重東岡廃寺については、平成6年11月18日、住宅・都市整備公団つくば開発局長は茨城県教育委員会教育長あてに、中根・金田台特定土地地区画整理事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成7年度、現地踏査を実施した。平成11年8月3日、8月4日、8月5日、10月26日及び10月27日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成11年12月10日、茨城県教育委員会教育長は都市基盤整備公団茨城地域支社長あてに、事業地内に九重東岡廃寺が所在すること及びその取り扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成19年1月11日、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社長は茨城県教育委員会教育長あてに、文化財保護法第94条に基づく土木工事の通知を提出した。茨城県教育委員会教育長は、現状保存が困難であることから記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、平成19年1月31日、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社長あてに、工事着工前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成27年2月19日、独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部つくば・千葉常磐担当推進役は茨城県教育委員会教育長あてに、中根・金田台特定土地地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書を提出した。平成27年2月20日、茨城県教育委員会教育長は独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部つくば・千葉常磐担当推進役あてに、九重東岡廃寺について発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて調査機関として、公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。公益財団法人茨城県教育財団は、独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部つくば・千葉常磐担当推進役から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成27年4月1日から平成27年8月31日まで発掘調査を実施した。

金田西遺跡については、平成6年11月18日、住宅・都市整備公団つくば開発局長は、茨城県教育委員会教育長あてに、中根・金田台特定土地地区画整理事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会した。これを受けて平成7年度、茨城県教育委員会は、現地踏査を実施した。平成12年3月6～9日、13～15日、17日、平成27年11月24日及び12月15日、茨城県教育委員会は、試掘調査を実施した。平成12年3月17日、茨城県教育委員会教育長は、都市基盤整備公団茨城地域支社長あてに、平成28年2月1日、茨城県教育委員会教育長は、独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部つくば・千葉常磐担当推進役あてに、それぞれ事業地内に金田西遺跡が所在すること及びその取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成19年1月11日、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社長は、茨城県教育委員会教育長あてに、平成28年2月8日、独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部つくば・千葉常磐担当推進役は、茨城県

教育委員会教育長あてに、それぞれ文化財保護法第94条に基づく土木工事の通知を提出した。平成19年1月31日、茨城県教育委員会教育長は、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社長あてに、平成28年2月10日、茨城県教育委員会教育長は、独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部つくば・千葉常磐担当推進役あてに、それぞれ現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成27年2月19日及び平成28年2月16日、独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部つくば・千葉常磐担当推進役は、茨城県教育委員会教育長あてに、中根・金田台特定土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書を提出した。平成27年2月20日及び平成28年2月16日、茨城県教育委員会教育長は、独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部つくば・千葉常磐担当推進役あてに、金田西遺跡について、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて調査機関として、公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。公益財団法人茨城県教育財団は、独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部つくば・千葉常磐担当推進役から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成27年4月1日から6月30日、11月1日から平成28年3月31日及び平成28年8月1日から8月31日まで発掘調査を実施した。

第2節 調査経過

九重東岡廃寺の調査は、平成27年4月1日から8月31日までの5か月間、金田西遺跡の調査は、平成27年4月1日から6月30日までの3か月間と平成27年11月1日から平成28年3月31日の5か月間、平成28年8月1日から8月31日の1か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

平成27年度 九重東岡廃寺

工程 \ 期間	4月	5月	6月	7月	8月
調査準備 表土除去 遺構確認	■				
遺構調査			■		
遺物洗浄 写真整理	■				
撤収					■

平成27年度 金田西遺跡

工程 \ 期間	4月	5月	6月
調査準備 表土除去 遺構確認	■		
遺構調査			
遺物洗浄 写真整理			
撤収			

平成28年度

工程 \ 期間	11月	12月	1月	2月	3月	8月
調査準備 表土除去 遺構確認						
遺構調査	■					■
遺物洗浄 写真整理	■					■
撤収					■	

第2章 位置と環境

第1節 位置と地形

九重東岡廃寺は、茨城県つくば市東岡字海道端 252 - 1 番地ほかに、金田西遺跡は、茨城県つくば市金田字西原 1891 番地ほかに所在している。

つくば市は、茨城県の南西部に位置し、北部は筑波山塊に接し、東側約 5 km には霞ヶ浦がある。市域の多くは筑波山を北端として、その南東側に広がる標高 25 m ほどの平坦な筑波・稲敷台地上にある。この台地は、東を霞ヶ浦に流入する桜川、西を利根川に合流する小貝川によって区切られており、東から花室川、蓮沼川、小野川、谷田川、西谷田川などの中小河川がほぼ北から南に向かって流れている。

筑波・稲敷台地は、千葉県北部から茨城県南部にかけて広がる常総台地の一部であり、地質的には海成砂層の成田層を基盤として、その上に砂層・砂礫層の竜ヶ崎層、さらに泥質粘土層の常総粘土層、関東ローム層が連続して堆積し、最上部は腐植土層となっている¹⁾。

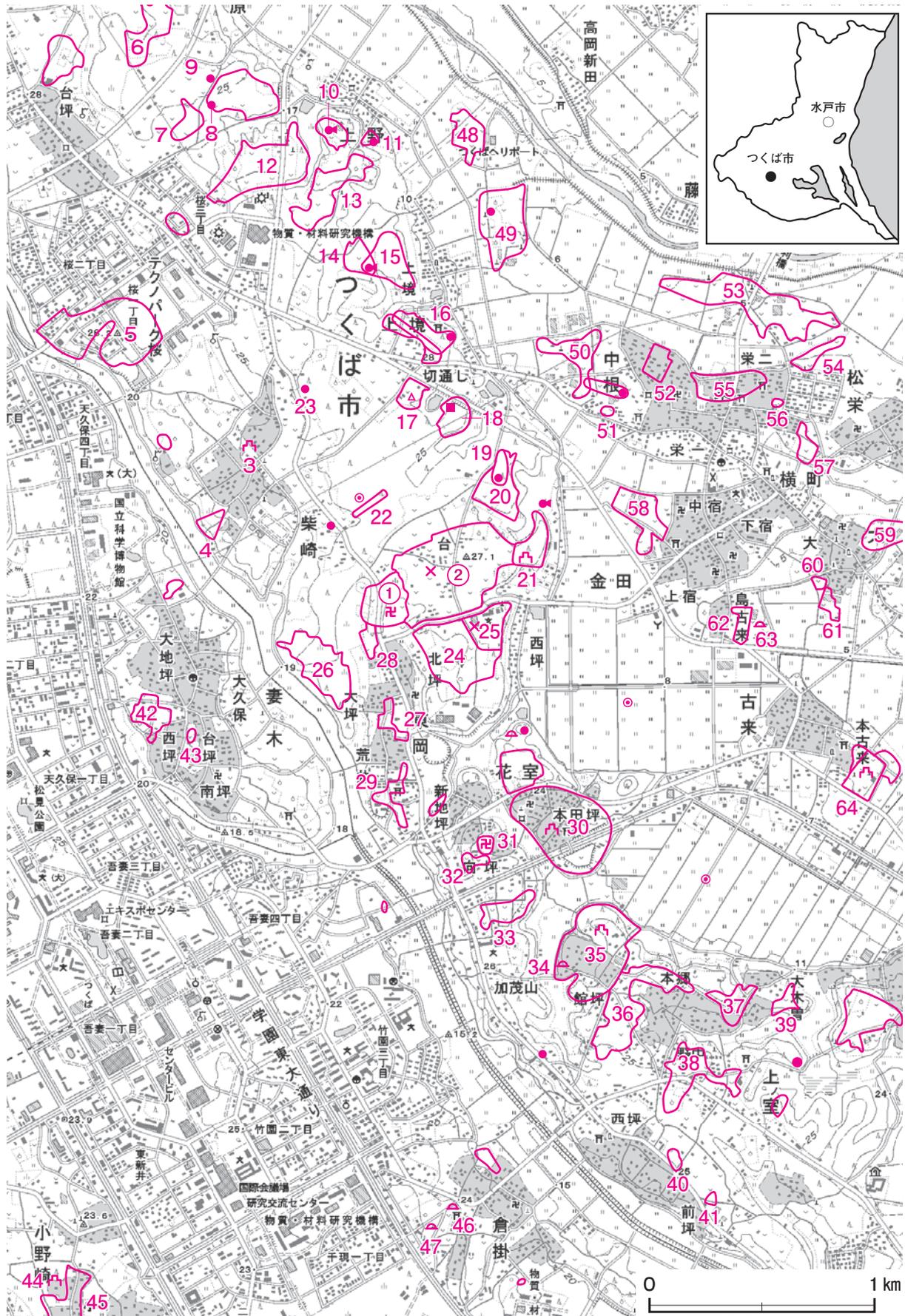
九重東岡廃寺及び金田西遺跡は、つくば市の北東部、花室川左岸の標高約 24 m の台地上に位置している。台地は東側の桜川、西側に花室川に挟まれ、遺跡はその台地の西側に位置し、幅 375 m ほどで、ほぼ南北に延びている。沖積低地との比高は 17 ~ 21 m である。西側には花室川からの小支谷が入り込んでいる。本遺跡とその周辺は、畑地や山林として利用されていたが、近年開発が進み、その状況も変わりつつある。

第2節 歴史的環境

九重東岡廃寺及び金田西遺跡が所在する桜川および花室川流域には、旧石器時代から江戸時代までの遺跡が多数分布している。ここでは、『茨城県遺跡地図』²⁾ に登録されている当該地域の主な遺跡を中心に、時代ごとに概観する。

旧石器時代の遺跡は、上野古屋敷遺跡³⁾ (13)、中根中谷津遺跡⁴⁾ (18)、柴崎大堀遺跡⁵⁾ (22)、東岡中原遺跡⁶⁾ (26) で、石器集中地点が確認されている。中でも東岡中原遺跡では、ナイフ形石器、尖頭器、搔器、彫刻刀形石器、楔形石器、石刃、石核などが、多層位にわたって出土しており、これらは県内の旧石器時代を考える上で重要な資料となっている。また、花室川左岸の北条中台遺跡⁷⁾、柴崎遺跡⁸⁾ (5) からナイフ形石器や尖頭器が出土しており、当該期の人々の活動の痕跡を確認することができる。花室川の川底からは、ナウマンゾウやニホンアシカの化石が出土しており、旧石器時代の人々が狩猟対象としていたことが考えられている⁹⁾。

縄文時代の遺跡は、多数確認されている。柴崎遺跡では、早期の炉穴が確認されている。上野陣場遺跡¹⁰⁾ (12)、上野古屋敷遺跡、東岡中原遺跡では、前期の集落跡が確認されており、当該地域に人が定住し始めたことを示している。中期に入ると、集落の規模が大きくなり、遺跡数も増加している。北条中台遺跡や、花室川下流左岸の下岡遺跡¹¹⁾ では、大規模な集落跡が確認されている。後期には、周辺地域で貝塚が形成されるようになる。上境旭台貝塚¹²⁾ (17) や桜川下流域に存在する国指定史跡の土浦市上高津貝塚¹³⁾ では、後期から晩期にかけて形成された貝塚が存在する。これらの貝塚からは、土器などの遺物のほか、動物の骨などの自然遺物も多量に出土しており、当該期の生業活動を推測する上で良好な資料となっている。また、柴崎大堀遺跡、上野陣場遺跡、上野古屋敷遺跡、上境旭台貝塚、東岡中原遺跡からは、縄文時代に作られたと考えられる陥し穴が確認されており、台地上が狩猟の場としても利用されていたことが分かる。



第1図 九重東岡廃寺・金田西遺跡周辺遺跡分布図 (国土地理院 25,000 分の1 [上郷][常陸藤沢][谷田部][土浦])

表1 九重東岡廃寺・金田西遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代							
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町			江戸	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
①	九重東岡廃寺					○	○	○	33	花室儀量台遺跡		○		○	○	○	○
②	金田西遺跡		○		○	○	○	○	34	上ノ室タテ坪塚						○	○
3	柴崎片岡上館跡				○	○	○		35	上ノ室城跡		○		○	○	○	○
4	柴崎南遺跡		○		○		○	○	36	上ノ室ハマイバ遺跡				○	○	○	○
5	柴崎遺跡	○	○		○	○	○	○	37	上ノ室十枚遺跡				○	○	○	○
6	栗原五竜遺跡		○		○	○	○		38	上ノ室野中遺跡		○		○	○	○	○
7	栗原大山西遺跡					○	○	○	39	上ノ室薬師山遺跡					○	○	○
8	栗原十日塚古墳				○				40	上ノ室中坪後遺跡				○	○	○	○
9	栗原愛宕塚古墳				○				41	上ノ室中畑遺跡		○			○	○	○
10	上野天神塚古墳				○				42	妻木坪内遺跡					○	○	○
11	上野定使古墳群				○				43	妻木宮前遺跡					○	○	○
12	上野陣場遺跡		○	○	○	○	○	○	44	小野崎館跡						○	○
13	上野古屋敷遺跡	○	○	○	○	○	○	○	45	小野崎宿遺跡						○	○
14	上境作ノ内遺跡		○	○	○	○		○	46	倉掛天神塚						○	○
15	上境作ノ内古墳群				○				47	倉掛千現塚						○	○
16	上境滝ノ台古墳群				○				48	上境北ノ内遺跡					○	○	○
17	上境旭台貝塚		○		○				49	上境古屋敷遺跡				○	○	○	○
18	中根中谷津遺跡	○	○			○			50	中根不葉拔遺跡		○			○	○	○
19	横町古墳群				○				51	中根宮ノ前遺跡					○	○	○
20	横町庚申塚遺跡		○		○	○	○	○	52	中根屋敷附館跡					○	○	○
21	金田城跡						○		53	中根遺跡				○	○	○	
22	柴崎大堀遺跡	○	○				○	○	54	松塚鷺打遺跡					○	○	○
23	柴崎大日塚						○	○	55	栄土器屋遺跡					○	○	○
24	金田西坪B遺跡		○		○	○			56	栄屋敷付遺跡					○	○	○
25	金田西坪A遺跡					○			57	松塚高畑遺跡				○	○	○	
26	東岡中原遺跡	○	○		○	○	○	○	58	金田竜宮橋遺跡					○	○	○
27	東岡南遺跡					○	○	○	59	大白畑遺跡				○	○	○	○
28	東岡中畑遺跡					○			60	阿弥陀寺跡						○	○
29	東岡天神前遺跡					○	○	○	61	大南遺跡				○	○	○	○
30	花室城跡		○	○	○	○	○	○	62	古来北ノ崎遺跡					○	○	○
31	花室寺畑廃寺						○		63	古来島ノ前塚						○	○
32	花室寺山前遺跡					○	○	○	64	古来館跡		○	○	○	○	○	

弥生時代の遺跡は、上野陣場遺跡、上野古屋敷遺跡、やや上流にある玉取向山遺跡¹⁴⁾で、後期の集落跡が確認されているが遺跡数は少ない。

古墳時代になると遺跡数が急増し、桜川周辺の微高地や台地全域に広がっている。桜川右岸では、上野陣場遺跡、上野古屋敷遺跡で前期と後期、東岡中原遺跡で中期、柴崎遺跡で後期の集落跡がそれぞれ確認されている。古墳は、全長 80 m で当地域最大の前方後円墳である上野天神塚古墳〈10〉や、上野定使古墳群〈11〉が存在している。この他、栗原十日塚古墳〈8〉、栗原愛宕塚古墳〈9〉をはじめ、桜川右岸台地縁辺部に、円筒埴輪・人物埴輪・動物埴輪が出土した上境滝ノ台古墳群〈16〉、埴輪片・石棺破片が確認された横町古墳群〈19〉などが知られている¹⁵⁾。上境作ノ内古墳群〈15〉の 1 号墳では、発掘調査により石棺と被葬者の骨が確認されている¹⁶⁾。これらの古墳群のうち、上野天神塚古墳が前期古墳である以外は、いずれも後期古墳である。

奈良・平安時代の当該地域は、河内郡菅田郷に属し、その後 12 世紀には田中の荘に属していた。この時代の遺跡は、桜川と花室川に挟まれた中根、金田を中心とする台地上に集中している。金田西坪 B 遺跡〈24〉、金田西遺跡については、平成 12 年から平成 13 年に確認調査が行われ、区画溝とその内部に掘立柱建物跡や礎石建物で構成される倉庫群が検出され、正倉域が明確になった。九重廃寺についても、平成 13 年から平成 14 年に主要伽藍と寺域溝の確認が行われたが、主要伽藍となりうる建物跡は確認できなかった¹⁸⁾が、金田西坪 B 遺跡、金田西遺跡とともに金田官衙遺跡群として国の指定をうけた。

中世の遺跡も数多く確認されている。柴崎遺跡では、12～13 世紀の方形竪穴遺構を中心とした集落跡が、上野古屋敷遺跡では、溝で区画された掘立柱建物跡を中心とする集落跡が確認されている。桜川左岸には小田氏の居城であった国指定史跡小田城跡があり、それに関連すると考えられる城館跡も多い。桜川右岸には、柴崎片岡上館跡〈3〉、金田城跡〈21〉、花室城跡〈30〉、上ノ室城跡〈35〉、古来館跡〈64〉などが位置している。仏教関連遺跡としては、筑波山の南、三村山麓一帯に中世寺院群が存在しており、つくば市三村山清冷院極楽寺跡には、13 世紀の半ば、大和の高僧忍性が来往して、布教に努めたと伝えられている¹⁹⁾。当地域は鎌倉時代から室町時代にかけては小田氏、戦国時代においては小田氏と佐竹氏の支配下となり、中世末まで柴崎地区は上境・中根・土器屋・松塚・横町・柴崎地区で一郷を構成し、筑波郡と境を接することから境郷とも呼ばれていた。江戸時代は、堀氏玉取藩の知行地となった上野・栗原地区を除き、当該地域の多くが土浦藩に属することになり、明治 4 年（1871 年）の廃藩置県に至っている。

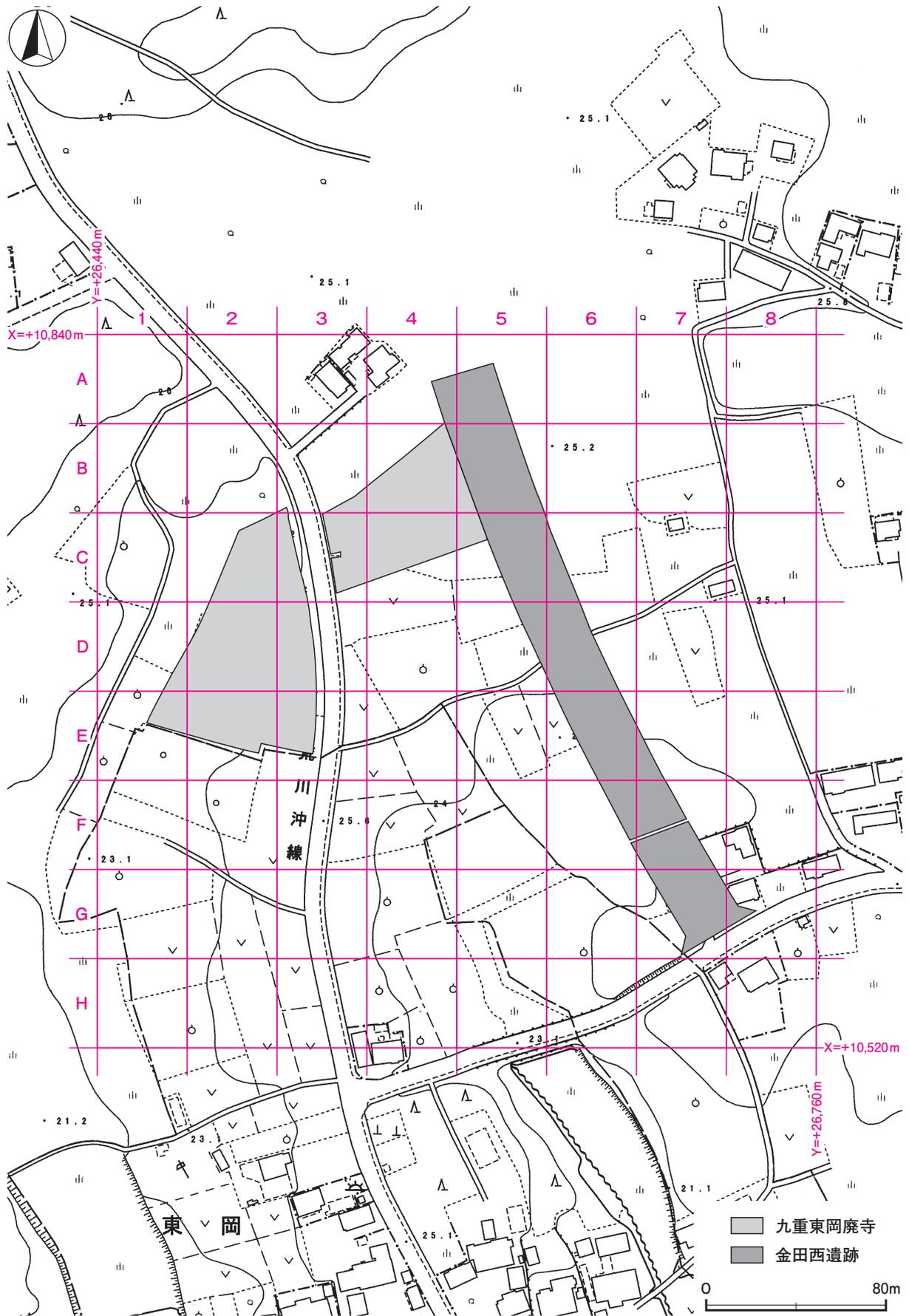
註

- 1) a 大山年次監修『茨城県 地質のガイド』コロナ社 1977 年 8 月
b 日本の地質『関東地方』編集委員会「関東地方」『日本の地質』3 共立出版 2007 年 5 月
- 2) 茨城県教育庁文化課編『茨城県遺跡地図』茨城県教育委員会 2001 年 3 月
- 3) a 三谷正・大塚雅昭・桑村裕『上野古屋敷遺跡 1 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅸ』茨城県教育財団文化財調査報告第 285 集 2007 年 3 月
b 川井正一『上野古屋敷遺跡 2 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅹ』茨城県教育財団文化財調査報告第 307 集 2008 年 3 月
c 川井正一・齋藤和浩『上野古屋敷遺跡 3 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅺ』茨城県教育財団文化財調査報告第 324 集 2009 年 3 月
d 櫻井完介・江原美奈子『上野古屋敷遺跡 4 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅻ』茨城県教育財団文化財調査報告第 334 集 2010 年 3 月
- 4) a 川村満博『（仮称）中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 中谷津遺跡 1』茨城県教育財団文化財調査報告第 139 集 1998 年 9 月

- b 荒蒔克一郎『中根中谷津遺跡2 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XVII』茨城県教育財団文化財調査報告第367集 2013年3月
- 5) 盛野浩一・皆川貴之『中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XX 柴崎大堀遺跡・柴崎大日塚』茨城県教育財団文化財調査報告第429集 2017年3月
- 6) a 成島一也『中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書II 中原遺跡1』茨城県教育財団文化財調査報告第155集 2000年3月
 b 成島一也・宮田和男『中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書III 中原遺跡2』茨城県教育財団文化財調査報告第159集 2000年3月
 c 高野節夫・白田正子・仲村浩一郎・島田和宏『中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書IV 中原遺跡3』茨城県教育財団文化財調査報告第170集 2001年3月
 d 駒澤悦郎『東岡中原遺跡4 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書VII』茨城県教育財団文化財調査報告第251集 2005年3月
- 7) 吉川明宏・新井聡・黒澤秀雄『(仮称)北条住宅団地建設工事地内埋蔵文化財調査報告書 中台遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第102集 1995年12月
- 8) a 高村勇『研究学園都市計画桜柴崎土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(I) 柴崎遺跡I・II-1区』茨城県教育財団文化財調査報告第54集 1989年9月
 b 佐藤正好・松浦敏『研究学園都市計画桜柴崎土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(II) 柴崎遺跡II区 中塚遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第63集 1991年3月
 c 土生朗治『研究学園都市計画桜柴崎土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(III) 柴崎遺跡III区』茨城県教育財団文化財調査報告第72集 1992年3月
 d 萩野谷悟『研究学園都市計画桜柴崎土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(IV) 柴崎遺跡II区・III区』茨城県教育財団文化財調査報告第93集 1994年3月
- 9) 飯泉克典・国府田良樹・小池渉・西本豊弘・安藤寿男・伊達元成「茨城県霞ヶ浦西部花室川河床礫層より産出した後期更新世末期のニホンアシカ化石」『地質学雑誌』第116巻第5号 2010年5月
- 10) a 川上直登・長谷川聡・大塚雅昭『上野陣場遺跡 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書V』茨城県教育財団文化財調査報告第182集 2002年3月
 b 川井正一・齋藤和浩『上野陣場遺跡2 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XII』茨城県教育財団文化財調査報告第323集 2009年3月
- 11) 加藤雅美・小河邦男『常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書2 下広岡遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第10集 1981年3月
- 12) a 柴山正広・須賀川正一・小野政美・小川貴行・越川欣和『上境旭台貝塚 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XIII』茨城県教育財団文化財調査報告第325集 2009年3月
 b 江原美奈子『上境旭台貝塚2 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XVI』茨城県教育財団文化財調査報告第364集 2012年3月
 c 荒蒔克一郎『上境旭台貝塚3 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XVIII』茨城県教育財団文化財調査報告第368集 2013年3月
 d 小林和彦『上境旭台貝塚4 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XIX』茨城県教育財団文化財調査報告第397集 2015年3月
- 13) a 佐藤孝雄・大内千年編『国指定史跡上高津貝塚A地点-史跡整備事業に伴う発掘調査報告-』土浦市教育委員会 1994年3月
 b 塩谷修編『国指定史跡上高津貝塚E地点-史跡整備事業に伴う発掘調査報告-』土浦市教育委員会 2000年3月
 c 石川功・福田礼子編『国指定史跡上高津貝塚C地点-史跡整備事業に伴う発掘調査報告-』土浦市教育委員会 2006年3月
- 14) a 石橋充・関口友紀『玉取遺跡-火葬場建設に伴う発掘調査報告-』つくば市教育委員会 2000年3月
 b 奥沢哲也『玉取向山遺跡 県立つくば養護学校(仮称)整備事業地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財

調査報告第263集 2006年3月

- 15) 桜村史編さん委員会『桜村史 上巻』桜村教育委員会 1982年3月
- 16) つくば市教育委員会「上境図面点検 遺物抽出接合・原稿執筆作ノ内1号墳 発掘・確認調査」『つくば市内遺跡』つくば市 2001年3月
- 17) a 九重廃寺遺跡調査団『東岡遺跡－九重廃寺跡調査報告－』桜村教育委員会 1984年3月
b 白田正子『九重東岡廃寺確認調査報告書1』茨城県教育財団 2001年3月
- 18) 白田正子『金田西遺跡 金田西坪B遺跡 九重東岡廃寺 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ』茨城県教育財団文化財調査報告第209集 2003年3月
- 19) 筑波町史編纂専門委員会『筑波町史 上巻』つくば市 1991年3月



第2図 九重東岡廃寺・金田西遺跡調査区設定図（つくば市都市計画基本図 2,500分の1）

第3章 九重東岡廃寺

第1節 調査の概要

九重東岡廃寺は、つくば市の北東部に位置し、桜川の低地を望む標高24～25mの右岸台地上に立地している。調査面積は8,856㎡で、調査前の現況は畑である。

調査の結果、竪穴建物跡26棟（奈良時代9・平安時代17）、掘立柱建物跡15棟（奈良時代9・平安時代6）、井戸跡1基（奈良時代）、土坑18基（平安時代5・時期不明13）、溝跡14条（平安時代6・時期不明8）、柱穴列1条（時期不明）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に33箱出土している。主な遺物は、土師器（坏・小型甕・甕）、須恵器（坏・高台付坏・皿・蓋・コップ形土器・高盤・鉢・仏鉢・短頸壺・長頸瓶・甕）、土製品（支脚・紡錘車）、石器（砥石）、金属製品（刀子・鎌・鎌・釘）、瓦（軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦、隅切瓦）などである。

第2節 基本層序

調査区中央部の台地上の平坦面（D4d4区）にテストピットを設定し、基本土層（第3図）の観察を行った。土層は9層に分層でき、第2・3層が関東ローム層である。

第1層は、表土である。層厚は24～28cmである。

第2層は、暗褐色を呈するローム漸位層である。粘性・締まりともに普通で、層厚は15～21cmである。

第3層は、褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりともに普通で、層厚は4～12cmである。

第4層は、黄褐色を呈する粘土層である。粘性・締まりともに非常に強く、層厚は10～21cmである。

第5層は、灰白色を呈する常総粘土層である。粘性・締まりともに非常に強く、層厚は51～90cmである。

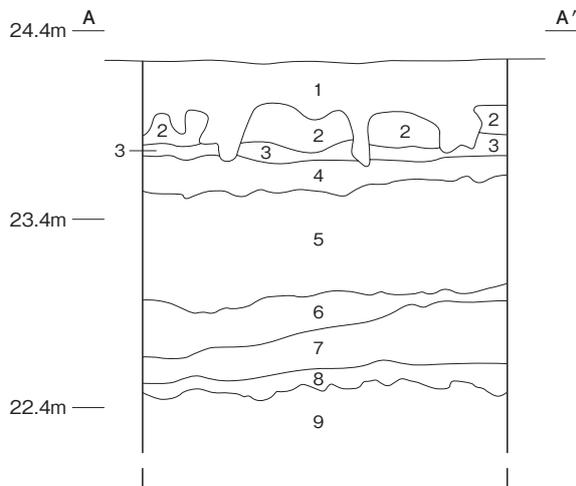
第6層は、明黄褐色を呈するシルト層で、ラミナ状に堆積している。酸化鉄を非常に多く含み、粘性・締まりともに非常に強く、層厚は5～30cmである。

第7層は、灰白色を呈するシルト層である。酸化鉄を多く含み、クロスラミナが入っている。粘性・締まりともに非常に強く、層厚は、10～34cmである。

第8層は、灰白色を呈するシルト層である。酸化鉄を非常に多く含み、クロスラミナが入っている。粘性・締まりともに非常に強く、層厚は5～17cmである。

第9層は、褐灰色を呈する砂層である。酸化鉄を多く含み、クロスラミナが入っている。粘性弱く・締まり非常に強い。下層は未掘のため、本来の層厚は不明である。

遺構は主に第3層上面で確認した。



第3図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 奈良時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡9棟、掘立柱建物跡9棟、井戸跡1基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

第59号竪穴建物跡（第4・5図 PL3）

位置 調査区中央部のD3b2区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.80m、短軸3.58mの方形で、主軸方向はN-32°-Eである。壁は高さ4～5cmである。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。床は地山をそのまま利用している。

竈 北東壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで110cmで、燃焼部幅は74cmである。袖部はロームブロックや粘土粒子を含む第6～8層を積みあげて構築されている。火床部は楕円形に22cm掘りくぼめ、焼土ブロックを含む第9・10層を埋土している。火床面は第9層上面で火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に30cm掘り込まれ、火床部から外傾している。

竈土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量	6 黒色	粘土粒子中量
2 黒褐色	炭化粒子少量、焼土粒子微量	7 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・粘土粒子微量
3 黒色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量	8 黒褐色	粘土粒子中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量
4 黒褐色	粘土粒子多量、焼土ブロック中量、炭化粒子微量	9 黒褐色	焼土ブロック中量
5 黒色	焼土ブロック多量	10 黒褐色	焼土ブロック少量

ピット 5か所。P1～P4は深さ34～36cmで、北東壁際の竈の両側と南西壁際に位置しており、配置から支柱穴である。P5は深さ14cmで、南西壁寄りに位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説（P5）

1 黒褐色	ロームブロック少量
-------	-----------

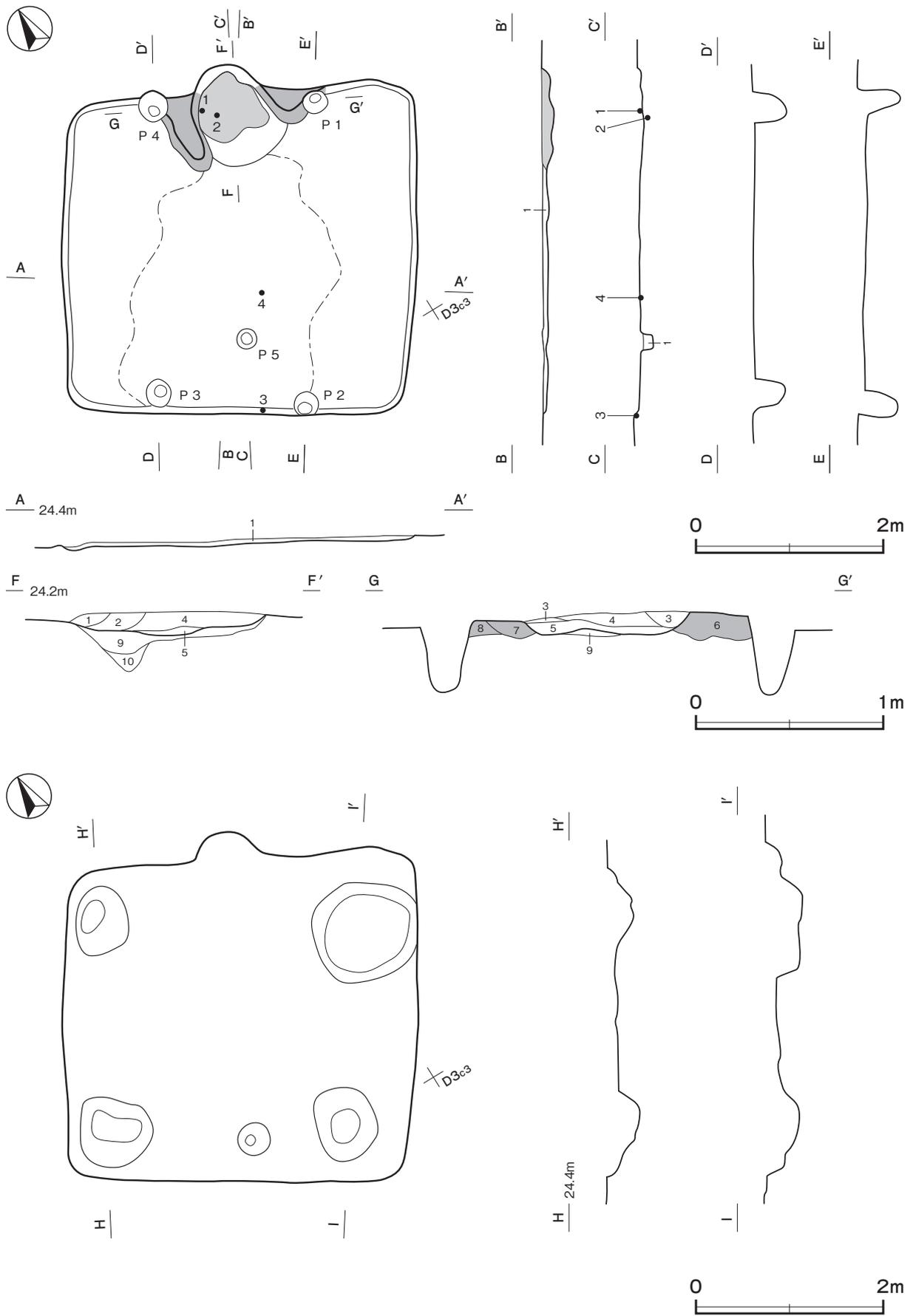
覆土 単一層である。上層は耕作により削平されているため、下層のみが薄く残存している。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

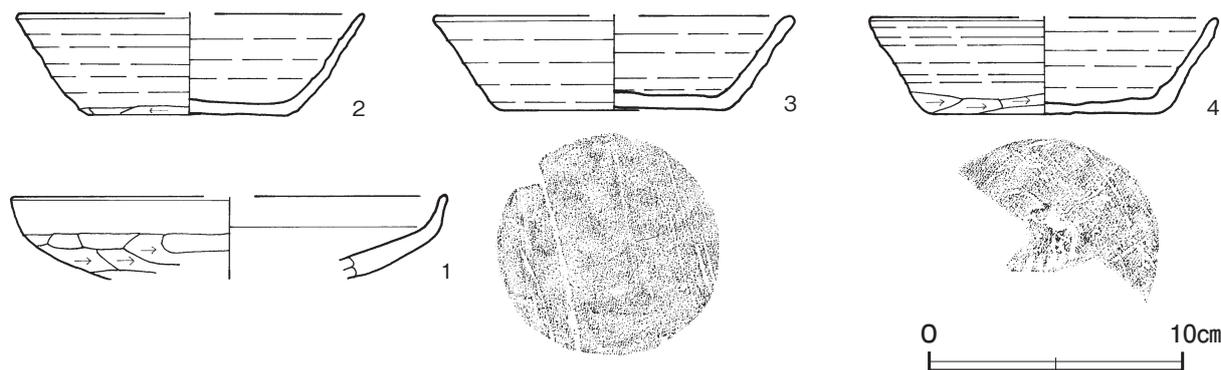
1 黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量
-------	------------------

遺物出土状況 土師器片122点（坏13、高台付坏1、甕類108）、須恵器片177点（坏90、高台付坏1、蓋5、高盤1、甕類65、甗15）、土製品1点（不明）、金属製品1点（不明）、瓦1点（平瓦）が出土している。1・2は竈の火床面から出土している。4は中央部床面から出土している。3は南西壁中央部の壁際から出土している。3・4の遺物は、床面から出土していることから廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第4图 第59号竖穴建物跡実測图



第5図 第59号竪穴建物跡出土遺物実測図

第59号竪穴建物跡出土遺物観察表（第5図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[17.4]	(3.3)	-	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面へら削り後ナデ	火床面	5%
2	須恵器	坏	[13.8]	4.0	8.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちへら削り 底部回転へら切り痕を残す一方向の手持ちへら削り 二次焼成	火床面	30% 新治窯
3	須恵器	坏	[14.0]	3.8	9.0	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	底部一方向の手持ちへら削り	床面	50% 新治窯
4	須恵器	坏	[13.7]	3.8	[9.1]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちへら削り 底部回転へら切り痕を残す一方向の手持ちへら削り	床面	40% PL12 新治窯

第61号竪穴建物跡（第6～8図 PL 3）

位置 調査区中央部のC 3j1区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第15号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.47m、短軸3.10mの長方形で、主軸方向はN-34°-Eである。壁は高さ14～18cmで、外傾している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。床は地山をそのまま利用している。壁溝が北西壁の一部、南東壁から南西壁まで巡っている。

竈 北東壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで113cmで、燃焼部幅は70cmである。袖部は第6～8層の上に焼土ブロックや粘土ブロックを含む第4・5層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に9cmほど掘りくぼめ第6・9層を埋土している。火床面は第6・9層の上面で火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に48cm掘り込まれ、火床部から外傾している。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子微量 | 7 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量 |
| 3 黒褐色 焼土ブロック少量、粘土ブロック微量 | 8 暗褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 4 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量 | 9 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 5 暗褐色 粘土ブロック少量、焼土ブロック微量 | |

ピット 10か所。P1は深さ22cmで、南西壁際の西コーナー寄りに位置していることから、出入り口施設に伴うピットの可能性がある。小ピットは9か所、深さ10～11cmで壁柱穴と考えられる。

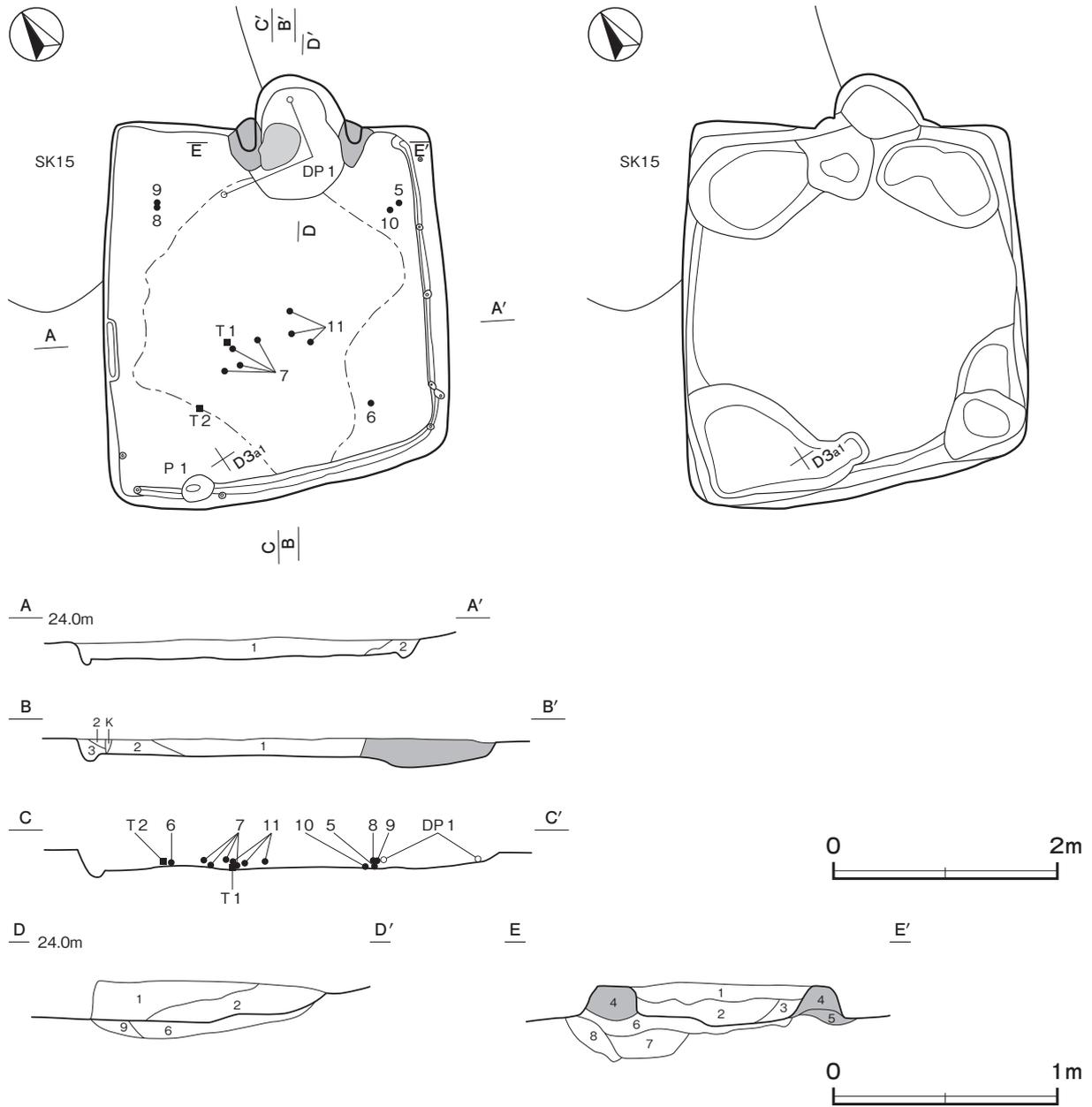
覆土 3層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 | 3 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片 144 点 (坏 8, 小形甕 2, 甕類 134), 須恵器片 8 点 (坏 4, コップ形土器 1, 仏鉢 1, 甕類 2), 土製品 1 点 (支脚), 瓦 2 点 (平瓦・隅切瓦) が出土している。5・10 は南東壁際の東コーナー部, 6 は南コーナー部の床面からそれぞれ出土している。5・6 は正位で, 10 は横位の状態で出土している。7・11, T1・T2 は中央部, 8・9 は北コーナー付近の覆土下層からそれぞれ出土していることから, 遺棄の可能性はある。

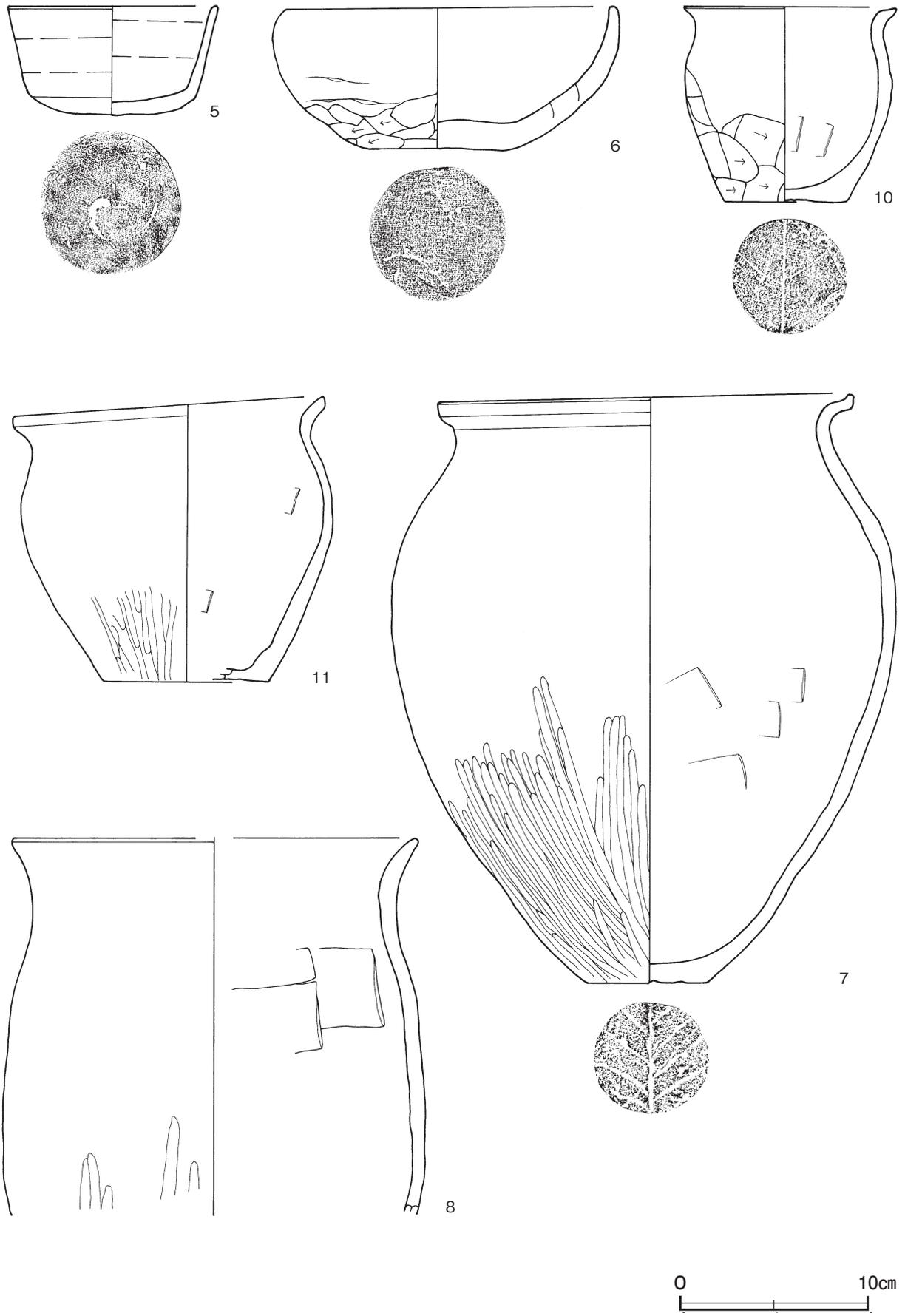
所見 時期は, 出土土器から 8 世紀初頭に比定できる。



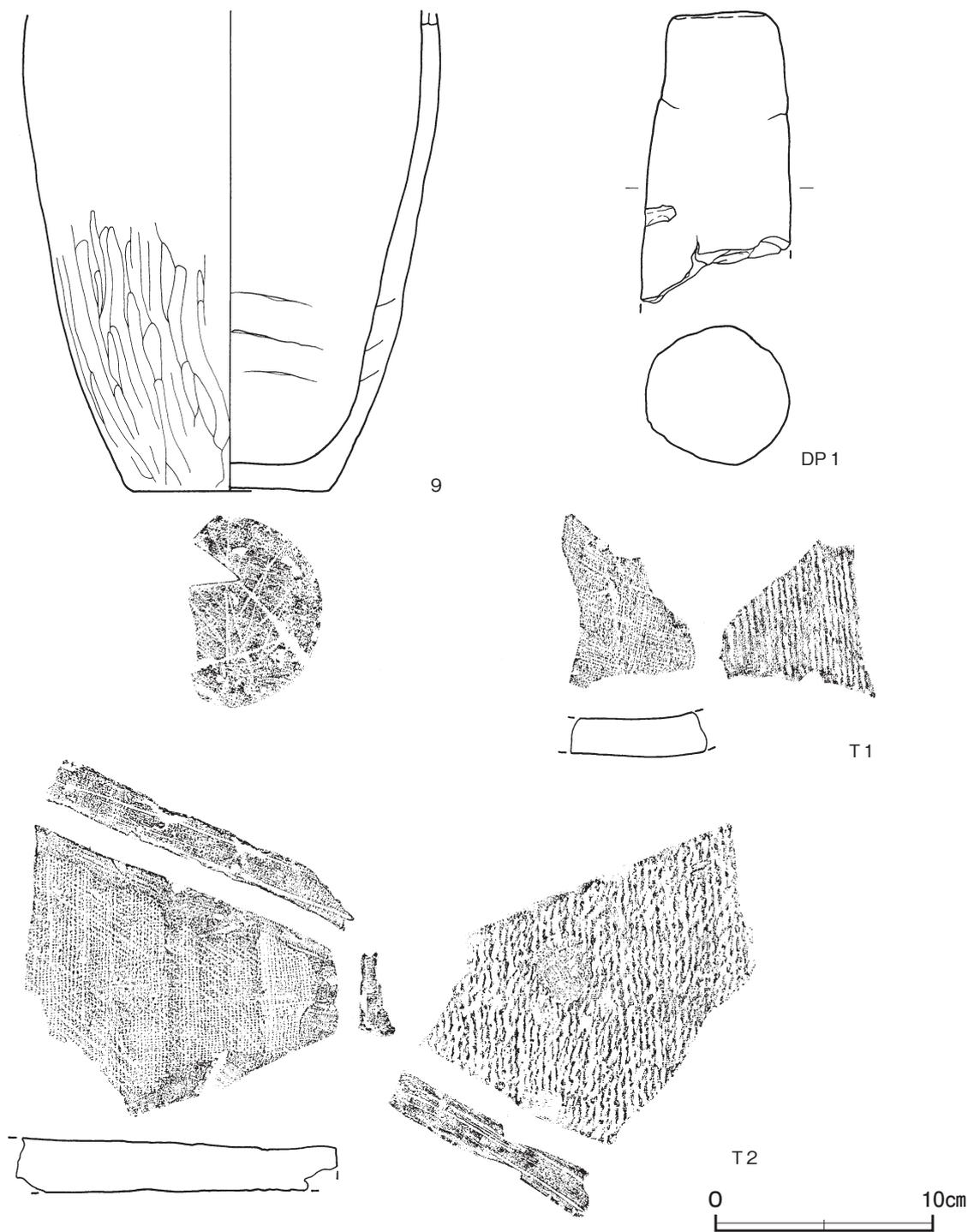
第6図 第61号竪穴建物跡実測図

第61号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第7・8図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
5	須恵器	コップ形土器	11.1	5.9	7.6	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り痕を残す不定方向の手持ちヘラ削り	床面	95% PL12 新治窯
6	須恵器	仏鉢	17.8	7.8	7.2	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下手持ちヘラ削り後ナデ 輪積痕	床面	95% PL12 新治窯
7	土師器	甕	22.0	31.8	6.5	長石・石英・雲母	暗褐	普通	体部下半ヘラ磨き 内面ヘラ当て痕 底部木葉痕	覆土下層	90% PL14



第7図 第61号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第8図 第61号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
8	土師器	甕	[21.6]	(20.3)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	体部下半ヘラ磨き 内面ヘラ当て痕	覆土下層	20%
9	土師器	甕	-	(22.4)	[9.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下半ヘラ磨き 輪積痕 底部木葉痕	覆土下層	20%
10	土師器	小形甕	11.3	10.6	6.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ 内面ヘラ当て痕 底部木葉痕	床面	100% PL13
11	土師器	小形甕	16.6	15.5	8.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下半ヘラ磨き 内面ヘラ当て痕 底部木葉痕	覆土下層	40% PL13

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	支脚	(13.6)	4.4	(6.9)	(535.0)	長石・石英	にぶい褐	ヘラ削り後ナデ	覆土下層	PL18

番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
T 1	瓦	平瓦	(6.3)	(2.1)	(8.9)	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	凸面太縄叩き 凹面布目痕 糸切り痕	覆土下層	
T 2	瓦	隅切瓦	(15.5)	(2.5)	(15.3)	長石・石英・雲母	黄橙	普通	凸面太縄叩き 凹面布目痕 2面糸切り痕	覆土下層	PL18

第 63 号竪穴建物跡 (第 9・10 図 PL 3)

位置 調査区中央部の D 2e0 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 一辺 2.88 m ほどの方形で, 主軸方向は N - 28° - E である。壁は高さ 3 ~ 10 cm で, 外傾している。

床 平坦で, 竈の前方部から南壁にかけて踏み固められている。床は地山を利用している。

竈 北東壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 68 cm で, 燃焼部幅は 43 cm である。袖部は第 7・8 層の上にロームブロックや粘土ブロックを含む第 2 ~ 6 層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に 10 cm ほど掘りくぼめ, 焼土ブロックや炭化粒子を含む第 7 層を埋土している。火床面は第 7 層上面で火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 26 cm 掘り込まれ, 火床部から外傾している。

竈土層解説

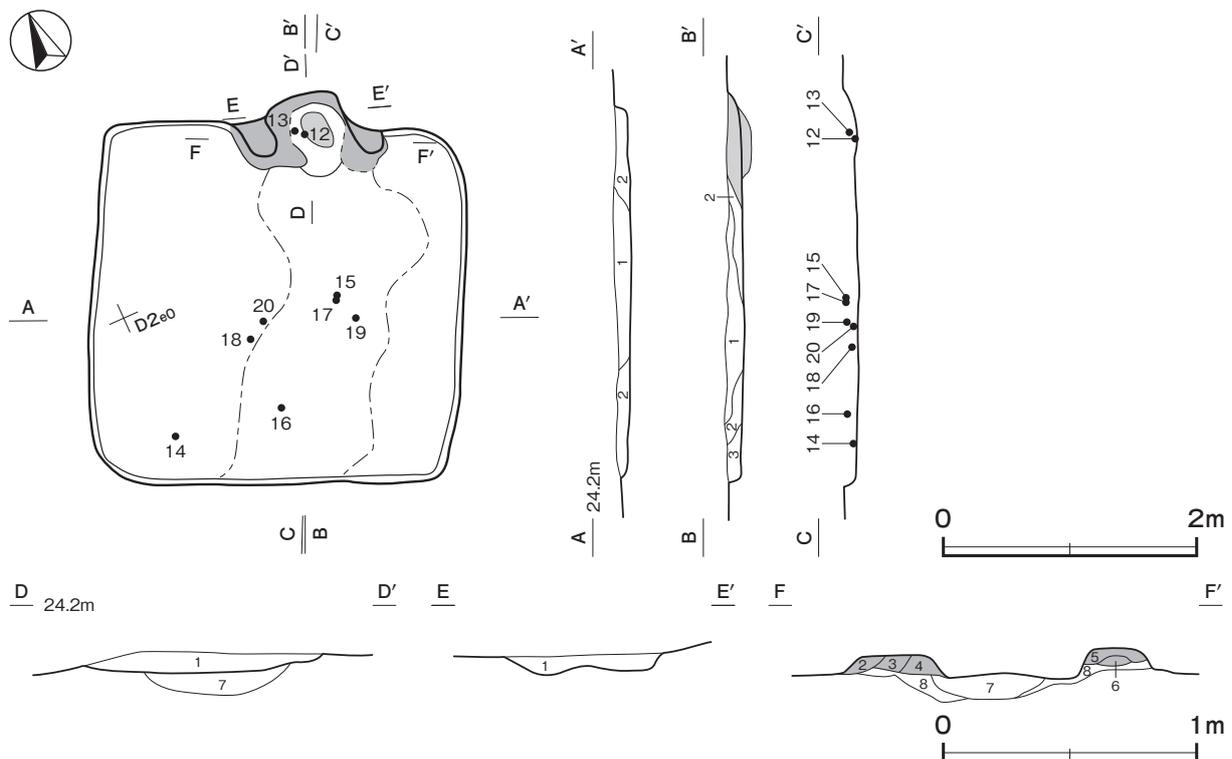
- | | |
|-----------------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子少量 | 6 黒褐色 粘土粒子中量, ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 粘土粒子多量, ロームブロック少量 | 7 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子中量 |
| 4 黒褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック少量 | 8 暗褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子少量 |

覆土 3 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 | 3 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量 | |

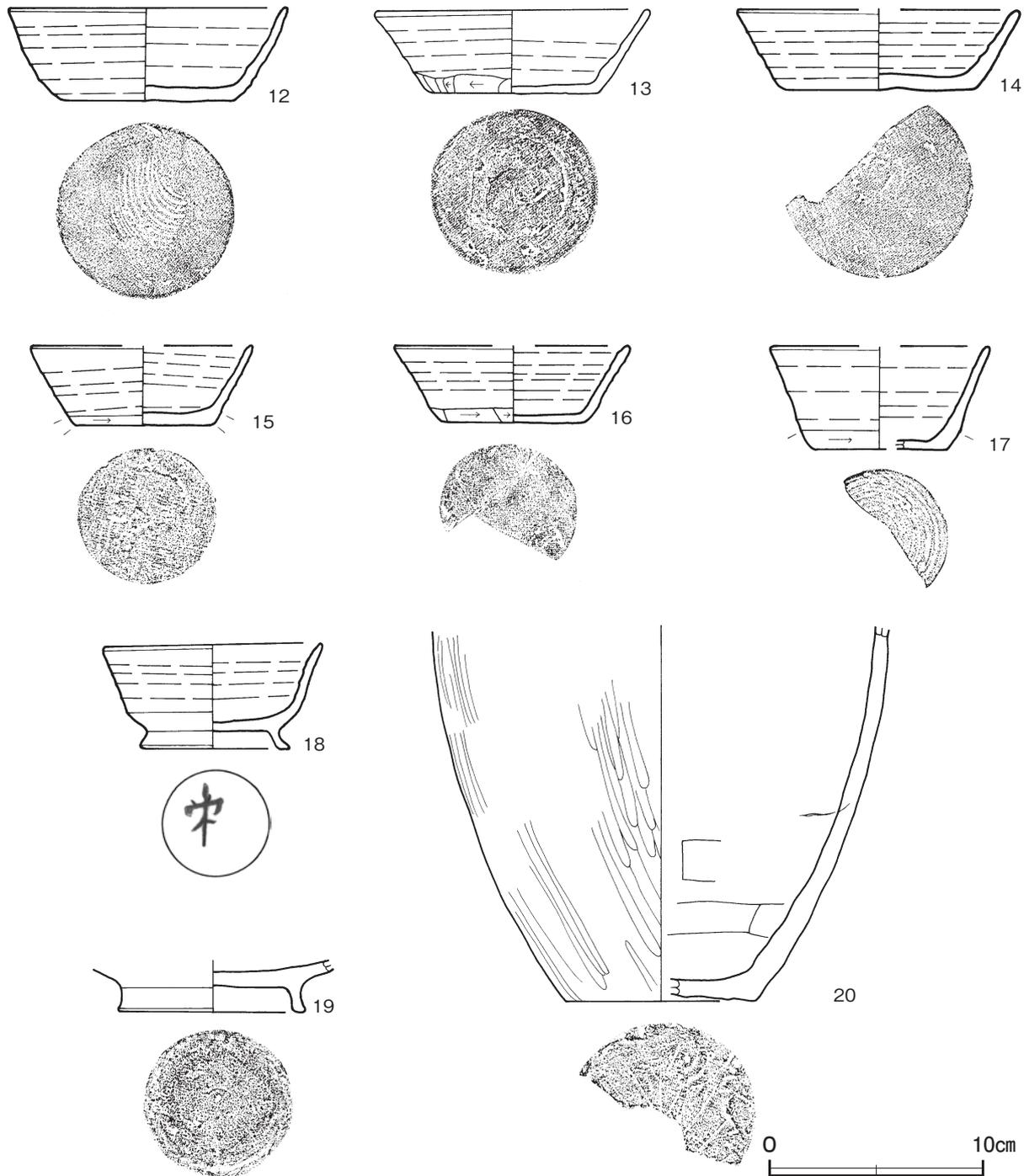
遺物出土状況 土師器片 20 点 (坏 1, 甕類 19), 須恵器片 29 点 (坏 24, 高台付坏 2, 蓋 1, 甕類 2), 土製品 1 点 (不明) が出土している。12 と 13 は竈の火床部から出土している。18・20 は中央部, 14 は南西壁の



第 9 図 第 63 号竪穴建物跡実測図

西コーナー部付近の床面，15・17・19は中央部，16は中央部南西壁付近の覆土上層からそれぞれ出土している。
埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第10図 第63号竪穴建物跡出土遺物実測図

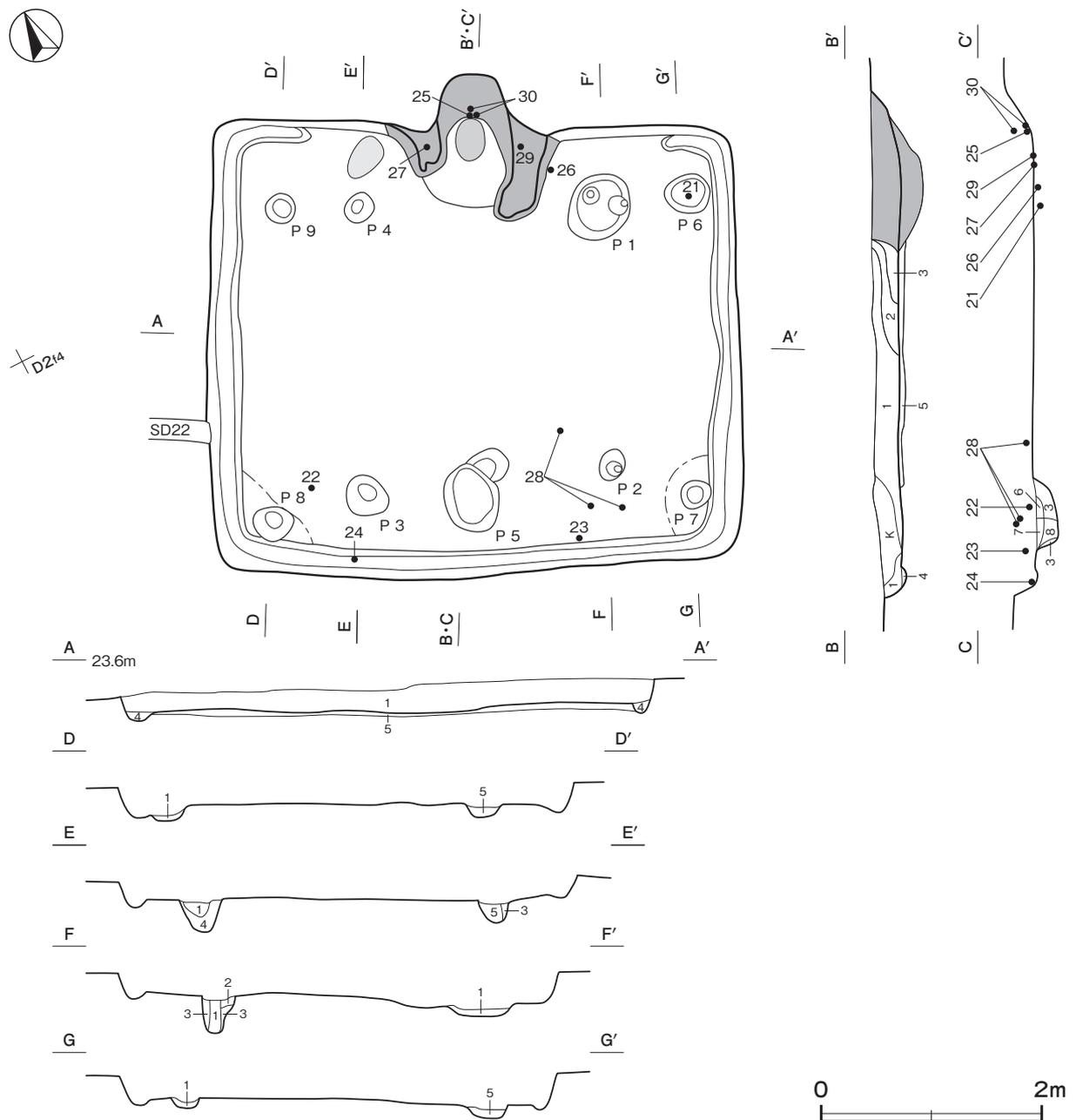
第63号竪穴建物跡出土遺物観察表（第10図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
12	須恵器	坏	13.0	4.4	8.2	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部回転糸切り痕を残す不定方向の手持ちヘラ削り	火床面	100% PL12 新治窯
13	須恵器	坏	12.7	4.0	7.9	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す一方のヘラ削り	火床面	90% PL12

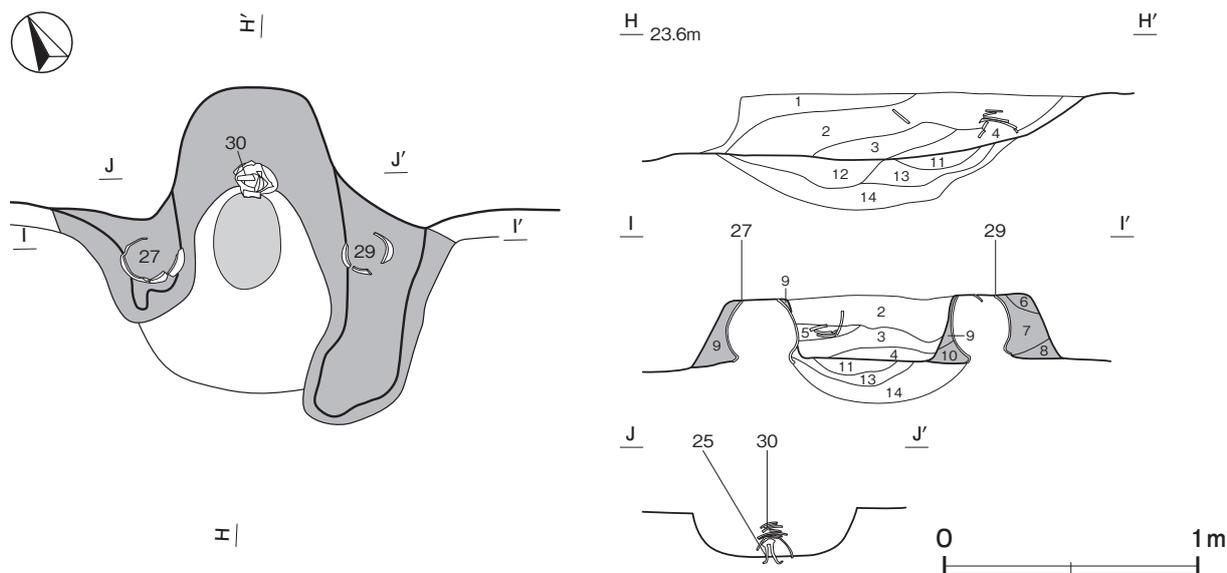
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
14	須恵器	坏	[13.2]	3.8	9.0	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	底部回転ヘラ切り痕を残す二方向の手持ちヘラ削り	床面	50% PL12 新治窯
15	須恵器	坏	[10.3]	3.8	6.6	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	覆土上層	60% PL12 新治窯
16	須恵器	坏	[10.8]	3.6	6.6	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部ヘラ削り後ナデ	覆土上層	40% PL12 新治窯
17	須恵器	坏	[10.2]	4.8	[6.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	覆土上層	40% PL12 新治窯
18	須恵器	高台付坏	10.2	5.0	6.8	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰黄褐	普通	底部回転ヘラ切り 底部外面墨書「□」	床面	90% PL13 新治窯
19	須恵器	高台付坏	-	(2.4)	8.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り	覆土上層	20% PL13 新治窯
20	土師器	甕	-	(17.9)	8.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部下半ヘラ磨き 内面ヘラナデ 輪積痕 底部木炭痕	床面	30%

第 64 号 竪穴建物跡 (第 11 ~ 14 図 PL 4)

位置 調査区西部の D 2f5 区, 標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。



第 11 図 第 64 号 竪穴建物跡実測図 (1)



第 12 図 第 64 号竪穴建物跡実測図 (2)

重複関係 第 22 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 4.82 m, 短軸 4.16 m の長方形で, 主軸方向は N - 27° - E である。壁は高さ 16 ~ 30cm で, 外傾している。

床 平坦な貼床で, 床は地山を掘り下げ, ロームブロックや粘土ブロックを含む第 5 層を埋土して構築されている。壁溝は北壁の一部を除いて巡っている。

竈 北東壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 122cm で, 燃烧部幅は 54cm である。袖部は地山の上に甕を逆に据え粘土ブロックを含む第 6 ~ 10 層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に 20cm 掘りくぼめ, 焼土ブロックや粘土ブロックを含む第 11 ~ 14 層を埋土している。火床面は第 11 ~ 13 層上面で火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 52cm 掘り込まれ, 火床部から緩やかに立ち上がっている。支脚は土器片を積み上げ転用している。

竈土層解説

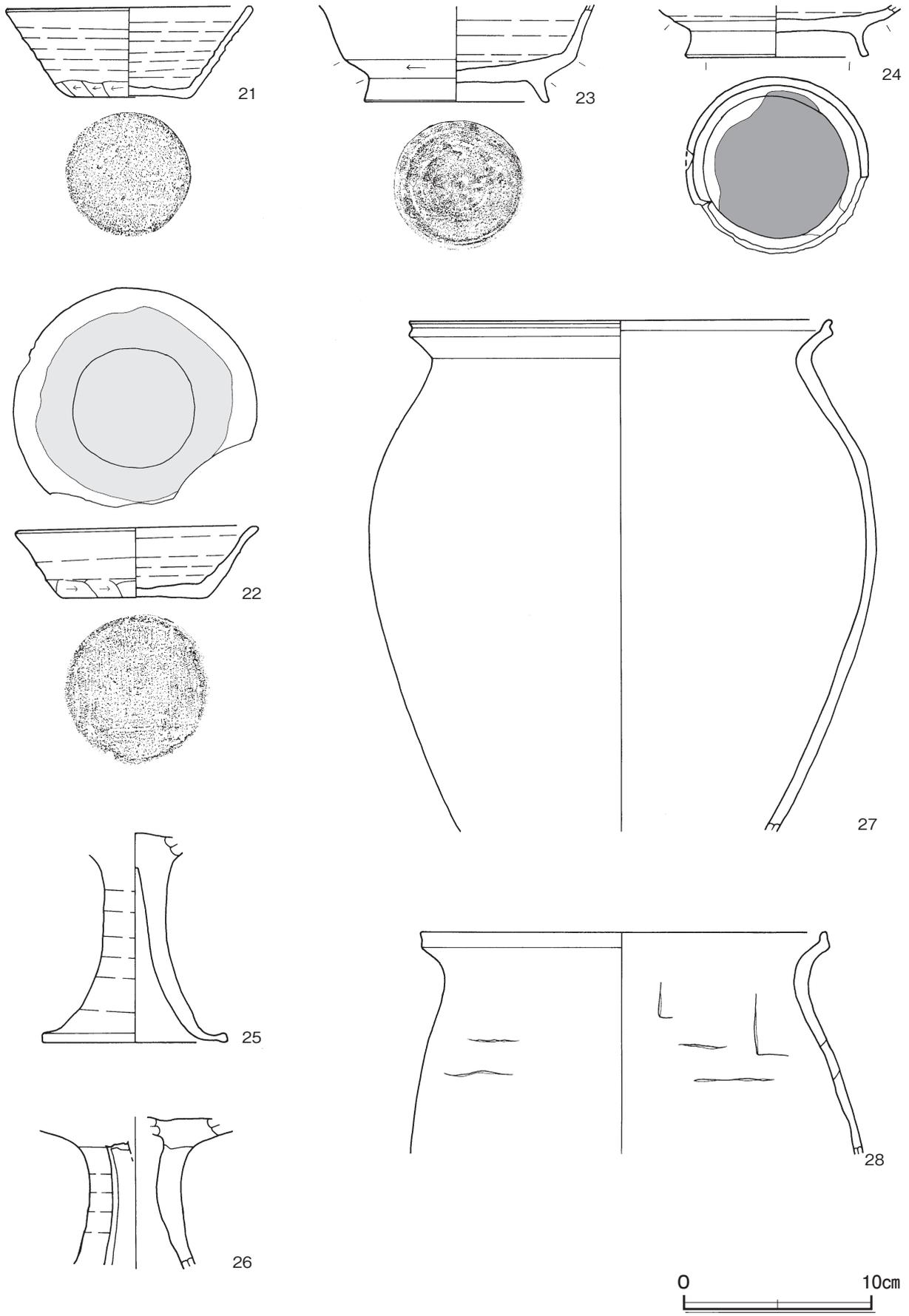
- | | |
|-----------------------------------|-------------------------------------|
| 1 暗 褐 色 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 8 黒 褐 色 粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 2 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量 | 9 黒 褐 色 焼土ブロック・粘土ブロック少量 |
| 3 黒 褐 色 焼土ブロック中量, ロームブロック少量 | 10 黒 褐 色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量 |
| 4 黒 褐 色 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量 | 11 黒 褐 色 焼土ブロック多量, 炭化粒子微量 |
| 5 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック少量 | 12 暗 褐 色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 6 黒 褐 色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック・粘土ブロック少量 | 13 黒 褐 色 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 7 黒 褐 色 粘土ブロック多量 | 14 黒 褐 色 焼土ブロック中量, 粘土ブロック少量 |

ピット 9 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 8 ~ 34cm で, 支柱穴である。P 5 は南西壁中央部に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6 ~ P 9 は深さ 4 ~ 12cm で補助柱穴である。

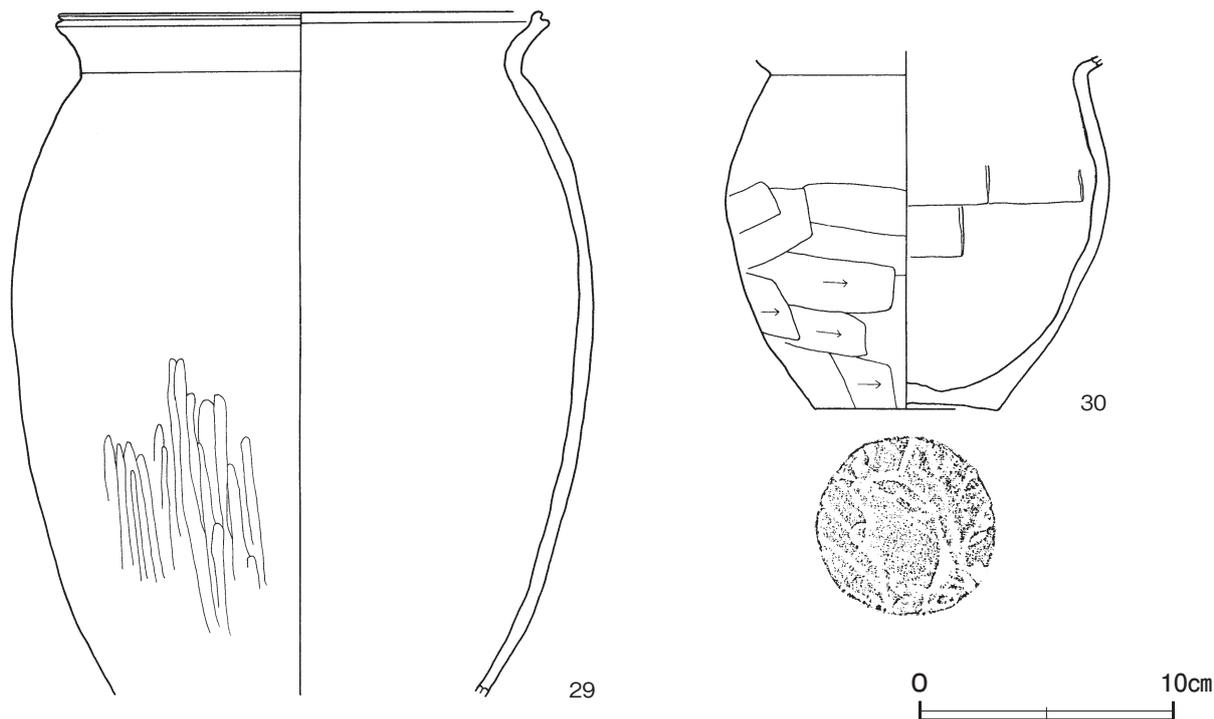
ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| 1 黒 褐 色 粘土ブロック少量 | 5 黒 褐 色 焼土ブロック・粘土ブロック少量 |
| 2 黒 褐 色 黄褐色粘土ブロック中量 | 6 黒 褐 色 粘土ブロック微量 |
| 3 黒 褐 色 灰白色粘土ブロック中量 | 7 褐 色 粘土ブロック少量 |
| 4 黒 褐 色 粘土ブロック中量 | 8 褐 色 灰白色粘土ブロック少量 |

覆土 4 層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。第 5 層は貼床の構築土である。



第 13 図 第 64 号 竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第14図 第64号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 暗褐色 | 粘土ブロック多量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック多量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片 407点 (坏6, 小型甕1, 甕類400), 須恵器片 115点 (坏62, 高台付坏9, 蓋6, 盤6, 高盤4, 甕類28) が出土している。22・24は西コーナー部, 23・28は南コーナー部, 26は竈右袖際の床面からそれぞれ出土している。22は逆位, 24は斜位の状態で出土している。28は覆土中層から出土した土器片と接合している。27は竈左袖部, 29は竈右袖部の補強材として逆位に伏せられてそれぞれ出土している。竈の火床面では25を正位に据え, 30を逆位に伏せ, その上に土器片を載せ支脚として利用している。21はP6から正位で出土している。竈内遺物を除いて, 埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉に比定できる。

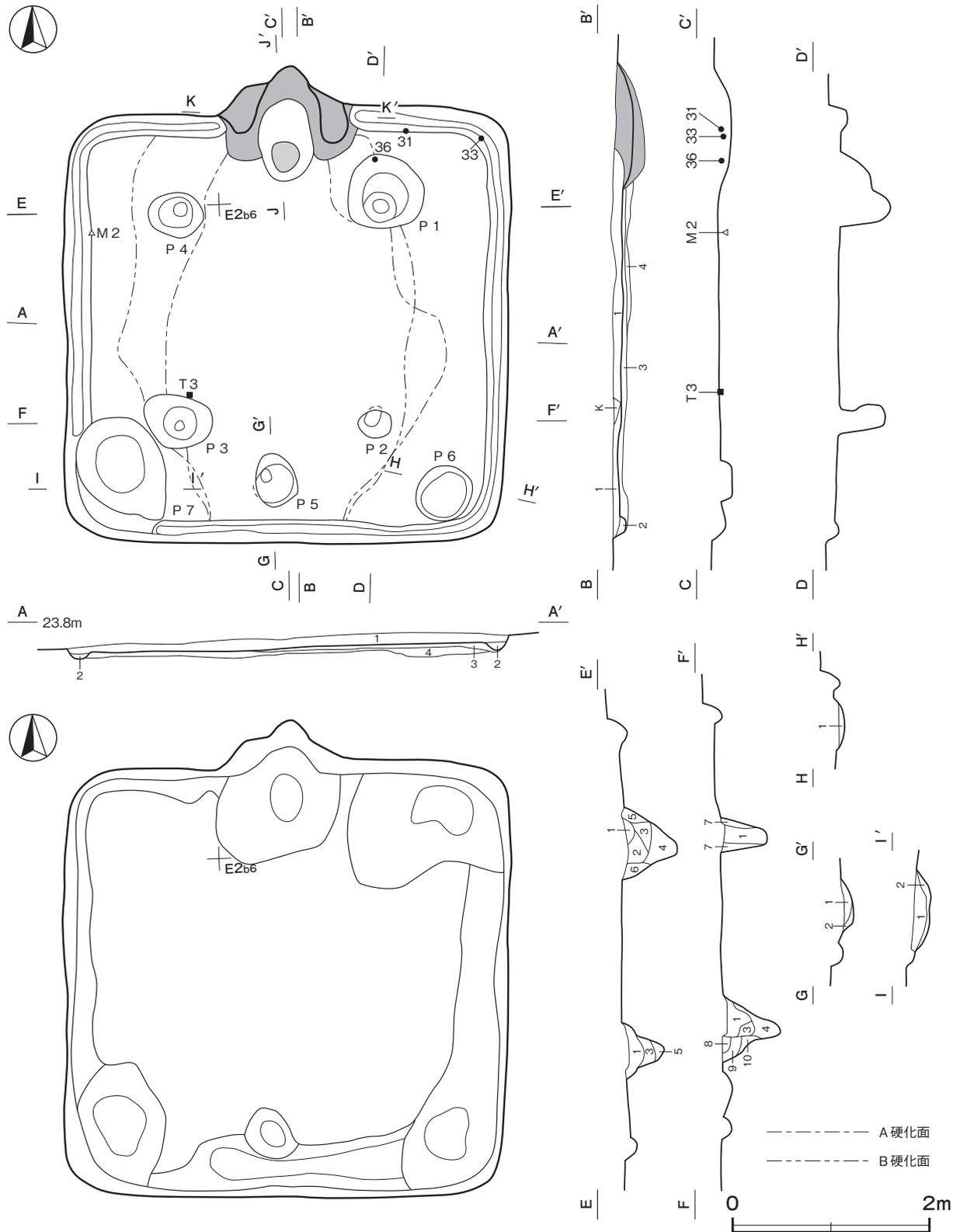
第64号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第13・14図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
21	須恵器	坏	13.0	5.0	6.5	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す不定方向の手持ちヘラ削り	P6内	90% PL12 新治窯
22	須恵器	坏	12.8	3.9	7.8	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部二方向の手持ちヘラ削り 内面朱墨痕	床面	90% PL12
23	須恵器	高台付坏	-	(5.2)	9.6	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り	床面	30% 新治窯
24	須恵器	盤	-	(2.8)	9.3	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り 底部墨痕	床面	30% PL12 新治窯 硯転用
25	須恵器	高盤	-	(11.3)	9.8	長石・石英	褐灰	普通	脚部ロクロナデ 自然袖	火床面	50% 支脚転用
26	須恵器	高盤	-	(8.2)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	脚部ロクロナデ 透かし3か所	床面	10% 新治窯
27	土師器	甕	22.4	(27.8)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外・内面丁寧なナデ	竈左袖内	70% PL14
28	土師器	甕	21.5	(12.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	内面ヘラ当て痕 輪積痕	床面 覆土中層	30% PL14
29	土師器	甕	19.0	(27.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端半ヘラ磨き 内面ヘラナデ 体部外面摩耗	竈右袖内	70% PL14
30	土師器	小形甕	-	(14.3)	7.1	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラ当て痕 底部木葉痕	火床面	60% PL13 支脚転用

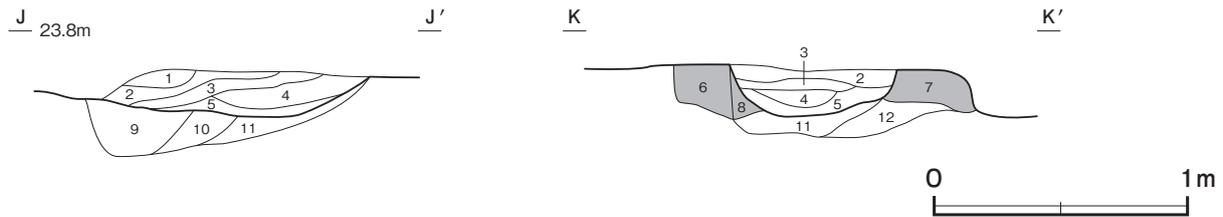
第 65 号竪穴建物跡 (第 15 ~ 17 図 PL 4)

位置 調査区南西部の E 2b6 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 一辺 4.50 m ほどの方形で, 主軸方向は $N-5^{\circ}-E$ である。壁は高さ 8 ~ 12cm で, 外傾している。



第 15 図 第 65 号竪穴建物跡実測図 (1)



第 16 図 第 65 号竪穴建物跡実測図 (2)

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。床は二面確認でき、A 面は竈から支柱穴内に広がる範囲、B 面は 4 か所の支柱穴を囲む範囲である。A 面の下部から B 面を確認した。床は地山面を 8 cm 程掘り下げ、ロームブロックを含む第 3・4 層を埋土して構築されている。壁溝が南西コーナー部を除いて巡っている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 118cm で、燃烧部幅は 56cm である。左袖部は地山の上に、右袖部は第 12 層の上に粘土ブロックを含む第 6～8 層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に 17cm 掘りくぼめ、ロームブロックや焼土ブロックを含む第 9～11 層を埋土している。火床面は第 9～11 層上面で火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 44cm 掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	7 褐 色	粘土ブロック多量
2 暗 褐 色	炭化粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック少量	8 暗 褐 色	粘土ブロック少量, ローム粒子微量
3 暗 褐 色	焼土ブロック・炭化物中量, ローム粒子少量	9 黒 褐 色	焼土ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量
4 黒 褐 色	焼土ブロック中量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量	10 黒 褐 色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量
5 暗 褐 色	ロームブロック中量, 焼土粒子少量	11 黒 褐 色	ロームブロック中量, 粘土ブロック少量
6 褐 色	粘土ブロック多量, ローム粒子微量	12 褐 色	粘土ブロック中量

ピット 7 か所。P 1～P 4 は深さ 40～52cm で、支柱穴である。P 5 は深さ 8cm で、南壁中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6・P 7 は深さ 5～17cm で、南東コーナー部と南西コーナー部に位置しており、性格は不明である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

1 黒 褐 色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量	6 暗 褐 色	ロームブロック多量
2 暗 褐 色	ロームブロック・焼土粒子微量	7 褐 色	ロームブロック多量
3 暗 褐 色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量	8 褐 色	粘土ブロック少量
4 暗 褐 色	ロームブロック多量, 焼土粒子微量	9 暗 褐 色	ロームブロック少量
5 黒 褐 色	ロームブロック多量, 焼土粒子微量	10 黒 褐 色	ロームブロック少量

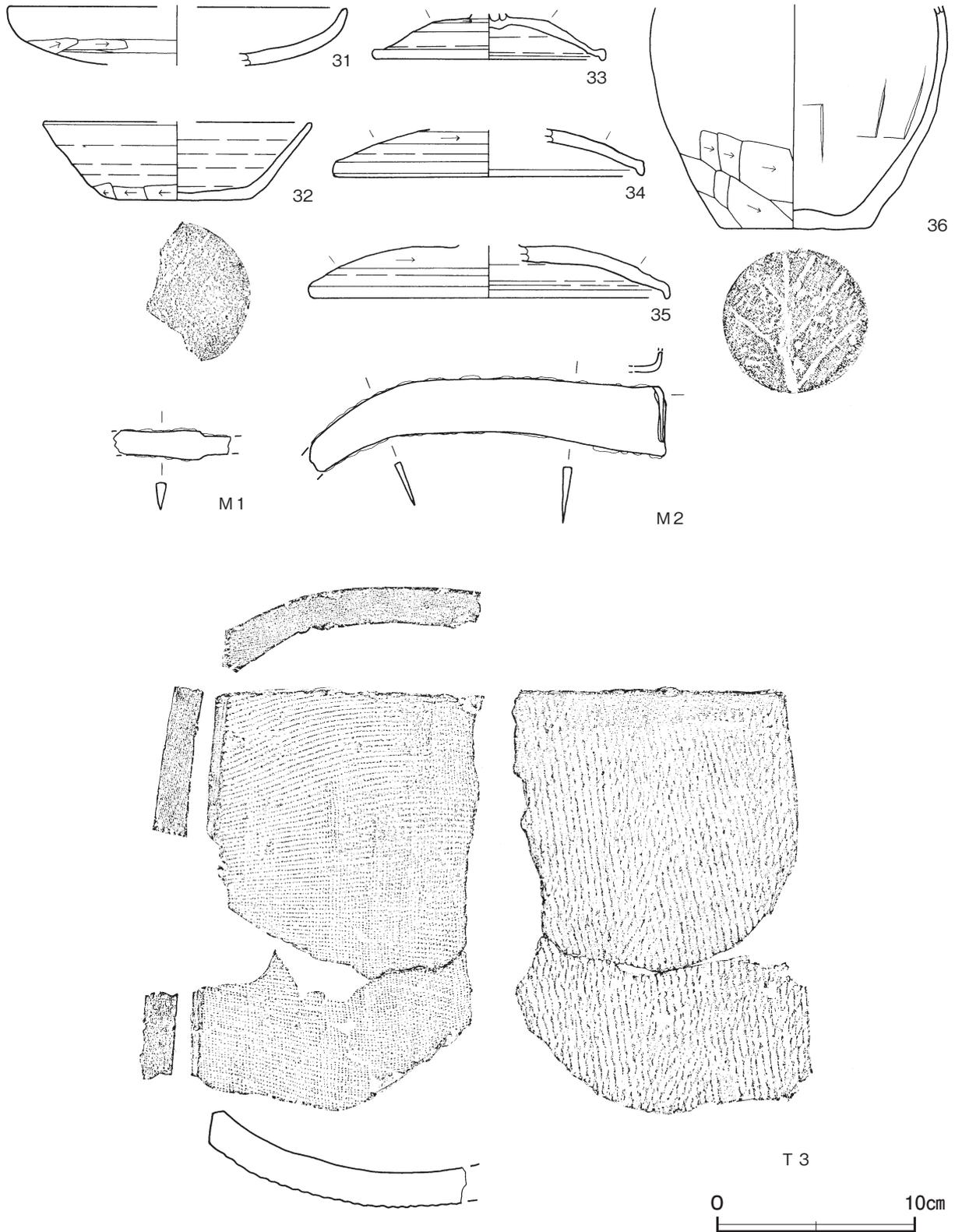
覆土 2 層に分層できる。覆土は薄く堆積状況は不明である。第 2 層は壁溝の覆土、第 3・4 層は貼床の構築土である。

土層解説

1 暗 褐 色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量	3 暗 褐 色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒 褐 色	ロームブロック少量	4 暗 褐 色	ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片 135 点 (坏 3, 小形甕 1, 甕類 131), 須恵器片 89 点 (坏 45, 高台付坏 1, 蓋 8, 盤 1, 長頸瓶 1, 甕類 33), 金属製品 3 点 (刀子, 鎌, 釘), 瓦 1 点 (平瓦) が出土している。33 は北東コーナー部, 36 は北壁付近, M 2 は西壁際, T 3 は南西部の床面からそれぞれ出土している。33 は逆位の状態で出土している。35 は竈内から出土している。31・32・34・M 1 は覆土中から出土している。竈内遺物を除いて、埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から 8 世紀中葉に比定できる。



第17図 第65号竪穴建物跡出土遺物実測図

第65号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第17図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
31	土師器	坏	[17.3]	(3.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面へら削り後ナデ	覆土中	30%
32	須恵器	坏	[13.6]	4.0	[7.6]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちへら削り 底部不定方向の手持ちへら削り	覆土中	30% 新治窯

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
33	須恵器	蓋	11.6	(23)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	60% 新治窯
34	須恵器	蓋	[15.7]	(24)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	20% 新治窯
35	須恵器	蓋	[18.2]	(27)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	天井部回転ヘラ削り	竈内	30% 新治窯
36	土師器	小形甕	-	(11.4)	7.4	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部下半ヘラ削り 内面ヘラ当て痕 底部木葉痕	床面	60%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 1	刀子	(6.1)	1.5	0.4	(138)	鉄	刃先・茎部欠損 刃部断面三角形	覆土中	PL18
M 2	鎌	(18.2)	3.5	0.3	(67.5)	鉄	曲刃鎌 刃部断面三角形 基部折り曲げ	床面	PL18

番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
T 3	瓦	平瓦	(14.8)	(5.4)	(21.8)	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	凸面縄叩き 狭端縁削り 凹面模骨痕 糸切り痕 側縁削り 側面削り	床面	PL19

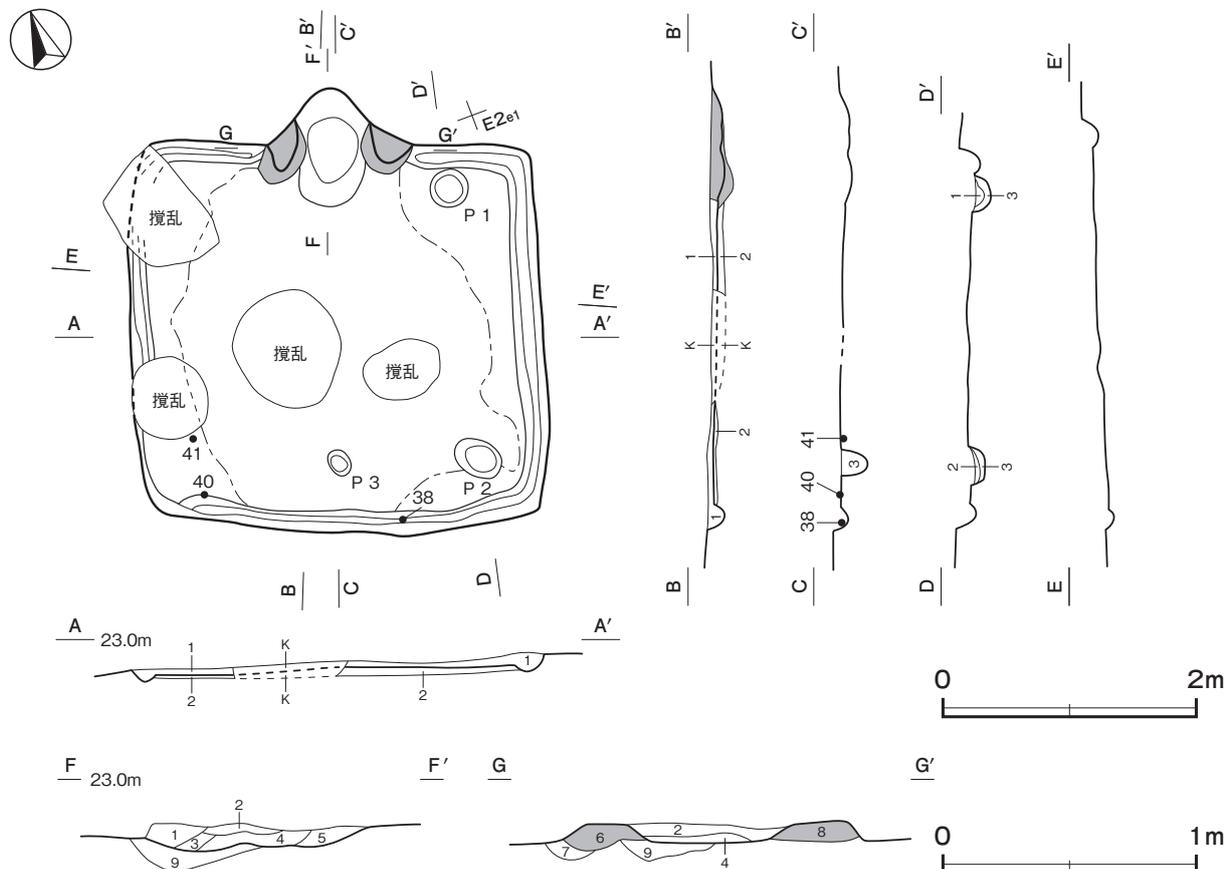
第74号竪穴建物跡（第18・19図）

位置 調査区南西部のE 1 e0区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 一辺3.26mほどの方形で、主軸方向はN-21°-Eである。壁は高さ5~12cmで、外傾している。

床 平坦な貼床で、竈の前方から南西壁にかけて踏み固められている。床は地山を10cm程掘り下げ、ロームブロックを含んだ第2層を埋土して構築されている。壁溝が西コーナー部を除いて巡っている。

竈 北東壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで95cmで、燃焼部幅は50cmである。左袖部は、第



第18図 第74号竪穴建物跡実測図

7・9層の上にロームブロック・粘土ブロックや炭化粒子を含む第6層を積み上げ、右袖部は地山の上に粘土ブロックを含む第8層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に8cm掘りくぼめ、ロームブロック・粘土ブロックや焼土粒子を含む第9層を埋土している。火床面は第9層上面で、赤変していない。煙道部は壁外に45cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|-------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量 | 6 黒褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 9 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子少量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | | |

ピット 3か所。P1・P2は深さ16cmで、東コーナー部と南コーナー部に位置していることから、主柱穴である。P3は南西壁に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|-------|----------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 3 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | | |

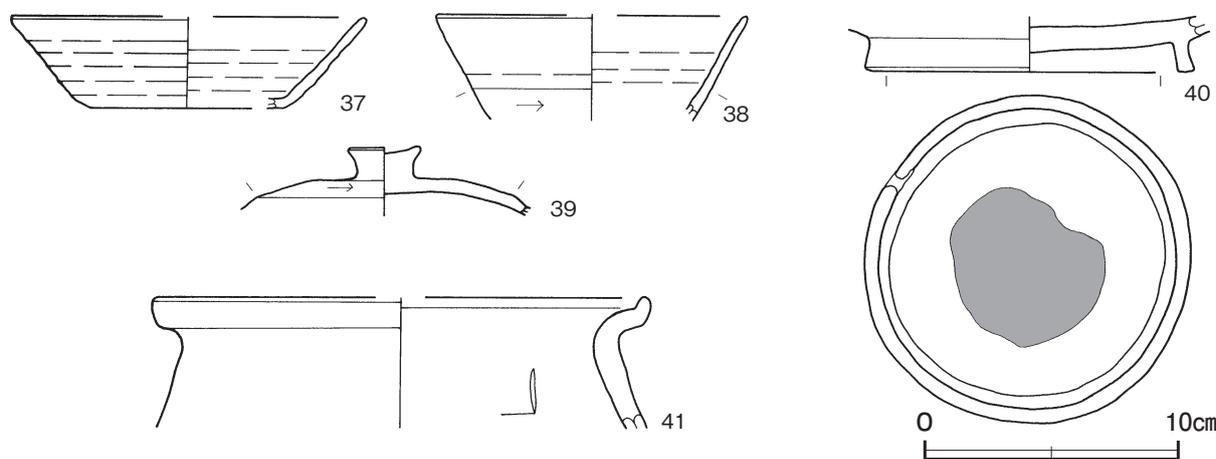
覆土 単一層である。耕作による削平を受け、覆土の堆積状況は不明である。第2層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 2 暗褐色 | ロームブロック多量 |
|-------|------------------|-------|-----------|

遺物出土状況 土師器片21点(甕類), 須恵器片27点(坏22, 蓋1, 高盤1, 甕類3), 土製品1点(不明)が出土している。38は南西壁際, 40・41は西コーナー部の床面からそれぞれ出土している。遺物は埋没過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第19図 第74号竪穴建物跡出土遺物実測図

第74号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第19図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
37	須恵器	坏	[14.0]	3.7	[7.8]	長石・石英・雲母	灰褐	普通	体部下端ナデ	覆土中	5%
38	須恵器	坏	[12.2]	(4.2)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り	床面	5%
39	須恵器	蓋	-	(2.8)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	10% 新治窯
40	須恵器	盤	-	(2.2)	12.3	長石・石英・針状物質	灰黄褐	普通	底部回転ヘラ削り 底部墨痕	床面	50% 木葉下窯 脱転用
41	土師器	甕	[19.5]	(5.2)	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	体部内面ヘラ当て痕	床面	5%

第 77 号 竪穴建物跡 (第 20・21 図)

位置 調査区南部の E 3 d4 区, 標高 25 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 3.23 m, 短軸 3.08 m の方形で, 主軸方向は N - 24° - E である。壁は高さ 10 ~ 16 cm で, 外傾している。

床 平坦な貼床で, 竈の前方部から南西壁にかけて踏み固められている。壁下には壁溝が南東壁と東コーナー部を除いて巡っている。貼床は, 全体を 8 cm ほど掘り下げ, ロームブロックを含む第 16 層を埋土して構築されている。

竈 北東壁の東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 94 cm で, 燃烧部幅は 34 cm である。袖部は地山の上に粘土ブロック含む第 4 層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形にわずかに掘りくぼめ地山を利用している。火床面は地山上面で, 赤変硬化していない。煙道部は壁外に 43 cm 掘り込まれ, 火床部から緩やかに立ち上がっている。

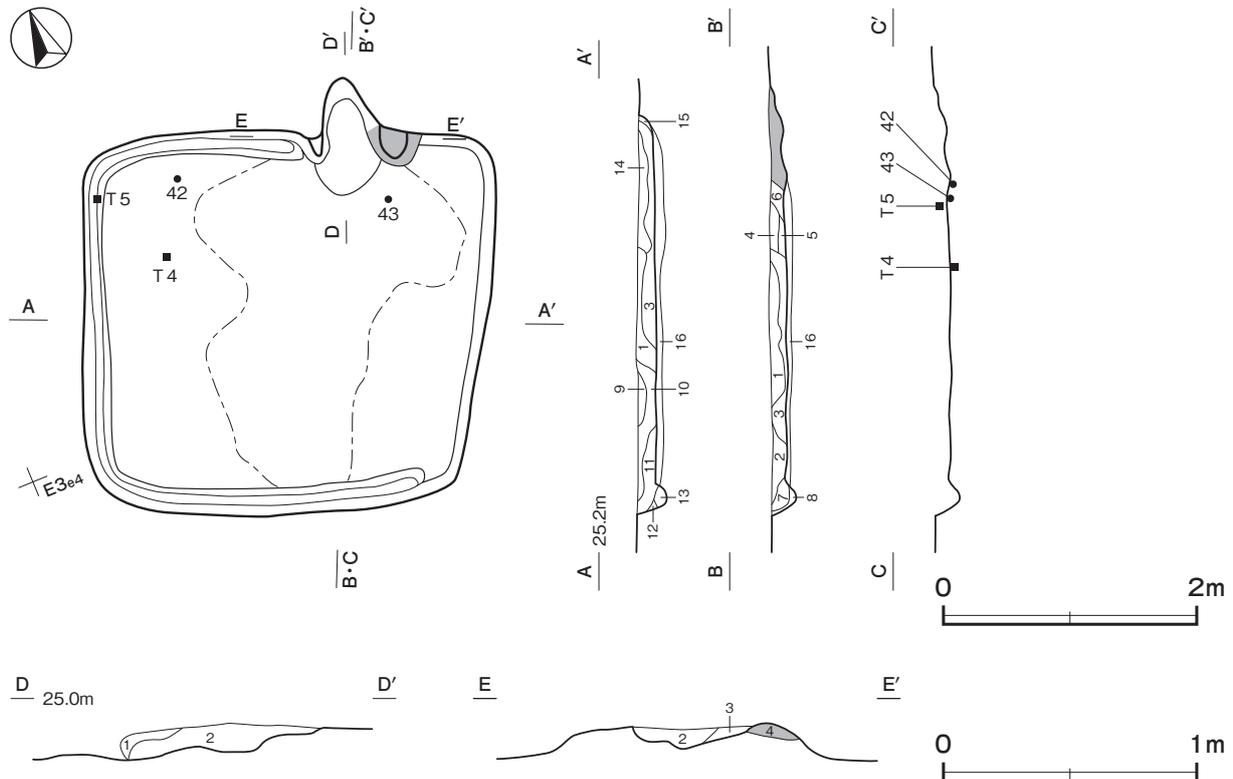
竈土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | 粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |

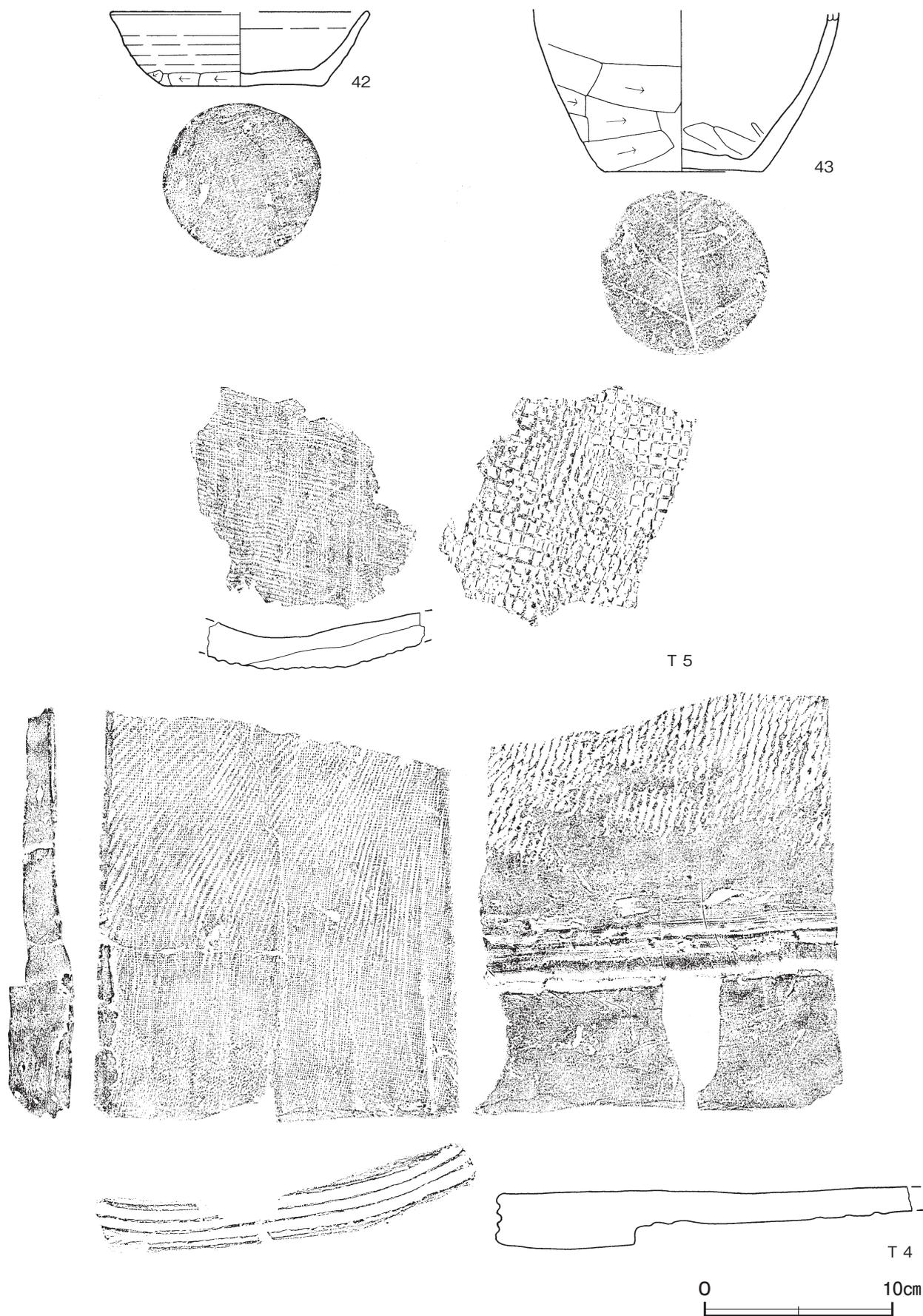
覆土 15 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。第 16 層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------|---------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック微量 | 11 極暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック少量 | 12 褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量 | 13 極暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 14 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子少量, ロームブロック微量 | 15 褐色 | ローム粒子中量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子少量 | 16 褐色 | ロームブロック多量 |



第 20 図 第 77 号 竪穴建物跡実測図



第 21 図 第 77 号 豎穴建物跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片5点（甕類），須恵器片3点（坏2，甕類1），剥片1点，鉄滓1点，瓦5点（軒平瓦1，丸瓦2，平瓦2）が出土している。42，T4・T5は北コーナー部，43は竈右袖部付近の床面からそれぞれ出土している。これらの遺物は，埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から8世紀後葉に比定できる。

第77号竪穴建物跡出土遺物観察表（第21図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
42	須恵器	坏	[13.7]	4.0	8.6	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちへら削り 底部不定方向の手持ちへら削り	床面	60% 新治窯
43	土師器	甕	-	(8.7)	8.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部下半へら削り 内面へらナデ 底部木葉痕	床面	10%

番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
T4	瓦	軒平瓦	(20.3)	(3.1)	(22.2)	長石・石英	灰	普通	櫛状工具で挽いた沈線による四重弧文 凸面太縄叩き 端面削り 凹面模骨痕 布目痕	床面	PL19
T5	瓦	平瓦	(13.7)	(3.1)	(13.0)	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	凸面格子目叩き 凹面布目痕 粘土合わせ痕	床面	

第79号竪穴建物跡（第22・23図）

位置 調査区南西部のE2a4区，標高23mほどの台地平坦部に位置している。

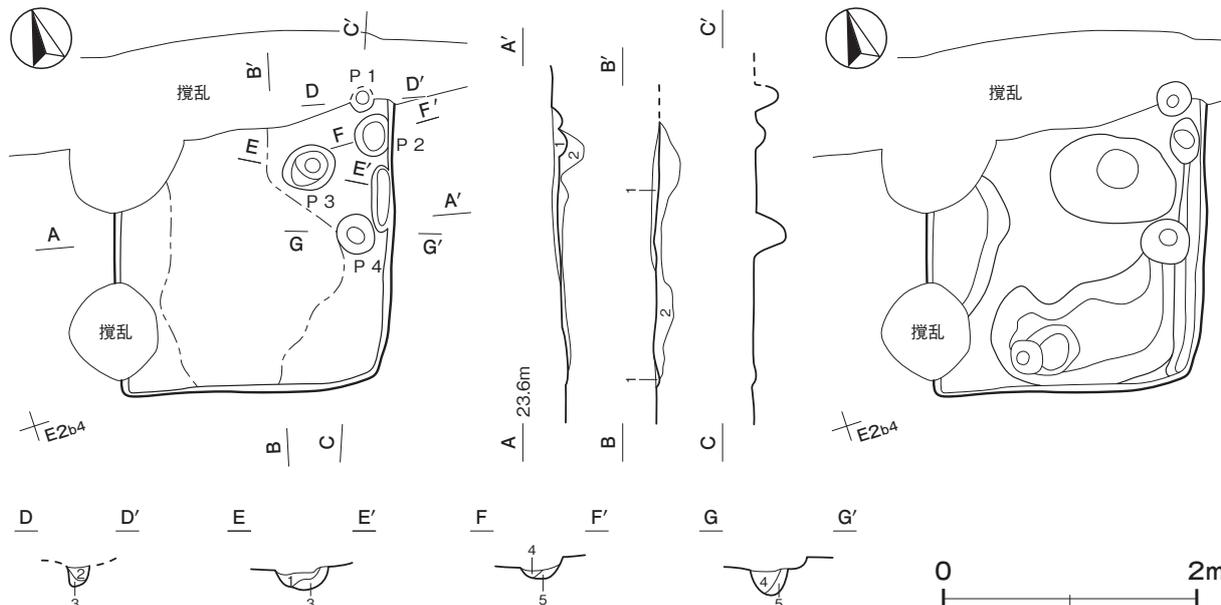
規模と形状 北側が攪乱を受けているため，東西軸は2.20mで，南北軸は2.40mしか確認できなかった。形状から主軸方向はN-18°-Eの長方形と推定できる。壁は高さ2~4cmである。

床 平坦な貼床で，中央部から南壁にかけて踏み固められている。床は地山を6~19cm程掘り下げ，ロームブロックや焼土粒子を含む第2層を埋土して構築されている。壁溝が東壁に部分的に巡っている。

ピット 4か所。P1~P4は深さ10~21cmで東壁付近に位置しているが，性格は不明である。

ピット土層解説（各ピット共通）

- 1 黒褐色 焼土ブロック中量，ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 黒褐色 ローム粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック中量



第22図 第79号竪穴建物跡実測図

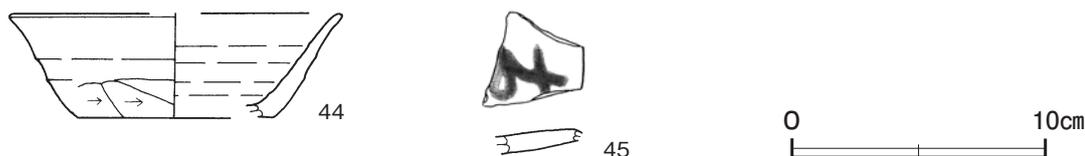
覆土 単一層である。第1層がわずかに残るだけで、堆積状況は不明である。第2層は、貼床の構築土である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 2 暗褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子少量

遺物出土状況 土師器片 31点 (坏3, 甕類28), 須恵器片 14点 (坏9, 高台付坏1, 蓋1, 甕類3) が出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第23図 第79号竪穴建物跡出土遺物実測図

第79号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第23図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
44	須恵器	坏	[13.0]	4.2	[7.8]	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	覆土中	5%
45	須恵器	皿	-	(1.0)	-	長石・石英・雲母	黄褐	普通	体部内面墨書「古」	覆土中	5% PL17

第80号竪穴建物跡 (第24・25図 PL5)

位置 調査区南部のC4d9区, 標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.42m, 短軸2.89mの長方形で, 主軸方向はN-26°-Eである。壁は高さ20~34cmで, ほぼ直立している。

床 平坦で, 竈の前方部から南壁にかけて踏み固められている。床は地山をそのまま利用している。壁下には壁溝が東壁の一部を除いて巡っている。

竈 北壁のやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで122cmで, 燃焼部幅は46cmである。袖部は地山の上にロームブロックや粘土ブロックを含む第11~13層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に7cmほど掘りくぼめ第14層を埋土している。火床面は第14層上面で火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に50cm掘り込まれ, 火床部から緩やかに立ち上がっている。火床部の奥には, 被熱した須恵器の坏が逆位で据えられており, 支脚として使用されていたと考えられる。

竈土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 8 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
 2 黒褐色 ローム粒子少量 9 黒褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
 3 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量 10 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量
 4 黒褐色 ロームブロック少量 11 暗褐色 ロームブロック少量
 5 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 12 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土粒子微量
 6 黒褐色 ロームブロック中量 13 褐色 粘土ブロック少量
 7 暗褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック少量 14 暗褐色 ロームブロック中量, 粘土粒子少量

ピット P1は深さ22cmで, 南壁寄りに位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

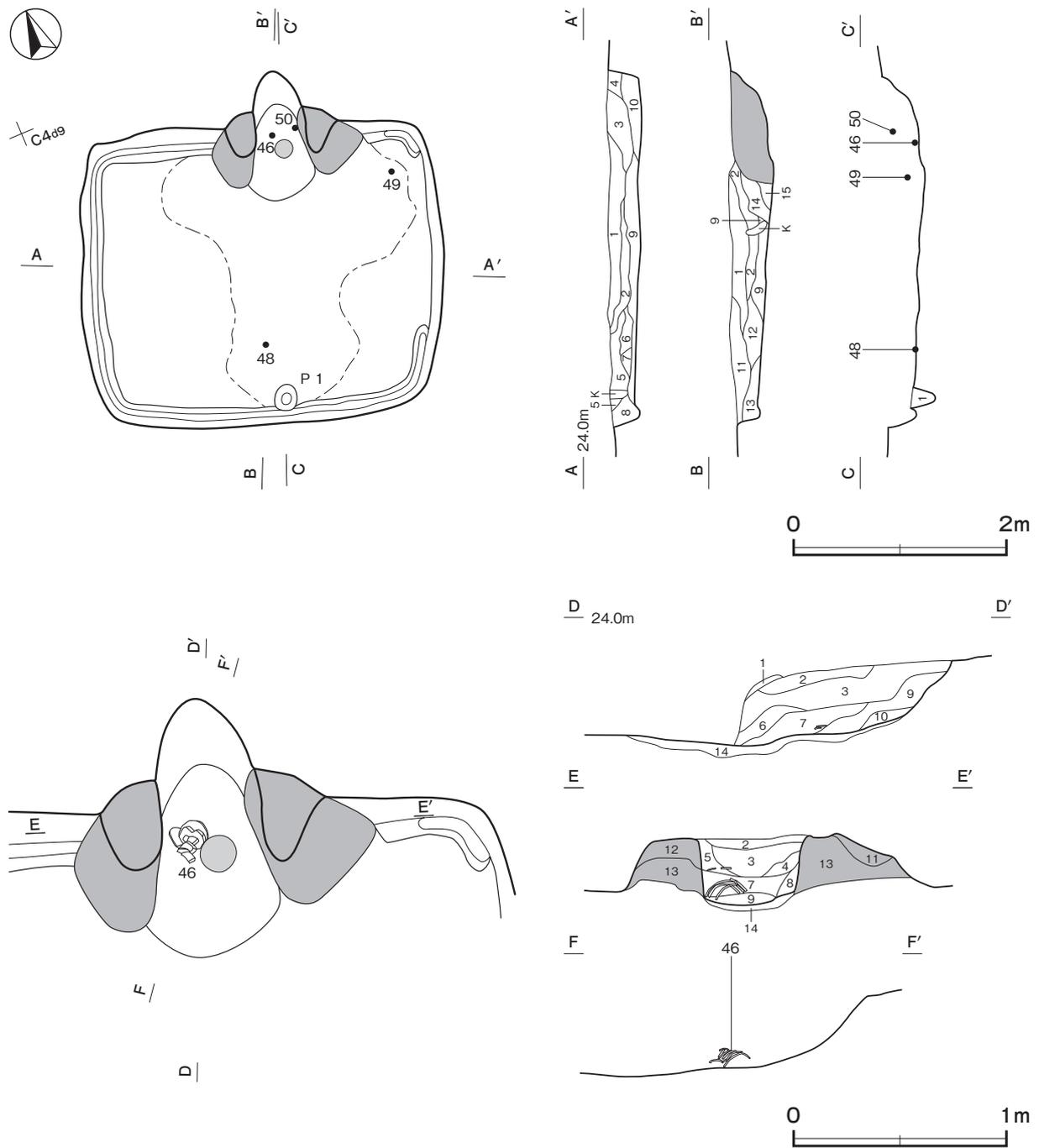
1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量

覆土 15層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|--------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック多量, 焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | 灰中量, 焼土粒子微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量 | 11 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック中量 | 12 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量 | 13 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 14 黒褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック少量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック中量 | 15 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

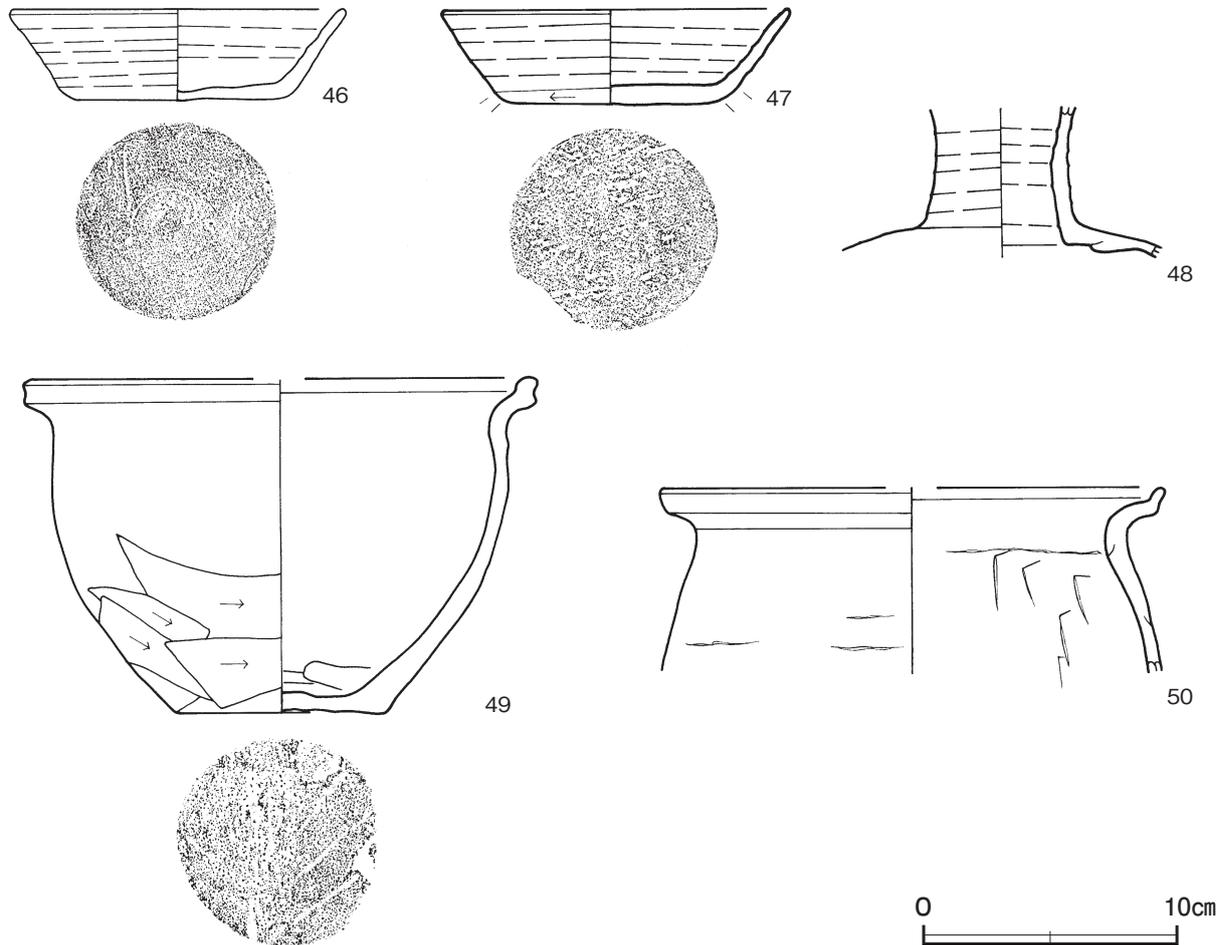
遺物出土状況 土師器片 62点 (小形甕2, 甕類60), 須恵器片 27点 (坏13, 蓋3, 長頸瓶1, 甕類10) が出土している。46・50は竈内から出土している。46は支脚として使用されていたと考えられる。48は中央部



第24図 第80号竪穴建物跡実測図

南壁寄りの床面，49は北東コーナー部の覆土下層，47は東部付近の覆土中からそれぞれ出土している。48は廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第25図 第80号竪穴建物跡出土遺物実測図

第80号竪穴建物跡出土遺物観察表（第25図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
46	須恵器	坏	13.1	3.6	7.9	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ切り痕を残す不定方向の手持ちヘラ削り	竈内	100% 新治窯 PL12
47	須恵器	坏	13.7	3.8	8.0	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	覆土中	70% 新治窯
48	須恵器	長頸瓶	-	(6.0)	-	長石・石英	灰	普通	頸部から肩部外面自然軸 輪積痕	床面	10%
49	土師器	小形甕	[19.6]	13.3	8.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐	普通	体部下半ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部木葉痕	覆土下層	60% PL13
50	土師器	小形甕	[19.8]	(7.4)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	内面ヘラナデ 輪積痕	竈内	5%

表2 奈良時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸 (m)	(cm)				主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
59	D3b2	N-32°-E	方形	3.80 × 3.58	4~5	平坦	-	4	1	-	北東壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土瓦, 製品, 金属製品	8世紀後葉		
61	C3j1	N-34°-E	長方形	3.47 × 3.10	14~18	平坦	一部	-	1	9	北東壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土瓦, 製品	8世紀初頭	SK15 → 本跡	
63	D2e0	N-28°-E	方形	2.88	3~10	平坦	-	-	-	-	北東壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品	8世紀後葉		

番号	位置	主軸方向	平面形	規模	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸(m)				主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
64	D 2f5	N - 27° - E	長方形	4.82 × 4.16	16 ~ 30	平坦	ほぼ全周	4	1	4	北東壁	-	人為	土師器, 須恵器	8世紀後葉	本跡→SD22
65	E 2b6	N - 5° - E	方形	4.50	8 ~ 12	平坦	ほぼ全周	4	1	2	北壁	-	-	土師器, 須恵器, 金属製品, 瓦	8世紀中葉	
74	E 1e0	N - 21° - E	方形	3.26	5 ~ 12	平坦	ほぼ全周	2	1	-	北東壁	-	-	土師器, 須恵器, 土製品	8世紀後葉	
77	E 3d4	N - 24° - E	方形	3.23 × 3.08	10 ~ 16	平坦	一部	-	-	-	北東壁	-	人為	土師器, 須恵器, 瓦	8世紀後葉	
79	E 2a4	N - 18° - E	[長方形]	(2.40) × 2.20	2 ~ 4	平坦	一部	-	-	4	-	-	-	土師器, 須恵器	8世紀後葉	
80	C 4d9	N - 26° - E	長方形	3.42 × 2.89	20 ~ 34	平坦	ほぼ全周	-	1	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器	8世紀後葉	

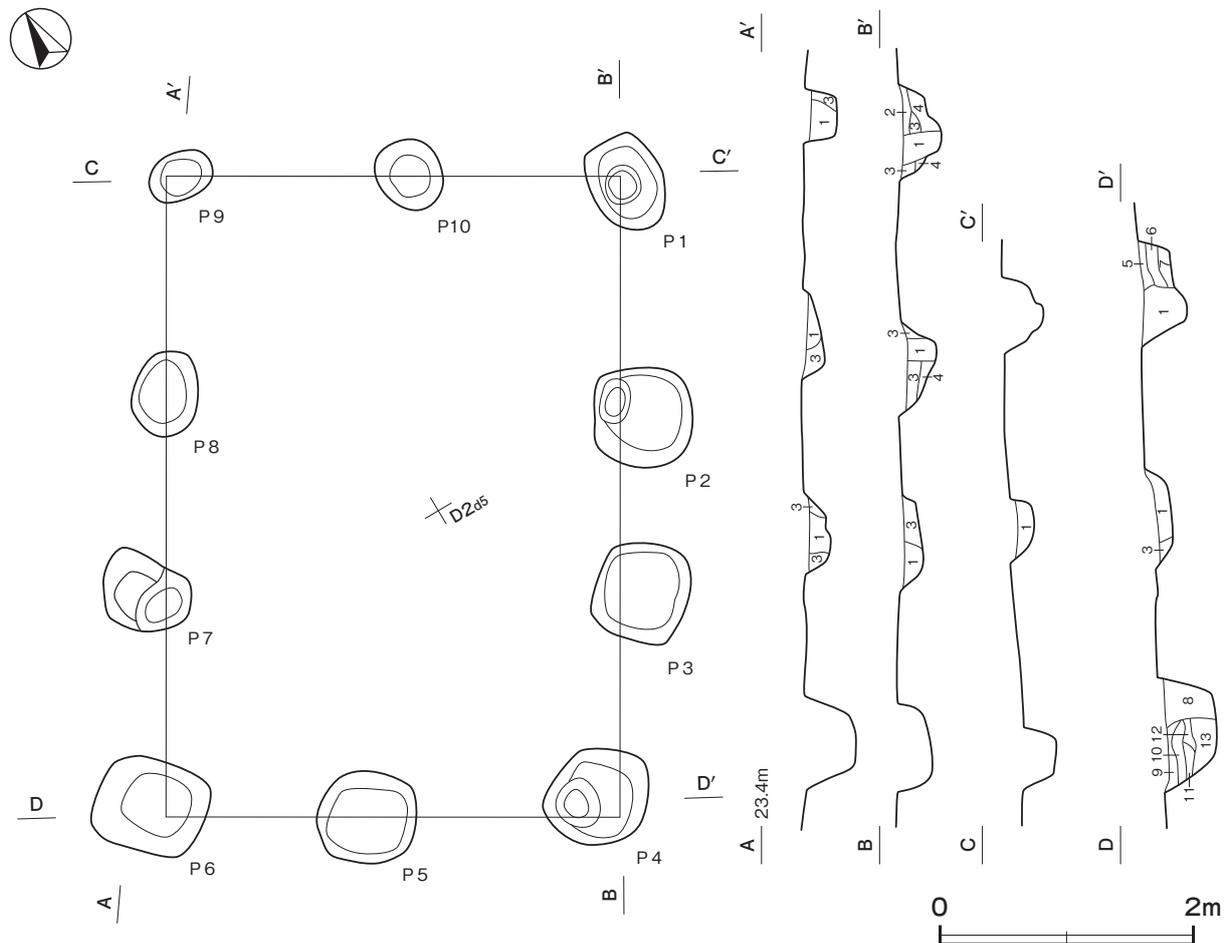
(2) 掘立柱建物跡

第17号掘立柱建物跡 (第26図 PL10)

位置 調査区西部のD 2 d5区, 標高23mほどの台地平坦部に位置している。

規模と構造 桁行3間, 梁行2間の側柱建物跡で, 桁行方向がN - 31° - Eの南北棟である。規模は, 桁行5.1m, 梁行3.6mで, 面積は18.36㎡である。柱間寸法は桁行が北妻から1.8m (6尺), 1.5m (5尺), 1.8m (6尺), 梁行が1.8m (6尺)で, 柱筋は揃っている。

柱穴 10か所。平面形は楕円形又は隅丸方形で, 長軸53~100cm, 短軸36~90cmである。深さ18~45cmで, 掘方の断面は逆台形である。第1・8層は柱抜き取り後の覆土, 第2~7・9~13層が埋土である。



第26図 第17号掘立柱建物跡実測図

土層解説（各ピット共通）

- | | | | |
|---------|-----------------------|----------|------------------|
| 1 黒 褐 色 | ロームブロック少量 | 8 黒 褐 色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 2 黒 褐 色 | ロームブロック・粘土ブロック中量 | 9 黒 褐 色 | 黄褐色粘土ブロック少量 |
| 3 暗 褐 色 | ロームブロック多量 | 10 黒 褐 色 | 黄褐色粘土ブロック多量 |
| 4 黒 褐 色 | 白色粘土ブロック中量，ロームブロック少量 | 11 黒 褐 色 | 粘土ブロック中量 |
| 5 暗 褐 色 | ロームブロック多量，粘土ブロック少量 | 12 黒 褐 色 | ローム粒子中量，粘土ブロック少量 |
| 6 黒 褐 色 | ロームブロック中量，粘土ブロック少量 | 13 黒 褐 色 | 粘土ブロック多量 |
| 7 黒 褐 色 | 黄褐色粘土ブロック中量，ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片 1 点（甕類），須恵器片 2 点（甕類）が出土している。P 1 の覆土中から土師器片，須恵器片が出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は，出土土器から 8 世紀代に比定できる。

第 18 号掘立柱建物跡（第 27 図 PL10）

位置 調査区中央部の D 3c1 区，標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と構造 桁行 3 間，梁行 2 間の側柱建物跡で，桁行方向が N - 76° - W の東西棟である。規模は，桁行 6.0 m，梁行 4.2 m で，面積は 25.20㎡である。柱間寸法は桁行が北妻から 2.1 m（7 尺），1.8 m（6 尺），2.1 m（7 尺），梁行は 2.1 m（7 尺）に配置され，柱筋は揃っている。

柱穴 20 か所。P 1～P 10 の平面形は円形又は楕円形で，径 28～78cm である。深さは 12～35cm で，掘方の断面は逆台形又は U 字形である。側柱の北側から南側の P 11～P 20 は径 14～30cm，深さ 6～20cm と側柱より小さく浅いため，足場柱穴の可能性もある。第 1・6 層が柱痕，第 2～5 層が埋土である。

土層解説（各ピット共通）

- | | | | |
|---------|-----------|---------|-----------|
| 1 黒 褐 色 | ローム粒子少量 | 4 黒 褐 色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒 褐 色 | ロームブロック多量 | 5 黒 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒 褐 色 | ローム粒子中量 | 6 黒 褐 色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片 4 点（坏 2，甕類 2），須恵器片 4 点（蓋 1，甕類 3）が出土している。P 1・P 6～P 10 から土師器片，須恵器片が出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は，出土土器から 8 世紀後葉に比定できる。

第 20 号掘立柱建物跡（第 28 図 PL10）

位置 調査区中央部の D 2c9 区，標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 18 号溝に掘り込まれている。

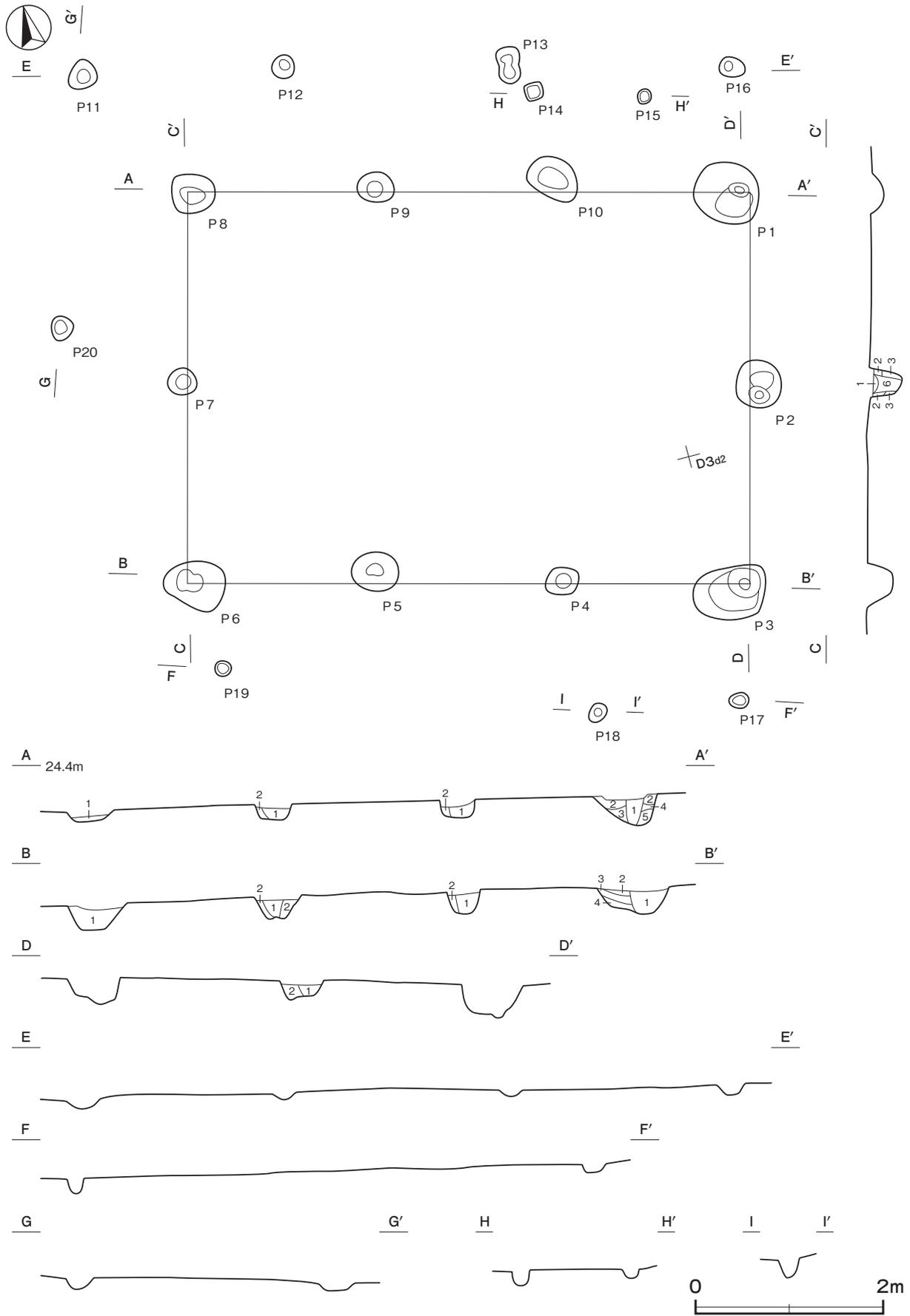
規模と構造 桁行 3 間，梁行 1 間の側柱建物跡で，桁行方向が N - 70° - W の東西棟である。規模は，桁行 5.4 m，梁行 3.3 m で，面積は 17.82㎡である。柱間寸法は桁行が 1.8 m（6 尺），梁行が 3.3 m（10 尺）で，柱筋は揃っている。

柱穴 7 か所。平面形は円形又は楕円形で，長径 35～57cm，短径 26～45cm である。深さ 13～22cm で，掘方の断面は U 字形である。

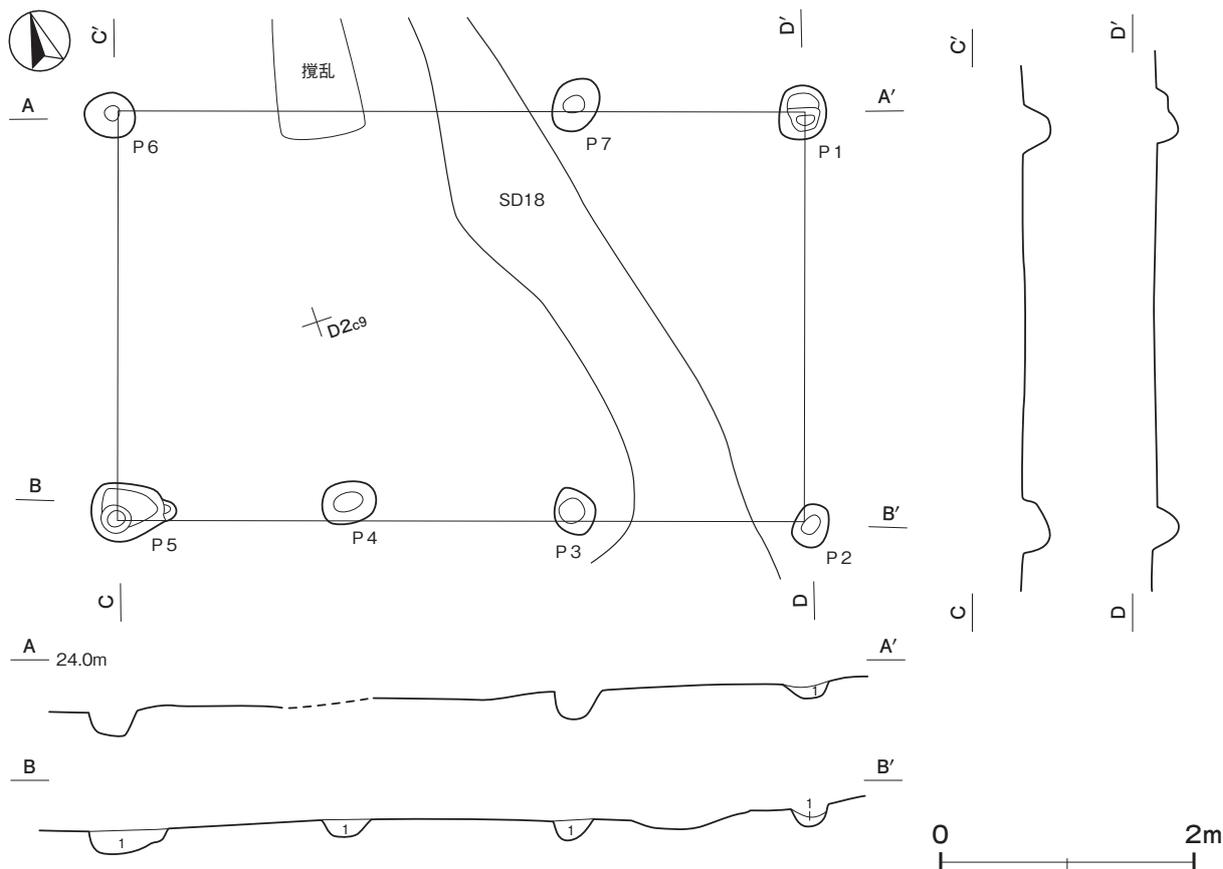
土層解説（各ピット共通）

- | | |
|---------|--------------------|
| 1 黒 褐 色 | ロームブロック少量，粘土ブロック微量 |
|---------|--------------------|

所見 出土土器が無いいため時期判断は困難であるが，遺構の配置から 8 世紀代と考えられる。



第 27 图 第 18 号掘立柱建物跡実測图



第 28 図 第 20 号掘立柱建物跡実測図

第 21 号掘立柱建物跡 (第 29 図 PL10)

位置 調査区西部の D 2b5 区, 標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 18 号溝に掘り込まれている。

規模と構造 桁行 2 間, 梁行 2 間の側柱建物跡で, 桁行方向が N - 34° - E の南北棟である。規模は, 桁行 4.5 m, 梁行 4.2 m で, 面積は 18.90㎡ である。柱間寸法は, 桁行が北妻から 2.1 m (7 尺), 2.4 m (8 尺), 梁行が 2.1 m (7 尺) で, 柱筋は揃っている。P 3 の底面で, 柱のあたりを確認した。

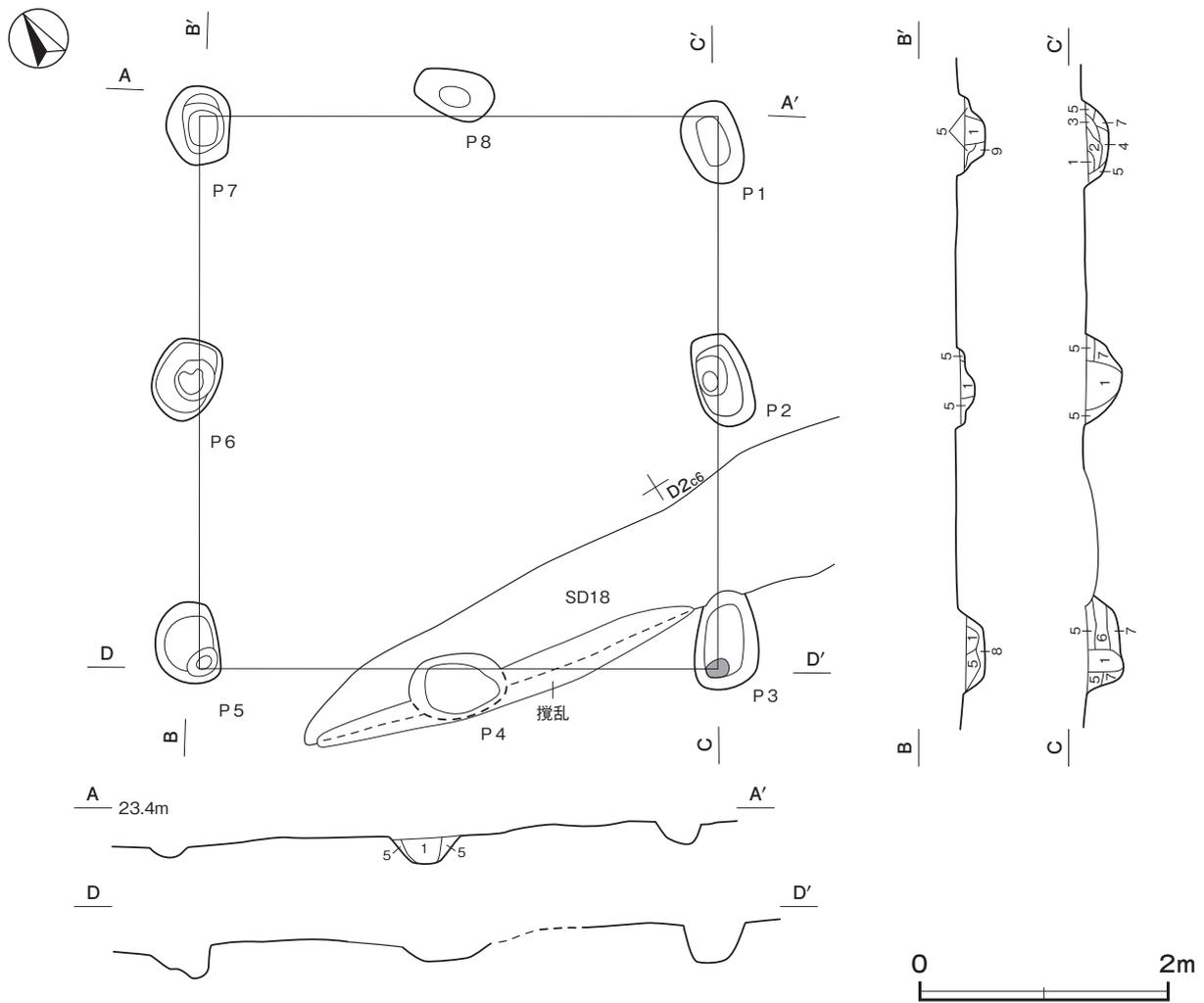
柱穴 8 か所。平面形は楕円形で, 長径 64 ~ 80cm, 短径 40 ~ 52cm である。深さ 15 ~ 30cm で, 掘方の断面は逆台形又は U 字形である。第 1 ~ 4 層は柱痕, 第 5 ~ 9 層が埋土である。

土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|------------------------|----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 6 暗褐色 粘土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック多量 | 7 黒褐色 粘土ブロック少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック中量 | 8 黒褐色 粘土ブロック多量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック微量 | 9 暗褐色 粘土ブロック中量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量 | |

遺物出土状況 土師器片 2 点 (甕類) が出土している。P 8 の覆土中から出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は, 第 17 号掘立柱建物跡と桁行方向が同じに配置されていることから 8 世紀代と考えられる。



第 29 図 第 21 号掘立柱建物跡実測図

第 22 号掘立柱建物跡 (第 30 図 PL10)

位置 調査区南西部の D 2 i5 区、標高 23 m の台地平坦部に位置している。

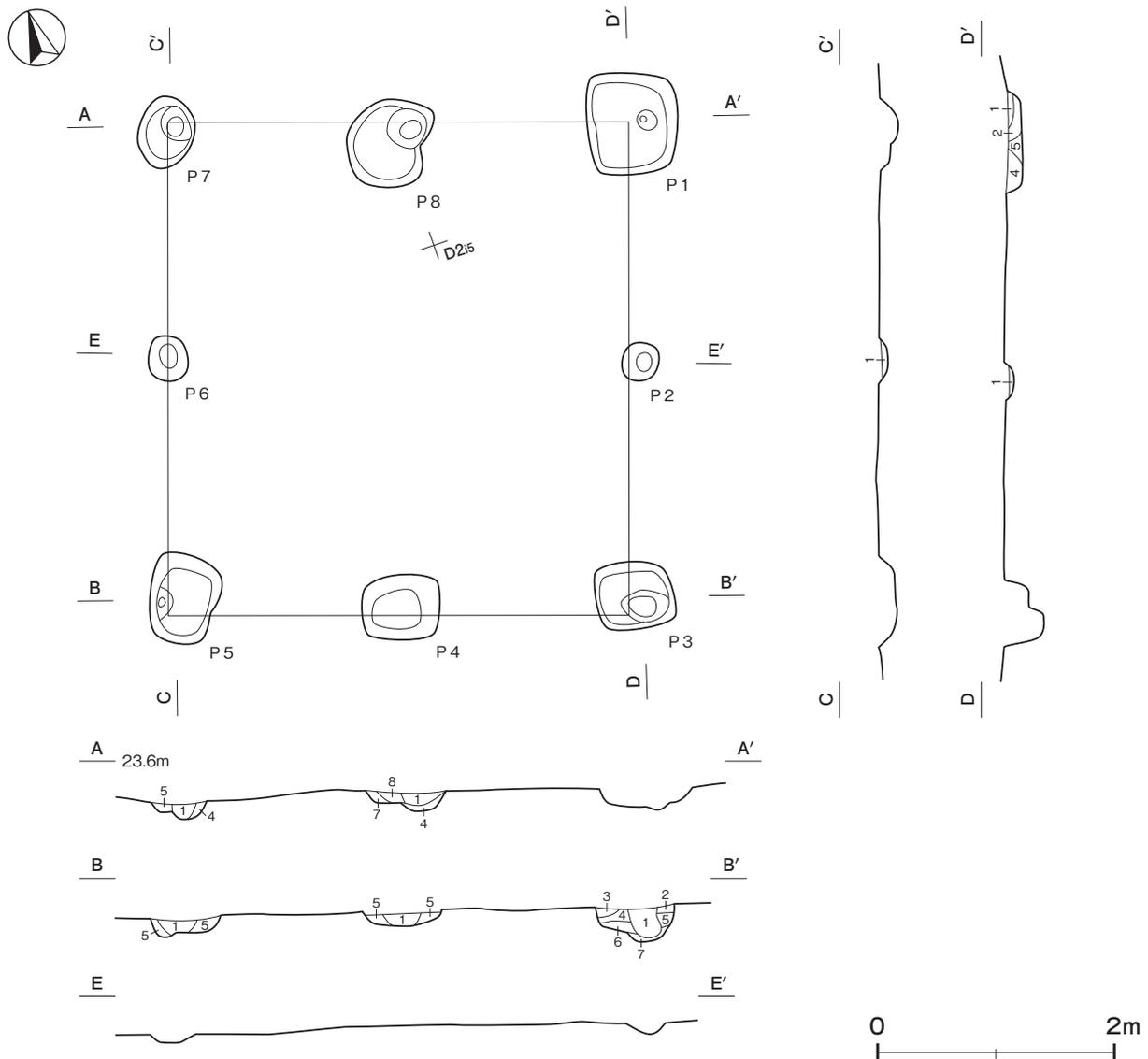
規模と構造 桁行 2 間、梁行 2 間の側柱建物跡で、桁行方向が N - 19° - E の南北棟である。規模は、桁行 4.2 m、梁行 3.9 m で、面積は 16.38㎡である。柱間寸法は、桁行が 2.1 m (7 尺)、梁行が北妻から 2.1 m (7 尺)、1.8 m (6 尺) で、柱筋は揃っている。

柱穴 8 か所。平面形は楕円形又は隅丸長方形で、長径 33 ~ 87cm、短径 30 ~ 77cm である。深さ 8 ~ 33cm で、掘方の断面は U 字形である。第 1 層は柱痕、第 2 ~ 8 層が埋土である。

土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量 | 5 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 褐色 ローム粒子多量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック中量 | 7 褐色 ロームブロック多量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子少量 | 8 黒褐色 ロームブロック微量 |

所見 出土土器が無いので時期判断は困難であるが、第 23 号掘立柱建物跡と桁行方向が同じに配置されていることから 8 世紀代と考えられる。



第30図 第22号掘立柱建物跡実測図

第23号掘立柱建物跡 (第31図 PL10)

位置 調査区南西部のE 2b4区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第67号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と構造 桁行2間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-17°-Eの南北棟である。規模は、桁行3.6m、梁行3.6mで、面積は12.96㎡である。柱間寸法は、桁行が1.8m(6尺)、梁行が1.8m(6尺)で、柱筋は揃っている。

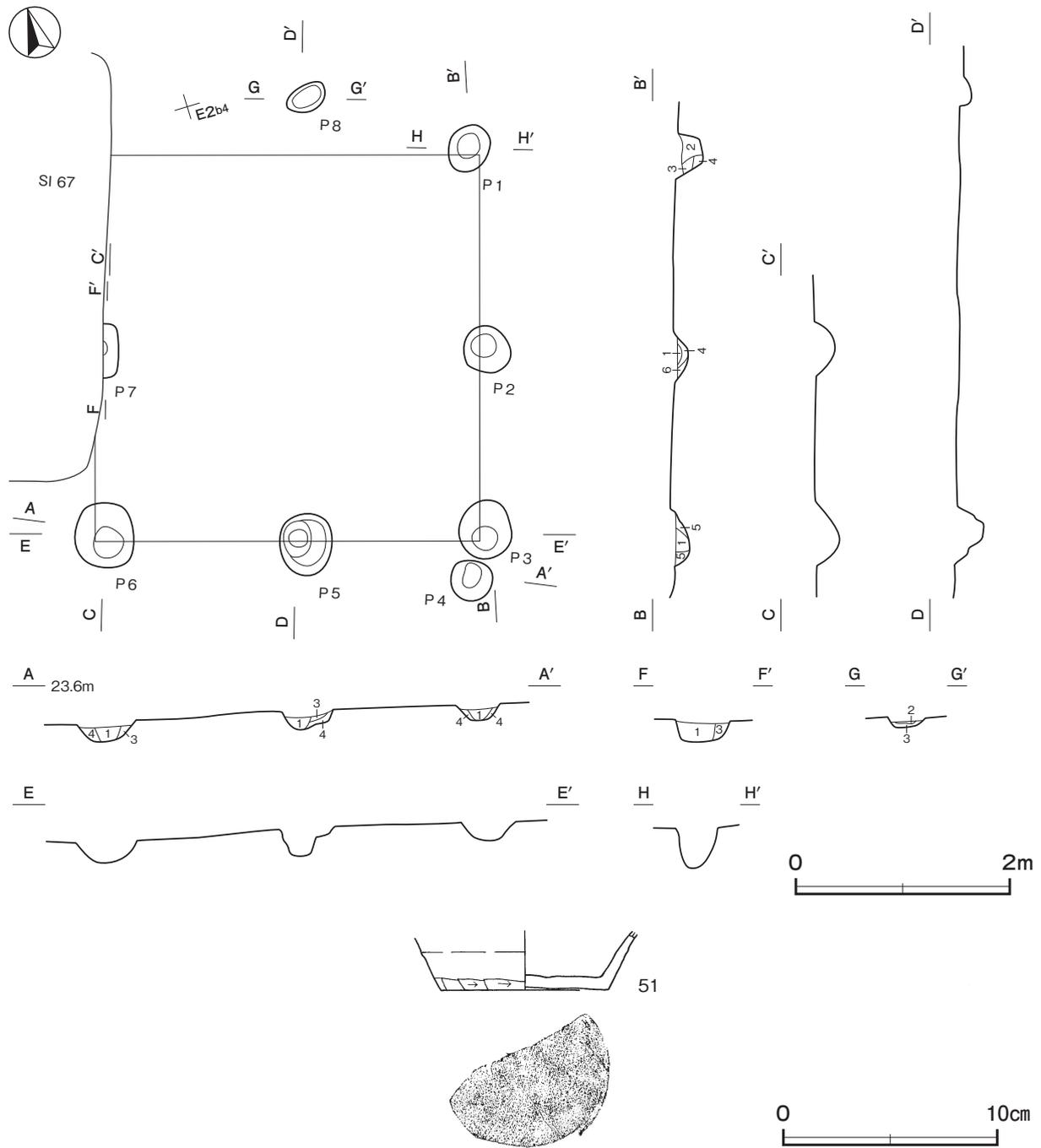
柱穴 8か所。平面形は円形又は楕円形で、長径40~61cm、短径24~55cmである。深さ11~28cmで、掘方の断面はU字形である。第1・2層は柱痕、第3~6層が埋土である。

土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量 | 4 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック中量 | 5 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片4点(甕類)、須恵器片1点(坏)が出土している。51は柱穴の埋土から出土している。

所見 時期は、埋土の出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第31図 第23号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第23号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第31図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
51	須恵器	坏	-	(2.9)	7.9	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちへら削り 底部一方向の手持ちへら削り	覆土中	20% 新治窯

第24号掘立柱建物跡（第32図 PL10）

位置 調査区南西部のD 2j2区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

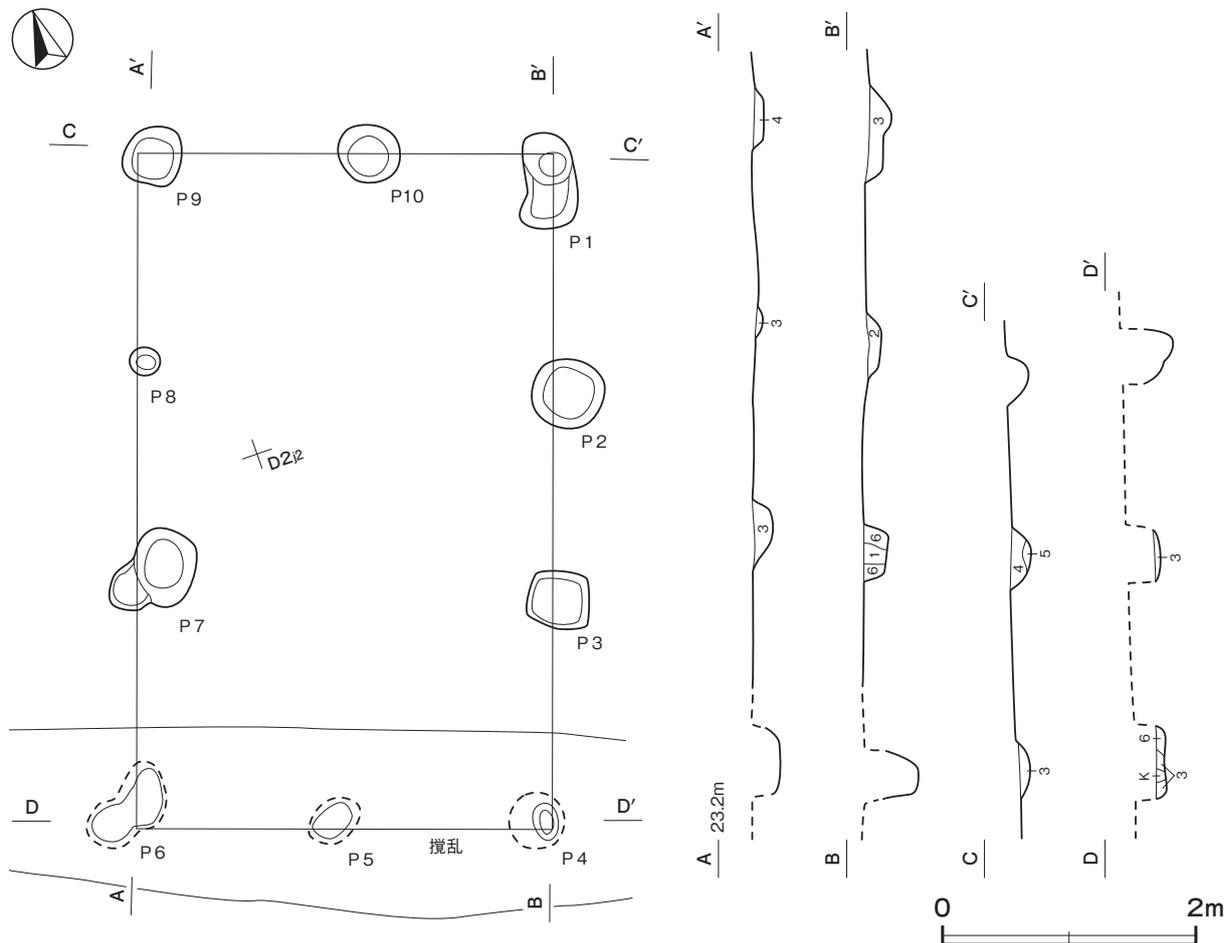
規模と構造 南側上面が現代の道路により一部削平されている。桁行3間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向がN-20°-Eの南北棟である。規模は，桁行5.4m，梁行3.3mで，面積は17.82㎡である。柱間寸法は，桁行が1.8m（6尺），梁行が北妻から1.8m（6尺），1.5m（5尺）で，柱筋は揃っている。

柱穴 10か所。平面形は不整楕円形又は方形で，長軸24～80cm，短軸24～58cmである。深さ4～40cmで，掘方の断面は逆台形又はU字形である。第1層は柱痕，第2～5層は柱抜き取り後の覆土，第6層が埋土である。

土層解説（各ピット共通）

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 4 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック中量 | 5 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック微量 | 6 黒褐色 ローム粒子中量 |

所見 出土土器が無いいため時期判断は困難であるが，第23号掘立柱建物跡と桁行方向が同じに配置されていることから8世紀代と考えられる。



第32図 第24号掘立柱建物跡実測図

第25号掘立柱建物跡（第33図 PL10）

位置 調査区中央部のC3h0区，標高24mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第81号竪穴建物，第4号溝に掘り込まれている。

規模と構造 南部が調査区域外に延びているため，桁行3.6m，梁行3.3mしか確認できなかった。柱間寸法は，

桁行が1.8 m（6尺）、梁行が北妻から1.5 m（5尺）、1.8 m（6尺）で、柱筋は揃っている。

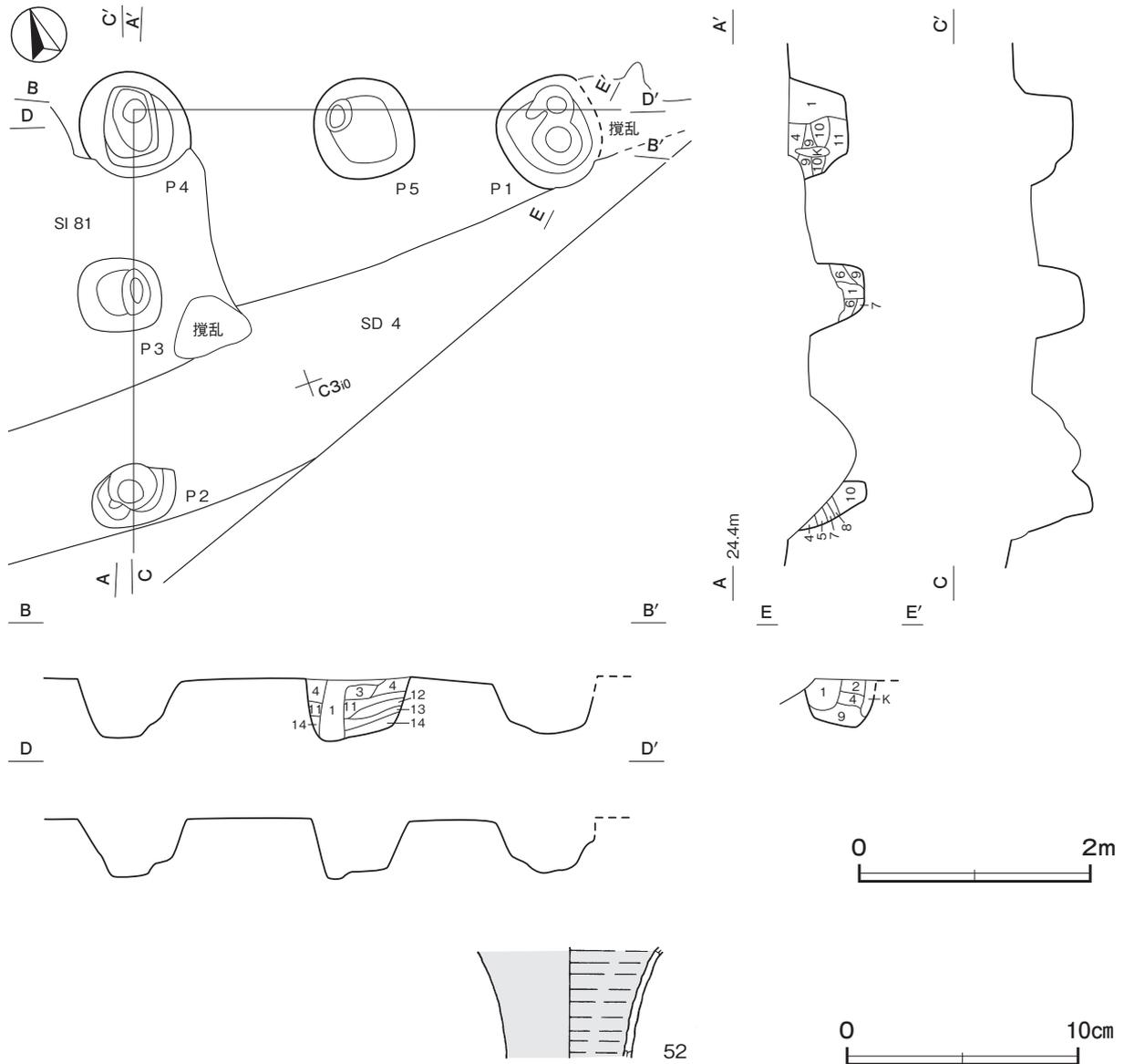
柱穴 5か所。平面形は隅丸方形又は不整楕円形で、長径78～100cm、短径54～92cmである。深さ42～70cmで、掘方の断面は逆台形又はU字形である。第1層は柱痕、第2～14層が埋土である。

土層解説（各ピット共通）

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック微量 | 8 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量 | 9 黒褐色 粘土ブロック多量、ロームブロック少量 |
| 3 黒色 粘土ブロック中量、ロームブロック少量 | 10 黒色 ロームブロック・粘土ブロック中量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック中量 | 11 暗褐色 ロームブロック多量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック少量 | 12 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック多量 |
| 6 褐色 ロームブロック多量 | 13 黒色 ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 7 黒褐色 粘土ブロック中量 | 14 暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子多量 |

遺物出土状況 土師器片29点（坏4、甕類25）、須恵器片16点（坏4、蓋1、甕類11）、灰釉陶器（長頸瓶）が出土している。52はP4の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。同時期の第27号掘立柱建物跡と同じ桁行方向の東西棟と考えられる。



第33図 第25号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第 25 号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第 33 図)

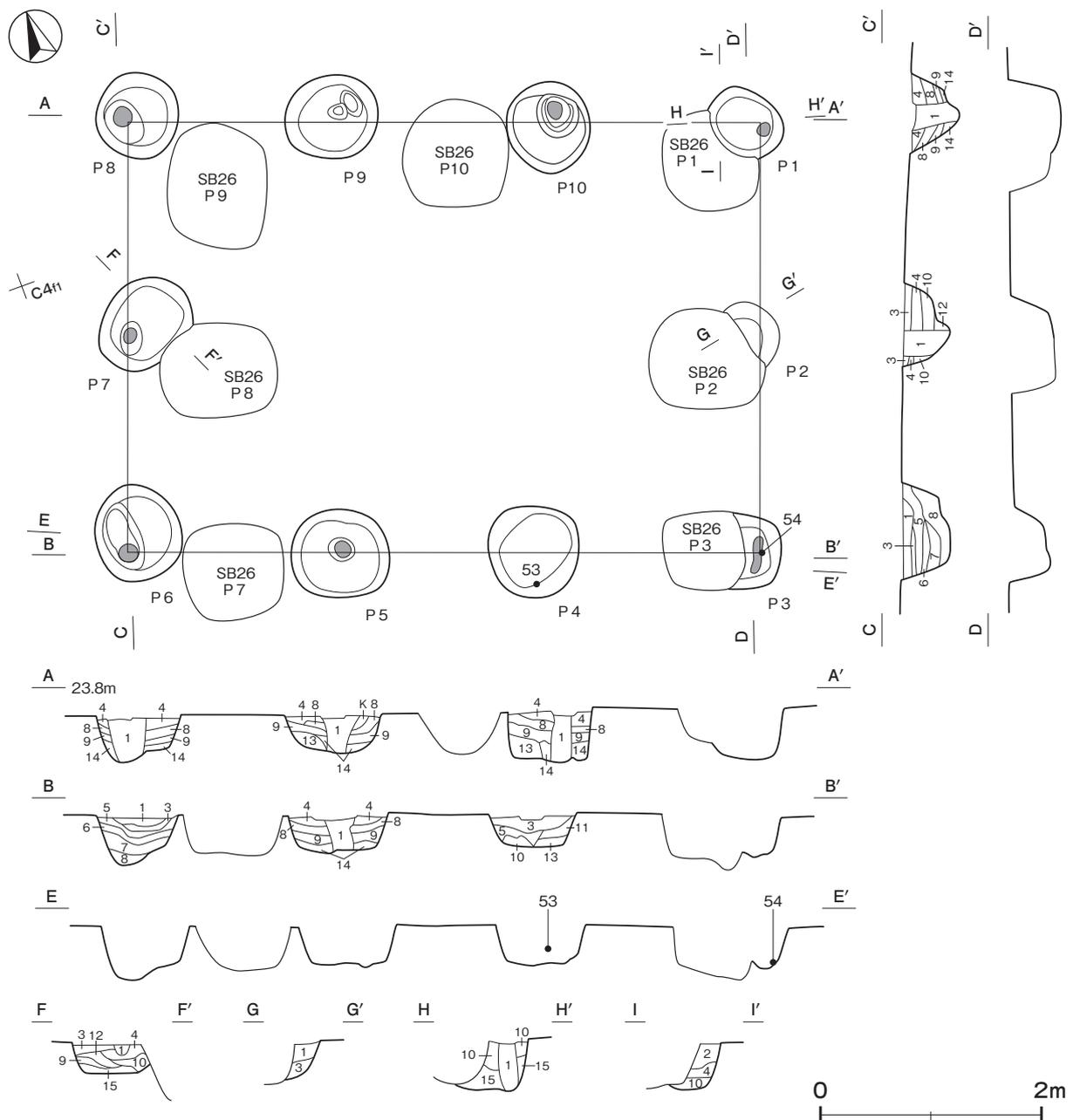
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
52	灰釉陶器	長頸瓶	-	(4.9)	-	長石・石英	黄褐	普通	外・内面ナデ後、灰釉薬刷毛塗り	P 4 覆土中	5%

第 27 号掘立柱建物跡 (第 34・35 図 PL11)

位置 調査区中央部の C 4 fl 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 26 号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と構造 桁行 3 間、梁行 2 間の側柱建物跡で、桁行方向が N - 70° - W の東西棟である。規模は、桁行 5.7 m、梁行 3.9 m で、面積は 22.23m² である。柱間寸法は、桁行が北妻から 2.1 m (7 尺)、1.8 m (6 尺)、1.8



第 34 図 第 27 号掘立柱建物跡実測図

m（6尺），梁行が2.1 m（7尺），1.8 m（6尺）で，柱筋は揃っている。P 1，P 3，P 5～P 8，P10の底面で，柱のあたりを確認した。

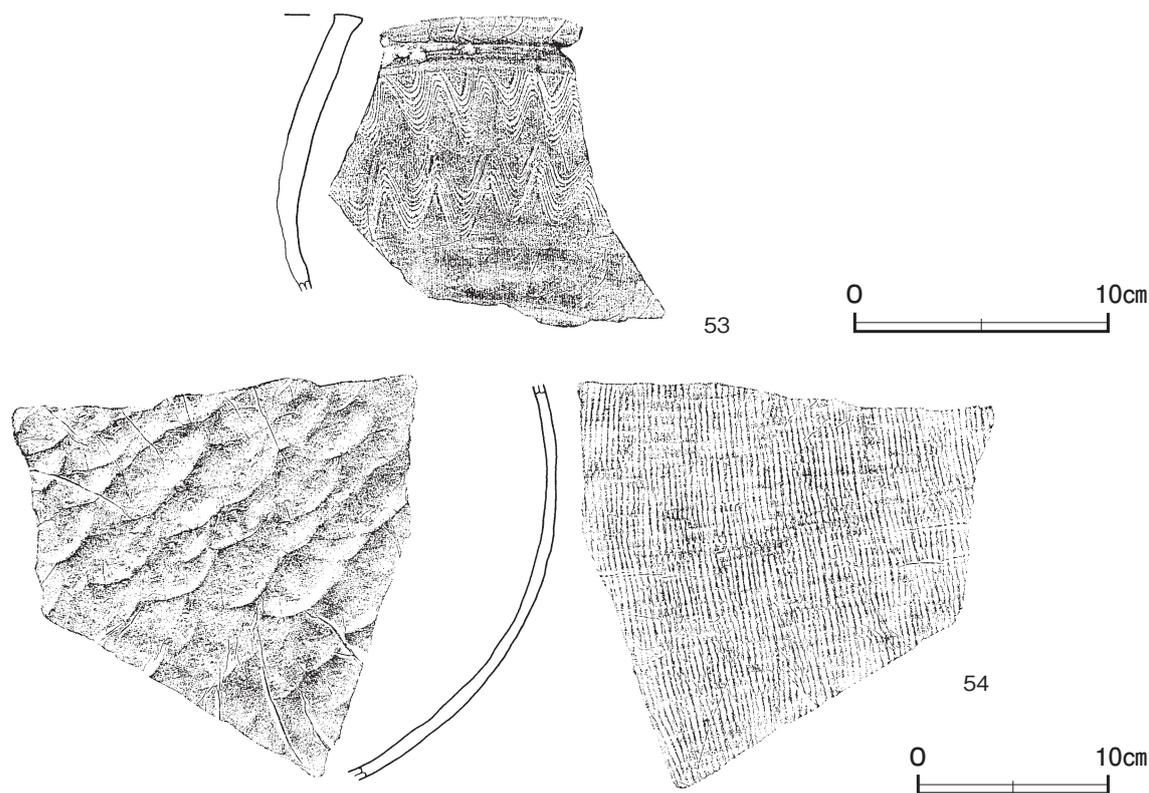
柱穴 10か所。平面形は円形又は楕円形で，長径70～94cm，短径60～80cmである。深さ36～50cmで，掘方の断面は逆台形又はU字形である。第1層は柱痕，第2～15層が埋土である。

土層解説（各ピット共通）

- | | | | |
|--------|--------------------|--------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 9 黄褐色 | 粘土ブロック多量 |
| 2 黒色 | ロームブロック中量 | 10 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子多量 | 11 灰褐色 | ロームブロック多量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量 | 12 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 5 黒褐色 | 粘土ブロック微量 | 13 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 6 極暗褐色 | 粘土ブロック・粘土粒子少量 | 14 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 7 黒褐色 | 粘土ブロック中量，ローム粒子少量 | 15 黒褐色 | ロームブロック多量 |
| 8 黒褐色 | 粘土ブロック中量，ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片15点（坏1，高台付坏1，甕類13），須恵器片14点（蓋1，甕類13）が出土している。54はP 3，53はP 4の覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第35図 第27号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第27号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第35図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
53	須恵器	甕	-	(11.0)	-	長石・石英	灰黄	普通	頸部外面歯状工具による2条の波状文	覆土下層	5% PL17
54	須恵器	甕	-	(21.2)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部外面縦位の平行叩き 内面当て具痕	覆土下層	10% 新治窯

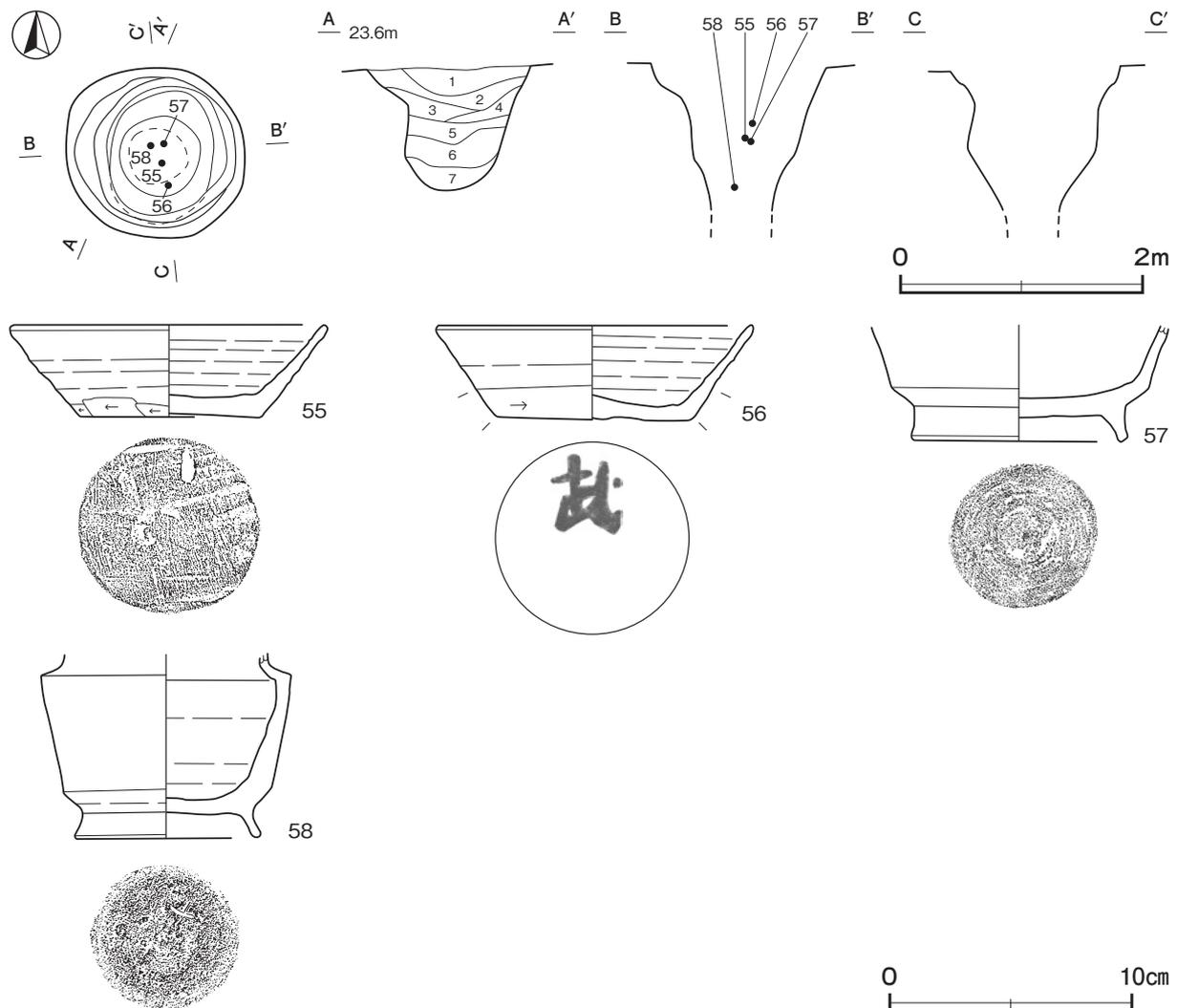
表3 奈良時代掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数	規模	面積	柱間寸法		柱 穴			主な出土遺物	時 期	備 考	
						桁間(m)	梁間(m)	構造	柱穴数	平面形				深さ(cm)
17	D 2d5	N-31°-E	3×2	5.1×3.6	18.36	1.5~1.8	1.8	側柱	10	楕円形・隅丸方形	18~45	土師器, 須恵器	8世紀代	
18	D 3c1	N-76°-W	3×2	6.0×4.2	25.20	1.8~2.1	2.1	側柱	20	円形・楕円形	6~35	土師器, 須恵器	8世紀後葉	
20	D 2c9	N-70°-W	3×1	5.4×3.3	17.82	1.8	3.3	側柱	7	円形・楕円形	13~22		8世紀代	本跡→SD18
21	D 2b5	N-34°-E	2×2	4.5×4.2	18.90	2.1~2.4	2.1	側柱	8	楕円形	15~30	土師器	8世紀代	本跡→SD18
22	D 2i5	N-19°-E	2×2	4.2×3.9	16.38	2.1	1.8~2.1	側柱	8	楕円形・隅丸長方形	8~33		8世紀代	
23	E 2b4	N-17°-E	2×2	3.6×3.6	12.96	1.8	1.8	側柱	8	円形・楕円形	11~28	土師器, 須恵器	8世紀後葉	本跡→SI 67
24	D 2j2	N-20°-E	3×2	5.4×3.3	17.82	1.8	1.5~1.8	側柱	10	不整楕円形・方形	4~40		8世紀代	
25	C 3h0	-	2×2	3.6×(3.3)	-	1.8	1.5~1.8	側柱	5	隅丸方形・不整楕円形	42~70	土師器, 須恵器	8世紀後葉	本跡→SI 81, SD 4
27	C 4f1	N-70°-W	3×2	5.7×3.9	22.23	1.8~2.1	1.8~2.1	側柱	10	円形・楕円形	36~50	土師器, 須恵器	8世紀後葉	本跡→SB26

(3) 井戸跡

第1号井戸跡 (第36図 PL11)

位置 調査区南部のE 2 d3区, 標高23mほどの大地平坦部に位置している。



第36図 第1号井戸跡・出土遺物実測図

規模と形状 長径 1.56 m, 短径 1.45 m の円形である。確認面から深さ 100cm までは漏斗状に掘り込まれ、それより下部は、径 50cm の円筒状に掘り込まれている。確認面から深さ 122cm ほど掘り下げた時点で、崩落のおそれがあることから、下部の調査を断念した。

覆土 7層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量	5	暗褐色	ロームブロック中量
2	暗褐色	ローム粒子中量	6	褐色	ロームブロック中量, 粘土ブロック少量
3	灰褐色	ロームブロック少量	7	暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量
4	黒色	ロームブロック中量			

遺物出土状況 土師器片 6 点 (甕類), 須恵器片 6 点 (坏 2, 高台付坏 1, 短頸壺 1, 甕類 2) が出土している。58 は中央部の覆土下層, 55 ~ 57 は中央部の覆土中層から出土している。これらの遺物は、埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から 8 世紀後葉に比定できる。

第 1 号井戸跡出土遺物観察表 (第 36 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
55	須恵器	坏	13.0	3.8	7.5	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す一定方向の手持ちヘラ削り	覆土中層	90% PL12 新治窯
56	須恵器	坏	13.0	4.0	8.0	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す不定方向の手持ちヘラ削り 底部外面墨書「武」	覆土中層	70% PL13 新治窯
57	須恵器	高台付坏	-	(4.8)	8.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	底部回転ヘラ切り	覆土中層	40% 新治窯
58	須恵器	短頸壺	-	(7.7)	7.5	長石・石英	灰	普通	体部外・内面ナデ 底部ヘラ記号「メ」	覆土下層	90% PL13

2 平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、堅穴建物跡 17 棟、掘立建物跡 6 棟、土坑 5 基、溝跡 6 条を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 堅穴建物跡

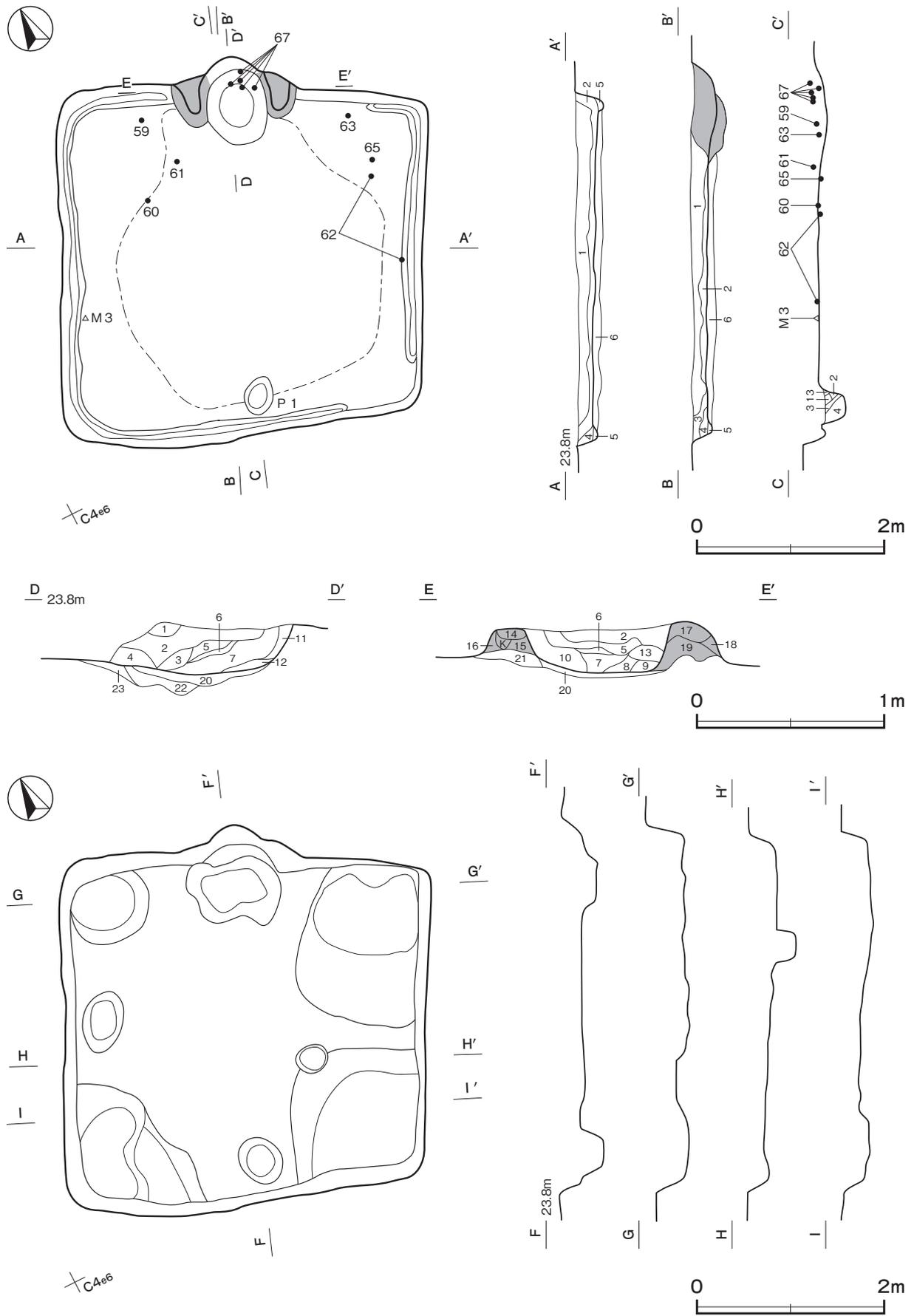
第 58 号堅穴建物跡 (第 37・38 図 PL 5・6)

位置 調査区東部の C 4 d6 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

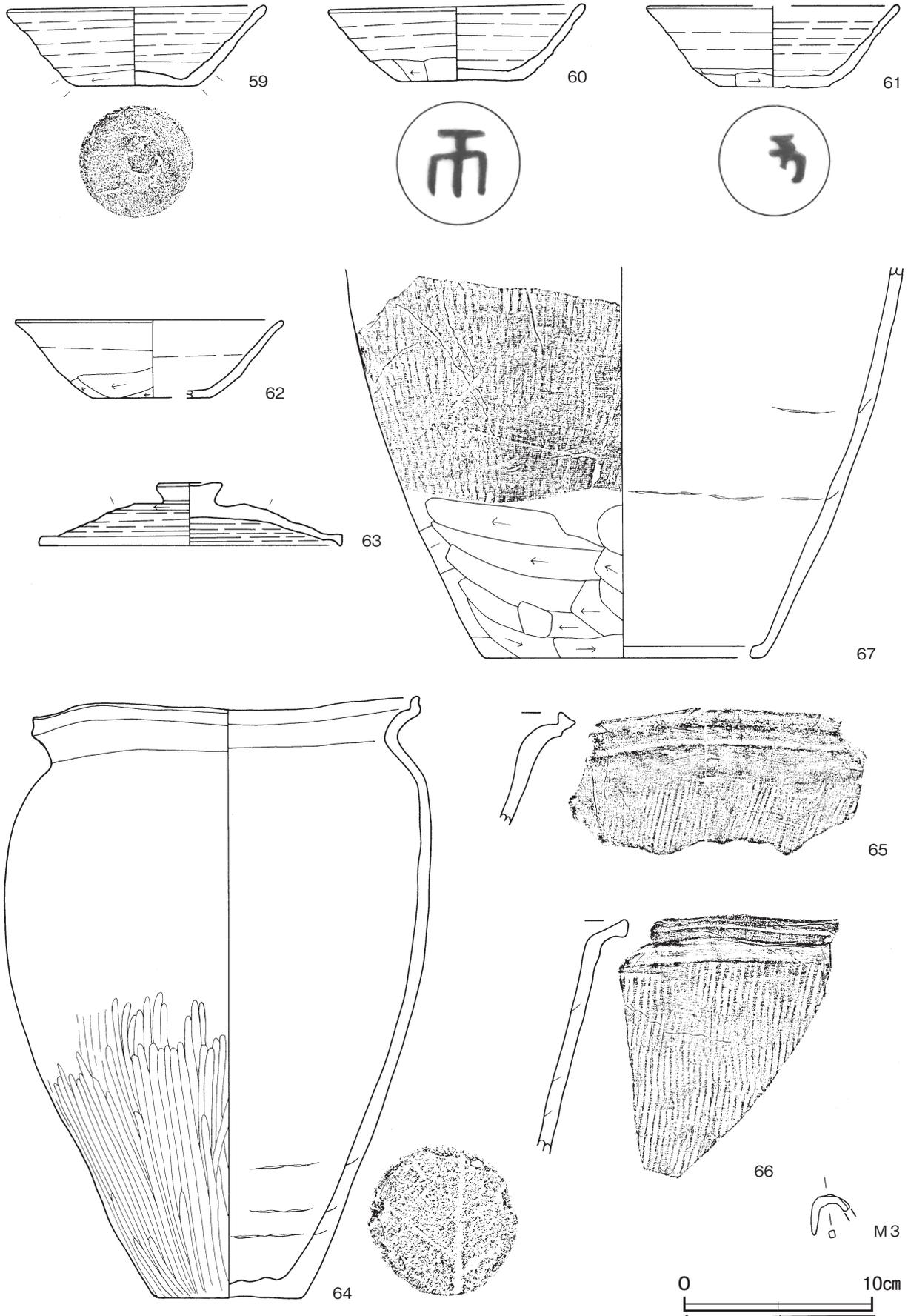
規模と形状 一辺 3.90 m ほどの方形で、主軸方向は N - 25° - E である。壁は高さ 18 ~ 24cm で、外傾している。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。壁溝が南コーナーと北東壁の一部を除いて巡っている。貼床は、各コーナー部を掘り下げ、第 6 層を埋土して構築されている。

竈 北東壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 97cm で、燃焼部幅は 65cm である。左袖部は第 21 層の上に、右袖部は地山の上にロームブロックや粘土粒子を含む第 14 ~ 19 層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に 11cm 掘りくぼめ、焼土粒子や粘土粒子を含む第 20・22・23 層を埋土している。火床面は第 20 層上面で、赤変していない。煙道部は壁外に 35cm 掘り込まれ、火床部から外傾している。



第37図 第58号竪穴建物跡実測図



第 38 图 第 58 号竖穴建物迹出土遗物实测图

竈土層解説

- 1 灰 褐色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 3 黒 褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子微量
- 4 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 5 暗 赤褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子少量
- 6 黒 褐色 焼土粒子少量
- 7 暗 赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子微量
- 8 暗 褐色 ローム粒子少量, 炭化物・ローム粒子微量
- 9 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 10 黒 褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 11 暗 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量
- 12 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 13 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 14 黒 褐色 粘土粒子中量, ロームブロック少量
- 15 暗 褐色 ロームブロック微量
- 16 黒 褐色 粘土粒子少量, ロームブロック微量
- 17 にぶい褐色 粘土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化材微量
- 18 黒 褐色 ローム粒子少量
- 19 黒 褐色 ローム粒子中量
- 20 にぶい褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量
- 21 暗 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 22 黒 褐色 炭化粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
- 23 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量

ピット P 1 は深さ 22cm で, 南西壁中央部に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子少量
- 2 黒 褐色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック少量

覆土 5 層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから, 埋め戻されている。第 6 層は貼床の構築土である。

土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック中量
- 2 黒 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック少量
- 4 黒 褐色 ローム粒子中量
- 5 暗 褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量
- 6 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片 122 点 (坏 13, 高台付坏 1, 甕類 108), 須恵器片 177 点 (坏 90, 高台付坏 1, 蓋 5, 高盤 1, 甕類 65, 甌 15), 土製品 1 点 (不明), 金属製品 2 点 (不明), 瓦 1 点 (平瓦) が出土している。67 は竈内から出土している。59 ~ 61 は北コーナー部, 63・65 は東コーナー部, 62 は南東壁付近, M 3 は北西壁付近の床面からそれぞれ出土している。これらの遺物は, 埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から 9 世紀中葉に比定できる。

第 58 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 38 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
59	須恵器	坏	13.9	4.3	6.5	長石・石英・雲母	にぶい橙色	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す一方向の手持ちヘラ削り	床面	95% PL15 新治窯
60	須恵器	坏	13.4	4.1	6.5	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部不定方向の手持ちヘラ削り 底部外面墨書「天 _カ 」	床面	100% PL15 新治窯
61	須恵器	坏	[13.4]	4.4	[5.7]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部不定方向のヘラ削り 底部外面墨書「天 _カ 」	床面	30% 新治窯
62	須恵器	坏	14.1	4.2	[6.3]	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部不定方向の手持ちヘラ削り	床面	50% PL15 新治窯
63	須恵器	蓋	[16.2]	3.3	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	70% PL15 新治窯
64	土師器	甕	20.6	32.3	7.7	長石・石英・雲母	暗褐色	普通	体部下半ヘラ磨き 輪積痕 底部木葉痕	覆土中	70% PL16
65	須恵器	甕	-	(6.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	体部外面斜位の平行叩き	床面	5%
66	須恵器	甕	-	(12.7)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部外面縦位の平行叩き 輪積痕	覆土中	5%
67	須恵器	甌	-	(21.0)	[14.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙色	普通	体部外面縦位の平行叩き 下位ヘラ削り 輪積痕	竈内	20% 新治窯

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 3	不明	(2.2)	2.0	0.4	(1.6)	鉄	尖った先端を曲げたコ字形 基部欠損	床面	PL18

第 60 号竪穴建物跡 (第 39・40 図)

位置 調査区中央部の D 3 c3 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 一辺 2.66 m ほどの方形で, 主軸方向は N - 33° - E である。壁は高さ 18 ~ 21cm で, ほぼ直立し

ている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。床は地山をそのまま利用している。

竈 北東壁に付設されている。規模は焚き口から煙道部まで88cmで、燃焼部幅は42cmである。袖部は第11・12層の上に粘土ブロックを含んだ第10層を積み上げて構築している。火床部は楕円形に17cm掘りくぼめ、ロームブロックや焼土ブロックを含む第11～14層を埋土している。火床面は第11・13・14層上面で火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に52cm掘り込まれ、火床部から外傾している。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|--------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | 粘土ブロック中量 |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック多量, 炭化物少量 | 11 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 12 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック微量 |
| 6 黒褐色 | 粘土ブロック多量, 焼土ブロック中量 | 13 黒褐色 | 焼土ブロック多量, 炭化粒子少量 |
| 7 黒色 | 粘土ブロック多量, 炭化粒子微量 | 14 褐色 | ロームブロック多量 |

ピット P1は深さ12cmで、南西壁中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

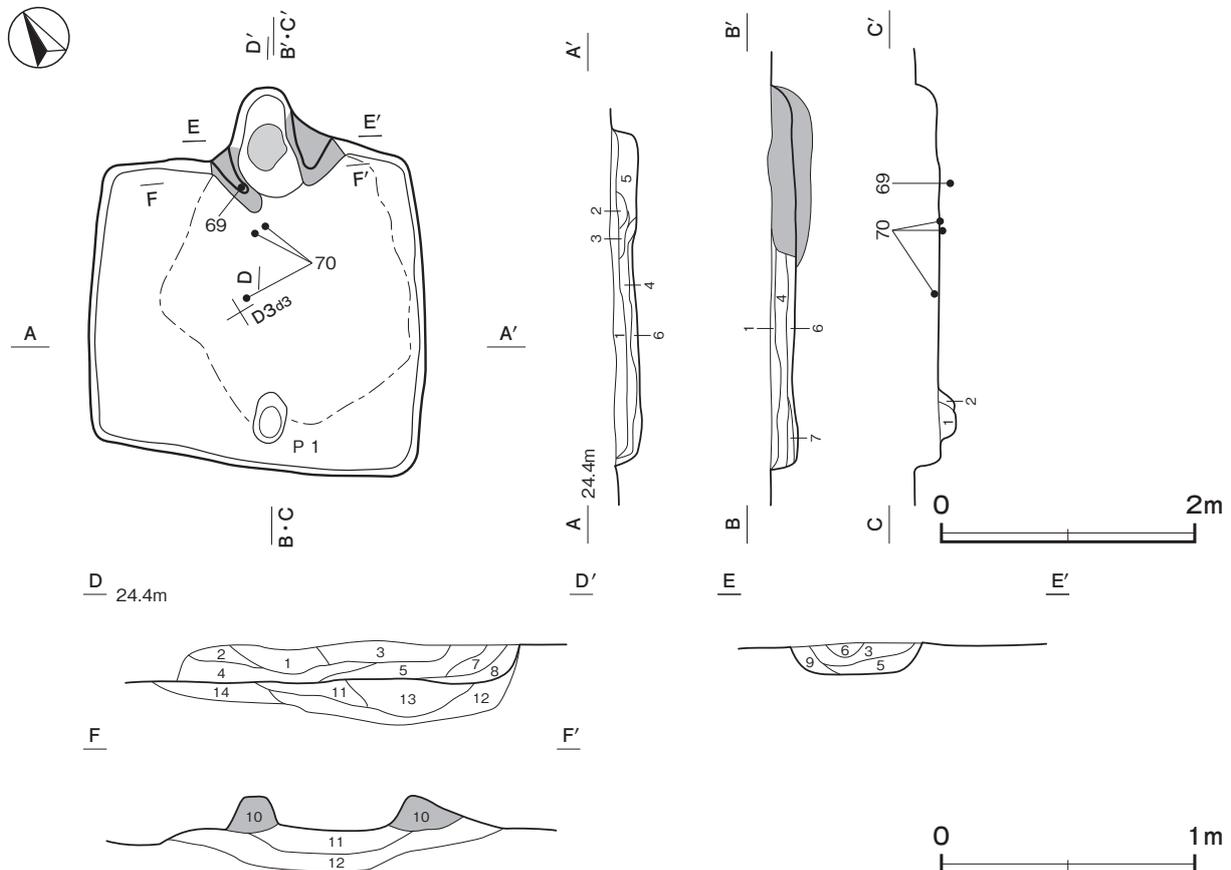
ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 2 黒褐色 | ロームブロック多量 |
|-------|-----------|-------|-----------|

覆土 7層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

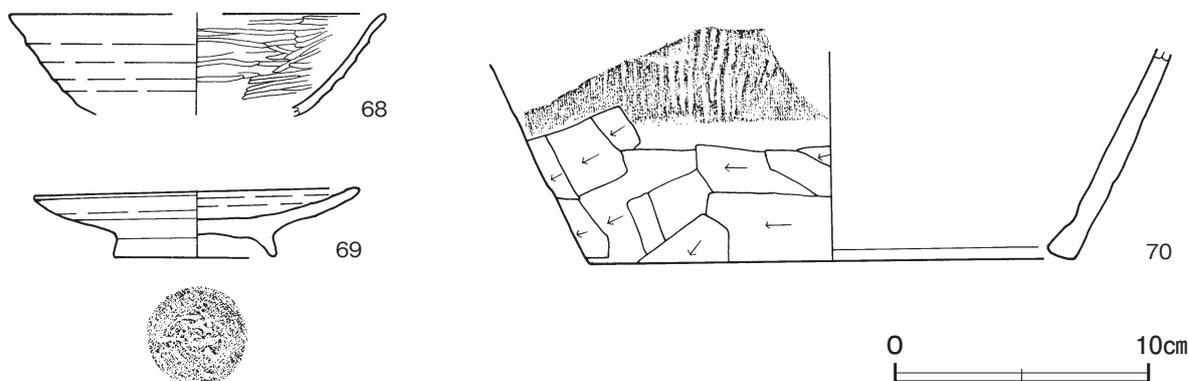
- | | | | |
|-------|-----------|--------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック多量 | 6 極暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック多量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子多量 | | |



第39図 第60号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片 23 点（坏 4，高台付坏 1，甕類 18），須恵器片 52 点（坏 21，皿 1，甕類 29，甗 1）が出土している。69 は竈の左袖部内，70 は竈の前方部の床面からそれぞれ出土している。68 は覆土中から出土している。これらの遺物は，埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から 9 世紀後葉に比定できる。



第 40 図 第 60 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 60 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 40 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
68	土師器	坏	[14.9]	(4.1)	-	長石・石英・赤色粒子	赤褐	普通	体部内面ヘラ磨き 黒色処理	覆土中	20%
69	須恵器	皿	12.6	2.8	6.1	長石・石英・雲母・黒色粒子	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り	竈左袖部内	60% PL15 新治窯
70	須恵器	甗	-	(8.4)	[19.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	体部外面縦位の平行叩き 下位ヘラ削り 単孔式	床面	10% 新治窯

第 62 号竪穴建物跡（第 41・42 図 PL 6）

位置 調査区中央部の D 2 a9 区，標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 3.24 m，短軸 2.50 m の長方形で，主軸方向は N - 42° - E である。壁高は 14 ~ 20 cm で，外傾している。

床 平坦な貼床で，中央部が踏み固められている。床は，北東壁付近と南西壁付近を土坑状に掘り下げ，第 3 ~ 17 層を埋土して構築されている。

竈 北東壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 98 cm で，燃焼部幅は 66 cm である。袖部は第 7・8 層を積み上げ，その内側に平瓦を据えて構築されている。火床部は楕円形に 10 cm 掘りくぼめ，焼土ブロックを含む第 10・11 層を埋土している。火床面は地山と第 10 層上面で，赤変していない。煙道部は壁外に 54 cm 掘り込まれ，火床部から外傾している。

竈土層解説

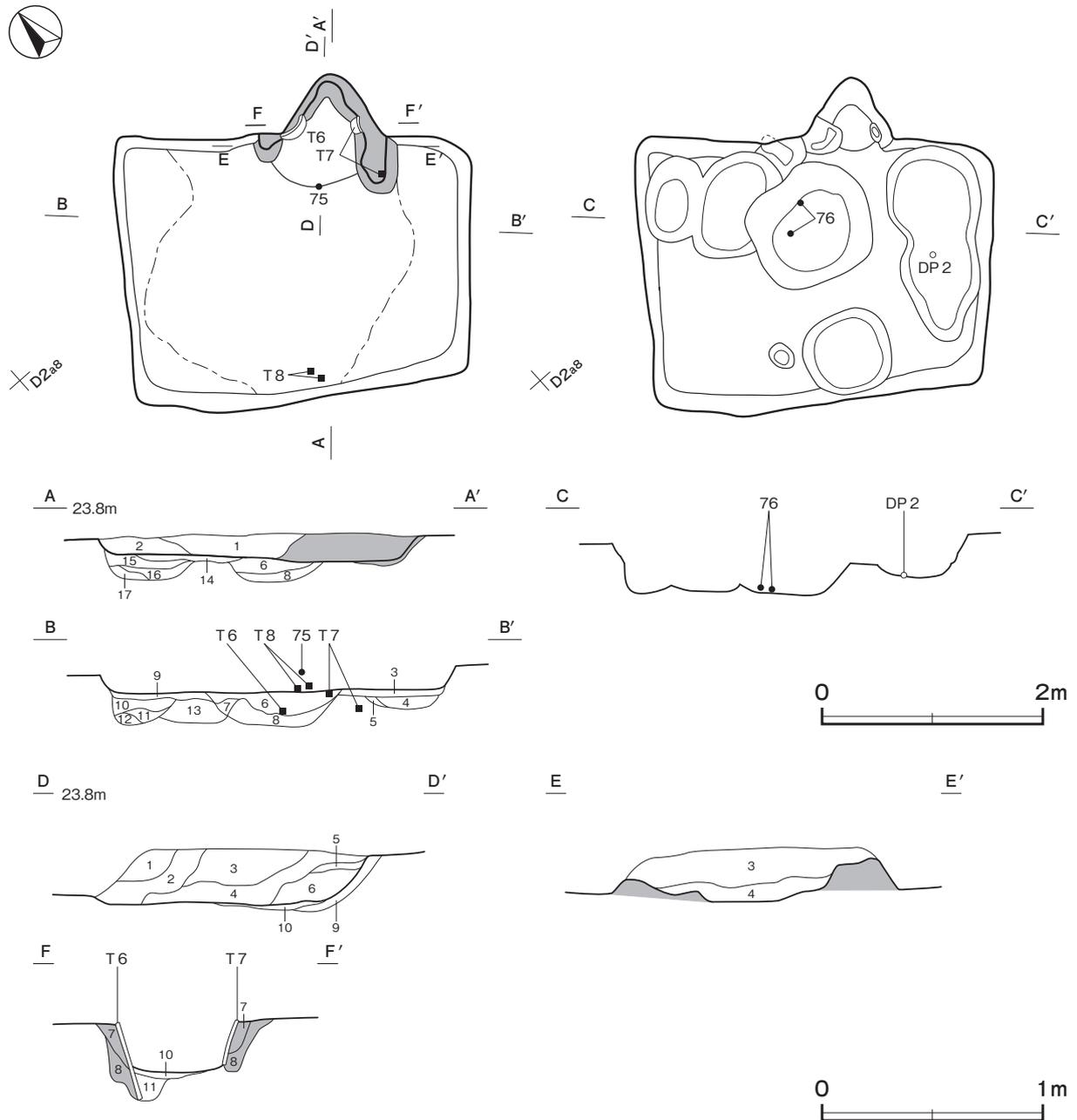
1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	7 黒褐色	焼土ブロック微量
2 黒褐色	ロームブロック少量	8 暗褐色	ロームブロック多量，焼土ブロック微量
3 黒褐色	ローム粒子少量	9 暗褐色	ロームブロック多量，焼土ブロック少量
4 黒褐色	粘土ブロック多量，ロームブロック・炭化粒子少量	10 黒褐色	焼土ブロック中量，炭化粒子少量
5 黒褐色	焼土ブロック多量，炭化粒子微量	11 にぶい黄褐色	焼土ブロック微量
6 黒褐色	焼土ブロック中量，炭化粒子微量		

覆土 2 層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから，埋め戻されている。第 3 ~ 17 層は貼床の構築土である。

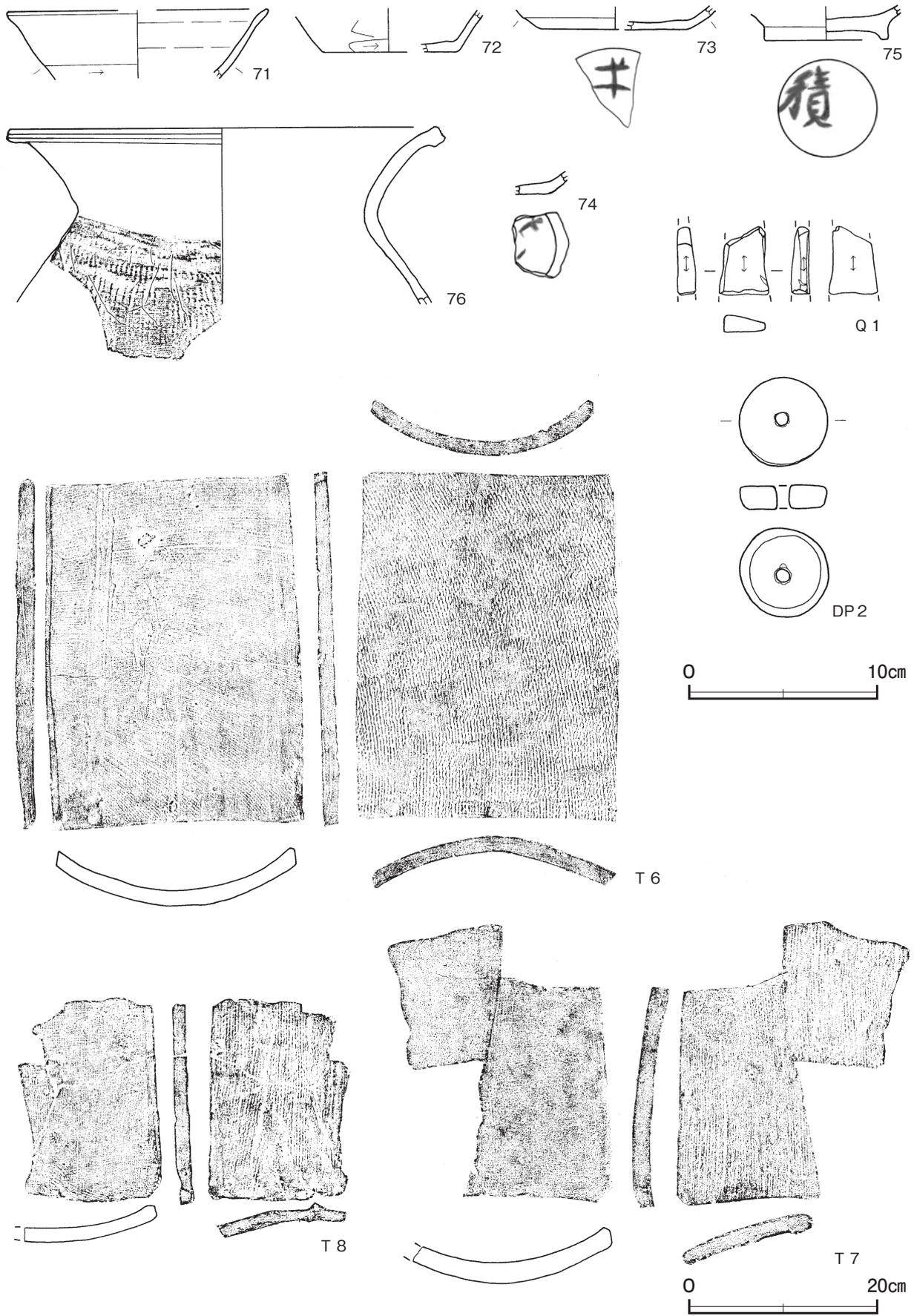
土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------|--------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 9 黒褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 | 10 褐色 | ローム粒子多量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック多量, 焼土ブロック微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック中量, 粘土ブロック少量 | 12 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック微量 | 13 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量 | 14 黒褐色 | ロームブロック極めて多量 |
| 7 褐色 | ロームブロック多量 | 15 黒褐色 | ローム粒子中量 |
| 8 黒褐色 | 粘土ブロック多量 | 16 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| | | 17 黒褐色 | 粘土ブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片 88 点 (坏 14, 高台付坏 2, 甕類 72), 須恵器片 72 点 (坏 20, 甕類 52), 土製品 1 点 (紡錘車), 石器 1 点 (砥石), 瓦 4 点 (平瓦) が出土している。T 8 は南西壁の床面から出土している。T 6・T 7 は竈袖部の補強材として縦位に据えられた状態で出土している。T 7 は竈右袖部の貼床の構築土から出土した破片と接合している。75 は竈内から出土している。71~74 は覆土中からそれぞれ出土しており, 埋め戻し



第 41 図 第 62 号竪穴建物跡実測図



第 42 図 第 62 号 竪穴建物跡出土遺物実測図

に伴って投棄されたものと考えられる。また 76 は中央部, DP 2 は南東壁付近の掘方の底面から出土している。
所見 時期は, 出土土器から 9 世紀中葉に比定できる。

第 62 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 42 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
71	須恵器	坏	[13.6]	(3.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り	覆土中	5%
72	須恵器	坏	-	(2.3)	[7.2]	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	覆土中	5%
73	須恵器	坏	-	(1.2)	[7.8]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部手持ちヘラ削り 底部外面墨書「□」	覆土中	5% PL17
74	須恵器	坏	-	(1.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り 底部外面墨書「□」	覆土中	5%
75	土師器	高台付坏	-	(1.8)	6.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	内面ヘラ磨き 黒色処理 底部回転糸切り 底部外面墨書「積」	竈内	20% PL17
76	須恵器	甕	22.8	(9.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面擬格子叩き	貼床構築土	20% PL16 新治窯

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 2	紡錘車	4.7	1.3	0.7	33.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	削り後ナデ	貼床構築土	PL18

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	砥石	(3.7)	(2.7)	1.0	(11.3)	凝灰岩	砥面 4 面	覆土中	PL18

番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
T 6	瓦	平瓦	25.7	6.3	37.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐	普通	凸面縄叩き 凹面模骨痕 糸切り痕 側縁部削り 側面削り	左袖部	PL19
T 7	瓦	平瓦	(21.4)	4.8	(29.8)	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	凸面縄叩き 凸面弱い模骨痕 側面削り 広端の削り 隅部切り落とし	右袖部	PL20
T 8	瓦	平瓦	(14.5)	3.9	(21.6)	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	凸面縄叩き 凹面模骨痕 布目痕	床面	PL20

第 66 号 竪穴建物跡 (第 43・44 図 PL 7)

位置 調査区中央部の D 3i3 区, 標高 25 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 一辺 3.15 m ほどの方形で, 主軸方向は N - 24° - E である。壁は高さ 5 ~ 10 cm で, 外傾している。

床 平坦な貼床で, 竈の前方から中央部にかけて踏み固められている。床は地山を掘り下げ, ロームブロックを含む第 3 層を埋土して構築されている。壁溝が全周している。

竈 北東壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 76 cm で, 燃烧部幅は 54 cm である。両袖部は遺存していない。火床部は楕円形に床面から 6 cm 掘りくぼめ, ロームブロックや焼土ブロックを含む第 6・7 層を埋土している。火床面は第 6・7 層上面で, 赤変していない。煙道部は壁外に 38 cm 掘り込まれ, 火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------|---------|-----------|
| 1 黒 褐 色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量 | 5 暗 褐 色 | ロームブロック多量 |
| 2 暗 褐 色 | 炭化粒子少量 | 6 黒 褐 色 | 焼土ブロック少量 |
| 3 赤 褐 色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化物少量 | 7 黒 色 | ロームブロック中量 |
| 4 黒 褐 色 | ロームブロック少量 | | |

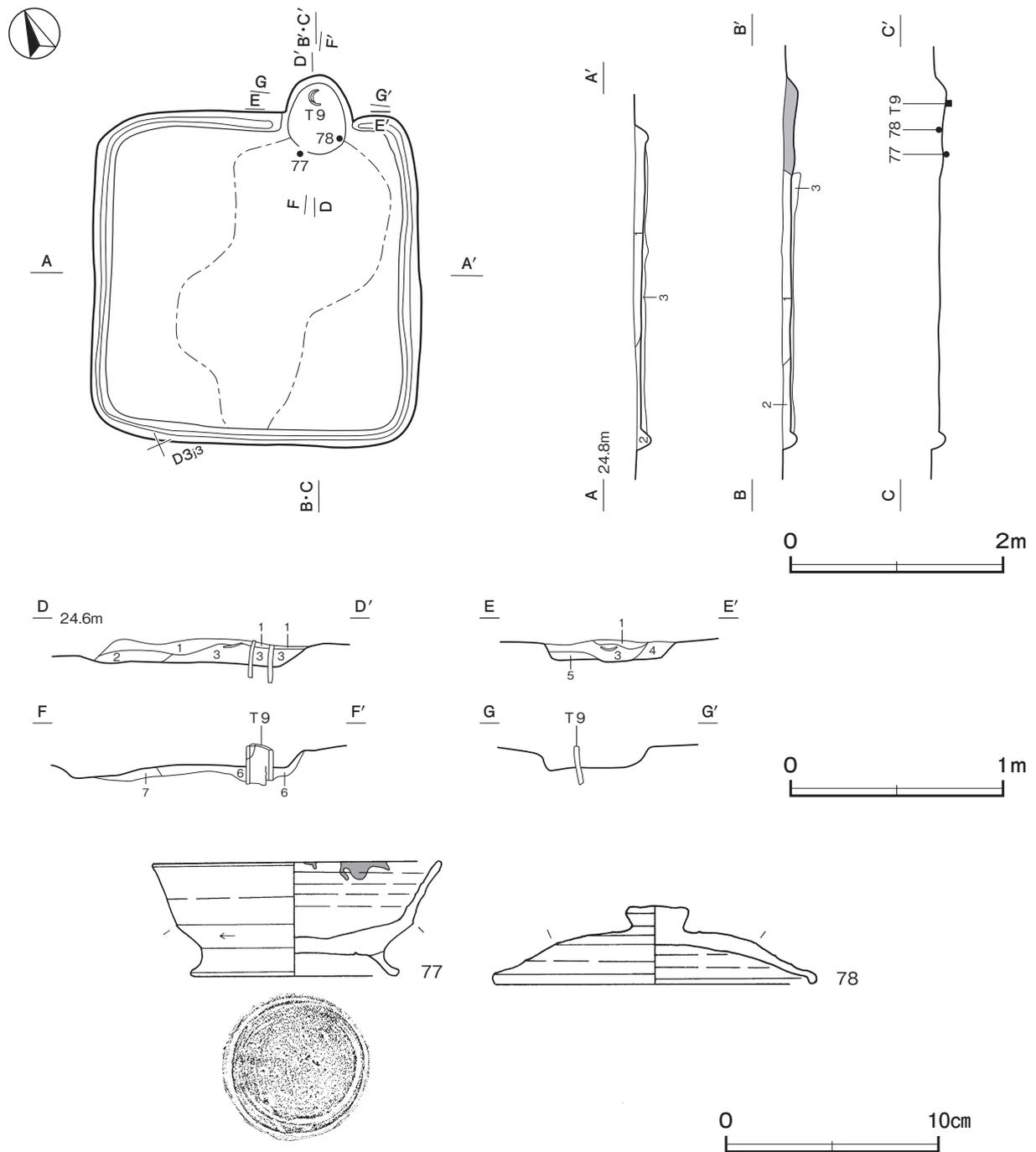
覆土 2 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。第 3 層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------|-------|-----------|
| 1 黒 褐 色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量 | 3 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒 褐 色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片 8 点 (甕類), 須恵器片 8 点 (坏 2, 高台付坏 1, 蓋 1, 甕 4 類), 瓦 1 点 (丸瓦) が出土している。77 は竈前の床面から逆位の状態で出土している。T 9 は火床部奥に縦位に埋められた状態で出土しており, 支脚として使用されたと考える。78 は竈内から正位の状態で出土している。竈内遺物を除いて, 埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から 9 世紀前葉に比定できる。



第 43 図 第 66 号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第 44 図 第 66 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 66 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 43・44 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
77	須恵器	高台付坏	13.5	5.5	9.4	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り 油煙	床面	90% PL15 新治窯
78	須恵器	蓋	15.2	3.7	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	不良	天井部回転ヘラ削り	竈内	100% PL15 新治窯

番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
T 9	瓦	丸瓦	(12.9)	6.0	(18.5)	長石・石英・雲母	灰黄	普通	凸面縦位の削り 凹面布目痕 糸切り痕	火床面	PL20 支脚転用

第 67 号竪穴建物跡（第 45～47 図 PL 7）

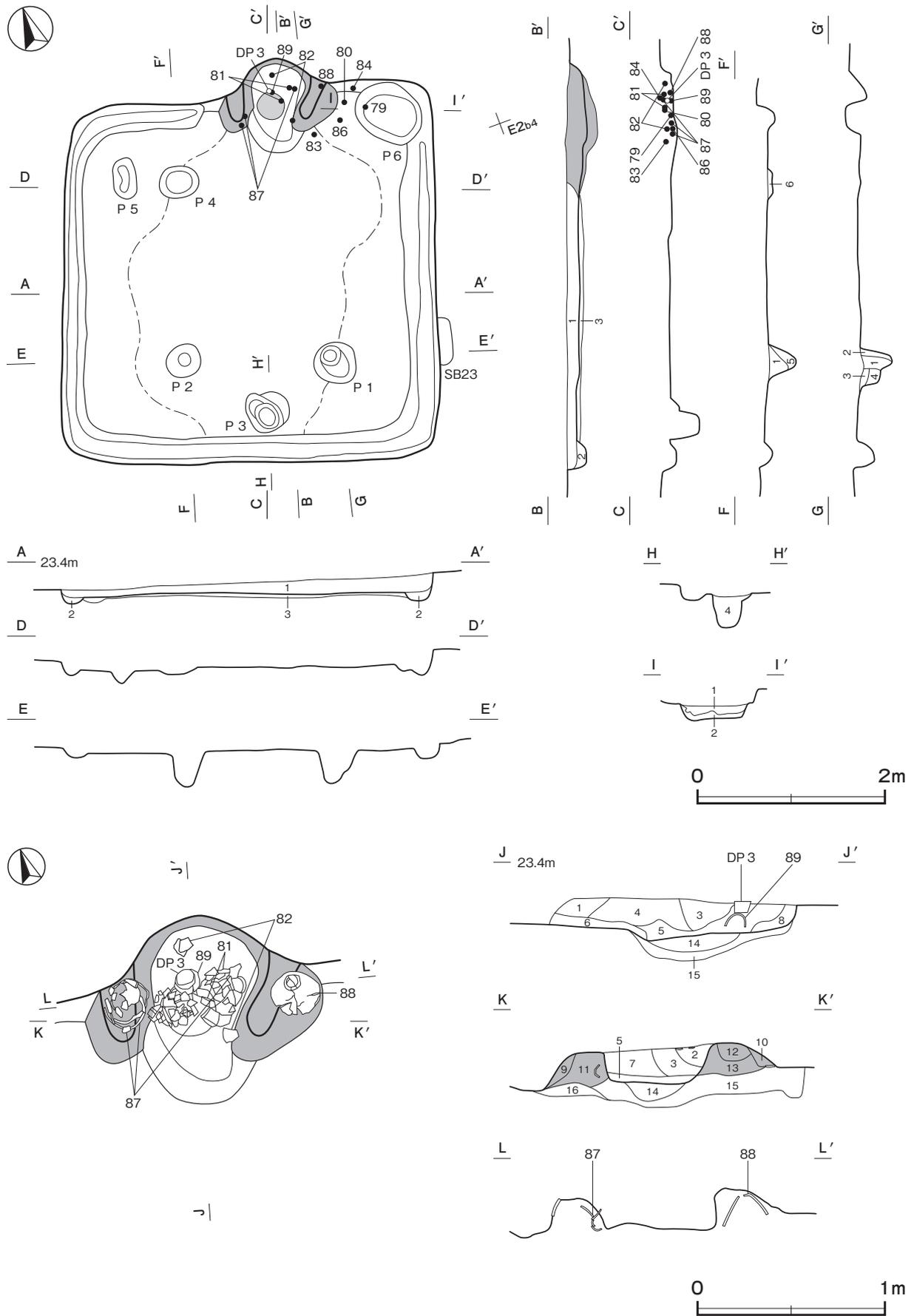
位置 調査区南西部の E 2 b3 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 23 号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

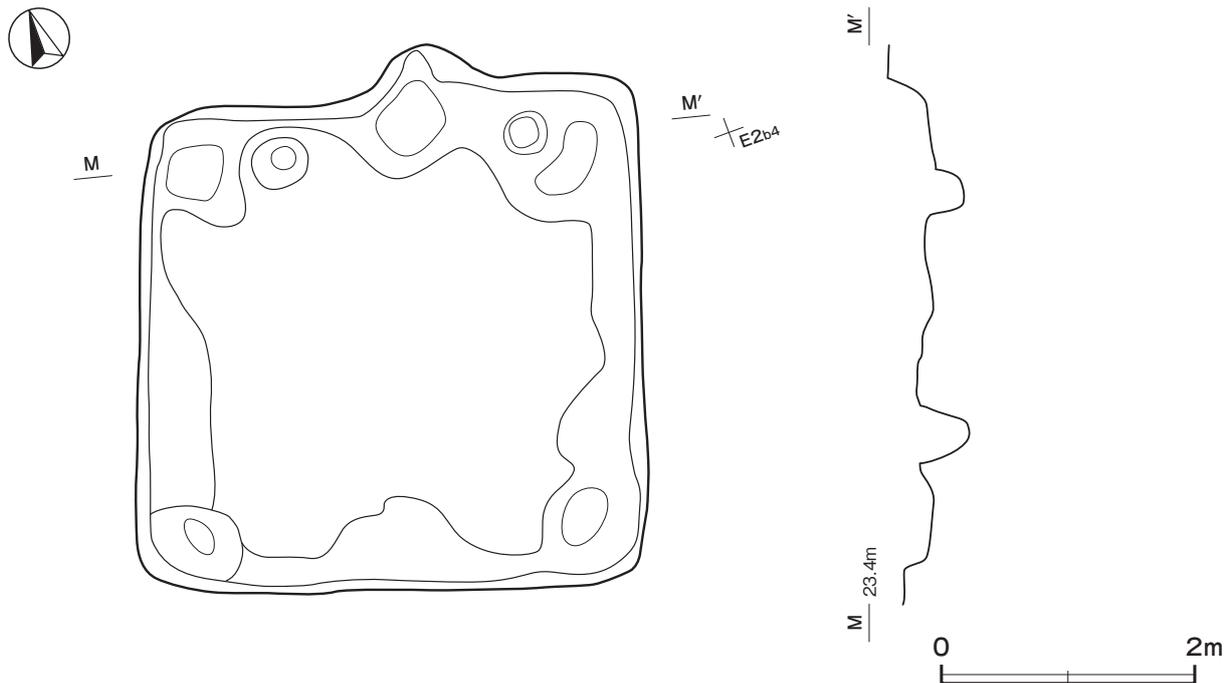
規模と形状 一辺 4.08 m ほどの方形で、主軸方向は N - 21° - E である。壁は高さ 5～18cm で、外傾している。

床 平坦な貼床で、竈の前方から中央部にかけて踏み固められている。床は地山を掘り下げ、ロームブロックを含む第 3 層を埋土して構築されている。壁溝が全周している。

竈 北東壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 102cm で、燃焼部幅は 44cm である。袖部はロームブロックや焼土粒子を含む第 15・16 層の上に、両袖部それぞれに逆位で土師器の甕を据えて補強している。さらに、その周囲に第 9～13 層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に 14cm 掘りくぼめ、ロームブロックや焼土粒子を含む第 14・15 層を埋土している。火床面は第 14 層上面で火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 34cm 掘り込まれ、火床部から外傾している。



第45図 第67号竪穴建物跡実測図(1)



第46図 第67号竪穴建物跡実測図(2)

竈土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------|--------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 9 黒褐色 | 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 灰褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | 炭化粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子少量 |
| 4 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 12 黒褐色 | 粘土ブロック少量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 13 黒褐色 | 粘土ブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量 | 14 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 7 黒褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 15 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 16 褐色 | ロームブロック中量 |

ピット 6か所。P 1・P 2は深さ36cmで、支柱穴である。P 3は深さ32cmで、南西壁中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P 4～P 6は深さ6～18cmと浅く、北コーナー部と東コーナー部に位置しているが、性格は不明である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック微量 | 6 褐色 | ロームブロック中量 |

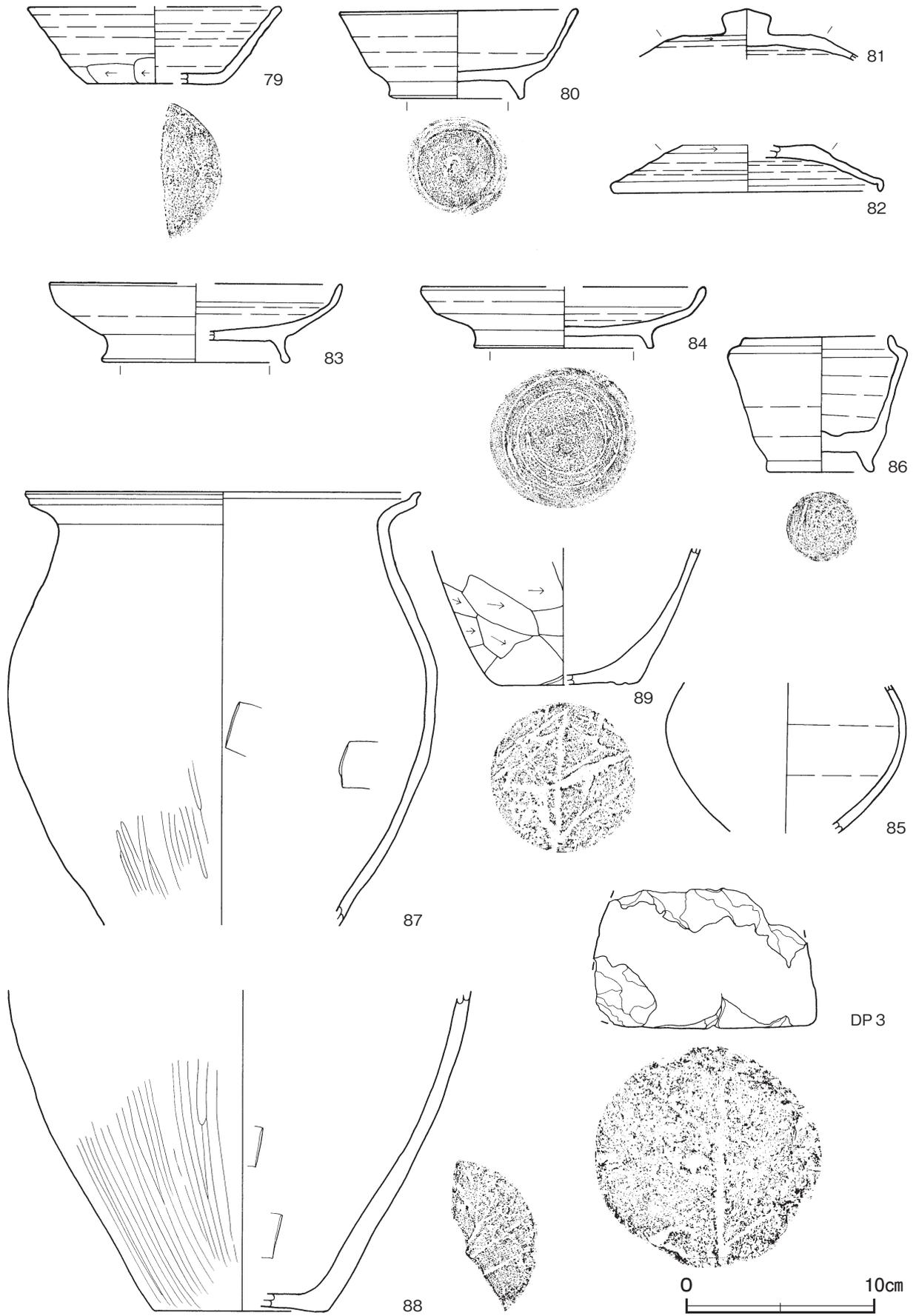
覆土 2層に分層できる。覆土は薄く堆積状況は不明である。第2層は壁溝の覆土, 第3層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片 286点 (坏 8, 甕類 278), 須恵器片 140点 (坏 100, 高台付坏 4, 蓋 11, 盤 2, 長頸瓶 1, 短頸壺 2, 甕類 20), 土製品 1点 (支脚) が出土している。86は東コーナーの床面から横位の状態で出土している。竈内の火床面から 89の甕が逆位の状態で, その上に DP 3が据えられ支脚として利用されている。87・88は竈袖部の補強材として逆位の状態で据えられている。79はP 6の上層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉に比定できる。



第47図 第67号豎穴建物跡出土遺物実測図

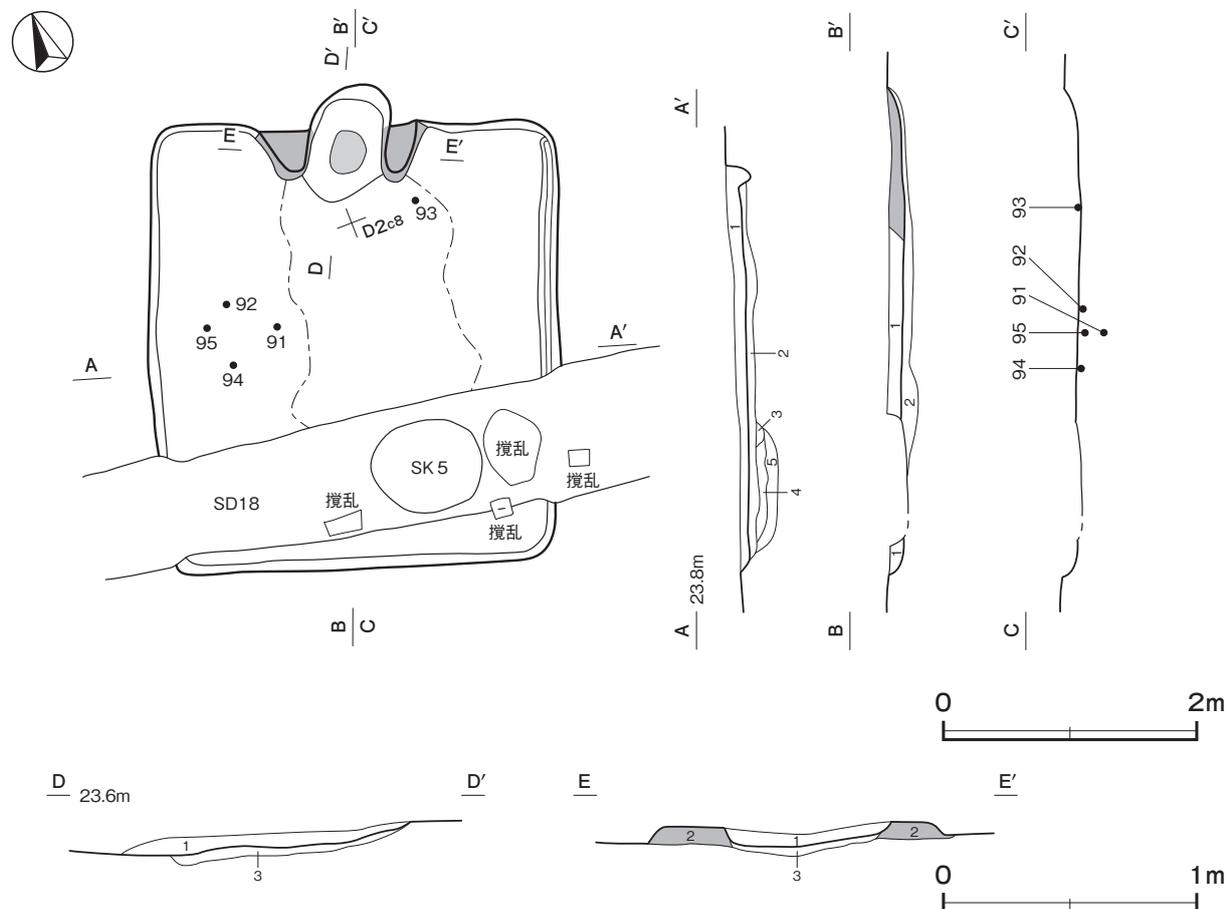
第 67 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 47 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
79	須恵器	坏	[13.2]	4.1	[7.0]	長石・石英	明褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り 後ナデ	P 6 覆土上層	20%
80	須恵器	高台付坏	12.7	4.9	6.7	長石・石英・雲母	灰白	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中層	90% 新治窯 PL15
81	須恵器	蓋	-	(2.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	不良	天井部回転ヘラ削り	竈内	50% 新治窯
82	須恵器	蓋	[14.4]	(2.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り	竈内	50% 新治窯
83	須恵器	盤	15.5	4.2	[9.9]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中層	40% 新治窯
84	須恵器	盤	[15.0]	3.4	9.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	不良	底部回転ヘラ削り	覆土中層	40% 新治窯
85	須恵器	長頸瓶	-	(8.0)	-	長石・石英・黒色粒子	灰白	良好	外面ロクロナデ 肩部自然釉	覆土中	10% PL17
86	須恵器	短頸壺	7.9	7.3	5.6	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部回転糸切り	床面	100% 新治窯 PL16
87	土師器	甕	[21.0]	(23.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部下半ヘラ磨き 内面ヘラ当て痕	竈左袖	20%
88	土師器	甕	-	(17.4)	[9.3]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下半ヘラ磨き 内面ヘラ当て痕 底部木葉痕	竈右袖	20% 新治窯
89	土師器	甕	-	(7.4)	7.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下半ヘラ削り 底部木葉痕	火床面	20% 新治窯

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 3	支脚	(7.6)	10.5	11.9	(865.5)	長石・石英・雲母	にぶい褐	底部木葉痕	火床面	

第 68 号 竪穴建物跡 (第 48・49 図)

位置 調査区中央部の D 2 c8 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。



第 48 図 第 68 号 竪穴建物跡実測図

重複関係 第5号土坑と第18号溝に南側を掘り込まれている。

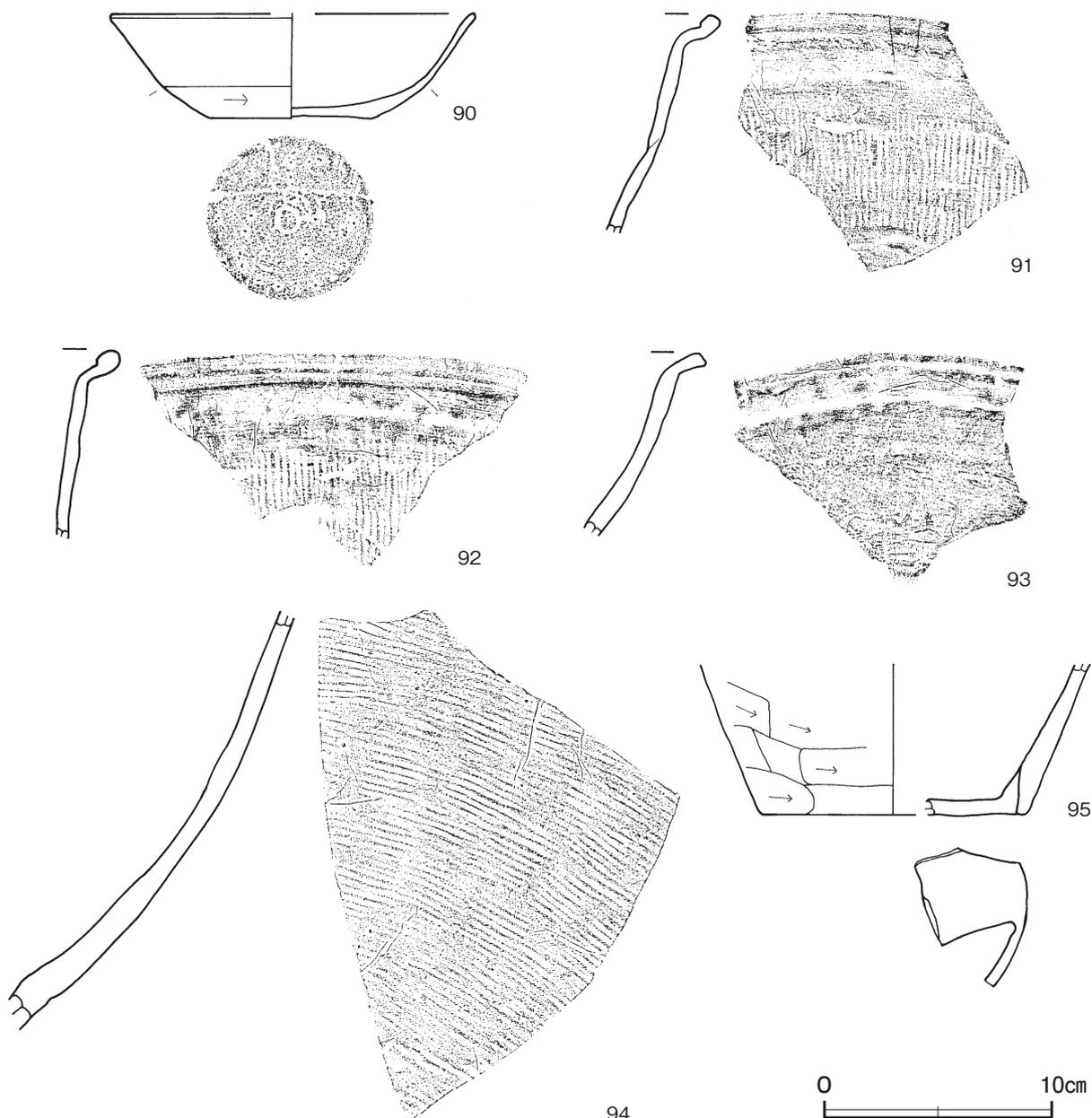
規模と形状 長軸3.60 m，短軸3.25 mの長方形で，主軸方向はN-21°-Eである。壁は高さ8～12cmで，外傾している。

床 平坦な貼床で，竈の前方から中央部にかけて踏み固められている。床は地山を8 cm程掘り込み，粘土ブロック含む第2層を埋土して利用している。壁溝が南東壁に巡っている。

竈 北東壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで88cmで，燃烧部幅は58cmである。両袖部は地山の上に粘土ブロックを含む第2層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に4 cm掘りくぼめ，ロームブロックや焼土ブロックを含む第3層を埋土している。火床面は第3層上面で火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に34cm掘り込まれ，火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック中量，炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量



第49図 第68号竪穴建物跡出土遺物実測図

覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第2～5層は、貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | 粘土ブロック多量 |
| 2 暗褐色 | 黄褐色粘土ブロック多量 | 5 黒褐色 | 粘土ブロック中量 |
| 3 暗褐色 | 粘土ブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片 58 点（坏 12, 椀 1, 甕類 45）、須恵器片 41 点（坏 21, 蓋 1, 鉢 3, 甕類 14, 甌 2）が出土している。91・92・94・95 は西南壁付近、93 は竈右袖部付近の床面から、91 は貼床構築土からそれぞれ出土している。遺物は破片が多く、埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から 9 世紀中葉に比定できる。

第 68 号 竪穴建物跡出土遺物観察表（第 49 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
90	土師器	椀	[16.0]	4.7	7.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面黒色処理 底部回転ヘラ切り 二次焼成 内面摩耗	覆土中	30%
91	須恵器	鉢	-	(9.8)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部外面縦位の平行叩き 輪積痕	貼床構築土	10% 新治窯
92	須恵器	鉢	-	(8.3)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部外面縦位の平行叩き	床面	5% PL17
93	須恵器	鉢	-	(8.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面縦位の平行叩き	床面	5%
94	須恵器	甕	-	(18.6)	-	長石・石英	灰黄褐	普通	体部外面縦位の平行叩き	床面	5%
95	須恵器	甌	-	(6.7)	[11.8]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下位ヘラ削り 底部 5 孔式	床面	10% 新治窯

第 69 号 竪穴建物跡（第 50 図 PL 8）

位置 調査区中央部の D 3g2 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 一辺 3.12 m ほどの方形で、主軸方向は N - 32° - E である。壁は高さ 6～8 cm である。

床 平坦な貼床で、竈の前方から P 1 にかけて踏み固められている。床は地山を掘り下げ、ロームブロックを含む第 1 層を埋土して構築されている。壁溝が全周している。

竈 北東壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 80cm で、燃焼部幅は 40cm である。両袖部は殆ど残っていない。火床部は楕円形に 19cm 掘りくぼめ、ロームブロック・焼土ブロックや炭化粒子を含む第 1・2 層を埋土している。火床面は第 1・2 層上面で火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外に 34cm 掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 2 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 |
|-------|-------------------------|-------|-------------------------|

ピット 3 か所。P 1 は深さ 26cm で、南西壁寄りに位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 2・P 3 は深さ 15・22cm で、東コーナー部と北コーナー部に位置することから補助柱穴と考えられる。

ピット土層解説（各ピット共通）

- | | |
|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 |
|-------|-----------|

覆土 覆土の堆積状況は不明である。第 1 層は壁溝、第 2 層は貼床の構築土である。

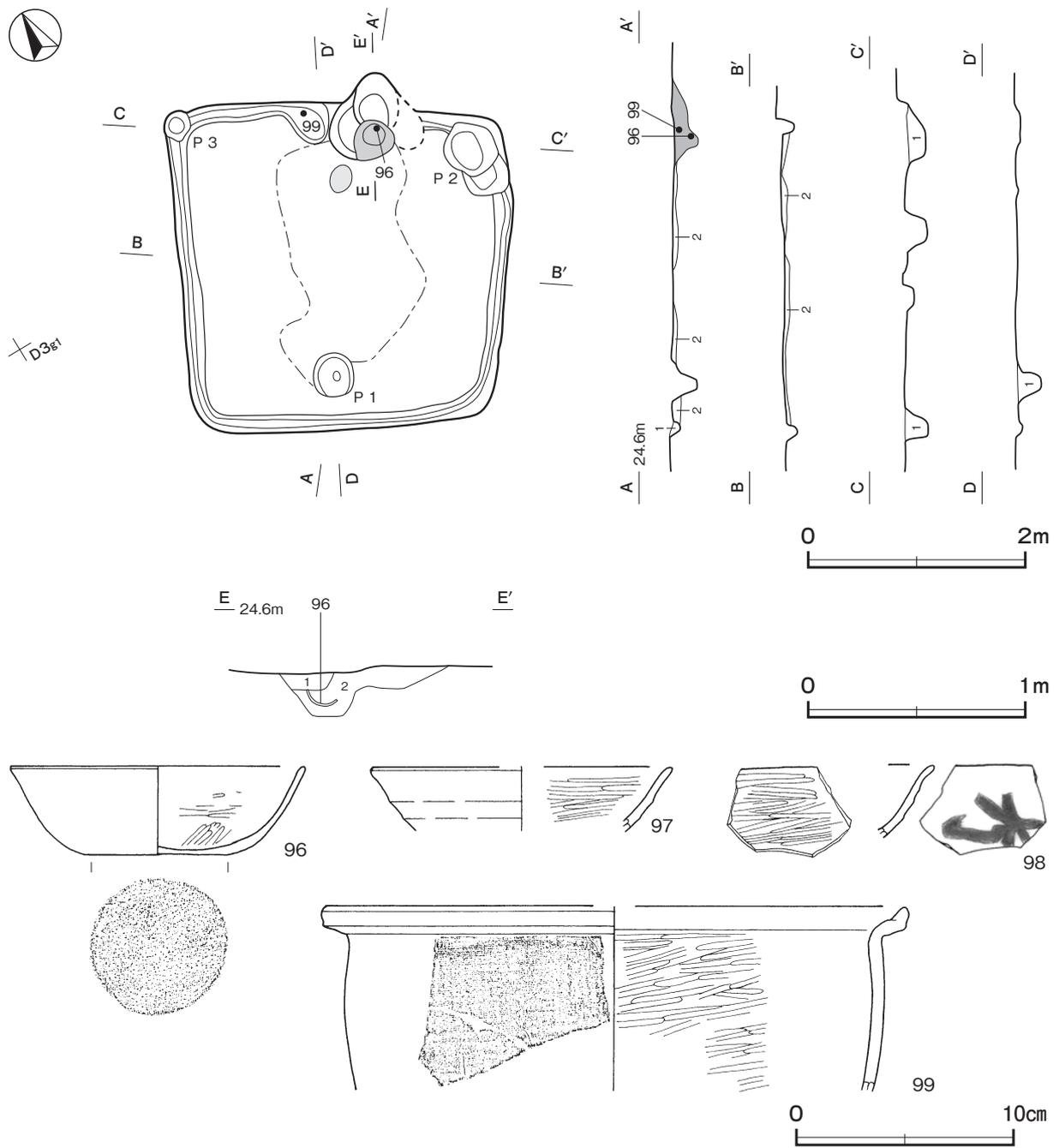
土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 2 褐色 | ロームブロック多量 |
|-------|-----------|------|-----------|

遺物出土状況 土師器片 70 点（坏 22, 高台付坏 2, 鉢 1, 甕類 45）、須恵器片 4 点（坏 1, 壺 1, 甕類 2）

が出土している。99は北東壁際の壁溝から出土している。96は竈掘方から出土している。遺物は破片が多く、埋没過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第50図 第69号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第69号竪穴建物跡出土遺物観察表(第50図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
96	土師器	坏	13.5	4.2	6.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	内面へら磨き 黒色処理 底部回転へら削り 内面摩耗	竈掘方	100% PL15
97	土師器	坏	[13.8]	(3.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部内面へら磨き 黒色処理	覆土中	10%
98	土師器	坏	-	(3.4)	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	体部内面へら磨き 黒色処理 外面墨書「□」	覆土中	5% PL17
99	土師器	鉢	[27.0]	(8.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部外面格子目叩き 内面へら磨き 黒色処理	壁溝	5%

第70号竪穴建物跡 (第51・52図 PL 8)

位置 調査区南部のD 2j9区, 標高24 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 一辺3.56 mほどの方形で, 主軸方向はN - 18° - Eである。壁は高さ2~4 cmである。

床 平坦な貼床で, 竈の前方から南壁にかけて踏み固められている。床は地山を掘り下げ, ロームブロックを含む第1層を埋土して構築されている。壁溝が東壁から南壁, 西壁の一部に巡っている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで90cmで, 燃烧部幅は80cmである。両袖部は地山を利用して構築されている。火床部は楕円形に4 cm掘りくぼめ, ロームブロックや焼土ブロックを含む第3~5層を埋土している。火床面は第3~5層上面で火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外に40cm掘り込まれ, 火床部から緩やかに立ち上がっている。支脚は土器を逆位に重ね転用している。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 4 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 3 黒色 | 焼土ブロック多量, ロームブロック少量 | | |

ピット P 1は深さ38cmで, 南壁に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

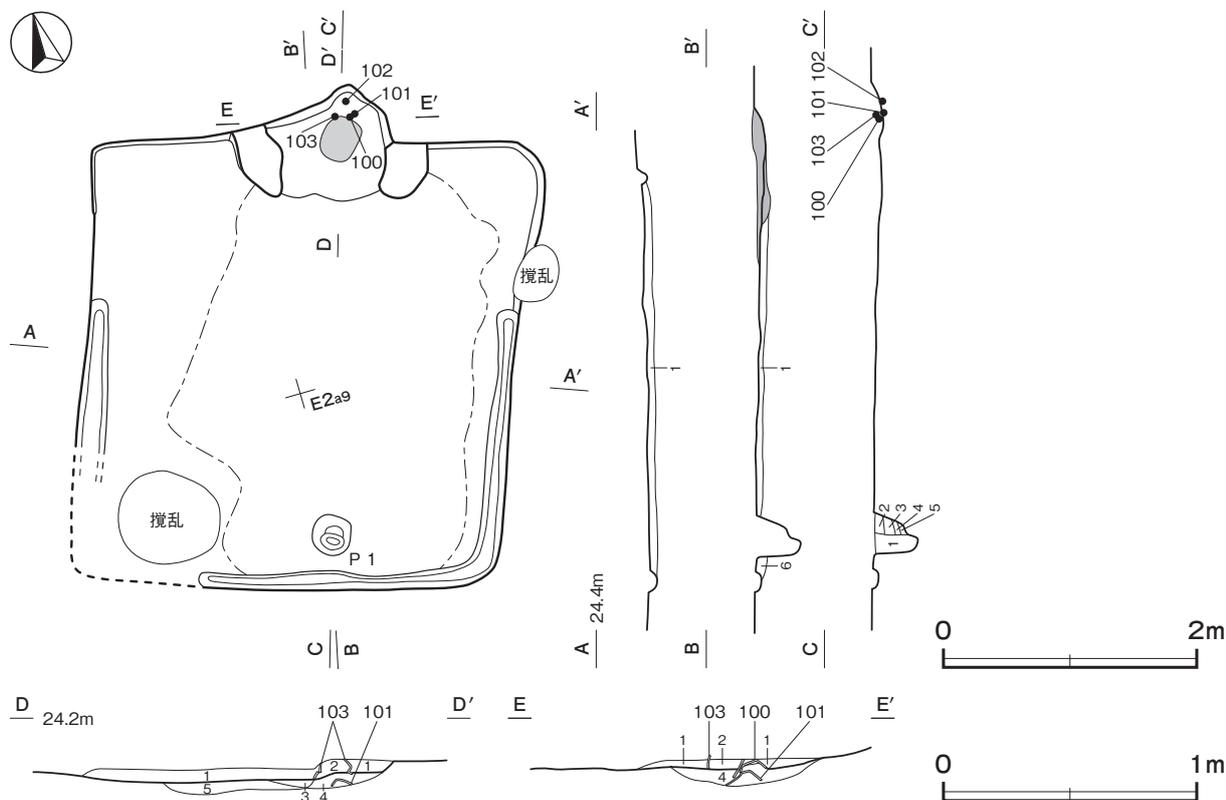
ピット土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 4 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック多量 | 5 黒褐色 | 粘土ブロック多量, ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | 粘土ブロック多量, ロームブロック中量 | | |

覆土 覆土の堆積状況は不明である。第1層は貼床の構築土である。

土層解説

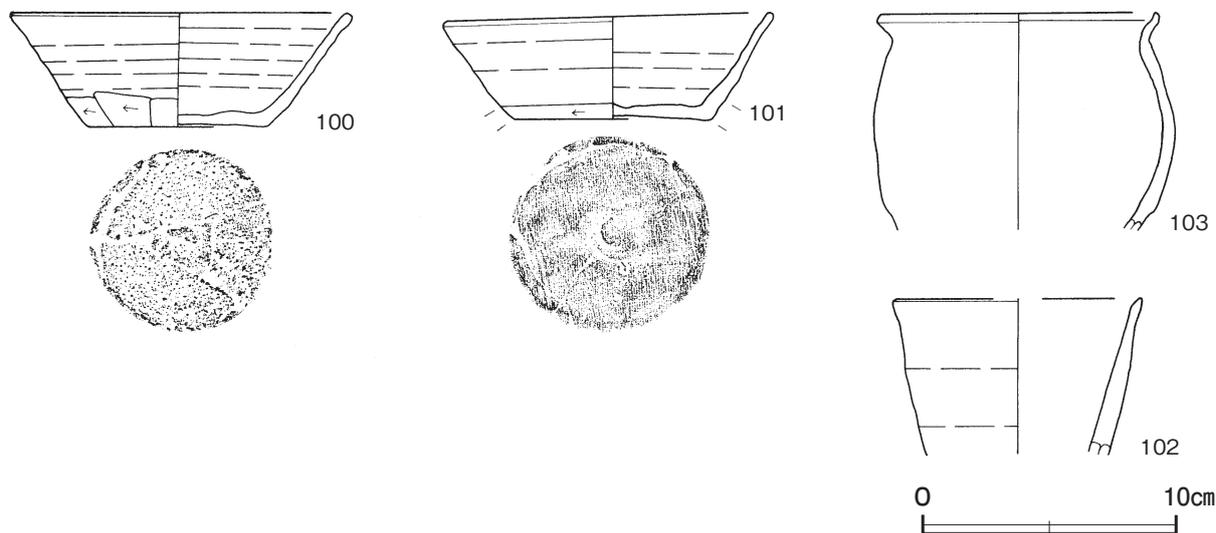
- 1 褐色 ロームブロック多量



第51図 第70号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片 18 点（坏 1，小形甕 1，甕類 16），須恵器片 11 点（坏 5，高台付坏 1，蓋 1，コップ形土器 1，小型甕 1，甕類 2）が出土している。102 は煙道部から出土している。その南側には 101 を逆位に据え，その上に 100 を逆位に重ねている。その西側には 103 を逆位に伏せ，竈の支脚として利用している。

所見 時期は，出土土器から 9 世紀前葉に比定できる。



第 52 図 第 70 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 70 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 52 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
100	須恵器	坏	13.3	4.6	7.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	不良	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り 二次焼成	火床面	90% PL15 新治窯
101	須恵器	坏	12.9	4.3	7.8	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 回転ヘラ切り痕を残す 一方向の手持ちヘラ削り	火床面	80% 新治窯
102	須恵器	コップ形土器	[9.6]	(6.2)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	ロクロナデ	煙道部	5%
103	土師器	小形甕	11.0	(8.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面摩耗	火床面	50% PL16

第 71 号竪穴建物跡（第 53～55 図）

位置 調査区南部の E 3c4 区，標高 25 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 一辺 3.20 m ほどの方形で，主軸方向は N - 25° - E である。壁は高さ 16～20cm で，外傾している。

床 平坦な貼床で，竈の前方から P 3・P 4 にかけて踏み固められている。床は地山を 12cm 程掘り下げ，ロームブロックを含む第 13～15 層を埋土して構築されている。壁溝が北東壁の一部を除いて巡っている。

竈 北東壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 116cm で，燃焼部幅は 46cm である。両袖部は地山の上に粘土ブロックを含む第 7～9 層を積み上げ構築されている。火床部は楕円形に 6cm 掘りくぼめ，焼土粒子や炭化粒子を含む第 6 層を埋土している。火床面は第 6 層上面で火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外に 52cm 掘り込まれ，火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量	5 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
2 黒褐色	粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土ブロック少量	6 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量
3 黒褐色	焼土ブロック中量，粘土ブロック少量	7 黒褐色	粘土ブロック中量，焼土ブロック少量
4 黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量	8 黒褐色	粘土ブロック多量，焼土ブロック少量
		9 黒褐色	焼土ブロック・粘土ブロック少量

ピット 4か所。P 1・P 2は深さ10～12cmで、東コーナー部と北コーナー部に位置することから支柱穴である。P 3は深さ10cmで、南西壁に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P 4は深さ6cmで、補助柱穴と考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

1 黒褐色 ローム粒子少量

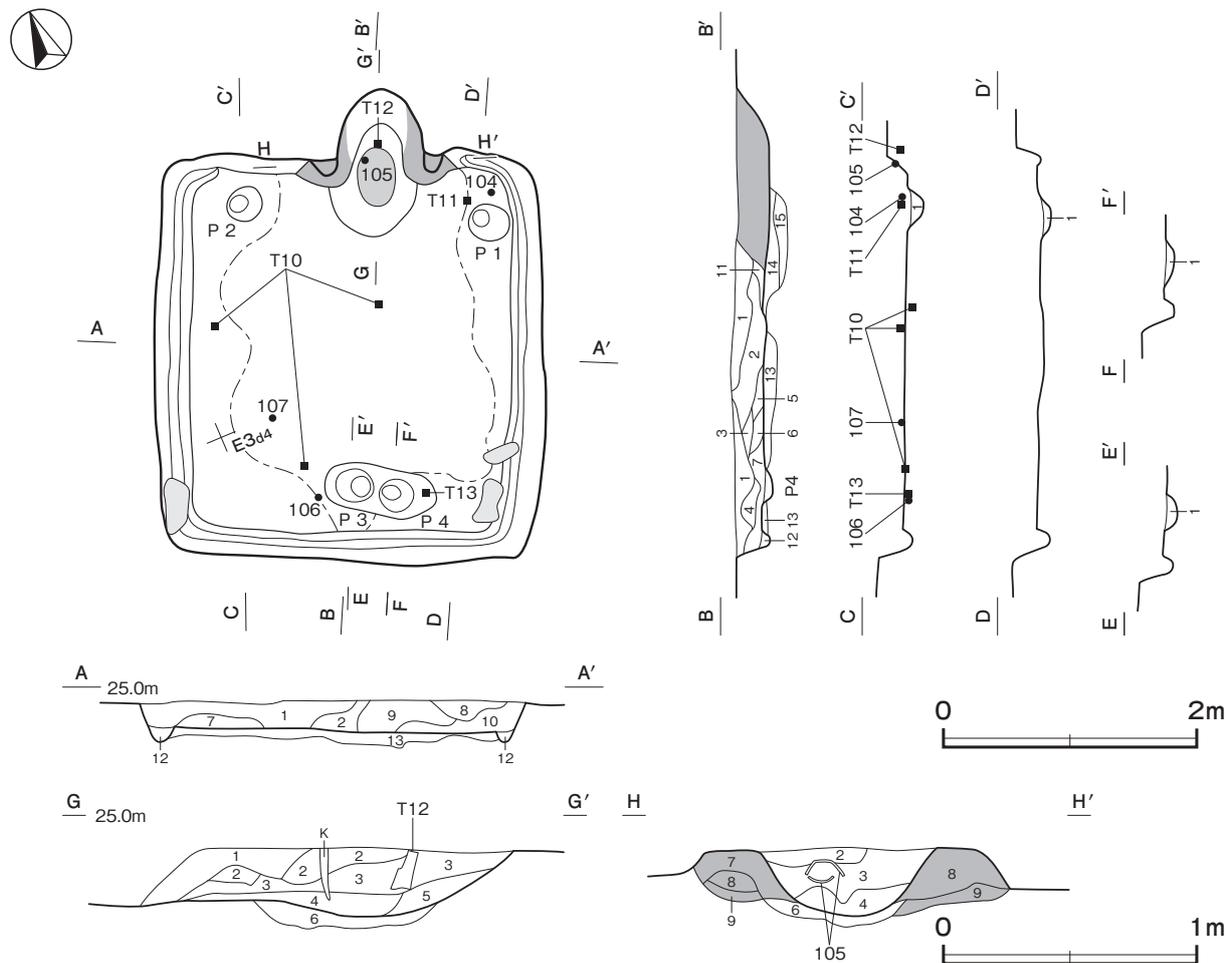
覆土 12層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。第13～15層は、貼床の構築土である。南コーナー部と西コーナー部の床直から焼土塊が出土している。

土層解説

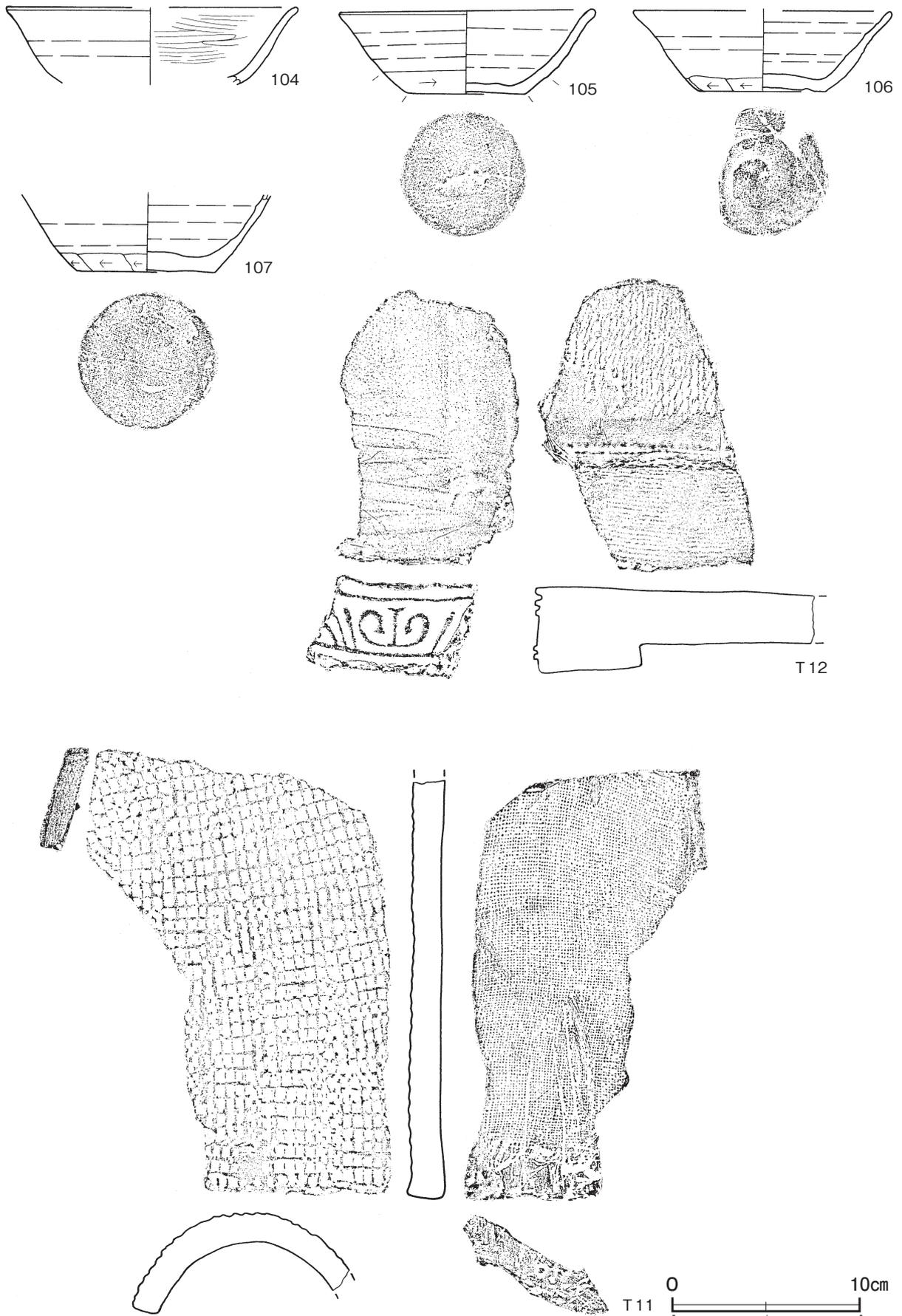
- | | | | |
|-------|-------------------|--------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子多量 | 10 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 11 黒褐色 | 焼土粒子中量, ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック多量 | 12 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 13 褐色 | ロームブロック多量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子微量 | 14 褐色 | ロームブロック中量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック中量 | 15 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片92点(坏18, 蓋1, 甕類73), 須恵器片33点(坏19, 蓋1, 甕類13), 金属製品1点(不明), 瓦7点(軒丸瓦1, 軒平瓦1, 丸瓦1, 平瓦4)が出土している。104・T11は東コーナー部, 106・T13は南西壁付近, 107は北西壁付近の床面からそれぞれ出土している。T10は中央部床面から出土した破片が接合している。105・T12は竈内から出土している。遺物は廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

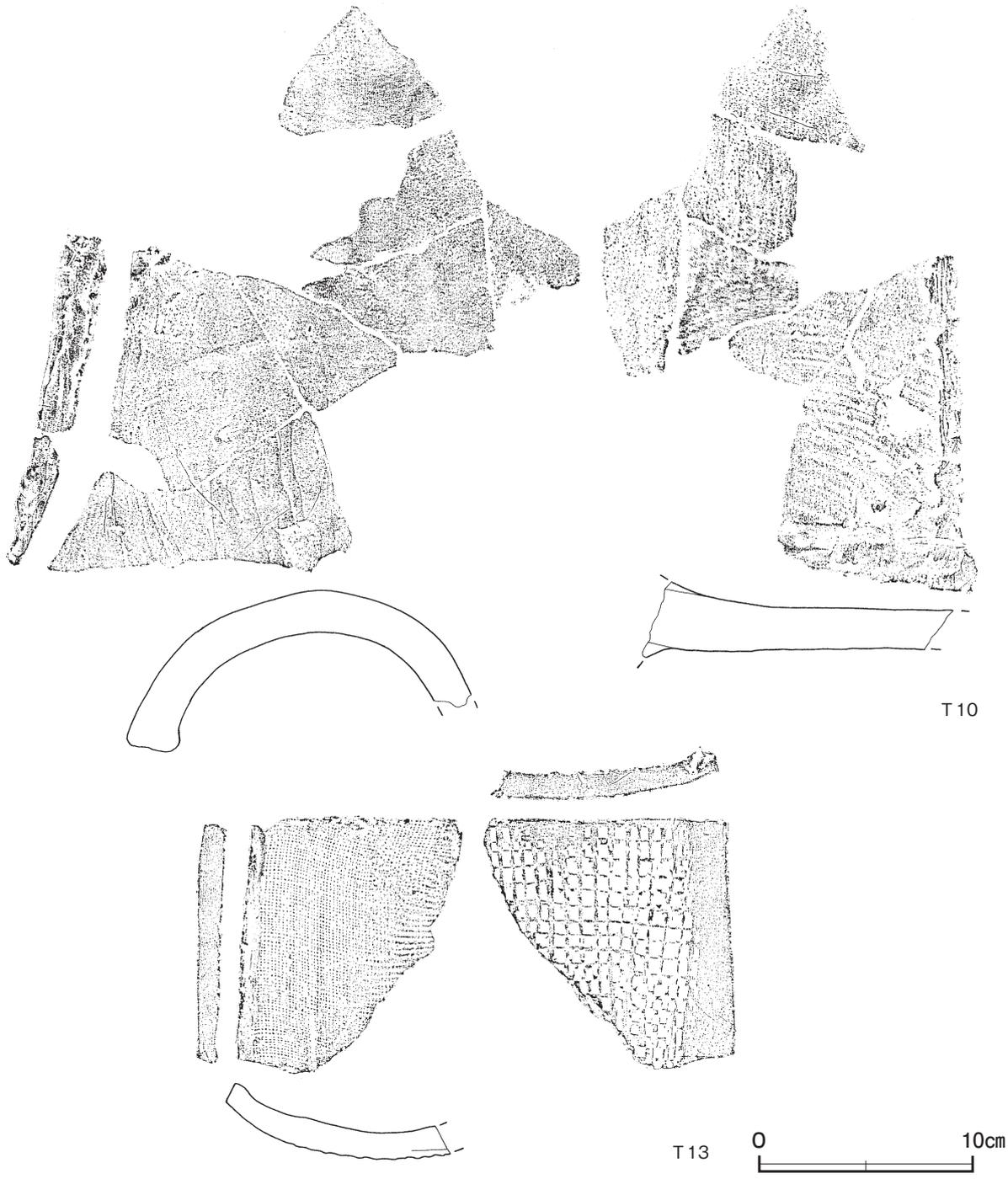
所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第53図 第71号竪穴建物跡実測図



第54図 第71号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第55図 第71号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第71号竪穴建物跡出土遺物観察表(第54・55図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
104	土師器	坏	[15.6]	(4.2)	-	長石・石英・雲母	赤褐	普通	体部内面ヘラ磨き 黒色処理	床面	20%
105	須恵器	坏	13.5	4.6	6.2	長石・石英・雲母	灰黄褐	不良	体部下端回転ヘラ削り 底部一定方向の手持ちヘラ削り ヘラ記号「×」 口縁部歪み有り	竈内	90% PL15 新治窯
106	須恵器	坏	[13.8]	4.4	6.7	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す一方向の手持ちヘラ削り 二次焼成	床面	60% 新治窯
107	須恵器	坏	-	4.3	7.4	長石・石英・雲母	灰黄褐	不良	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削りヘラ記号「×」 二次焼成	床面	30% 新治窯

番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
T10	瓦	軒丸瓦	(16.0)	7.7	(27.0)	長石・石英・雲母	灰褐	普通	凸面縦位の削り 凹面布目痕 糸切り痕 軒部欠損	床面	PL20
T11	瓦	丸瓦	(11.2)	5.4	(23.2)	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄灰	普通	凸面正格子叩き 凹面布目痕 側面削り	床面	PL21
T12	瓦	軒平瓦	(11.5)	4.6	(15.1)	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐	普通	均整唐草文 段頸で凸面縄叩き 凹面模骨痕	竈内	PL21
T13	瓦	平瓦	(10.8)	3.8	(12.0)	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	凸面正格子叩き 側縁削り広端 一部糸切り痕 側面削り	床面	PL21

第 72 号竪穴建物跡 (第 56・57 図)

位置 調査区南部の E 2c8 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 西側が削平されているため, 南北軸は 2.88 m で, 東西軸は 1.80 m しか確認できなかった。形状から主軸方向は N - 20° - E の方形又は長方形と推定できる。壁は高さ 5 ~ 6 cm である。

床 耕作により削平されたため, 床の硬化面は確認できなかった。

竈 北壁に付設されている。耕作により削平され, 掘方のみである。掘方は長径 66cm, 短径 26cm の楕円形で 6cm 掘りくぼめられている。少量の焼土を含んでいる。

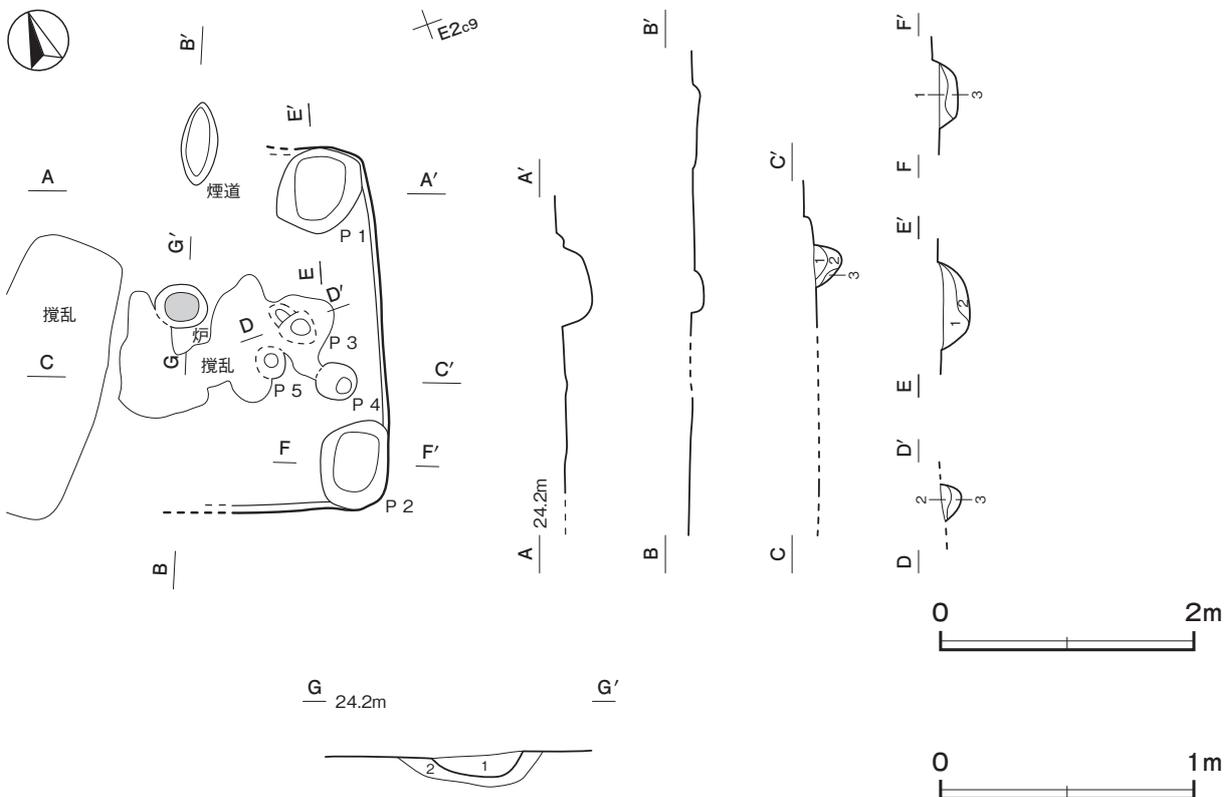
炉 中央部に付設されている。長径 42cm, 短径 34cm の楕円形で, 床面を深さ 12cm 程掘りくぼめた地床炉である。炉床面は加熱を受けて赤変硬化している。第 2 層は掘方への埋土である。

炉土層解説

1 黒色 焼土ブロック少量

2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量

ピット 5 か所。P 1 ~ P 5 は深さ 18 ~ 30cm で, P 1 は北東コーナー部, P 2 は南東コーナー部, P 3 ~ P 5 は中央部東側に位置しているが, 性格は不明である。



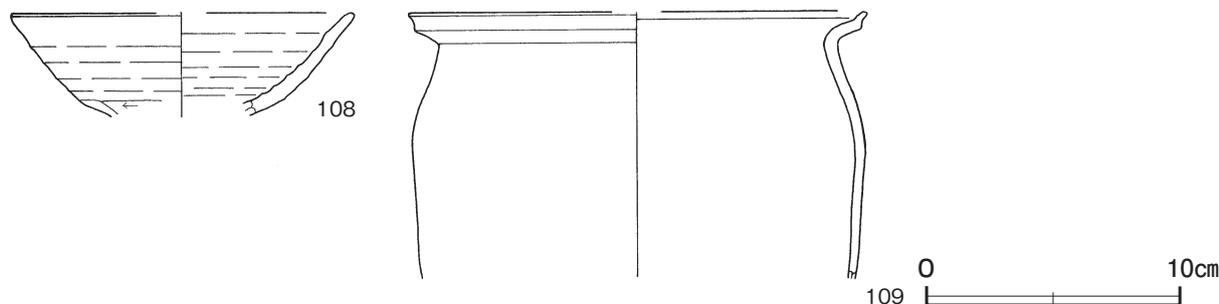
第 56 図 第 72 号竪穴建物跡実測図

ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片 29 点 (坏 3, 甕類 26), 須恵器片 10 点 (坏 4, 甕類 6) が出土している。108 は覆土中から, 109 は P 3 の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から 9 世紀中葉に比定できる。



第 57 図 第 72 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 72 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 57 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
108	須恵器	坏	[13.6]	(41)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り	覆土中	5%
109	土師器	甕	[18.1]	(10.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内面ヘラナデ	P 3 覆土中	5%

第 73 号竪穴建物跡 (第 58・59 図 PL 8・9)

位置 調査区南部の E 3 e1 区, 標高 25 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 3.01 m, 短軸 2.08 m の長方形で, 主軸方向は N - 14° - E である。壁は高さ 15 ~ 20cm で, 外傾している。

床 平坦な貼床で, 竈の前方から南壁にかけて踏み固められている。床は地山を 6 cm 程掘り下げ, ロームブロックを含む第 5 層を埋土して構築されている。壁溝が全周している。

竈 北壁の東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 98cm で, 燃焼部幅は 34cm である。両袖部は地山を掘り込み, 瓦を補強材に立て第 8・9 層を埋土し, 焼土ブロックや粘土ブロックを含む第 3 ~ 7 層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に 7 cm 掘りくぼめ, 焼土ブロックを含む第 10・11 層を埋土している。火床面は第 10・11 層上面で火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 52cm 掘り込まれ, 火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 4 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量
- 6 暗褐色 粘土ブロック多量, ロームブロック・焼土粒子少量
- 7 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 8 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量
- 9 暗褐色 焼土ブロック少量
- 10 黒褐色 焼土ブロック中量
- 11 暗褐色 焼土ブロック少量

ピット 3 か所。P 1・P 2 は深さ 14cm・26cm で, 東壁・西壁付近に位置していることから, 支柱穴である。

P 3 は深さ 8 cm で, 中央部に位置しているが性格は不明である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

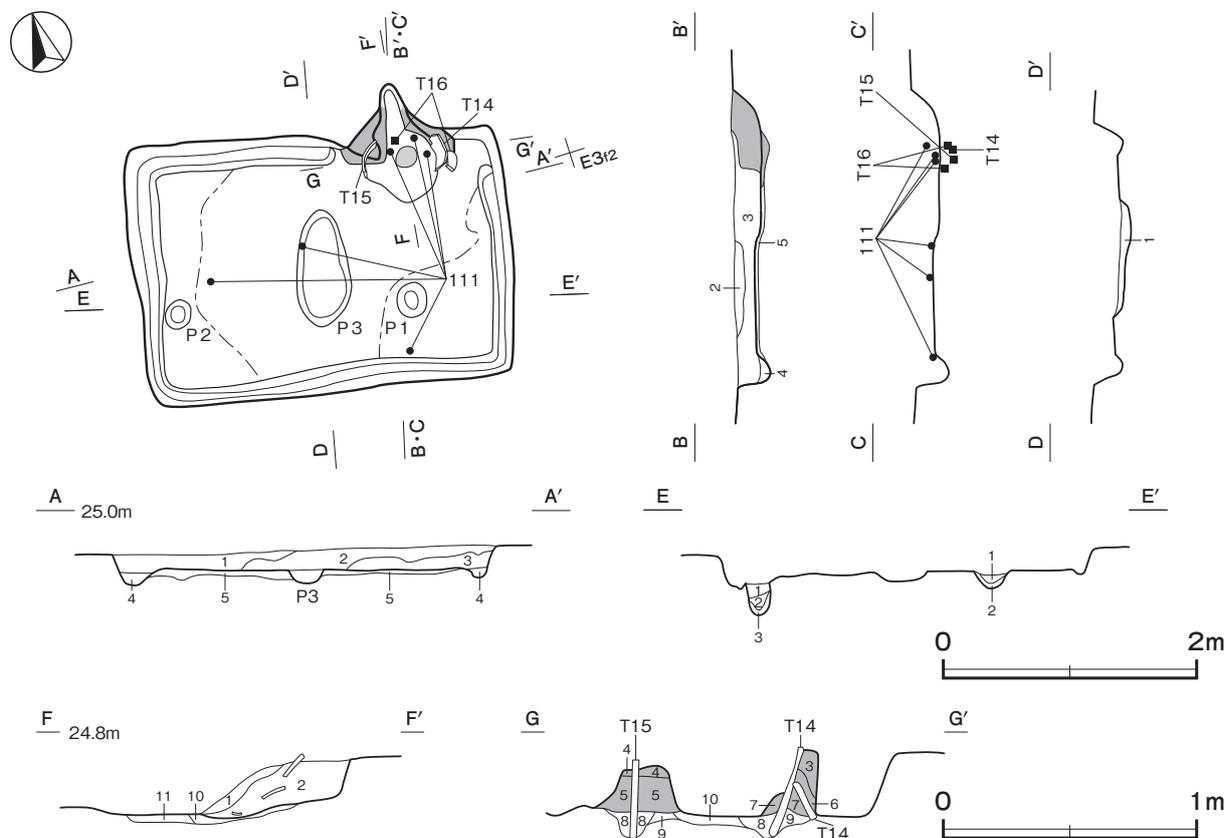
覆土 4層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第5層は貼床の構築土である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量
- 5 褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片 38点 (坏2, 甕類36), 須恵器片 7点 (坏5, 甕類2), 土製品 1点 (支脚), 瓦 6点 (平瓦) が出土している。111は竈内と床面から出土した破片が接合している。T14とT16は竈右袖部, T15は竈左袖部の補強材に利用されている。

所見 時期は, 出土土器から9世紀中葉に比定できる。

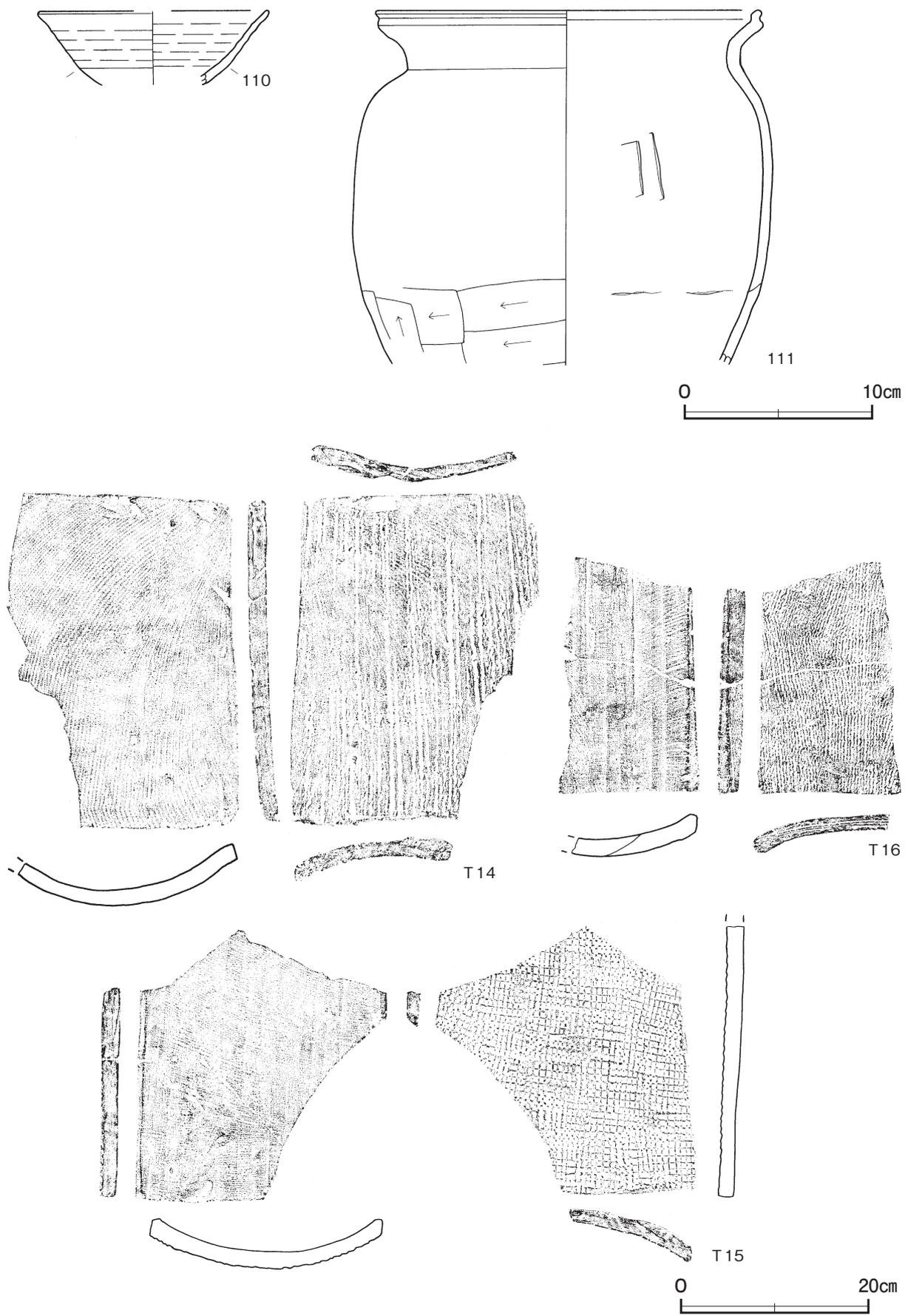


第 58 図 第 73 号竪穴建物跡実測図

第 73 号跡出土遺物観察表 (第 59 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
110	須恵器	坏	[12.2]	(4.0)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端回転ヘラ削り	覆土中	5%
111	土師器	甕	20.5	(19.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下半ヘラ削り 内面ヘラ当て痕 輪積痕	床面	50% PL16

番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
T14	瓦	平瓦	(23.5)	6.1	35.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	凸面縄叩き (長縄) 凹面模骨痕 両面糸切り痕 端面削り	竈右袖	PL21
T15	瓦	平瓦	25.1	5.4	(29.4)	長石・石英・雲母	黒褐	普通	凸面格子叩き 凹面模骨痕 布目痕 両面糸切り痕 端面削り	竈左袖	PL22
T16	瓦	平瓦	(14.1)	5.7	(25.5)	長石・石英・雲母・赤色粒子	暗灰黄	普通	凸面縄叩き 一部重複した叩き 側縁削り 凹面模骨痕粘土合わせ目を境に糸切り痕が途切れる 端面削り	竈右袖	PL22

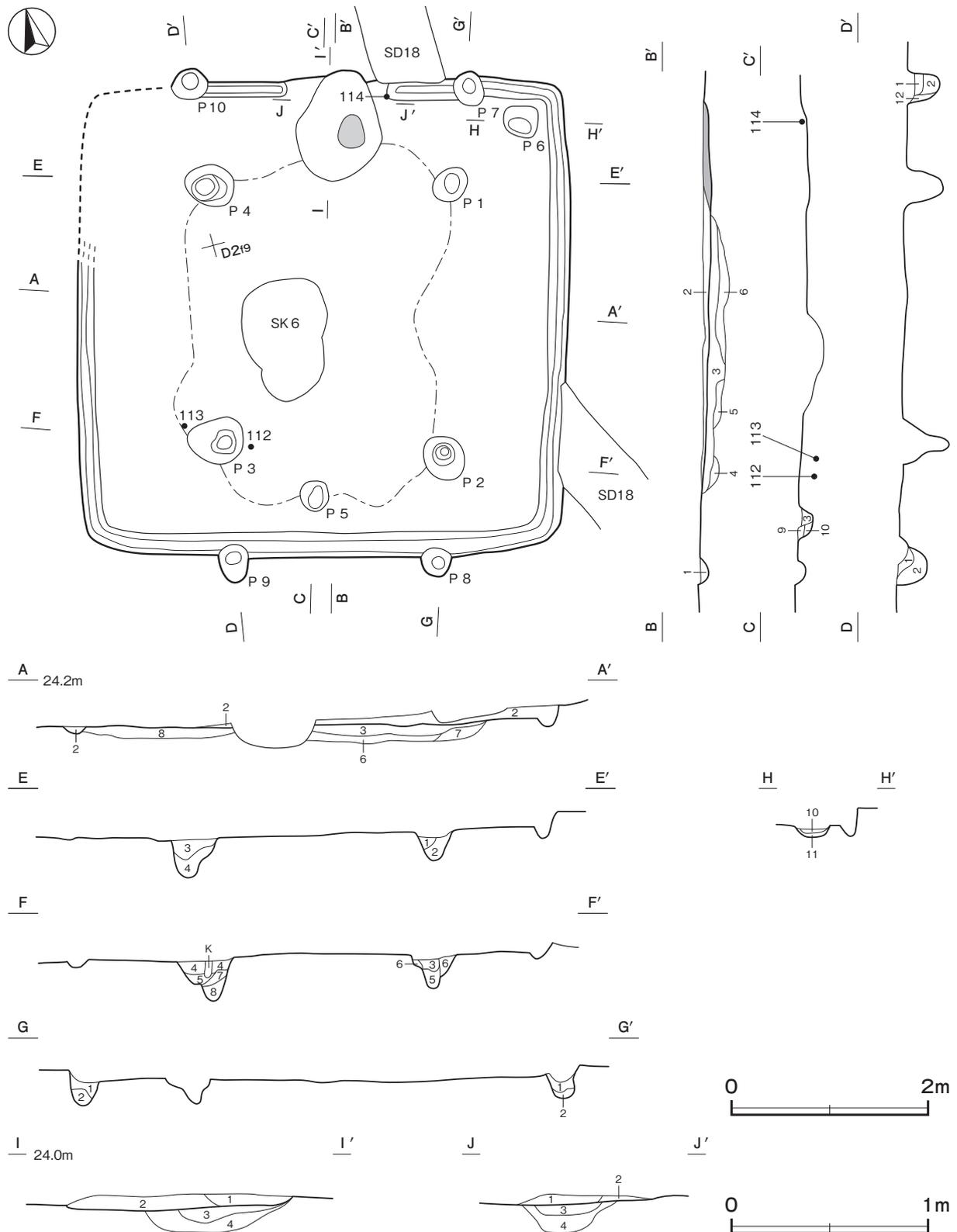


第59图 第73号竖穴建物跡出土遺物実測図

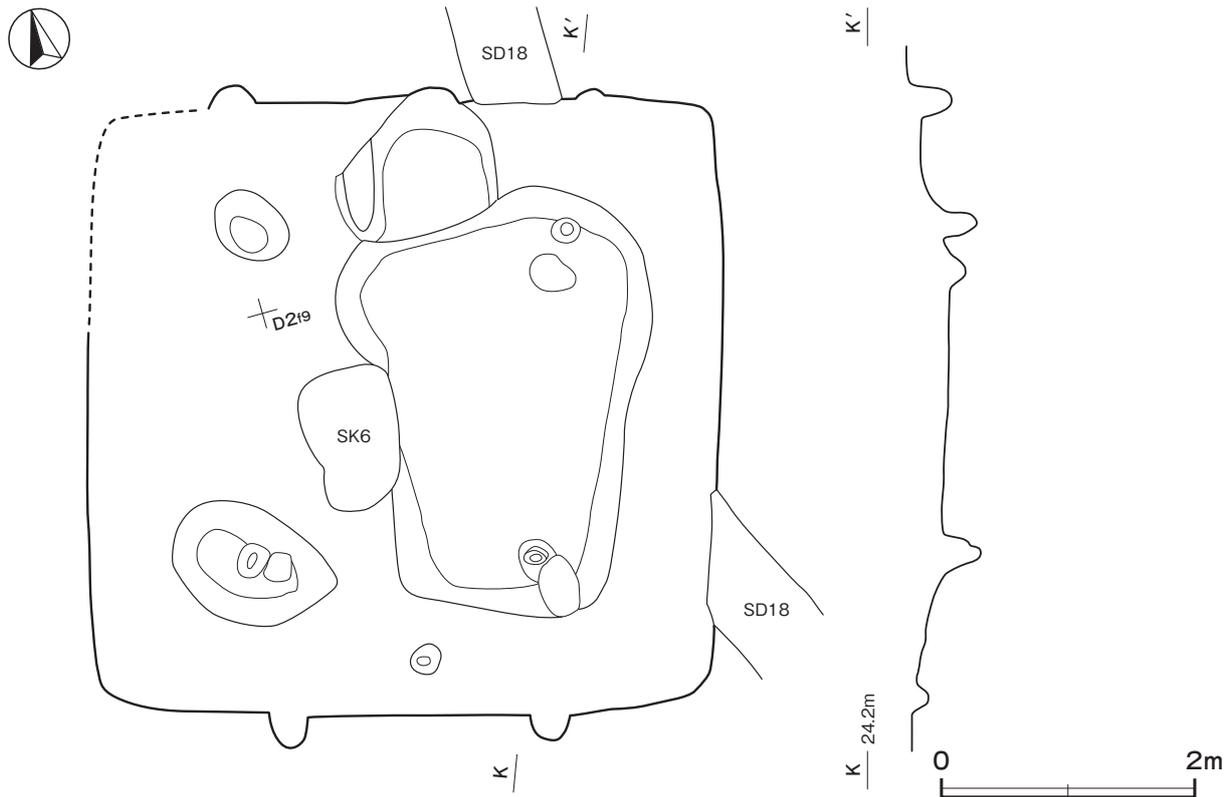
第75号竖穴建物跡 (第60～62図)

位置 調査区中央部のD 2f9区, 標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第6号土坑, 第18号溝に掘り込まれている。



第60図 第75号竖穴建物跡実測図(1)



第61図 第75号竪穴建物跡実測図(2)

規模と形状 一辺5.00 mほどの方形で、主軸方向はN - 15° - Eである。壁は高さ10～16cmで、外傾している。
床 平坦な貼床で、竈の前方から中央部にかけて踏み固められている。床は地山を22cm程掘り下げ、ロームブロックや焼土ブロックを含む第3～8層を埋土して構築されている。壁溝が北西コーナー部を除いて巡っている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで116cmで、燃焼部幅は90cmである。両袖部は残っていない。火床部は楕円形に15cm掘りくぼめ、焼土ブロック・粘土ブロックや炭化粒子を含んだ第3・4層を埋土している。火床面は第3・4層上面で火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外に15cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|------------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック多量 | 3 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量 | 4 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量, 炭化粒子少量 |

ピット 10か所。P 1～P 4は深さ28～44cmで規模と位置から主柱穴である。P 5は深さ14cmで南壁に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P 6～P10は深さ9～32cmで北壁と南壁に位置していることから補助柱穴とみられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|-------------------|----------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 7 黒褐色 灰黄色粘土ブロック中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック微量 | 8 暗褐色 灰黄色粘土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 黄褐色粘土ブロック少量 | 9 暗褐色 ロームブロック多量 |
| 4 黒褐色 黄褐色粘土ブロック中量 | 10 黒褐色 ロームブロック中量 |
| 5 黒褐色 灰黄色粘土ブロック少量 | 11 黒褐色 ロームブロック多量 |
| 6 暗褐色 黄褐色粘土ブロック少量 | 12 黒褐色 粘土ブロック多量, ロームブロック少量 |

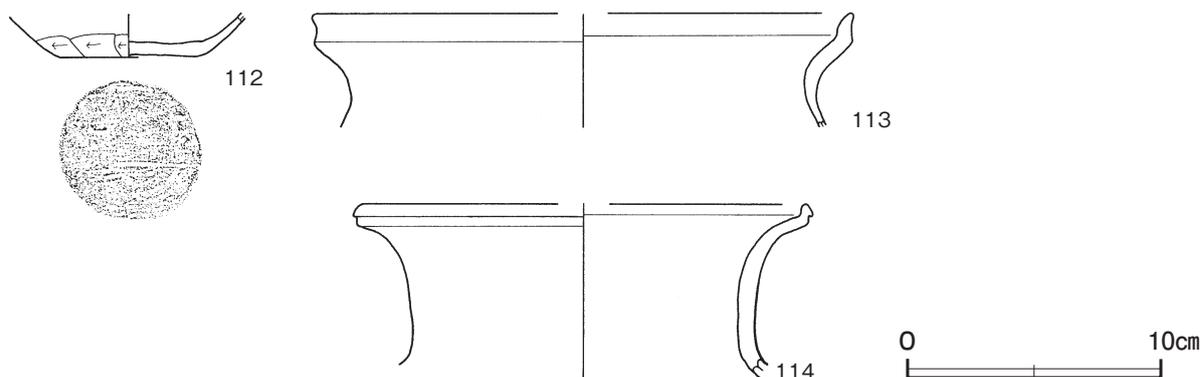
覆土 2層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第3～8層は、貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量 | 5 褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 褐色 | ロームブロック多量 | 7 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片5点（甕類），須恵器片3点（坏2，甕1），瓦5点（平瓦3，丸瓦2）が出土している。114は北壁際の床面から出土している。112・113は南西コーナー部の貼床の構築土から出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第62図 第75号竪穴建物跡出土遺物実測図

第75号竪穴建物跡出土遺物観察表（第62図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
112	須恵器	坏	-	(1.8)	5.5	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一定方向の手持ちヘラ削り	貼床構築土	20% 新治窯
113	土師器	甕	[21.4]	(4.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	内面ヘラナデ	貼床構築土	5%
114	須恵器	甕	[17.7]	(7.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	内面ヘラナデ	床面	5%

第76号竪穴建物跡（第63図）

位置 調査区南部のE 2e8区，標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 西側が削平を受けているため，南北軸は2.49mで，東西軸は2.46mしか確認できなかった。形状から主軸方向はN-42°-Eの方形又は長方形と推定できる。壁は確認できなかった。

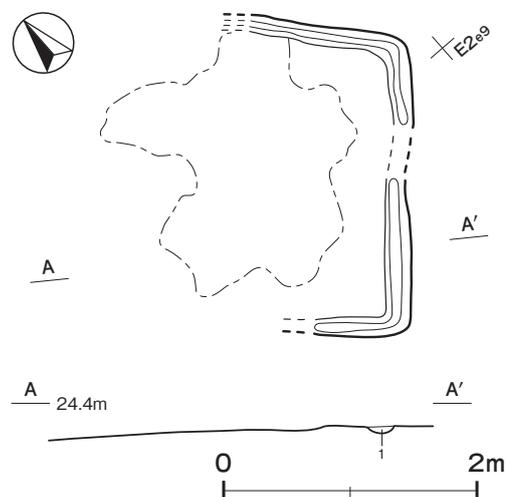
床 平坦で，中央部が踏み固められている。床は地山をそのまま利用している。壁溝が北壁中央部から南東コーナー部にかけて巡っている。

覆土 覆土がなく，堆積状況は不明である。第1層は壁溝の覆土である。

土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック中量，ロームブロック微量

所見 出土土器が無いため時期判断は困難であるが，遺構の規模および形状から9世紀代と考えられる。



第63図 第76号竪穴建物跡実測図

第 78 号 竪穴建物跡 (第 64・65 図)

位置 調査区中央部の E 3 e3 区, 標高 25 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 3.22 m, 短軸 2.64 m の長方形で, 主軸方向は N - 15° - E である。壁は高さ 10 ~ 12cm で, 外傾している。

床 平坦な貼床で, 竈の前方から中央部にかけて踏み固められている。床は地山を 6 ~ 12cm 程掘り下げ, ロームブロックを含んだ第 6 層を埋土している。壁溝が全周している。

竈 北西コーナー部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 78cm で, 燃焼部幅は 44cm である。左袖部は地山, 右袖部は第 7 層の上に粘土ブロックを含む第 3 層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に 22cm 掘りくぼめ, ロームブロックや焼土ブロックを含む第 4 ~ 8 層を埋土している。火床面は第 4 ~ 6 層上面で, 赤変していない。煙道部は壁外に 12cm 掘り込まれ, 火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|------------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 5 黒褐色 焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック多量 |
| 3 黒褐色 粘土ブロック多量, ロームブロック少量 | 7 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 | 8 暗褐色 ロームブロック中量 |

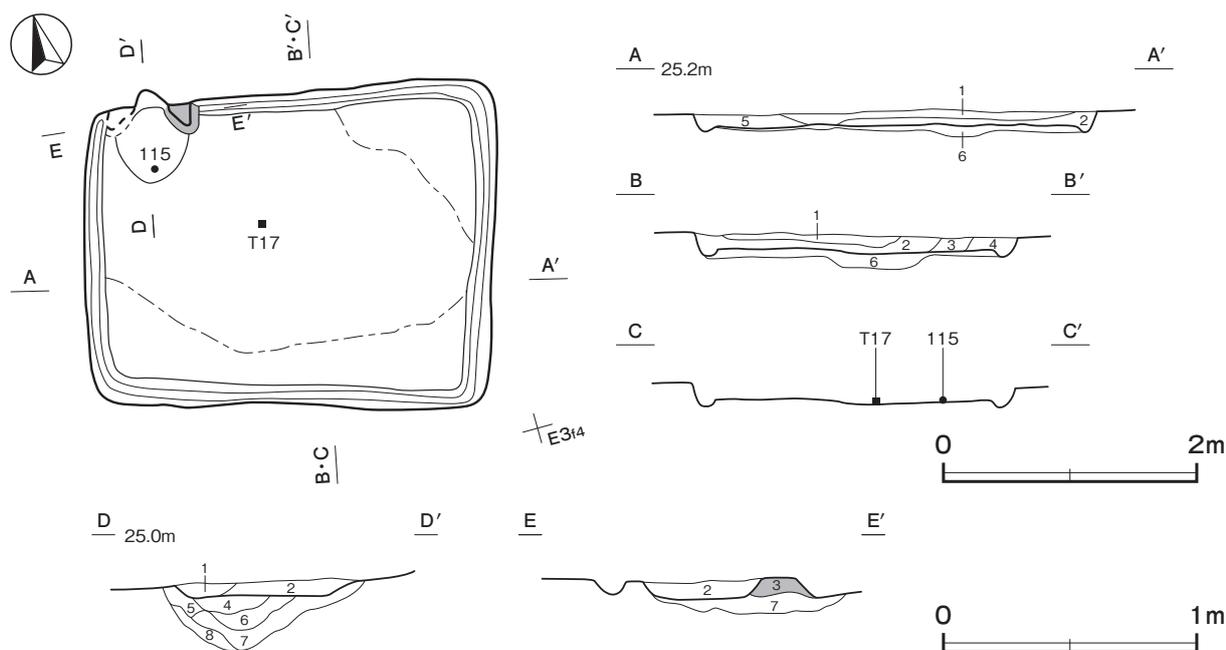
覆土 5 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。第 6 層は, 貼床の構築土である。

土層解説

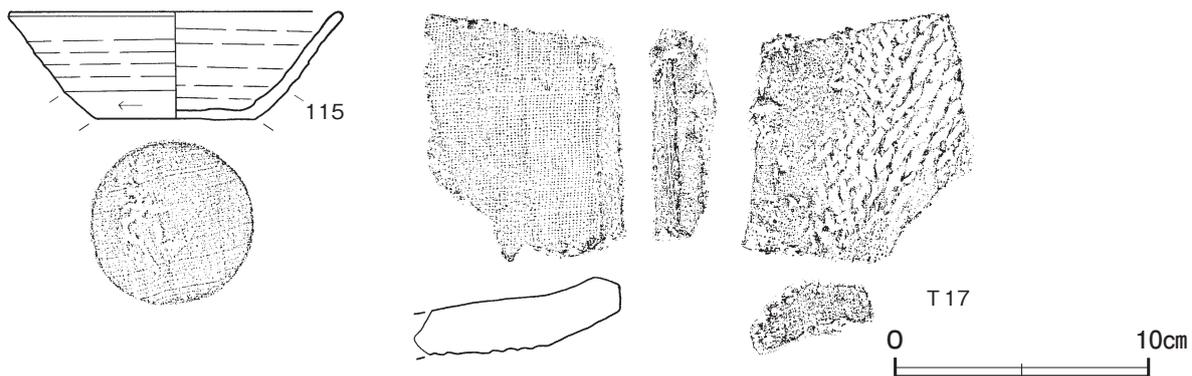
- | | |
|----------------------------|-----------------|
| 1 極暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 | 5 褐色 ローム粒子多量 |
| 3 灰褐色 ロームブロック中量 | 6 褐色 ロームブロック多量 |

遺物出土状況 土師器片 5 点 (坏 1, 甕類 4), 須恵器片 4 点 (坏 2, 甕類 2), 瓦 5 点 (平瓦 4, 丸瓦 1) が出土している。T17 は中央部の床面, 115 は竈の火床面に逆位に伏せた状態で出土している。

所見 時期は, 出土土器から 9 世紀中葉に比定できる。



第 64 図 第 78 号 竪穴建物跡実測図



第 65 図 第 78 号竪穴建物跡出土遺物実測図

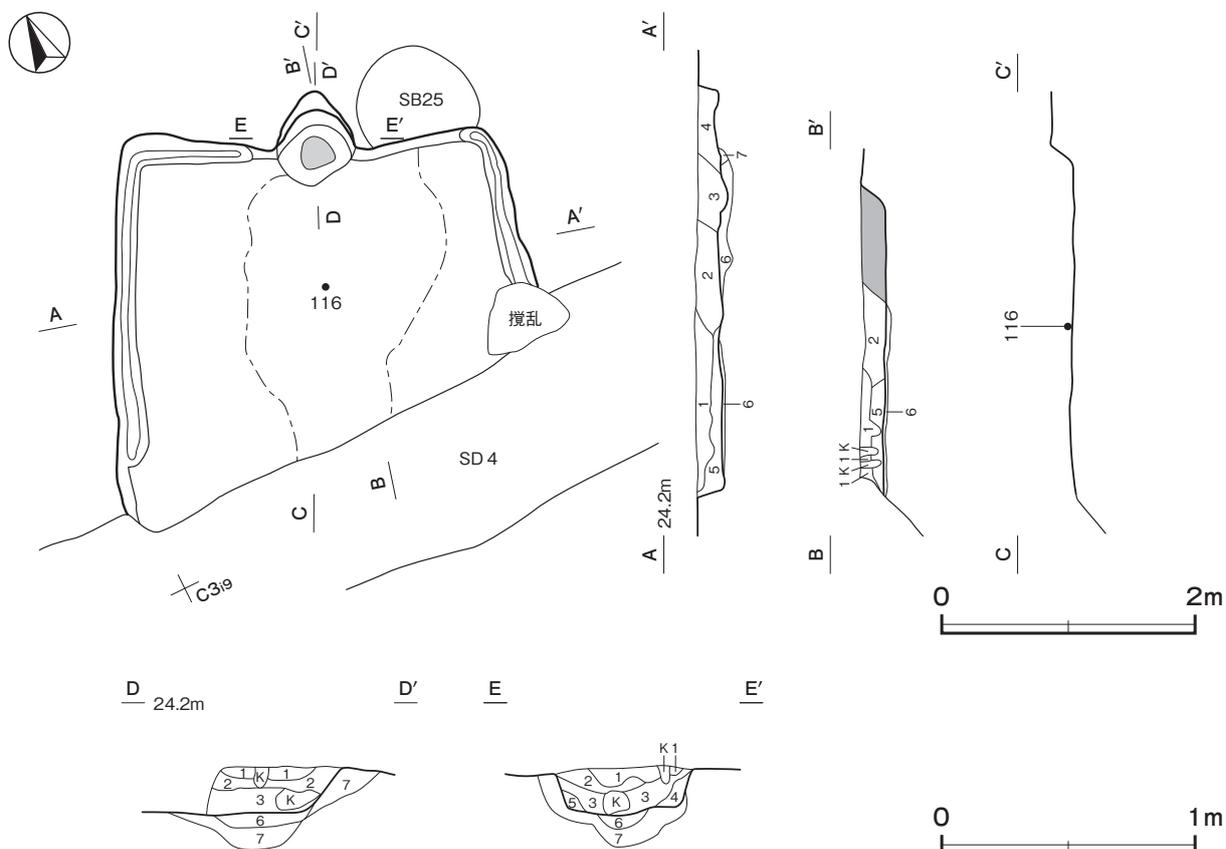
第 78 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 65 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
115	須恵器	坏	13.0	4.3	6.4	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す一方向の手持ちヘラ削り	火床面	100% PL15 新治窯
番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
T17	瓦	平瓦	(8.3)	(3.1)	(10.0)	長石・石英	にぶい橙	普通	凸面縄叩き 側面端面削り 側縁幅の削り 凹面模骨痕削り	床面	

第 81 号竪穴建物跡 (第 66・67 図)

位置 調査区中央部の C 3h9 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 25 号掘立柱建物跡を掘り込み, 第 4 号溝に掘り込まれている。



第 66 図 第 81 号竪穴建物跡実測図

規模と形状 南部が第4号溝に掘り込まれているため、東西軸は3.32 mで、南北軸は3.14 mしか確認できなかった。主軸方向はN - 26° - Eで、方形又は長方形と推定できる。壁は高さ12~24cmで、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、竈前方から南に向かって踏み固められている。床は地山を12cm程掘り下げ、ロームブロックを含んだ第6・7層を埋土して構築されている。壁溝が東壁と北壁から西壁にかけて巡っている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで71cmで、燃烧部幅は56cmである。袖部は確認できなかった。火床部は楕円形に14cm掘りくぼめ、ロームブロック・焼土ブロックや炭化粒子を含む第6・7層を埋土している。火床面は第6層上面で火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に30cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|----------------------------------|-------------------------------|
| 1 褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 4 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子微量 | 6 黒色 焼土ブロック多量, ロームブロック・炭化粒子微量 |
| | 7 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量 |

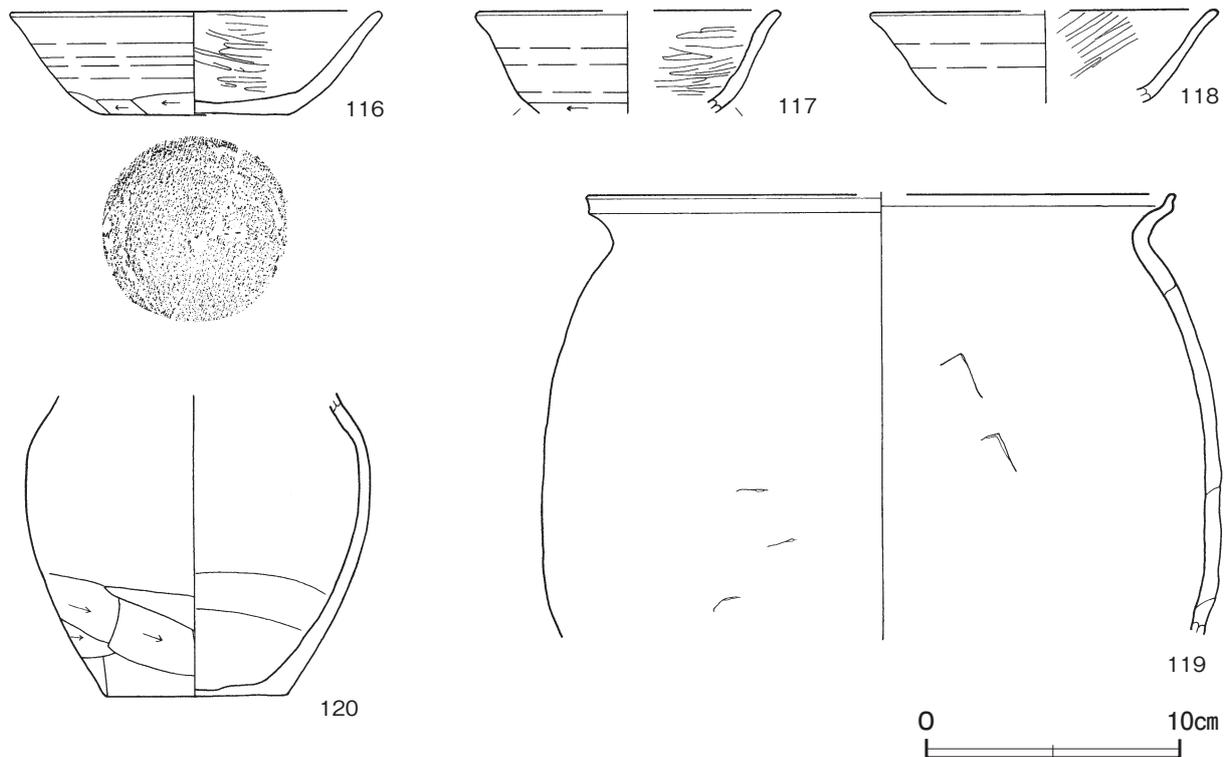
覆土 5層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第6・7層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | |
|------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック中量 | 5 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量 | 6 褐色 ロームブロック多量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子少量 | 7 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子中量 | |

遺物出土状況 土師器片54点(坏13, 椀1, 高台付坏1, 鉢1, 小形甕1, 甕類37), 須恵器片34点(坏15, 蓋3, 甕類16), 土製品1点(不明)が出土している。116は中央部の床面から出土している。これらの遺物は、埋没過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第67図 第81号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 81 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 67 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
116	土師器	坏	14.7	4.1	7.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ヘラ削り 内面ヘラ磨き 黒色処理 底部不定方向のヘラ削り 二次焼成	床面	90% PL15
117	土師器	坏	[11.8]	(4.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 黒色処理 内面摩耗	覆土中	20%
118	土師器	椀	[13.7]	(3.7)	-	長石・石英	橙	普通	体部内面ヘラ磨き 黒色処理 二次焼成	覆土中	20%
119	土師器	甕	[23.3]	(17.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部内面ヘラ当て痕 輪積痕	覆土中	20%
120	土師器	小形甕	-	(12.0)	7.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部下半ヘラ削り 内面ヘラナデ 二次焼成	覆土中	50%

第 82 号竪穴建物跡 (第 68～71 図 PL 9)

位置 調査区北西部の C 4 f6 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 83 号竪穴建物跡, 第 26・27 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 4.50 m, 短軸 4.24 m の方形で, 主軸方向は N - 13° - E である。壁は高さ 12～20cm で, ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で, 竈の前方から P 1 にかけて踏み固められている。床は第 83 号竪穴建物跡の床面の上に貼床されている。壁溝が, ほぼ全周している。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 124cm で, 燃焼部幅は 56cm である。両袖部はそれぞれ須恵器の鉢と平瓦を据えて補強され, その周りに粘土ブロックを含む第 9～13 層を積み上げ構築されている。火床部は不整楕円形に 23cm 掘りくぼめ, ロームブロックや粘土ブロックを含む第 14～18 層を埋土している。火床面は第 14 層上面で赤変硬化している。煙道部は壁外に 60cm 掘り込まれ, 火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1 灰褐色	粘土粒子少量, ロームブロック少量	10 黒褐色	粘土ブロック少量, 焼土粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量	11 黒褐色	粘土ブロック中量
3 黒色	焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子・粘土ブロック微量	12 黒褐色	ロームブロック中量
4 黒褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・粘土ブロック中量, 炭化粒子少量	13 暗褐色	ロームブロック多量
5 黒褐色	粘土ブロック中量, 焼土粒子微量	14 黒褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量
6 暗褐色	粘土ブロック少量, 焼土粒子微量	15 黒褐色	ローム粒子中量
7 にぶい黄色	粘土ブロック多量	16 黒褐色	ロームブロック多量, 粘土ブロック中量
8 にぶい黄褐色	粘土ブロック中量	17 黒褐色	ロームブロック少量
9 黒褐色	粘土ブロック多量, 焼土粒子微量	18 黒色	ロームブロック少量

ピット P 1 は深さ 38cm で, 南壁に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットである。

ピット土層解説

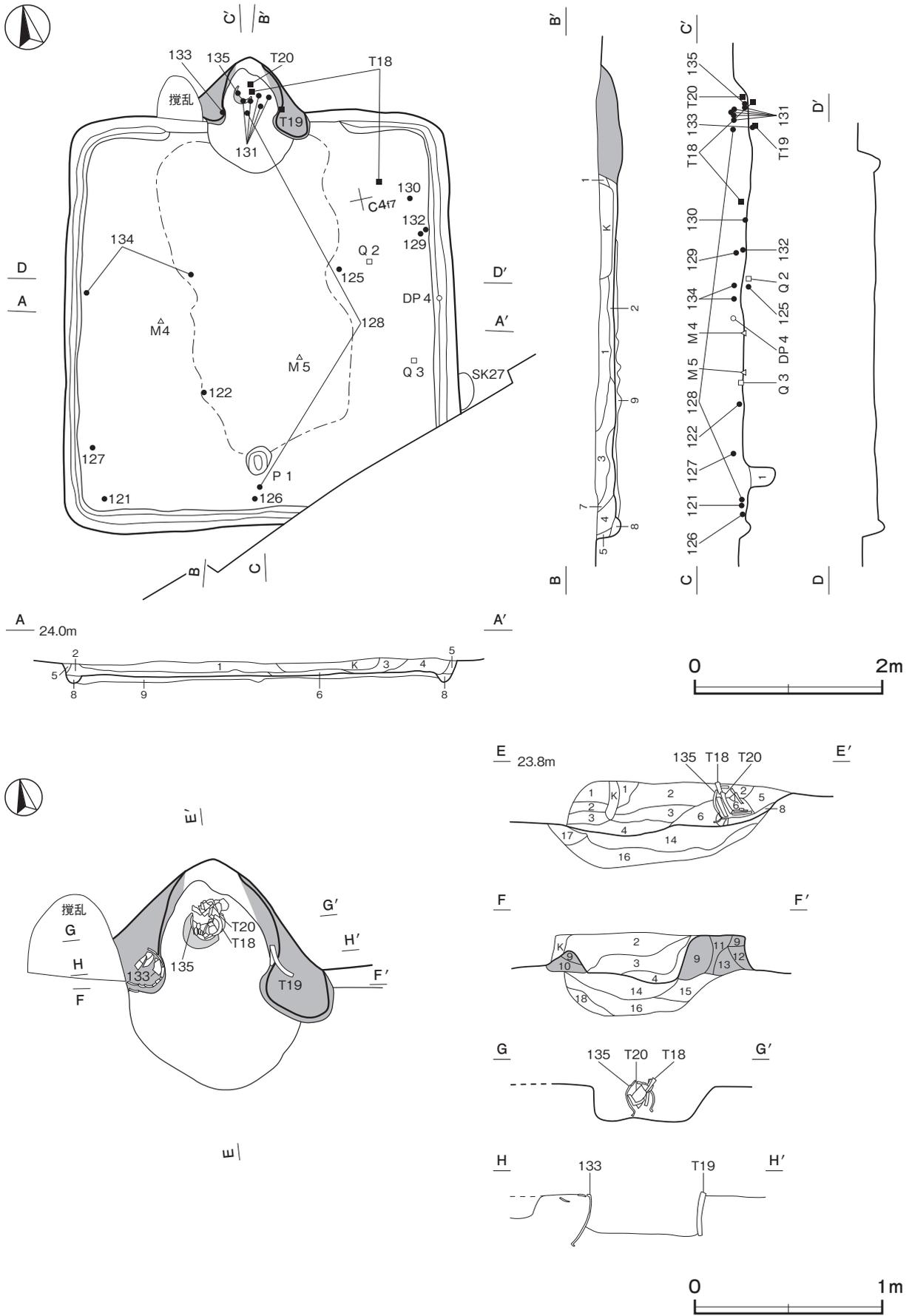
1 黒褐色	焼土粒子多量, ローム粒子少量
-------	-----------------

覆土 8 層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。第 9 層は貼床の構築土である。

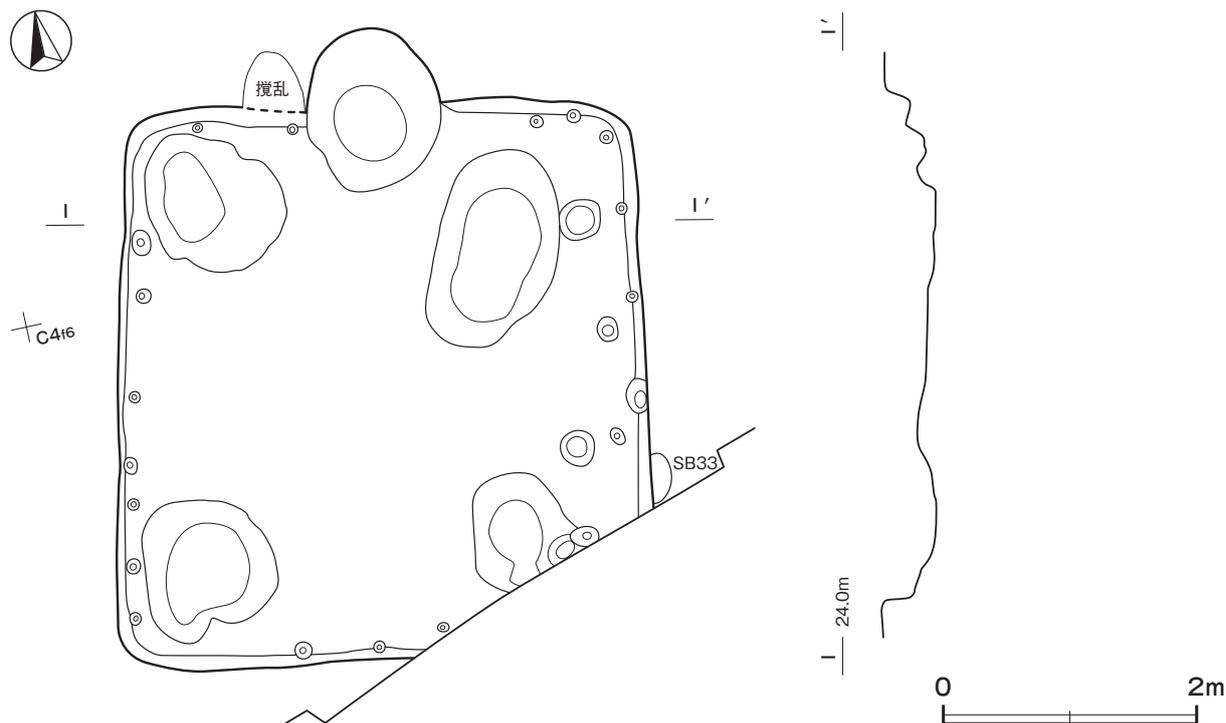
土層解説

1 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量	6 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子中量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子少量	7 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	8 褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量	9 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子中量
5 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片 436 点 (坏 82, 椀 1, 高台付坏 4, 高台付椀 1, 皿 2, 鉢 1, 小形甕 1, 甕類 344), 須恵器片 233 点 (坏 74, 高台付坏 1, 蓋 1, 皿 1, 鉢 2, 甕類 149, 甗 5), 土製品 1 点 (紡錘車), 石器 2 点 (砥石), 金属製品 2 点 (刀子, 鉄鏃), 瓦 5 点 (丸瓦 1, 平瓦 4) が出土している。122・M 5 は中央部, 121



第 68 图 第 82 号竖穴建物迹实测图 (1)



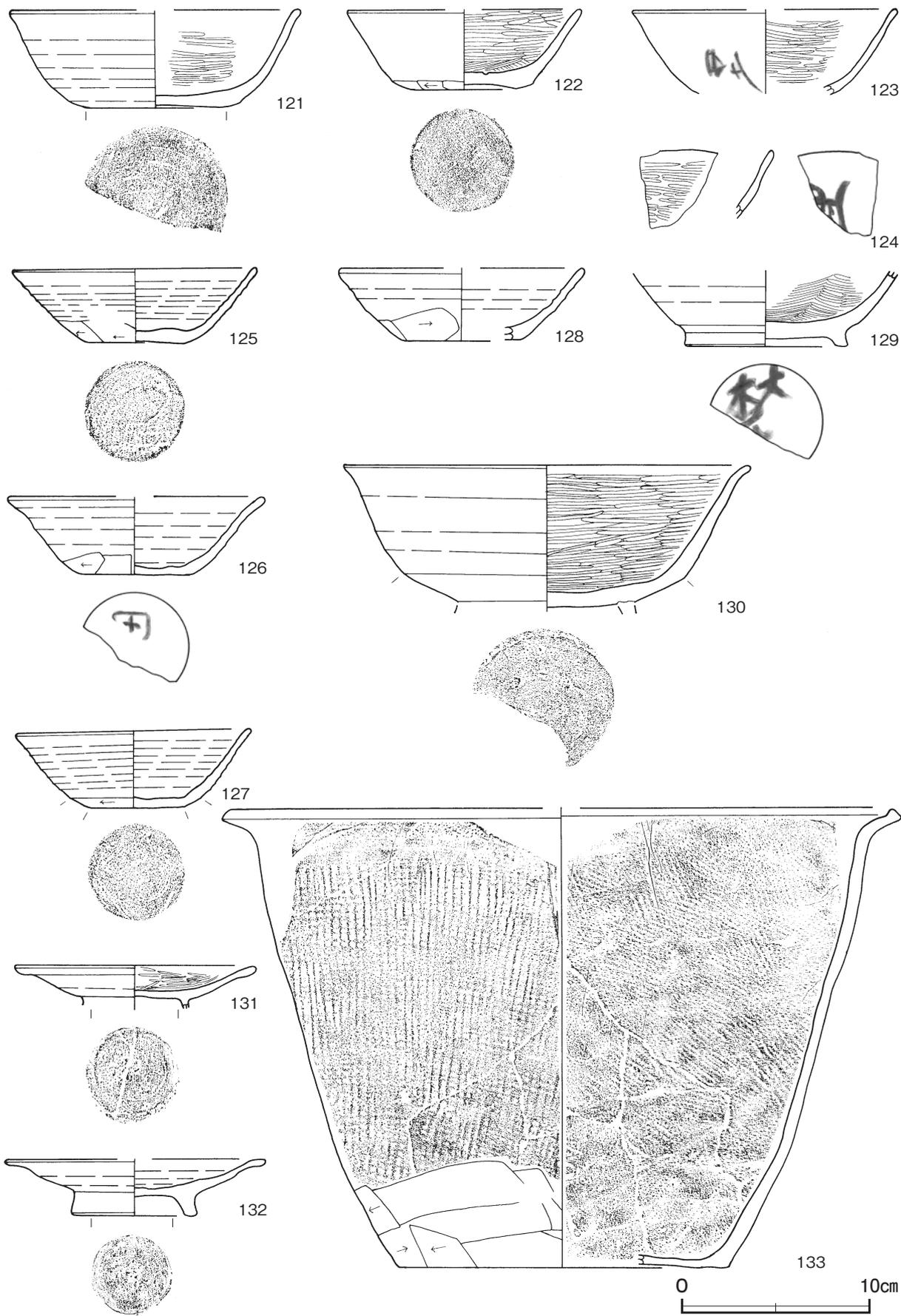
第 69 図 第 82 号竪穴建物跡実測図 (2)

は南西コーナー部, 130・132・Q 3 は東部, M 4 は西部, 126・128 は南壁際の床面からそれぞれ出土している。128 は竈内から出土した破片と接合している。135 は竈の火床面に支脚として逆位に伏せられた状態で出土している。T18・T20 は 135 の内側に縦位に据えられた状態で出土している。T18 は北東コーナー部の覆土中層から出土した破片と接合している。133 は左袖部に逆位の状態, T19 は右袖部に縦位の状態で補強材として据えられて出土している。

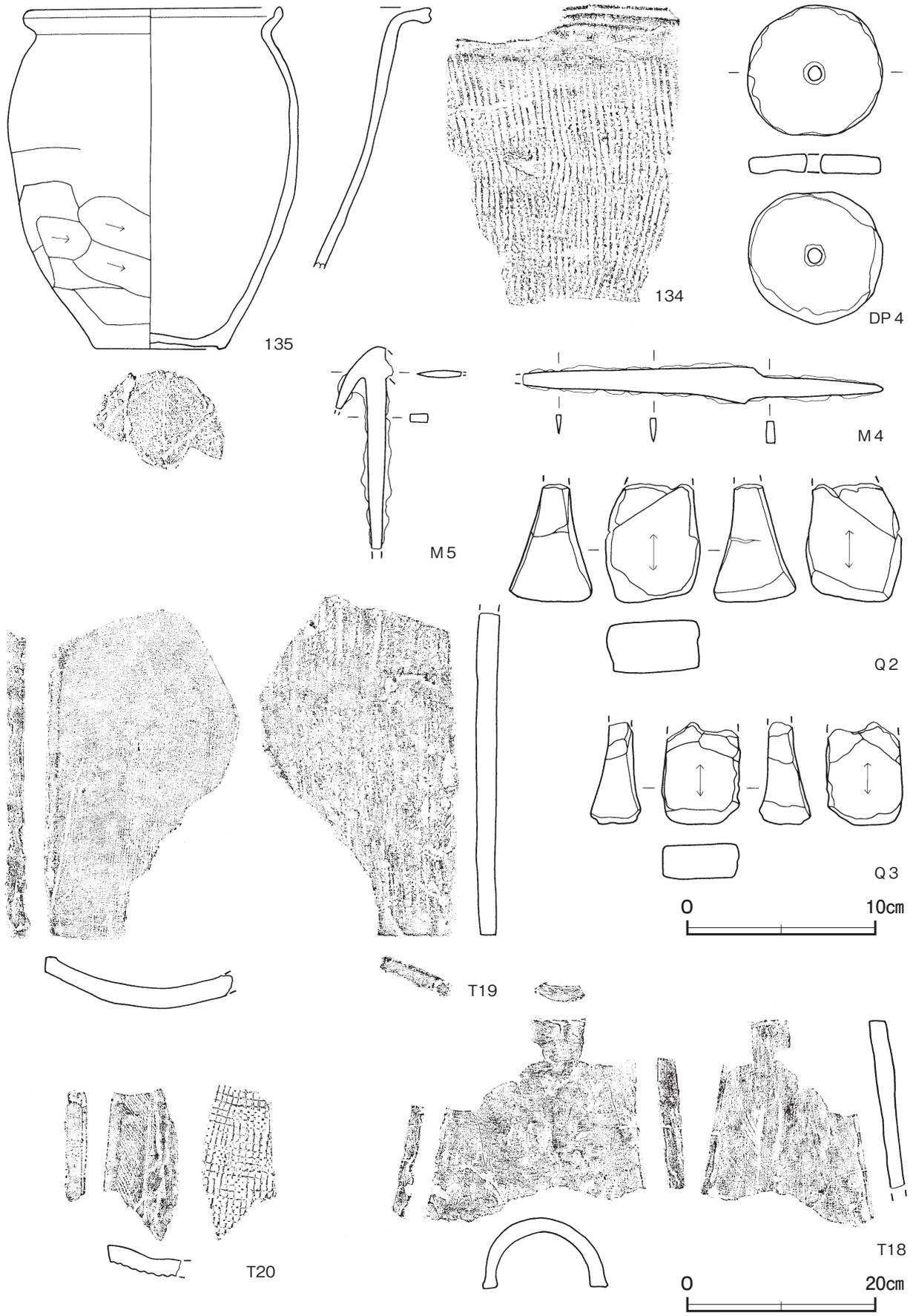
所見 時期は, 出土土器から 9 世紀後葉に比定できる。

第 82 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 70・71 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
121	土師器	坏	[15.4]	5.3	7.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	内面へら磨き 黒色処理 底部回転へら削り	床面	30%
122	土師器	坏	[12.4]	4.3	5.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちへら削り 内面へら磨き 棒状工具痕 黒色処理 底部一方向のへら削り	床面	60%
123	土師器	坏	[14.2]	(4.5)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	内面へら磨き 黒色処理 体部外面墨書「里」	覆土中	20% PL17
124	土師器	坏	-	(3.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面へら磨き 黒色処理 体部外面墨書「里」	覆土中	5% PL17
125	須恵器	坏	12.8	4.0	5.2	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちへら削り 底部一方向のへら削り	貼床構築土	95% 新治窯 PL15
126	須恵器	坏	[13.5]	4.2	6.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちへら削り 底部一方向の手持ちへら削り 底部外面墨書「里」	床面	30% 新治窯 PL17
127	須恵器	坏	12.5	4.4	5.0	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端回転へら削り 底部回転糸切り痕を残す一方向の手持ちへら削り	覆土中層	70% 新治窯 PL15
128	須恵器	坏	[12.8]	3.9	[6.3]	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちへら削り 底部手持ちへら削り	床面	20% 新治窯
129	土師器	高台付坏	-	(4.1)	[8.6]	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内面へら磨き 黒色処理 底部外面墨書「禁」	覆土中層	30% PL17
130	土師器	高台付碗	21.4	(7.8)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	明褐	普通	体部下端回転へら削り 内面へら磨き 黒色処理 底部回転へら削り	床面	90% PL16
131	土師器	皿	12.8	(2.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面へら磨き 黒色処理 底部回転へら削り 二次焼成	覆土中	95% PL15
132	須恵器	皿	[13.8]	3.0	6.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転へら削り 二次焼成	床面	50% 新治窯
133	須恵器	鉢	[35.4]	24.8	[17.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部外面擬格子目叩き 下位へら削り 内面へら削り	左袖部	30% 新治窯 PL16
134	須恵器	鉢	-	(14.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	体部外面縦位の平行叩き 内面へら削り 輪積痕	覆土中層	10% 新治窯 PL17
135	土師器	小形甕	13.5	18.5	7.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下半へら削り	火床面	60% 支脚転用 PL16



第70图 第82号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第71図 第82号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 4	紡錘車	7.2	1.1	0.8	71.2	長石・石英・針状物質	にぶい赤褐	土師器甕片転用	覆土中層	PL18

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 2	砥石	(6.4)	5.1	4.4	(145.7)	凝灰岩	砥面2面	貼床構築土	PL18
Q 3	砥石	(5.5)	4.2	2.7	(67.6)	凝灰岩	砥面2面	床面	PL18

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 4	刀子	(19.4)	2.0	0.4	(31.9)	鉄	刃先欠損 刃部断面三角形 茎部長方形	床面	PL18
M 5	鎌	(10.9)	2.6	0.4	(43.4)	鉄	幅広の鎌身部 有頸式 鎌身部に深い腸袂 鎌身部・茎部一部欠損	床面	

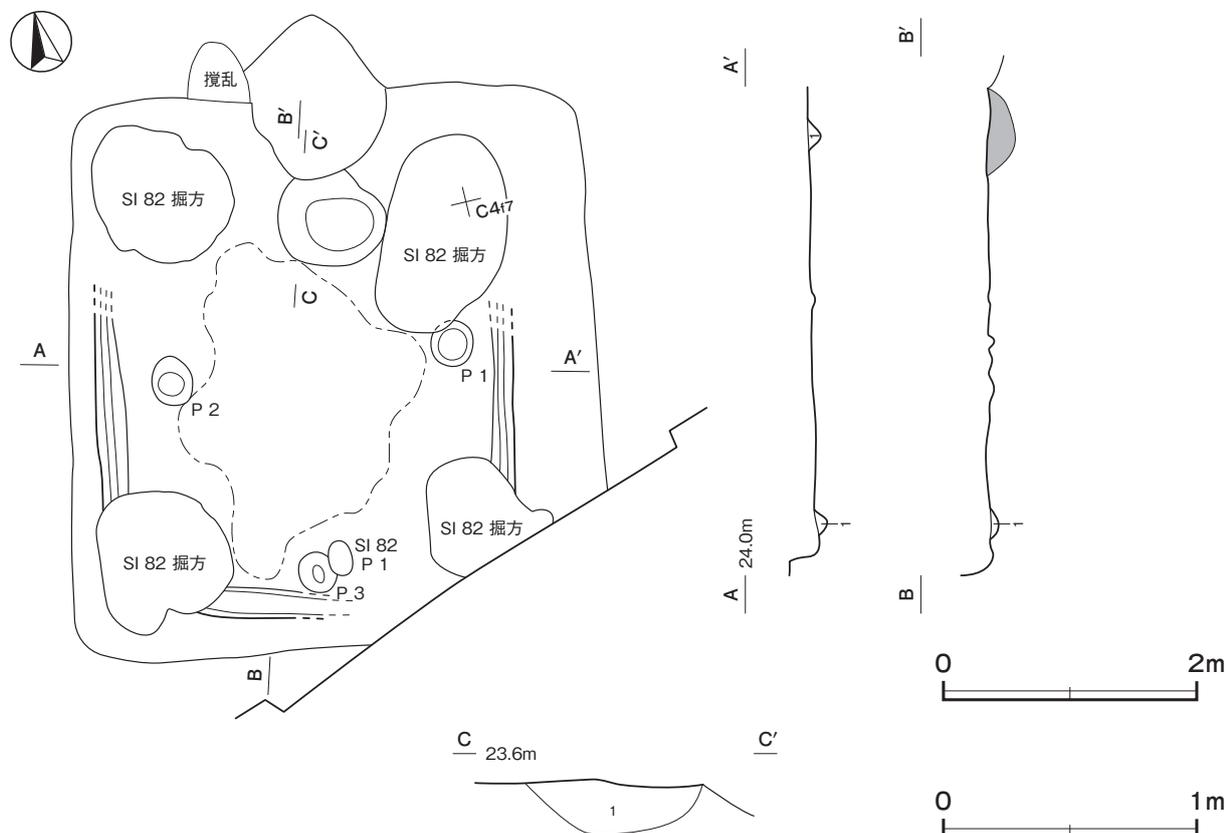
番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
T 18	瓦	丸瓦	(13.3)	7.4	(23.1)	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	凸面・側面・端面削り 凹面布目痕 粘土合わせ目を指ナデ	火床面	PL22 支脚転用
T 19	瓦	平瓦	(20.0)	5.2	(35.0)	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	凸面縄叩き 縁幅広の削り 凹面模骨痕削り 側面端面削り	右袖部	PL22
T 20	瓦	平瓦	(7.0)	3.0	(17.2)	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	凸面格子叩き 凹面模骨痕 糸切り痕 削り調整 粘土合わせ目を指ナデ	火床面	支脚転用

第 83 号 竪穴建物跡 (第 72 図)

位置 調査区北西部の C 4 f6 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 82 号 竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 上部に第 82 号 竪穴建物に構築されているため, 確認できた壁溝と竈の掘方から, 一辺 3.30 m ほどの方形で, 主軸方向は N - 13° - E である。



第 72 図 第 83 号 竪穴建物跡実測図

床 床は第82号竪穴建物の貼床の下部から確認された。平坦で、中央部が踏み固められている。地山をそのまま床として利用している。壁溝が北壁と南東コーナー部を除いて巡っている。

竈 北壁に付設されている。第82号竪穴建物に掘り込まれていることから長径84cm、短径80cmの掘りしか確認できなかった。掘りは不整楕円形で23cmほど掘りくぼめ、ロームブロックや粘土ブロックを含む第1層を埋土している。

竈土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化物中量

ピット 3か所。P1・P2は深さ11cm・14cmで、東部と西部に配置されていることから支柱穴である。P3は南壁寄りに位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 第1層は壁溝の覆土である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量

所見 本跡は第82号竪穴建物の下部から確認され、同じ主軸を持つことから、第82号竪穴建物の拡張前の竪穴建物と考えられる。本跡に属する出土土器がないため時期を断定することはできないが、第82号竪穴建物より古い、時期と時間差はあまりない。9世紀後葉と考えられる。

表4 平安時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長軸×短軸(m)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
								支柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
58	C4d6	N-25°-E	方形	3.90	18~24	平坦	ほぼ全周	-	1	-	北東壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土瓦, 土製品, 金属製品	9世紀中葉	
60	D3c3	N-33°-E	方形	2.66	18~21	平坦	-	-	1	-	北東壁	-	人為	土師器, 須恵器	9世紀後葉	
62	D2a9	N-42°-E	長方形	3.24×2.50	14~20	平坦	-	-	-	-	北東壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 石器, 瓦	9世紀中葉	
66	D3i3	N-24°-E	方形	3.15	5~10	平坦	全周	-	-	-	北東壁	-	人為	土師器, 須恵器, 瓦	9世紀前葉	
67	E2b3	N-21°-E	方形	4.08	5~18	平坦	全周	2	1	3	北東壁	-	-	土師器, 須恵器, 土製品	9世紀前葉	SB23→本跡
68	D2c8	N-21°-E	長方形	3.60×3.25	8~12	平坦	一部	-	-	-	北東壁	-	人為	土師器, 須恵器	9世紀中葉	本跡→SK 5, SD18
69	D3g2	N-32°-E	方形	3.12	6~8	平坦	全周	-	1	2	北東壁	-	-	土師器, 須恵器	9世紀後葉	
70	D2j9	N-18°-E	方形	3.56	2~4	平坦	一部	-	1	-	北壁	-	-	土師器, 須恵器	9世紀前葉	
71	E3c4	N-25°-E	方形	3.20	16~20	平坦	ほぼ全周	2	1	1	北東壁	-	人為	土師器, 須恵器, 金属製品, 瓦	9世紀中葉	
72	E2c8	N-20°-E	方形	2.88×(1.80)	5~6	平坦	-	-	-	5	北壁中央部	-	-	土師器, 須恵器	9世紀中葉	
73	E3e1	N-14°-E	長方形	3.01×2.08	15~20	平坦	全周	2	-	1	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 瓦	9世紀中葉	
75	D2f9	N-15°-E	方形	5.00	10~16	平坦	ほぼ全周	4	1	5	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 瓦	9世紀中葉	本跡→SK 6, SD18
76	E2e8	N-42°-E	方形	2.49×(2.46)	-	平坦	一部	-	-	-	-	-	-	-	9世紀代	
78	E3e3	N-15°-E	長方形	3.22×2.64	10~12	平坦	全周	-	-	-	北西コーナー	-	人為	土師器, 須恵器, 瓦	9世紀中葉	
81	C3h9	N-26°-E	方形	3.32×(3.14)	12~24	平坦	半周	-	-	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品	9世紀後葉	SB25→本跡→SD 4
82	C4f6	N-13°-E	方形	4.50×4.24	12~20	平坦	ほぼ全周	-	1	-	北壁	-	自然	土師器, 須恵器, 土瓦, 土製品, 金属製品	9世紀後葉	SI 83, SK26・27→本跡
83	C4f6	N-13°-E	方形	3.30	-	平坦	一部	2	1	-	北壁	-	-	-	9世紀後葉	本跡→SI 82

(2) 掘立柱建物跡

第19号掘立柱建物跡 (第73・74図 PL11)

位置 調査区中央部のD2d7区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-14°-Eの南北棟である。規模は、桁行5.7m、梁行3.6mで、面積は20.52㎡である。柱間寸法は桁行が北妻から1.8m（6尺）、1.8m（6尺）、2.1m（7尺）、梁行が1.5m（5尺）、2.1m（7尺）で、柱筋は揃っている。P4、P6、P8の底面で、柱のあたりを確認した。

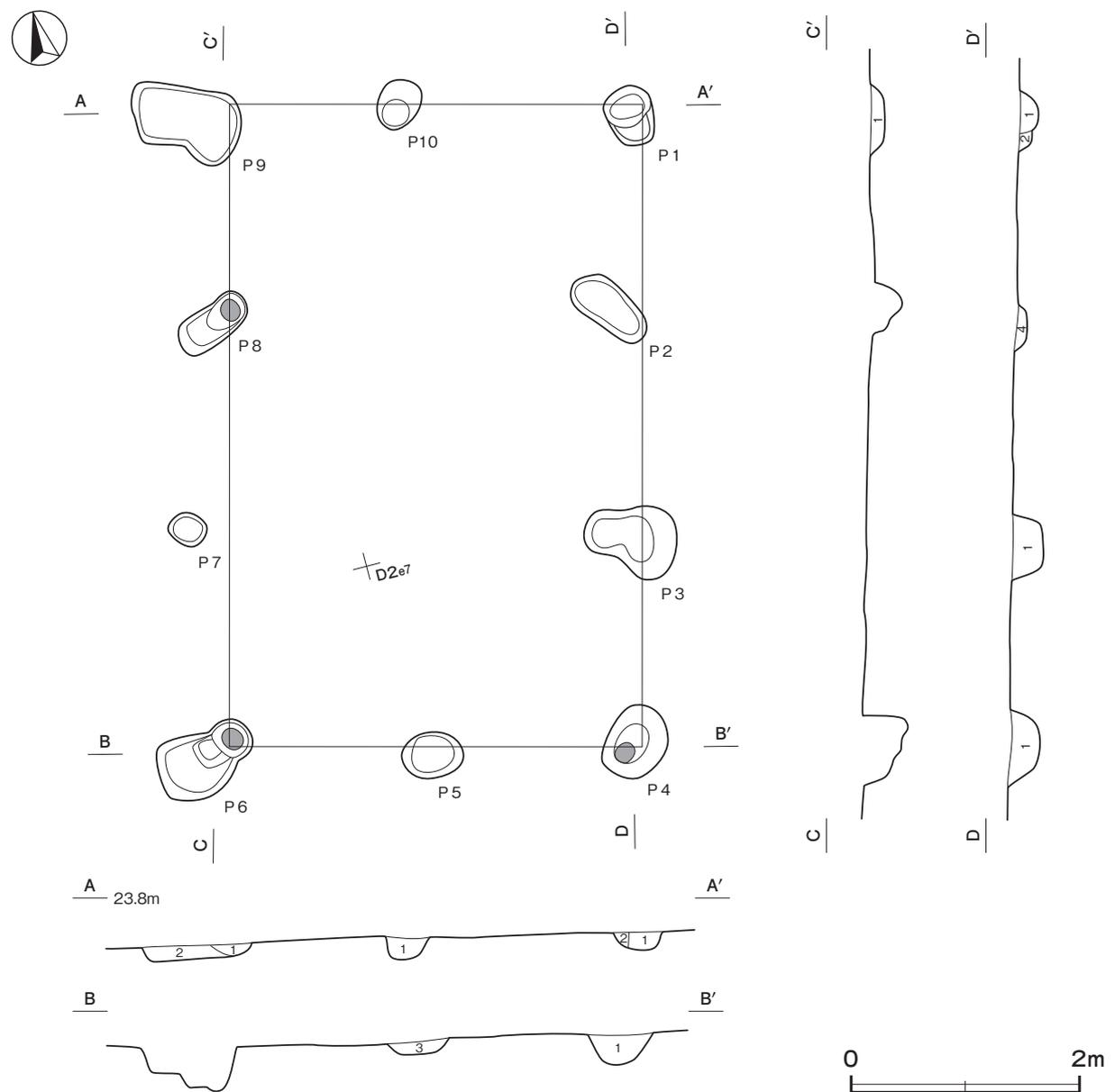
柱穴 10か所。平面形は楕円形又は不整楕円形で、長径32~98cm、短径28~65cmである。深さ8~40cmで、掘方の断面は逆台形又はU字形である。第1層は柱痕、第2~4層が埋土である。

土層解説（各ピット共通）

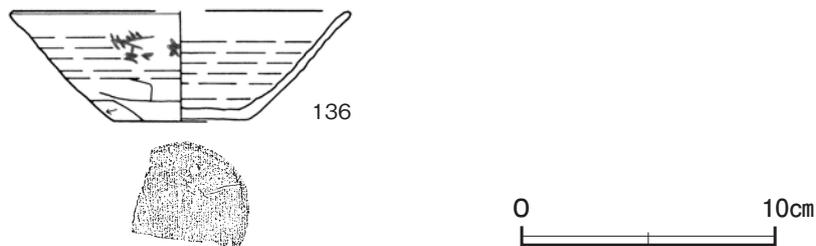
- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 3 黒褐色 ロームブロック多量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量 | 4 黒褐色 灰黄色粘土ブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片13点（坏2・甕類11）、須恵器片12点（坏1、甕類11）が出土している。136は柱穴の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第73図 第19号掘立柱建物跡実測図



第74図 第19号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第19号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第74図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
136	須恵器	坏	[13.4]	4.4	[5.3]	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	体部下端手持ちへら削り 底部不定方向のへら削り 体部外面墨書「□□」	覆土中	20% 新治窯

第26号掘立柱建物跡（第75・76図 PL11）

位置 調査区中央部のC 4 f2区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第27号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。第28・29号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-21°-Eの南北棟である。規模は、桁行5.4m、梁行4.2mで、面積は22.68㎡である。柱間寸法は、桁行が1.8m（6尺）、梁行が2.1m（7尺）で、柱筋は揃っている。

柱穴 10か所。平面形は隅丸方形又は楕円形で、長軸76～112cm、短軸70～95cmである。深さ38～50cmで、掘方の断面は逆台形又はU字形である。第1層は柱痕、第2～17層が埋土である。

土層解説（各ピット共通）

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック中量，ロームブロック微量 | 10 黒色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子多量 | 11 黒褐色 ロームブロック多量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子少量 | 12 黒褐色 ローム粒子多量 |
| 4 黒色 ロームブロック多量 | 13 黒褐色 粘土ブロック多量，ロームブロック中量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック中量 | 14 黒褐色 粘土ブロック多量 |
| 6 暗褐色 ロームブロック少量 | 15 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 7 黒色 ローム粒子中量 | 16 黒色 ロームブロック少量 |
| 8 黒褐色 ロームブロック微量 | 17 暗褐色 ロームブロック多量 |
| 9 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量 | |

遺物出土状況 土師器片15点（高台付坏1，皿1，甕類13），須恵器片32点（坏4，高台付坏1，蓋1，甕類26）が出土している。137はP2の覆土中から出土している。

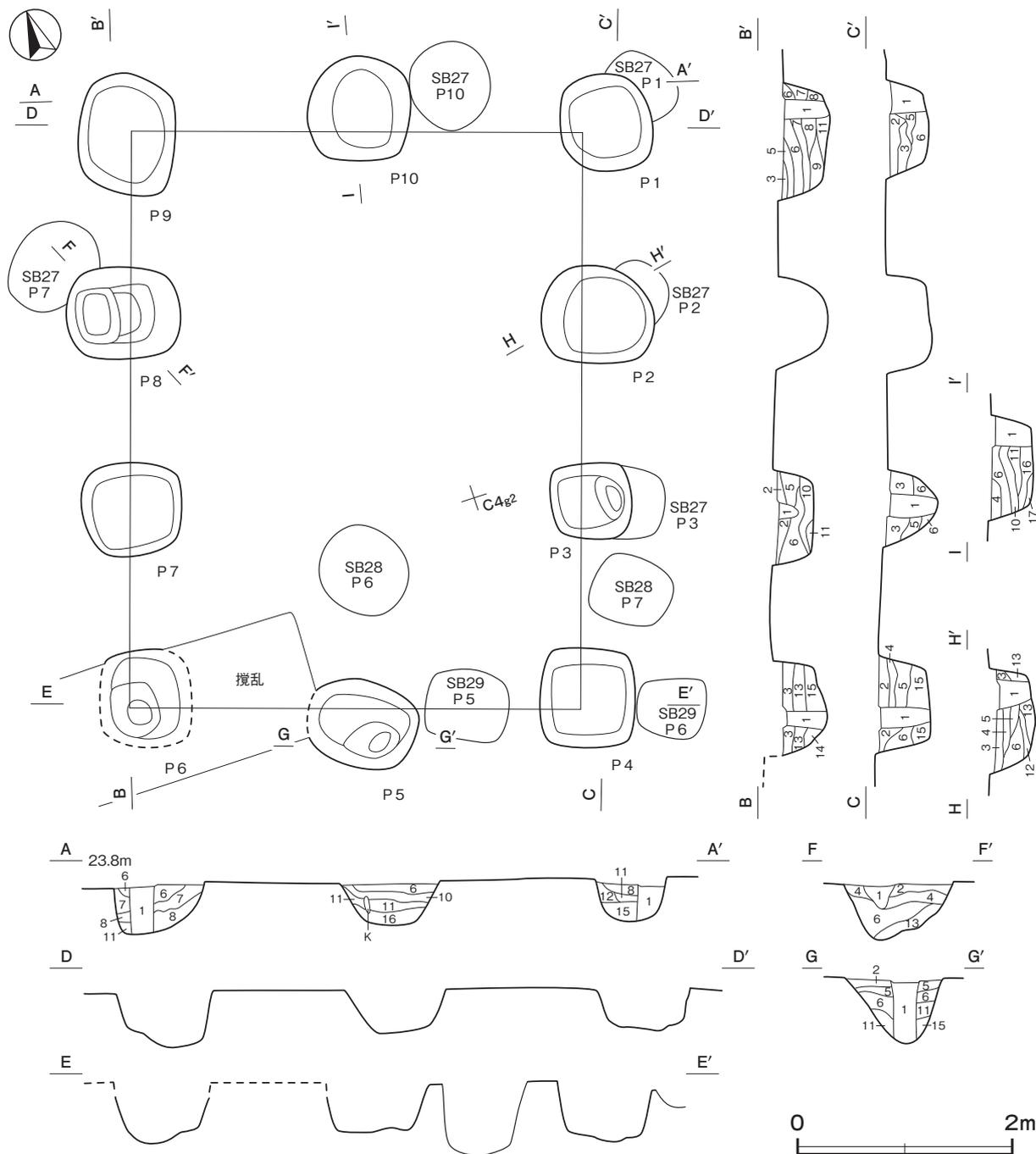
所見 時期は、出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第75図 第26号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第26号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第75図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
137	土師器	高台付坏	-	(2.5)	[5.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	高台貼付	P2覆土中	5%



第76図 第26号掘立柱建物跡実測図

第28号掘立柱建物跡 (第77・78図 PL11)

位置 調査区中央部のC 4g2区, 標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第26・29号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

規模と構造 南東部が調査区域外に延びているため, 梁行は4.2mで, 桁行は6.0mしか確認できなかった。柱間寸法は, 桁行が北妻から2.4m(8尺), 1.8m(6尺), 1.8m(6尺), 梁行が2.4m(8尺), 1.8m(6尺)で, 柱筋は揃っている。

柱穴 7か所。平面形は隅丸方形又は楕円形で, 長径64~88cm, 短径51~80cmである。深さ38~52cmで,

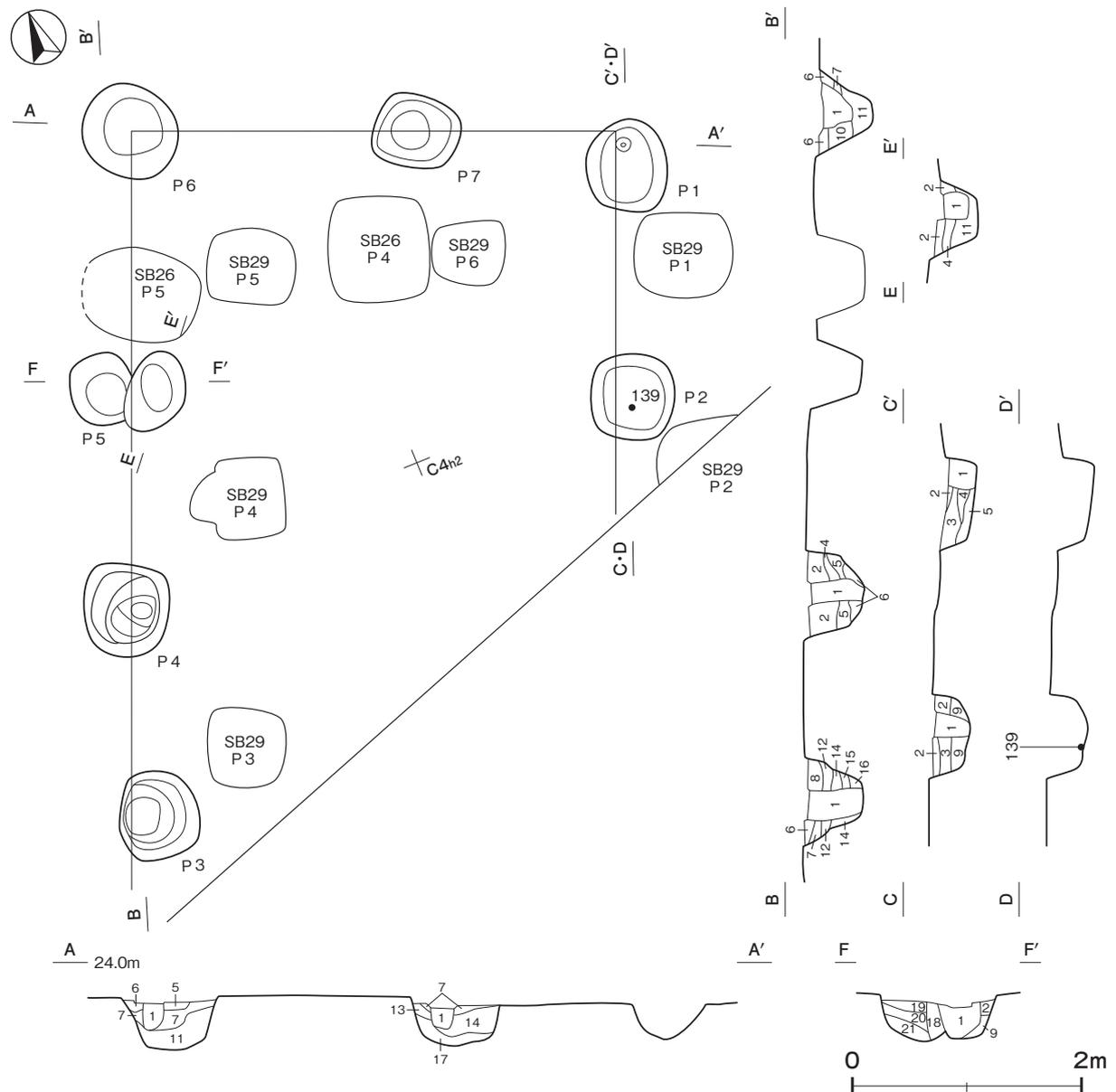
掘方の断面は逆台形又はU字形である。第1層は柱痕、第2～21層が埋土である。

土層解説 (各ピット共通)

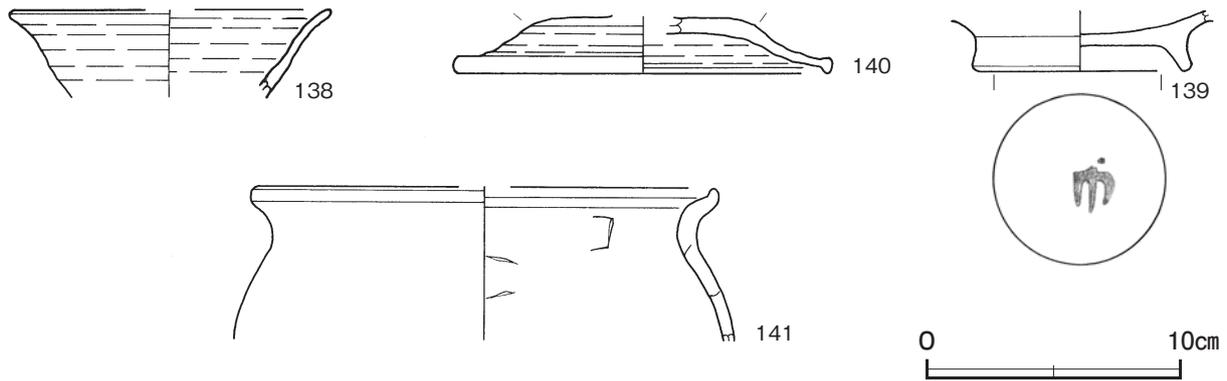
- | | | | |
|-------|---------------------|--------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒色 | ロームブロック微量 | 13 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 黒色 | ロームブロック多量 | 14 黒色 | ロームブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量 | 15 黒褐色 | ローム粒子多量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量 | 16 黒色 | ローム粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック中量 | 17 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 7 黒褐色 | ロームブロック多量 | 18 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 8 黒褐色 | ロームブロック少量 | 19 黒色 | ロームブロック中量 |
| 9 黒色 | ロームブロック・粘土ブロック微量 | 20 黒色 | ローム粒子多量 |
| 10 黒色 | 粘土ブロック多量, ロームブロック中量 | 21 黒色 | ローム粒子少量 |
| 11 黒色 | ローム粒子中量 | | |

遺物出土状況 土師器片 12点 (蓋1, 甕類11), 須恵器片 8点 (坏5, 高台付坏1, 蓋1, 甕類1) が出土している。139はP2の覆土下層, 138・140・141はP5の覆土中から出土している。

所見 時期は, 埋土の出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第77図 第28号掘立柱建物跡実測図



第 78 図 第 28 号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第 28 号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第 78 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
138	須恵器	坏	[12.6]	(3.5)	-	長石・石英	灰褐	普通	体部外・内面ロクロナデ	P 5 覆土中	10%
139	須恵器	高台付坏	-	(2.5)	8.2	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部回転ヘラ削り 底部墨書「天々」	P 2 覆土下層	20% PL17 新治窯
140	須恵器	蓋	[14.8]	(2.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	天井部回転ヘラ削り	P 5 覆土中	30% 新治窯
141	土師器	甕	[18.2]	(6.3)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	内面ヘラ当て痕 輪積痕	P 5 覆土中	5%

第 29 号掘立柱建物跡 (第 79 図 PL11)

位置 調査区中央部の C 4 g2 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 26・28 号掘立柱建物跡と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と構造 南東部が調査区域外に延びているため, 梁行は 4.2 m で, 桁行は 4.2 m しか確認できなかった。柱間寸法は, 桁行が 2.1 m (7 尺), 梁行が 2.1 m (7 尺) で, 柱筋は揃っている。

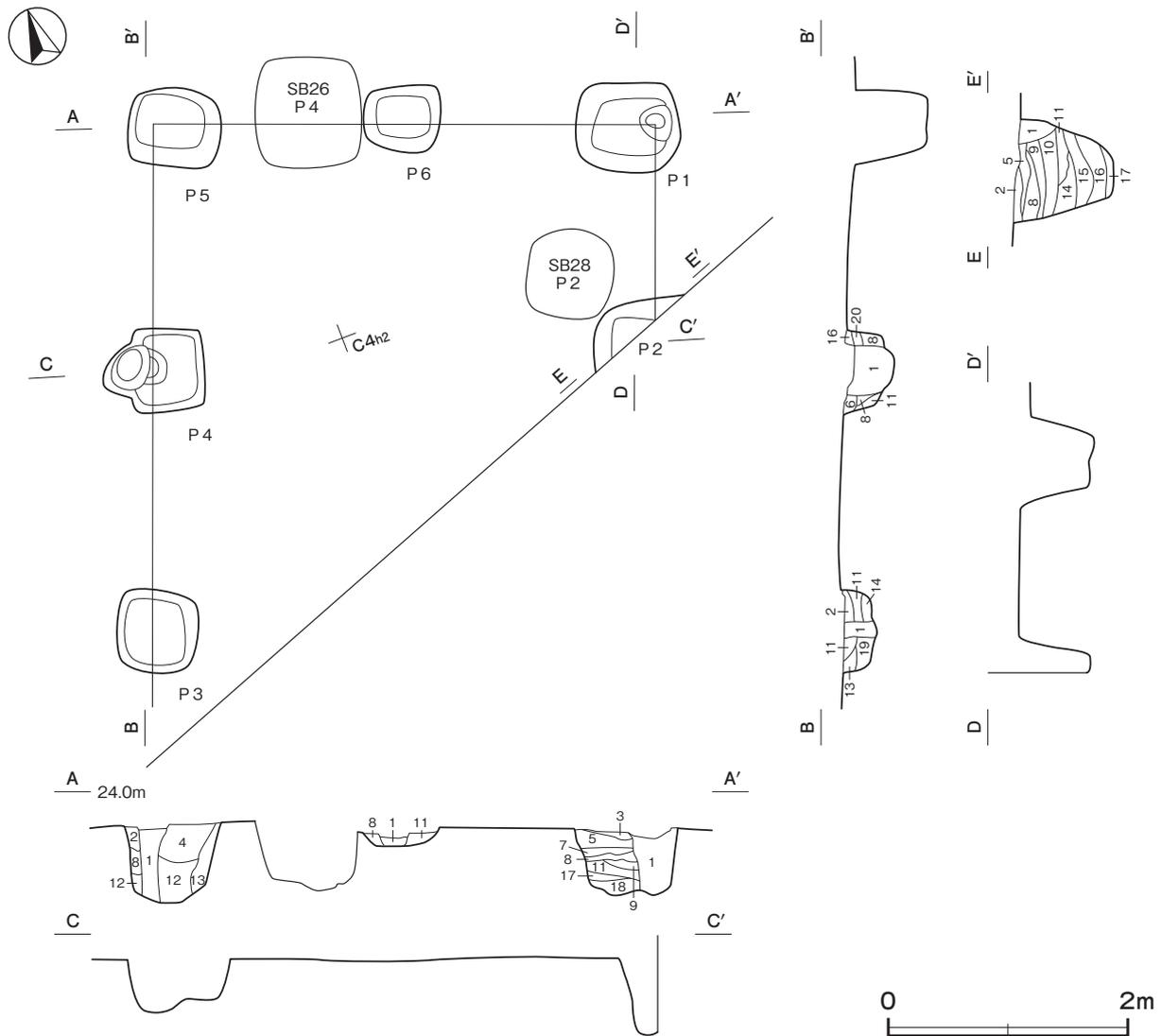
柱穴 6 か所。平面形は隅丸方形又は不整形で, 長軸 63 ~ 86 cm, 短軸 56 ~ 74 cm である。深さ 16 ~ 84 cm で, 掘方の断面は逆台形である。第 1 層は柱痕, 第 2 ~ 20 層が埋土である。

土層解説 (各ピット共通)

1 黒 褐色	ロームブロック微量	11 黒 褐色	黄褐色粘土ブロック多量
2 黒 色	ローム粒子少量	12 黒 褐色	黄褐色粘土ブロック中量
3 黒 色	ローム粒子中量	13 黒 色	ロームブロック少量
4 黒 褐色	粘土粒子多量	14 黒 褐色	ロームブロック少量
5 黒 色	粘土ブロック中量	15 黒 色	黄褐色粘土ブロック中量
6 暗 褐色	ロームブロック少量	16 黒 褐色	黄褐色粘土ブロック多量
7 黒 褐色	粘土ブロック多量	17 黒 色	黄褐色粘土ブロック少量
8 黒 色	黄褐色粘土粒子中量	18 暗 褐色	ロームブロック中量
9 黒 色	粘土ブロック多量	19 黒 色	ロームブロック中量
10 黒 色	ロームブロック・粘土ブロック少量	20 黒 褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片 7 点 (甕類), 須恵器片 13 点 (坏 3, 蓋 1, 甕類 9) が出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は, 出土土器から 9 世紀前葉と考えられる。



第 79 図 第 29 号掘立柱建物跡実測図

第 30 号掘立柱建物跡 (第 80・81 図)

位置 調査区中央部の C 4 f4 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 31 号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造 南東部が調査区域外に延びていることから, 梁行は 6.6 m で, 桁行は 5.7 m しか確認できなかった。柱間寸法は, 桁行が北妻から 2.1 m (7 尺), 2.1 m (7 尺), 1.5 m (5 尺), 梁行が 2.1 m (7 尺), 2.4 m (8 尺), 2.1 m (7 尺) で, 柱筋は揃っている。

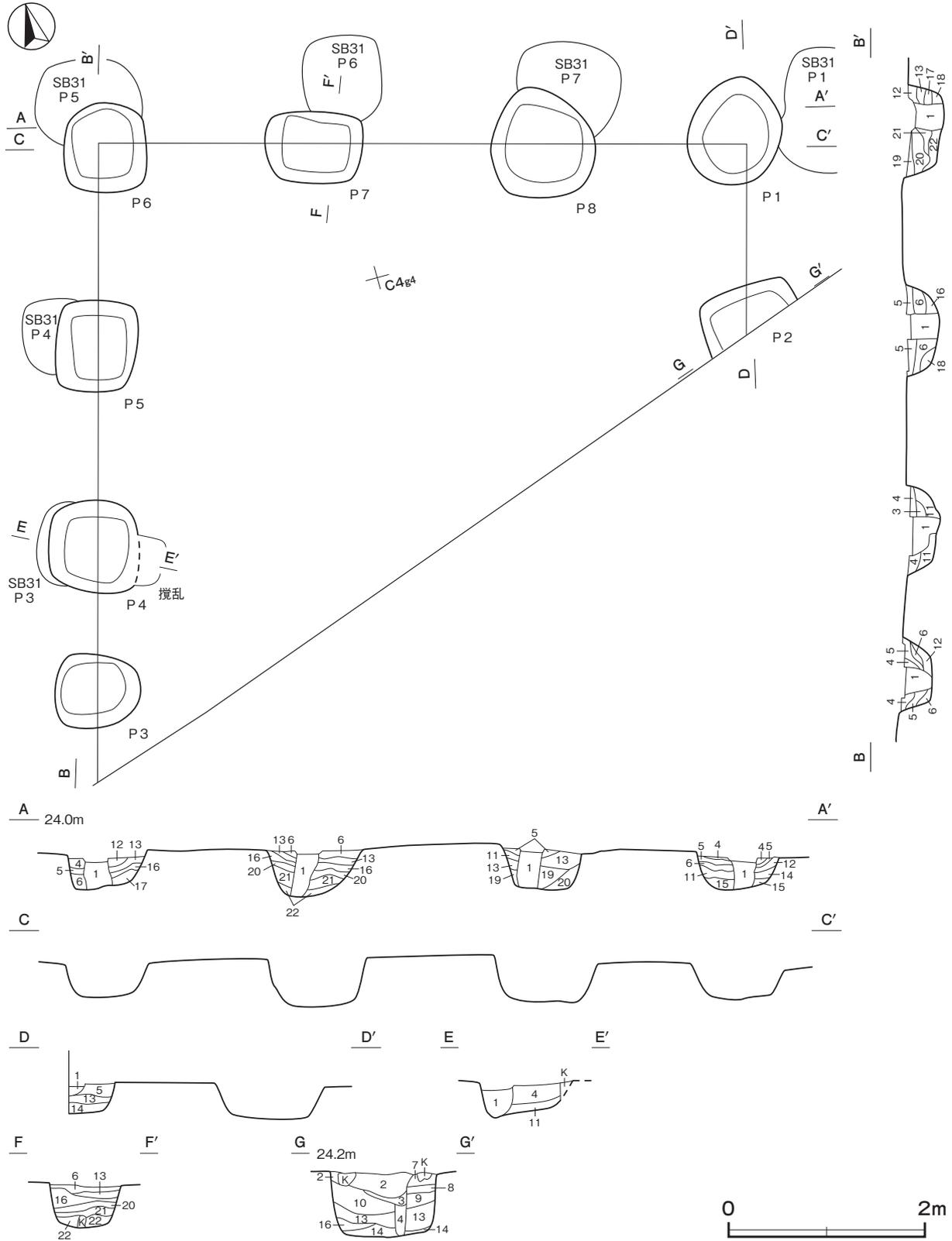
柱穴 8 か所。平面形は隅丸方形又は楕円形で, 長径 87 ~ 114 cm, 短径 73 ~ 105 cm である。深さ 30 ~ 67 cm で, 掘方の断面は逆台形である。第 1 層は柱痕, 第 2 ~ 22 層が埋土である。

土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|--------|------------------------|---------|-------------------|
| 1 黒 褐色 | ローム粒子微量 | 7 暗 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗 褐色 | ローム粒子中量 | 9 褐 色 | ロームブロック多量 |
| 4 黒 褐色 | ロームブロック少量 | 10 暗 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 5 黒 褐色 | ロームブロック多量 | 11 黒 色 | ロームブロック微量 |
| 6 黒 褐色 | ローム粒子少量 | 12 黒 褐色 | ロームブロック中量 |

- 13 黒色 ローム粒子中量
- 14 黒褐色 ロームブロック多量
- 15 暗褐色 ロームブロック多量
- 16 黒褐色 ロームブロック微量
- 17 黒色 ロームブロック少量

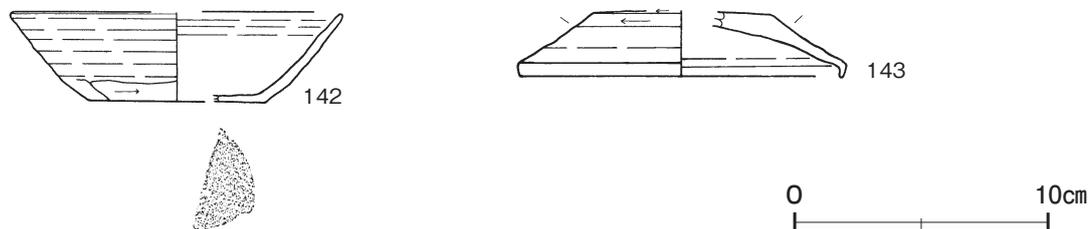
- 18 黒褐色 ローム粒子中量
- 19 黒褐色 ローム粒子多量
- 20 黒色 ロームブロック中量
- 21 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 22 黒色 ローム粒子少量



第80図 第30号掘立柱建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片 11 点（坏 1，甕類 10），須恵器片 27 点（坏 12，高台付坏 1，蓋 2，甕類 12）が出土している。142 は P 4，143 は P 3 の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から 9 世紀前葉に比定できる。



第 81 図 第 30 号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第 30 号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 81 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
142	須恵器	坏	[13.0]	3.6	[7.0]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちへら削り 底部一方向の手持ちへら削り	P 4 覆土中	5%
143	須恵器	蓋	[12.8]	(2.7)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	天井部回転へら削り	P 3 覆土中	10% 新治窯

第 31 号掘立柱建物跡（第 82・83 図）

位置 調査区中央部の C 4 f4 区，標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 30 号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と構造 南東部が調査区域外に延びていることから，梁行は 4.8 m で，桁行は 7.5 m しか確認できなかった。柱穴の配列から総柱建物跡である。柱間寸法は，桁行が北妻から 2.7 m（9 尺），2.4 m（8 尺），2.4 m（8 尺），梁行が 2.4 m（8 尺）で，柱筋は揃っている。

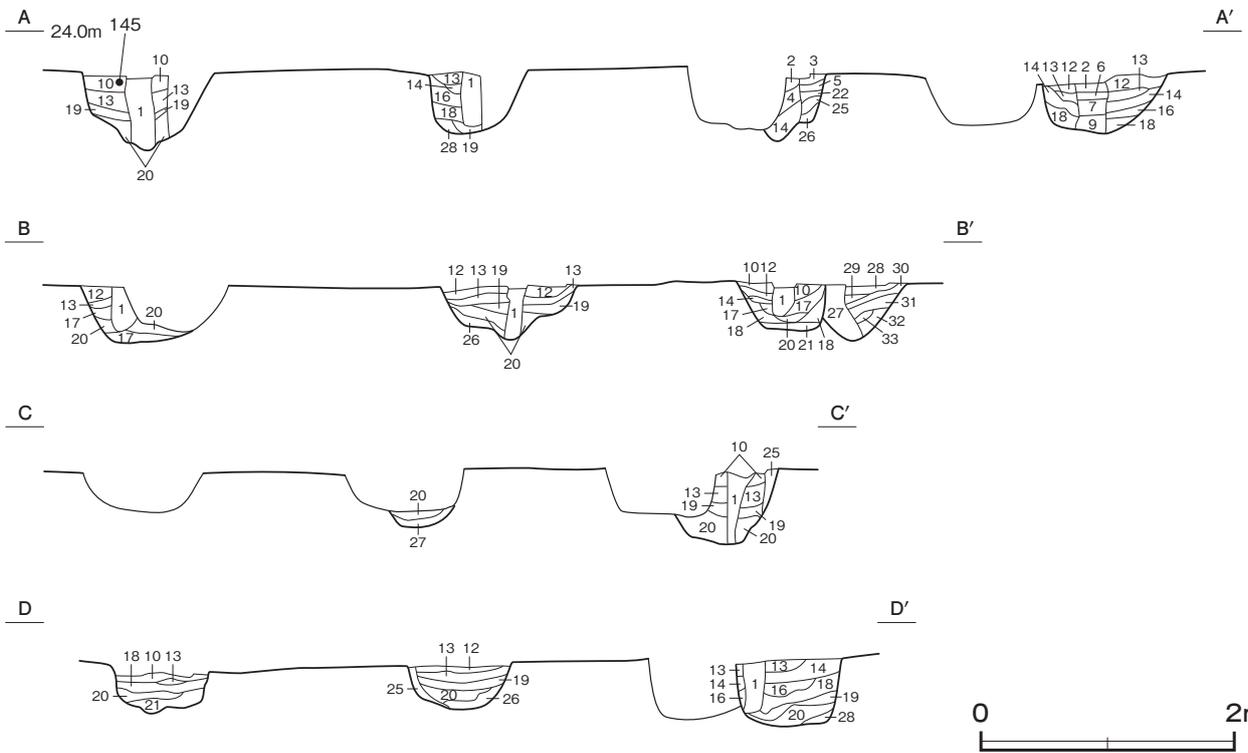
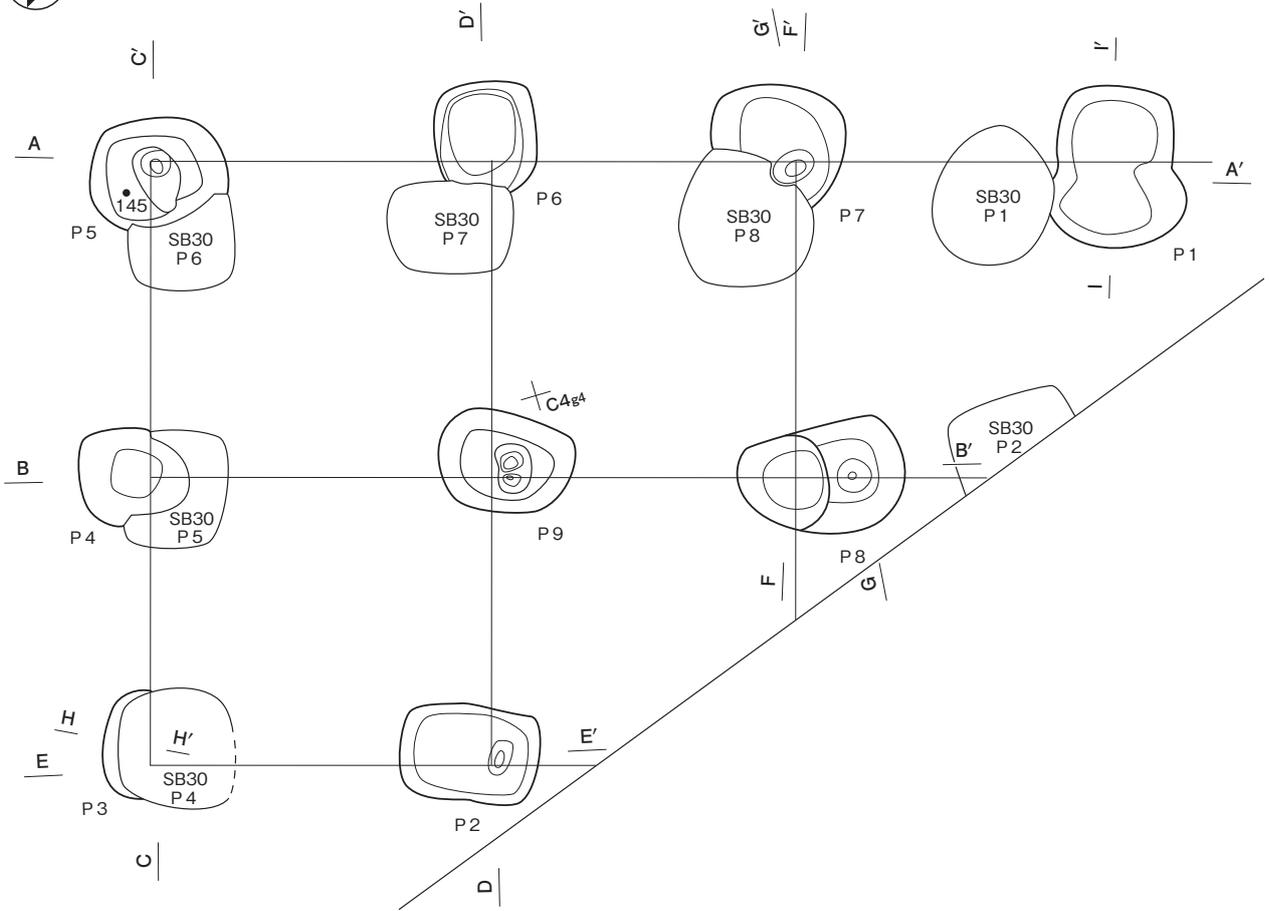
柱穴 9 か所。平面形は隅丸長方形又は不整楕円形で，長径 87～130cm，短径 75～105cm である。深さ 35～61cm で，掘方の断面は逆台形である。第 1 層は柱痕，第 2～9・14 層が柱抜き取り後の覆土，第 10・12・16～21 層が埋土である。第 27 層が P 8 の古い柱穴の柱痕，第 28～33 層が古い柱穴の埋土である。

土層解説（各ピット共通）

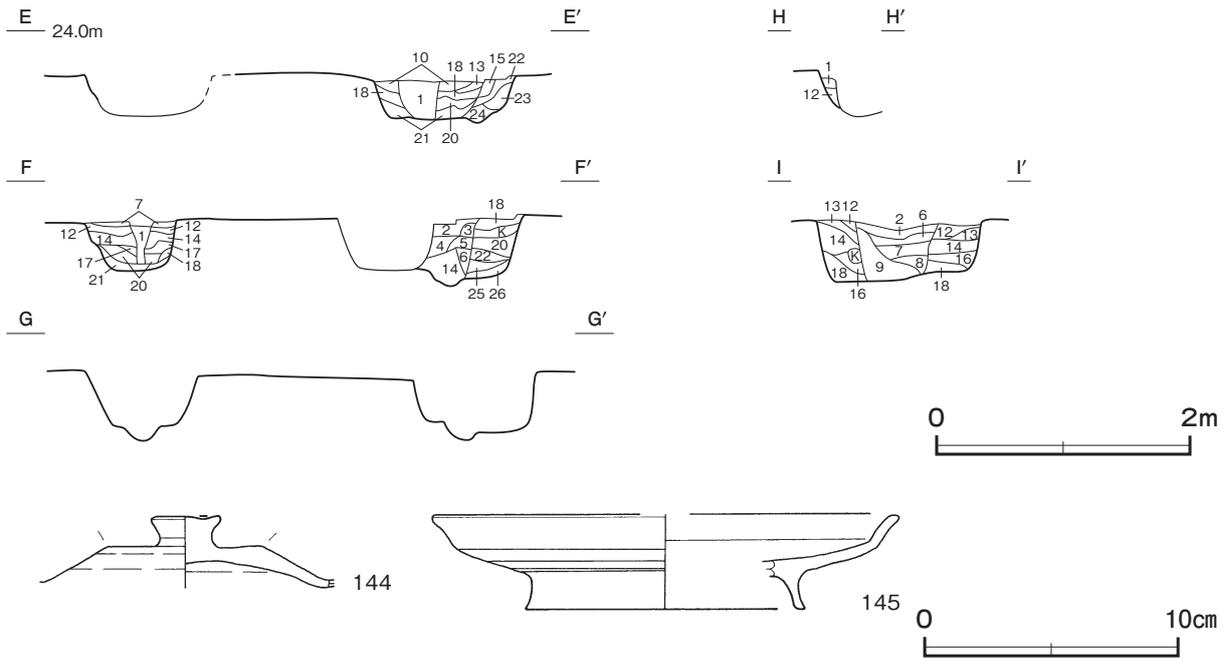
1 黒色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	18 灰褐色	ロームブロック中量
2 極暗褐色	ローム粒子微量	19 黒色	ロームブロック微量
3 黒褐色	ローム粒子中量	20 黒色	ロームブロック少量
4 暗褐色	ロームブロック少量	21 黒褐色	ローム粒子少量
5 灰褐色	ローム粒子中量	22 暗褐色	ロームブロック中量
6 暗褐色	ローム粒子少量	23 褐色	ロームブロック多量
7 黒褐色	ローム粒子多量	24 黒褐色	ロームブロック微量
8 黒褐色	ロームブロック少量	25 暗褐色	ロームブロック中量
9 黒褐色	ロームブロック中量	26 黒褐色	ロームブロック微量
10 黒褐色	ローム粒子微量	27 黒褐色	ロームブロック多量
11 灰褐色	ロームブロック少量	28 暗褐色	ロームブロック少量
12 極暗褐色	ロームブロック少量	29 黒褐色	ロームブロック微量
13 黒色	ローム粒子微量	30 黒褐色	ロームブロック多量
14 極暗褐色	ローム粒子少量	31 黒褐色	ローム粒子微量
15 灰褐色	ロームブロック多量	32 極暗褐色	ロームブロック微量
16 黄褐色	ロームブロック多量，粘土ブロック微量	33 暗褐色	ロームブロック微量
17 極暗褐色	ロームブロック微量		

遺物出土状況 土師器片 12 点（坏 1，高台付坏 1，甕類 10），須恵器片 30 点（坏 11，蓋 1，盤 1，甕類 16，甗 1）が出土している。145 は P 5 の覆土上層，144 は P 7 の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から 9 世紀前葉に比定できる。



第 82 图 第 31 号掘立柱建物跡実測图



第 83 図 第 31 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第 31 号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第 83 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
144	須恵器	蓋	-	(2.9)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り	P 7 覆土中	20% 新治窯
145	須恵器	盤	[18.7]	3.8	[11.2]	長石・石英	灰	普通	体部ロクロナデ	P 5 覆土上層	10%

表 5 平安時代掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数		面積 (㎡)	柱間寸法		柱 穴			主な出土遺物	時期	備考	
			桁×梁(間)	桁×梁(m)		桁間(m)	梁間(m)	構造	柱穴数	平面形				深さ(cm)
19	D 2d7	N - 14° - E	3 × 2	5.7 × 3.6	20.52	1.8	1.5 ~ 2.1	側柱	10	楕円形・不整楕円形	8 ~ 40	土師器, 須恵器	9世紀後葉	
26	C 4f2	N - 21° - E	3 × 2	5.4 × 4.2	22.68	1.8	2.1	側柱	10	隅丸方形・楕円形	38 ~ 50	土師器, 須恵器	9世紀後葉	SB27 → 本跡
28	C 4g2	N - 22° - E	3 × 2	(6.0) × 4.2	-	1.8 ~ 2.4	1.8 ~ 2.4	側柱	7	隅丸方形・楕円形	38 ~ 52	土師器, 須恵器	9世紀前葉	
29	C 4g2	N - 22° - E	2 × 2	(4.2) × 4.2	-	2.1	2.1	側柱	6	隅丸方形・不整方形	16 ~ 84	土師器, 須恵器	9世紀前葉	
30	C 4f4	N - 17° - E	3 × 3	(5.7) × 6.6	-	1.5 ~ 2.1	2.1 ~ 2.4	側柱	8	隅丸方形・楕円形	30 ~ 67	土師器, 須恵器	9世紀前葉	SB31 → 本跡
31	C 4f4	N - 17° - E	3 × 2	(7.5 × 4.8)	-	2.4 ~ 2.7	2.4	総柱	9	隅丸長方形・不整楕円形	35 ~ 61	土師器, 須恵器	9世紀前葉	本跡 → SB30

(3) 土 坑

第 5 号土坑 (第 84 図 PL11)

位置 調査区中央部の D 2c7 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 68 号竪穴建物跡を掘り込み, 第 18 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径 0.88 m, 短径 0.73 m の楕円形で, 長径方向は N - 70° - W である。深さは 10cm で, 底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

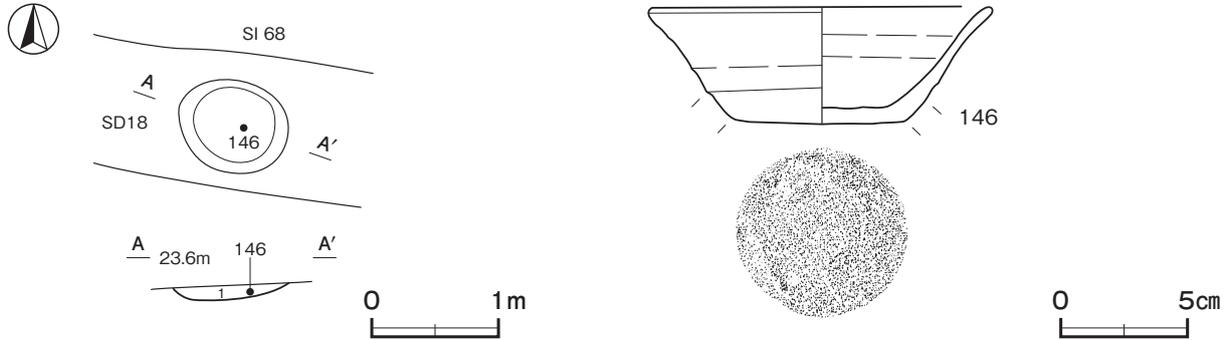
覆土 単一層である。ロームブロックが多量に含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片1点（甕類），須恵器片3点（坏2，甕類1）が出土している。146は覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第84図 第5号土坑・出土遺物実測図

第5号土坑出土遺物観察表（第84図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
146	須恵器	坏	13.4	4.7	6.5	長石・石英・雲母	黒褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部一方向のヘラ削り 器面荒れ	覆土下層	70% 新治窯

第6号土坑（第85図）

位置 調査区中央部のD 2f9区，標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第75号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.25m，短径0.87mの不整楕円形で，長径方向はN-10°-Eである。深さは27cmで，底面は平坦である。壁は外傾している。

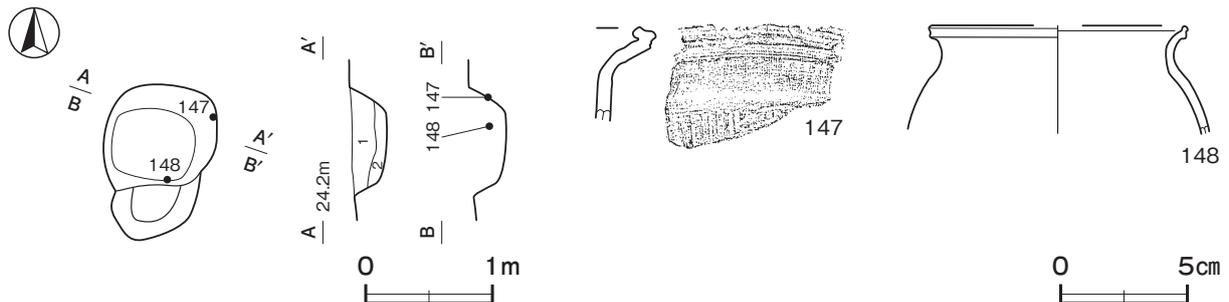
覆土 2層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれているが，東側から流れ込んだ自然堆積とみられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 2 黒褐色 ロームブロック中量，粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片2点（小型甕1，甕類1），須恵器片1点（鉢）が出土している。147・148は覆土下層から出土している。

所見 時期は，重複関係，出土土器から9世紀中葉以降に比定できる。



第85図 第6号土坑・出土遺物実測図

第6号土坑出土遺物観察表 (第85図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
147	須恵器	鉢	-	(3.8)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部外面縦位の平行叩き	覆土下層	5%
148	土師器	小形甕	[10.0]	(4.3)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	体部外面ナデ	覆土下層	5%

第16号土坑 (第86図)

位置 調査区中央部のC 3g9区, 標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.26m, 短径1.14mの楕円形で, 長径方向はN-88°-Wである。深さは52cmで, 底面は皿状である。壁は外傾している。

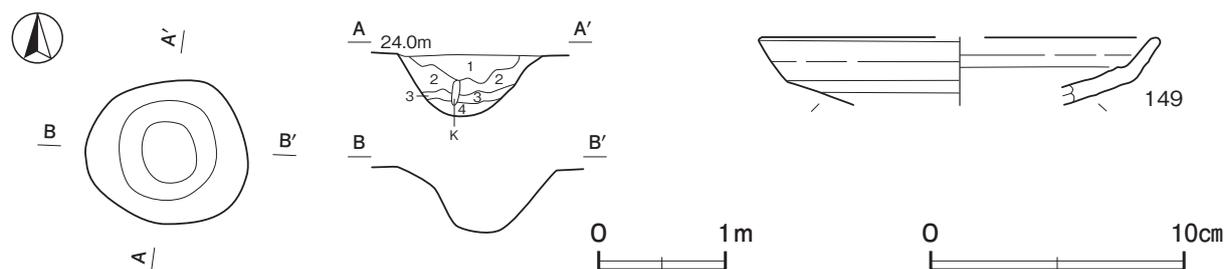
覆土 4層に分層できる。ローム粒子が含まれているが, レンズ状の自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 3 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量 | 4 黒褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片3点(甕類), 須恵器片3点(盤1, 甕類2)が出土している。149は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉に比定できる。



第86図 第16号土坑・出土遺物実測図

第16号土坑出土遺物観察表 (第86図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
149	須恵器	盤	[15.6]	(2.7)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り	覆土中	5%

第18号土坑 (第87図 PL11)

位置 調査区中央部のB 4j8区, 標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.92m, 短径1.90mの長方形で, 長軸方向はN-6°-Eである。深さは76cmで, 底面は薬研状である。壁は外傾している。

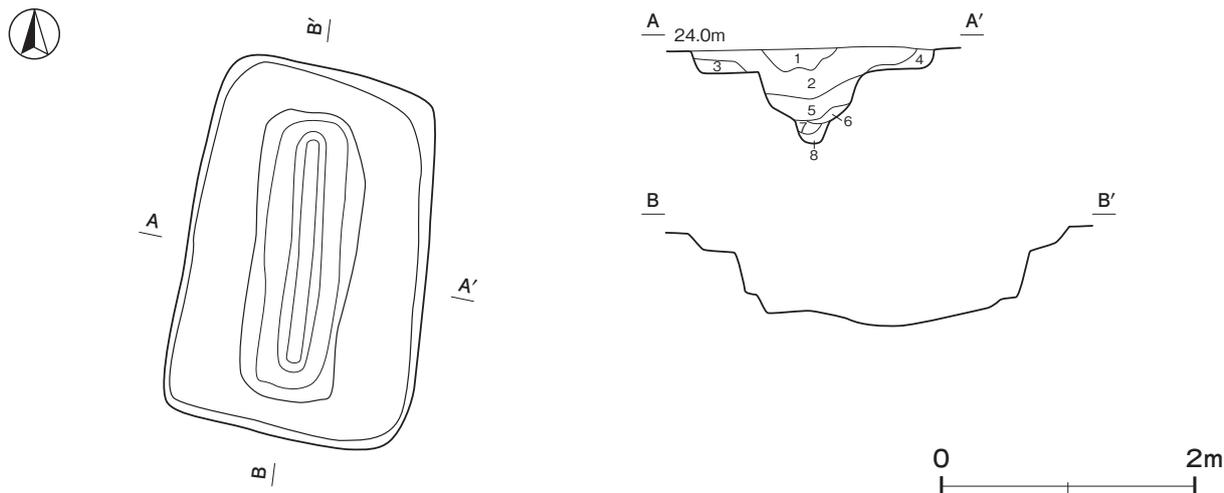
覆土 8層に分層できる。ローム粒子が含まれているが, レンズ状の自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-----------|
| 1 黒色 | 炭化粒子中量, ロームブロック少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 | 6 黄褐色 | 粘土ブロック中量 |
| 3 黒褐色 | 粘土ブロック微量 | 7 黒褐色 | 粘土ブロック少量 |
| 4 黒褐色 | 粘土ブロック多量 | 8 黄褐色 | 粘土ブロック多量 |

遺物出土状況 土師器片1点(甕類), 須恵器片1点(甕類)が出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は, 出土土器から9世紀代と思われる。



第 87 図 第 18 号土坑実測図

第 22 号土坑 (第 88 図)

位置 調査区中央部の C 3h7 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 4 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径 1.76 m, 短径 1.30 m の楕円形である。長径方向は N - 40° - W である。深さは 42cm で, 底面は皿状である。壁は緩やかに立ち上がっている。

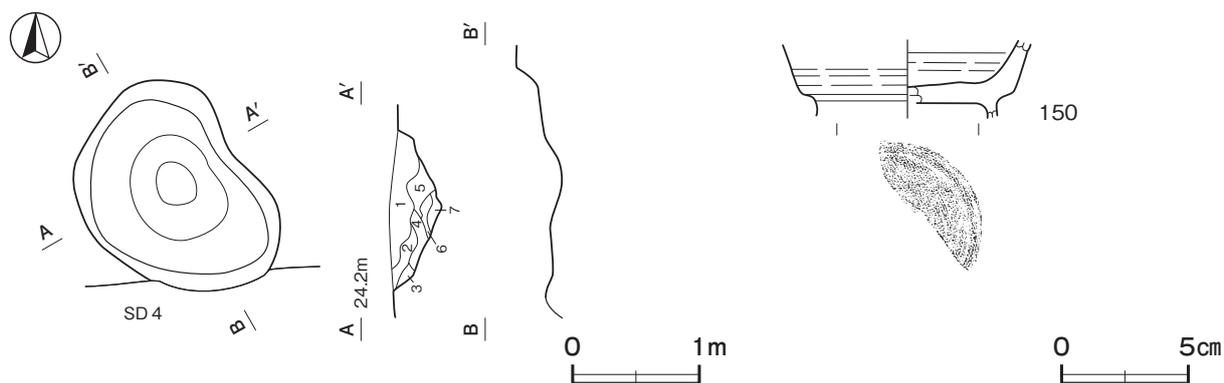
覆土 7 層に分層できる。ロームブロックが含まれているが, 南西側から流れ込んだ自然堆積とみられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック多量 | | |

遺物出土状況 須恵器片 1 点 (高台付坏) が出土している。150 は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 9 世紀前葉に比定できる。



第 88 図 第 22 号土坑・出土遺物実測図

第 22 号土坑出土遺物観察表 (第 88 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
150	須恵器	高台付坏	-	(3.1)	-	長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中	10%

表6 平安時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
5	D 2 c7	N - 70° - W	楕円形	0.88 × 0.73	10	平坦	緩斜	人為	土師器, 須恵器	SI68 → 本跡 → SD18
6	D 2 f9	N - 10° - E	不整楕円形	1.25 × 0.87	27	平坦	外傾	自然	土師器, 須恵器	SI75 → 本跡
16	C 3 g9	N - 88° - W	楕円形	1.26 × 1.14	52	皿状	外傾	自然	土師器, 須恵器	
18	B 4 j8	N - 6° - E	長方形	2.98 × 1.90	76	薬研状	外傾	自然	土師器, 須恵器	
22	C 3 h7	N - 40° - W	楕円形	1.76 × 1.30	42	皿状	緩斜	自然	須恵器	本跡 → SD4

(4) 溝跡

第4号溝跡 (第89図・付図 PL 9)

位置 調査区中央部のC 3 h7 ~ C 3 h0区, 標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第81号竪穴建物跡, 第25号掘立柱建物跡, 第22号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 C 3 h0区から西方向(N - 90° - E)に直線状に延びている。確認できた長さは総延長14.4mで, 上幅1.26 ~ 1.50m, 下幅0.18 ~ 0.36m, 深さ49 ~ 63cmである。断面形は浅いV字状である。

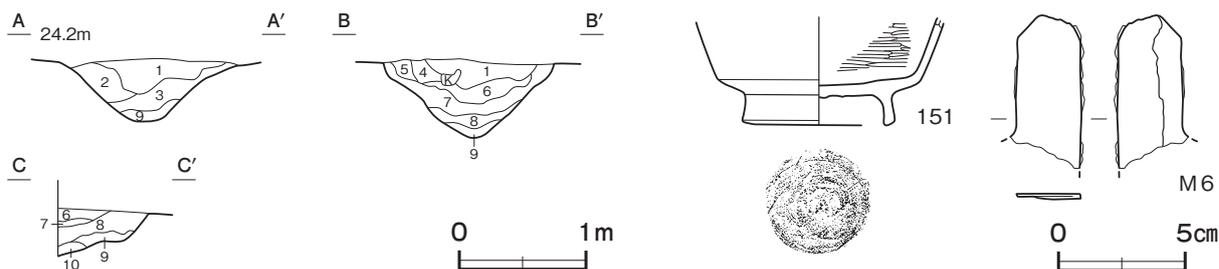
覆土 10層に分層できる。ロームブロックやローム粒子が含まれているが, 自然堆積とみられる。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量	6 黒褐色	ロームブロック微量
2 黒褐色	ローム粒子中量	7 暗褐色	ロームブロック微量
3 黒褐色	ローム粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック少量
4 黒褐色	ローム粒子少量	9 黒色	ロームブロック多量
5 黒色	粘土ブロック中量	10 暗褐色	ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片77点(坏12, 高台付坏4, 甕類61), 須恵器片64点(坏11, 高台付坏2, 蓋2, 甕類47, 甌2), 金属製品(不明)が出土している。

所見 西方向に延び, 第21号溝とつながるものと考えられる。時期は, 第81号竪穴建物跡との重複関係から9世紀後葉以降に比定できる。



第89図 第4号溝跡・出土遺物実測図

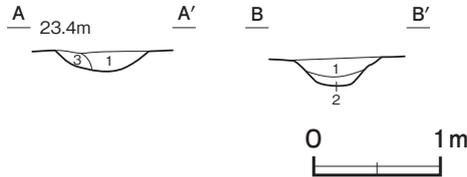
第4号溝跡出土遺物観察表 (第89図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
151	土師器	高台付坏	-	(4.3)	5.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	内面ヘラ磨き 黒色処理	覆土中	20%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
M 6	不明	(6.1)	(2.8)	0.2	(19.9)	鉄	折り返し痕 先端部欠損			覆土中	

第12号溝跡 (第90図・付図)

位置 調査区北部のC2g9～C3b2区, 標高23mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 C2g9区から北東方向(N-39°-E)に直線状に調査区域外に延びている。確認できた長さは総延長21.2mで, 上幅0.48～0.76m, 下幅0.14～0.28m, 深さ16～20cmである。断面形は浅いU字状である。



覆土 3層に分層できる。ロームブロックやローム粒子が含まれているが, 自然堆積とみられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第90図 第12号溝跡実測図

遺物出土状況 土師器片6点(甕類), 須恵器片1点(甕類)が出土している。細片のため図示できない。

所見 南東方向に軸線をほぼ同じにする第19号溝跡がある。時期は出土土器から9世紀代に比定できる。

第15号溝跡 (第91図・付図)

位置 調査区西部のC2e5～C2g6区, 標高23mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 C2g6区から北東方向(N-19°-E)に直線状に延び, C2f6区から北西方向に(N-70°-W)に屈曲して直線状に調査区域外に延びている。確認できた長さは総延長12.2mで, 上幅1.12～2.21m, 下幅0.32～0.59m, 深さ17cmである。断面形は浅いU字状である。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックやローム粒子が含まれているが, 自然堆積とみられる。

土層解説

- 1 黒色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片3点(甕類), 須恵器片1点(甕), 瓦1点(平瓦)が出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀代に比定できる。



第91図 第15号溝跡・出土遺物実測図

第15号溝跡出土遺物観察表 (第91図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
152	須恵器	甕	-	6.5	-	長石・石英	灰褐	普通	口縁部直下に一条の凸線が巡る 8本1組の櫛状工具による波状文が1条	覆土中	5% PL17

第17号溝跡 (第92図・付図)

位置 調査区西部のC2i3～C3h1区, 標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第16号溝に掘り込まれている。

規模と形状 C2i3区から北東方向(N-39°-E)に直線状に延びている。確認できた長さは総延長30.2m

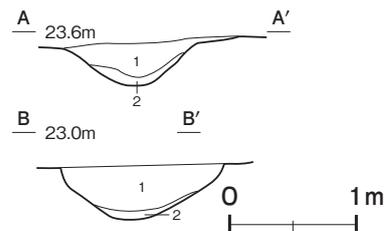
で、上幅 0.96 ～ 1.40 m、下幅 0.21 ～ 0.58 m、深さ 34 ～ 42cmである。

断面形は浅い U 字状である。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれているが、自然堆積とみられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
2 黒褐色 ロームブロック多量



第 92 図 第 17 号溝跡実測図

遺物出土状況 土師器片 20 点 (坏 1, 甕類 19), 須恵器片 27 点 (坏 2, 甕類 25), 瓦 1 点 (平瓦) が出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器から 9 世紀代に比定できる。

第 19 号溝跡 (第 93 図・付図)

位置 調査区西部の C 2 i 8 ～ D 2 f 1 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 20 号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 D 2 f 1 区から北西方向 (N - 29° - E) に直線状に延び、C 2 i 6 区で屈曲し、東方向 (N - 90° - E) に延びている。長さは総延長 41.8 m で、上幅 0.49 ～ 1.04 m、下幅 0.18 ～ 0.48 m、深さ 10 ～ 12cm である。断面形は浅い U 字状である。

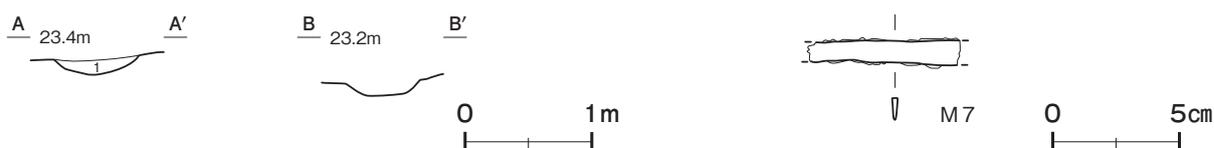
覆土 ロームブロックが含まれているが、堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片 11 点 (坏 2, 甕類 9), 須恵器片 12 点 (坏 2, 甕類 10), 金属製品 1 点 (刀子), 瓦 2 点 (平瓦) が出土している。

所見 時期は、出土土器から 9 世紀代に比定できる。



第 93 図 第 19 号溝跡・出土遺物実測図

第 19 号溝跡出土遺物観察表 (第 93 図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 7	刀子	(6.1)	0.9	0.2	(5.4)	鉄	刃先・茎部欠損 刃部断面三角形	覆土中	

第 21 号溝跡 (第 94 図・付図)

位置 調査区中央部の C 3 i 4 ～ C 3 j 1 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 15 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 C 3 j 1 区から北東方向 (N - 75° - W) に直線状に調査区域外に延びている。長さは総延長 11.5 m で、上幅 1.04 ～ 1.62 m、下幅 0.14 ～ 0.33 m、深さ 35 ～ 45cm である。断面形は浅い U 字状である。

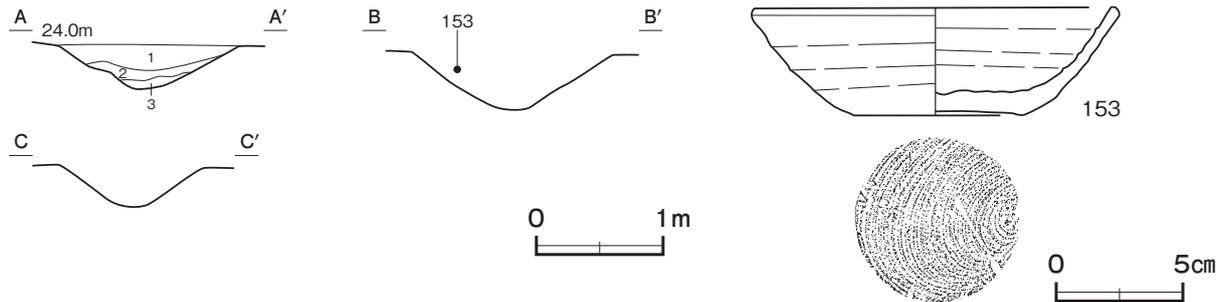
覆土 3層に分層できる。ロームブロックが含まれているが、自然堆積とみられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片 25点（坏1，甕類24），須恵器片 12点（坏2，高台付坏1，蓋1，甕類8），が出土している。153は南東部の覆土中層から出土している。

所見 東側に延び、第4号溝跡とつながると考えられる。時期は、出土土器、第4号溝跡との関係から9世紀後葉以降に比定できる。



第94図 第21号溝跡・出土遺物実測図

第21号溝跡出土遺物観察表（第94図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
153	土師器	坏	14.2	4.3	6.7	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	底部回転糸切り 二次焼成	覆土中層	90% PL15

表7 平安時代溝跡一覧表

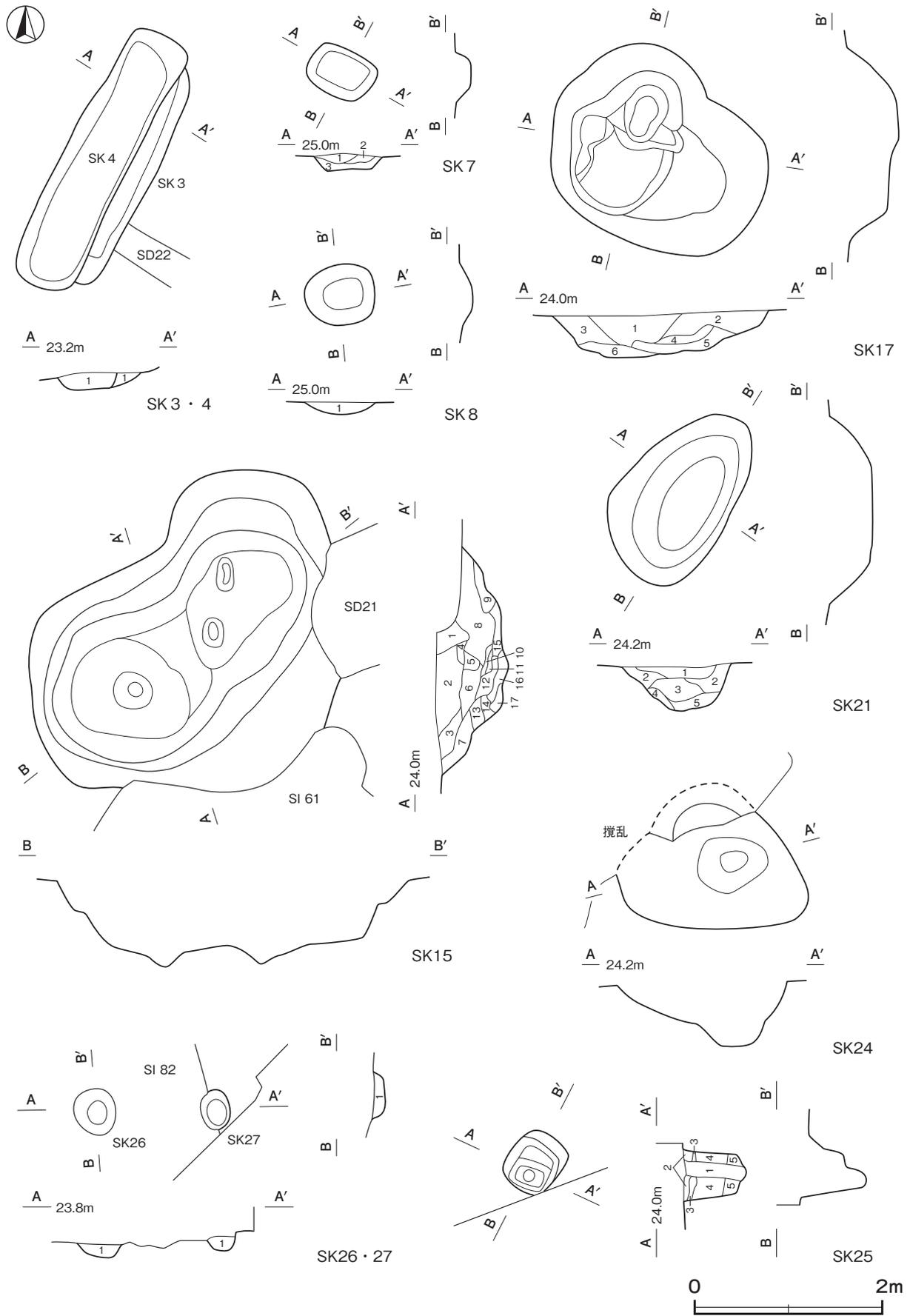
番号	位置	方向	平面形	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
4	C3h7～C3h0	N-90°-E	直線状	14.4	1.26～1.50	0.18～0.36	49～63	浅いV字状	緩斜	自然	土師器、須恵器、金属製品	SI81・SB25・SK22 →本跡
12	C2g9～C3b2	N-39°-E	直線状	21.2	0.48～0.76	0.14～0.28	16～20	浅いU字状	緩斜	自然	土師器、須恵器	
15	C2e5～C2g6	N-70°-W N-19°-E	逆L字状	12.2	1.12～2.21	0.32～0.59	17	浅いU字状	緩斜	自然	土師器、須恵器、瓦	
17	C2i3～C3h1	N-39°-E	直線状	30.2	0.96～1.40	0.21～0.58	34～42	浅いU字状	緩斜	自然	土師器、須恵器、瓦	本跡→SD16
19	C2i8～D2f1	N-29°-E N-90°-E	くの字状	41.8	0.49～1.04	0.18～0.48	10～12	浅いU字状	緩斜	自然	土師器、須恵器、金属製品、瓦	SD20→本跡
21	C3i4～C3j1	N-75°-W	直線状	11.5	1.04～1.62	0.14～0.33	35～45	浅いU字状	緩斜	自然	土師器、須恵器	SK15→本跡

3 その他の遺構と遺物

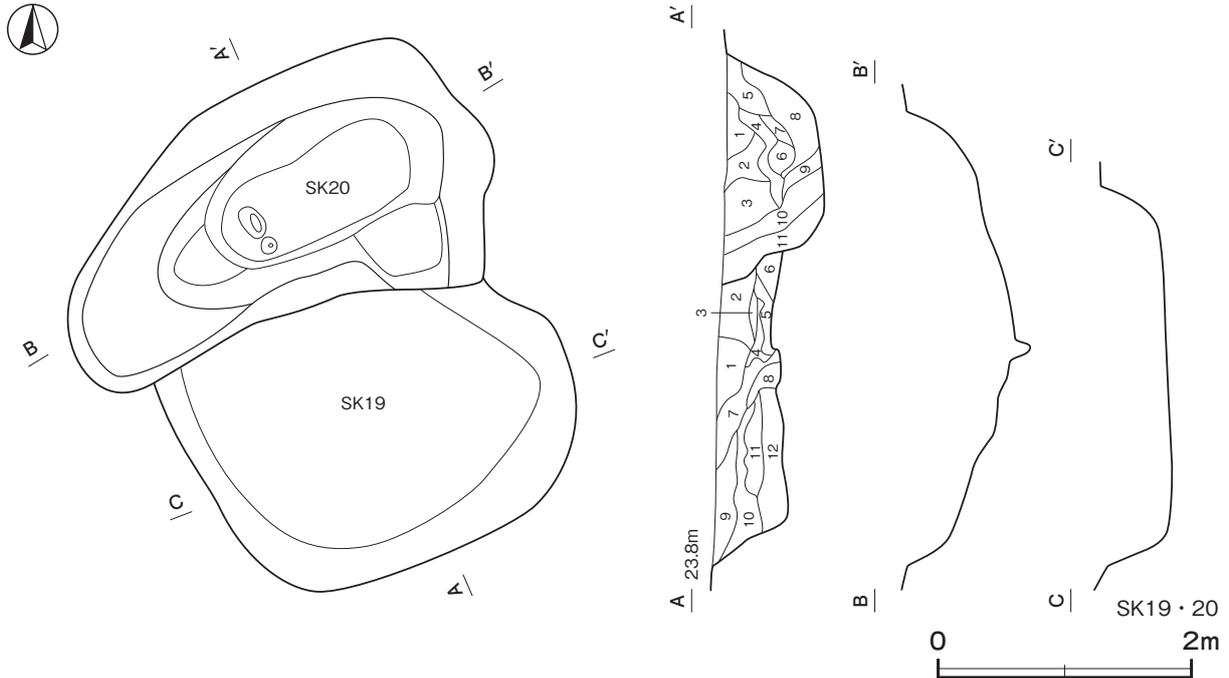
今回の調査で時期が明らかでない土坑13基、柱穴列1条、溝跡8条を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 土坑

時期や性格が明確でない土坑に関して、規模・形状等を実測図（第95・96図）と土層解説及び一覧表で掲載する。



第 95 図 その他の土坑実測図 (1)



第96図 その他の土坑実測図(2)

第3号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック中量

第4号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック少量

第7号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

第8号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

第15号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 灰黄褐色 粘土ブロック少量
- 3 黒色 ローム粒子微量
- 4 褐色 灰色 ロームブロック微量
- 5 褐色 ロームブロック少量
- 6 褐色 灰色 粘土ブロック少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量
- 8 極暗褐色 ローム粒子中量
- 9 黒褐色 ロームブロック少量
- 10 暗褐色 ロームブロック微量
- 11 暗褐色 ロームブロック少量
- 12 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 13 黄褐色 ロームブロック中量
- 14 暗褐色 ロームブロック中量
- 15 黒褐色 粘土ブロック少量
- 16 黄褐色 ロームブロック少量
- 17 褐色 粘土ブロック少量

第17号土坑土層解説

- 1 黄褐色 粘土ブロック多量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量
- 3 黒色 粘土ブロック・ローム粒子中量
- 4 黒褐色 粘土ブロック多量
- 5 黒褐色 粘土ブロック少量
- 6 黒色 粘土ブロック少量

19号土坑土層解説

- 1 黄褐色 粘土ブロック多量
- 2 灰白色 粘土ブロック多量
- 3 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック多量
- 5 灰白色 粘土ブロック中量
- 6 黒褐色 ロームブロック多量, 粘土ブロック中量
- 7 黒褐色 ロームブロック少量
- 8 黒褐色 ロームブロック多量
- 9 暗褐色 ロームブロック少量
- 10 黒褐色 粘土ブロック多量
- 11 明黄褐色 粘土ブロック多量
- 12 黄褐色 粘土ブロック中量

第20号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 黒色 ローム粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量
- 6 極暗褐色 ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子微量
- 8 黄褐色 粘土粒子中量
- 9 暗褐色 ロームブロック少量
- 10 黄褐色 粘土ブロック多量
- 11 明黄褐色 粘土ブロック多量

第 21 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック多量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 4 黒 褐 色 ローム粒子多量
- 5 暗 褐 色 ローム粒子多量

第 25 号土坑土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック中量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 5 灰 褐 色 粘土ブロック多量

第 26・27 号土坑土層解説

- 1 黒 色 ロームブロック微量

表 8 その他の土坑一覧表

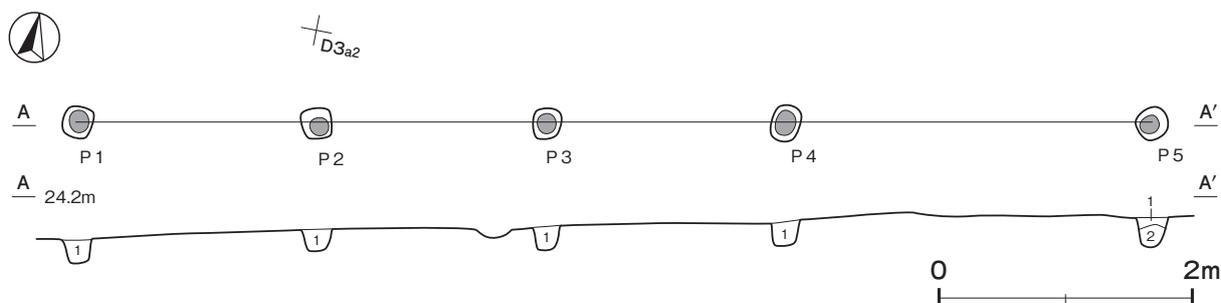
番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
3	D2e3	N - 27° - E	[長方形]	2.55 × (0.28)	15	-	緩斜	自然		
4	D2e3	N - 30° - E	長方形	3.02 × 0.70	18	平坦	外傾	自然	土師器	
7	E3g4	N - 60° - W	長方形	0.72 × 0.53	17	平坦	外傾	自然	土師器	
8	E3g3	N - 80° - E	楕円形	0.74 × 0.66	14	皿状	緩斜	自然		
15	C2j0	N - 37° - E	不定形	4.02 × 2.80	92	凹凸	緩斜	自然		本跡→SI61・SD21
17	B4j8	N - 66° - W	不整楕円形	2.42 × 1.96	54	皿状	緩斜	自然	土師器, 須恵器	
19	C4d5	N - 23° - W	[楕円形]	3.00 × (2.48)	56	平坦	外傾	自然		本跡→SK20
20	C4c5	N - 58° - E	不整楕円形	3.70 × 1.80	82	平坦	外傾 緩斜	自然		SK19→本跡
21	C5c1	N - 31° - E	楕円形	2.00 × 1.24	46	平坦	外傾	自然		
24	C5b1	N - 60° - W	不整楕円形	(1.80 × 1.50)	68	皿状	緩斜	-		
25	C4g3	N - 35° - W	隅丸長方形	0.68 × 0.54	70	皿状	直立	人為		掘立柱建物跡の 柱穴
26	C4f6	N - 12° - W	楕円形	0.50 × 0.45	17	皿状	緩斜	自然		本跡→SI82
27	C4f7	N - 25° - W	楕円形	0.42 × 0.30	14	皿状	緩斜	自然		本跡→SI82

(2) 柱穴列

第 1 号柱穴列 (第 97 図)

位置 調査区中央部の D 3 a2 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と構造 東西方向に直線状に延び, 8.5 m の間に配列された柱穴 5 か所で, 配列方向は N - 80° - E である。柱間寸法は, P 1 ~ P 4 までは 1.8 m (6 尺) で等間隔に配置され, P 4 ~ P 5 は 3.0 m (10 尺) である。柱筋は揃っている。



第 97 図 第 1 号柱穴列実測図

柱穴 5か所。平面形は楕円形または方形で、長径 28～32cm、短径 22～28cmである。深さは 17～23cmで、断面形は浅い U 字状である。P 1～P 5 の底面から柱のあたりを確認した。

土層解説（各ピット共通）

1 黒 色 ロームブロック少量

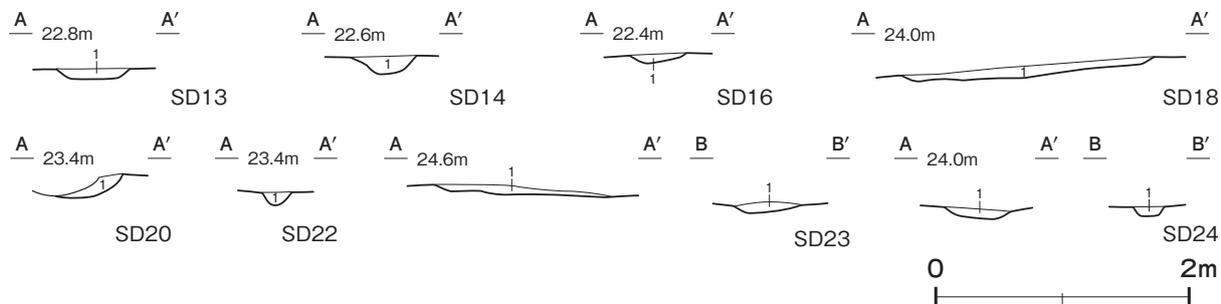
2 黒 褐 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片 1 点（甕類）が出土しているが、細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器が細片であることから不明である。性格は柱のあたりや柱筋が揃っていることから柵列跡と推定できる。

(3) 溝 跡

時期や性格が明確でない溝に関して、実測図（第 98 図・付図）、土層解説及び一覧表で掲載する。



第 98 図 その他の溝跡実測図

第 13 号溝跡土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子微量

第 20 号溝跡土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子少量

第 14 号溝跡土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子微量

第 22 号溝跡土層解説

1 暗 褐 色 粘土ブロック少量

第 16 号溝跡土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第 23 号溝跡土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量

第 18 号溝跡土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量

第 24 号溝跡土層解説

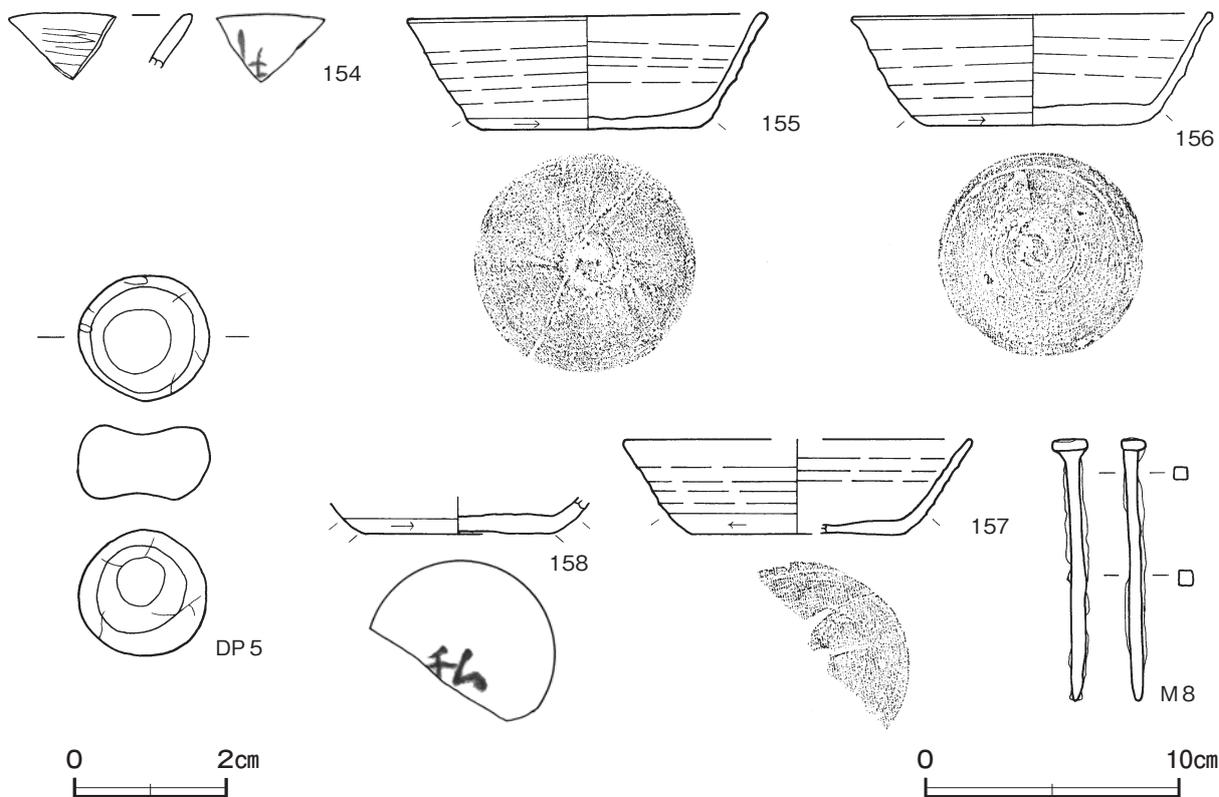
1 黒 色 ローム粒子少量

表 9 その他の溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	規 模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
13	C2c7～C2d7	N-80°-E	不定形	3.6	0.42～1.14	0.25～1.02	7	浅い U 字状	緩斜	自然	土師器	
14	C2d6	N-69°-E	曲線状	(2.8)	0.36～0.52	0.14～0.25	15	浅い U 字状	緩斜	自然	土師器, 須恵器, 土製品	
16	C2f7～C2j9	N-15°-W	直線状	(16.4)	0.28～0.60	0.14～0.40	8	浅い U 字状	緩斜	自然	土師器, 須恵器, 金属製品, 陶器	SD17→本跡
18	D2c5～D2h0	N-7°-W N-80°-W	T 字状	26.5 17.3	0.39～1.47	0.27～1.16	8～10	浅い U 字状	緩斜	自然	土師器, 須恵器, 陶器	SI68・75, SB20・21, SK5→本跡
20	C2j6～D2a5	N-41°-E	直線状	(5.2)	0.59～1.22	0.31～0.92	14	浅い U 字状	緩斜	自然	土師器, 須恵器	本跡→SD19
22	D2e3～D2f4	N-62°-W	直線状	(5.6)	0.19～0.38	0.07～0.20	10	浅い U 字状	緩斜	自然		SI64→本跡
23	E2b7～E2d9	N-75°-W N-15°-E	T 字状	10.1 9.8	0.32～1.54	0.16～1.40	5～8	浅い U 字状	緩斜	-	土師器, 須恵器, 陶器	
24	C3d9～C4e1	N-10°-E N-95°-E	T 字状	(7.8) 4.9	0.18～0.56	0.10～0.36	7	浅い U 字状	緩斜	-	土師器, 須恵器	

(4) 遺構外出土遺物

今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物について、実測図（第99図）と観察表で掲載する。



第99図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表（第99図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
154	土師器	坏	-	(2.2)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	内面ヘラ磨き 黒色処理 体部外面墨書「□」	表土	5% PL17
155	須恵器	坏	14.1	4.5	8.6	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す回転ヘラ削り	表土	95% PL15 新治窯
156	須恵器	坏	14.2	4.5	8.0	長石・石英・赤色粒子	褐灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す回転ヘラ削り	表土	80% PL15 新治窯
157	須恵器	坏	[13.8]	3.8	[8.6]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す回転ヘラ削り	表土	30% 新治窯
158	須恵器	坏	-	(1.5)	[7.6]	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部一定方向の手持ちヘラ削り 底部外面墨書「私」	表土	20% PL17 新治窯

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 5	不明	1.7	1.0	-	3.2	長石・赤色粒子	浅黄橙	手捏ね 中央部両面凹み	表土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 8	釘	10.4	1.5	0.5	20.2	鉄	断面四角形の棒状	表土	PL18

第4章 金田西遺跡

第1節 調査の概要

金田西遺跡は、つくば市の北東部に位置し、桜川右岸の低地を望む標高24～25mの台地上に立地している。平成27年度の調査面積は6,211㎡、平成28年度の調査面積は1,469㎡で、調査前の現況は畑である。

調査の結果、竪穴建物跡49棟（奈良時代14・平安時代35）、掘立柱建物跡22棟（奈良時代10・平安時代12）、井戸跡1基（平安時代）、大型円形土坑1基（奈良時代）、粘土採掘坑2基（平安時代）、土坑76基（奈良時代4・平安時代8・江戸時代1・不明63）、柱穴列5条（奈良時代1・平安時代3・不明1）、溝跡15条（奈良時代4・平安時代2・江戸時代4・不明5）、ピット群5か所（奈良時代1・平安時代1・不明3）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に80箱出土している。主な遺物は、土師器（坏・高台付坏・皿・甕・甑）、須恵器（坏・高台付坏・蓋・コップ形土器・盤・高盤・鉢・捏鉢・短頸壺・長頸瓶・水瓶・甕・甑）、灰釉陶器（長頸瓶）、土製品（土玉・支脚・紡錘車）、石器（有基尖頭器・鏃・砥石・紡錘車・温石）、金属製品（刀子・鎌・鉄鉗・責金具・腰帶具・小仏像）、銭貨（寛永通宝）、瓦（軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦）などである。

第2節 基本層序

隣接する九重東岡廃寺と同様の基本土層であるため、解説は省略する。第3章第2節を参照されたい。

第3節 遺構と遺物

1 奈良時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡14棟、掘立柱建物跡10棟、大型円形土坑1基、土坑4基、柱穴列1条、溝跡4条、ピット群1か所を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

第353号竪穴建物跡（第100・101図 PL24）

位置 調査区中央部のF6b8区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第22号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南側が第22号溝に掘り込まれているため、東西軸は2.83mで、南北軸は2.24mしか確認できなかった。方形又は長方形と推定できる。主軸方向はN-0°である。壁は高さ15～21cmで、ほぼ直立している。
床 平坦で、中央部が踏み固められている。床は地山をそのまま利用している。確認した部分では壁溝が巡っている。

竈 北東コーナー部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで67cmで、燃焼部幅は40cmである。袖部は地山の上に粘土ブロックを含む第4～6層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に5cm掘りくぼめ、焼土ブロックや炭化粒子を含む第7層を埋土している。火床面は第7層上面で火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に16cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 粘土粒子多量 | 5 黒褐色 粘土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量 | 6 黒褐色 粘土ブロック中量 |
| 3 黒褐色 焼土ブロック多量 | 7 黒褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量 |
| 4 黒褐色 粘土ブロック多量 | |

ピット 2か所。P1は深さ12cmで、南側に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2は性格不明である。

ピット土層解説 (P1)

- 1 黒褐色 粘土ブロック少量

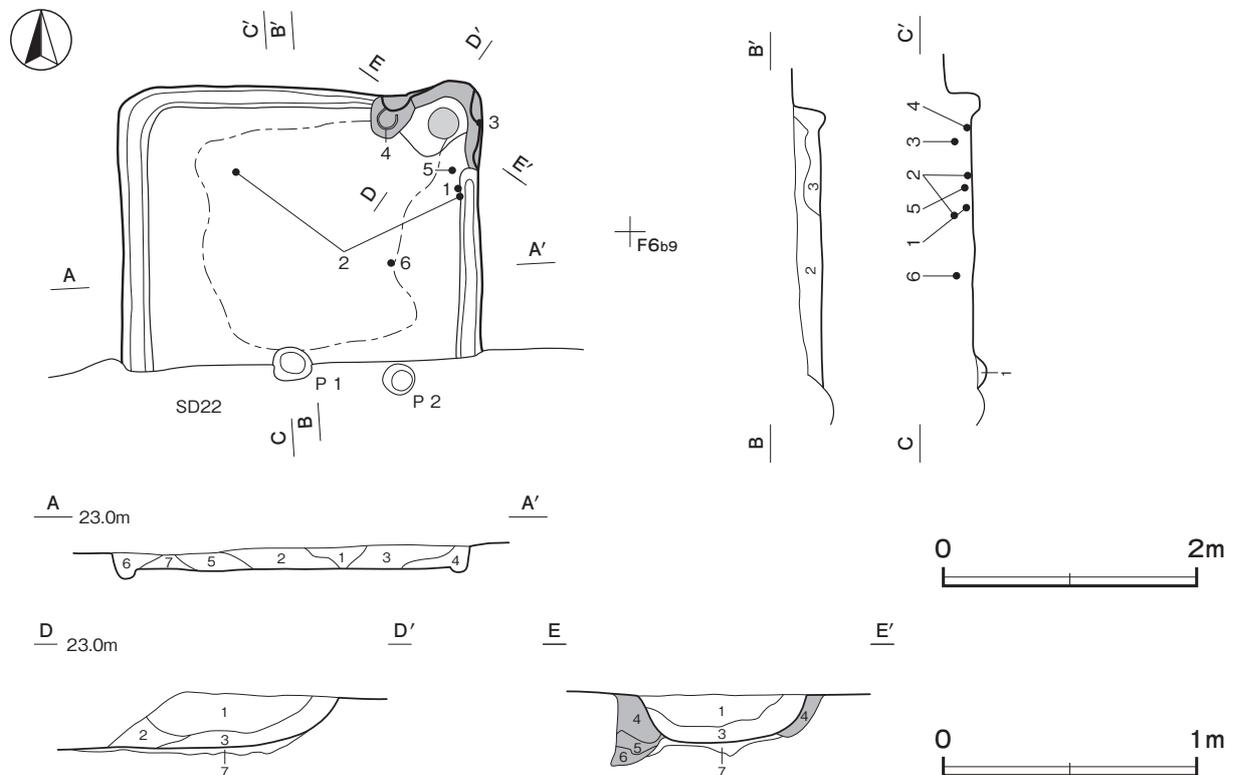
覆土 7層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

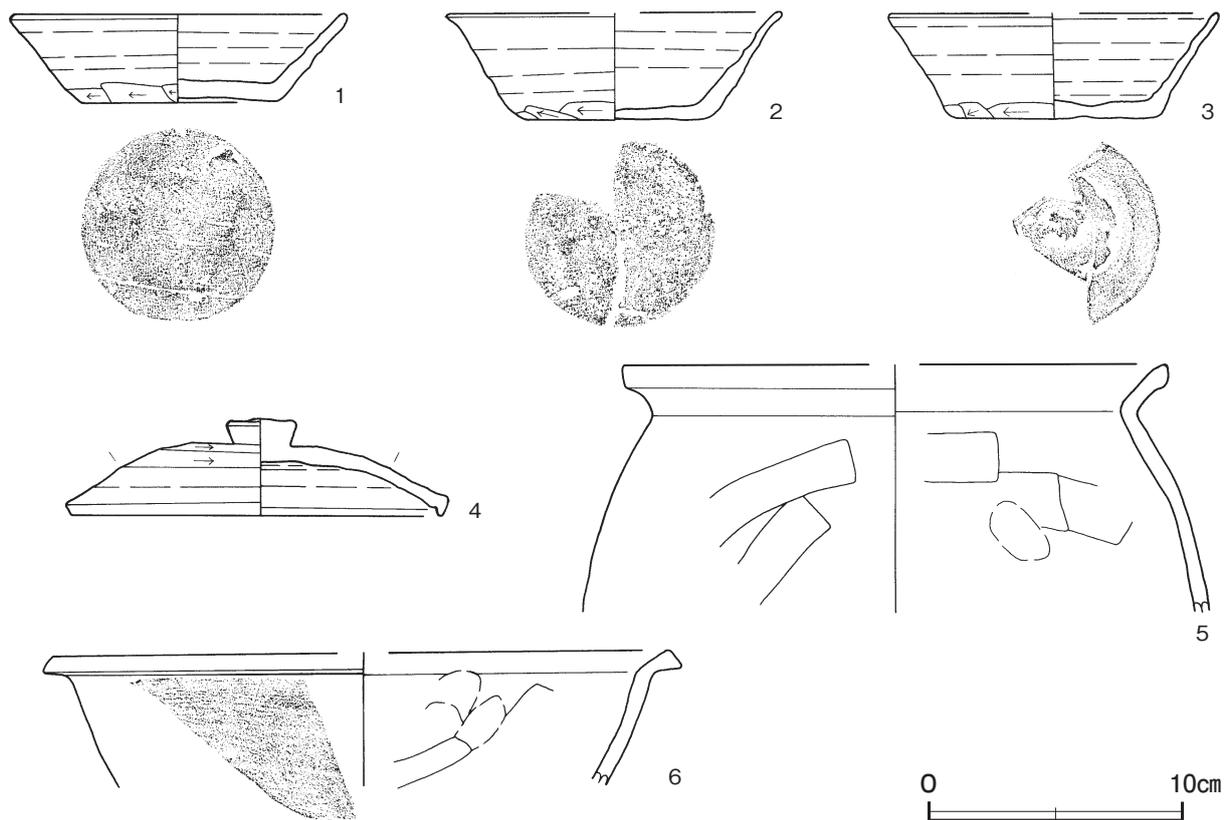
- | | |
|-------------------------------------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量 | ク微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量 | 5 黒褐色 ロームブロック多量, 粘土ブロック中量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック多量, 粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量 | 6 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量, 焼土ブロック微量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土ブロック | 7 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片 45点(坏1, 甕類44), 須恵器片 44点(坏14, 高台付坏2, 蓋5, 甕類23), 瓦1点(平瓦)が主に竈右袖部周辺の下層から出土している。1・5は、竈右袖前方部の床面から出土している。2は、東壁付近と北壁付近の床面から出土した破片が接合している。3は竈内, 4は竈左袖部内から逆位の状態出土している。6は、東壁付近の覆土中層から出土している。これらの遺物は、埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第100図 第353号竪穴建物跡実測図



第 101 図 第 353 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 353 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 101 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	13.1	3.5	7.7	長石・石英・針状物質	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	床面	70% 木葉下窯
2	須恵器	坏	[13.1]	4.3	7.0	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 二次焼成 底部一方向の手持ちヘラ削り	床面	30% 新治窯
3	須恵器	坏	[13.0]	4.2	[7.8]	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	竈内	30% 新治窯
4	須恵器	蓋	14.6	3.8	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	天井部回転ヘラ削り	左袖内	100% PL49 新治窯
5	土師器	甕	[21.4]	(9.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面ヘラナデ 内面横位のナデ 指頭痕	床面	5%
6	須恵器	甕	[24.2]	(5.3)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部外面横位の平行叩き 内面指頭痕	覆土中層	5%

第 358 号竪穴建物跡 (第 102 図 PL24)

位置 調査区中央部の E 6h0 区, 標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 21 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 4.54 m, 短軸 4.08 m の長方形で, 主軸方向は N - 12° - E である。上部が削平され, 壁は遺存していない。

床 平坦な貼床である。壁溝が東壁の一部に巡っている。

ピット 7 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 22 ~ 60 cm で, 支柱穴である。P 5 ~ P 7 は, 深さ 15 ~ 18 cm で, 性格は不明である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

1 黒 褐 色 炭化粒子微量

2 暗 褐 色 粘土ブロック少量

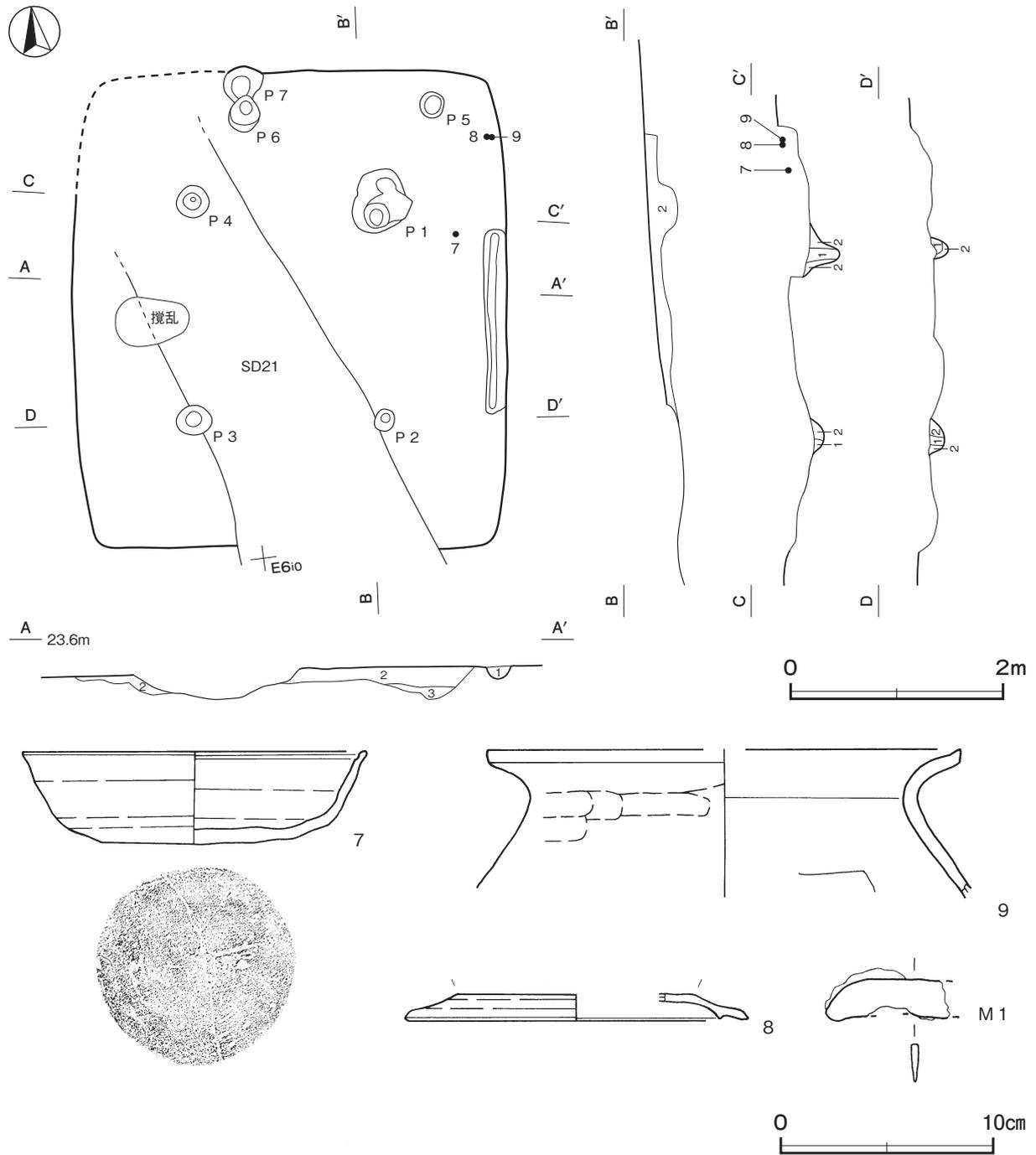
覆土 第1層は壁溝の覆土，第2・3層は貼床の構築土である。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量
- 2 黒褐色 粘土ブロック中量，焼土ブロック微量
- 3 黒褐色 粘土ブロック中量，焼土ブロック少量

遺物出土状況 土師器片 74点（坏5，甕類69），須恵器片 15点（坏6，蓋4，甕類5），金属製品 1点（鎌）が主に北東コーナー部から出土している。8・9は，北東コーナー部の床面から出土している。7は，東壁付近の貼床構築土から出土している。M1は，覆土中から出土している。

所見 時期は，出土土器から7世紀末葉に比定できる。



第102図 第358号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 358 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 102 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
7	須恵器	坏	16.1	4.5	9.0	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	底部一方向の手持ちヘラ削り 口縁部内面に沈線	貼床構築土	60% PL49 新治蓋
8	須恵器	蓋	[15.8]	(1.3)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	5%
9	土師器	甕	[22.3]	(7.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐色	普通	体部外面指ナデ 内面横位のナデ	床面	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 1	鎌	(5.9)	2.0	0.3	(12.9)	鉄	刃・茎部欠損 刃部断面三角	覆土中	PL58

第 361 号竪穴建物跡 (第 103 ~ 105 図 PL24・25)

位置 調査区北部の C 5 e8 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 51・63 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 4.45 m, 短軸 3.92 m の長方形で, 主軸方向は N - 3° - E である。壁は高さ 28 ~ 47 cm で, 外傾している。

床 平坦な貼床で, 竈前方部から南壁にかけて踏み固められている。貼床は, 全体を 5 cm ほど掘り下げ, ロームブロックや焼土ブロックを含む第 15 層を埋土して構築されている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 131 cm で, 燃焼部幅は 54 cm である。袖部は地山と第 22 層の上面に粘土ブロックや焼土ブロックを含む第 19 ~ 21 層を積みあげて構築されている。火床部は楕円形に 5 cm 掘りくぼめ, ローム粒子を含む第 22 層を埋土している。火床面は第 22 層上面で, 赤変していない。煙道部は壁外に 70 cm 掘り込まれ, 火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------|-----------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック中量 | 12 黒褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量 | 13 灰褐色 | 粘土ブロック多量, 焼土粒子中量, ローム粒子微量 |
| 3 褐灰色 | 粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 14 暗赤褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量 | 15 極暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化物微量 |
| 5 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量, 粘土ブロック少量 | 16 黒褐色 | ローム粒子・炭化物微量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 17 灰褐色 | ロームブロック少量 |
| 7 灰褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子中量 | 18 極暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 8 暗赤灰色 | 焼土ブロック中量, 粘土ブロック少量 | 19 褐灰色 | 粘土ブロック多量, 焼土ブロック少量 |
| 9 暗赤褐色 | 粘土ブロック・炭化物少量, ローム粒子微量 | 20 灰黄褐色 | ローム粒子・粘土粒子中量 |
| 10 黒褐色 | 粘土ブロック多量, ロームブロック微量 | 21 にぶい赤褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 11 暗赤褐色 | ロームブロック少量 | 22 にぶい黄褐色 | ローム粒子多量 |

ピット 6 か所。P 1 ~ P 4 は床面から深さ 23 ~ 70 cm で支柱穴である。P 5・P 6 は, 深さ 8 cm・12 cm で性格は不明である。

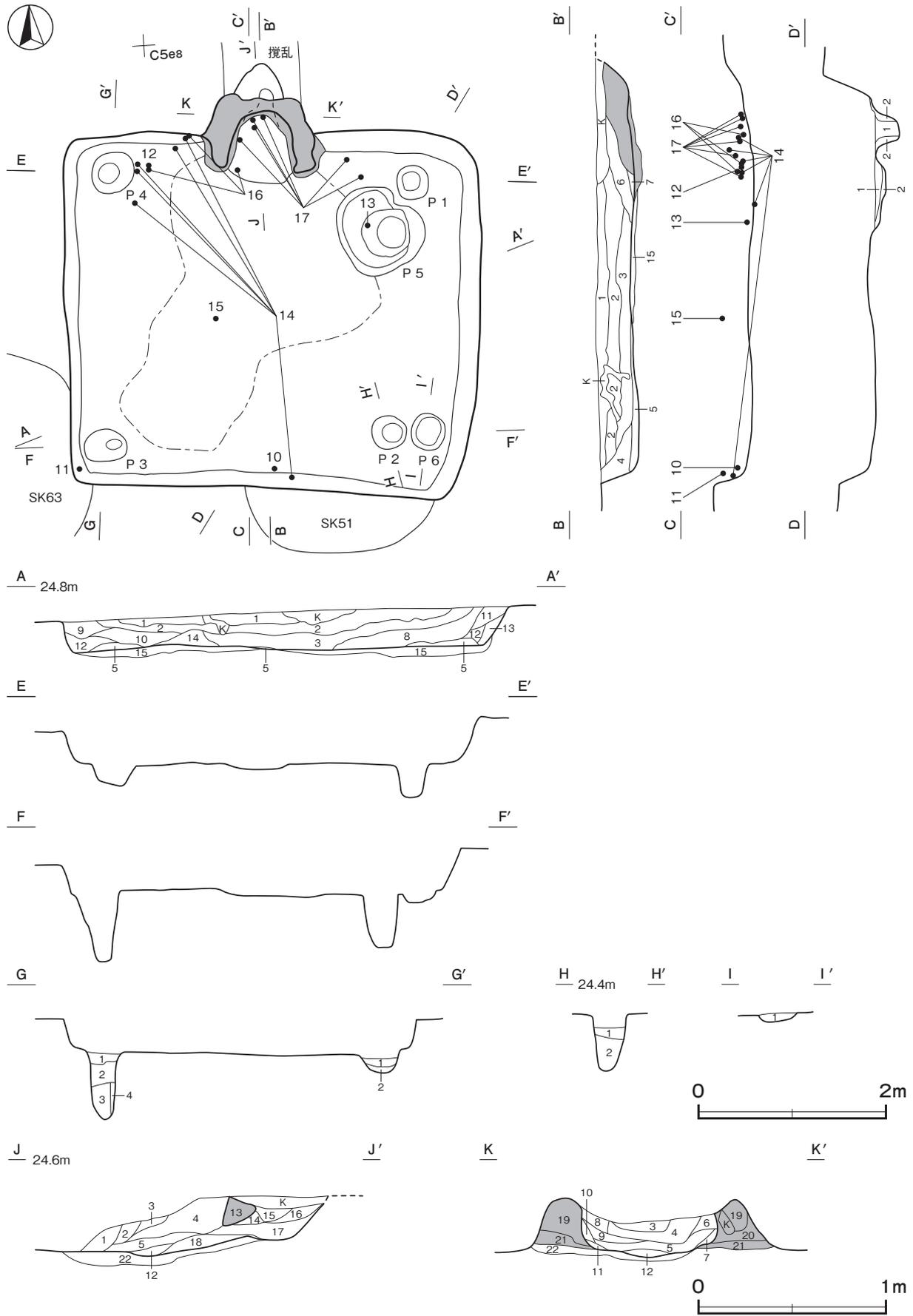
ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|-------|-----------|--------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 3 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子多量, ロームブロック微量 |
| 2 灰褐色 | ローム粒子中量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |

覆土 14 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。第 15 層は貼床の構築土である。

土層解説

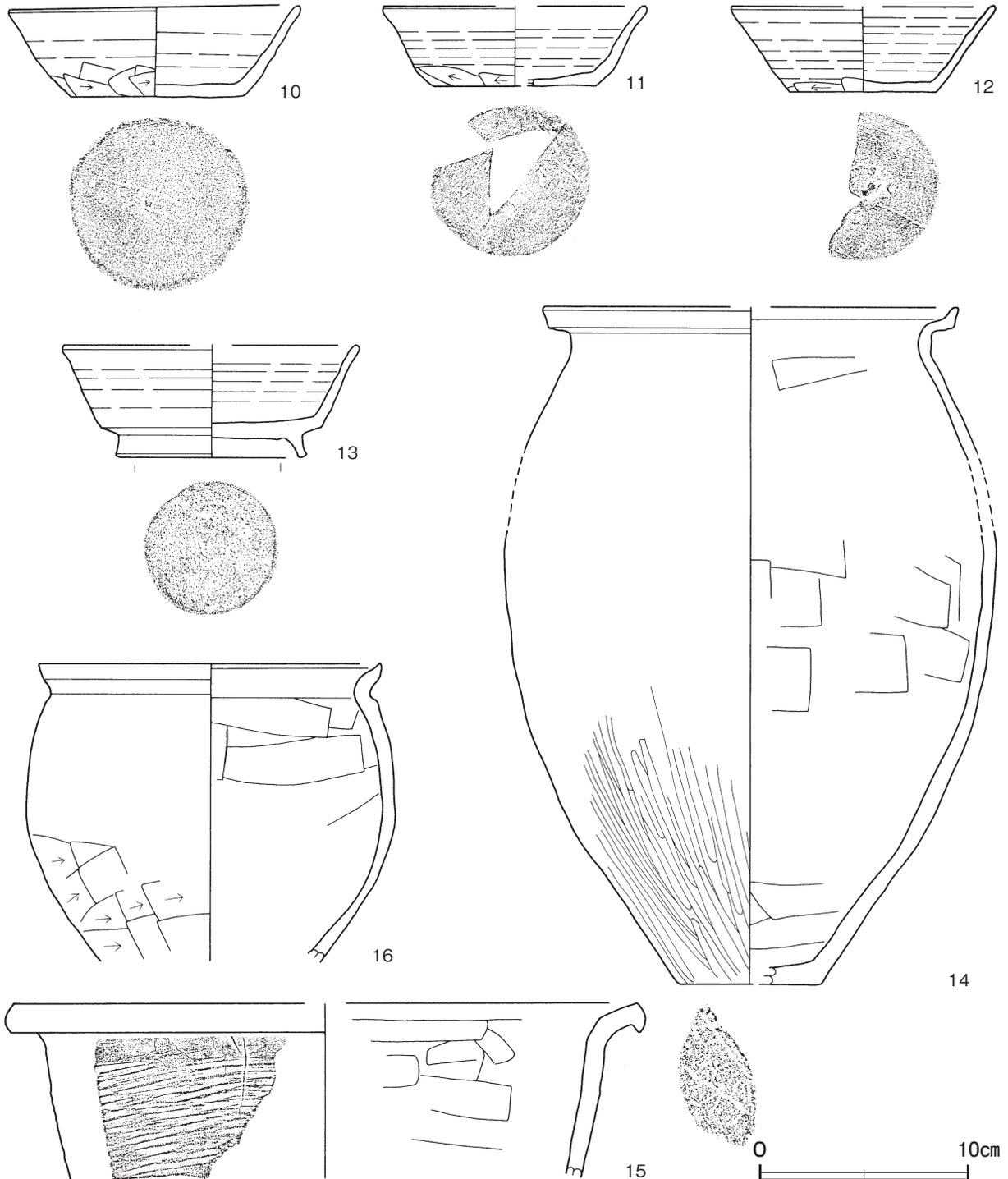
- | | | | |
|--------|-------------------------------|----------|----------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 9 黄褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 暗赤褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 10 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 | 11 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 12 灰褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック微量 |
| 5 黒褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量 | 13 にぶい褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 14 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 7 暗褐色 | 焼土ブロック微量 | 15 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量, ロームブロック微量 |
| 8 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | | |



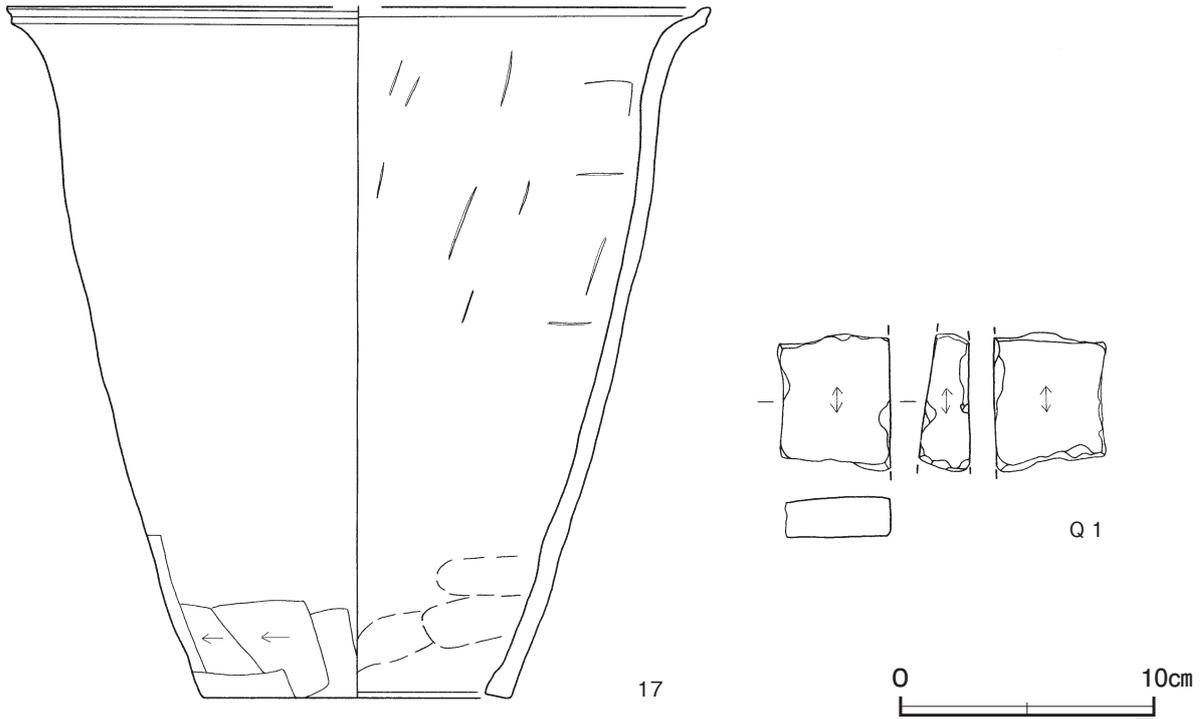
第 103 図 第 361 号竖穴建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片 167 点（坏 17，小形甕 1，甕類 148，甗 1），須恵器片 134 点（坏 41，高台付坏 7，蓋 14，甕類 67，甗 5），石器 1 点（砥石），瓦 1 点（平瓦）が主に北西コーナー部から南東部の覆土下層から出土している。17 は，竈内と右袖部付近出土の破片が接合している。14 は，北西コーナー部の床面から覆土下層にかけて出土した破片が接合している。12・16 は北西コーナー部，10 は南壁付近，13 は北東コーナー部付近の覆土下層から出土している。Q 1 は，南東部の覆土下層，11 は南西コーナー部，15 は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。これらの遺物は，埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から 8 世紀後葉に比定できる。



第 104 図 第 361 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 105 図 第 361 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第 361 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 104・105 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
10	須恵器	坏	13.9	4.5	8.3	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	体部下端手持ちへら削り 底部一方向のへら削り	覆土下層	90% PL49 新治窯
11	須恵器	坏	[12.5]	3.9	7.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部下端手持ちへら削り 底部一方向のへら削り 二次焼成	覆土上層	60% 新治窯
12	須恵器	坏	[12.6]	4.2	7.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部下端手持ちへら削り 底部へら切り痕を残す周縁手持ちへら削り 二次焼成	覆土下層	30% 新治窯
13	須恵器	高台付坏	[14.0]	5.5	8.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄灰	普通	底部回転へら削り	覆土下層	60% 新治窯
14	土師器	甕	[19.8]	[33.1]	[6.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	暗褐	普通	体部外面下半へら磨き 内面横位のナデ 底部本葉痕	床面 覆土下層	30%
15	須恵器	甕	[30.0]	(8.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部外面横位の平行叩き 内面横・斜位のナデ	覆土上層	5%
16	土師器	小形甕	16.3	(14.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面下半へら削り 内面横・斜位のナデ	覆土下層	30%
17	土師器	甕	[27.5]	27.7	12.1	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面下位へら削り 内面へら当て痕 指ナデ	竈内	60%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	砥石	(5.5)	(4.5)	2.0	(69.7)	凝灰岩	砥面3面	覆土下層	

第 362 号竪穴建物跡 (第 106 ~ 108 図 PL25)

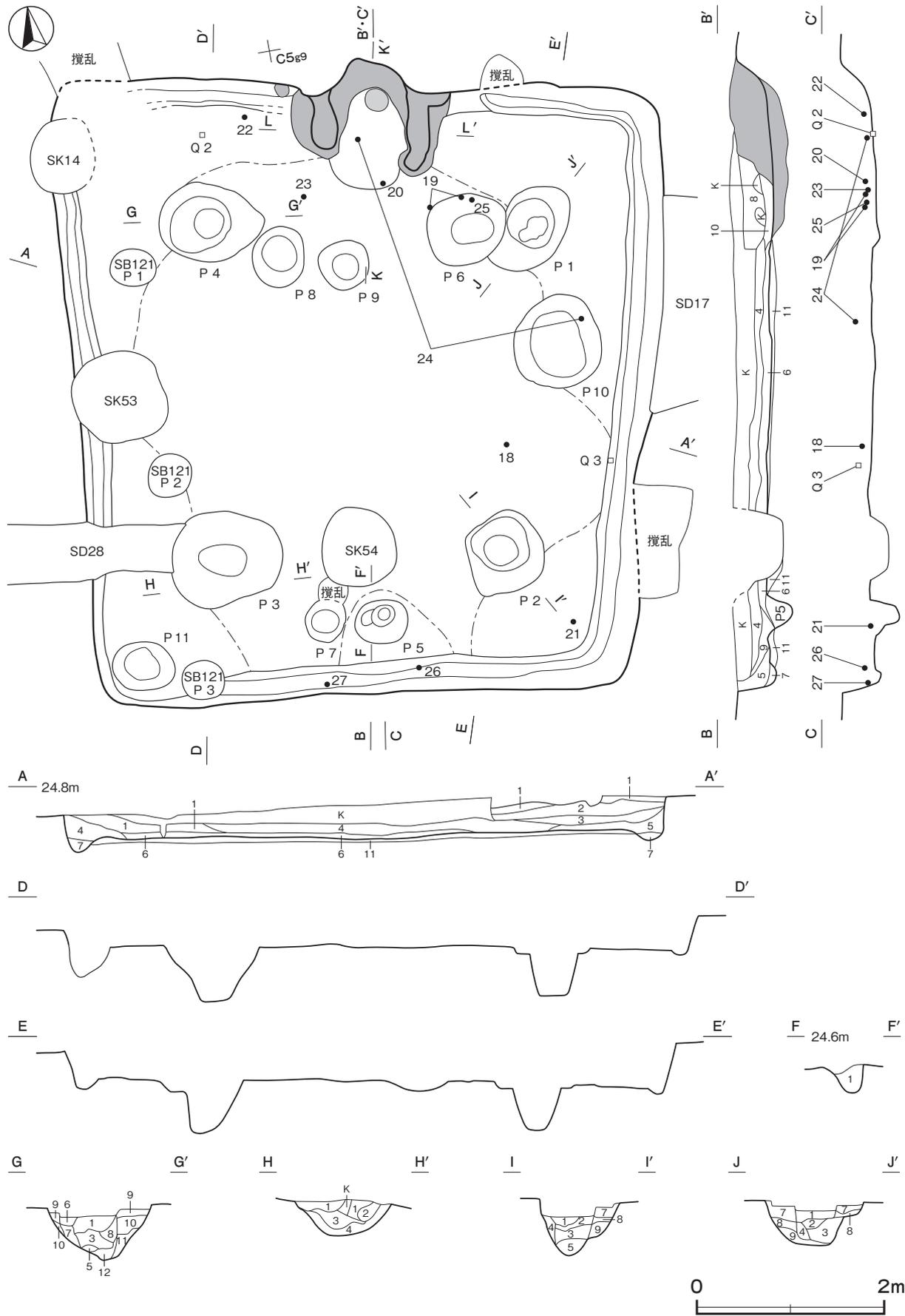
位置 調査区北部の C 5 g9 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 121 号掘立柱建物, 第 14・53・54 号土坑, 第 17・28 号溝に掘り込まれている。

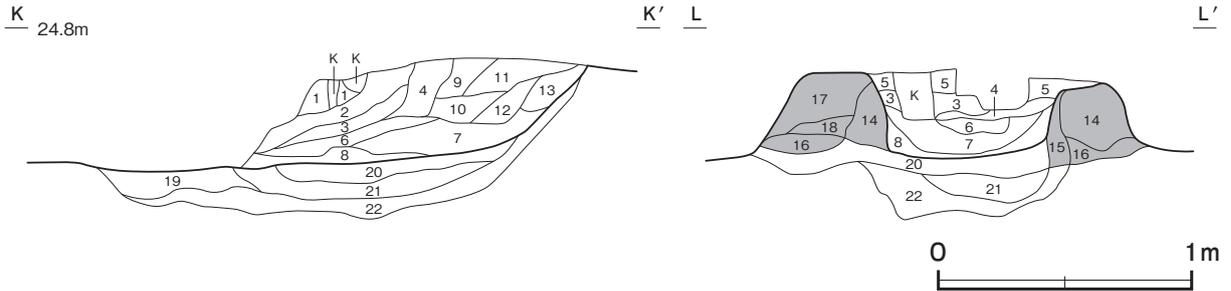
規模と形状 長軸 6.75 m, 短軸 6.51 m の方形で, 主軸方向は N - 13° - E である。壁は高さ 32 ~ 36cm で, ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で, 竈前方部から南壁にかけて踏み固められている。貼床は, 全体を 8cm ほど掘り下げ, ロームブロックや焼土ブロックを含む第 11 層を埋土して構築されている。壁溝が南西コーナー部を除いて巡っている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 138cm で, 燃焼部幅は 68cm である。袖部は地山と第



第 106 图 第 362 号竖穴建物跡実测图 (1)



第107図 第362号竪穴建物跡実測図(2)

20層の上に焼土ブロックや粘土ブロックを含む第14～18層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に25cm掘りくぼめ、焼土ブロックやロームブロックを含む第19～22層を埋土している。火床面は第20層上面で火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に32cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

竪穴層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------------------|----------|------------------------------|
| 1 灰褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 11 褐灰色 | 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 粘土粒子微量 |
| 2 褐灰色 | 焼土ブロック・粘土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子少量 | 12 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗赤灰色 | 焼土ブロック・粘土ブロック中量, ロームブロック少量, 炭化物微量 | 13 赤褐色 | 焼土ブロック多量, 粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ロームブロック中量, 炭化物少量 | 14 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子中量 |
| 5 暗赤褐色 | 粘土ブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 15 褐灰色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 6 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック多量, 粘土ブロック・炭化物中量, ローム粒子少量 | 16 黒褐色 | 粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 黒褐色 | 粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 17 灰褐色 | 粘土ブロック多量, 焼土ブロック少量 |
| 8 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子多量, 粘土粒子中量, ローム粒子少量 | 18 黒褐色 | 粘土ブロック多量 |
| 9 極暗赤褐色 | 焼土ブロック多量, ローム粒子・粘土粒子少量 | 19 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量, ロームブロック・粘土粒子少量 |
| 10 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化物微量 | 20 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量, 粘土ブロック少量 |
| | | 21 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック中量, 炭化粒子少量 |
| | | 22 黒褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量, 粘土粒子微量 |

ピット 11か所。P 1～P 4は深さ38～62cmで支柱穴である。P 5は深さ31cmで、南壁寄りに位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P 6～P 8は深さ11～29cmで補助支柱穴と思われる。P 9～P 11は深さ14～21cmで、性格は不明である。

ピット土層解説(各ピット共通)

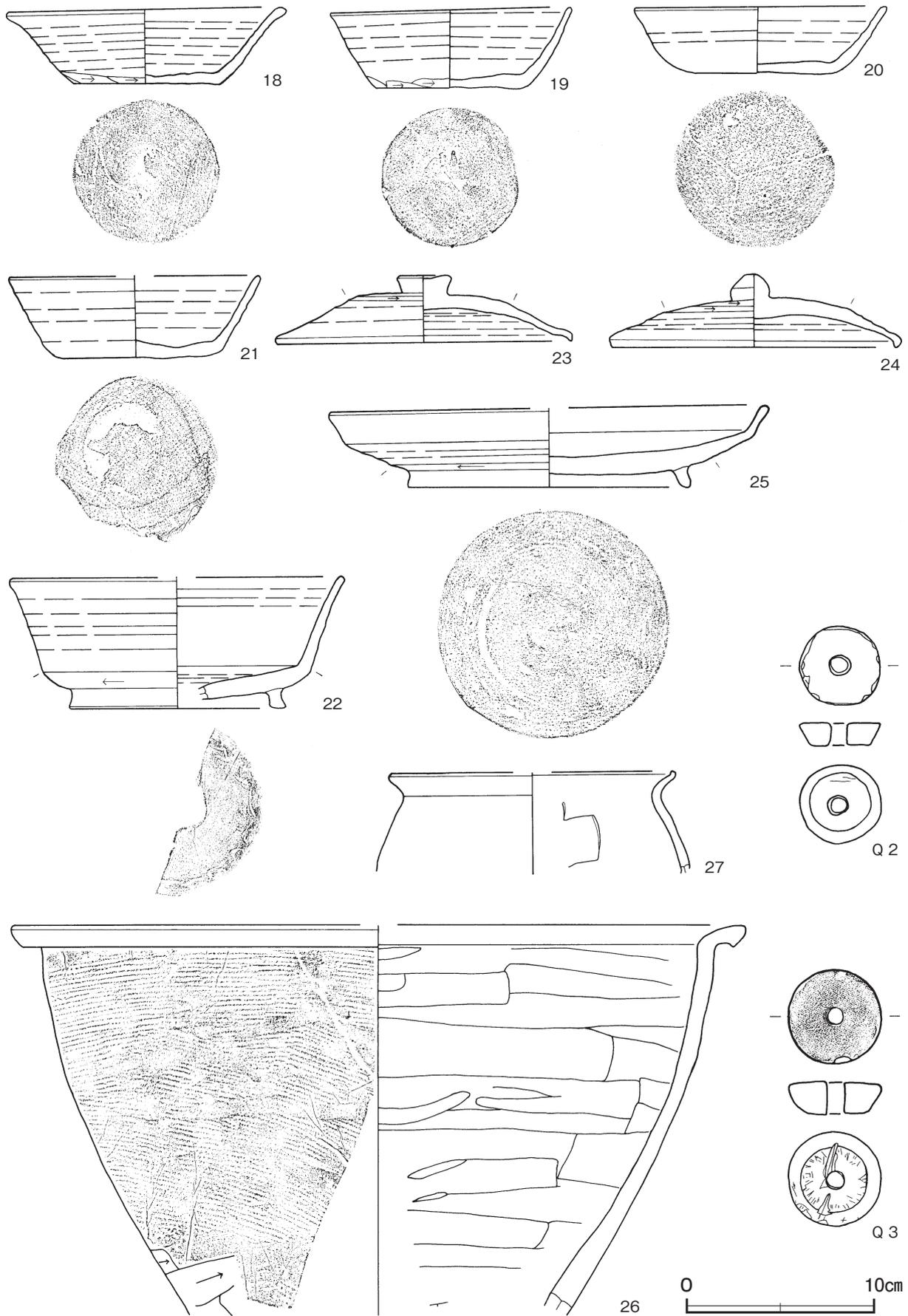
- | | | | |
|---------|--------------------------|---------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 7 灰褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 にぶい褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック微量 | 9 褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 10 黄褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 5 灰褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 11 灰黄褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 6 にぶい褐色 | ローム粒子中量 | 12 黒褐色 | ロームブロック中量 |

覆土 10層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第7層は壁溝の覆土である。第11層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|---------|--------------------------|----------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 7 灰褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 極暗褐色 | 焼土ブロック多量, ロームブロック・炭化粒子中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 灰褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 11 にぶい褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物中量 |
| 6 にぶい褐色 | ローム粒子中量 | | |

遺物出土状況 土師器片 330点(坏20, 小形甕1, 甕類304, 甗5), 須恵器片 342点(坏138, 高台付坏15, 蓋26, 盤1, 高盤1, 鉢1, 甕類158, 甗2), 石器2点(紡錘車)が主に南東部上層から出土している。19・



第108图 第362号竖穴建物跡出土遺物実測图

25は竈右袖前方部付近、22・Q2は北壁付近、21は南東コーナー部、26・27は南壁付近の床面からそれぞれ出土している。20は竈内から出土している。24は、竈内と東壁付近の覆土下層から出土した破片が接合している。23は左袖前方部付近、18・Q3は東壁付近の覆土下層からそれぞれ出土している。これらの遺物は、埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉に比定できる。

第362号竪穴建物跡出土遺物観察表（第108図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
18	須恵器	坏	14.5	4.2	7.7	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部ヘラ切り痕を残す底部周辺不定方向のヘラ削り	覆土下層	70% PL49 新治窯
19	須恵器	坏	12.8	4.5	7.5	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	床面	95% PL49 新治窯
20	須恵器	坏	13.3	3.7	8.0	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端ナデ 底部一方向のヘラ削り	竈内	70% PL49 新治窯
21	須恵器	坏	[13.3]	4.4	8.9	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端ナデ 底部回転ヘラ切り痕を残す不定方向のヘラ削り	床面	40% 新治窯
22	須恵器	高台付坏	[17.6]	7.1	[11.2]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	床面	40% 新治窯
23	須恵器	蓋	15.8	3.6	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	70% 新治窯
24	須恵器	蓋	15.3	4.0	-	長石・石英	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	80% PL49
25	須恵器	盤	[23.3]	4.5	[15.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	床面	50% 新治窯
26	須恵器	鉢	[38.8]	(21.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄灰	普通	体部外面横位の平行叩き 下半ヘラ削り 内面横位のナデ	床面	20% 新治窯
27	土師器	小形甕	[15.0]	(5.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面ナデ 内面横位のナデ	床面	5%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q2	紡錘車	4.4	1.3	1.1	32.0	粘板岩	上・下面研磨 一方向からの穿孔	床面	PL57
Q3	紡錘車	5.1	1.7	1.0	59.4	粘板岩	上面研磨後線刻 下面研磨 一方向からの穿孔	覆土下層	PL57

第364号竪穴建物跡（第109図）

位置 調査区北部のC5i0区、標高25mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 攪乱を多く受けているため南北軸は2.98mで、東西軸は2.94mしか確認できなかった。方形又は長方形と推定できる。主軸方向はN-3°-Wである。壁は遺存していない。

床 平坦で、中央部の一部分が踏み固められている。壁溝が北側、東側、南側の一部で確認された。

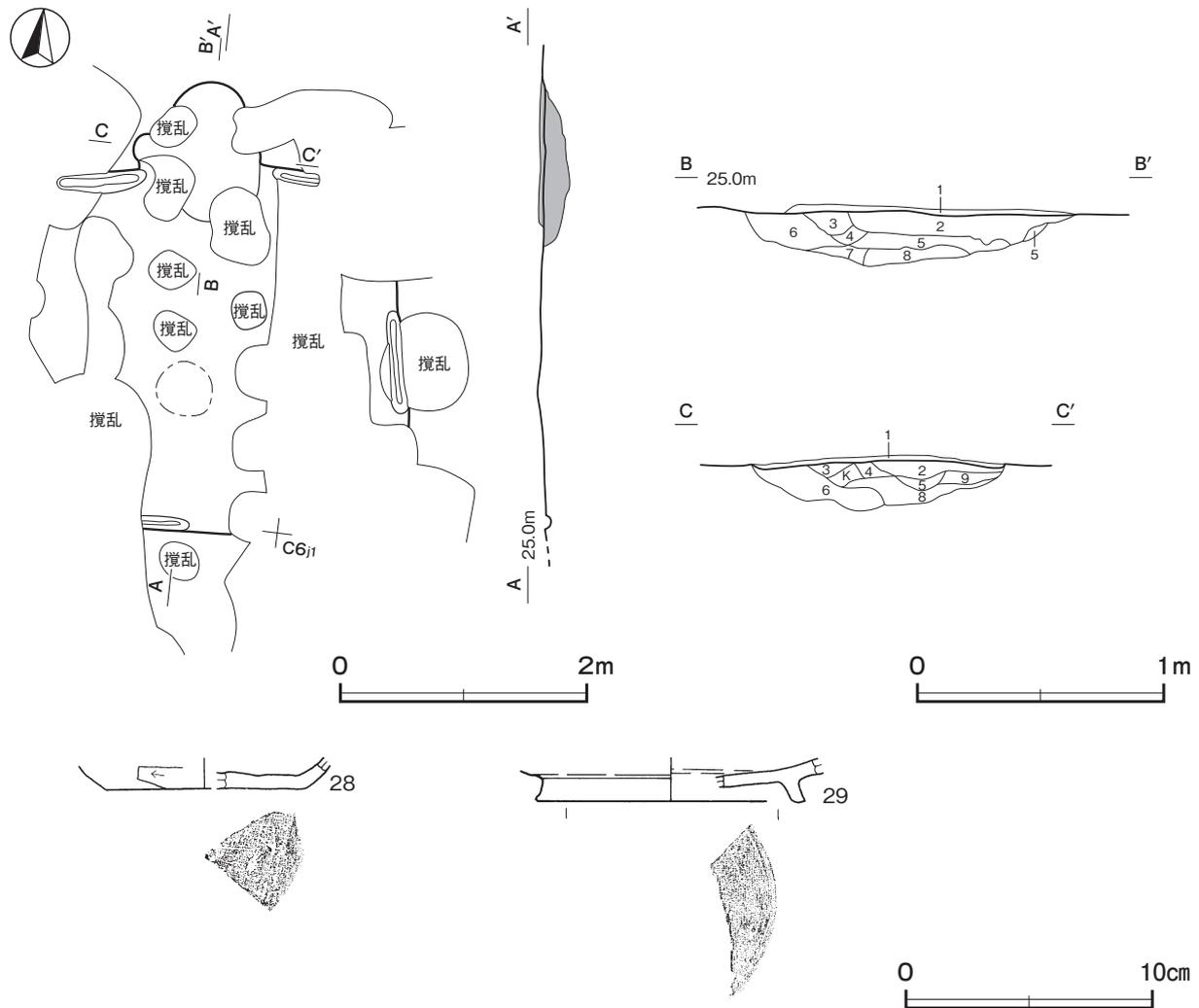
竈 北壁に付設されている。攪乱を受けているため火床部しか確認できなかった。火床部は長径111cm、短径96cmで楕円形に22cm掘りくぼめ、焼土ブロックやロームブロックを含む第2～9層を埋土している。火床面は赤変していない。

竈土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|-------------------------------|---|------|-----------------------|
| 1 | 極暗褐色 | 焼土ブロック多量、炭化粒子中量、粘土ブロック少量 | 5 | 灰褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 | 褐灰色 | 焼土ブロック多量、炭化物中量、粘土ブロック・ローム粒子微量 | 6 | 褐灰色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 | 赤褐色 | 焼土ブロック多量、炭化粒子中量 | 7 | 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子少量 |
| 4 | にぶい黄褐色 | ローム粒子多量、焼土ブロック中量 | 8 | 極暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| | | | 9 | 褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片6点（甕類）、須恵器片5点（坏1、盤1、甕類3）が出土している。28・29は、竈内からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第 109 図 第 364 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 364 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 109 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
28	須恵器	坏	-	(1.3)	[8.0]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部不定方向のヘラ削り	竈内	10% 新治窯
29	須恵器	盤	-	(1.9)	[11.0]	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	底部回転ヘラ削り	竈内	10% 新治窯

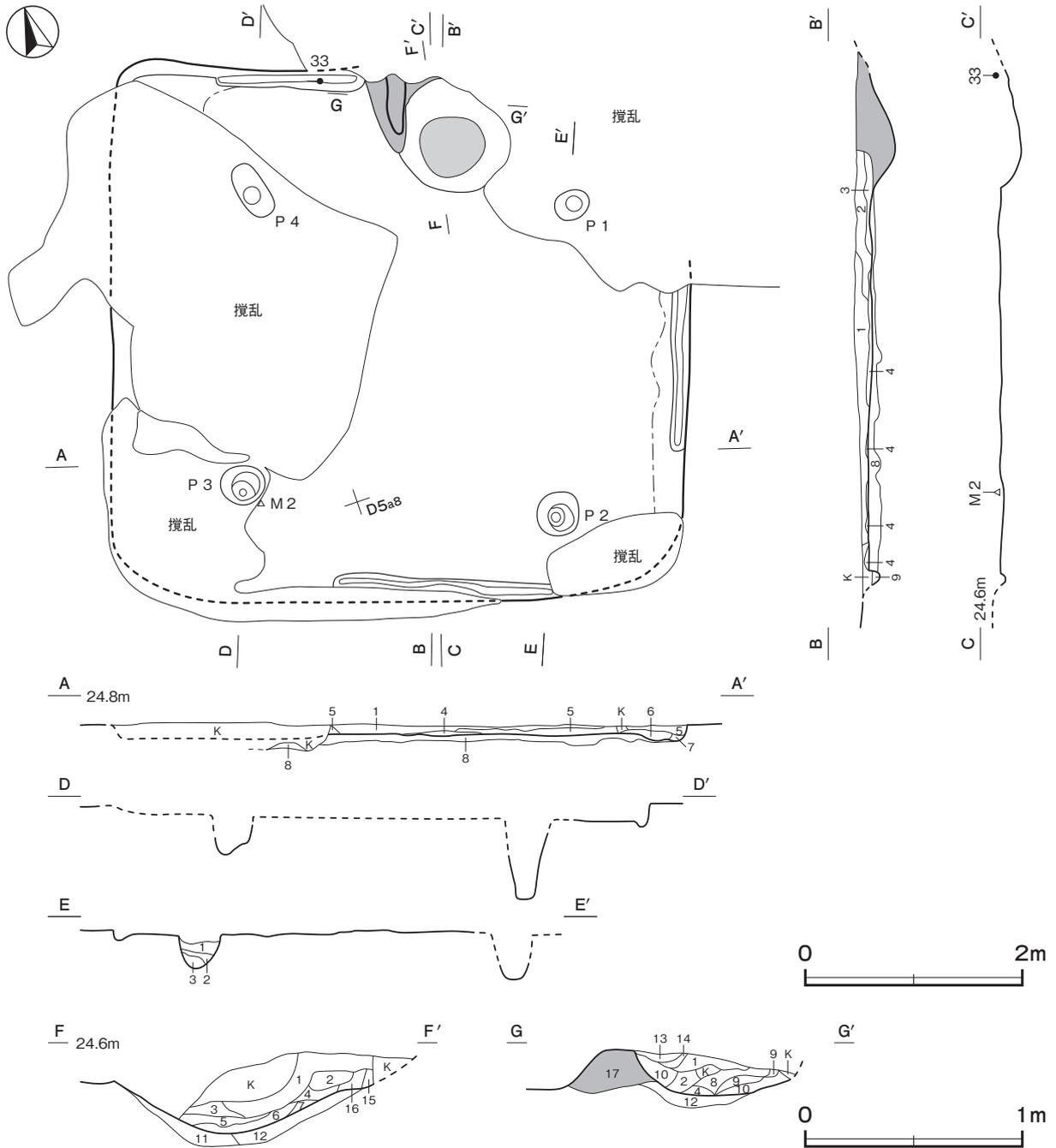
第 365 号竪穴建物跡 (第 110・111 図 PL25)

位置 調査区北部の C 5j8 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 攪乱を多く受けているため、東西軸は 5.32 m で、南北軸は 4.94 m しか確認できなかった。方形と推定できる。主軸方向は N - 20° - E である。壁は高さ 6 ~ 18cm で、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、竈前方部から南壁にかけて踏み固められている。貼床は、全体を 5 cm ほど掘り下げ、ロームブロックを含む第 8 層を埋土して構築されている。攪乱により北東コーナー部と西壁部が壊されている。壁溝が北壁・東壁・南壁の一部に巡っている。

竈 北壁に付設され、煙道と右袖部は攪乱により壊されているため、規模は焚口部から煙道部まで 100cm、燃焼部幅は 98cm しか確認できなかった。左袖部は地山の上に焼土粒子や炭化粒子を含む第 17 層を積み上げて構



第110図 第365号竪穴建物跡実測図

築されている。火床部は楕円形に6cm掘りくぼめ、ローム粒子や焼土粒子を含む第11・12層を埋土している。火床面は第11・12層上面で火熱を受けて赤変している。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------|----------|----------------------------|
| 1 褐灰色 | 焼土ブロック多量, ローム粒子・炭化物少量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量, 粘土粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子微量 | 11 にぶい褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 灰褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量 | 12 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック微量 | 13 暗褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 5 極暗褐色 | 焼土ブロック多量, 灰中量 | 14 灰褐色 | 焼土粒子中量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック・灰多量 | 15 極暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子微量 |
| 7 灰赤色 | 焼土粒子多量, 灰少量, ローム粒子微量 | 16 黒褐色 | 焼土ブロック中量, 粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 8 灰褐色 | 焼土ブロック多量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 17 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 9 灰褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量 | | |

ピット 4か所。P 1～P 4は深さ 32～72cmで、支柱穴である。

ピット土層解説 (P 2)

- 1 灰褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 3 灰褐色 ロームブロック・炭化物微量
2 暗褐色 ロームブロック少量

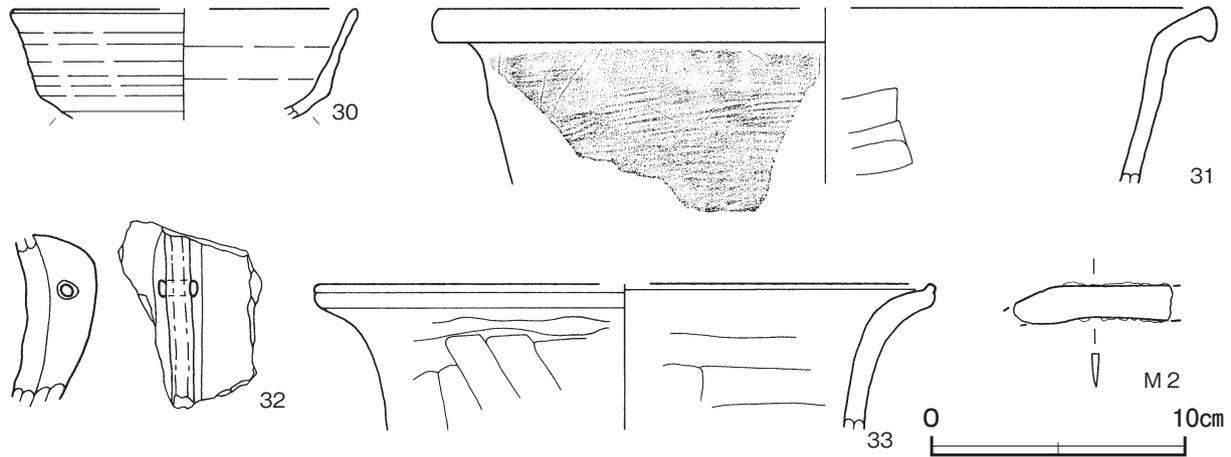
覆土 7層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから、自然堆積である。第8層は貼床の構築土である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 5 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物微量
2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 6 黄褐色 ロームブロック多量
3 灰褐色 ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 7 黄褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
4 黒褐色 炭化粒子中量, ロームブロック少量 8 にぶい褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片 89点 (坏4, 甕類85), 須恵器片 38点 (坏10, 高台付坏1, 蓋1, 双耳瓶1, 鉢1, 甕類24), 金属製品1点 (鎌) が主に東部上層から出土している。33は北壁付近, M 2はP 3付近の床面からそれぞれ出土している。30～32は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第 111 図 第 365 号 竪穴建物跡出土遺物実測図

第 365 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 111 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
30	須恵器	高台付坏	[13.5]	(4.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部下端回転ヘラ削り	覆土中	10% 新治窯
31	須恵器	鉢	[30.5]	(7.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部外面横位の平行叩き 内面横位のナデ	覆土中	5%
32	須恵器	双耳瓶	-	-	-	長石・石英	黄褐	普通	把手部穿孔 自然釉	覆土中	5% 猿投窯
33	土師器	甕	[24.2]	(5.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外面ヘラナデ 内面横位のナデ	床面	5%

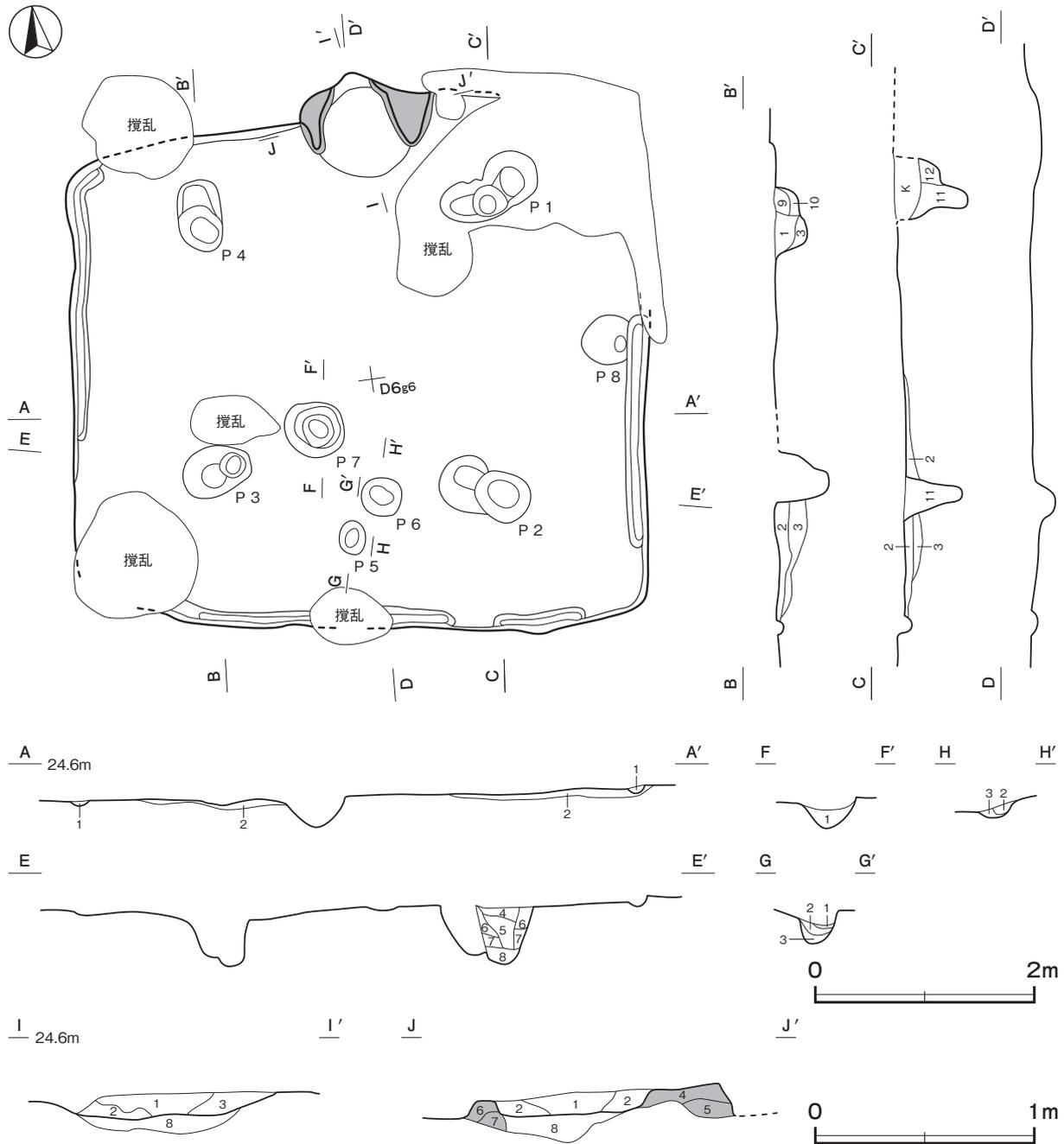
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 2	鎌	(6.3)	1.5	0.2	(7.1)	鉄	刃部先端・茎部欠損 刃断三角	床面	PL58

第 366 号 竪穴建物跡 (第 112・113 図 PL26)

位置 調査区中央部の D 6 f5 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 5.21 m, 短軸 4.65 m の長方形で, 主軸方向は N-7°-E である。壁は高さ 2 cm である。

床 平坦な貼床である。貼床は, 中央部から南側を 8～28cm ほど掘り下げ, ロームブロックを含む第 2・3



第112図 第366号竪穴建物跡実測図

層を埋土して構築されている。壁溝が北壁を除いて断続的に巡っている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで98cmで、燃焼部幅は67cmである。袖部は地山の上にロームブロックや粘土ブロックを含む第4～7層を積みあげて構築されている。火床部は楕円形に9cmほど掘りくぼめ、ロームブロックや焼土ブロックを含む第8層を埋土している。火床面は第8層上面で、赤変していない。煙道部は壁外に37cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック少量, ロームブロック微量 | 5 黒褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量, ロームブロック微量 | 6 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 3 黒褐色 焼土ブロック多量, ロームブロック微量 | 7 黒褐色 焼土ブロック中量, 粘土ブロック少量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土粒子微量 | 8 暗褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック少量 |

ピット 8か所。P 1～P 4は深さ31～60cmで支柱穴である。4か所とも重複して掘られていることから、建て替えが行われたとみられる。P 5は深さ29cmで、南壁寄りに位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6～P 8は深さ18～30cmで補助柱穴と思われる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|-----------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 7 黒褐色 粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック多量 | 8 黒褐色 ロームブロック多量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック中量 | 9 黒褐色 ロームブロック中量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック中量 | 10 黒褐色 ロームブロック多量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック少量 | 11 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 6 黒褐色 ローム粒子中量 | 12 暗褐色 ロームブロック少量 |

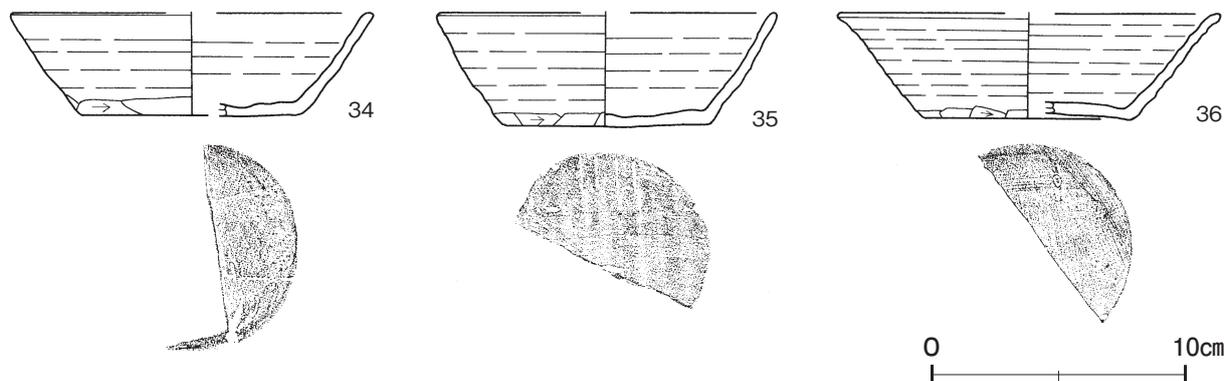
覆土 第1層は壁溝の覆土である。第2・3層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 3 暗褐色 ロームブロック多量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量 | |

遺物出土状況 土師器片65点(坏3, 甕類62), 須恵器片31点(坏11, 蓋5, 甕類15)が主に床面や柱穴内から出土している。34～36は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀中葉に比定できる。柱穴の配置から拡張が行われたと考えられる。



第113図 第366号竪穴建物跡出土遺物実測図

第366号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第113図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
34	須恵器	坏	[14.1]	4.1	[8.6]	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方方向のヘラ削り	覆土中	50% 新治窯
35	須恵器	坏	[13.4]	4.5	[8.3]	長石・石英	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方方向のヘラ削り	覆土中	30%
36	須恵器	坏	[15.0]	4.2	[8.2]	長石・石英	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部不定方向の手持ちヘラ削り	覆土中	20%

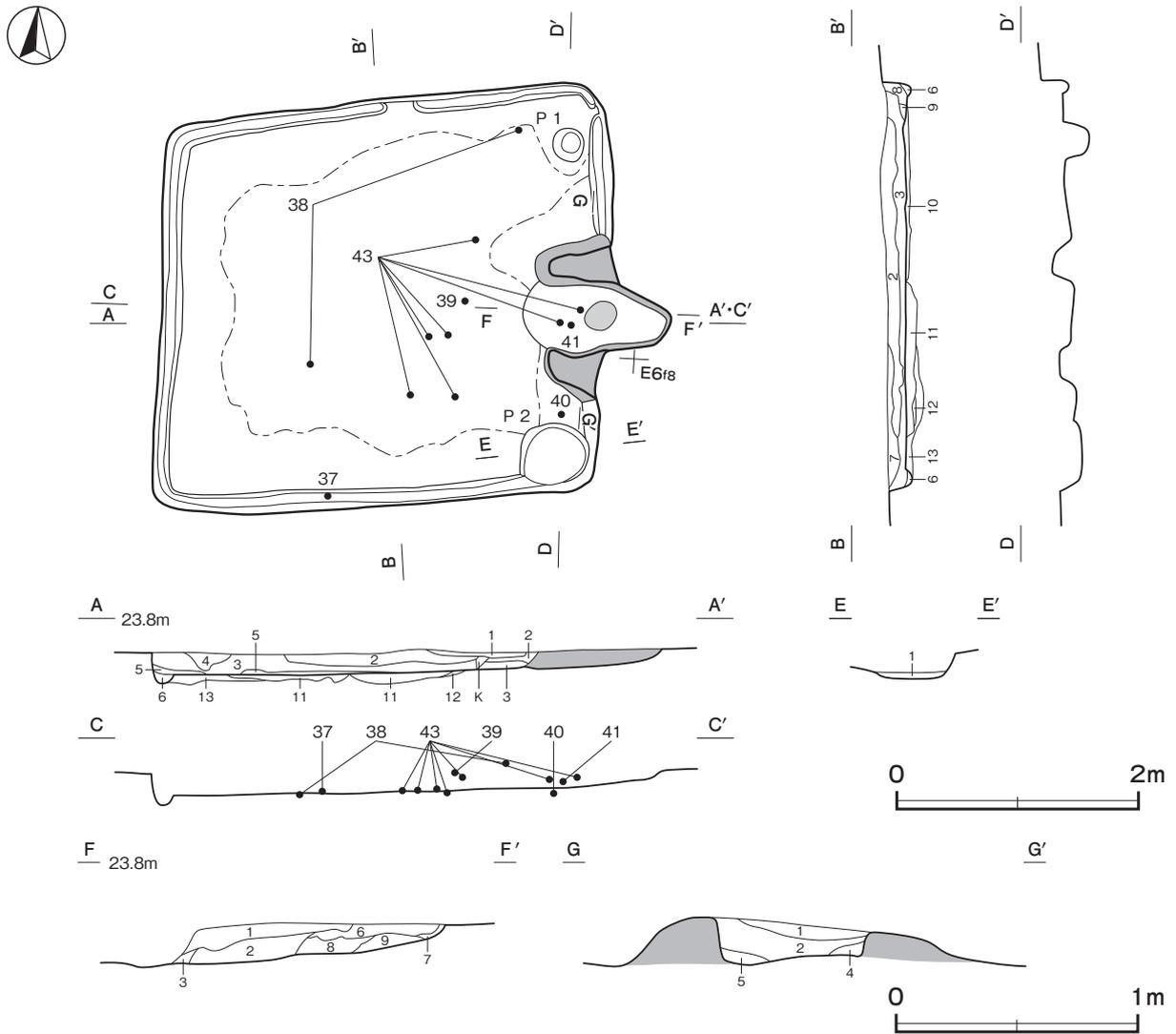
第371号竪穴建物跡 (第114・115図 PL26・27)

位置 調査区中央部のE 6e7区, 標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.73m, 短軸3.42mの長方形で, 主軸方向はN-88°-Eである。壁は高さ18～20cmで, ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で, 竈前方部から西壁に向かって踏み固められている。貼床は, ロームブロックを含む第10～13層を埋土して構築されている。壁溝が南東コーナー部を除いて巡っている。

竈 東壁のやや南寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで120cmで, 燃焼部幅は53cmである。袖部は地山の上に粘土ブロックを含む層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に4cm掘りくぼめ構築さ



第 114 図 第 371 号竪穴建物跡実測図

れている。火床面は地山上面で火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外に 50cm 掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

電土層解説

- | | | |
|---------|---------------------------------|---------------------------------|
| 1 にぶい褐色 | 粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 量, 炭化粒子微量 |
| 2 灰褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 6 灰褐色 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 7 暗褐色 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| | | 8 にぶい褐色 |
| | | 粘土ブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| | | 9 灰褐色 |
| | | 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量 |

ピット 2か所。P 1・P 2は深さ17cm・22cmで、性格は不明である。

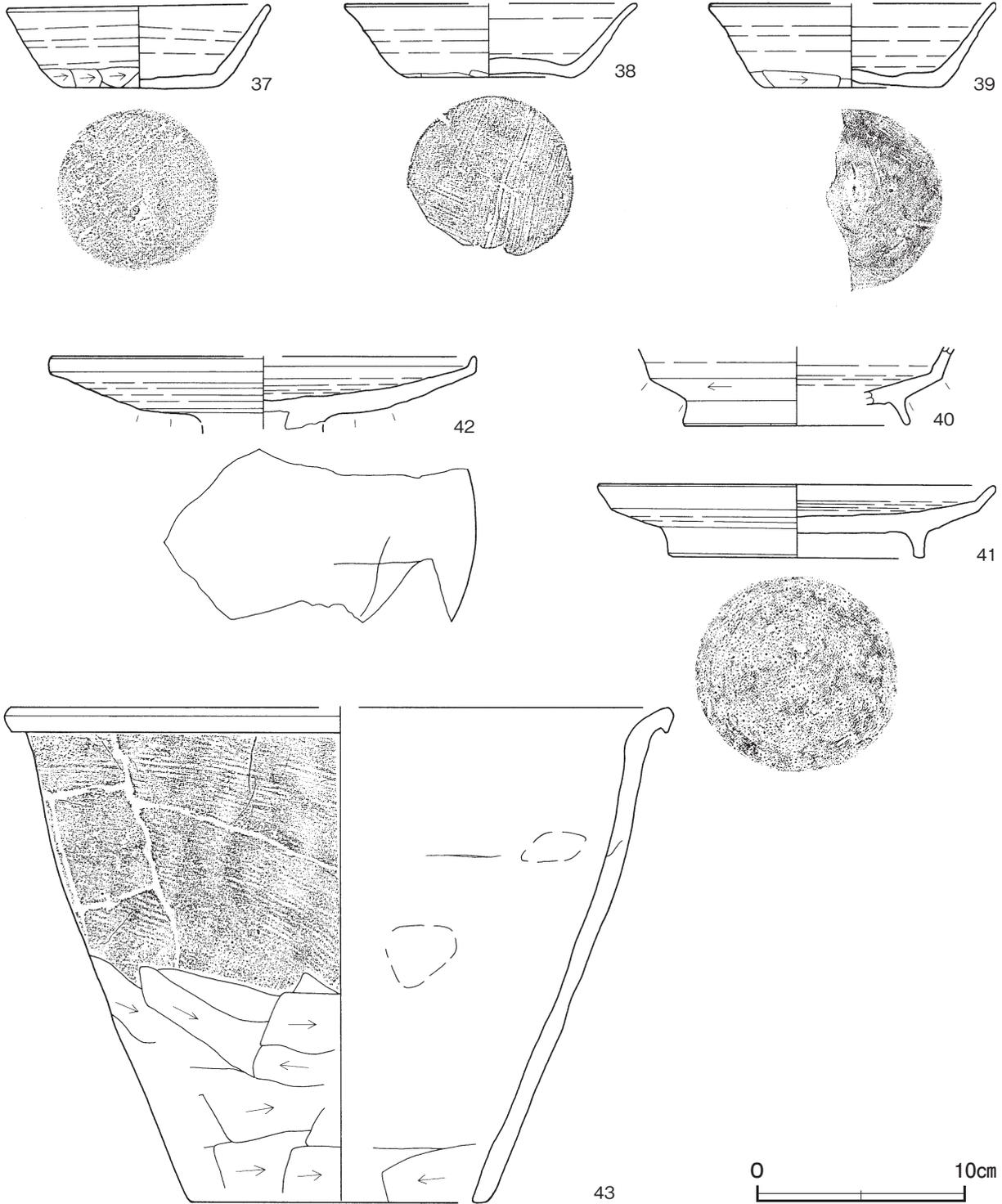
ピット土層解説 (P 2)

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

覆土 9層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから、自然堆積である。第10～13層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------------|----------|----------------------------|
| 1 灰褐色 | 粘土ブロック多量, 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 6 暗褐色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土ブロック少量 | 7 暗褐色 | 粘土ブロック多量, ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量, 粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 にぶい褐色 | 粘土ブロック多量, ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | 焼土粒子中量, ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 にぶい褐色 | 粘土ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| | | 11 暗褐色 | 粘土ブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| | | 12 明褐色 | 粘土ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| | | 13 灰褐色 | 粘土ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |



第115図 第371号竪穴建物跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片 177 点（坏 4，甕類 173），須恵器片 64 点（坏 34，高台付坏 1，蓋 2，盤 3，高盤 1，甕類 21，甌 2），土製品 1 点（支脚），瓦 1 点（平瓦）が主に中央部上層から下層にかけて出土している。37 は南壁付近，40 は南東コーナー部，38 は中央部の床面からそれぞれ出土しており，38 は北東コーナー部の覆土上層から出土した破片と接合している。41 は竈の火床部から逆位の状態で出土している。43 は，中央部の床面から出土した土器片と竈の火床部から出土した破片が接合している。42 は，南東コーナー部の覆土中と床面から出土した土器片が接合している。41 は廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から 8 世紀後葉に比定できる。

第 371 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 115 図）

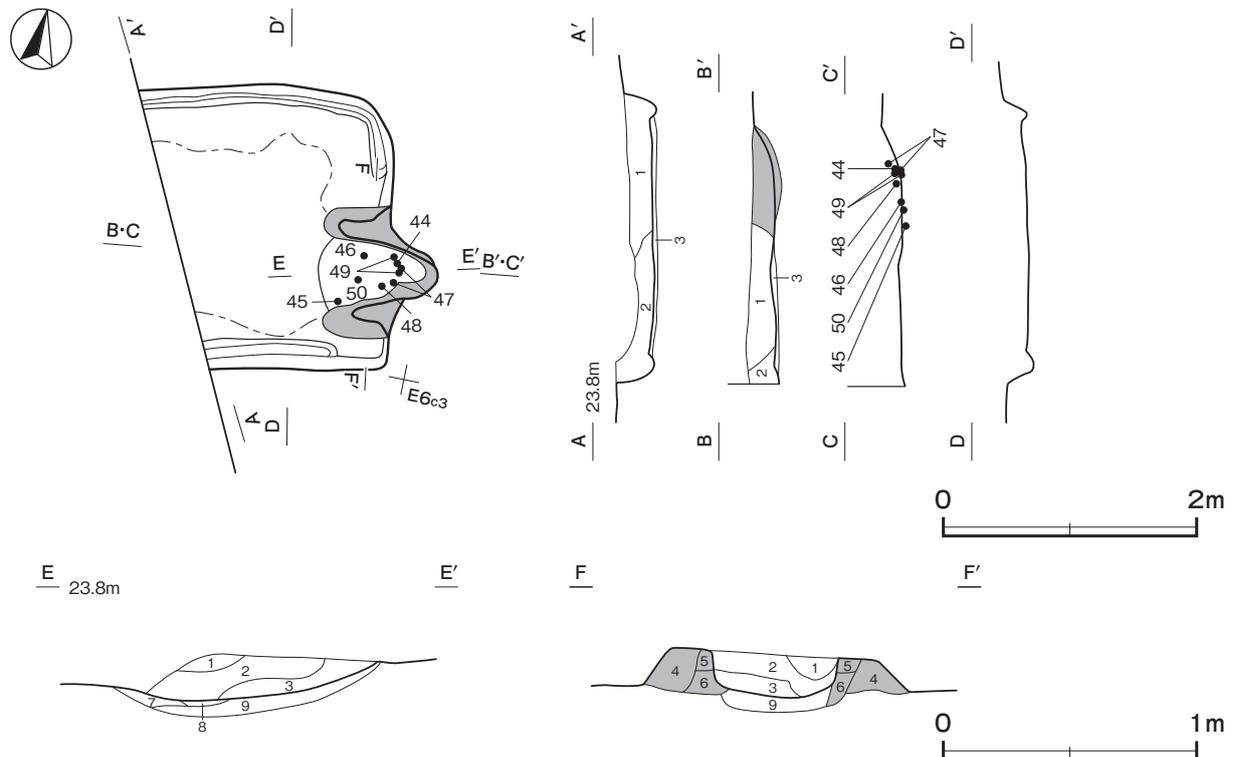
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
37	須恵器	坏	12.6	4.1	7.8	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部ヘラ切痕を残す 一方のヘラ削り	床面	70% PL49 新治窯
38	須恵器	坏	[14.0]	3.6	8.1	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部二方向のヘラ削り	覆土上層 床面	50% 新治窯
39	須恵器	坏	[13.8]	4.1	8.8	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部ヘラ切痕を残す 周縁不定方向のヘラ削り	覆土中	50% 新治窯
40	須恵器	高台付坏	-	(3.8)	[10.8]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端回転ヘラ削り	床面	5%
41	須恵器	盤	19.1	3.6	12.4	長石・石英・雲母	灰黄	普通	ロクロナデ	竈内	95% PL49 新治窯
42	須恵器	高盤	[20.5]	(3.5)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	坏部下端回転ヘラ削り 体部外面ヘラ削り記号「×」	床面	10% 新治窯
43	須恵器	甌	[31.6]	24.2	[14.4]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部外面横位の平行叩き 下半ヘラ削り 内面ヘラ削り 指頭痕 輪積痕	竈内	30% 新治窯

第 375 号竪穴建物跡（第 116・117 図 PL27・28）

位置 調査区中央部の E 6 b2 区，標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 130 号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 西部が調査区域外に延びているため，南北軸は 2.26 m で，東西軸は 1.85 m しか確認できなかった。



第 116 図 第 375 号竪穴建物跡実測図

方形又は長方形と推定できる。主軸方向はN-80°-Eである。壁は高さ20~24cmで、ほぼ外傾している。

床 平坦な貼床で、竈の前方部から西壁に向かって踏み固められている。貼床は、粘土ブロックを含む第3層を埋土して構築されている。壁溝が南東コーナー部を除いて巡っている。

竈 東壁の南寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで91cmで、燃焼部幅は52cmである。袖部は地山の上に焼土ブロックや粘土ブロック含む第4~6層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に6cm掘りくぼめ、焼土ブロックや粘土ブロックを含む第7~9層を埋土している。火床面は第7~9層上面で、赤変していない。煙道部は壁外に38cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

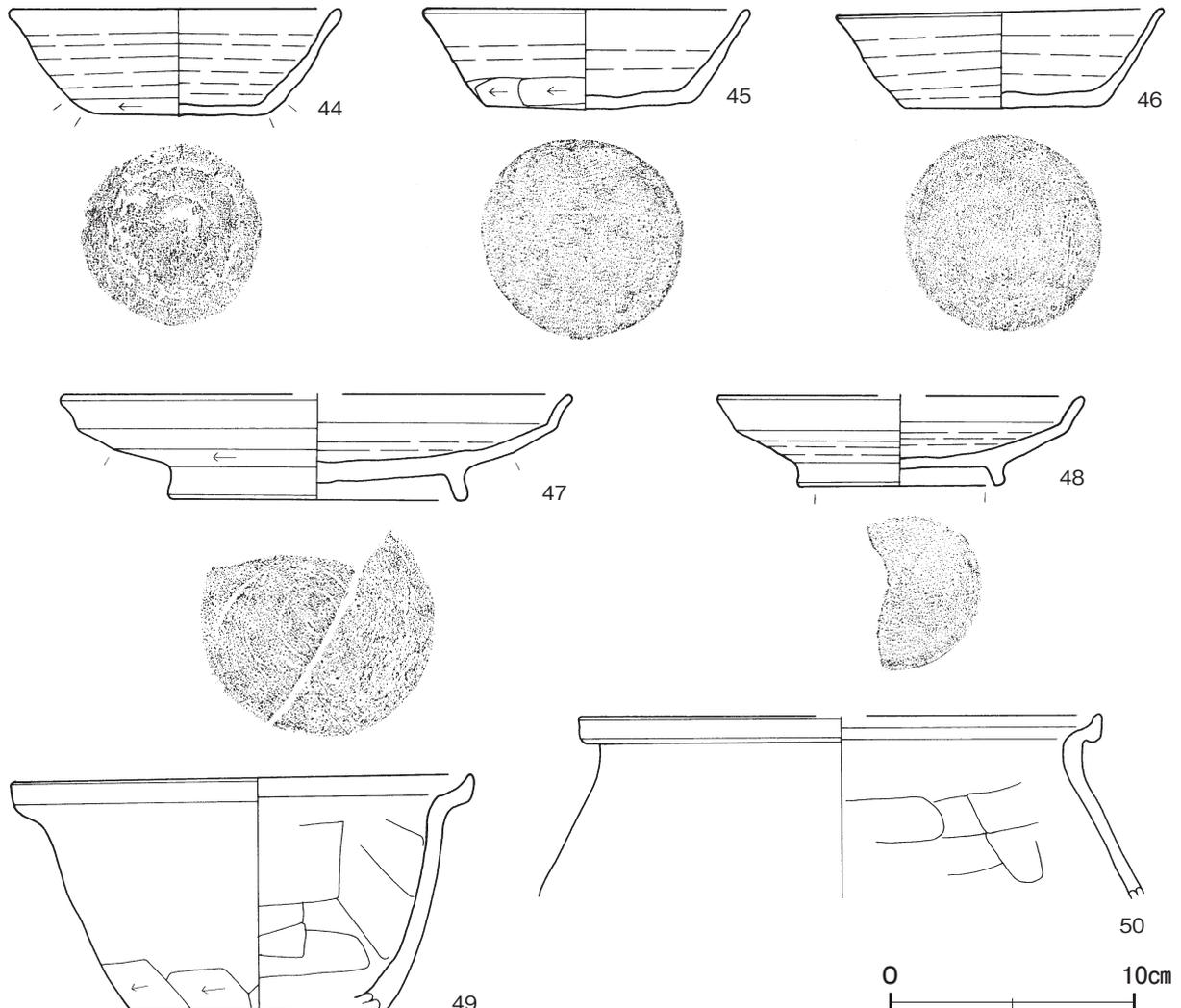
竈土層解説

- | | |
|-------------------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 6 黒褐色 粘土ブロック中量 |
| 3 黒褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 7 黒褐色 粘土ブロック少量 |
| 4 黒褐色 粘土ブロック多量 | 8 暗褐色 焼土ブロック少量, 粘土ブロック微量 |
| | 9 黒色 焼土ブロック少量 |

覆土 2層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから、自然堆積である。第3層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量 | 3 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック多量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック微量 | |



第117図 第375号竪穴建物跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片 63 点（甕類），須恵器片 57 点（坏 17，高台付坏 2，蓋 2，皿 1，鉢 1，甕類 34）が主に竈周辺から出土している。44～50 は，竈の火床部から煙道部にかけてそれぞれ出土している。44・46 は逆位の状態，45 は斜位の状態，48 は正位の状態で出土している。47・49・50 は，竈内から出土した破片が接合している。これらの遺物は廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から 8 世紀後葉に比定できる。

第 375 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 117 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
44	須恵器	坏	13.4	4.4	7.4	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り	竈内	95% PL49 新治窯
45	須恵器	坏	13.5	4.2	8.5	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	竈内	90% PL49 新治窯
46	須恵器	坏	13.3	4.1	8.2	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	竈内	80% PL49 新治窯
47	須恵器	盤	[20.9]	4.5	12.1	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	竈内	50% 新治窯
48	須恵器	盤	[15.0]	3.8	8.3	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	底部回転ヘラ削り	竈内	50% 新治窯
49	須恵器	鉢	18.9	9.8	[10.7]	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	不良	体部下位ヘラ削り 内面横・斜位のナデ 二次焼成	竈内	80% PL49 新治窯
50	土師器	甕	[21.4]	(7.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ナデ 内面横位のナデ	竈内	10%

第 376 号竪穴建物跡（第 118・119 図 PL28）

位置 調査区中央部の D 6h5 区，標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 377 号竪穴建物跡を掘り込み，第 378 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 5.24 m，短軸 5.02 m の方形で，主軸方向は N - 9° - E である。上部は削平され壁は遺存していない。

床 平坦な貼床で，竈の前方部から主柱穴の内側が踏み固められている。貼床は，全体を掘り下げ，ロームブロックや焼土ブロックを含む第 2～5 層を埋土して構築されている。

竈 北壁の中央部に付設されている。袖部・煙道部は遺存状態が悪く火床部しか確認できなかった。火床部は楕円形に 25cm 掘りくぼめ，ロームブロックや焼土ブロック・粘土ブロックを含む第 1～9 層を埋土している。火床面は第 1 層上面で火熱を受けて赤変している。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック中量 | 6 黒褐色 ロームブロック中量，焼土ブロック・粘土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック中量，焼土ブロック少量 | 7 黒褐色 粘土粒子微量 |
| 3 黒褐色 粘土ブロック中量，焼土粒子少量 | 8 黒褐色 ロームブロック中量，焼土ブロック少量 |
| 4 黒褐色 焼土ブロック中量 | 9 黒褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック微量 |
| 5 黒褐色 粘土ブロック少量 | |

ピット 8 か所。P 1～P 4 は深さ 42～64cm で主柱穴である。P 5 は深さ 29cm で，南壁寄りに位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P 6～P 8 は深さ 28～35cm で補助柱穴と思われる。

ピット土層解説（各ピット共通）

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック微量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 7 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック中量 | 8 黒褐色 粘土ブロック少量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子中量 | 9 黒褐色 ローム粒子微量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック多量 | |

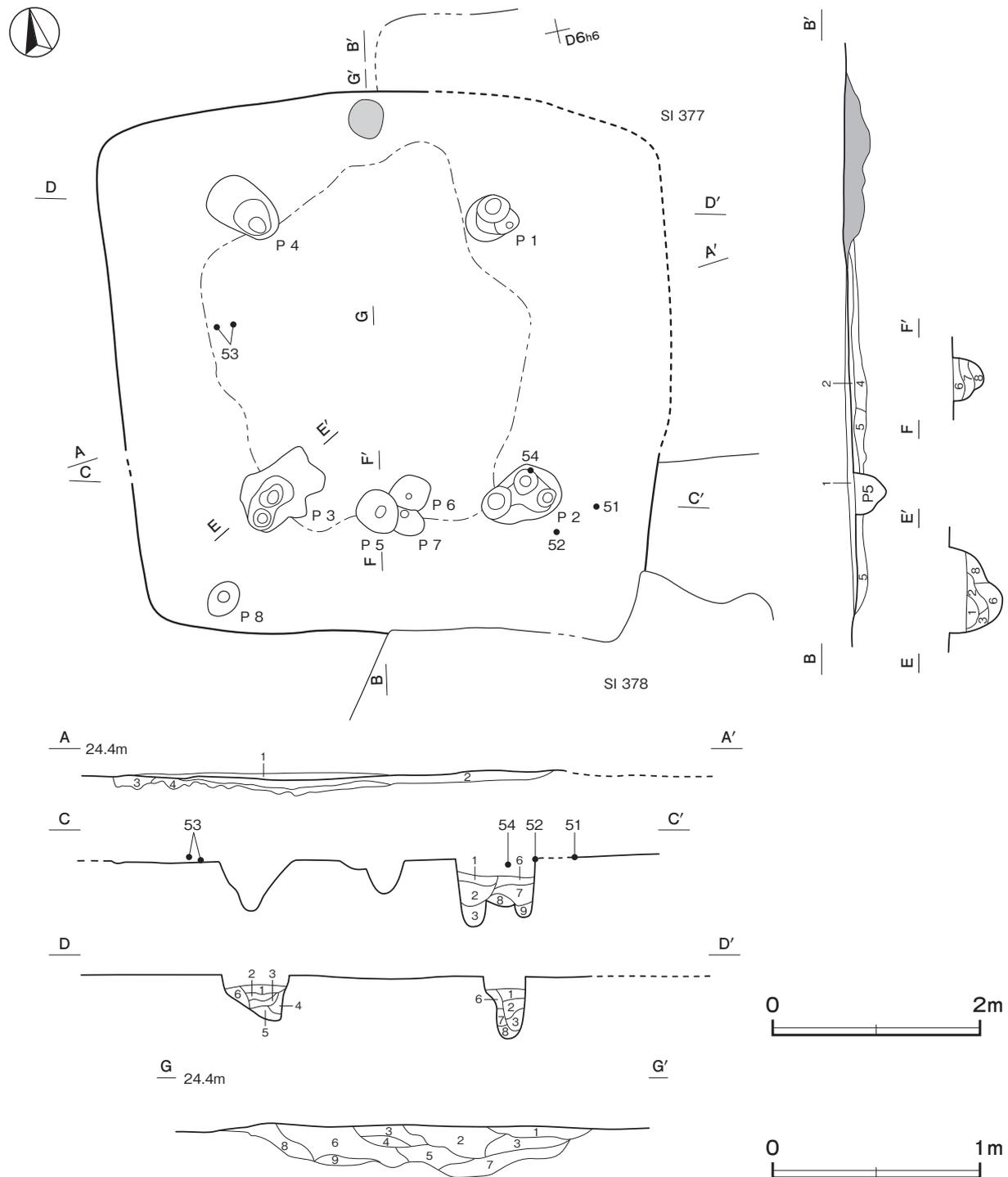
覆土 単一層である。遺存状態が悪く堆積状況は不明である。第 2～5 層は貼床の構築土である。

土層解説

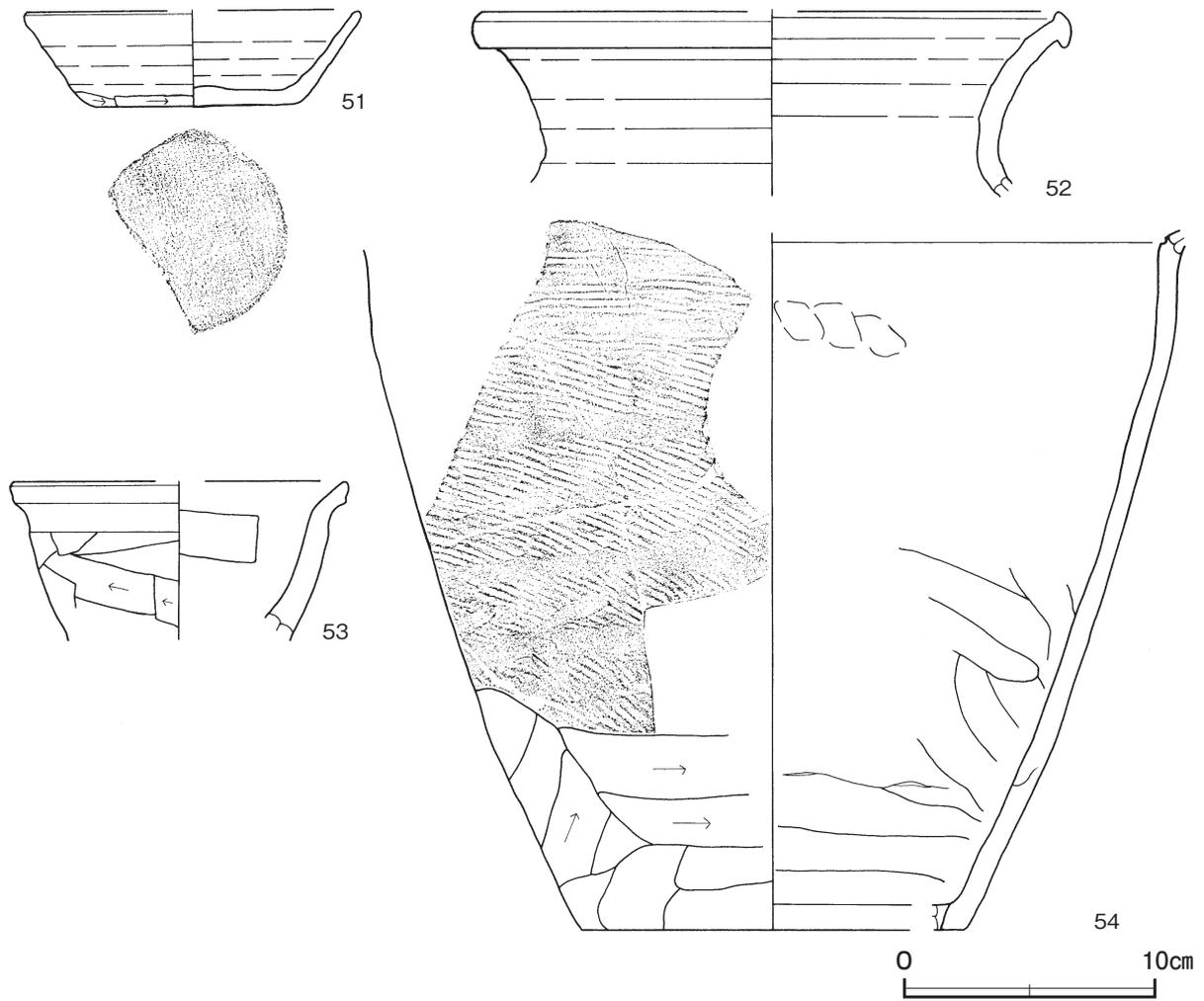
- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック少量，ロームブロック微量 | ク微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量，焼土ブロッ | 5 黒褐色 焼土ブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片 105 点（坏 7，小形甕 1，甕類 97），須恵器片 74 点（坏 42，高台付坏 4，蓋 4，高盤 1，甕類 21，甗 2）が主に南東部から出土している。51・52・54 は南東コーナー部，53 は西部の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から 8 世紀後葉に比定できる。



第 118 図 第 376 号 竪穴建物跡実測図



第 119 図 第 376 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 376 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 119 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
51	須恵器	坏	[13.3]	3.9	7.8	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	床面	50% 新治窯
52	須恵器	甕	[23.1]	(7.5)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	頸部クロロナデ	床面	10% 新治窯
53	土師器	小形甕	[13.3]	(6.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	床面	30%
54	須恵器	甕	-	(28.3)	[15.2]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部外面横位の平行叩き ナデ 指頭痕 輪積痕 下位ヘラ削り 内面	床面	20% 新治窯

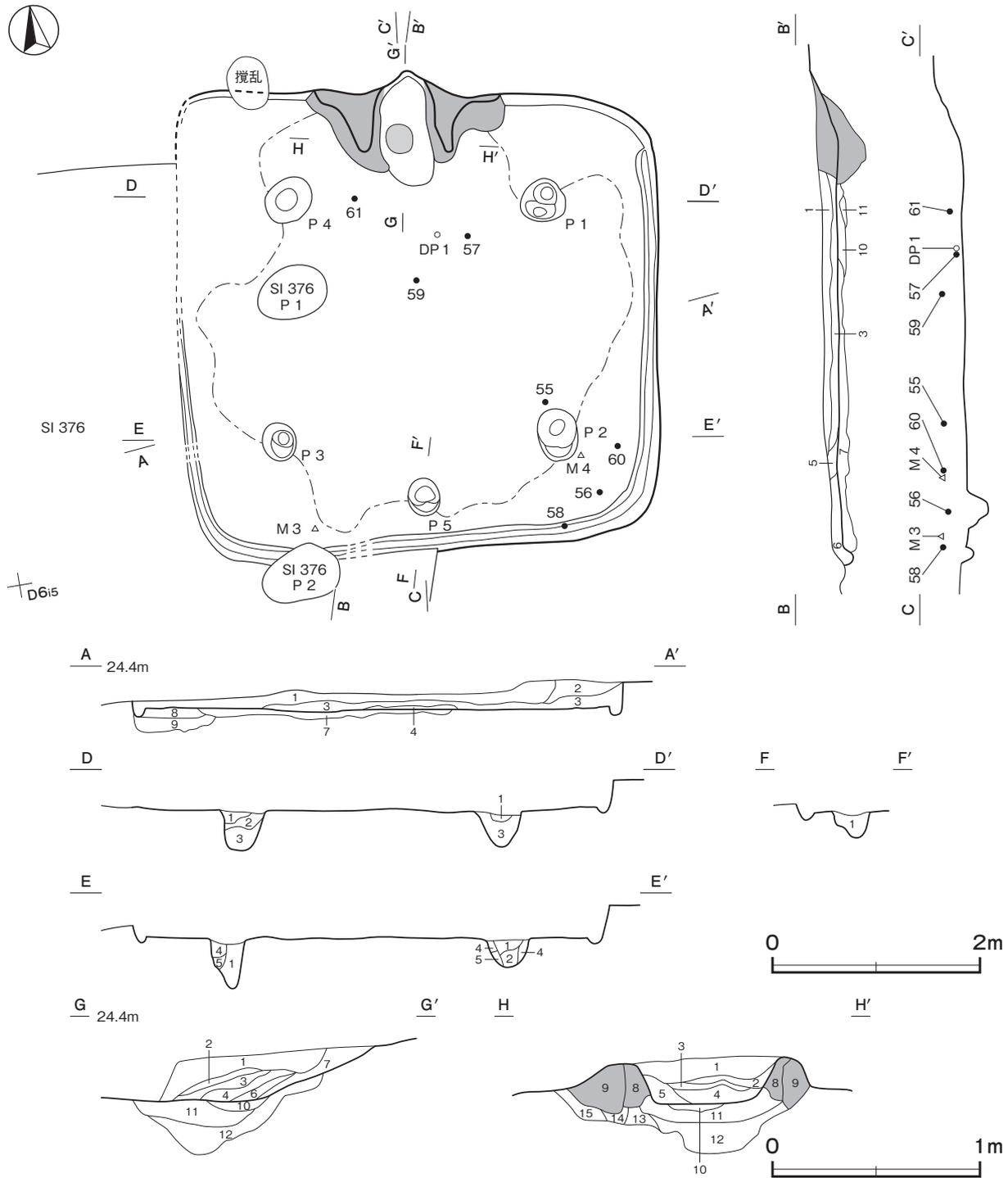
第 377 号竪穴建物跡 (第 120・121 図 PL28)

位置 調査区中央部の D 6 h6 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 376 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 4.60 m、短軸 4.38 m の隅丸方形で、主軸方向は N - 7° - E である。壁は高さ 25 ~ 32 cm で、ほぼ直立している。

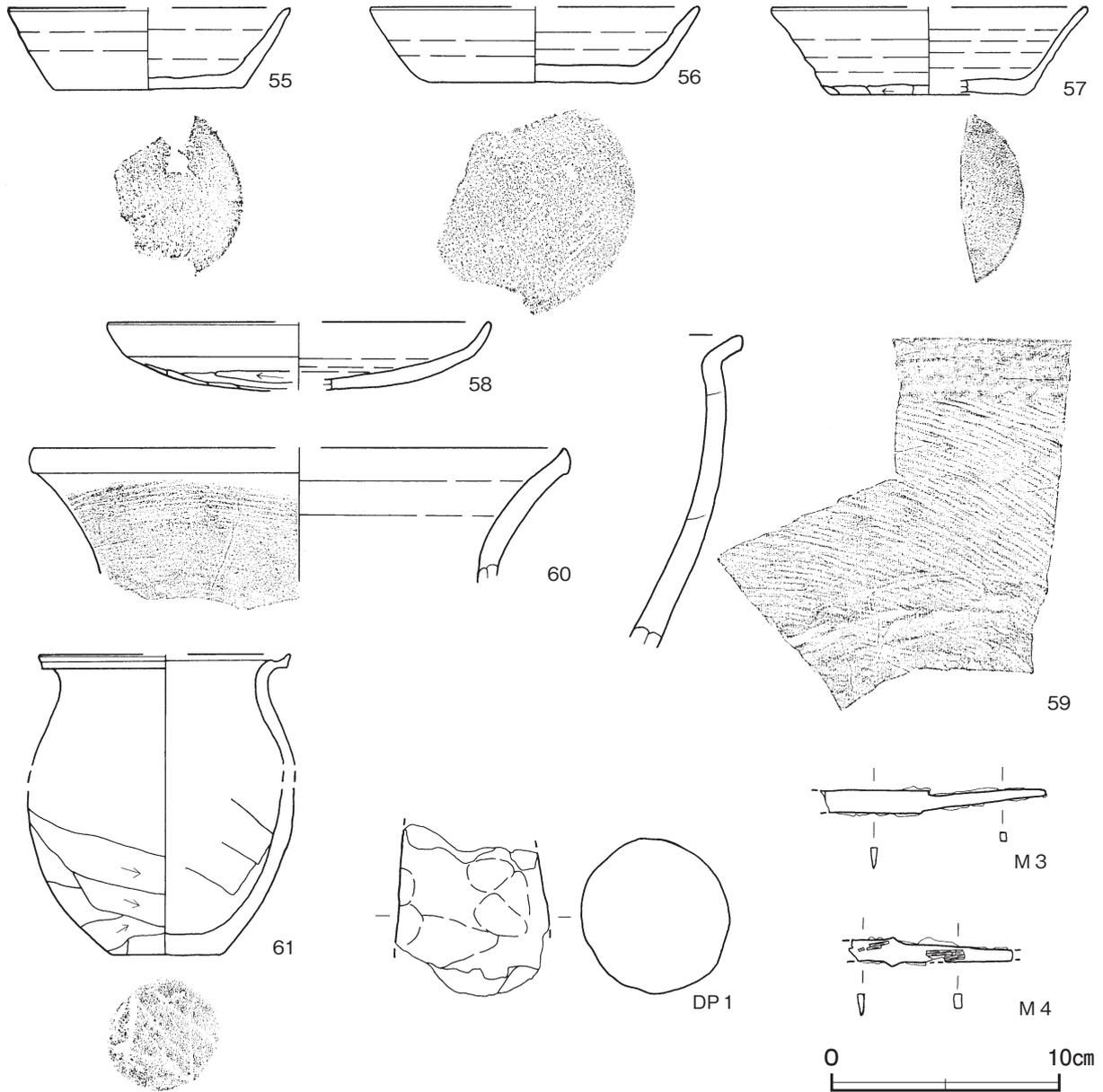
床 平坦な貼床で、竈の前方部から南壁にかけて踏み固められている。貼床は、全体を 8 cm ほど掘り下げ、焼



第 120 図 第 377 号竪穴建物跡実測図

土ブロックや粘土ブロックを含む第 7～11 層を埋土して構築されている。壁溝が北壁と西壁の一部を除いて巡っている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 115cm で、燃焼部幅は 50cm である。袖部は第 11～15 層の上に焼土ブロックや粘土粒子を含む第 8・9 層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に 26cm 掘りくぼめ、焼土ブロックや粘土ブロックを含む第 10～12 層を埋土している。火床面は第 10・11 層上面で火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外に 28cm 掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。



第121図 第377号竪穴建物跡出土遺物実測図

竈土層解説

- | | |
|--------------------------------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック多量 | 9 黄褐色 粘土粒子多量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒色 焼土ブロック少量, 炭化粒子・粘土粒子微量 | 10 黒色 焼土ブロック多量, 炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 焼土ブロック多量, 炭化粒子・粘土粒子微量 | 11 黒褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 焼土ブロック少量, 炭化粒子・粘土粒子微量 | 12 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 5 黒色 焼土ブロック中量, 炭化粒子・粘土粒子微量 | 13 黒褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック微量 |
| 6 黒褐色 焼土ブロック多量, 炭化粒子・粘土粒子微量 | 14 暗褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック微量 |
| 7 黒褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子・粘土粒子微量 | 15 黒褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック微量 |
| 8 黒褐色 焼土ブロック多量, 粘土粒子中量, 炭化粒子微量 | |

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ32～46cmで支柱穴である。P 5は深さ22cmで、南壁寄りに位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|--------------------------|----------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量 | 4 黒褐色 粘土ブロック中量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック少量 | 5 黒褐色 粘土ブロック少量 |
| 3 黒褐色 粘土ブロック中量 | |

覆土 6層に分層できる。壁際から流入した堆積状況から自然堆積である。第7～11層は貼床の構築土である。

土層解説

1 黒 褐 色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	7 黒 褐 色	焼土ブロック微量
2 黒 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	8 黒 褐 色	粘土ブロック中量, 焼土ブロック微量
3 暗 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量	9 黒 褐 色	粘土ブロック多量
4 黒 色	焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子少量	10 黒 褐 色	粘土ブロック中量, 焼土ブロック微量
5 黒 色	ロームブロック・焼土ブロック少量	11 黒 褐 色	粘土ブロック多量, 焼土ブロック微量
6 黒 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量		

遺物出土状況 土師器片 295 点 (坏 17, 小形甕 1, 甕類 277), 須恵器片 112 点 (坏 56, 高台付坏 2, 蓋 5, 盤 1, 鉢 1, 甕類 47), 土製品 1 点 (支脚), 金属製品 2 点 (刀子) が東部の上層から竈前方部の下層にかけて出土している。57・DP 1 は, 竈前方部の床面からそれぞれ出土している。55・56・58・60・M 4 は南東コーナー部, 59 は中央部, 61 は竈前方部, M 3 は南壁付近の覆土中層からそれぞれ出土している。ほとんどの遺物は覆土中層から出土していることから埋没時に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から 8 世紀前葉に比定できる。

第 377 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 121 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほか	出土位置	備 考
55	須恵器	坏	[12.5]	3.7	[8.2]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	底部一方向の手持ちヘラ削り	覆土中層	40% 新治窯
56	須恵器	坏	[14.4]	3.4	[9.0]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	底部不定方向の手持ちヘラ削り	覆土中層	50% 新治窯
57	須恵器	坏	[13.8]	3.9	[8.4]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	床面	30% 新治窯
58	須恵器	盤	[16.8]	(3.1)	[12.0]	長石・石英・雲母	灰	普通	底部手持ちヘラ削り	覆土中層	20% 新治窯
59	須恵器	鉢	-	13.9	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部斜位の平行叩き 輪積痕 内面ヘラナデ	覆土中層	5%
60	須恵器	甕	[23.3]	(6.0)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	口縁部外面横位の平行叩き	覆土中層	5%
61	土師器	小形甕	[11.0]	[13.4]	4.7	長石・石英・雲母	赤褐	普通	体部下半ヘラ削り 内面ナデ	覆土中層	60%

番号	種 別	長さ	最大径	最小径	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
DP 1	支脚	(7.7)	(6.9)	(6.0)	(262.0)	長石・石英	にぶい黄橙	指頭痕 上下欠損	床面	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
M 3	刀子	(10.0)	1.1	0.3	(10.8)	鉄	刃部先端部欠損 刃部断面三角 茎部断面四角形 両関	覆土中層	PL58
M 4	刀子	(7.3)	1.0	0.4	(8.8)	鉄	刃部先端部欠損 刃部断面三角 茎部欠損 断面四角形 両関	覆土中層	

第 379 号竪穴建物跡 (第 122・123 図 PL29)

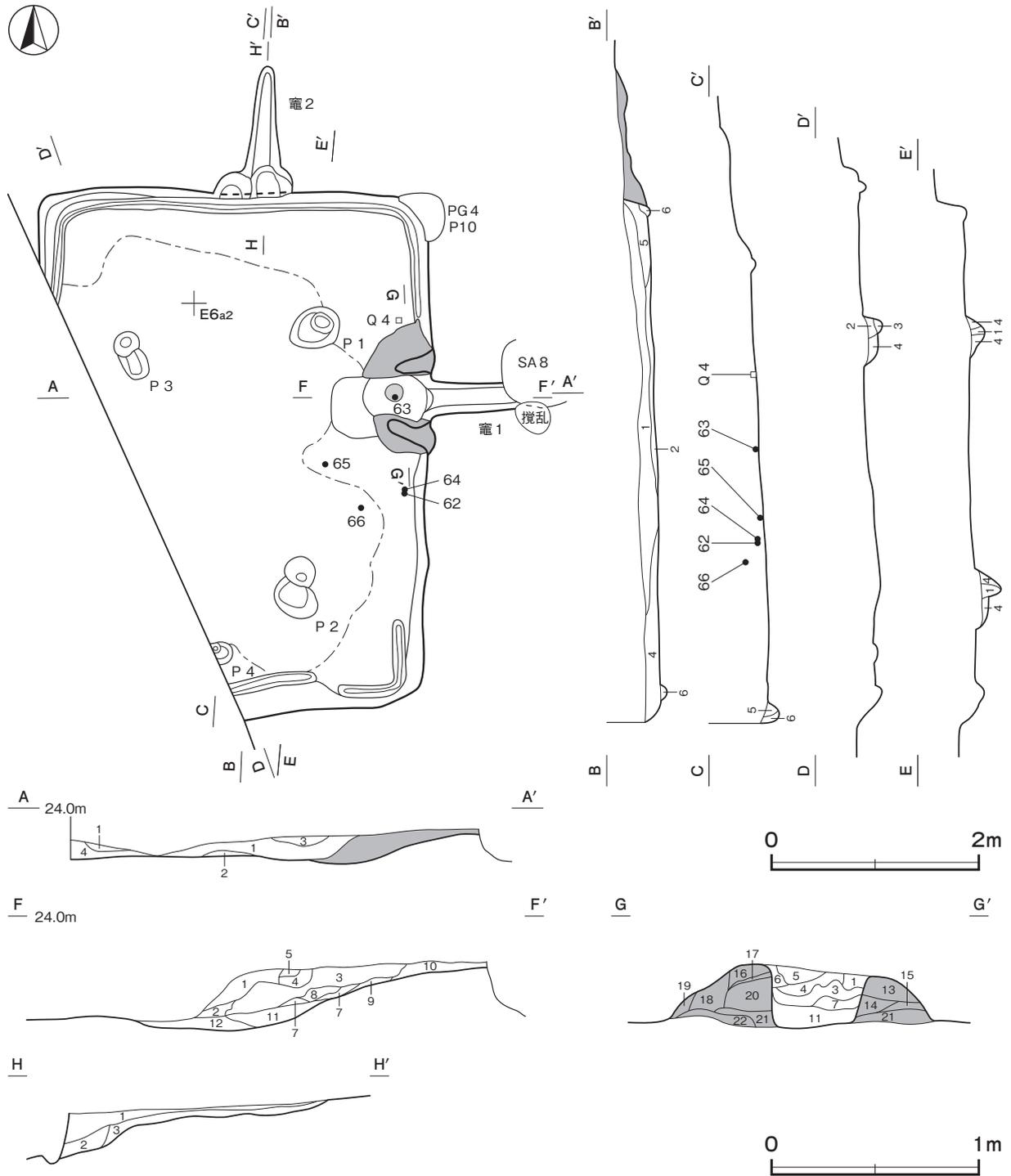
位置 調査区中央部の E 6a2 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 8 号柱穴列, 第 4 号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 南西コーナー部が調査区域外に延びているが, 長軸 5.03 m, 短軸 3.74 m の長方形で, 主軸方向は N - 89° - E である。壁は高さ 14 ~ 21cm で, ほぼ直立している。

床 平坦な床で, 竈の前方部から南壁にかけて踏み固められている。壁溝が北壁から西壁の半周と南壁の一部に巡っている。

竈 竈 1 は, 東壁のやや北寄りに付設されている。煙道部を第 8 号柱穴列に掘り込まれているため, 規模は焚口部から煙道部まで 188cm しか確認できなかった。燃烧部幅は 33cm である。袖部は地山の上に焼土ブロックや粘土ブロックを含む第 13 ~ 22 層を積み上げて構築されている。火床部は地山を若干掘りくぼめて利用している。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 84cm しか確認できなかったが, 火床面から緩やかに立ち上がっている。



第122図 第379号竪穴建物跡実測図

竈2は北壁の中央部に付設されている。煙道部のみが確認できた。煙道部は壁外に120cm掘り込まれ、緩やかに立ち上がっている。竈2の火床部と北壁際には、壁溝が巡っていることから、竈2から竈1へ作り替えられたものと思われる。

竈1土層解説

- | | |
|----------------------------------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 5 黒色 焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック少量, 粘土ブロック・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 焼土ブロック中量, 粘土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 焼土ブロック中量, 粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 7 黒褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック微量 | 8 黒褐色 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |

- 9 黒褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子微量
- 10 黒褐色 焼土ブロック少量
- 11 黒褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量
- 12 黒褐色 粘土ブロック多量
- 13 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量, 炭化粒子微量
- 14 黒褐色 焼土ブロック中量, 粘土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 15 黒褐色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量

- 16 黒褐色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 17 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック微量
- 18 黒褐色 粘土ブロック中量
- 19 黒褐色 粘土ブロック多量
- 20 黒褐色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック中量, 炭化粒子微量
- 21 黒色 粘土ブロック多量
- 22 黒褐色 粘土粒子中量

竈2土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 粘土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 粘土ブロック・炭化物微量

ピット 4か所。P 1～P 3は深さ32～46cmで主柱穴である。P 4は深さ22cmで、南壁寄りに位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

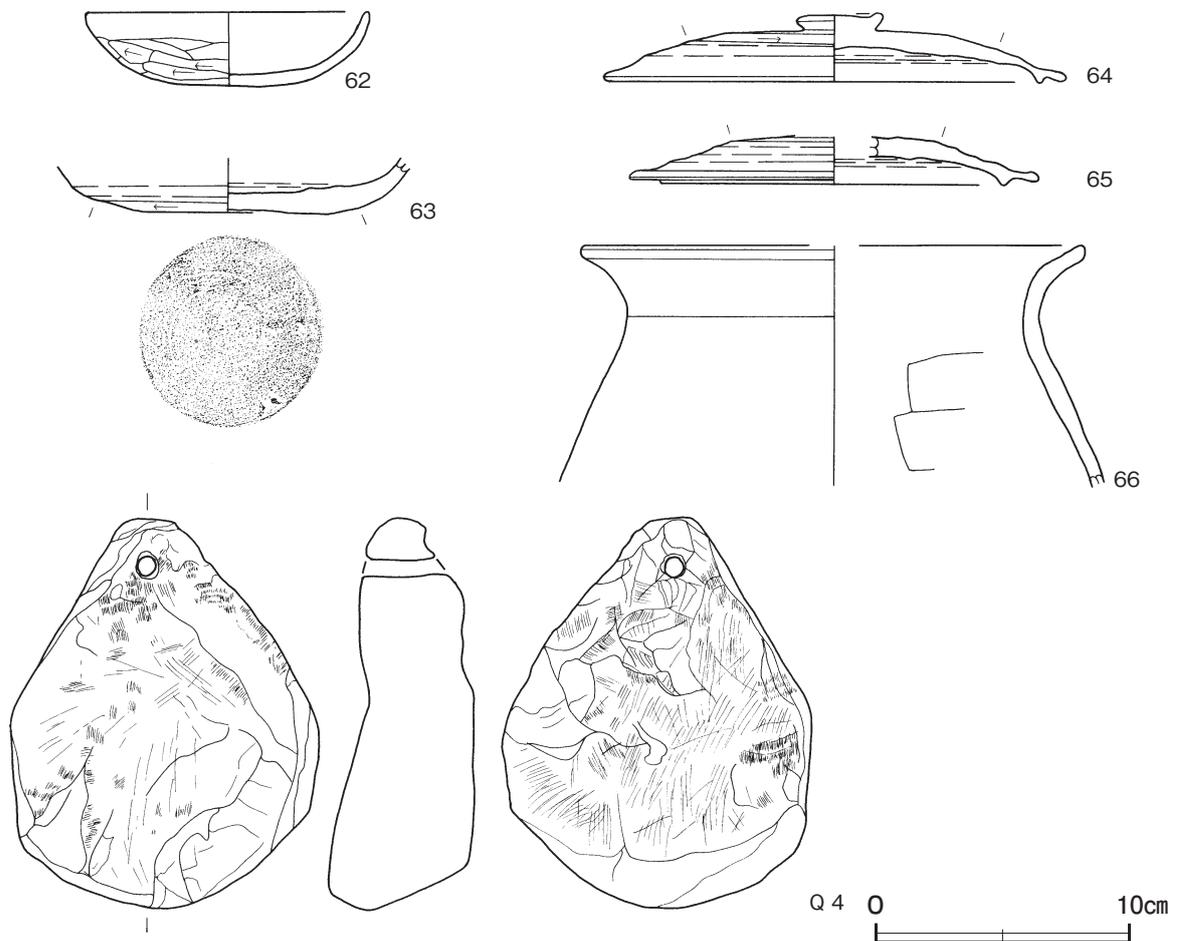
ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量
- 2 黒褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量
- 3 黒褐色 粘土ブロック少量
- 4 黒褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック微量
- 5 黒褐色 焼土ブロック少量
- 6 黒褐色 粘土ブロック中量

覆土 6層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。第6層は壁溝の覆土である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック多量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量
- 6 暗褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック少量



第123図 第379号竪穴建物跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片 234 点（坏 19, 蓋 2, 甕類 213）, 須恵器片 23 点（坏 6, 高台付坏 3, 蓋 7, 甕類 7）, 石器 1 点（温石）が主に南部の上層から下層にかけて出土している。62・64 は東壁付近, 65 は竈 1 の右袖前部, Q 4 は竈 1 の左袖部付近の床面からそれぞれ出土している。63 は, 竈 1 の火床面から出土している。66 は, 東壁付近の中層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 8 世紀前葉に比定できる。

第 379 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 123 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
62	土師器	坏	11.1	3.0	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面へら削り 内面横ナデ	床面	70% PL49
63	須恵器	坏	-	(2.2)	7.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄褐	普通	体部下端回転へら削り 底部回転へら削り	火床面	30% 新治窯
64	須恵器	蓋	18.1	2.8	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	天井部回転へら削り	床面	80% PL49 新治窯
65	須恵器	蓋	[16.1]	(2.2)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	天井部回転へら削り	床面	20% 新治窯
66	土師器	甕	[19.8]	(9.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面横位のナデ	覆土中層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 4	温石	15.5	12.3	5.8	1462.2	蛇紋岩	上・下面研磨痕 一方向からの穿孔	床面	PL57

第 384 号竪穴建物跡（第 124 図 PL29）

位置 調査区南部の G 8e2 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 34 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北部は第 34 号溝に掘り込まれ, 南部が調査区域外に延びていることから, 東西軸は 5.21 m で, 南北軸は 2.92 m しか確認できなかったが, 方形又は長方形と推定される。壁は高さ 14 ~ 22cm で外傾している。

床 平坦な貼床で, 全体を 8 cm ほど掘り下げ, ロームブロックや焼土ブロックを含む第 7 層を埋土して構築されている。壁溝が東壁と西壁を巡っている。

ピット 3 か所。P 1・P 2 は深さ 50cm・51cm で支柱穴と思われる。P 3 は深さ 19cm で, 性格は不明である。

ピット土層解説（各ピット共通）

- | | |
|-------------------------|------------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 6 暗褐色 ローム粒子中量 |

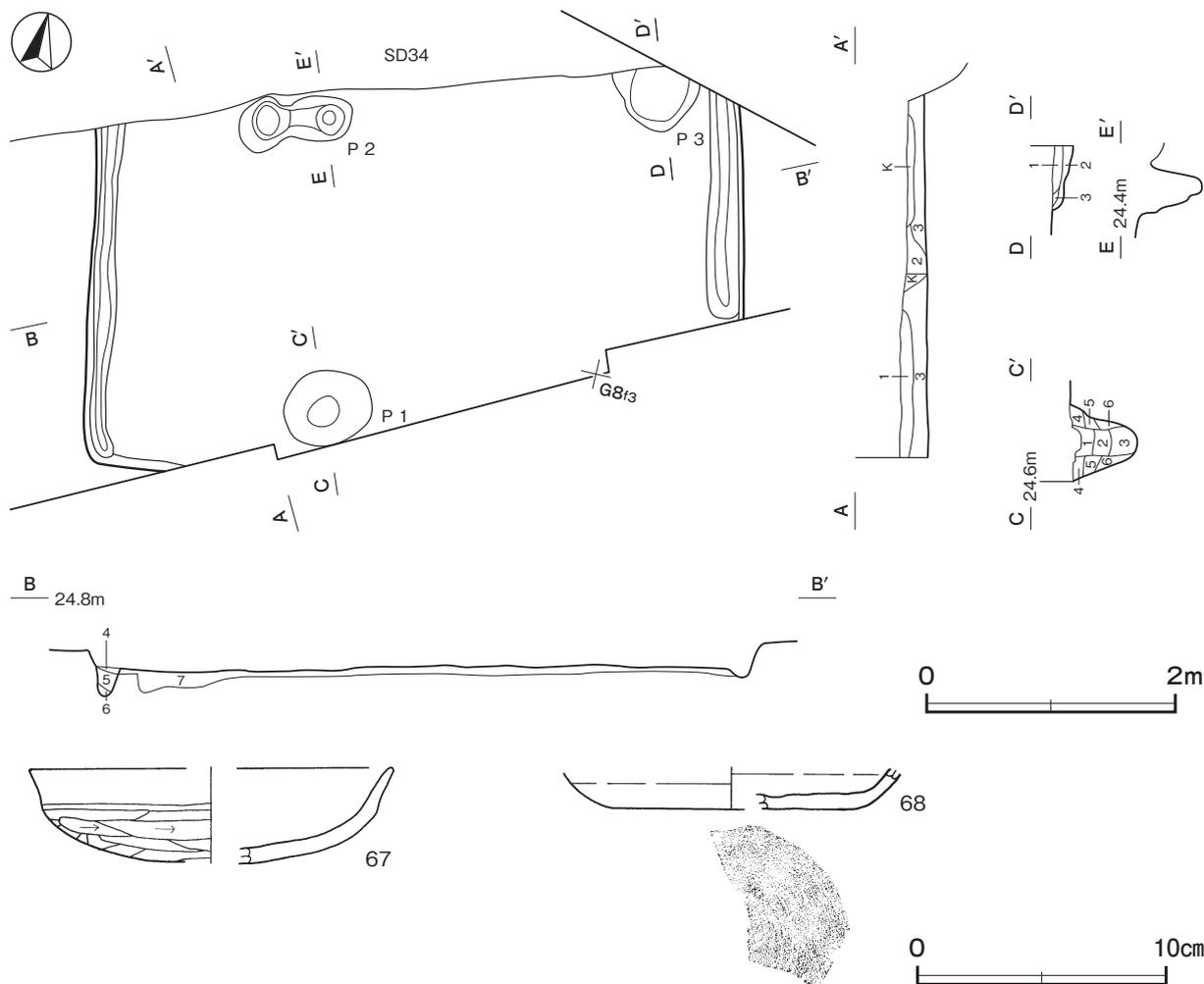
覆土 6 層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックを含むことから埋め戻されている。第 7 層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | |
|-------------------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物微量 | 5 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 | 6 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量 | 7 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物微量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子少量, 粘土ブロック微量 | |

遺物出土状況 土師器片 48 点（坏 7, 蓋 1, 甕類 40）, 須恵器片 13 点（坏 5, 蓋 1, 甕類 7）, 瓦 1 点（平瓦）が主に中央部の上層から下層にかけて出土している。67・68 は, 覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 7 世紀末葉に比定できる。



第 124 図 第 384 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 384 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 124 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
67	土師器	坏	[14.6]	(3.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り 内面横ナデ 黒色処理	覆土中	40%
68	須恵器	坏	-	(1.7)	[9.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中	10% 新治窯

第 388 号竪穴建物跡（第 125・126 図 PL29・30）

位置 調査区南部の G 7 e6 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 33 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 3.51 m、短軸 3.20 m の方形で、主軸方向は N - 10° - W である。壁は高さ 13 ~ 21 cm で、外傾している。

床 平坦な貼床で、地山を掘り下げロームブロックや焼土粒子を含む第 11 層を埋土して構築されている。壁溝が北壁から東壁、南壁側に半周、西壁側に一部巡っている。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 92 cm で、燃焼部幅は 48 cm である。袖部は地山の上にロームブロックや焼土ブロック・粘土ブロックを含む第 12 ~ 15 層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に 12 cm 掘りくぼめ、ロームブロックや焼土ブロックを含む第 11 層を埋土している。火床面は

第 11 層上面で火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外に 20cm 掘り込まれ、緩やかに立ち上がっている。

電土層解説

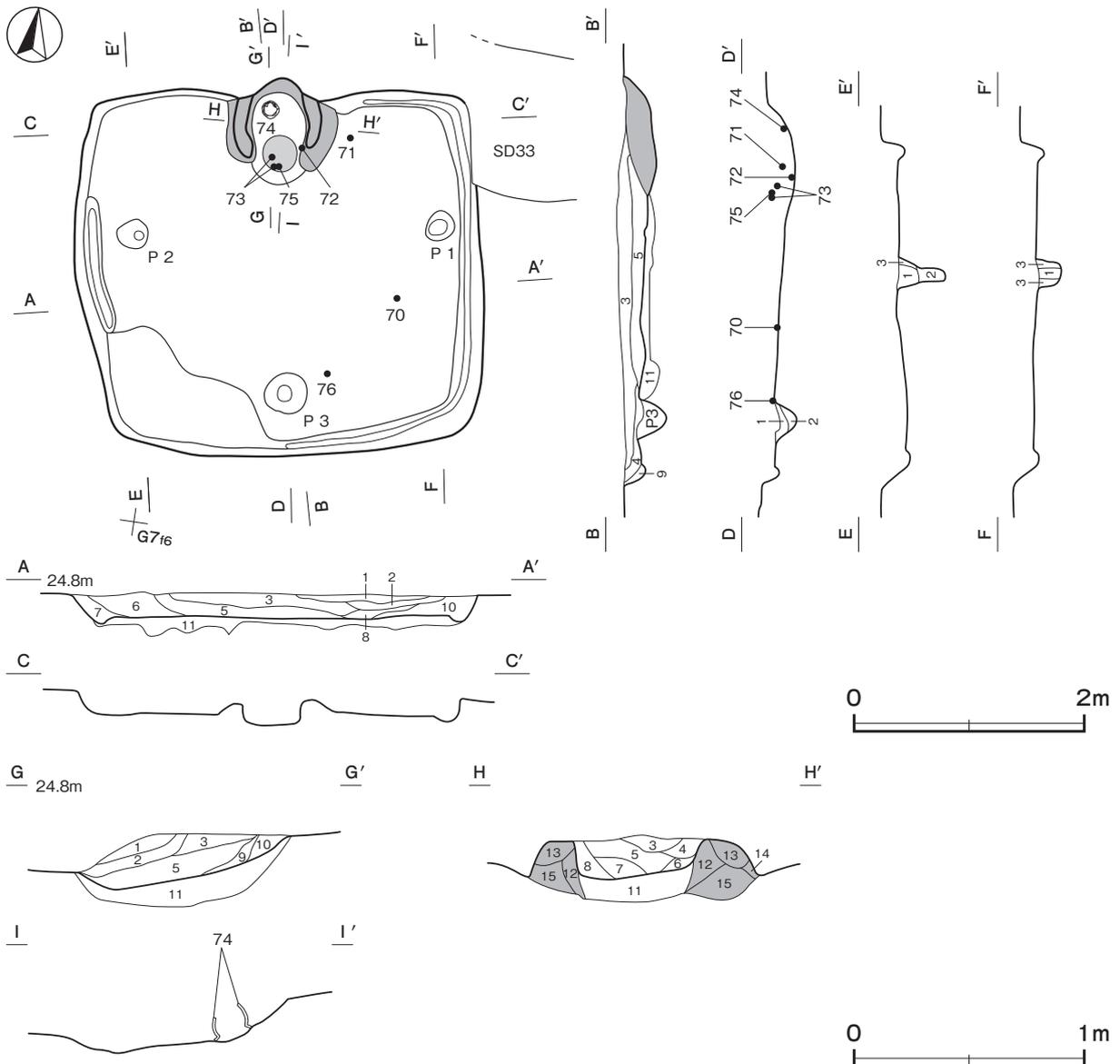
- | | | | |
|---------|----------------------------|--------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 10 褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量, ロームブロック・粘土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量 | 11 暗褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化物少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 12 暗褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量, ロームブロック微量 |
| 4 暗褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子微量 | 13 暗褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量 |
| 5 極暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック少量, 炭化物微量 | 14 褐色 | ロームブロック少量, 炭化材微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子少量 | 15 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 7 極暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物微量 | | |
| 8 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | | |
| 9 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 | | |

ピット 3か所。P 1・P 2 は深さ 22cm・40cm で支柱穴である。P 3 は深さ 19cm で、南壁寄りに位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|-------|-------------------|------|---------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量 | | |

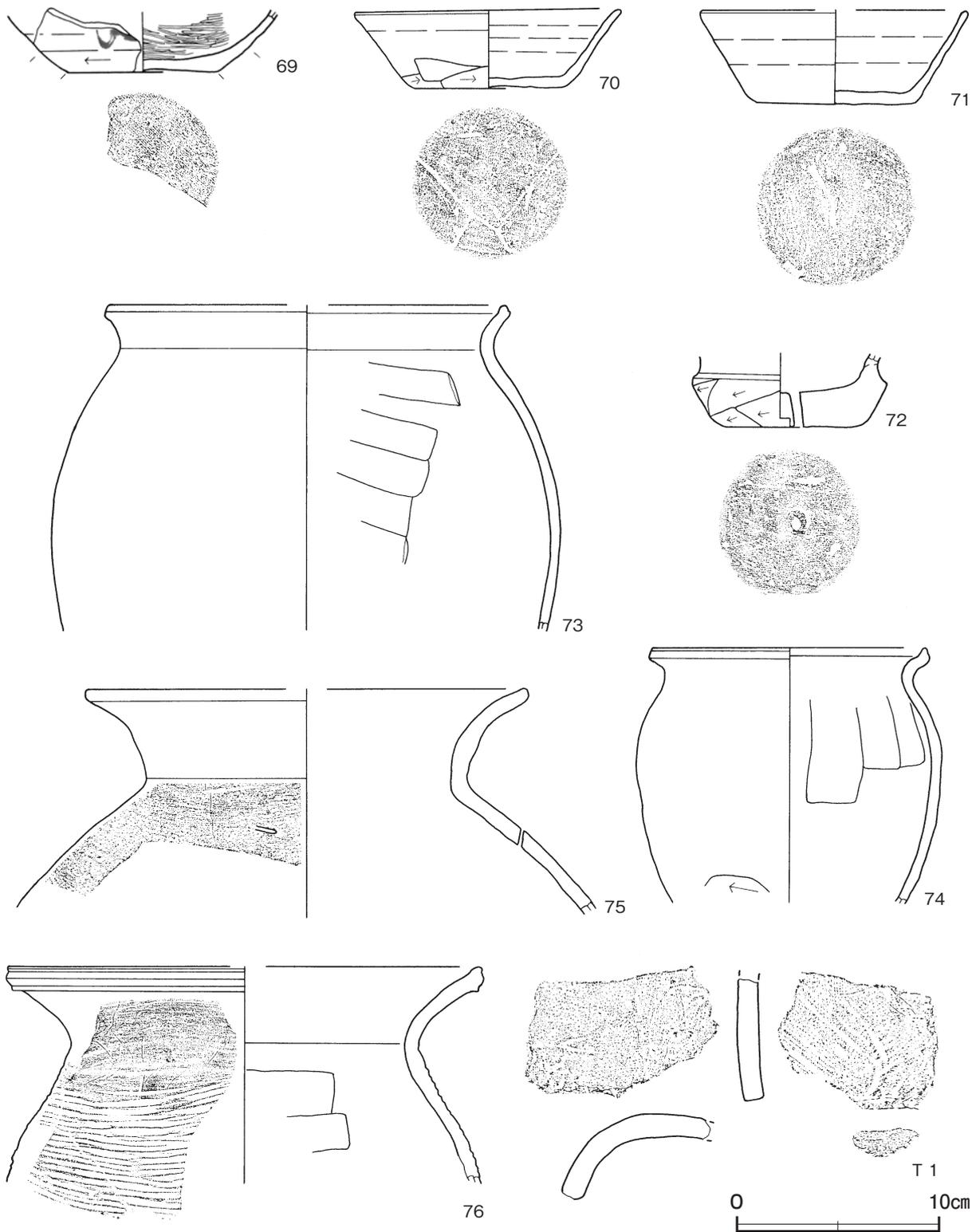
覆土 10層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。第 11 層は貼床の構築土である。



第 125 図 第 388 号 縦穴建物跡実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|--------|------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化物微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 10 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 5 黒褐色 | 焼土ブロック微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック・炭化材少量 | | |



第 126 図 第 388 号 竪穴建物跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片 99 点（坏 4，小形甕 1，甕類 94），須恵器片 87 点（坏 51，高台付坏 2，蓋 3，盤 1，高盤 1，捏鉢 1，甕類 28），瓦 5 点（丸瓦 1，平瓦 4）が主に北部上層から下層にかけて出土している。70 は東壁付近，76 は南壁付近，71 は竈右袖部付近の床面からそれぞれ出土している。71 は逆位の状態で出土している。72 は竈右袖部，73・75 は竈の火床面からそれぞれ出土している。74 は竈内から逆位の状態で出土している。71・74 は廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から 8 世紀後葉に比定できる。

第 388 号堅穴建物跡出土遺物観察表（第 126 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
69	土師器	坏	-	(3.0)	[7.3]	長石・石英・雲母	褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 外面墨書「□」内面ヘラ磨き 黒色処理 底部ヘラ削り後ナデ	覆土中	20% PL49
70	須恵器	坏	13.1	4.0	7.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り 二次焼成	床面	80% PL49 新治窯
71	須恵器	坏	[13.1]	4.8	8.0	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端ナデ 底部ヘラ切り痕を残す一方向のヘラ削り	床面	60% 新治窯
72	須恵器	捏鉢	-	(3.7)	7.1	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り 底部穿孔	竈右袖	30% 新治窯
73	土師器	甕	[19.6]	(16.3)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	体部内面ヘラナデ ヘラ当て痕	火床面	10%
74	土師器	小形甕	13.5	(12.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部下位ヘラ削り 内面縦位のナデ	竈内	40%
75	須恵器	甕	[21.7]	(11.3)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部外面横位の平行叩き 体部切り込み 内面器面荒れ	火床面	5%
76	須恵器	甕	[23.4]	(10.9)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口縁部から体部にかけて横位の平行叩き 内面ヘラナデ	床面	5%

番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
T 1	瓦	丸瓦	(7.3)	4.3	(6.2)	長石・石英	灰	普通	凸面ヘラ削り 凹面布目痕	覆土中	PL59

表 10 奈良時代堅穴建物跡一覧表

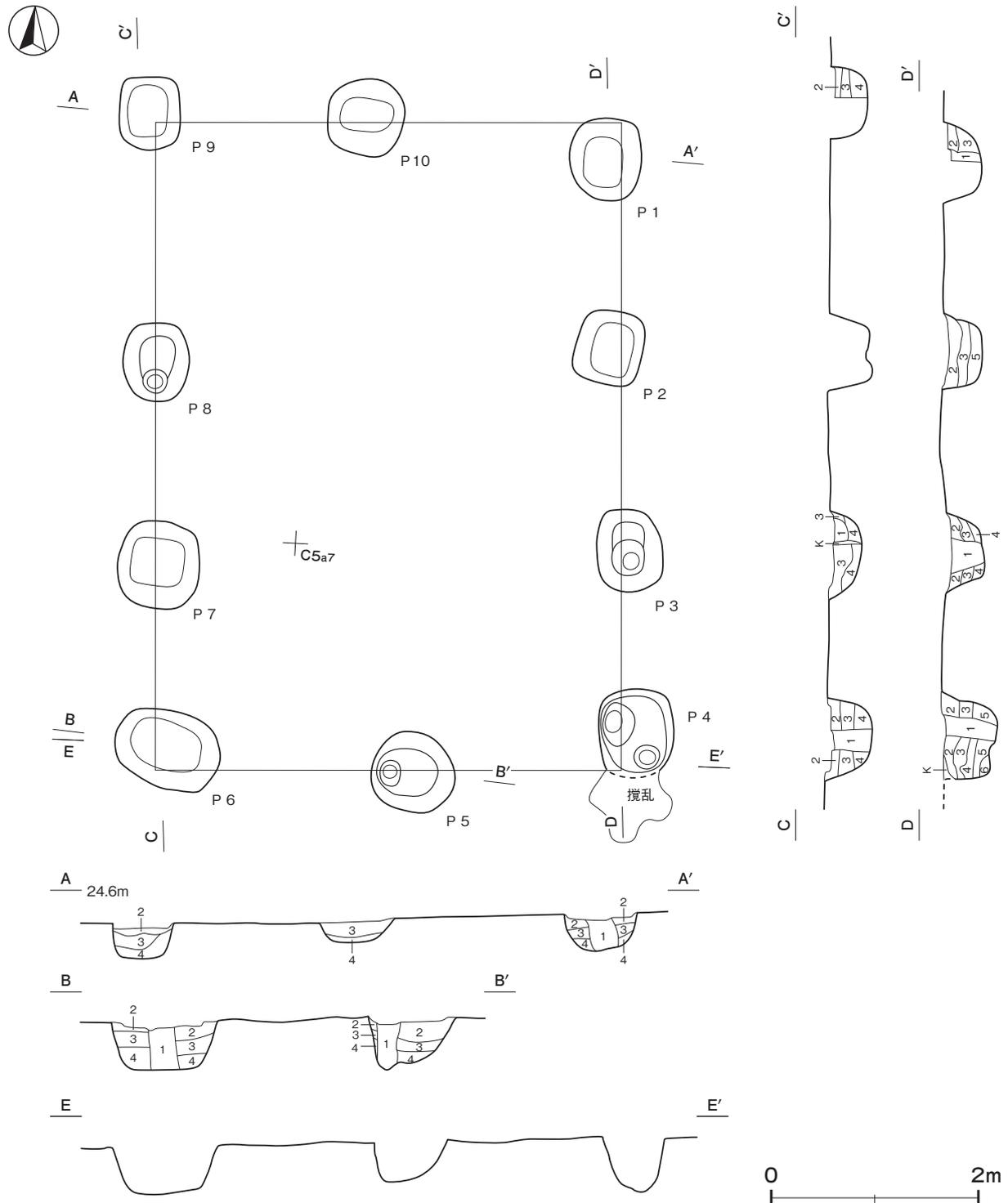
番号	位置	主軸方向	平面形	規模	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考	
				長軸×短軸 (m)				主柱穴	出入口	ピット	炉・竈					貯蔵穴
353	F 6b8	N - 0°	方形 [長方形]	2.83 × (2.24)	15 ~ 21	平坦	一部	-	1	1	北東 コーナー	-	人為	土師器, 須恵器, 瓦	8 世紀後葉	本跡→SD22
358	E 6h0	N - 12° - E	長方形	4.54 × 4.08	-	平坦	一部	4	-	3	-	-	-	土師器, 金属製品	7 世紀末葉	本跡→SD21
361	C 5e8	N - 3° - E	長方形	4.45 × 3.92	28 ~ 47	平坦	-	4	-	2	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 石器, 瓦	8 世紀後葉	SK51・63→本跡
362	C 5g9	N - 13° - E	方形	6.75 × 6.51	32 ~ 36	平坦	一部	4	1	6	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 石器	8 世紀中葉	本跡→SB121, SK14・ 53・54, SD17・28
364	C 5i0	N - 3° - W	方形 [長方形]	2.98 × (2.94)	-	平坦	一部	-	-	-	北壁	-	-	土師器, 須恵器	8 世紀後葉	
365	C 5j8	N - 20° - E	[方形]	5.32 × [4.94]	6 ~ 18	平坦	一部	4	-	-	北壁	-	自然	土師器, 須恵器, 金属製品	8 世紀後葉	
366	D 6f5	N - 7° - E	長方形	5.21 × 4.65	2	平坦	一部	4	1	3	北壁	-	-	土師器, 須恵器	8 世紀中葉	
371	E 6e7	N - 88° - E	長方形	3.73 × 3.42	18 ~ 20	平坦	ほぼ 全周	-	-	2	東壁	-	自然	土師器, 須恵器, 土製品	8 世紀後葉	
375	E 6b2	N - 80° - E	方形 [長方形]	2.26 × (1.85)	20 ~ 24	平坦	ほぼ 全周	-	-	-	東壁	-	自然	土師器, 須恵器	8 世紀後葉	SB130→本跡
376	D 6h5	N - 9° - E	方形	5.24 × 5.02	-	平坦	-	4	1	3	北壁	-	-	土師器, 須恵器	8 世紀後葉	SI377→本跡→SI378
377	D 6h6	N - 7° - E	隅丸方形	4.60 × 4.38	25 ~ 32	平坦	一部	4	1	-	北壁	-	自然	土師器, 土製品, 金属製品	8 世紀前葉	本跡→SI376
379	E 6a2	N - 89° - E	長方形	5.03 × 3.74	14 ~ 21	平坦	一部	3	1	-	東壁 北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 石器	8 世紀前葉	本跡→SA 8, PG 4
384	G 8e2	-	方形 [長方形]	5.21 × (2.92)	14 ~ 22	平坦	一部	2	-	1	-	-	人為	土師器, 須恵器, 瓦	7 世紀末葉	本跡→SD34
388	G 7e6	N - 10° - W	方形	3.51 × 3.20	13 ~ 21	平坦	一部	2	1	-	北壁	-	自然	土師器, 須恵器, 瓦	8 世紀後葉	本跡→SD33

(2) 掘立柱建物跡

第 110 号掘立柱建物跡 (第 127・128 図 PL46)

位置 調査区北部の C 5 a7 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と構造 桁行 3 間, 梁行 2 間の側柱建物跡で, 桁行方向が N - 3° - W の南北棟である。規模は, 桁行 6.3 m, 梁行 4.5 m で, 面積は 28.35㎡である。柱間寸法は桁行が 2.1 m (7 尺) の等間隔に配置され, 北梁行は北妻から 2.1 m (7 尺), 2.4 m (8 尺), 南梁行が 2.4 m (8 尺), 2.1 m (7 尺) で柱筋は揃っている。



第 127 図 第 110 号掘立柱建物跡実測図

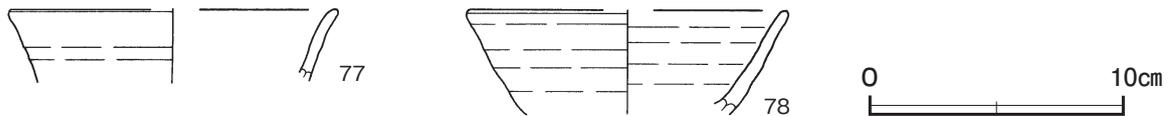
柱穴 10か所。P 1～P 10の平面形は隅丸長方形又は楕円形で、長径70～104cm、短径58～77cmである。深さは26～54cmで、掘方の断面は逆台形又はU字形である。第1層は柱痕跡、第2～6層は埋土である。

土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 5 黒褐色 ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック微量 | 6 黒褐色 ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片11点(甕類)、須恵器片14点(坏5、高台付坏1、蓋2、甕類6)が出土している。77はP 3、78はP 2の埋土から出土している。その他P 1～P 4、P 6・P 7・P 9から土師器片、須恵器片が出土しており、いずれも細片である。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第128図 第110号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第110号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第128図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
77	須恵器	坏	[12.8]	(2.9)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	ロクロナデ	P 3埋土	5%
78	須恵器	坏	[12.6]	(4.2)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端ナデ	P 2埋土	5%

第115 A号掘立柱建物跡 (第129図 PL46)

位置 調査区中央部のE 6j0区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第115B号掘立柱建物、第21号溝に掘り込まれている。

規模と構造 北西側が第21号溝に掘り込まれているが、周辺で確認できた掘立柱建物跡の柱穴の配置から東側桁行4間、南側梁行が2間の側柱建物跡と推定できる。桁行方向がN-4°-Wの南北棟である。確認できた規模は、桁行5.4m、梁行3.6mで、面積は19.44㎡と推定できる。柱間寸法は、東側桁行が北妻から1.5m(5尺)、2.1m(7尺)、0.9m(3尺)、0.9m(3尺)、梁行が1.8m(6尺)で、柱筋は揃っている。P 3の底面で、柱のあたりが確認できた。

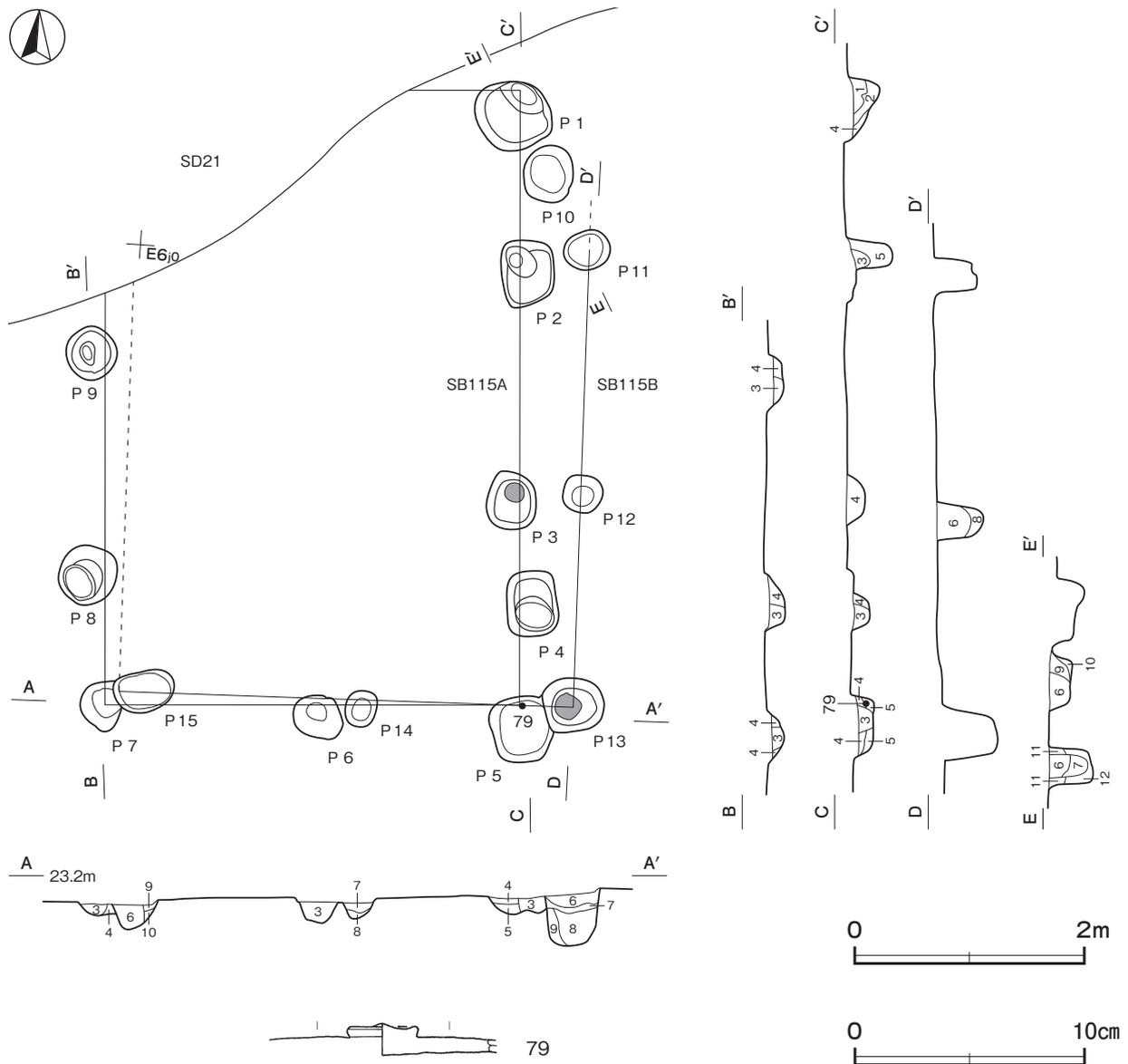
柱穴 10か所。平面形は楕円形又は円形で、長径32～70cm、短径26～59cmである。深さ14～47cmで、掘方の断面はU字形又は逆台形である。第1～3層は柱抜き取り後の覆土、第4・5層は埋土である。またP 5はP 13、P 7はP 15に掘り込まれている。P 10は補助柱穴である。

土層解説 (P 1～P 9共通)

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック少量 | 4 黒褐色 粘土ブロック中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | 5 黒褐色 粘土ブロック少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量 | |

遺物出土状況 土師器片1点(甕類)、須恵器片1点(蓋)がP 5・P 7から出土している。79はP 5の埋土から出土している。

所見 本跡は第115 B号掘立柱建物に柱穴を掘り込まれ、桁行方向がほぼ同じであることから、第115 B号掘立柱建物へ建て替えられていると考えられる。時期は重複関係や出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第129図 第115A・115B号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第115A号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第129図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
79	須恵器	蓋	-	(14)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	天井部回転ヘラ削り	P5埋土	10%新治窯

第115B号掘立柱建物跡（第129図 PL46）

位置 調査区中央部のE6j0区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第115A号掘立柱建物跡を掘り込み、第21号溝に掘り込まれている。

規模と構造 北西側が第21号溝に掘り込まれているが、周辺で確認できた掘立柱建物跡の柱穴の配置から東側桁行2間、南側梁行が2間の側柱建物跡と推定できる。桁行方向がN-2°-Wの南北棟である。確認できた規模は、桁行3.9m、梁行3.9mで、面積は15.21㎡と推定できる。柱間寸法は、東側桁行が北妻から2.1m（7尺）、1.8m（6尺）、南側梁行が西妻から2.1m（7尺）、1.8m（6尺）で、柱筋は揃っている。P13の底面で、柱のあたりを確認した。

柱穴 5か所。平面形は楕円形又は円形で、長径 36～53cm、短径 33～53cmである。深さ 12～47cmで、掘方の断面はU字形又は逆台形である。第6～8層は柱抜き取り後の覆土、第9～12層は埋土である。

土層解説 (P 11～P 15 共通)

- | | | | |
|---------|-------------------|--------|---------------------|
| 6 黒褐色 | ロームブロック少量 | 10 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック微量 |
| 7 にぶい褐色 | 粘土ブロック中量, ローム粒子微量 | 11 灰褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 8 黒褐色 | ロームブロック微量 | 12 黒褐色 | 粘土ブロック少量, ロームブロック微量 |
| 9 暗褐色 | 粘土ブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片 2点 (坏 2), 須恵器片 3点 (坏 1, 甕類 2) が P10・P15 から出土している。細片のため図示できない。

所見 第 115A 号掘立柱建物跡の柱穴を掘り込んでいることや桁行方向がほぼ同じことから建て替えられていると考えられる。時期は、出土土器から判断できないが、重複関係から 8世紀前葉と考えられる。

第 117 号掘立柱建物跡 (第 130・131 図 PL46)

位置 調査区中央部の E 6 c6 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と構造 桁行 3 間, 梁行 2 間の側柱建物跡で、桁行方向が N - 9° - E の南北棟である。規模は、桁行 6.9 m, 梁行 4.2 m で、面積は 28.98㎡である。柱間寸法は桁行が北妻から 2.1 m (7 尺), 2.7 m (9 尺), 2.1 m (7 尺), 梁行が 2.1 m (7 尺) で、柱筋は揃っている。

柱穴 10 か所。平面形は楕円形又は円形で、長径 41～51cm、短径 32～46cm である。深さ 23～60cm で、掘方の断面は U 字形である。第 3 層は柱痕, 第 1・2・10～12 層は柱抜き取り後の覆土, 第 4～9 層は埋土である。

土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|-------|-----------|--------|---------------------|
| 1 黒褐色 | 粘土粒子少量 | 7 黒褐色 | 粘土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | 粘土粒子中量 | 8 黒褐色 | 粘土ブロック中量 |
| 3 黒褐色 | 粘土粒子微量 | 9 暗褐色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック中量 | 10 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 5 黒褐色 | 粘土ブロック微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 黒褐色 | 粘土ブロック少量 | 12 暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片 4 点 (坏 1, 甕類 3), 須恵器片 6 点 (蓋 1, 甕類 5) が P 5・P 7～P10 から出土している。80 は P10 の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器と重複関係から 8世紀前葉と考えられる。



第 130 図 第 117 号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第 117 号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第 130 図)

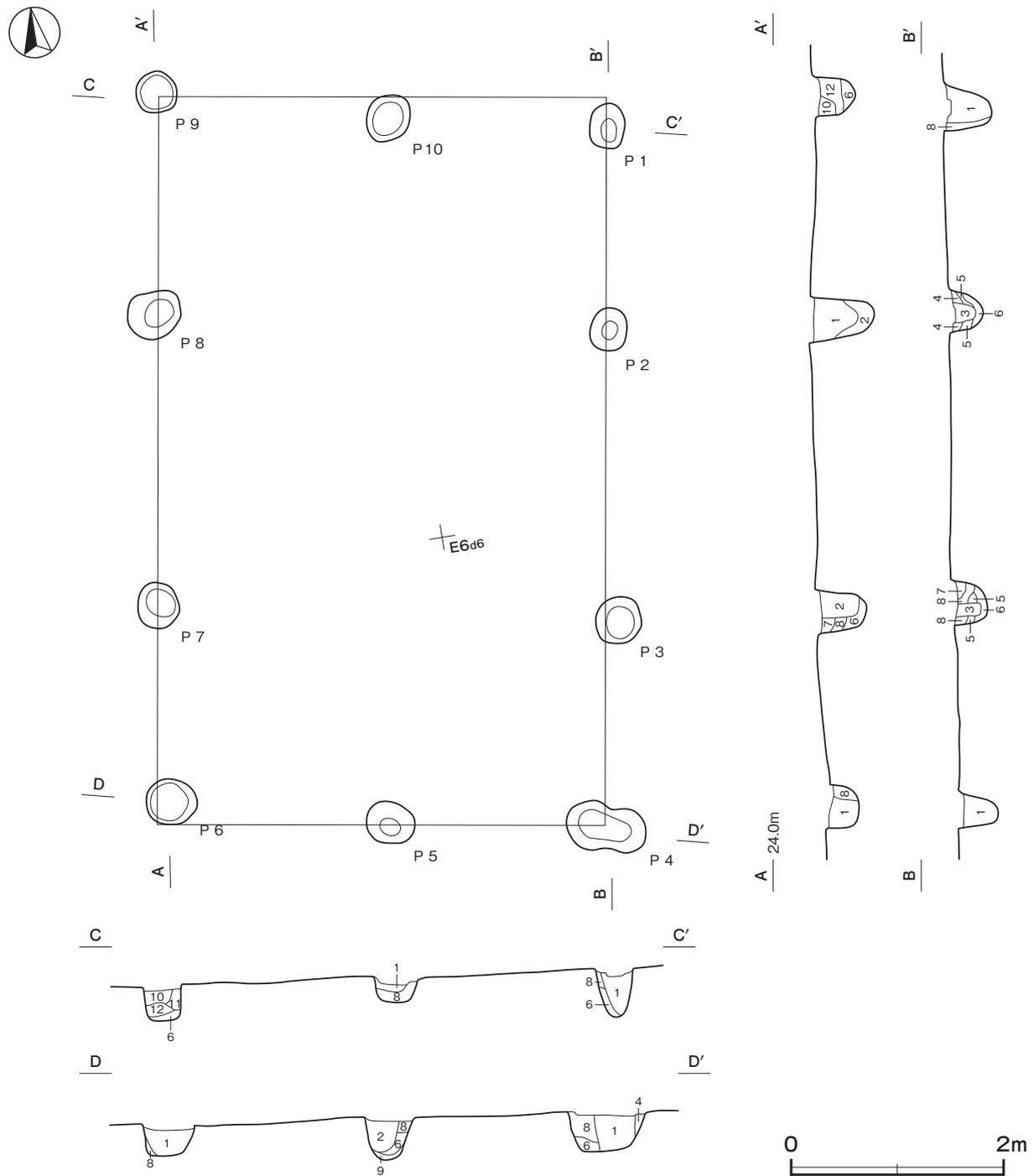
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
80	須恵器	蓋	[16.5]	(1.8)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	天井部回転ヘラ削り	P 10 覆土中	5%

第 118 号掘立柱建物跡 (第 132 図 PL46)

位置 調査区中央部の C 5 e6 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 119 号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行 3 間, 梁行 2 間の側柱建物跡で、桁行方向が N - 87° - W の東西棟である。規模は、桁行 5.7 m,



第131図 第117号掘立柱建物跡実測図

梁行3.3mで、面積は18.81㎡である。柱間寸法は北平が西妻から2.1m（7尺）、1.8m（6尺）、1.8m（6尺）、南平が1.8m（6尺）、2.1m（7尺）、1.8m（6尺）、西梁行が1.5m（5尺）、1.8m（6尺）、東梁行が1.8m（6尺）、1.5m（5尺）で柱筋は揃っている。P1～P10の底面で柱のあたりを確認した。

柱穴 10か所。平面形は隅丸方形又は隅丸長方形で、長径72～94cm、短径68～91cmである。深さ43～69cmで、掘方の断面は逆台形又はU字形である。第1層は柱痕跡、第2～9層は埋土である。

土層解説（各ピット共通）

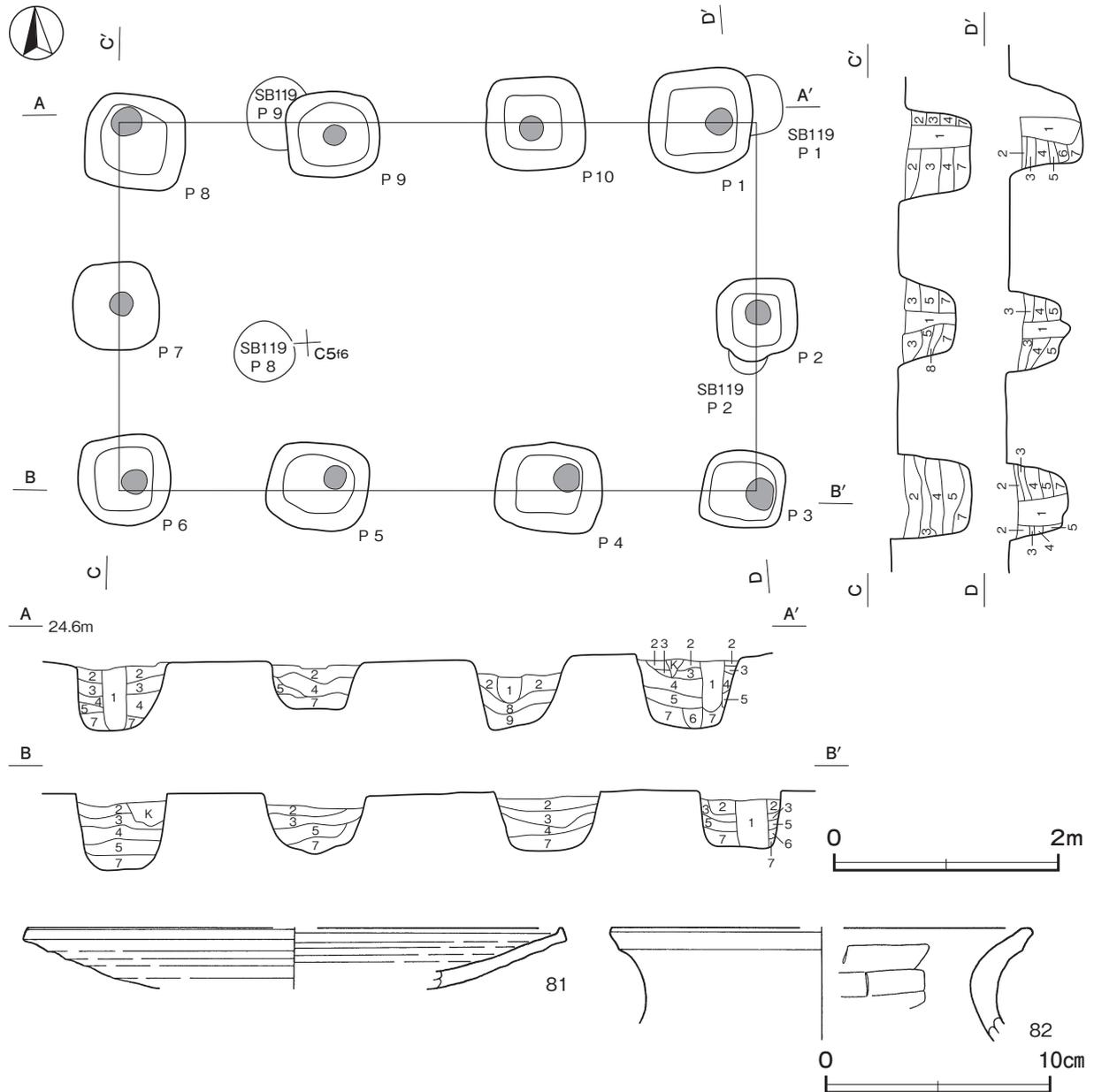
- | | |
|----------------|------------------|
| 1 黒色 ロームブロック微量 | 3 黒褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量 | 4 極暗褐色 ロームブロック少量 |

- 5 黒褐色 ローム粒子少量
- 6 黒色 ローム粒子微量
- 7 極暗褐色 ロームブロック微量

- 8 黒褐色 ロームブロック少量
- 9 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片 25 点 (甕類), 須恵器片 30 点 (坏 5, 蓋 3, 高盤 1, 甕類 21) が P 1 ~ P 6・P 8・P 10 から出土している。81 は P 6, 82 は P 4 の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から 8 世紀後葉と考えられる。



第 132 図 第 118 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第 118 号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第 132 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
81	須恵器	高盤	[23.9]	(2.8)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	ロクロナデ	P 6 覆土中	5%
82	土師器	甕	[18.8]	(5.0)	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	口縁部外面横位のナデ 内面横位のナデ	P 4 覆土中	5%

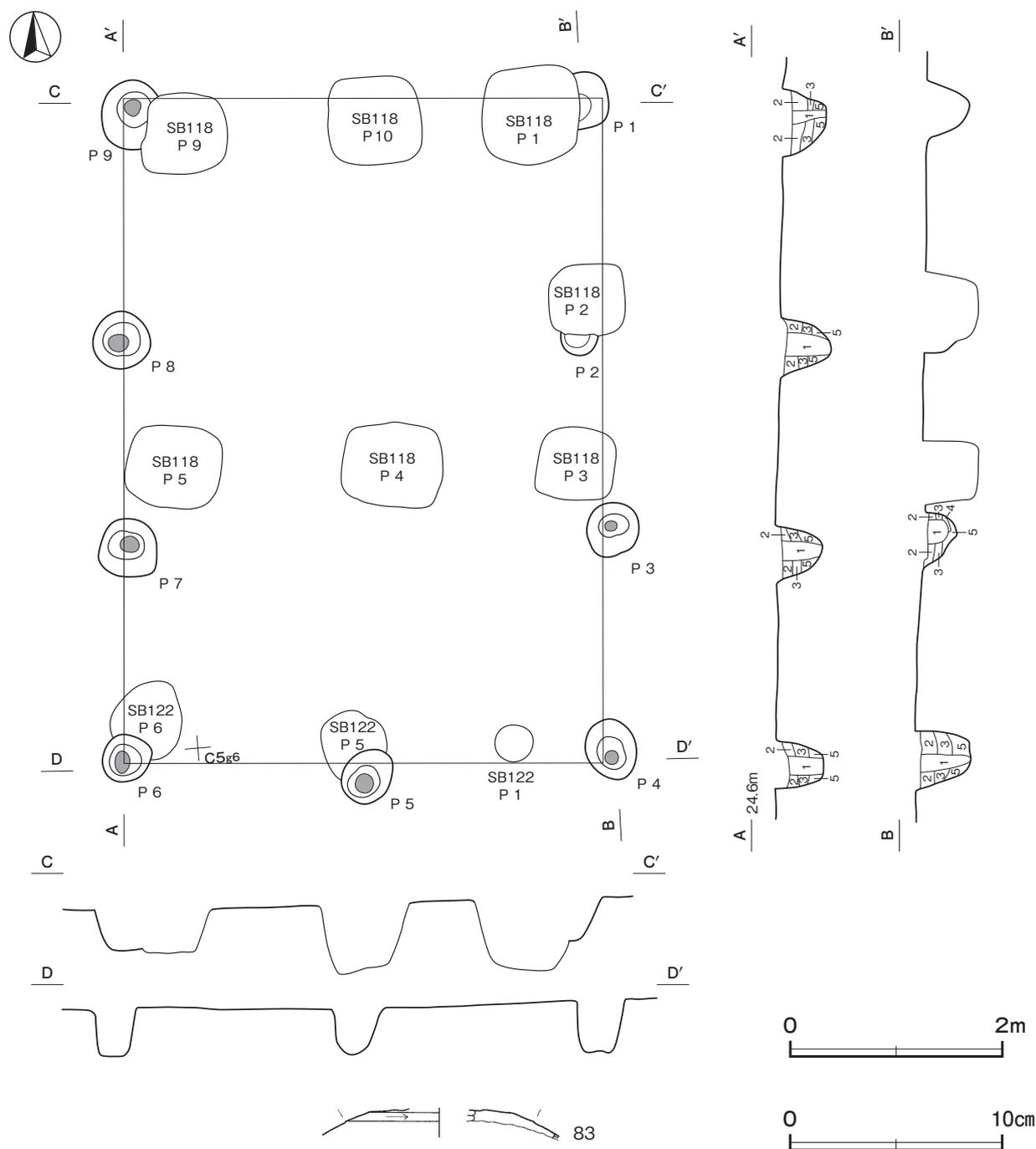
第 119 号掘立柱建物跡 (第 133 図 PL46)

位置 調査区中央部の C 5 f6 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 122 号掘立柱建物跡を掘り込み, 第 118 号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と構造 桁行 3 間, 梁行 2 間の側柱建物跡で, 桁行方向が N - 5° - E の南北棟である。規模は, 桁行 6.3 m, 梁行 4.5 m で, 面積は 28.35㎡である。柱間寸法は桁行が北妻から 2.4 m (8 尺), 1.8 m (6 尺), 2.1 m (9 尺), 南梁行が 2.4 m (10 尺), 2.1 m (9 尺) で柱筋は揃っている。P 3 ~ P 9 の底面で, 柱のあたりを確認した。

柱穴 9 か所。平面形は楕円形又は円形で, 長径 35 ~ 66cm, 短径 47 ~ 54cm である。深さ 32 ~ 50cm で, 掘方の断面は U 字形である。第 1 層は柱痕跡, 第 2 ~ 5 層は埋土である。



第 133 図 第 119 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|--------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒色 | ロームブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 土師器片9点(甕類), 須恵器片4点(蓋1, 甕類3)がP1・P3~P5から出土している。83は確認面から出土している。

所見 時期は, 出土土器と重複関係から8世紀後葉以前と考えられる。

第119号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第133図)

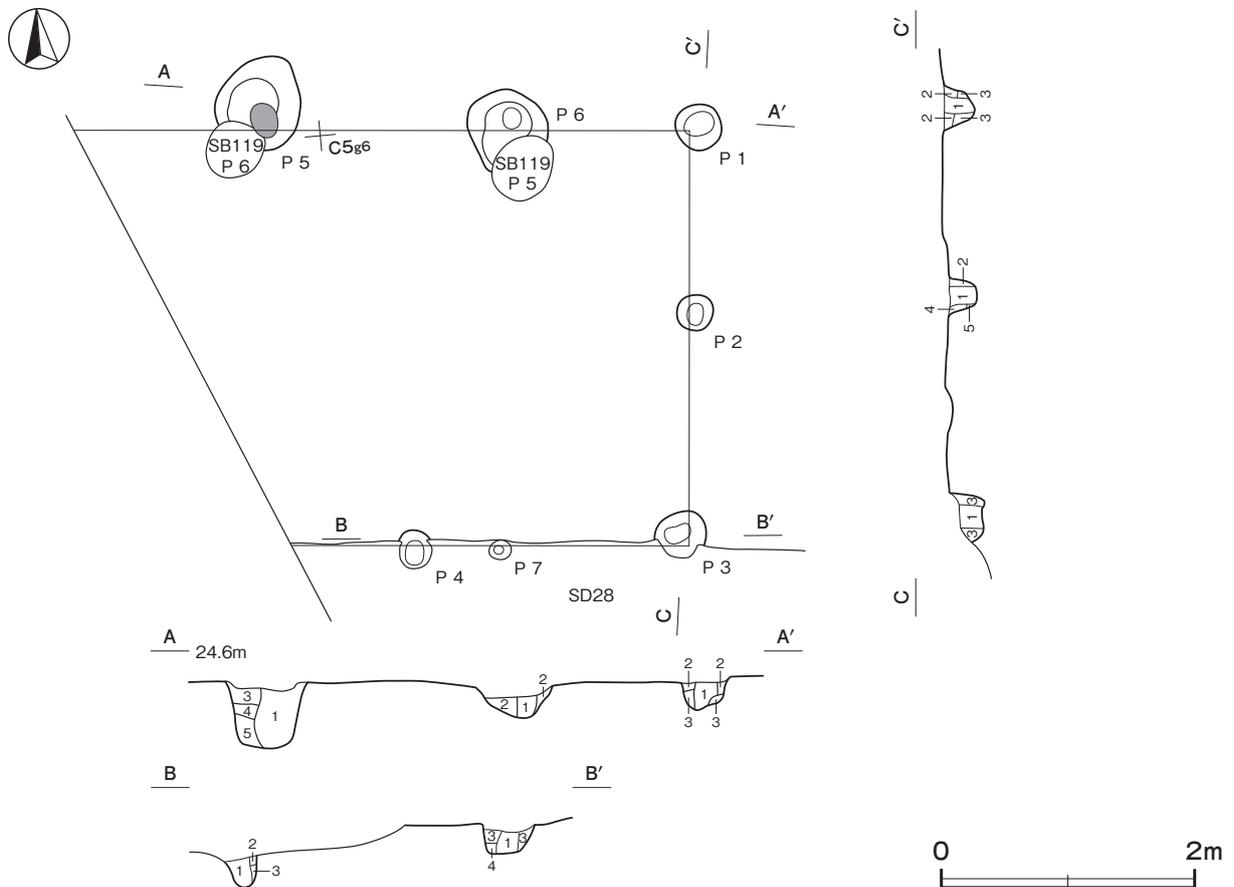
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
83	須恵器	蓋	-	(14)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り 内面剥離	確認面	10%新治窯

第122号掘立柱建物跡 (第134図)

位置 調査区北部のC5g6区, 標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第119号掘立柱建物, 第28号溝に掘り込まれている。

規模と構造 南西部が調査区域外に延びていることから, 梁行は3.3mで, 桁行は4.8mしか確認できなかった。側柱建物跡と考えられる。桁行方向はN-86°-Wと推定される。柱間寸法は桁行が東妻から1.5m(5尺), 1.8m(6尺), 東側梁行が1.5m(5尺), 1.8m(6尺)で柱筋は揃っている。P5の底面で, 柱のあたりを確認した。



第134図 第122号掘立柱建物跡実測図

柱穴 7か所。平面形は楕円形又は円形で、長径18～66cm、短径16～58cmである。深さ22～52cmで、掘方の断面はU字形又は逆台形である。第1層は柱痕跡、第2～5層は埋土である。

土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1 極暗褐色 ロームブロック少量 | 4 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 2 灰褐色 ロームブロック少量 | 5 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック微量 | |

遺物出土状況 須恵器片5点(坏2, 甕類3)が出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器や重複関係から8世紀後葉以前と考えられる。

第124号掘立柱建物跡 (第135図 PL46)

位置 調査区北部のC5a8区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第125号掘立柱建物に掘り込まれている。

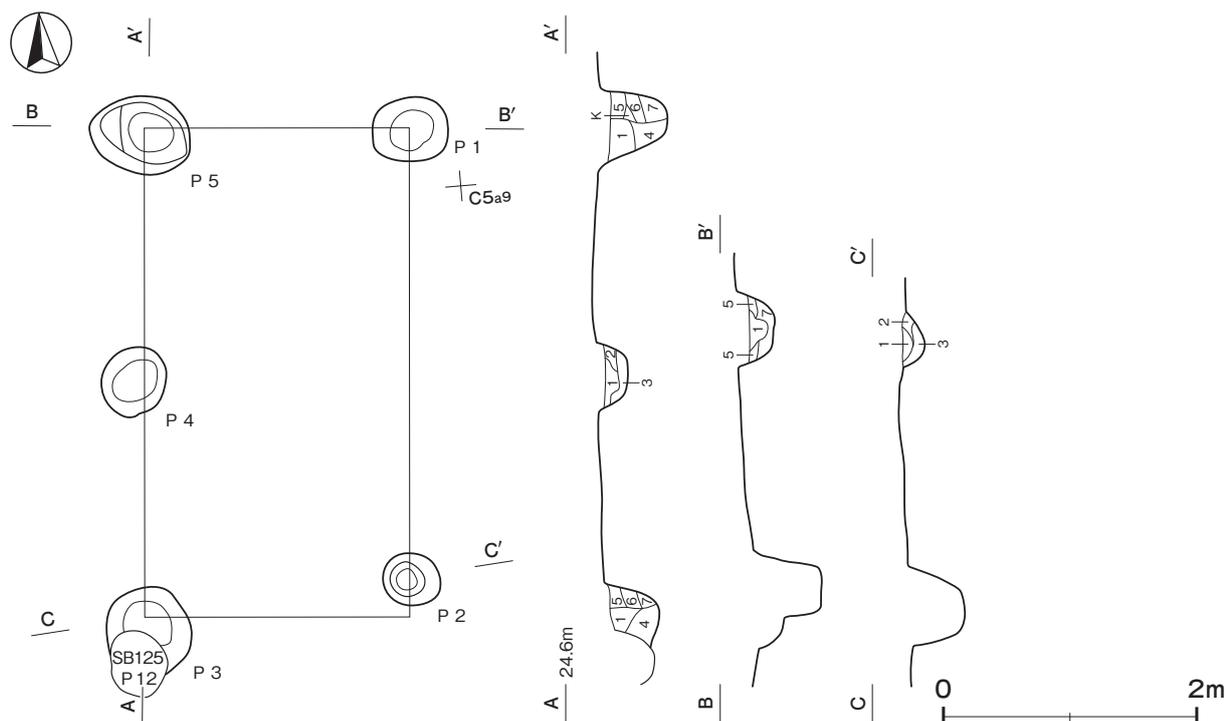
規模と構造 桁行2間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向がN-5°-Eの南北棟である。規模は、桁行3.9m、梁行2.1mで、面積は8.19㎡である。柱間寸法は北妻から桁行が2.1m(7尺)、1.8m(6尺)、梁行が2.1m(7尺)で柱筋は揃っている。

柱穴 5か所。平面形は楕円形又は円形で、長径46～83cm、短径42～66cmである。深さ17～55cmで、掘方の断面はU字形である。第1～4層は柱抜き取り後の覆土、第5～7層は埋土である。

土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|-----------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 5 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子少量 | 7 黒褐色 ロームブロック中量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック微量 | |

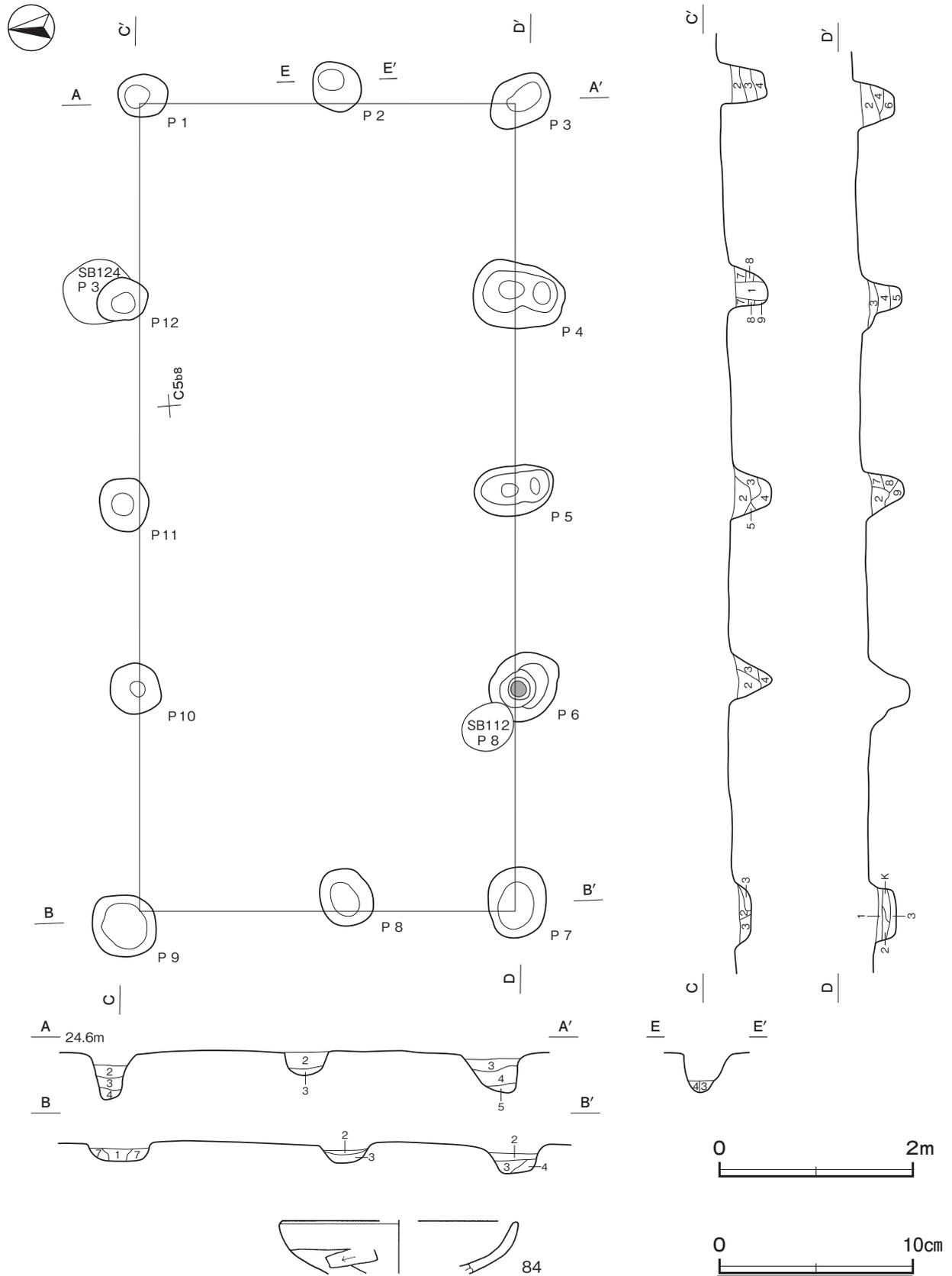
所見 東側に柱穴が延びると考えれば東西棟となる可能性もある。時期は、出土土器はないが第125号掘立柱建物に掘り込まれていることから8世紀前葉以前と考えられる。



第135図 第124号掘立柱建物跡実測図

第 125 号掘立柱建物跡 (第 136 図 PL46)

位置 調査区北部の C 5 b7 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。



第 136 図 第 125 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

重複関係 第124号掘立柱建物跡を掘り込み、第112号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と構造 桁行4間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-85°-Wの東西棟である。規模は、桁行8.4m、梁行3.9mで、面積は32.76㎡である。柱間寸法は西妻から桁行が2.4m（8尺）、1.8m（6尺）、2.1m（7尺）、2.1m（7尺）、梁行が2.1m（7尺）、1.8m（6尺）で柱筋は揃っている。P6の底面で、柱のあたりを確認した。

柱穴 12か所。平面形は楕円形又は円形で、長径50～94cm、短径44～68cmである。深さ18～49cmで、掘方の断面はU字形である。第1層が柱痕跡、第2～6層は柱抜き取り後の覆土、第7～9層は埋土である。

土層解説（各ピット共通）

- | | | | |
|--------|-----------|--------|-----------|
| 1 黒色 | ロームブロック微量 | 6 極暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック少量 | 8 灰褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 黒色 | ロームブロック微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 黒色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片2点（坏、甕類）、須恵器片1点（甕類）がP1から出土している。84はP1の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器と重複関係から8世紀前葉以降と考えられる。

第125号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第136図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
84	土師器	坏	[12.2]	(2.8)	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	体部外面ヘラ削り	P1覆土中	5%

第130号掘立柱建物跡（第137図）

位置 調査区中央部のE6b2区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第375号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と構造 南西部が調査区域外に延びているため、東平の柱穴3か所、北梁2か所しか確認できなかったが、桁行方向がN-4°-Eの南北棟と推定できる。確認できた規模は、桁行3.6m、梁行1.8mである。柱間寸法は桁行が1.8m（6尺）の等間隔で柱筋が揃っている。梁行が1.8m（6尺）である。

柱穴 4か所。平面形は楕円形又は円形で、長径45～65cm、短径43～55cmである。深さ29～47cmで、掘方の断面はU字形である。第1～3層は柱抜き取り後の覆土、第4・5層は埋土である。

土層解説（各ピット共通）

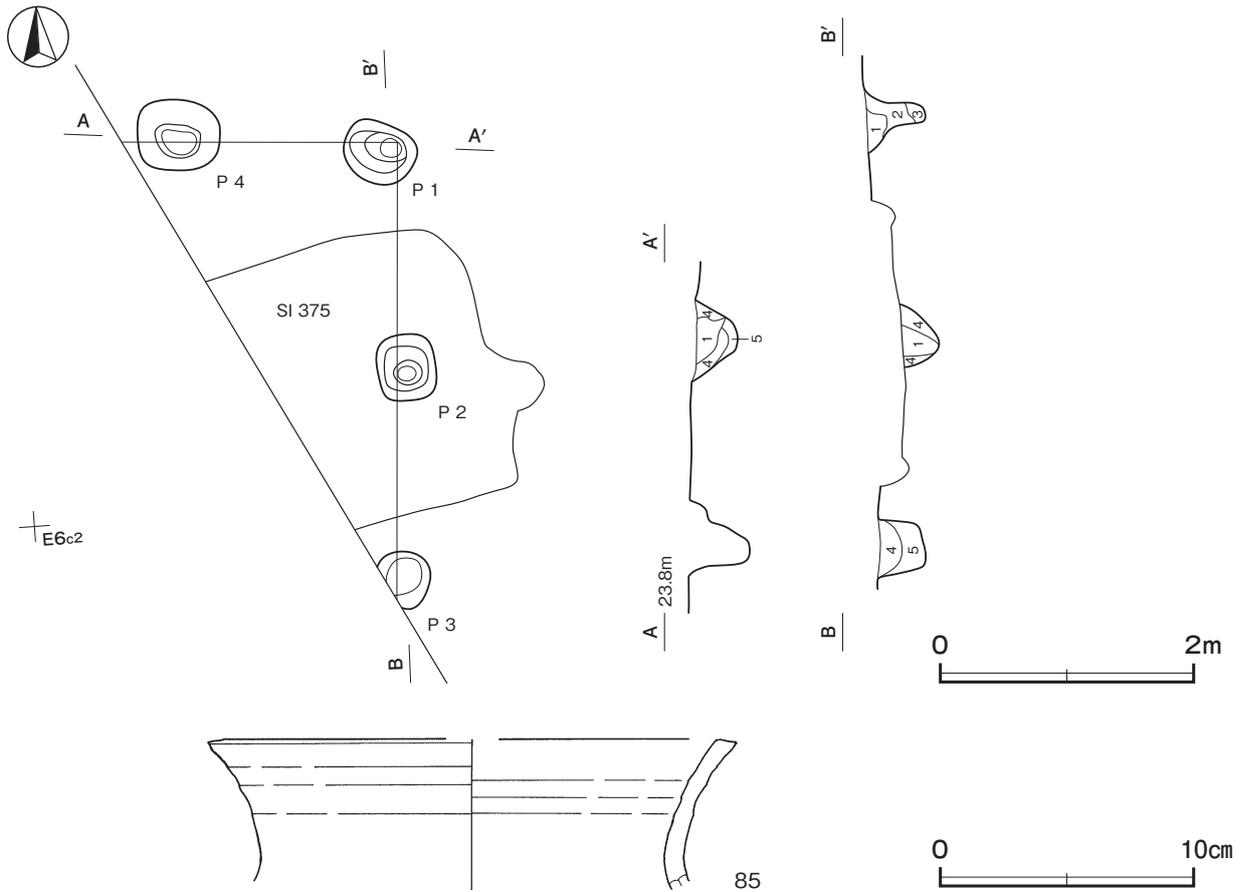
- | | | | |
|-------|-------------------|-------|----------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック少量 | 4 黒色 | 粘土ブロック中量 |
| 2 黒褐色 | 粘土ブロック多量、焼土ブロック微量 | 5 黒褐色 | 粘土ブロック少量 |
| 3 黒褐色 | 粘土ブロック少量、焼土ブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片3点（甕類）、須恵器片5点（甕類）が出土している。85は、P1の覆土中から出土している。

所見 時期は、重複関係と出土土器から8世紀後葉以前に比定できる。

第130号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第137図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
85	須恵器	甕	[19.6]	(6.0)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	ロクロナデ	P1覆土中	5%



第137図 第130号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

表11 奈良時代掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数		面積 (㎡)	柱間寸法		柱 穴			主な出土遺物	時 期	備 考	
			桁×梁(間)	桁×梁(m)		桁間(m)	梁間(m)	構造	柱穴数	平面形				深さ(cm)
110	C 5a7	N - 3° - W	3 × 2	6.3 × 4.5	28.35	2.1	2.1 ~ 2.4	側柱	10	楕円形 隅丸長方形	26 ~ 54	土師器, 須恵器	8世紀後葉	
115A	E 6j0	N - 4° - W	4 × 2	5.4 × 3.6	19.44	0.9 ~ 2.1	1.8	側柱	10	円形 楕円形	14 ~ 47	土師器, 須恵器	8世紀前葉	本跡 → SB115 B, SD21
115B	E 6j0	N - 2° - W	2 × 2	3.9 × 3.9	15.21	1.8 ~ 2.1	1.8 ~ 2.1	側柱	5	円形 楕円形	12 ~ 47	土師器, 須恵器	8世紀前葉	SB115 A → 本跡 → SD21
117	E 6c6	N - 9° - E	3 × 2	6.9 × 4.2	28.98	2.1 ~ 2.7	2.1	側柱	10	円形 楕円形	23 ~ 60	土師器, 須恵器	8世紀前葉	
118	C 5e6	N - 87° - W	3 × 2	5.7 × 3.3	18.81	1.8 ~ 2.1	1.5 ~ 1.8	側柱	10	隅丸方形 隅丸長方形	43 ~ 69	土師器, 須恵器	8世紀後葉	SB119 → 本跡
119	C 5f6	N - 5° - E	3 × 2	6.3 × 4.5	28.35	1.8 ~ 2.4	2.1 ~ 2.4	側柱	9	円形 楕円形	32 ~ 50	土師器, 須恵器	8世紀後葉 以前	SB122 → 本跡 → SB118
122	C 5g6	N - 86° - W	-	4.8 × 3.3	-	1.5 ~ 1.8	1.5 ~ 1.8	側柱	7	円形 楕円形	22 ~ 52	須恵器	8世紀後葉 以前	本跡 → SB119, SD28
124	C 5a8	N - 5° - E	2 × 1	3.9 × 2.1	8.19	1.8 ~ 2.1	2.1	側柱	5	円形 楕円形	17 ~ 55		8世紀前葉 以前	本跡 → SB125
125	C 5b7	N - 85° - W	4 × 2	8.4 × 3.9	32.76	1.8 ~ 2.4	1.8 ~ 2.1	側柱	12	楕円形 円形	18 ~ 49	土師器, 須恵器	8世紀前葉 以降	SB124 → 本跡 → SB112
130	E 6b2	N - 4° - E	-	3.6 × 1.8	-	1.8	1.8	-	4	円形 楕円形	29 ~ 47	土師器, 須恵器	8世紀後葉 以前	本跡 → SI375

(3) 大型円形土坑

第1号大型円形土坑 (第138図 PL48)

位置 調査区南部のG 7 a7区, 標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 2.95 m, 短径 2.66 m の楕円形で、深さ 130cm の掘り鉢状である。底面は径 1.12 m の円形で、中央部に深さ 36cm の掘り込みを有している。長径方向は N - 37° - E で、壁は外傾している。

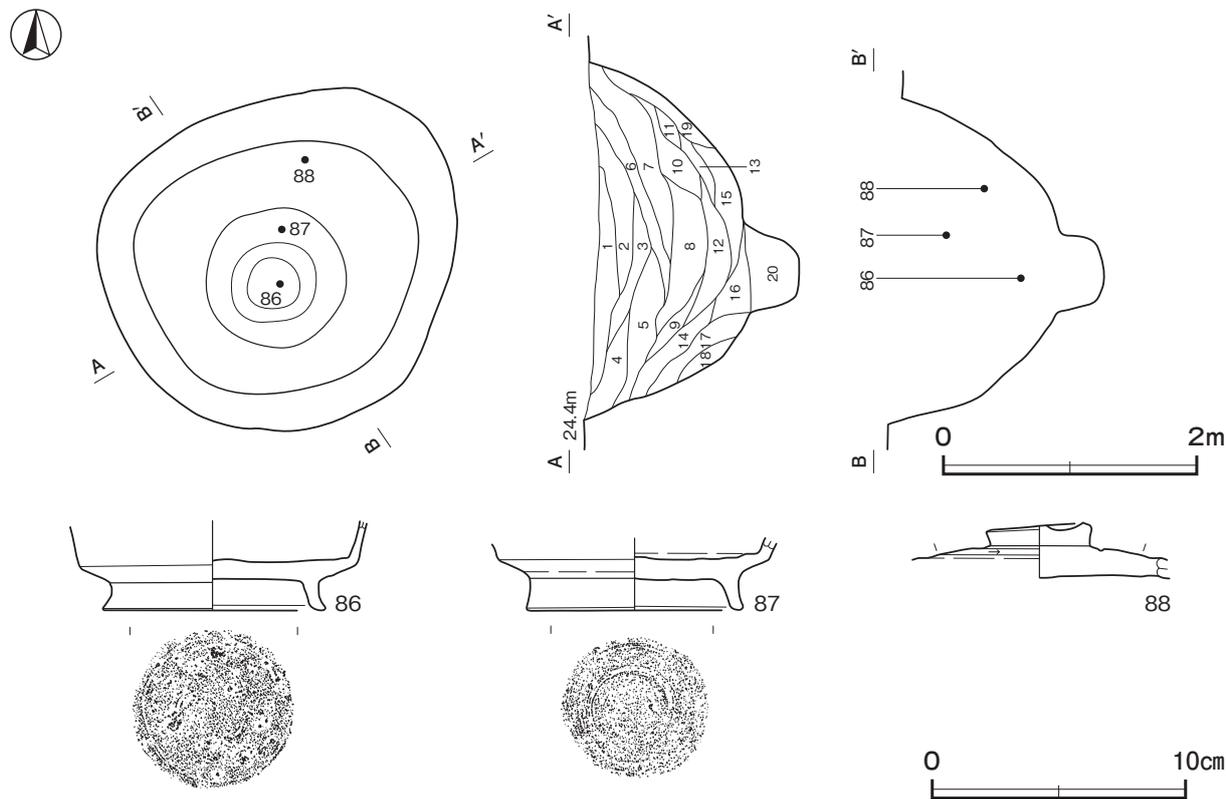
覆土 20 層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|------------------------------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 11 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック少量 | 12 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 粘土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 | 13 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 14 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化材微量 |
| 5 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化材微量 | 15 暗褐色 粘土ブロック・炭化物・ローム粒子少量 |
| 6 暗褐色 焼土粒子少量, ロームブロック微量 | 16 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 | 17 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量 |
| 8 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土ブロック・焼土粒子微量 | 18 黒褐色 粘土ブロック中量, ローム粒子少量 |
| 9 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・細礫微量 | 19 暗褐色 炭化材・ロームブロック少量, 粘土ブロック微量 |
| 10 暗褐色 炭化物・ローム粒子微量 | 20 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片 5 点 (甕類), 須恵器片 13 点 (高台付坏 2, 蓋 4, 高盤 2, 甕類 5) が出土している。86 は覆土下層, 87・88 は覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 底面に窪みを持つ掘り鉢状の大型の土坑である。時期は、出土土器から 8 世紀後葉と考えられる。



第 138 図 第 1 号大型円形土坑・出土遺物実測図

第 1 号大型円形土坑出土遺物観察表 (第 138 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
86	須恵器	高台付坏	-	(3.5)	8.7	長石・石英	灰黄褐	普通	底部回転ヘラ削り	覆土下層	50%
87	須恵器	高台付坏	-	(2.9)	8.4	長石・石英・雲母	灰	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中層	40% 新治窯
88	須恵器	蓋	-	(2.2)	-	長石・石英	暗灰黄	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中層	10%

(4) 土坑

第14号土坑 (第139図)

位置 調査区北部のC5g8区, 標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第362号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.78m, 短径0.67mの楕円形で, 長径方向はN-14°-Eである。深さは30cmで, 底面は皿状である。壁は緩やかに立ち上がっている。

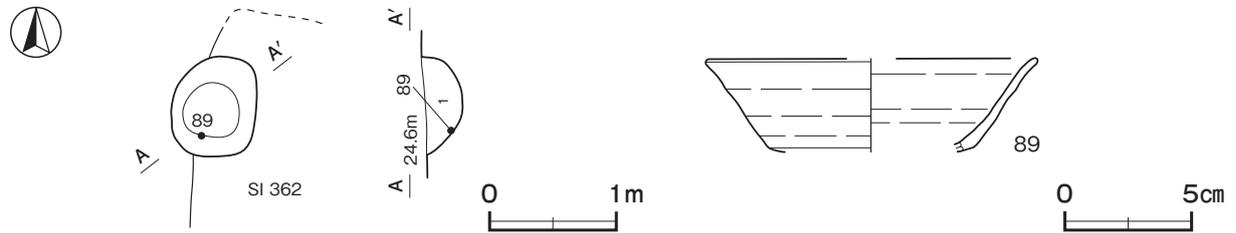
覆土 単一層である。ローム粒子が多量に含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片2点(甕類), 須恵器片1点(坏)が出土している。89は覆土下層から出土している。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から8世紀後葉に比定される。



第139図 第14号土坑・出土遺物実測図

第14号土坑出土遺物観察表 (第139図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
89	須恵器	坏	[13.0]	(3.7)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	ロクロナデ	覆土下層	20% 新治窯

第44号土坑 (第140図 PL48)

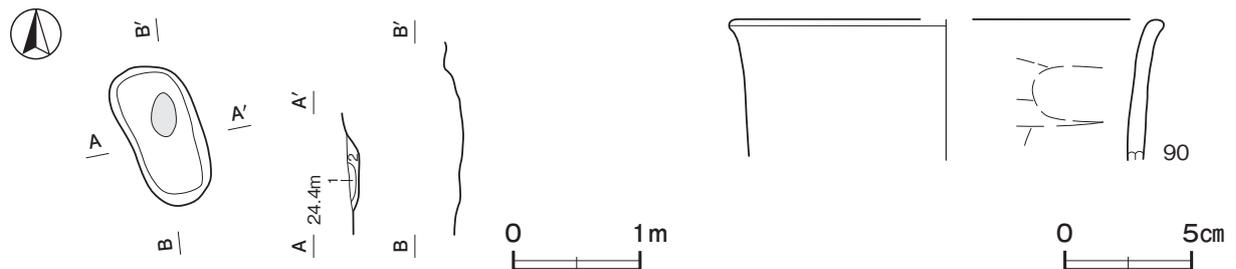
位置 調査区中央部のE6b8区, 標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.17m, 短径0.58mの楕円形で, 長径方向はN-17°-Wである。深さは12cmで, 底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。焼土ブロックを含んでいることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック中量
- 2 黒褐色 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量



第140図 第44号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片 2 点（甕類），須恵器片 3 点（鉢 1，甕類 2）が出土している。90 は覆土中から出土している。

所見 時期は，出土土器から 8 世紀代に比定される。

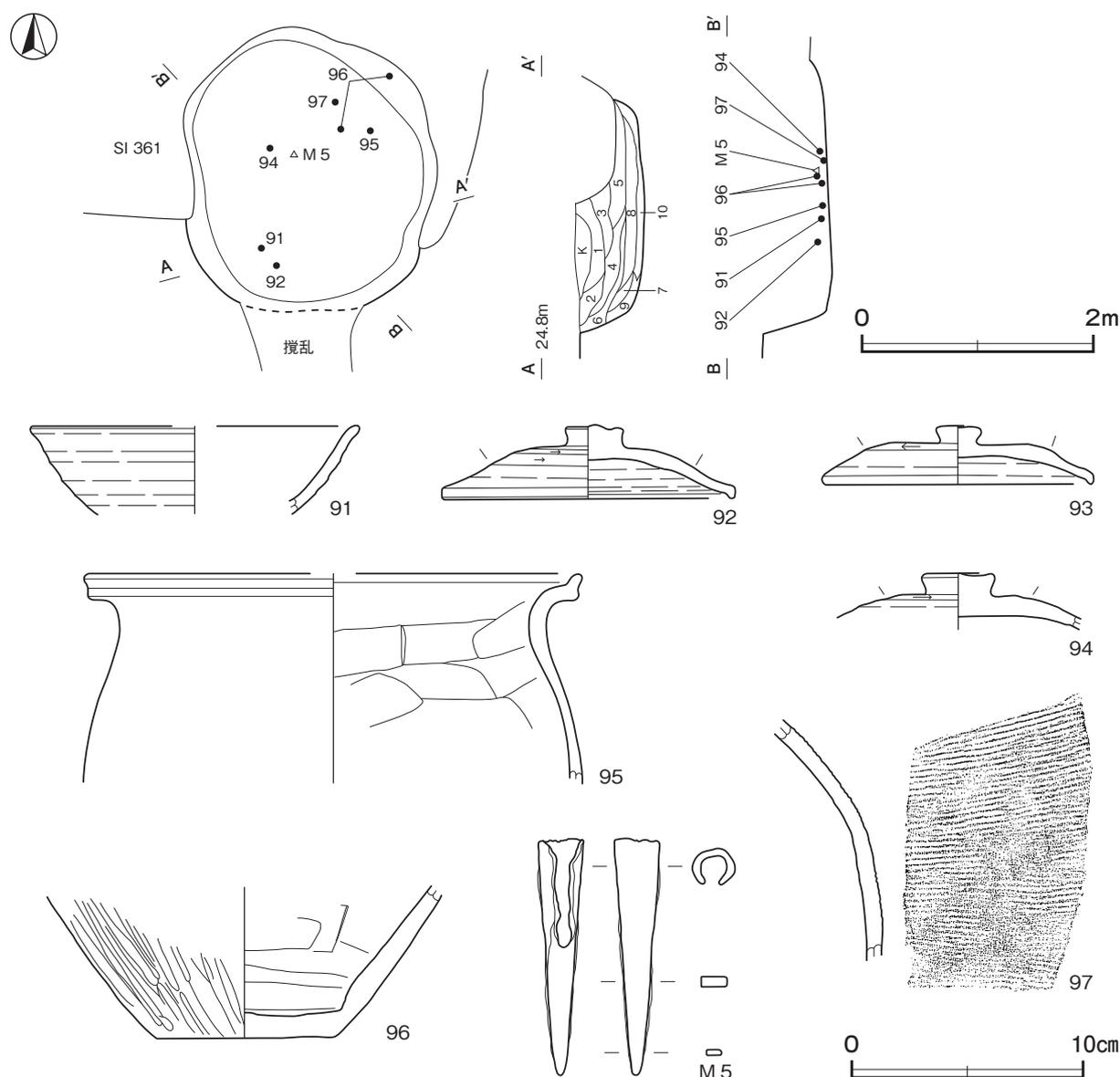
第 44 号土坑出土遺物観察表（第 140 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
90	須恵器	鉢	[16.8]	(5.6)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部内面指ナデ	覆土中	5%

第 51 号土坑（第 141 図）

位置 調査区北部の C 5 f8 区，標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 361 号堅穴建物に掘り込まれている。



第 141 図 第 51 号土坑・出土遺物実測図

規模と形状 長径 2.48 m，短径 2.02 mの楕円形で，長径方向はN - 2° - Wである。深さは 59cmで，底面は平坦である。壁は外傾している。

覆土 10層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------|----------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 3 黒色 | ロームブロック少量，焼土ブロック微量 | 8 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量 |
| 4 極暗褐色 | 焼土ブロック多量，炭化粒子中量，ロームブロック少量 | 9 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 10 にぶい褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 土師器片 80 点（坏 3，甕類 77），須恵器片 86 点（坏 19，蓋 8，高盤 2，甕類 56，甗 1），金属製品 1 点（石突）が出土している。94・M5 は中央部，95～97 は北部，91・92 は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。93 は覆土中から出土している。

所見 時期は，重複関係や出土土器から 8 世紀後葉に比定される。

第 51 号土坑出土遺物観察表（第 141 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
91	須恵器	坏	[14.0]	(3.9)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	ロクロナデ	覆土下層	5%
92	須恵器	蓋	12.5	3.2	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	90% PL49 新治窯
93	須恵器	蓋	11.4	2.6	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	40% 新治窯
94	須恵器	蓋	-	(2.5)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	30% 新治窯
95	土師器	甕	[21.3]	(9.1)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ナデ 内面横位・斜位のナデ	覆土下層	10%
96	土師器	甕	-	(6.6)	[7.4]	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部下位ヘラ磨き 内面横位のナデ	覆土下層	5%
97	須恵器	甕	-	(10.4)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部外面横位の平行叩き	覆土下層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M5	石突	10.2	2.0	1.6	32.0	鉄	袋部外形円形 先端尖る	覆土下層	PL58

第 63 号土坑（第 142 図）

位置 調査区北部の C 5 f7 区，標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 361 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 2.55 m，短軸 2.24 m の隅丸長方形で，長軸方向は N - 10° - E である。深さは 54cm で，底面は平坦である。壁は外傾している。

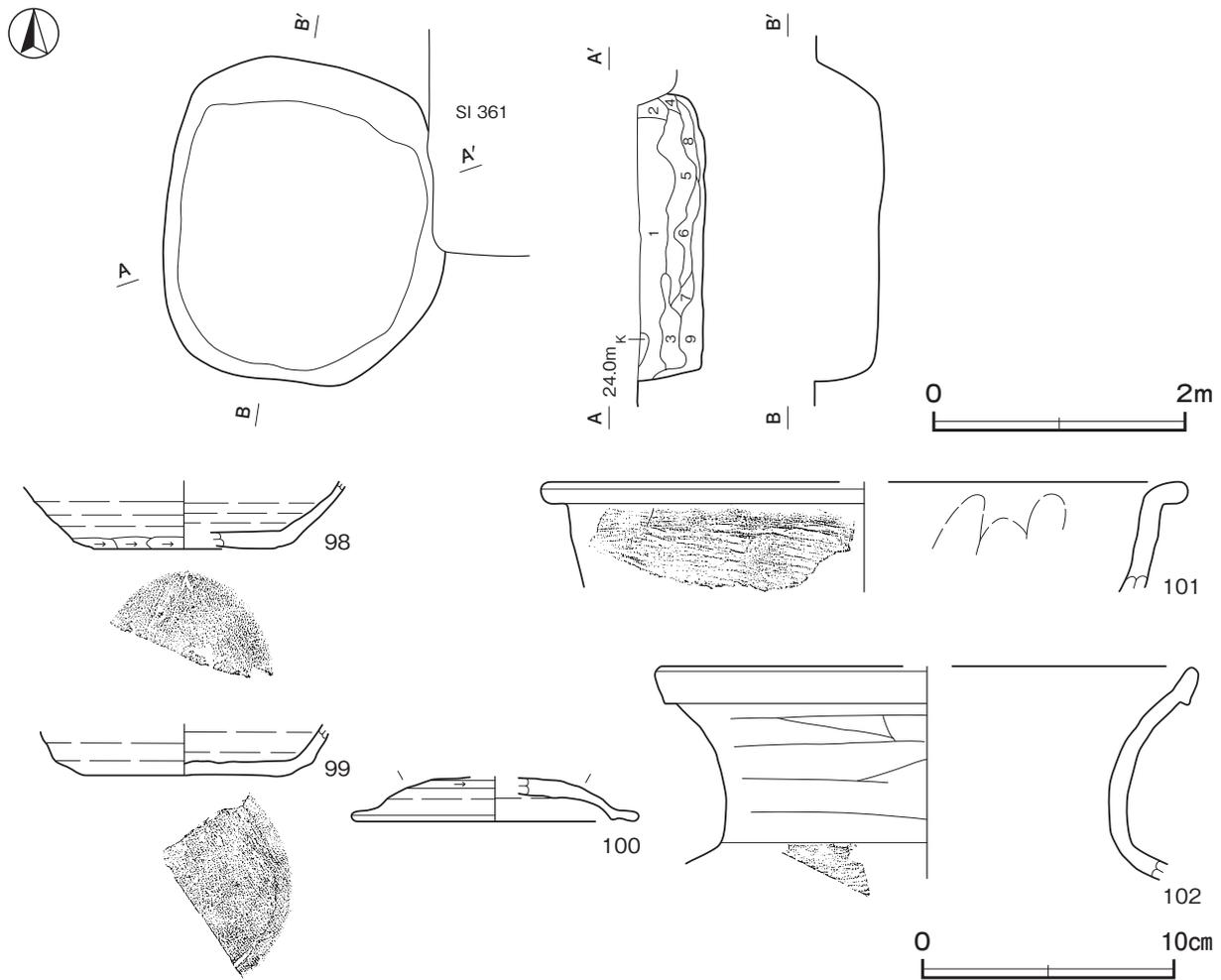
覆土 9層に分層できる。ロームブロックが含まれ，ブロック状に堆積していることから，埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|--------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 灰黄褐色 | ローム粒子中量 | 7 極暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量 | 8 黒色 | ローム粒子微量 |
| 4 極暗褐色 | ローム粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片 47 点（坏 19，甕類 28），須恵器片 75 点（坏 28，蓋 6，鉢 1，甕類 40）が出土している。98～100・102 は東部，101 は西部の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は，重複関係や出土土器から 8 世紀前葉に比定される。



第 142 図 第 63 号土坑・出土遺物実測図

第 63 号土坑出土遺物観察表 (第 142 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
98	須恵器	坏	-	(27)	[7.2]	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちへら削り 底部不定方向の手持ちへら削り	覆土中	30% 新治窯
99	須恵器	坏	-	(21)	[8.6]	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	底部不定方向のへら削り	覆土中	10% 新治窯
100	須恵器	蓋	[11.2]	(18)	-	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	天井部回転へら削り	覆土中	20% 新治窯
101	須恵器	鉢	[25.4]	(44)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	体部外面横位の平行叩き 内面指頭痕	覆土中	5%
102	須恵器	甕	[21.2]	(8.5)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	頸部外面横位のナデ 体部外面横位の平行叩き 器面荒れ	覆土中	5%

表 12 奈良時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
14	C 5g8	N - 14° - E	楕円形	0.78 × 0.67	30	皿状	緩斜	人為	土師器, 須恵器	SI 362 → 本跡
44	E 6b8	N - 17° - W	楕円形	1.17 × 0.58	12	平坦	緩斜	人為	土師器, 須恵器	
51	C 5f8	N - 2° - W	楕円形	(2.48) × 2.02	59	平坦	外傾	人為	土師器, 須恵器, 金属製品	本跡 → SI 361
63	C 5f7	N - 10° - E	隅丸長方形	2.55 × 2.24	54	平坦	外傾	人為	土師器, 須恵器	本跡 → SI 361

(5) 柱穴列

第8号柱穴列 (第143図)

位置 調査区中央部の D 6 i2 ~ E 6 a2 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 379 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造 南北方向 8.4 m の間に並ぶ柱穴 5 か所を確認した。配列方向は N - 1° - W である。柱間寸法は 1.5 ~ 3.3 m (5 ~ 11 尺) で, 柱筋はほぼ揃っている。

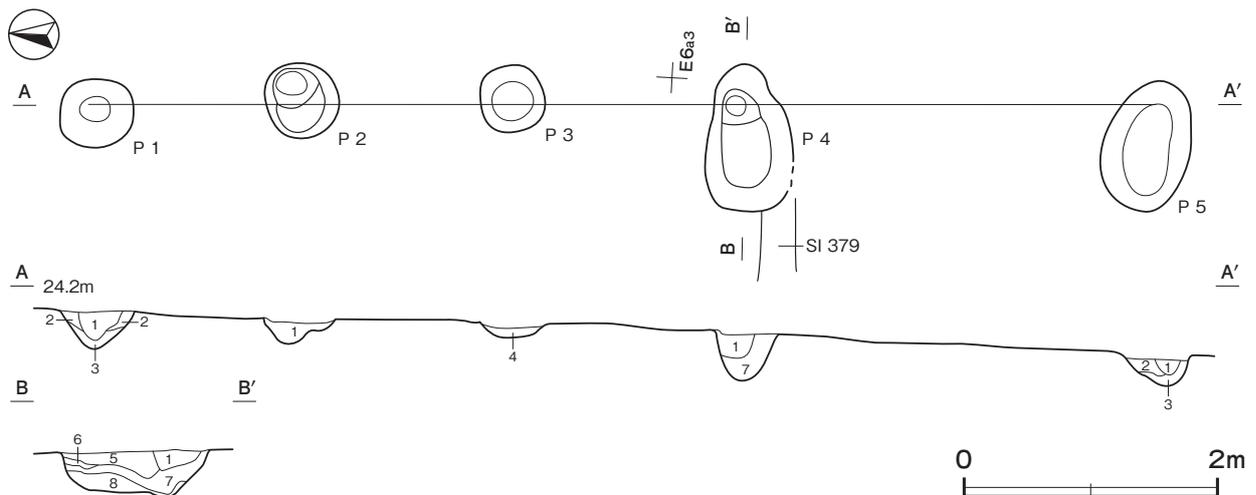
柱穴 5 か所。平面形は円形又は楕円形で, 長径 54 ~ 116cm, 短径 52 ~ 69cm である。深さは 10 ~ 35cm で, 断面は U 字形である。第 1 ~ 8 層は埋土である。

土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|---------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 黒褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | 6 黒褐色 粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 | 7 黒褐色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック微量 |
| 4 黒褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック微量 | 8 黒褐色 粘土ブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片 10 点 (甕類), 須恵器片 14 点 (坏 2, 甕類 12) が P 1・P 2・P 4 の埋土から出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から 8 世紀前葉以後に比定できる。直線状に延びていることから, 塀跡の可能性はあるが, 何に伴うものか不明である。



第 143 図 第 8 号柱穴列実測図

(6) 溝 跡

第 24 号溝跡 (第 144 図 PL44)

位置 調査区南部の F 6 d8 ~ F 7 b4 区, 標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 4 号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 東部と西部が調査区域外に延びている。F 6 c0 区で途切れるが, 直線上にあることから同一の溝とした。確認できた総延長は 23.06 m である。F 6 d8 区から北東方向 (N - 75° - E) へ直線状に延びている。上幅 0.36 ~ 0.50 m, 下幅 0.12 ~ 0.20 m, 深さ 28 ~ 34cm で, 断面は逆台形状である。

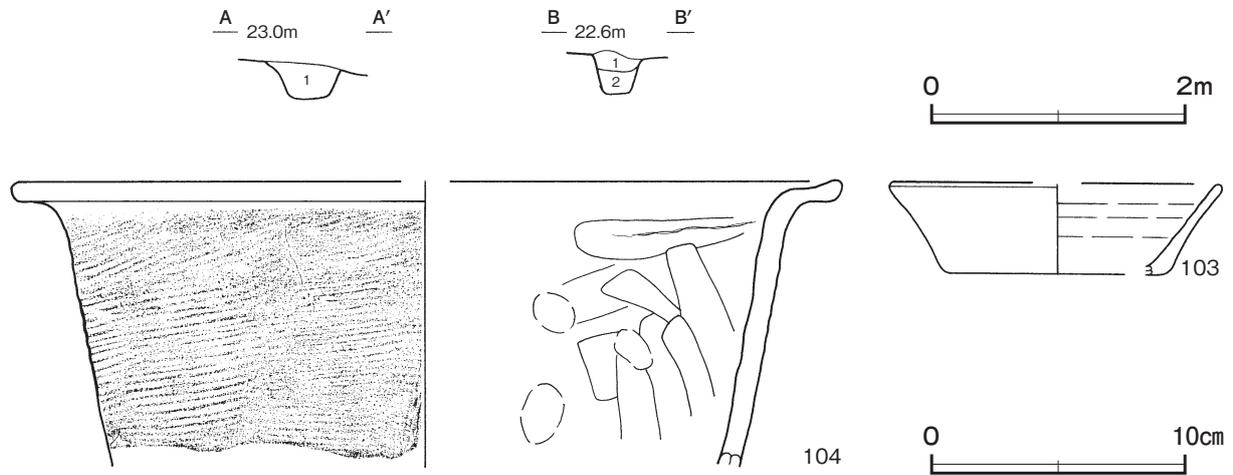
覆土 2 層に分層できる。粘土ブロックが含まれているが, 自然堆積とみられる。

土層解説

- | | |
|----------------------|----------------|
| 1 黒褐色 砂粒多量, 粘土ブロック微量 | 2 黒褐色 粘土ブロック微量 |
|----------------------|----------------|

遺物出土状況 土師器片 36 点 (坏 3, 甕類 33), 須恵器片 31 点 (坏 10, 蓋 2, 鉢 1, 甕類 18), 瓦 2 点 (丸瓦) が出土している。103・104 は覆土中から出土している。

所見 時期は, 第 25 号溝跡と平行に伸び, 第 4 号井戸との重複関係や出土土器から 8 世紀後葉に比定できる。



第 144 図 第 24 号溝跡・出土遺物実測図

第 24 号溝跡出土遺物観察表 (第 144 図)

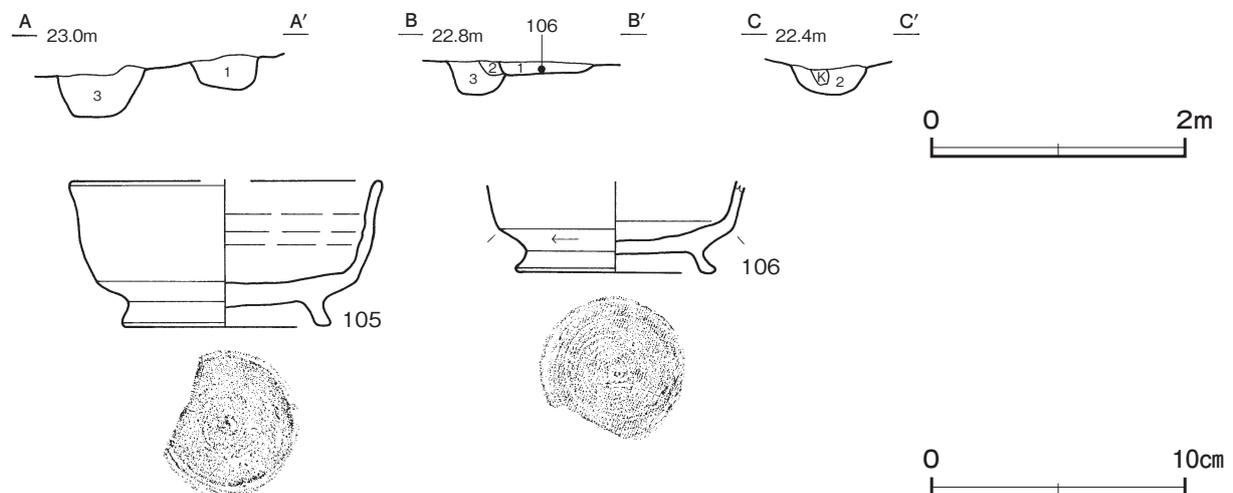
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
103	須恵器	坏	[12.8]	3.6	[8.4]	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部外・内面ロクロナデ	覆土中	30% 新治窯
104	須恵器	鉢	[32.4]	(11.3)	-	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	体部外面横位の平行叩き 内面斜位のナデ 指頭痕 輪積痕	覆土中	5%

第 25A・25B 号溝跡 (第 145 図 PL44)

位置 調査区南部の F 6 e8 ~ F 7 c5 区, 標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 21 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 東部と西部が調査区域外に伸びていることから, 確認できた総延長は 30.72 m である。F 6 e8 区から北東方向 (N - 74° - E) へ直線状に伸び東部 F 6 c4 区で分岐するが, 土層断面で南側の溝が第 25A 号溝,



第 145 図 第 25A・25B 号溝跡・出土遺物実測図

北側の溝を第 25B 号溝とする。第 25A 号溝が第 25B 号溝跡を掘り込んでいることを確認できた。上幅 0.52 ～ 1.20 m，下幅 0.28 ～ 0.44 m，深さ 10 ～ 36cm で，断面は U 字状である。

覆土 3 層に分層できる。粘土ブロックが含まれているが，自然堆積とみられる。

土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック微量
- 2 黒褐色 粘土粒子微量
- 3 黒褐色 粘土ブロック微量

遺物出土状況 土師器片 75 点（坏 5，蓋 1，甕類 69），須恵器片 27 点（坏 11，高台付坏 2，蓋 3，甕類 11），瓦 2 点（平瓦）が出土している。105 は東部の第 25B 号溝の覆土下層，106 は第 25A 号溝の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は，重複関係や出土土器から 8 世紀後葉に比定できる。

第 25A・25B 号溝跡出土遺物観察表（第 145 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
105	須恵器	高台付坏	[12.0]	5.8	8.0	長石・石英・雲母	灰	普通	底部ナデ後高台貼付	覆土下層	30% 新治窯
106	須恵器	高台付坏	-	(3.6)	[7.6]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	覆土下層	30% 新治窯

第 28 号溝跡（第 146 図 PL44）

位置 調査区北部の C 5 g5 ～ C 5 h8 区，標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 362 号竪穴建物跡，第 122 号掘立柱建物跡を掘り込み，第 121 号掘立柱建物，第 40 号土坑，第 17 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 西部が調査区域外に延びていることから，長さは 11.6 m しか確認できなかった。C 5 h8 区から南西方向（N - 86° - W）へ直線状に延びている。上幅 0.56 ～ 1.04 m，下幅 0.08 ～ 0.24 m，深さ 35cm で，断面は U 字状である。

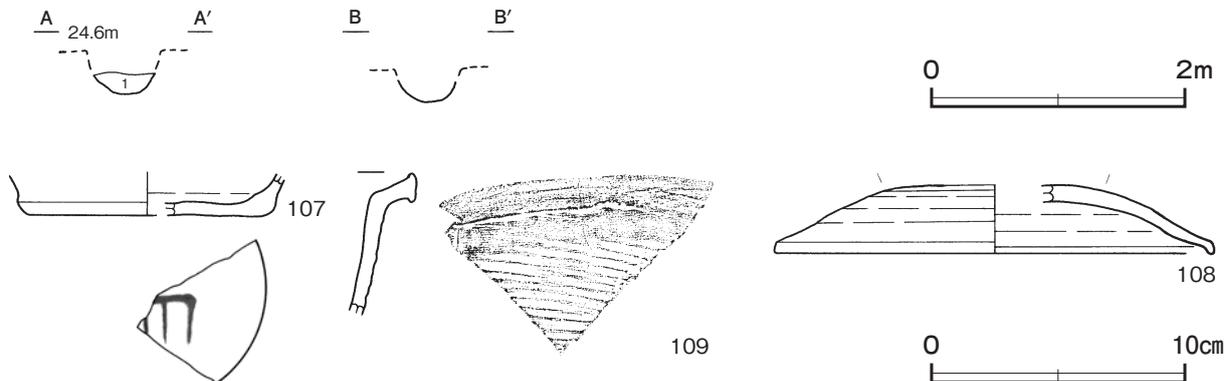
覆土 単一層であるため，堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片 50 点（甕類），須恵器片 106 点（坏 33，高台付坏 4，蓋 6，鉢 1，甕類 62）が出土している。107 ～ 109 は覆土中から出土している。

所見 時期は，重複関係や出土土器から 8 世紀後葉に比定できる。



第 146 図 第 28 号溝跡・出土遺物実測図

第 28 号溝跡出土遺物観察表 (第 146 図)

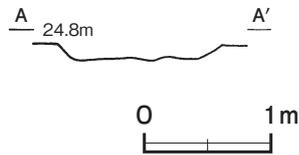
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
107	須恵器	坏	-	(1.8)	[9.4]	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	体部下端ナア 底部不定方向の手持ちヘラ削り 墨書「□」	覆土中	10% 新治窯
108	須恵器	蓋	[17.2]	(2.7)	-	長石・石英	灰黄褐	普通	天井部回転ヘラ削り 内面自然釉	覆土中	10%
109	須恵器	鉢	-	(5.6)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部外面斜位の平行叩き	覆土中	5%

第 33 号溝跡 (第 147 図)

位置 調査区南部の G 7 d6 ~ G 7 d7 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 388 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 掘り込みが浅いことから, 長さは, 4.57 m しか確認できなかった。G 7 d7 区から西方向 (N - 86° - W) へ直線状に延びていると予想される。上幅 1.01 ~ 1.28 m, 下幅 0.82 ~ 0.97 m, 深さ 11cm で, 断面は浅い U 字状である。



遺物出土状況 土師器片 1 点 (甕類), 須恵器片 3 点 (坏, コップ形土器, 甕類) が覆土中から出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から 8 世紀後葉以降に比定できる。

第 147 図 第 33 号溝跡実測図

表 13 奈良時代溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
24	F 6d8 ~ F 7b4	N - 75° - E	直線状	(23.06)	0.36 ~ 0.50	0.12 ~ 0.20	28 ~ 34	逆台形	外傾	自然	土師器, 須恵器, 瓦	本跡 → SE 4
25A 25B	F 6e8 ~ F 7c5	N - 74° - E	直線状	(30.72)	0.52 ~ 1.20	0.28 ~ 0.44	10 ~ 36	U 字状	外傾	自然	土師器, 須恵器, 瓦	本跡 → SD21
28	C 5g5 ~ C 5h8	N - 86° - W	直線状	(11.6)	0.56 ~ 1.04	0.80 ~ 0.24	35	U 字状	外傾	-	土師器, 須恵器	SI362.SB122 → 本跡 → SB121.SK40.SD17
33	G 7d6 ~ G 7d7	N - 86° - W	直線状	(4.57)	1.01 ~ 1.28	0.82 ~ 0.97	11	浅い U 字状	緩斜	-	土師器, 須恵器	SI388 → 本跡

(7) ピット群

第 2 号ピット群 (第 148 図)

位置 調査区南部の F 7 d3 ~ F 7 f3 区, 標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

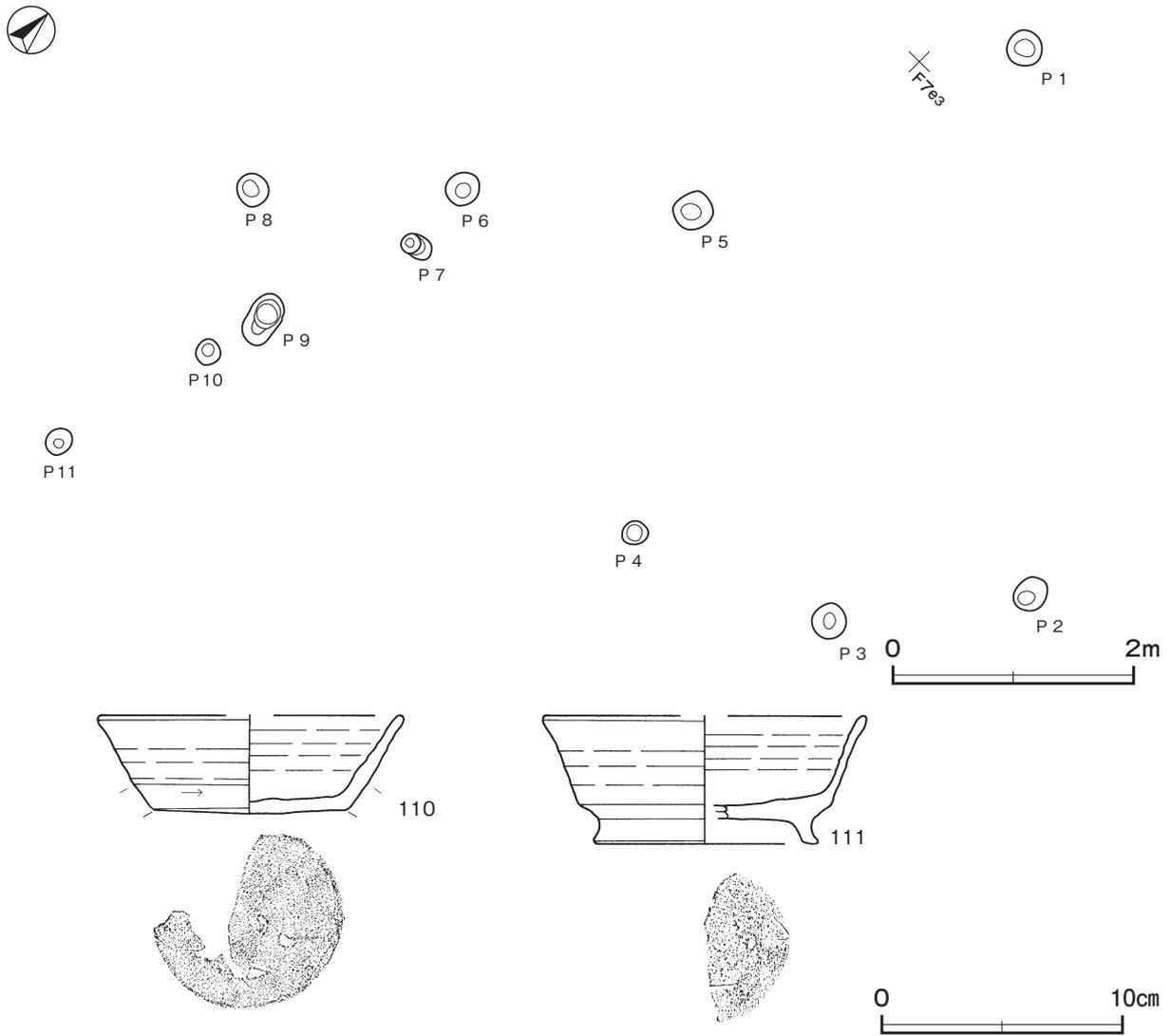
規模と形状 南北 8.21 m, 東西 7.21 m の範囲に, ピット 11 か所を確認した。個々の形状, 計測値については, 一覧表に記載する。

遺物出土状況 土師器片 3 点 (甕類), 須恵器片 14 点 (坏 11, 高台付坏 1, 甕類 2) が覆土中から出土している。110 は P 9, 111 は P 8 の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から 8 世紀後葉と考えられる。ピットの分布状況から, 建物跡は想定できないので, 性格は不明である。

第 2 号ピット群ピット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	F 7 d3	円形	30	31	32	5	F 7 d3	円形	33	33	25	9	F 7 f2	楕円形	45	38	30
2	F 7 e3	楕円形	32	26	21	6	F 7 e2	楕円形	30	26	24	10	F 7 f2	円形	22	21	19
3	F 7 e3	円形	30	29	26	7	F 7 e2	楕円形	26	20	10	11	F 7 f2	楕円形	24	20	13
4	F 7 f3	円形	21	20	32	8	F 7 f2	円形	29	28	29						



第 148 図 第 2 号ピット群・出土遺物実測図

第 2 号ピット群出土遺物観察表 (第 148 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
110	須恵器	坏	[12.4]	4.1	[8.2]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部二方向の手持ちヘラ削り	P 9 覆土中	50% 新治窯
111	須恵器	高台付坏	[13.4]	5.3	[9.1]	長石・石英・雲母	灰	普通	底部ナデ後高台貼付	P 8 覆土中	30% 新治窯

2 平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡 35 棟、掘立柱建物跡 12 棟、井戸跡 1 基、粘土採掘坑 2 基、土坑 8 基、柱穴列 3 条、溝跡 2 条、ピット群 1 か所を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

第 278 号竪穴建物跡 (第 149 図 PL30)

位置 調査区北部の C 6 f2 区、標高 25 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 東側が調査区域外に延びていることから、南北軸は 3.18 m で、東西軸は 2.70 m しか確認できな

かった。長方形又は方形と推定される。主軸方向は不明である。壁は高さ 18～25cmで、ほぼ直立している。
床 平坦で、中央部が踏み固められている。床は地山をそのまま利用している。確認した部分では壁溝が巡っている。

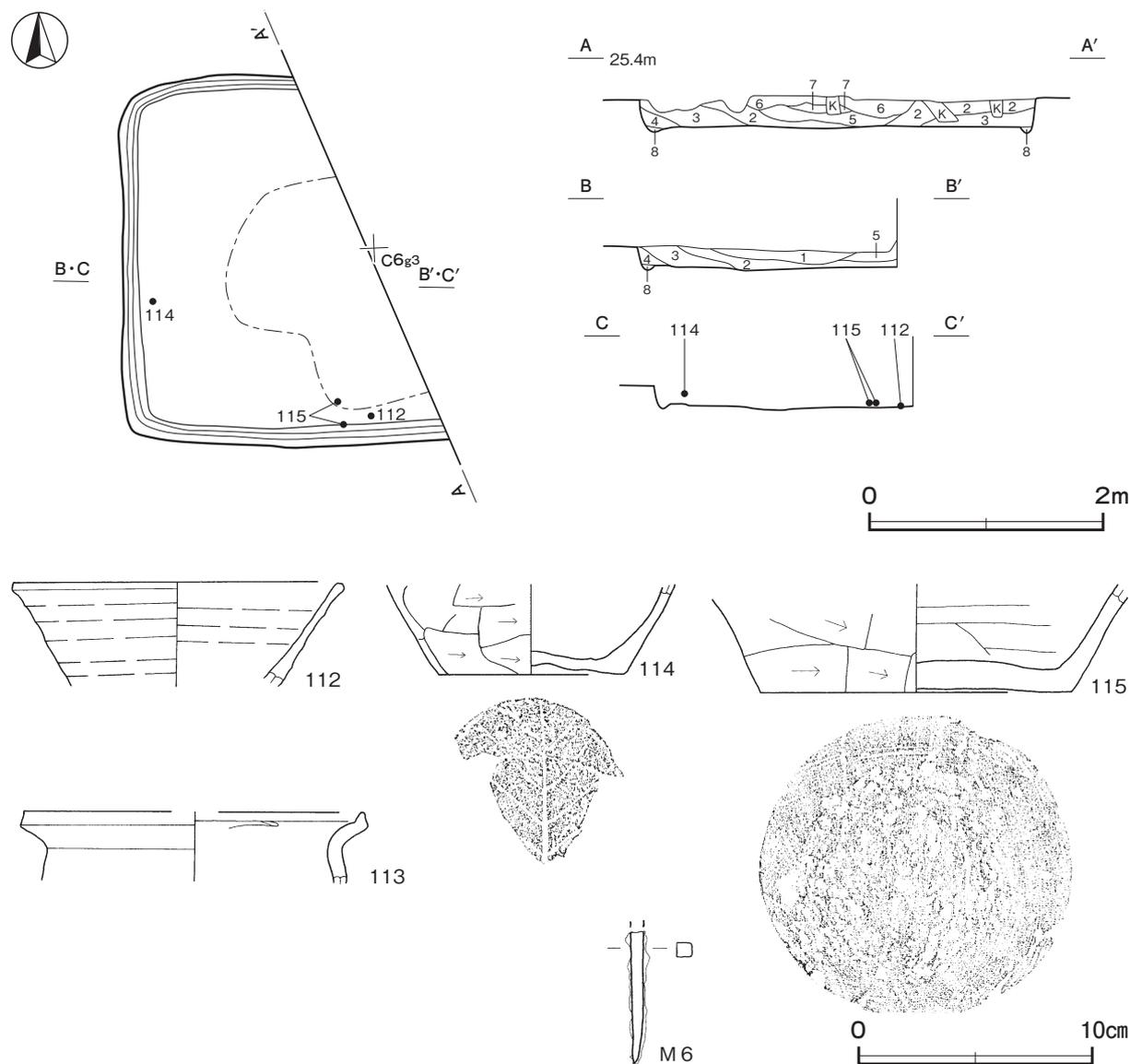
覆土 8層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | |
|--------|------------------------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 炭化粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 | 6 黒褐色 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 5 灰褐色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土粒子 | 7 暗褐色 |
| | | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| | | 8 灰褐色 |
| | | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片 36点 (甕類, 須恵器片 20点 (坏 11, 高台付坏 1, 蓋 1, 甕類 7), 金属製品 1点 (釘) が、主に北側の覆土中から出土している。112・115は南壁付近, 114は西壁付近の床面からそれぞれ出土している。113・M 6は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第 149 図 第 278 号 竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 278 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 149 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
112	須恵器	坏	14.0	(4.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	体部ロクロナデ	床面	60% 新治窯
113	土師器	甕	[14.4]	(3.0)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部内面ヘラナデ	覆土中	5%
114	土師器	甕	-	(3.9)	[8.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐	普通	体部外面下位ヘラ削り 底部木葉痕	床面	5%
115	須恵器	甕	-	(4.7)	13.3	長石・石英・雲母	黒褐	普通	体部外面下位ヘラ削り 内面ナデ 底部周縁ヘラ削り	床面	10% 新治窯

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 6	釘	(5.8)	0.6	0.6	(9.3)	鉄	頭部欠損 断面四角形	覆土中	PL58

第 339 号竪穴建物跡 (第 150 ~ 152 図 PL30・31)

位置 調査区北部の B 5h9 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 4.12 m, 短軸 3.95 m の方形で, 主軸方向は N - 8° - E である。壁は高さ 29 ~ 40cm で, ほぼ直立している。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。床は地山をそのまま利用している。壁溝が全周している。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 126cm で, 燃烧部幅は 54cm である。袖部は地山の上に甕を逆位に据え, 粘土ブロックを含む第 11 ~ 13 層を積みあげて構築されている。火床部は楕円形に 14cm 掘りくぼめ, 焼土ブロックを含む第 9・10 層を埋土している。火床面は第 9 層上面で, 火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 68cm 掘り込まれ, 火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1 褐 色	焼土ブロック中量	8 暗 褐 色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
2 黄 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック微量	9 暗 赤 褐 色	焼土ブロック・炭化物多量, ロームブロック微量
3 暗 褐 色	ロームブロック中量, 焼土粒子少量	10 灰 褐 色	焼土ブロック・炭化粒子中量
4 黄 褐 色	焼土ブロック多量, ロームブロック中量	11 暗 褐 色	粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
5 褐 色	焼土ブロック多量, ロームブロック中量	12 明 赤 褐 色	粘土ブロック多量, ロームブロック微量
6 褐 色	ロームブロック中量, 炭化物少量	13 暗 褐 色	粘土ブロック中量, ロームブロック微量
7 暗 褐 色	ロームブロック少量		

ピット 5か所。P 1 は深さ 23cm で, 南壁際の中央部に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 2 ~ P 5 は, 深さ 9 ~ 12cm で, 性格は不明である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

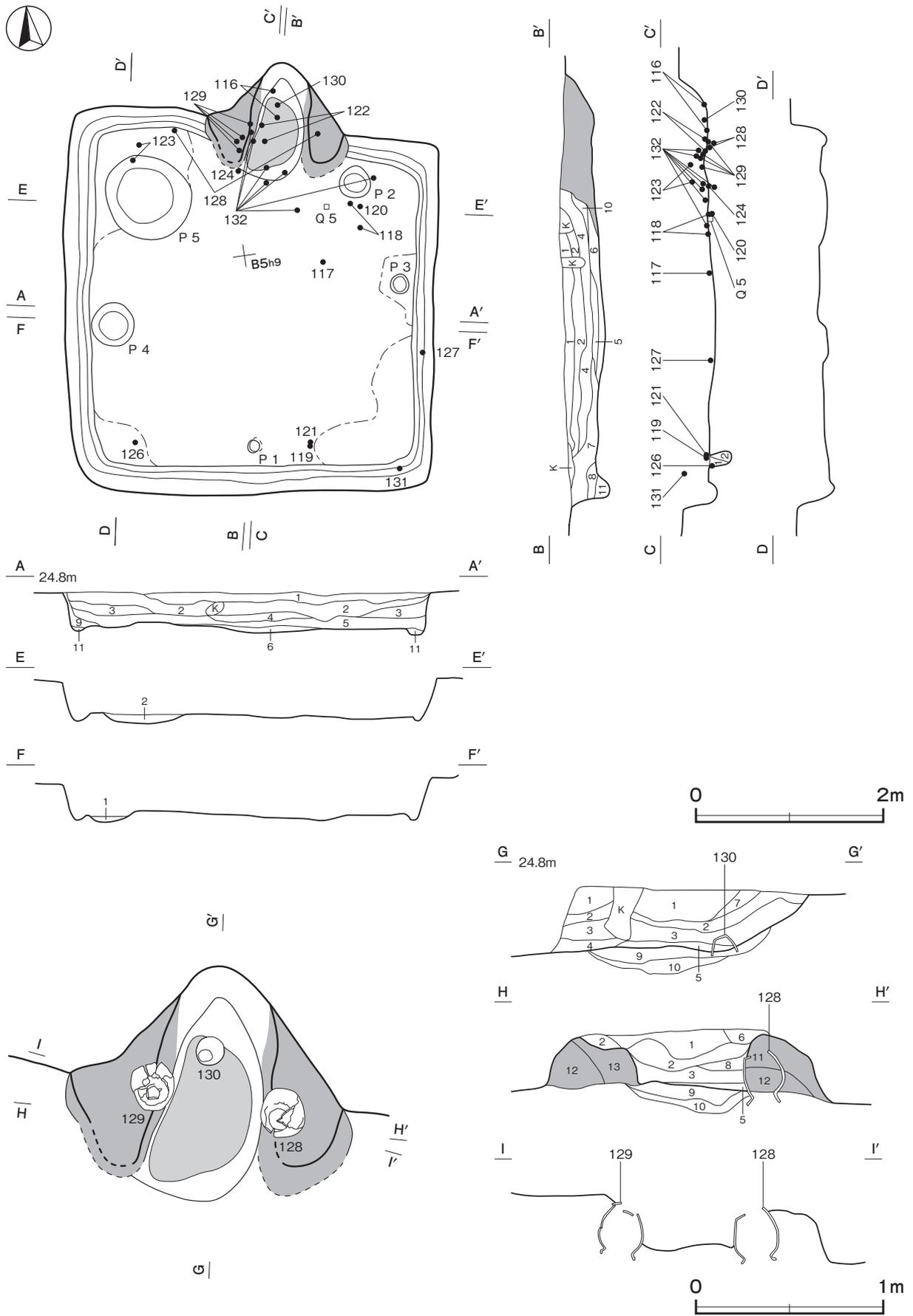
1 灰 褐 色	ロームブロック少量	2 暗 褐 色	焼土ブロック中量, 炭化粒子少量
---------	-----------	---------	------------------

覆土 11 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

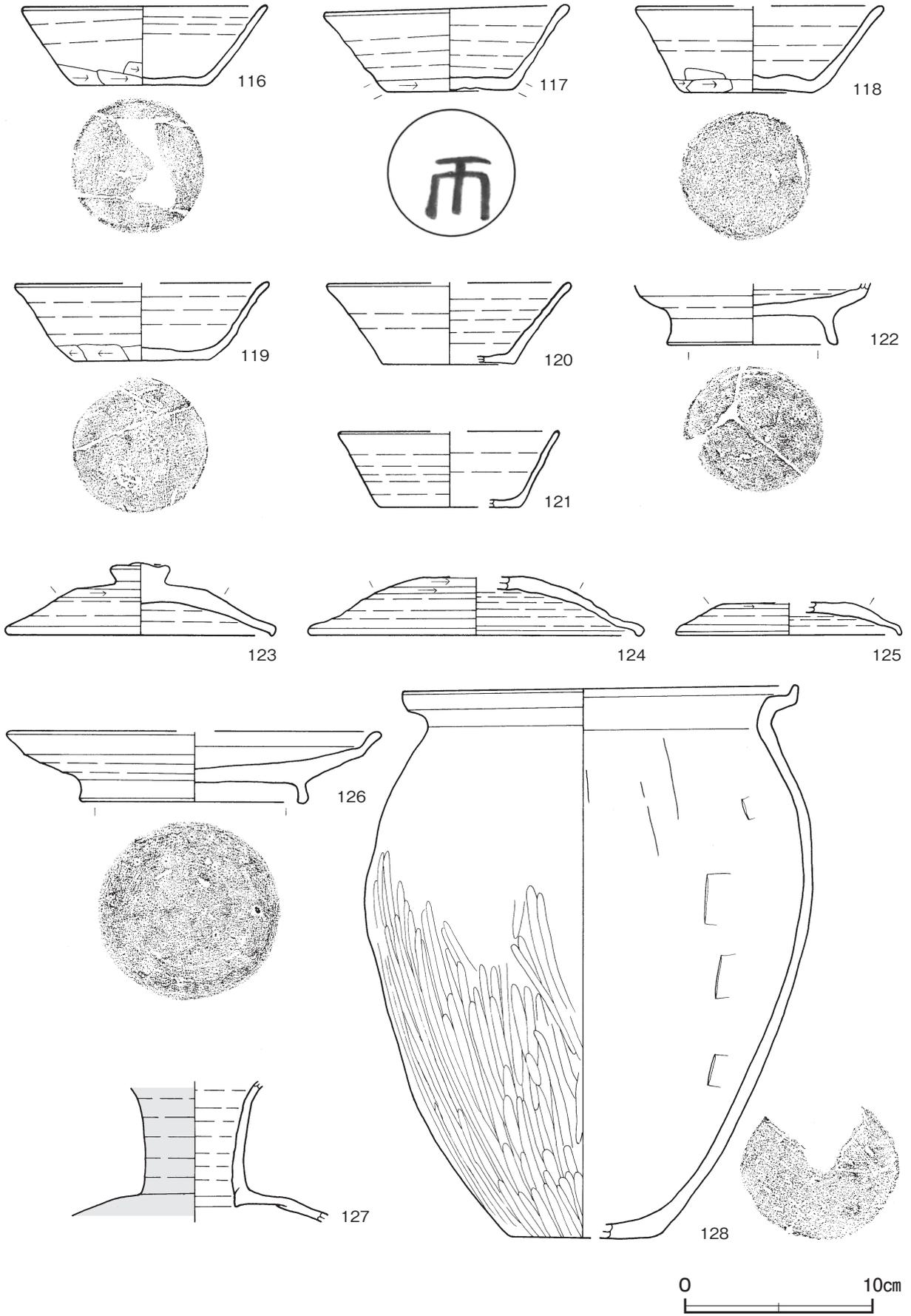
土層解説

1 黒 褐 色	ロームブロック・焼土粒子微量	7 黒 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2 暗 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物微量	8 極 暗 褐 色	ローム粒子微量
3 黒 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	9 黒 褐 色	ロームブロック少量
4 灰 褐 色	ロームブロック中量, 焼土ブロック微量	10 黒 褐 色	粘土ブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
5 黒 褐 色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量	11 黒 色	ロームブロック微量
6 黒 褐 色	ロームブロック少量, 粘土ブロック微量		

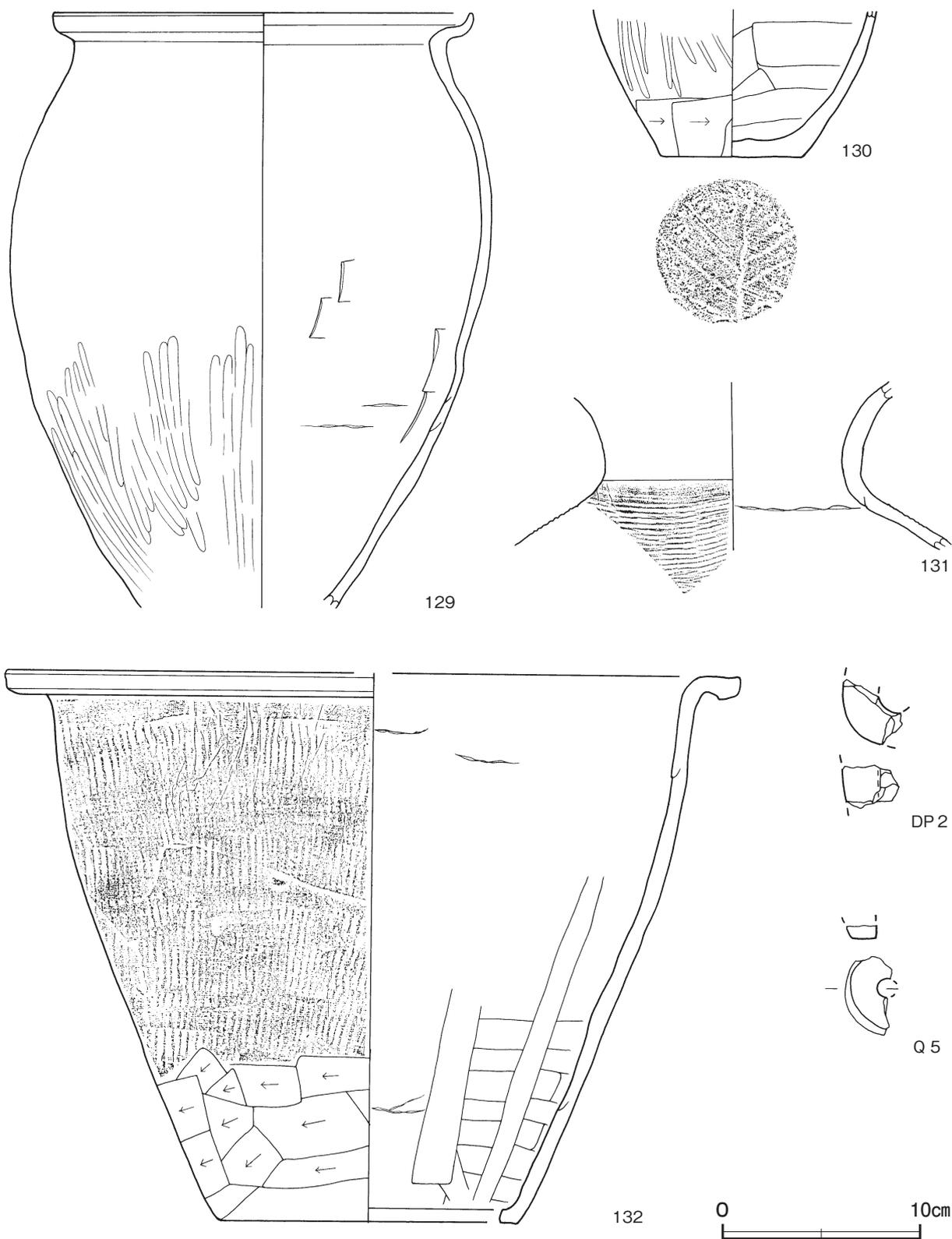
遺物出土状況 土師器片 339 点 (坏 8, 甕類 331), 須恵器片 237 点 (坏 114, 高台付坏 4, 蓋 14, 盤 2, 高盤 2, 甕類 99, 甗 2), 灰釉陶器 (長頸瓶 2), 土製品 1 点 (紡錘車), 石器 1 点 (紡錘車) が主に竈周辺の覆土下層から出土している。116 と 122 は, 竈の火床面から出土している。128 は右袖部内, 129 は左袖部内にそれぞれ補強材として逆位の状態で据えられて出土している。130 は火床面に逆位の状態で据えられ, 支脚に転用さ



第 150 图 第 339 号竖穴建物跡実测图



第 151 図 第 339 号 竖穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 152 図 第 339 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

れている。132 は左袖部内と竈周辺の床面から出土した破片が接合している。117 は中央部, 124 は左袖前方部, 118・120・Q 5 は北東コーナー部, 119・121 は南壁付近, 126 は南西コーナー部, 127 は東壁付近の床面から

それぞれ出土している。123は北西コーナー部の覆土中層, 131は南東コーナー部の覆土上層から出土している。125は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉に比定できる。

第 339 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 151・152 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
116	須恵器	坏	13.0	4.4	6.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	火床面	95% PL50 新治窯
117	須恵器	坏	12.8	4.6	6.6	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部二方向の手持ちヘラ削り 底部外面墨書「巾」	床面	70% PL51 新治窯
118	須恵器	坏	[13.0]	4.7	7.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り 痕を残す一方向の手持ちヘラ削り後ナデ 二次焼成	床面	40% 新治窯
119	須恵器	坏	[13.4]	4.2	7.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部不定方向の手持ちヘラ削り	床面	30% 新治窯
120	須恵器	坏	[12.8]	4.4	[7.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄灰	普通	底部一方向の手持ちヘラ削り	床面	20% 新治窯
121	須恵器	坏	[11.6]	4.1	[7.6]	長石・石英・雲母	黒褐	普通	底部不定方向の手持ちヘラ削り	床面	20% 新治窯
122	須恵器	高台付坏	-	3.3	[9.1]	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐灰	普通	底部回転ヘラ削り 二次焼成	火床面	50% 新治窯
123	須恵器	蓋	[14.2]	3.9	-	長石・石英	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中層	30%
124	須恵器	蓋	[17.6]	(3.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	天井部回転ヘラ削り 二次焼成	床面	20% 新治窯
125	須恵器	蓋	[12.0]	(1.7)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	40% 新治窯
126	須恵器	盤	[19.8]	3.8	12.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	底部回転ヘラ削り 二次焼成	床面	70% 新治窯
127	灰釉陶器	長頸瓶	-	(7.5)	-	長石	灰暗オリーブ	普通	頸部接合三段構成	床面	30% PL53 猿投窯
128	土師器	甕	21.0	30.0	8.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面下半ヘラ磨き 内面ヘラ当て痕 底部不定方向のヘラ削り	右袖内	90% PL55
129	土師器	甕	21.2	(30.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面下半ヘラ磨き 内面ヘラ当て痕 輪積痕	左袖内	90% PL55
130	土師器	甕	-	(7.6)	7.2	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ磨き 下位ヘラ削り 内面横・斜位のナデ 底部木葉痕 二次焼成	火床面	30% 支脚転用
131	須恵器	甕	-	(8.5)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面横位の平行叩き 内面輪積痕	覆土上層	5%
132	須恵器	甕	[37.2]	28.3	[15.1]	長石・石英	灰	普通	体部外面縦位の平行叩き 下半ヘラ削り 内面横ナデ後縦位のナデ 輪積痕	左袖内 床面	30%

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 2	紡錘車	-	(2.1)	-	(12.4)	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	側面ナデ 上・下面欠損	覆土下層	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 5	紡錘車	[4.5]	(0.7)	[1.0]	(7.9)	粘板岩	側面研磨 上面欠損	床面	

第 340A 号竪穴建物跡 (第 153 ~ 157 図 PL31・32)

位置 調査区中央部の B 5j9 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 340B・340C・341 号竪穴建物跡, 第 128 号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

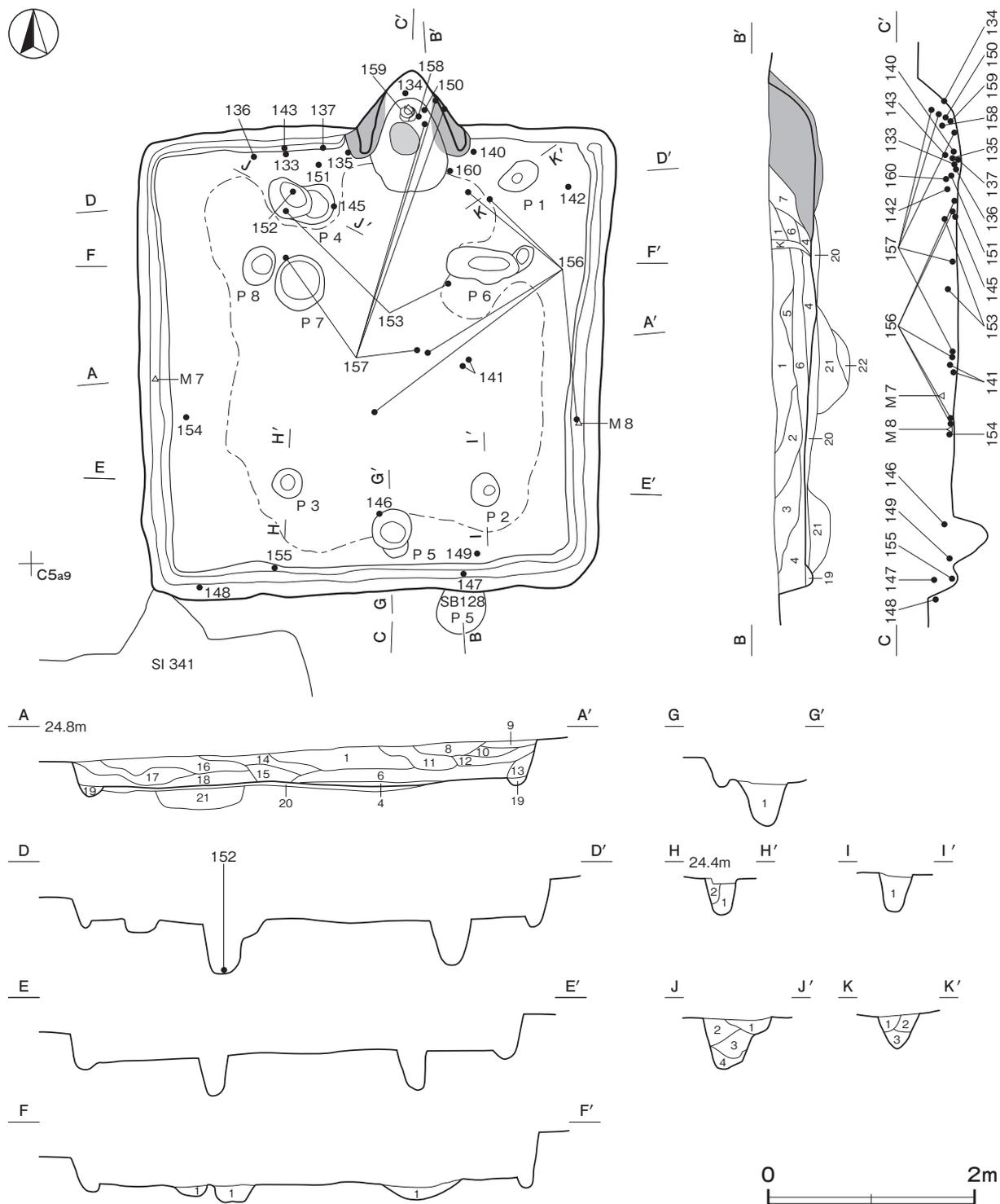
規模と形状 一辺 4.58 m ほどの方形で, 主軸方向は N - 1° - E である。壁は高さ 20 ~ 45cm で, 外傾している。

床 平坦な貼床で, 中央部が踏み固められている。貼床は, 8 cm ほど掘り下げ, ロームブロックを含む第 20 層を埋土して構築されている。壁溝が北東コーナー部の一部を除いて巡っている。

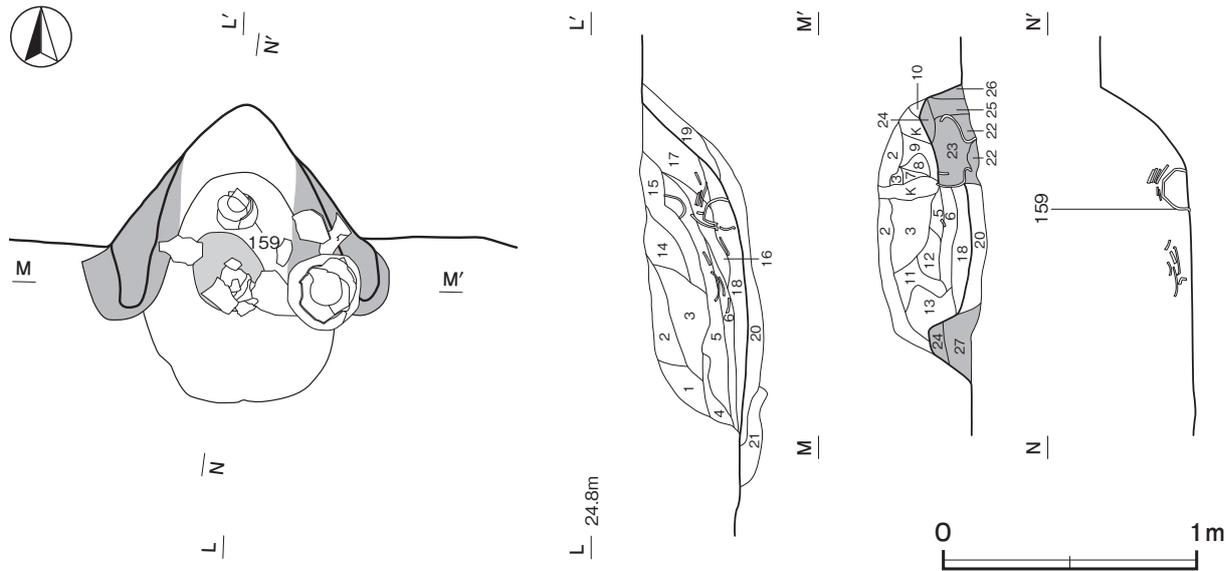
竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 118cm で, 燃焼部幅は 51cm である。袖部は地山の上に粘土ブロックや焼土粒子を含む第 22 ~ 27 層を積み上げて構築されている。右袖部は甕を逆位に据え, 補強材に利用している。火床部は楕円形に 7 cm 掘りくぼめ, 焼土ブロックを含む第 20・21 層を埋土している。火床面は第 20 層上面で, 火熱を受けて赤変している。支脚は小形甕を逆位に据え, その上に土器片を重ねた上に小形甕を被せ利用している。煙道部は壁外に 55cm 掘り込まれ, 火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|--------------------------|--------|---------------------------------|
| 1 灰褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 | 10 褐色 | 焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 11 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 12 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子少量, ロームブロック微量 |
| 5 黒褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子微量 | 13 暗褐色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 6 黒褐色 | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土ブロック微量 | 14 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量 |
| 7 灰褐色 | 粘土粒子少量, 焼土粒子微量 | 15 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| 8 にぶい褐色 | 粘土粒子中量, 焼土粒子少量 | | |



第153図 第340A号竪穴建物跡実測図(1)



第154図 第340A号竪穴建物跡実測図(2)

- | | |
|--|-----------------------------------|
| 16 暗赤褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量, ローム粒子微量 | 22 赤灰色 粘土ブロック多量 |
| 17 暗赤灰色 焼土ブロック・炭化粒子多量, 粘土ブロック中量, ロームブロック微量 | 23 灰褐色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量 |
| 18 極暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子多量 | 24 暗赤褐色 焼土粒子多量, 粘土ブロック少量 |
| 19 黒褐色 焼土ブロック・炭化物多量, 粘土ブロック少量 | 25 灰黄色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 20 灰褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量 | 26 黄褐色 粘土ブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 21 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子中量 | 27 褐色 粘土ブロック多量 |

ピット 8か所。P 1～P 4は深さ32～49cmで、配置から主柱穴である。P 5は深さ42cmで、南壁際に位置していることから、出入口口施設に伴うピットと考えられる。P 6～P 8は深さ10～20cmで、性格は不明である。

ピット土層解説(各ピット共通)

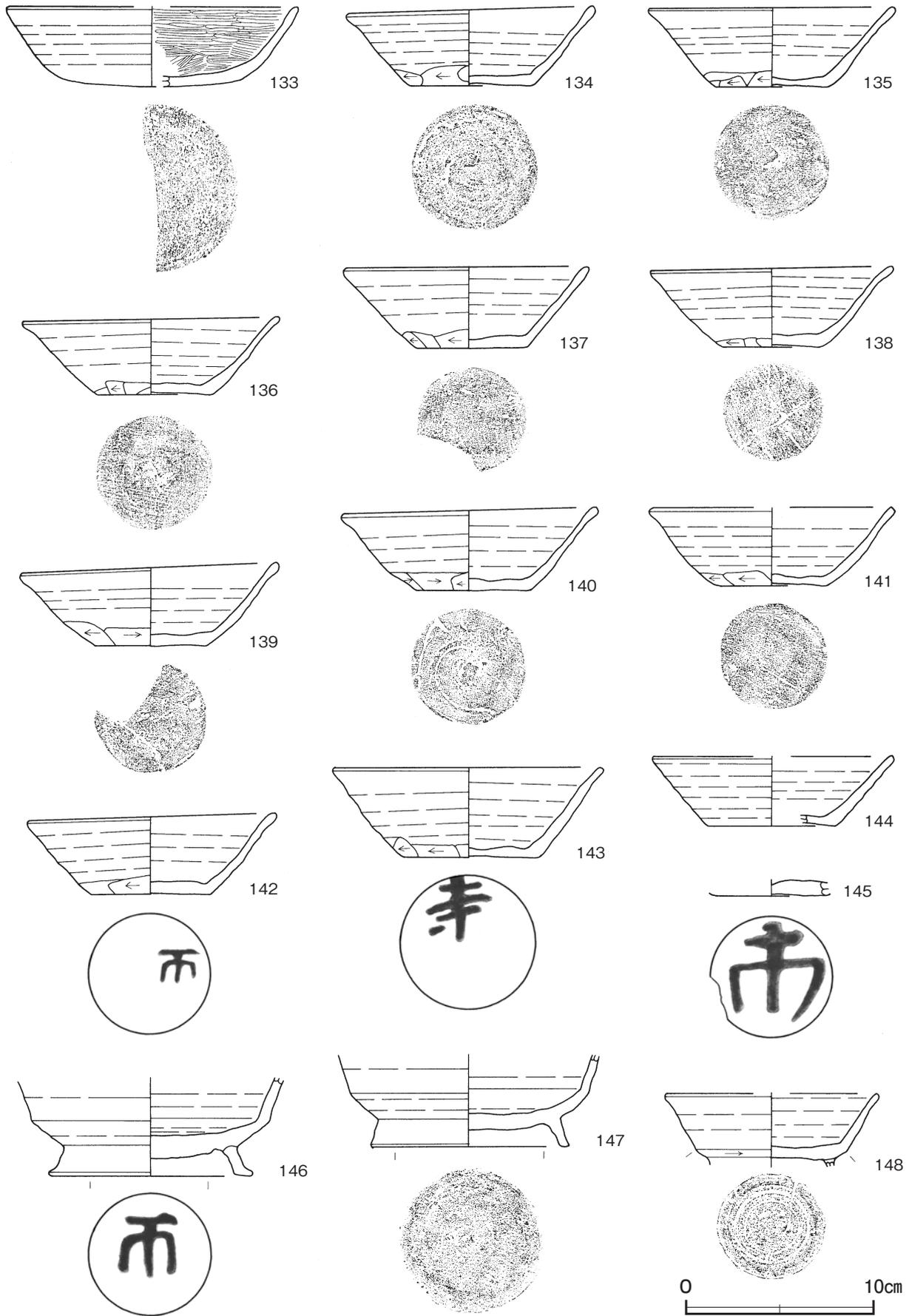
- | | |
|---------------------------|--|
| 1 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 灰褐色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック・炭化粒子少量, ロームブロック微量 |
| 2 灰褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量 | |
| 3 黒褐色 ロームブロック微量 | |

覆土 19層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。第20層は貼床の構築土である。第21・22層は床下土坑の覆土である。

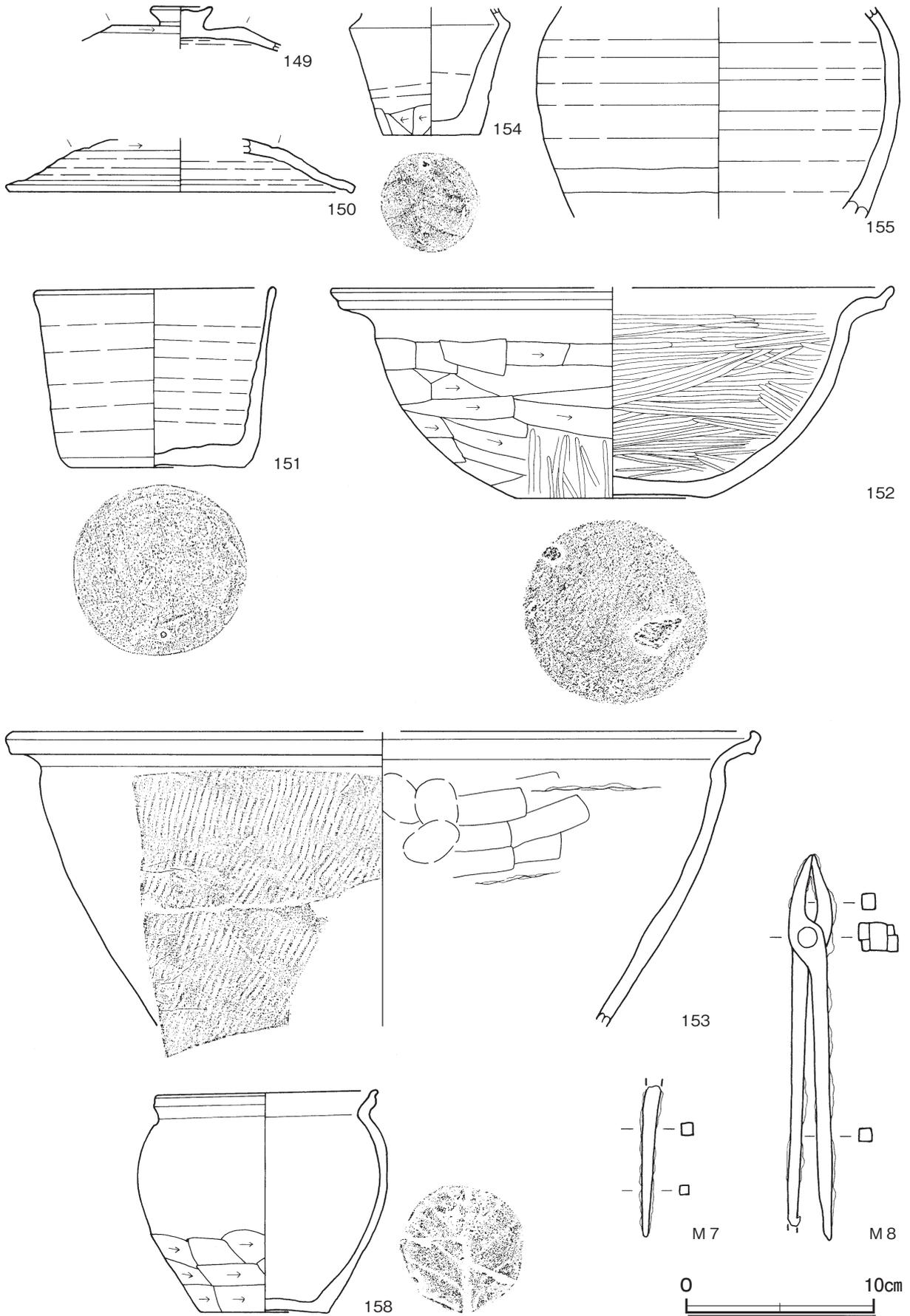
土層解説

- | | |
|-------------------------------------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 12 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 極暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量, ロームブロック微量 | 13 暗褐色 焼土粒子少量, ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化物・ローム粒子微量 | 14 極暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 極暗褐色 焼土ブロック・焼土粒子少量, ロームブロック微量 | 15 極暗褐色 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 焼土ブロック少量 | 16 黒褐色 焼土ブロック微量 |
| 6 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 17 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量 |
| 7 黒褐色 粘土ブロック少量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 18 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 8 極暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | 19 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 9 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 20 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 10 灰褐色 焼土ブロック少量 | 21 におい赤褐色 焼土ブロック・炭化物中量, ロームブロック微量 |
| 11 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 22 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子中量, ローム粒子少量 |

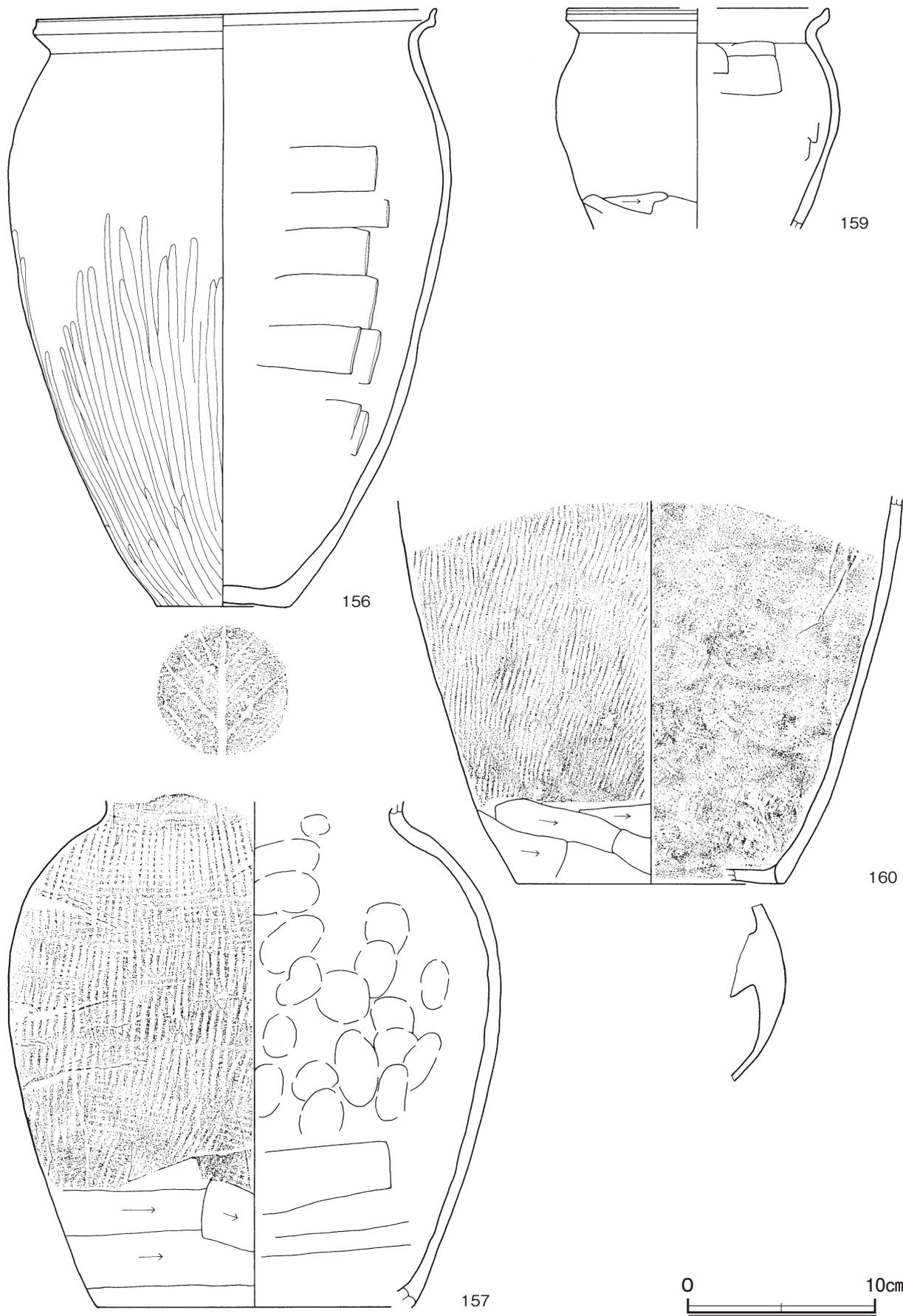
遺物出土状況 土師器片 446点(坏26, 高台付坏1, 小形甕2, 甕類417), 須恵器片 526点(坏227, 高台付坏17, 蓋40, 盤1, 高盤3, コップ形土器1, 鉢2, 短頸壺1, 長頸瓶1, 甕類225, 甗8), 石器1点(軽石), 金属製品2点(釘, 鉄鉗)が、主に全域の覆土中から出土している。M 8は東壁付近, 146・149・155は南壁付近, 154は西壁付近, 141は中央部, 133・135～137・143・145・151は北壁の左袖部付近, 140・156は竈



第 155 図 第 340A 号 竖穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 156 図 第 340A 号 豎穴建物跡出土遺物実測図 (2)



第 157 図 第 340A 号 竖穴建物跡出土遺物実測図 (3)

右袖部付近の床面からそれぞれ出土している。135は斜位、136は逆位の状態で出土し、133・143は正位の状態で重なって出土している。152はP4の底面から出土している。134・150・157～159は竈内から出土している。159は支脚に転用している。134は斜位の状態で出土している。142は北東コーナー部、153は北東部、M7は西壁付近、160は右袖前方部の覆土下層、147は南壁付近、148は南西コーナー部の覆土上層からそれぞれ出土している。138・139・144は覆土中からそれぞれ出土している。133・135～137・143・151は左袖部付近に並んだ状態で出土していることから、遺棄された可能性がある。

所見 床下から第340B・340C号竪穴建物跡の竈、柱穴、壁溝が確認されたことから、本跡は第340B号竪穴建物跡を北側に拡張して構築したものと考えられる。時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。

第340A号竪穴建物跡出土遺物観察表（第155～157図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
133	土師器	坏	[15.5]	4.3	[9.1]	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	内面ヘラ磨き 黒色処理	床面	40%
134	須恵器	坏	13.2	4.3	6.6	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す周縁ナデ	竈内	100% PL50 新治窯
135	須恵器	坏	13.0	4.3	6.2	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方の手持ちヘラ削り	床面	100% PL50 新治窯
136	須恵器	坏	13.6	4.2	6.1	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転糸切り痕を残す一方の手持ちヘラ削り	床面	95% PL50 新治窯
137	須恵器	坏	13.0	4.4	5.9	長石・石英・雲母	黒	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部不定方向のヘラ削り	床面	90% PL50 新治窯
138	須恵器	坏	12.8	4.4	5.2	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方の手持ちヘラ削り	覆土中	80% PL50 堀之内窯
139	須恵器	坏	13.6	4.5	5.9	長石・石英	褐灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方の手持ちヘラ削り	覆土中	60% 堀之内窯
140	須恵器	坏	13.4	4.6	6.0	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	床面	70% 新治窯
141	須恵器	坏	[12.8]	4.2	5.7	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方のヘラ削り	床面	50% 新治窯
142	須恵器	坏	13.2	4.4	6.3	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方の手持ちヘラ削り 底部外面墨書「市」	覆土下層	70% PL50 新治窯
143	須恵器	坏	14.2	4.9	7.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部ヘラ切り痕を残す一方の手持ちヘラ削り 墨書「寺」	床面	95% PL50 新治窯
144	須恵器	坏	[12.6]	3.8	[6.8]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部不定方向のヘラ削り	覆土中	20% 新治窯
145	須恵器	坏	-	(0.9)	6.1	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部一方のヘラ削り 墨書「市」	床面	5% PL56
146	須恵器	高台付坏	-	(5.3)	[10.7]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部回転ヘラ削り 底部外面墨書「市」	床面	50% PL50 新治窯
147	須恵器	高台付坏	-	(4.9)	10.3	長石・石英・雲母	灰褐	普通	底部回転ヘラ切り痕を残す回転ヘラ削り	覆土上層	40% 新治窯
148	須恵器	高台付坏	[11.2]	(3.9)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す回転ヘラ削り	覆土上層	20% 新治窯
149	須恵器	蓋	-	(2.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	30% 新治窯
150	須恵器	蓋	[18.4]	(2.8)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	天井部回転ヘラ削り	竈内	20% 新治窯 支脚補助
151	須恵器	コップ形土器	12.7	9.7	9.4	長石・石英	暗灰黄	普通	底部不定方向のヘラナデ	床面	80% PL53 堀之内窯
152	須恵器	鉢	[29.7]	11.4	10.0	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面横位のヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラ磨き	P4底面	60% 新治窯
153	須恵器	鉢	[36.9]	(15.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	体部外面縦位の平行叩き 内面ナデ 指頭痕 輪積痕	覆土下層	10% 新治窯
154	須恵器	短頸壺	-	(6.9)	5.3	長石・石英・雲母	褐灰	良好	体部下位ヘラ削り 底部不定方向のヘラ削り 自然釉	床面	70% PL53 堀之内窯
155	須恵器	長頸瓶	-	(11.4)	-	長石・石英	灰黄褐	良好	体部外面下半ヘラナデ 自然釉	床面	10%
156	土師器	甕	21.2	32.4	7.0	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面下半ヘラ磨き 内面横位のヘラナデ 炭化物付着	床面	70% PL54
157	須恵器	甕	-	(27.4)	[16.8]	長石・石英・雲母	赤褐	普通	体部外面縦位の平行叩き後、横位の平行叩き 下半ヘラ削り 内面ヘラナデ 指頭痕	床面	40% 新治窯
158	土師器	小形甕	11.7	12.0	6.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐	普通	体部外面下半ヘラ削り 底部木葉痕	竈内	95% PL53
159	土師器	小形甕	[13.9]	(12.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面下半ヘラ削り 内面ヘラナデ 二次焼成	竈内	20% 支脚転用
160	須恵器	甗	-	(21.3)	[14.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面縦位の平行叩き 下半ヘラ削り 内面当て具痕 輪積痕	覆土下層	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M7	釘	(8.3)	(1.0)	0.7	(13.6)	鉄	頭部欠損 断面四角形	覆土下層	PL58
M8	鉄鉗	21.0	2.3	1.6	(119.3)	鉄	把手部先端一部欠損 断面四角形	床面	PL58

第 340B 号竖穴建物跡 (第 158 図 PL32)

位置 調査区中央部の B 5j9 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 340C・341 号竖穴建物跡, 第 128 号掘立柱建物跡を掘り込み, 第 340A 号竖穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 4.62 m, 短軸 4.22 m の方形で, 主軸方向は N - 1° - E である。壁は高さ 35 cm で, 外傾している。

床 第 340A 号竖穴建物の床面と同じ高さである。壁溝が北壁の西寄り一部確認されていることから, 西壁から東壁にかけて第 340A 号竖穴建物と同じ壁が使用されていたと考えられる。

竈 北壁の西寄りに付設されている。火床部しか確認することができなかった。規模は長径 101 cm, 短径 60 cm の楕円形で深さ 15 cm ほど掘りくぼめ, 粘土ブロックや焼土ブロックを含む第 1 ~ 3 層を埋土している。火床面は確認できなかった。第 340C 号竖穴建物跡の竈を壊し, その上部に構築している。

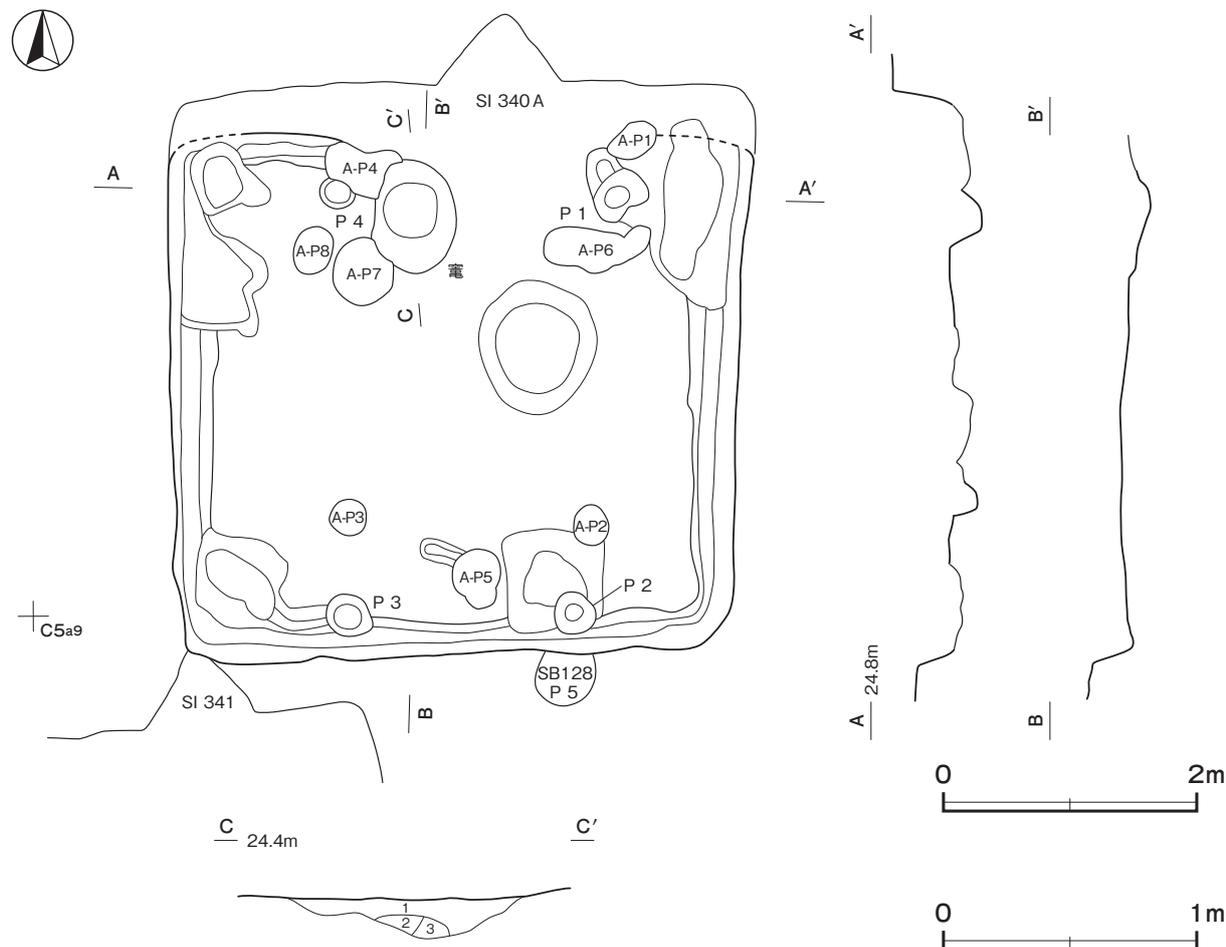
竈土層解説

- | | |
|-------------------------------------|---------------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子中量, 粘土ブロック・ローム粒子少量 | ク・炭化物少量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土ブロック | 3 極暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量 |

ピット 4 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 18 ~ 28 cm で, 配置から支柱穴である。

覆土 第 340A 号竖穴建物に掘り込まれているため, 覆土は遺存していない。

遺物出土状況 土師器片 6 点 (坏 4, 甕類 2), 須恵器片 3 点 (坏 2, 甕類 1) が, 主に火床部内から出土している。細片のため図示できない。



第 158 図 第 340B 号竖穴建物跡実測図

所見 第 340A 号竪穴建物の床下から本跡の竈，柱穴，壁溝が確認された。柱穴や壁溝の位置から本跡は第 340A 号竪穴建物の拡張前と考えられる。時期は建て替えていることから，同時期の 9 世紀中葉に比定できる。

第 340C 号竪穴建物跡 (第 159 図 PL32)

位置 調査区中央部の B 5j9 区，標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 341 号竪穴建物跡，第 128 号掘立柱建物跡を掘り込み，第 340A・340B 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 3.68 m，短軸 3.52 m の方形で，主軸方向は N - 1° - E である。壁は高さ 25cm で，外傾している。

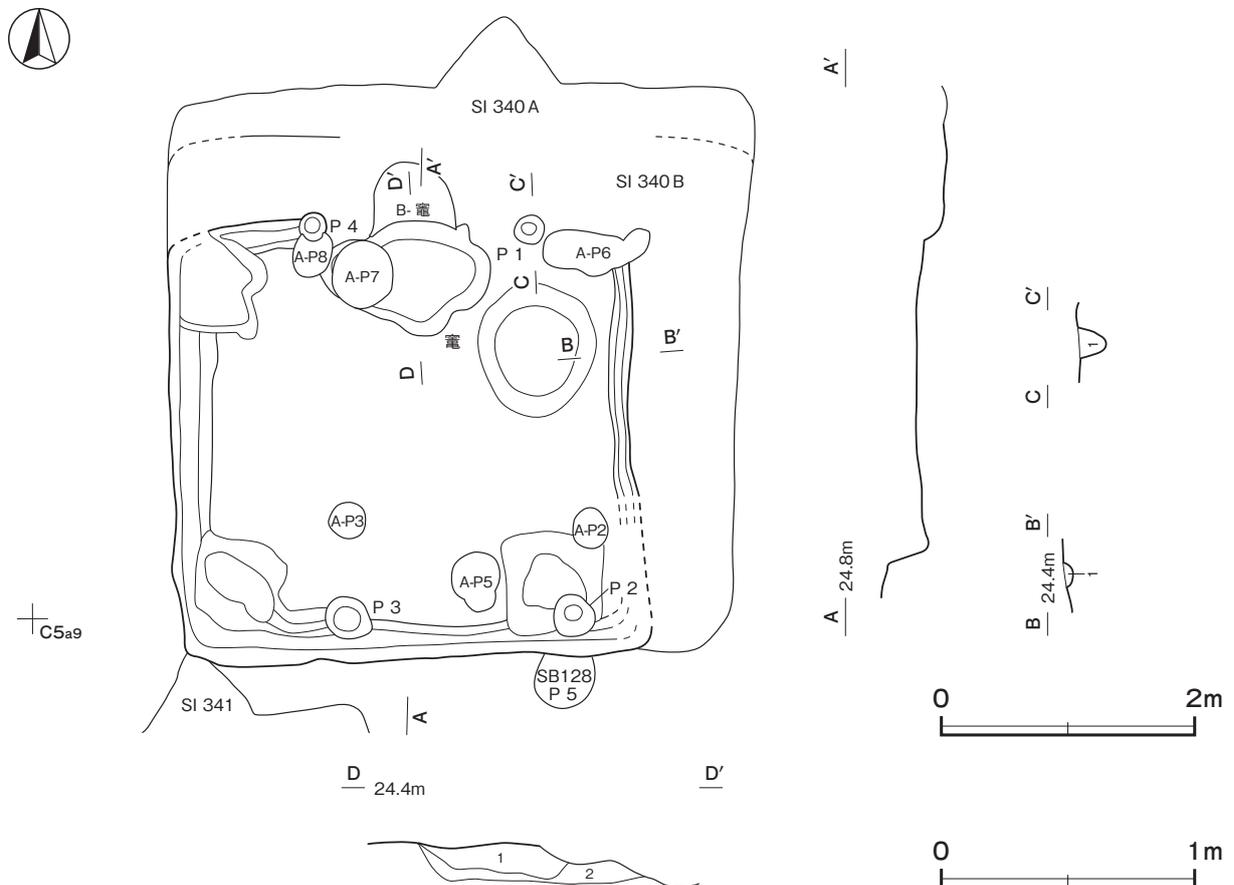
床 第 340A・340B 号竪穴建物の床面と同じ高さである。壁溝が北壁の西寄りと東壁で一部確認されていることから，西壁から南壁にかけて第 340A・340B 号竪穴建物と同じ壁が使用されていたと考えられる。

竈 北壁の西寄りに付設されている。第 340B 号竪穴建物の竈に上部を掘り込まれていることから，火床部の一部しか確認することができなかった。規模は，長径 120cm，短径 94cm の楕円形で深さ 14cm ほど掘りくぼめ，粘土ブロックや焼土ブロックを含む第 1・2 層を埋土している。火床面は確認できなかった。

竈土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量，焼土ブロック少量
- 2 極暗赤褐色 粘土ブロック・炭化粒子中量，焼土ブロック少量

ピット 4 か所。P 1～P 4 は深さ 18～28cm で，配置から支柱穴である。P 2・P 3 は第 340B 号竪穴建物と同じ柱穴を使用していたと考えられる。



第 159 図 第 340C 号竪穴建物跡実測図

ピット土層解説 (P1)

1 暗 褐 色 焼土粒子・炭化物少量, ロームブロック微量

覆土 第340A号竪穴建物に掘り込まれているため、壁溝の覆土しか確認できなかった。

土層解説

1 黒 褐 色 焼土ブロック・炭化粒子少量

所見 第340A号竪穴建物の床下から本跡の竈、柱穴、壁溝が確認されている。主柱穴や壁溝の位置から本跡は第340A・340B号竪穴建物跡の拡張前の竪穴建物跡と考えられる。時期は出土土器がなかったが、340A・340B号竪穴建物に建て替えられていることから、9世紀中葉以前に比定できる。

第341号竪穴建物跡 (第160～162図 PL33)

位置 調査区中央部のC5a9区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第129号掘立柱建物跡を掘り込み、第340A・340B・340C号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 一辺3.25mほどの方形で、主軸方向はN-5°-Wである。壁は高さ30～38cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。床は地山をそのまま利用している。壁溝が北東コーナー部の一部を除いて巡っている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで110cmで、燃焼部幅は62cmである。袖部は地山の上に粘土ブロックやローム粒子を含む第11～13層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に16cm掘りくぼめ、焼土ブロックや粘土ブロックを含む第14～17層を埋土している。火床面は第15層上面で、赤変していない。支脚は土器片を縦位に立て転用している。煙道部は壁外に58cm掘り込み、火床部からほぼ直立している。

竈土層解説

1 黒 褐 色 粘土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量	9 暗 褐 色 焼土ブロック・粘土粒子・炭化物少量
2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量	10 黄 褐 色 粘土粒子多量, 焼土粒子少量
3 橙 色 ロームブロック多量, 焼土粒子・粘土粒子少量	11 黄 橙 色 粘土粒子多量, ローム粒子中量
4 黒 褐 色 焼土ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量	12 黄 橙 色 粘土ブロック多量, ローム粒子中量
5 灰 褐 色 焼土ブロック中量, 粘土粒子少量	13 灰 褐 色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子中量
6 灰 褐 色 粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量	14 褐 灰 色 焼土ブロック・炭化物多量, 粘土ブロック中量
7 灰 黄 褐 色 粘土粒子少量, ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	15 暗 赤 褐 色 焼土ブロック・炭化物少量
8 暗 褐 色 焼土粒子・粘土粒子微量	16 黒 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
	17 暗 褐 色 ローム粒子中量

ピット 2か所。P1は深さ15cmで、南壁際に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P2は深さ17cmで、性格は不明である。

ピット土層解説 (ピット1)

1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量	3 黒 褐 色 ロームブロック微量
2 褐 色 ローム粒子多量	4 黒 褐 色 ローム粒子中量

覆土 8層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

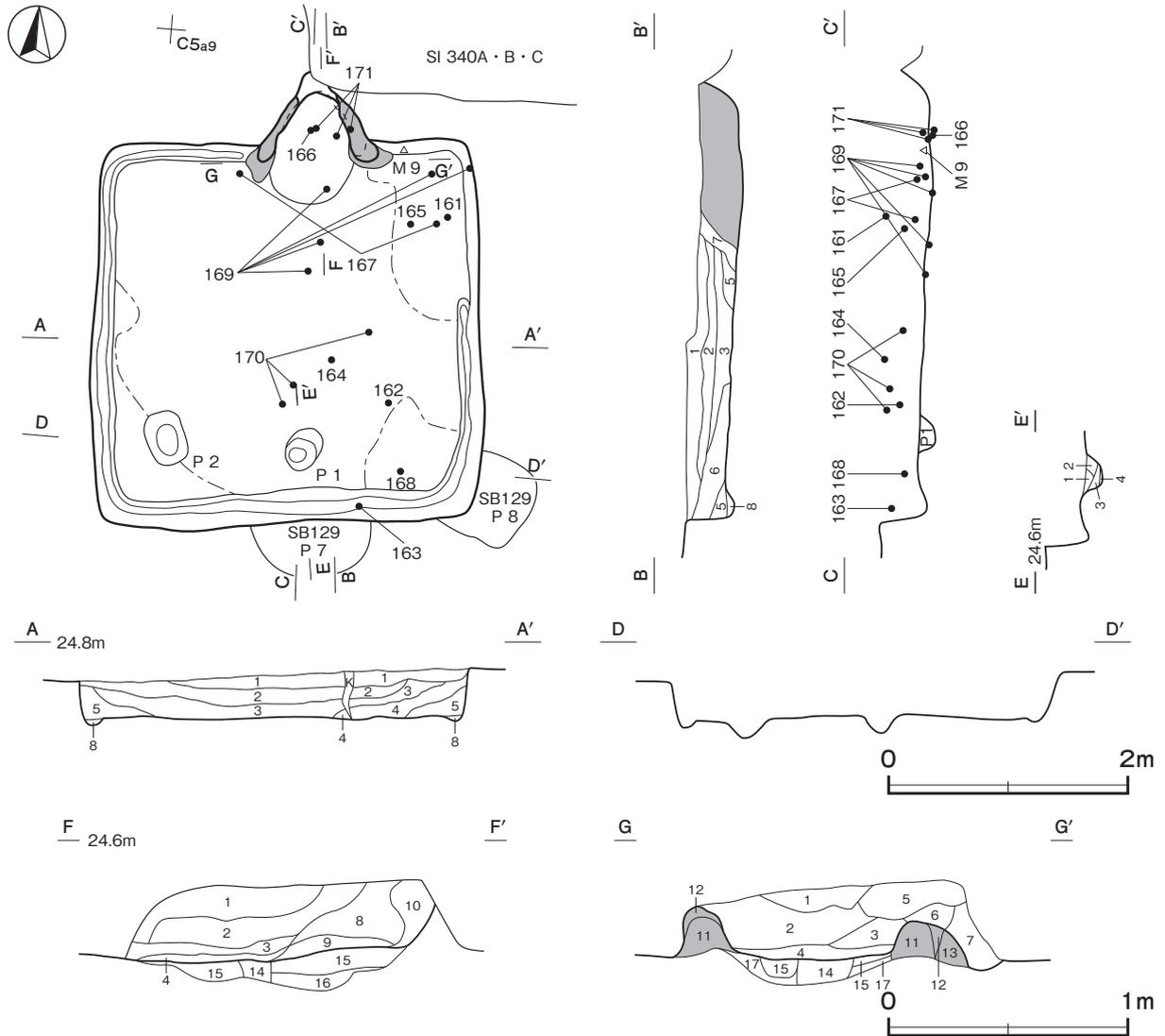
土層解説

1 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量	6 黒 褐 色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量
2 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック少量	7 黒 褐 色 粘土ブロック少量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量	8 極 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
4 黒 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量	
5 暗 褐 色 ロームブロック少量	

遺物出土状況 土師器片236点(坏1, 高台付坏1, 蓋3, 甕類231), 須恵器片200点(坏75, 高台付坏5,

蓋 24, 高盤 2, 長頸瓶 1, 甕類 91, 甌 2), 金属製品 2 点 (釘) が, 主に北東コーナー部付近の下層から出土している。169 は, 竈前方部と北東コーナー部の床面から出土した破片が接合している。M 9 は, 竈右袖の壁際の床面から出土している。166 と 171 は, 竈の火床面に縦位の状態で重なるように出土している。171 は, 火床面と右袖部から出土した破片が接合している。167 は左袖前方部, 168 は南東コーナー部の覆土下層, 161・165 は北東コーナー部, 162・163 は南東コーナー部, 164・170 は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。これらの遺物は, 埋没過程で廃棄された可能性がある。

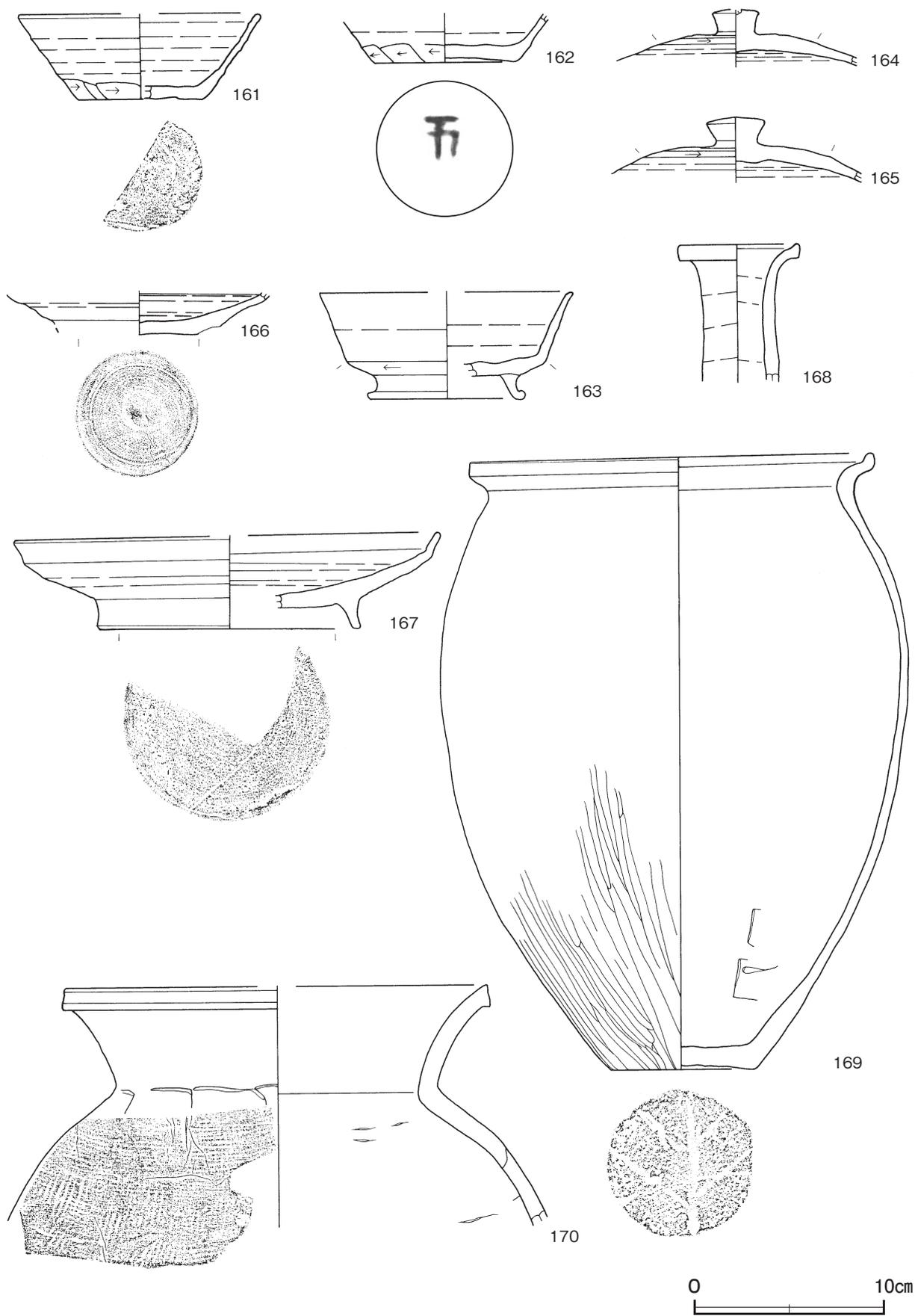
所見 時期は, 出土土器から 9 世紀前葉に比定できる。



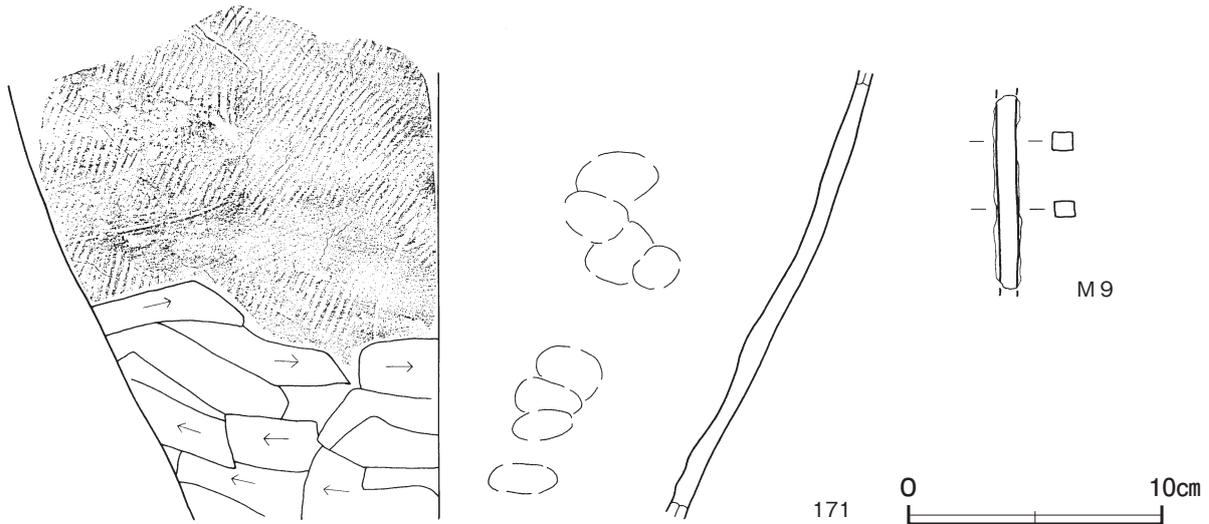
第 160 図 第 341 号竪穴建物跡実測図

第 341 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 161・162 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
161	須恵器	坏	[12.8]	4.6	6.6	長石・石英	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	覆土上層	30%
162	須恵器	坏	-	(2.7)	7.3	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方方向の手持ちヘラ削り 底部墨書「市」	覆土上層	30% PL56 新治窯
163	須恵器	高台付坏	[13.3]	5.7	[8.1]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	覆土上層	20% 堀之内窯
164	須恵器	蓋	-	(3.1)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土上層	20% 新治窯
165	須恵器	蓋	-	(3.5)	-	長石・石英・針状物質	灰黄	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土上層	20% 木葉下窯



第 161 图 第 341 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (1)



第 162 図 第 341 号 竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
166	須恵器	盤	-	(2.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ切り痕を残す回転ヘラ削り 内面	火床面	20% 新治窯
167	須恵器	盤	[22.4]	5.2	13.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り痕を残す回転ヘラ削り	覆土下層	50% 新治窯
168	須恵器	水瓶	6.1	(7.3)	-	長石・石英	黄灰	普通	頸部外・内面自然釉	覆土下層	10% PL53 東海系
169	土師器	甕	21.2	33.0	7.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面下半ヘラ磨き 内面ヘラ当て痕底部木葉痕	床面	70% PL55
170	須恵器	甕	[22.2]	(12.9)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	頸部外面ヘラ当て痕 ヘラナデ 体部外面縦位の平行叩き後、横位の平行叩き 内面輪積痕	覆土上層	10% 新治窯
171	須恵器	甕	-	(18.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄灰	普通	体部外面斜位の平行叩き 下位ヘラ削り 内面指頭痕	火床面	20% 新治窯

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 9	釘	(7.7)	(0.8)	(0.7)	(22.9)	鉄	両端部欠損 断面四角形	床面	PL58

第 342 号 竪穴建物跡 (第 163・164 図 PL34)

位置 調査区中央部の C 5c9 区, 標高 25 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 129 号 掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 3.86 m, 短軸 3.68 m の方形で, 主軸方向は N - 2° - W である。壁は高さ 34 ~ 50cm で, ほぼ直立している。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。床は地山をそのまま利用している。壁溝が北西コーナー部を除いて巡っている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 132cm で, 燃焼部幅は 60cm である。袖部は地山の上に粘土ブロックを含む第 15 層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に 16cm 掘りくぼめ, ロームブロックや炭化粒子を含む第 17・18 層を埋土している。火床面は第 17・18 層上面で火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外に 30cm 掘り込まれ, 一部天井部が残る。火床部から外傾している。

竈土層解説

1	暗褐色	焼土粒子微量	6	褐色	焼土粒子中量, 粘土ブロック少量
2	暗褐色	焼土粒子少量, ロームブロック微量	7	暗褐色	粘土ブロック・焼土粒子少量
3	褐色	ロームブロック・焼土粒子中量, 粘土粒子少量	8	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化物中量
4	褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	9	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
5	褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量	10	褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量

- | | | | |
|--------|-------------------------------|--------|----------------------------------|
| 11 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土粒子微量 | 15 灰褐色 | 粘土ブロック多量, 炭化粒子微量 |
| 12 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 16 暗褐色 | 粘土ブロック少量, ロームブロック微量 |
| 13 灰褐色 | 粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 17 灰褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 14 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック微量 | 18 褐色 | 炭化粒子中量, ロームブロック少量 |

ピット P 1 は深さ 15cm で、南壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

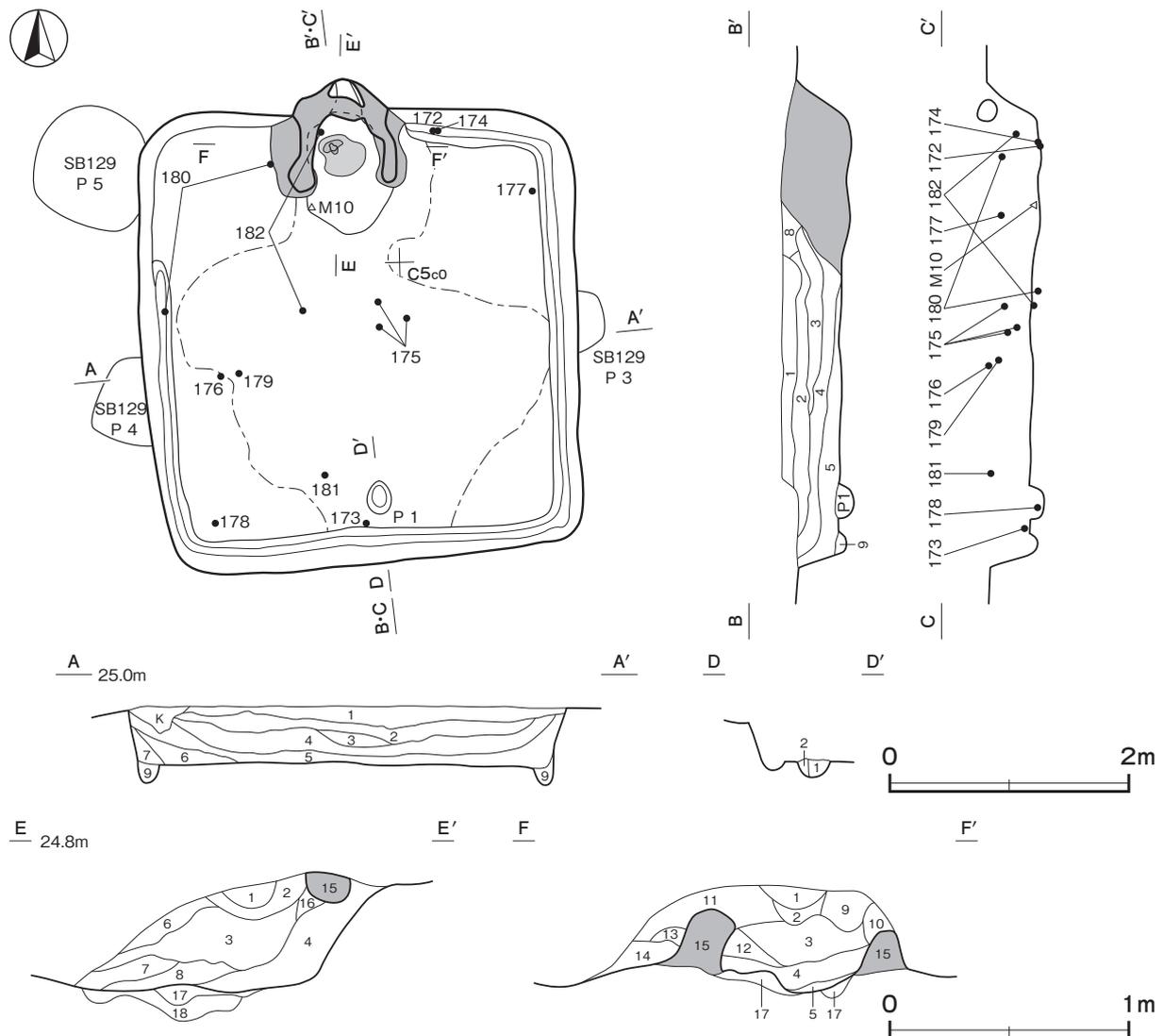
- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 2 暗褐色 | ロームブロック中量 |
|-------|-----------|-------|-----------|

覆土 9層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。

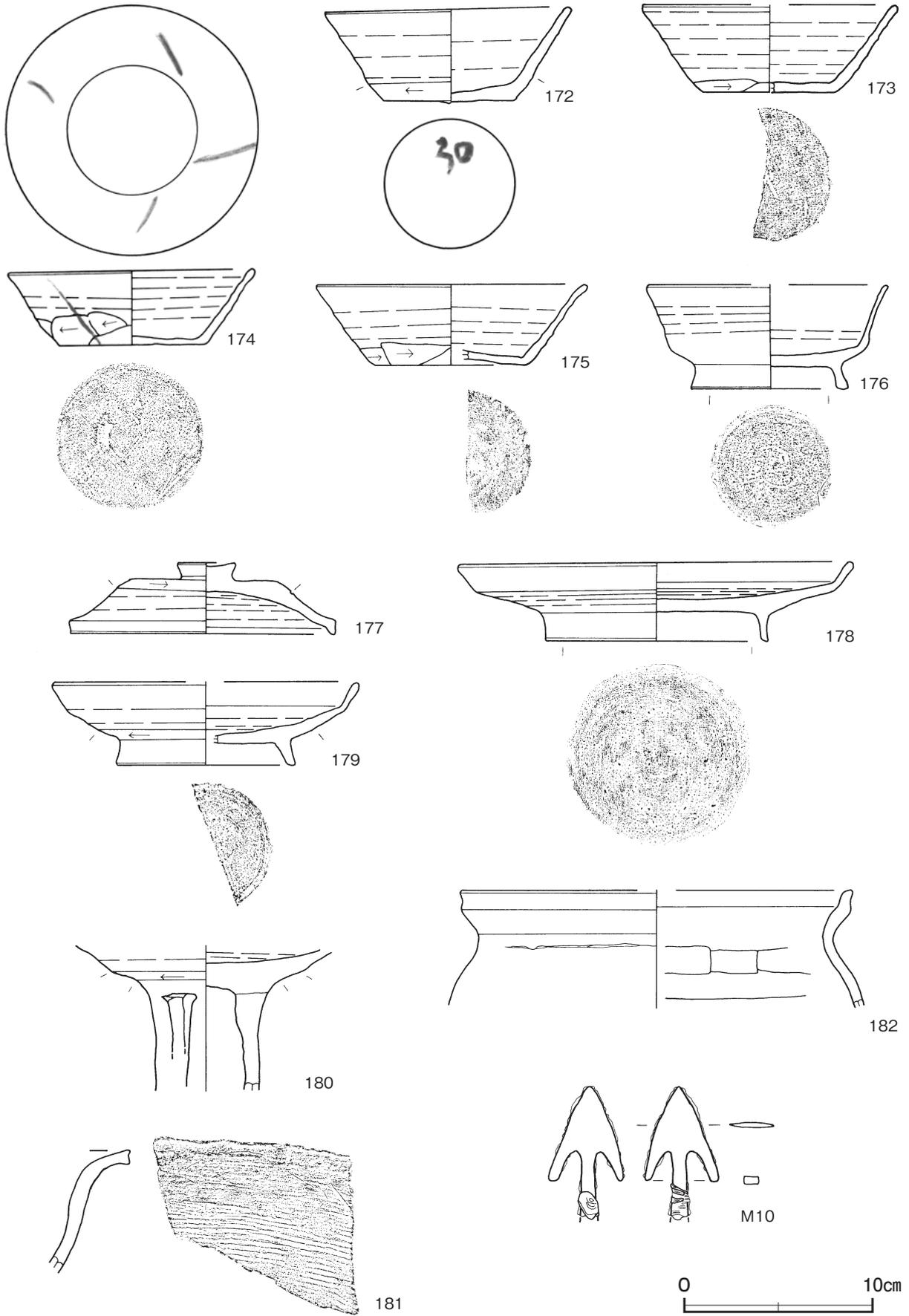
土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|--------|-----------|
| 1 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量, ロームブロック微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 6 極暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量, ロームブロック少量 | 7 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 8 黒色 | ロームブロック微量 |
| | | 9 黒褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片 315 点 (坏 9, 高台付坏 1, 甕類 305), 須恵器片 335 点 (坏 116, 高台付坏 9, 蓋 30, 盤 5, 高盤 4, 鉢 1, 水瓶 1, 甕類 169), 金属製品 1 点 (鎌) が、主に全域の覆土上層から出土している。172・174 は竈東側の北壁付近, 173 は南壁付近, 178 は南西コーナー部, 180 は西壁付近, 182 は中央部,



第 163 図 第 342 号 竪穴建物跡実測図



第 164 図 第 342 号 竖穴建物出土遺物実測図

M10は左袖前方部の床面からそれぞれ出土している。180は西壁付近の床面と左袖部付近の覆土上層の破片が、182は中央部の床面と竈内から出土した破片がそれぞれ接合している。175は中央部、177は北東コーナー部、176・179は西壁付近、181は南壁付近の覆土上層からそれぞれ出土している。これらの遺物は、埋没過程で廃棄された可能性がある。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉に比定できる。

第342号竪穴建物出土遺物観察表（第164図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
172	須恵器	坏	13.0	5.2	6.9	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り 底部墨書「弘」	床面	95% PL51 新治窯
173	須恵器	坏	[13.3]	4.7	6.8	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	床面	30% 新治窯
174	須恵器	坏	13.0	4.1	7.7	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部不定方向の手持ちヘラ削り 外・内面に火襷	床面	90% PL51 新治窯
175	須恵器	坏	14.2	4.4	[8.0]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部不定方向の手持ちヘラ削り	覆土上層	70% 新治窯
176	須恵器	高台付坏	[12.2]	5.6	8.3	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	底部回転ヘラ削り	覆土上層	60% 新治窯
177	須恵器	蓋	14.0	3.8	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土上層	90% PL52 新治窯
178	須恵器	盤	20.8	4.3	11.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部ロクロナデ 底部回転ヘラ削り	床面	80% PL53 新治窯
179	須恵器	盤	[16.1]	4.5	[9.2]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	覆土上層	40% 新治窯
180	須恵器	高盤	-	(7.8)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	脚部透かし3カ所	床面・覆土上層	40% PL53 新治窯
181	須恵器	鉢	-	(6.6)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部外面横位の平行叩き 内面指ナデ	覆土上層	5%
182	土師器	甕	[20.7]	(6.4)	-	長石・石英・雲母	赤褐	普通	頸部ナデ 輪積痕 内面ヘラナデ	床面・竈内	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M10	鉢	(7.2)	4.0	0.4	(14.2)	鉄	腸袂三角鉢 鉢身断面両丸 頸部断面長方形 口巻遺存	床面	PL58

第343A号竪穴建物跡（第165～167図 PL35）

位置 調査区中央部のC 5d9区、標高25mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第343B号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

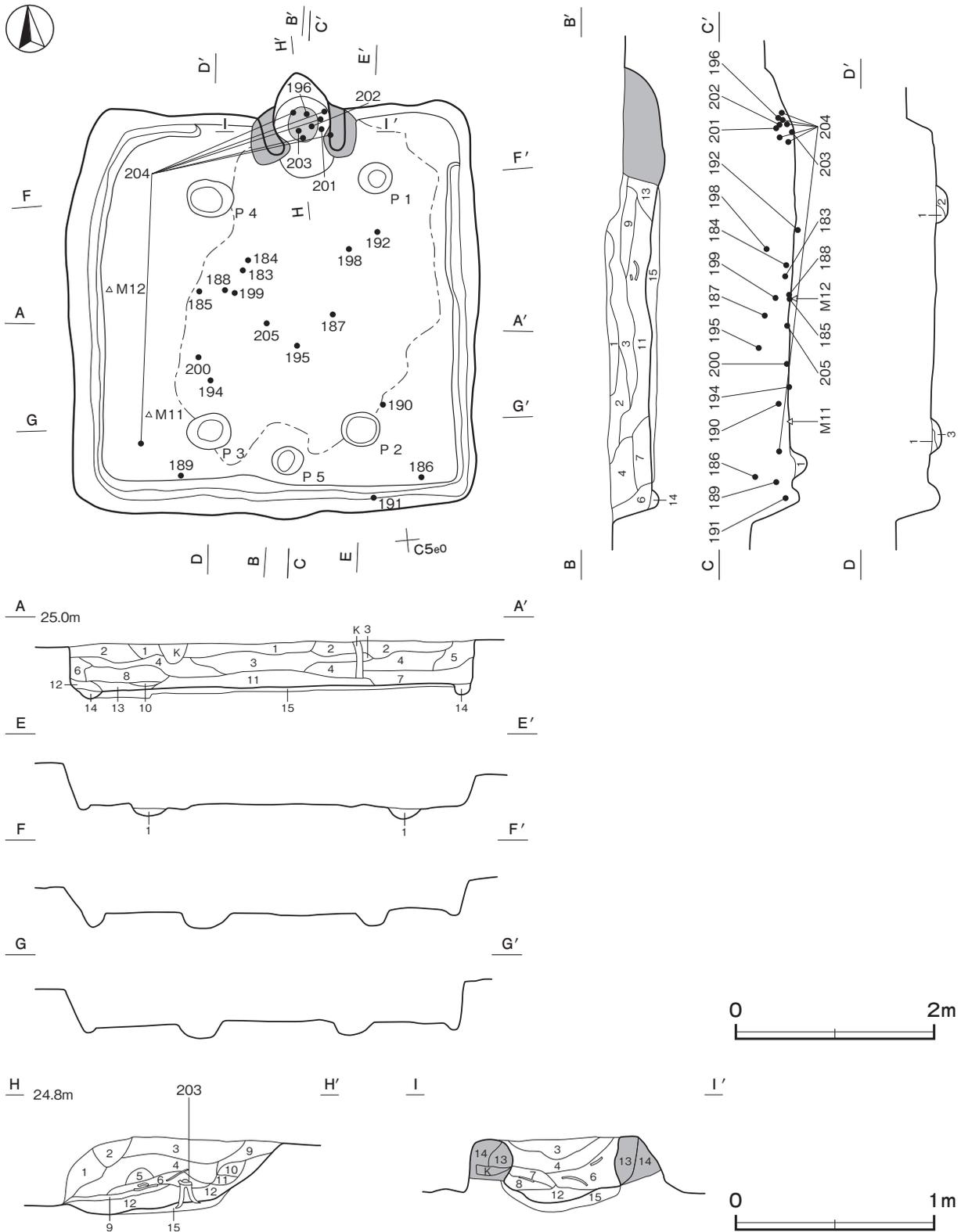
規模と形状 一辺4.15mほどの方形で、主軸方向はN-4°-Eである。壁は高さ27～45cmで、外傾している。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は、全体を11cmほど掘り下げ、焼土ブロックやローム粒子を含む第15層を埋土して構築されている。壁溝が北東コーナー部を除いて巡っている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで116cmで、燃焼部幅は58cmである。袖部は地山の上に粘土ブロックや焼土ブロックを含む第13・14層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に6cm掘りくぼめ、ロームブロックや粘土ブロックを含む第15層を埋土している。火床面は第15層上面で火熱を受けて赤変している。支脚は第15層上面に設置されている。煙道部は壁外に40cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------|---------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック微量 | 8 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 9 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化物・ローム粒子少量 |
| 3 灰褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 11 暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子多量 |
| 5 灰褐色 | 粘土ブロック中量 | 12 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 6 暗赤褐色 | 炭化粒子多量、焼土ブロック中量、ローム粒子微量 | 13 暗赤褐色 | 粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 灰褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量 | 14 褐灰色 | 粘土粒子多量、焼土粒子少量 |
| | | 15 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 |

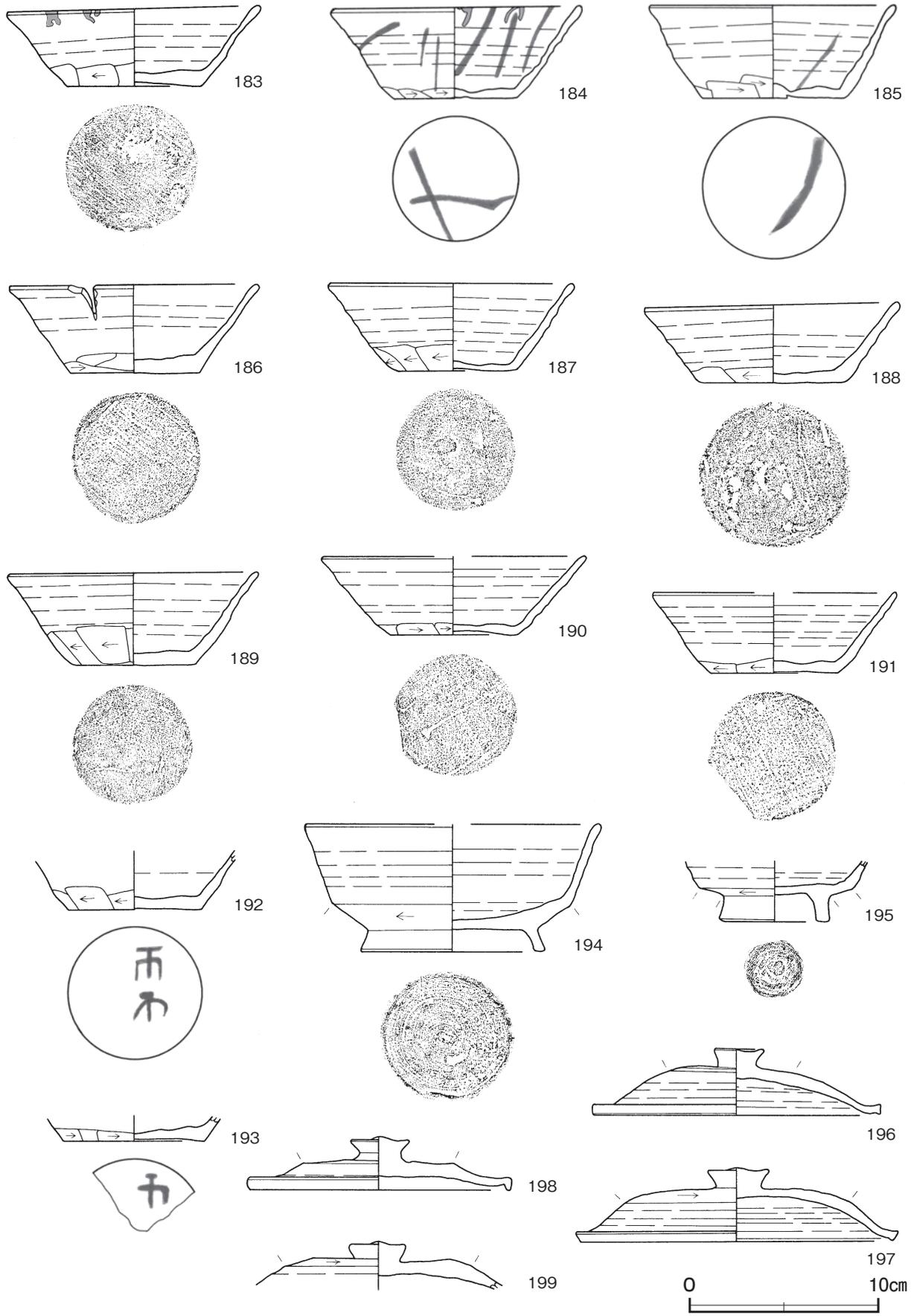


第 165 図 第 343A 号竪穴建物跡実測図

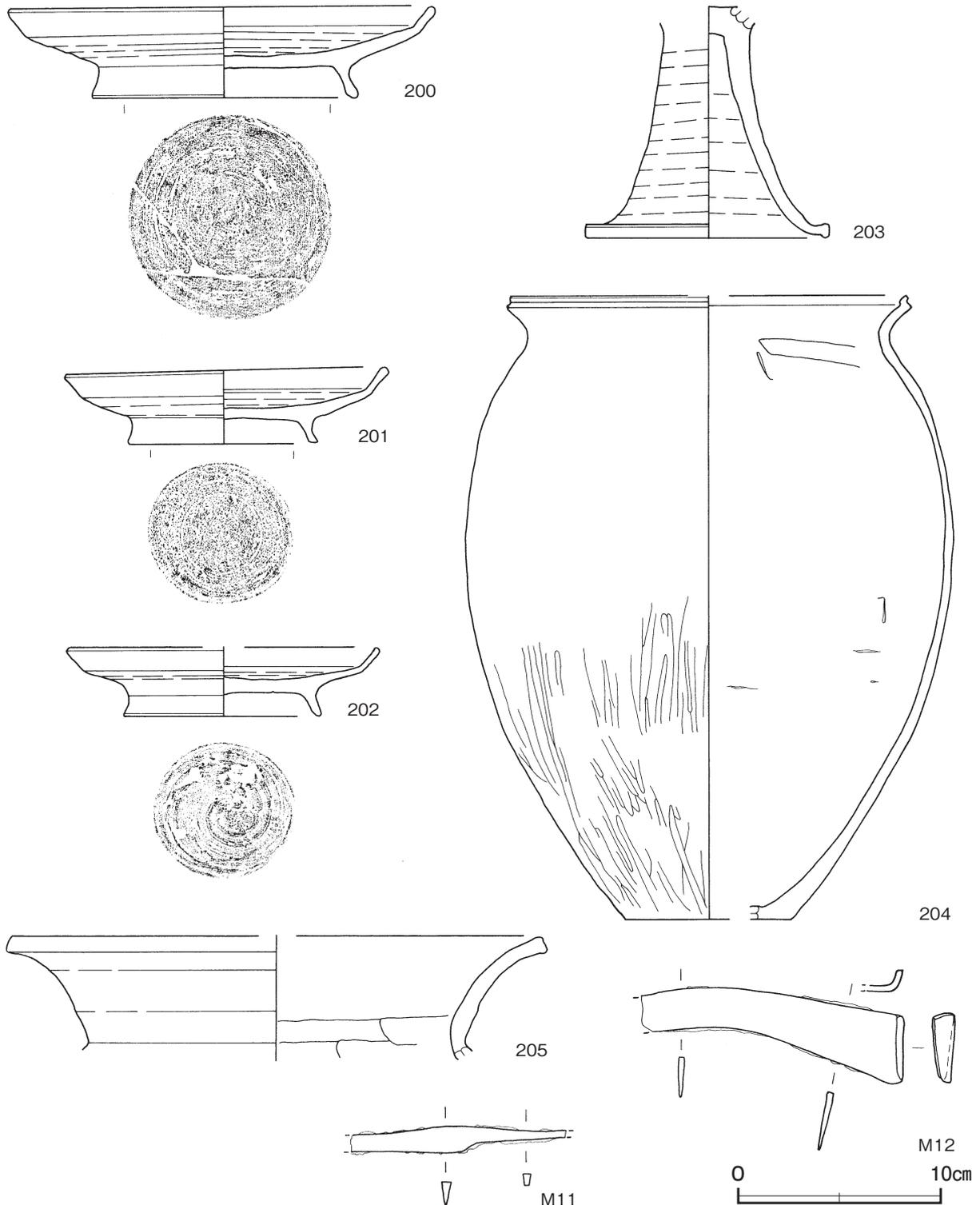
ピット 5か所。P 1～P 4は深さ 13～16cmで、配置から主柱穴である。P 5は深さ 16cmで南壁際に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 灰褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量



第 166 图 第 343A 号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 167 図 第 343A 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

覆土 14層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されたものと考えられる。第 15 層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | |
|----------------------------------|--------------------------|
| 1 暗 褐 色 焼土ブロック・炭化粒子少量, ロームブロック微量 | 5 黒 褐 色 粘土ブロック少量 |
| 2 暗 褐 色 焼土粒子微量 | 6 にぶい黄褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 3 黒 褐 色 焼土ブロック少量, ロームブロック微量 | 7 褐 色 ローム粒子中量 |
| 4 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土粒子微量 | 8 暗 褐 色 炭化物少量, 焼土粒子微量 |

9	極暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量	13	灰褐色	焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量
10	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量	14	暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量
11	褐色	ロームブロック中量	15	黒褐色	粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
12	暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量			

遺物出土状況 土師器片 380 点 (坏 8, 甕類 372), 須恵器片 362 点 (坏 145, 高台付坏 9, 蓋 26, 盤 3, 高盤 7, 甕類 171, 甗 1), 土製品 1 点 (支脚), 金属製品 2 点 (刀子, 鎌) が主に全域の覆土上層から下層にかけて出土している。183 ~ 185・188・192・194・200・205 は中央部, M12 は西壁付近, 191 は南東コーナ部, M11 は南西コーナ部の床面からそれぞれ出土している。196・201 ~ 204 は竈内から出土している。203 は火床面に正位の状態で, 支脚に利用されている。199 は中央部, 190 は南東部, 189 は南西コーナ部の覆土下層からそれぞれ出土している。187・195・198 は中央部, 186 は南東コーナ部の覆土上層からそれぞれ出土している。193・197 は覆土中から出土している。これらの遺物は, 埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から 9 世紀前葉に比定できる。

第 343A 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 166・167 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
183	須恵器	坏	13.2	4.3	7.0	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方の手持ちヘラ削り 油煙付着	床面	100% PL52 新治窯
184	須恵器	坏	13.0	4.9	6.6	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方の手持ちヘラ削り 油煙付着 内・外面・底部に火襷	床面	80% PL52 新治窯
185	須恵器	坏	13.0	5.0	7.5	長石・石英・雲母	黒褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方の手持ちヘラ削り 内面・底部外面に火襷	床面	80% PL52 新治窯
186	須恵器	坏	13.0	4.7	6.8	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方の手持ちヘラ削り 口縁部に V 字状の切り込み	覆土上層	70% PL52 新治窯
187	須恵器	坏	12.9	4.8	6.2	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部不定方向の手持ちヘラ削り	覆土上層	90% PL52 新治窯
188	須恵器	坏	13.4	4.3	7.8	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部ヘラ切り痕を残す一方の手持ちヘラ削り	床面	90% PL52 新治窯
189	須恵器	坏	13.2	5.0	6.3	長石・石英・雲母	黄灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部不定方向の手持ちヘラ削り	覆土下層	50% 新治窯
190	須恵器	坏	[13.8]	4.2	6.5	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方の手持ちヘラ削り	覆土下層	40% 新治窯
191	須恵器	坏	[12.7]	4.3	6.8	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方の手持ちヘラ削り	床面	50% 新治窯
192	須恵器	坏	-	(3.2)	7.0	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方の手持ちヘラ削り 底部外面墨書「巾巾」	床面	30% PL56 新治窯
193	須恵器	坏	-	(1.4)	[7.4]	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方の手持ちヘラ削り 底部外面墨書「巾巾」	覆土中	10% 新治窯
194	須恵器	高台付坏	[15.5]	6.8	9.5	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	床面	60% PL52 新治窯
195	須恵器	高台付坏	-	(3.3)	5.6	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り 二次焼成	覆土上層	40% 新治窯
196	須恵器	蓋	15.1	3.6	-	長石・石英	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り	竈内	70% PL52
197	須恵器	蓋	[16.6]	3.9	-	長石・石英	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	50%
198	須恵器	蓋	[13.7]	2.9	-	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土上層	30% 新治窯
199	須恵器	蓋	-	(2.6)	-	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	30% 新治窯
200	須恵器	盤	20.7	4.6	12.8	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	底部回転ヘラ削り 二次焼成	床面	95% PL53 新治窯
201	須恵器	盤	15.8	3.9	9.1	長石・石英	暗灰黄	良好	底部回転ヘラ削り	竈内	70% PL53
202	須恵器	盤	[15.2]	3.5	9.6	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	底部回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	竈内	50% 新治窯
203	須恵器	高盤	-	(11.6)	11.8	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	脚部外・内面ロクロナデ	火床面	40% 新治窯 支脚転用
204	土師器	甕	[19.5]	31.2	[8.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面下半ヘラ磨き 内面ヘラナデ ヘラ当て痕 底部木葉痕	竈内	20%
205	須恵器	甕	[26.2]	(6.3)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	内面ヘラナデ	床面	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M11	刀子	(10.7)	1.2	0.5	(12.8)	鉄	刃部先端部欠損 茎部欠損 刃部断面三角 片削	床面	PL58
M12	鎌	(13.0)	3.7	0.3	(42.1)	鉄	刃部先端部欠損 刃部断面三角	床面	PL58

第 343B 号 竪穴建物跡 (第 168 図 PL35)

位置 調査区中央部の C 5 d9 区, 標高 25 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 343A 号 竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 第 343A 号 竪穴建物に掘り込まれていることから東西軸は 2.68 m で, 南北軸は 2.10 m しか確認できなかった。方形又は長方形と推定できる。主軸方向は N - 4° - E である。

床 平坦で, 地山をそのまま利用している。壁溝が北壁部, 南東コーナー部, 南西コーナー部を除いて巡っている。

竈 北壁の中央部に付設されている。第 343A 号 竪穴建物に掘り込まれていることから掘方しか確認できなかった。掘方は長径 63cm, 短径 56cm の楕円形で, 14cm 掘りくぼめ, ロームブロックや焼土ブロック・粘土ブロックを含む第 1・2 層を埋土している。

竈土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量

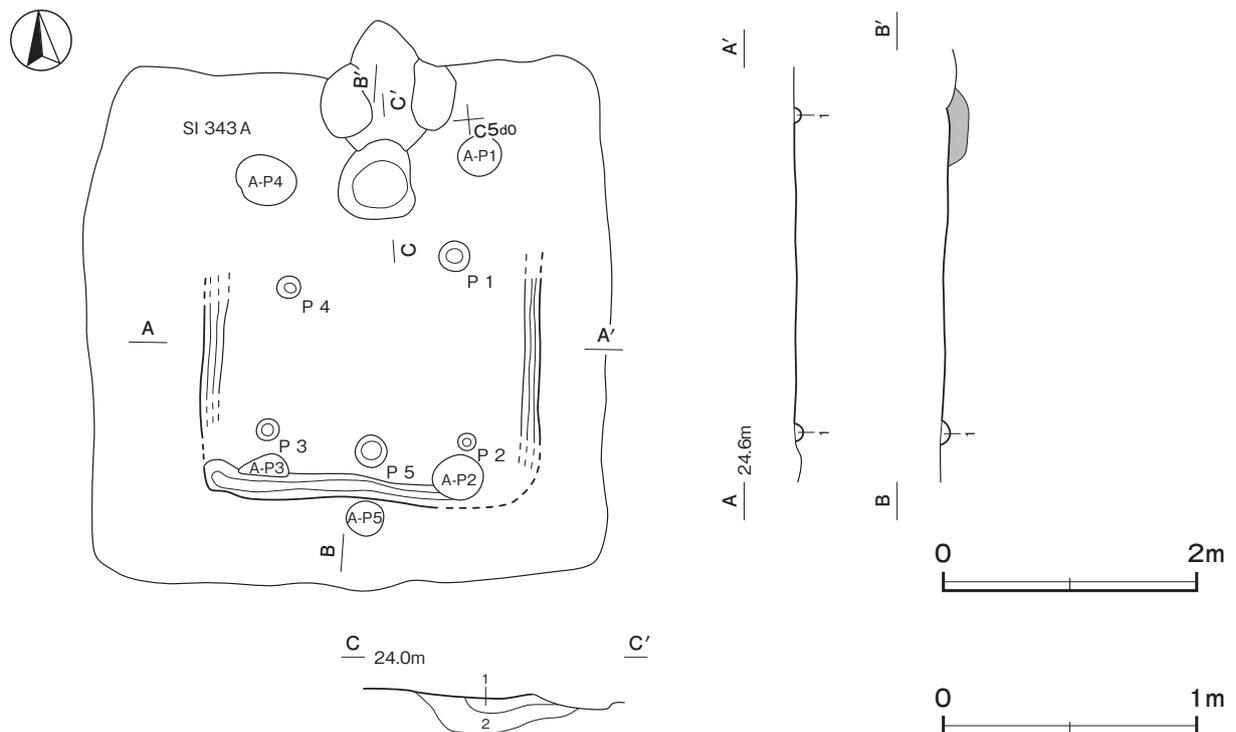
ピット 5 か所。第 343A 号 竪穴建物に柱穴の大部分は掘り込まれており, ほぼ底面しか確認できなかった。P 1 ~ P 4 は深さ 4 ~ 13cm で, 配置から主柱穴である。P 5 は深さ 9cm で南壁際に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 第 343A 号 竪穴建物に掘り込まれているため壁溝の土層しか確認できなかった。

土層解説

- 1 極暗褐色 焼土粒子少量, 炭化物微量

所見 土器は出土していないが, 第 343A 号 竪穴建物の床下から竈や壁溝が確認されたことや主軸方向が同じことから本跡の四方の壁を拡張して第 343A 号 竪穴建物を構築したものと考えられる。時期は, 重複関係から 9 世紀前葉に比定できる。



第 168 図 第 343B 号 竪穴建物跡実測図

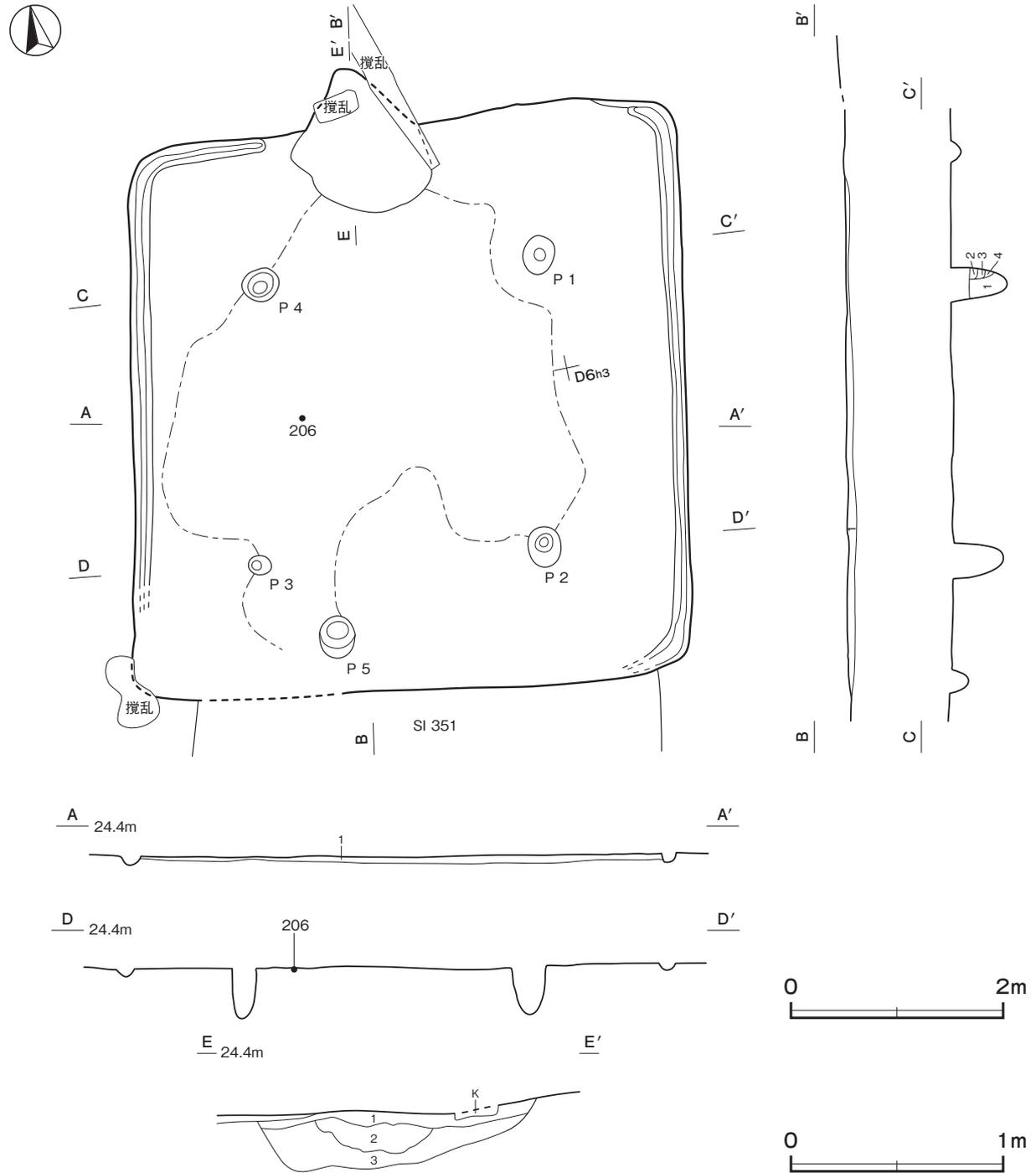
第 350A 号竖穴建物跡 (第 169・170 図 PL36)

位置 調査区中央部の D 6 g2 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 350B・351 号竖穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 5.54 m, 短軸 5.20 m の方形で, 主軸方向は $N - 10^\circ - E$ である。壁の立ち上がりは確認できなかった。

床 平坦な貼床で, 中央部が踏み固められている。貼床は, 全体を 4 cm ほど掘り下げ, 焼土ブロックや炭化粒子を含む第 1 層を埋土して構築されている。壁溝が北壁の一部と南壁を除いて巡っている。



第 169 図 第 350A 号竖穴建物跡実測図

竈 北壁のやや西寄りに付設されているが、上部が削平されていることから掘方しか確認できなかった。掘方は長軸 140cm、短軸 126cmほどの不整形で 28cm掘りくぼめ、焼土ブロックや粘土粒子を含む第 1～3 層を埋土している。掘方は壁外に 52cm掘り込まれている。

竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 粘土粒子多量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ 41～62cmで、配置から支柱穴である。P 5は深さ 21cmで、南壁際に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説 (P 1)

- 1 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量
- 2 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック微量
- 3 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子微量
- 4 黒褐色 粘土ブロック多量、焼土ブロック微量

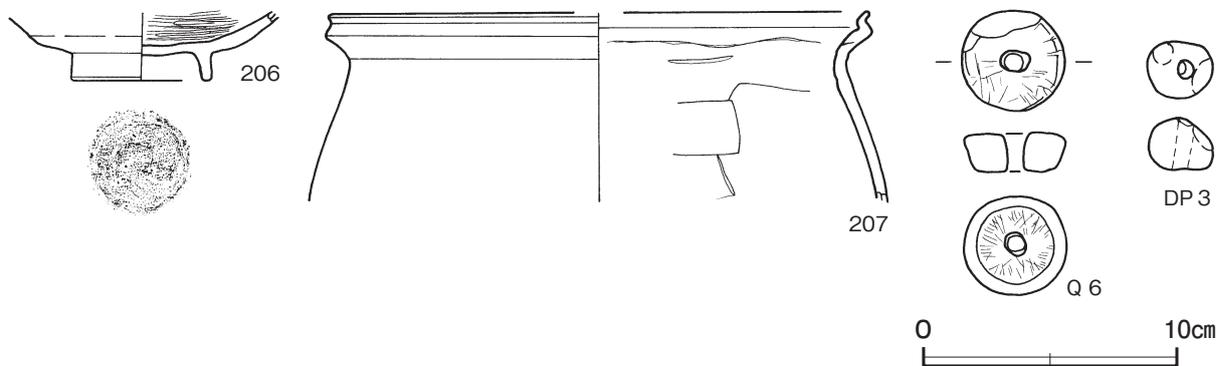
覆土 上面が削平されていることから覆土は確認できなかった。第 1 層は貼床の構築土である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 330 点 (坏 57, 高台付坏 5, 蓋 1, 皿 1, 甕類 266), 須恵器片 249 点 (坏 64, 高台付坏 2, 蓋 5, 甕類 178), 土製品 1 点 (土玉), 石器 1 点 (紡錘車) が柱穴内と貼床の構築土から出土している。206 は中央部, DP 3・Q 6 は南東部の貼床の構築土からそれぞれ出土している。207 は竈の掘方から出土している。

所見 第 350B 号竪穴建物跡の東側を拡張し、支柱穴 4 か所を掘り直していることや出土土器から、時期は 9 世紀後葉に比定できる。



第 170 図 第 350A 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 350A 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 170 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
206	土師器	高台付坏	-	(2.7)	5.5	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部内面ヘラ磨き 黒色処理	貼床構築土	20%
207	土師器	甕	[21.4]	(7.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐	普通	口縁部内面輪積痕 体部内面ヘラナデ	竈掘方	5%

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 3	土玉	2.3	2.6	0.7	10.5	長石・石英・赤色粒子	橙	一方向から穿孔 指頭痕	貼床構築土	PL56

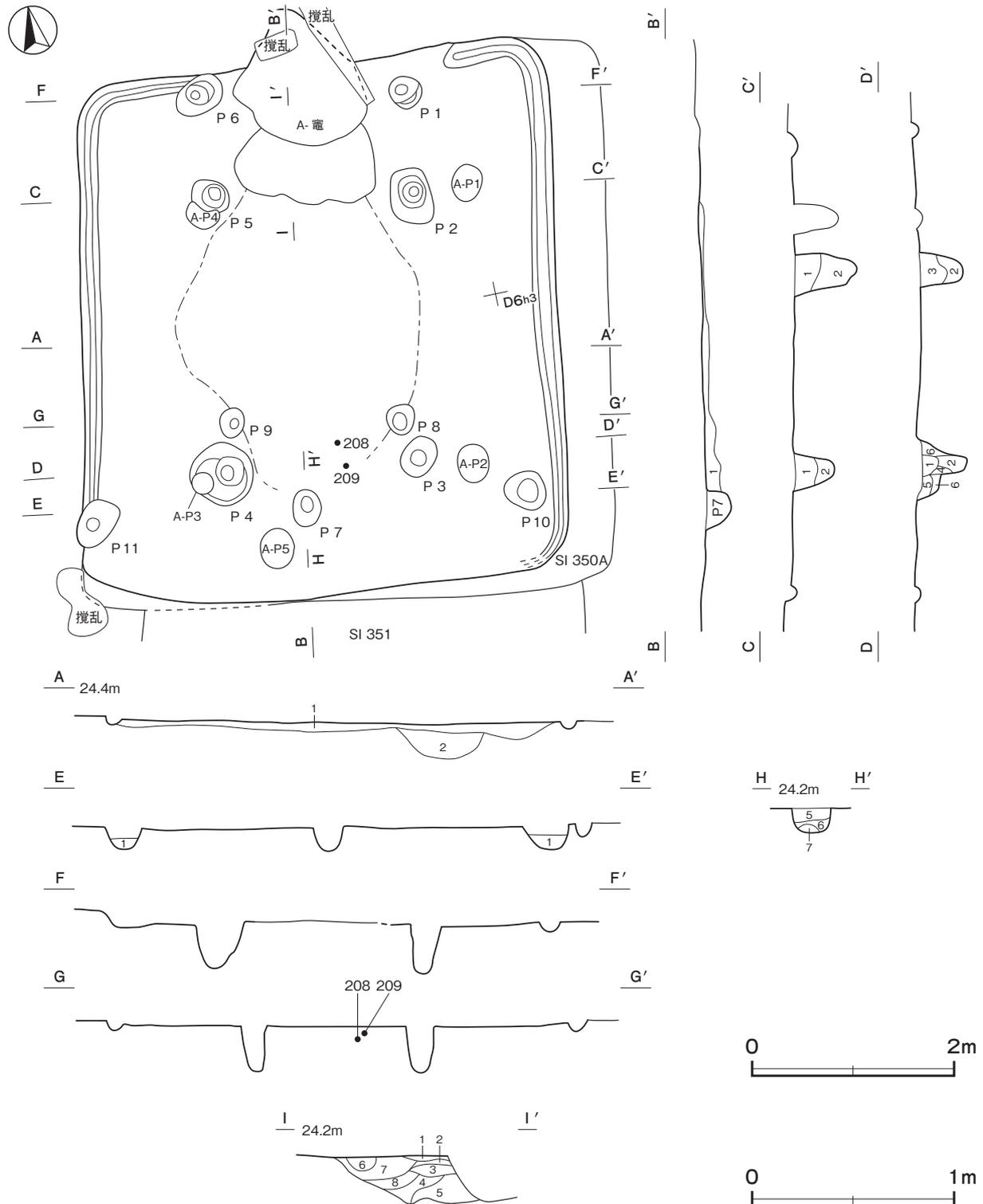
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 6	紡錘車	3.9	1.5	0.6	(33.1)	変成泥岩	上・下面研磨後線刻 一方向からの穿孔 上面一部欠損	貼床構築土	PL57

第 350B 号竖穴建物跡 (第 171・172 図 PL36)

位置 調査区中央部の D 6 g2 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 351 号竖穴建物跡を掘り込み, 第 350A 号竖穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 5.32 m, 短軸 4.80 m の長方形で, 主軸方向は $N - 10^{\circ} - E$ である。壁は高さ 8 ~ 12cm で, 外傾している。



第 171 図 第 350B 号竖穴建物跡実測図

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は、全体を6cmほど掘り下げ、粘土ブロックや焼土ブロックを含む第1・2層を埋土して構築されている。壁溝が北壁の一部と南西コーナー部から南壁を除いて巡っている。

竈 北壁のやや西寄りに付設されている。第350A号竪穴建物に掘り込まれていることから掘方の一部しか確認できなかった。掘方は南北軸58cm、東西軸132cmの不整形で24cmほど掘りくぼめ、焼土ブロックや粘土ブロックを含む第1～8層を埋土している。

竈土層解説

- | | |
|----------------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 5 黒褐色 粘土ブロック中量 |
| 2 黒色 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 | 6 黒褐色 粘土ブロック中量 |
| 3 黒褐色 粘土ブロック多量 | 7 黒色 焼土ブロック中量, 粘土ブロック少量 |
| 4 暗褐色 粘土ブロック多量 | 8 黒褐色 焼土ブロック少量, 粘土ブロック微量 |

ピット 11か所。P1～P6は深さ41～62cmで、南北に一直線に配置されていることから支柱穴である。P7は深さ25cmで、南壁際に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P8～P11は補助柱穴と考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|--------------------------|----------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量 | 5 黒褐色 粘土ブロック多量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック微量 | 6 黒褐色 粘土ブロック中量 |
| 3 黒褐色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック微量 | 7 黒褐色 粘土ブロック少量 |
| 4 黒褐色 粘土ブロック多量 | |

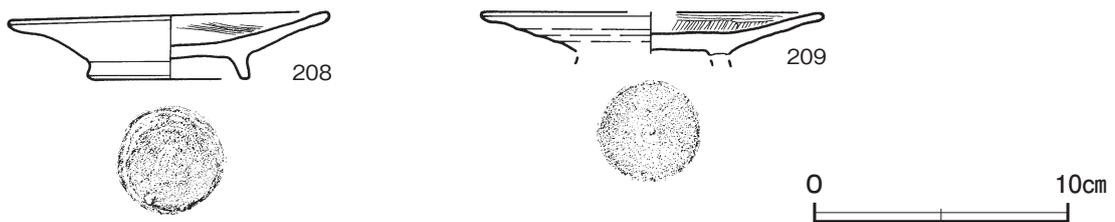
覆土 第350A号竪穴建物の下部から床面が確認された。第1・2層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | |
|------------------------------|-------------------------------|
| 1 褐色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 2 暗褐色 粘土ブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
|------------------------------|-------------------------------|

遺物出土状況 土師器片21点(坏4, 皿2, 甕類15), 須恵器片17点(坏4, 甕類13)が、柱穴内と貼床の構築土から出土している。208・209は南部の貼床の構築土からそれぞれ出土している。

所見 第350A号竪穴建物の拡張前の竪穴建物跡である。時期は、重複関係と出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第172図 第350B号竪穴建物跡出土遺物実測図

第350B号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第172図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
208	土師器	皿	12.5	2.8	6.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	体部内面ヘラ磨き	貼床構築土	95% PL53
209	土師器	皿	[13.4]	1.6	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部内面ヘラ磨き 黒色処理 底部回転ヘラ切り	貼床構築土	50%

第351号竪穴建物跡 (第173～175図 PL36)

位置 調査区中央部のD6h2区, 標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 350A・350B 号竪穴建物、第 39・43 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部が第 350A・350B 号竪穴建物に掘り込まれているが、東西軸 4.43 m、南北軸 4.38 m の方形である。主軸方向は N - 16° - E である。壁は高さ 13 ~ 22cm で、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は、全体を 4 cm ほど掘り下げ、粘土ブロックを含む第 9 層を埋土して構築されている。壁溝が北西コーナー部から北壁を除いて巡っている。

竈 北壁のやや東寄りに付設されている。第 350A・350B 号竪穴建物に掘り込まれていることから掘方しか確認できなかった。右袖部は粘土ブロックが一部遺存しており、掘方は長径 78cm、短径 71cm の楕円形で地山をわずかに掘りくぼめている。

ピット 2 か所。P 1・P 2 は深さ 20cm・22cm で、中央部の南壁寄りに位置している。性格は不明である。

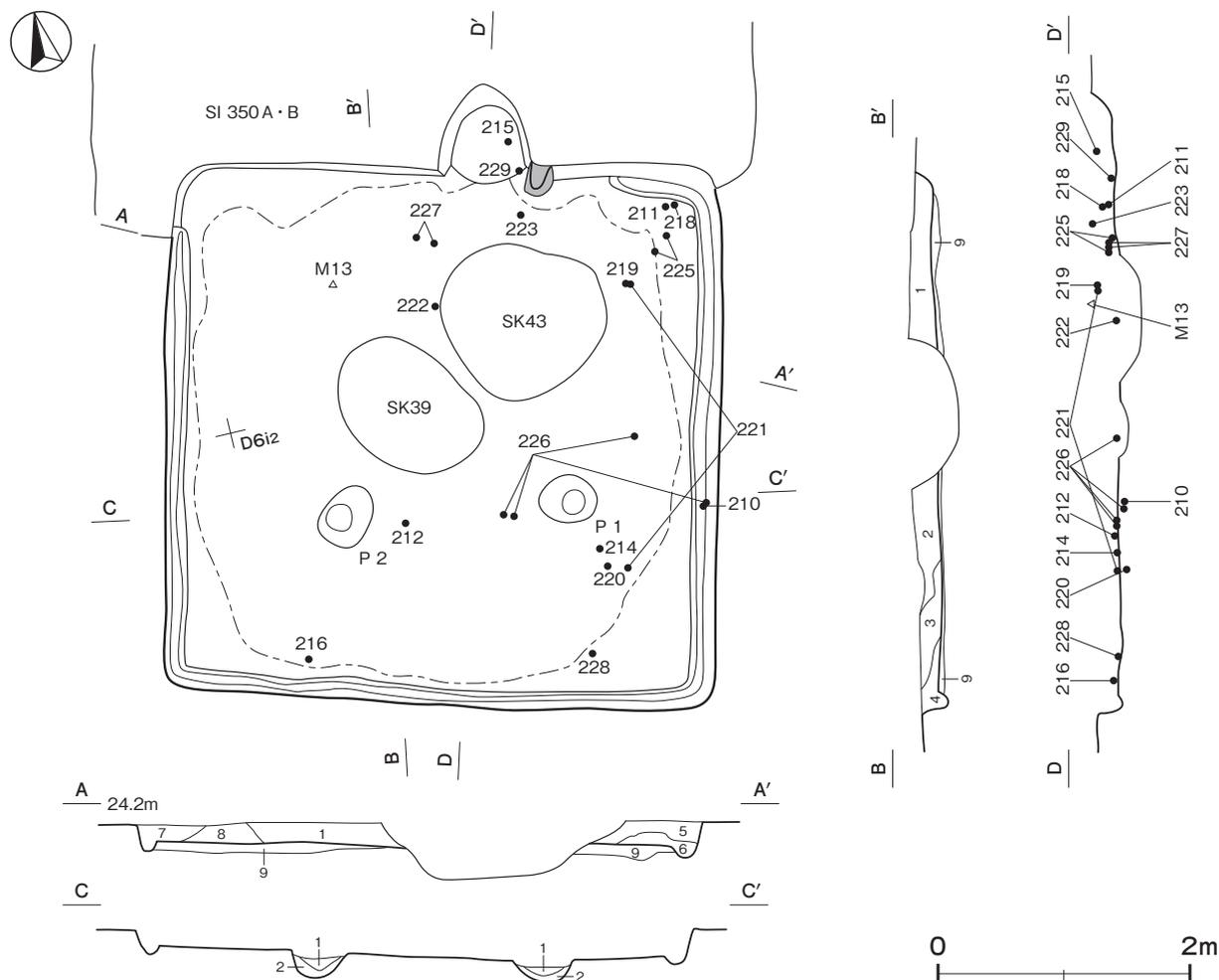
ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 黒褐色 粘土ブロック少量
- 2 暗褐色 粘土ブロック中量

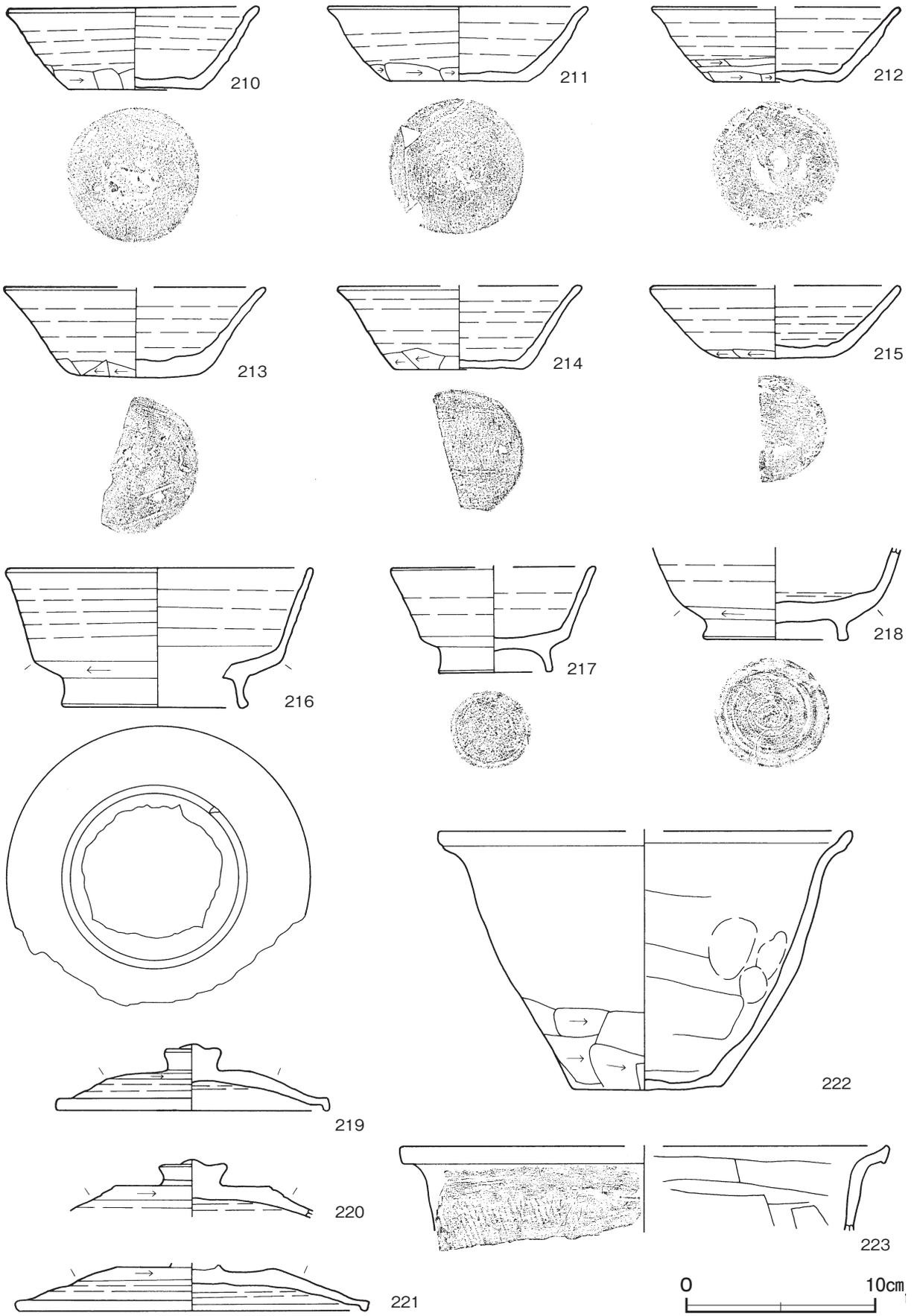
覆土 8 層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第 9 層は貼床の構築土である。

土層解説

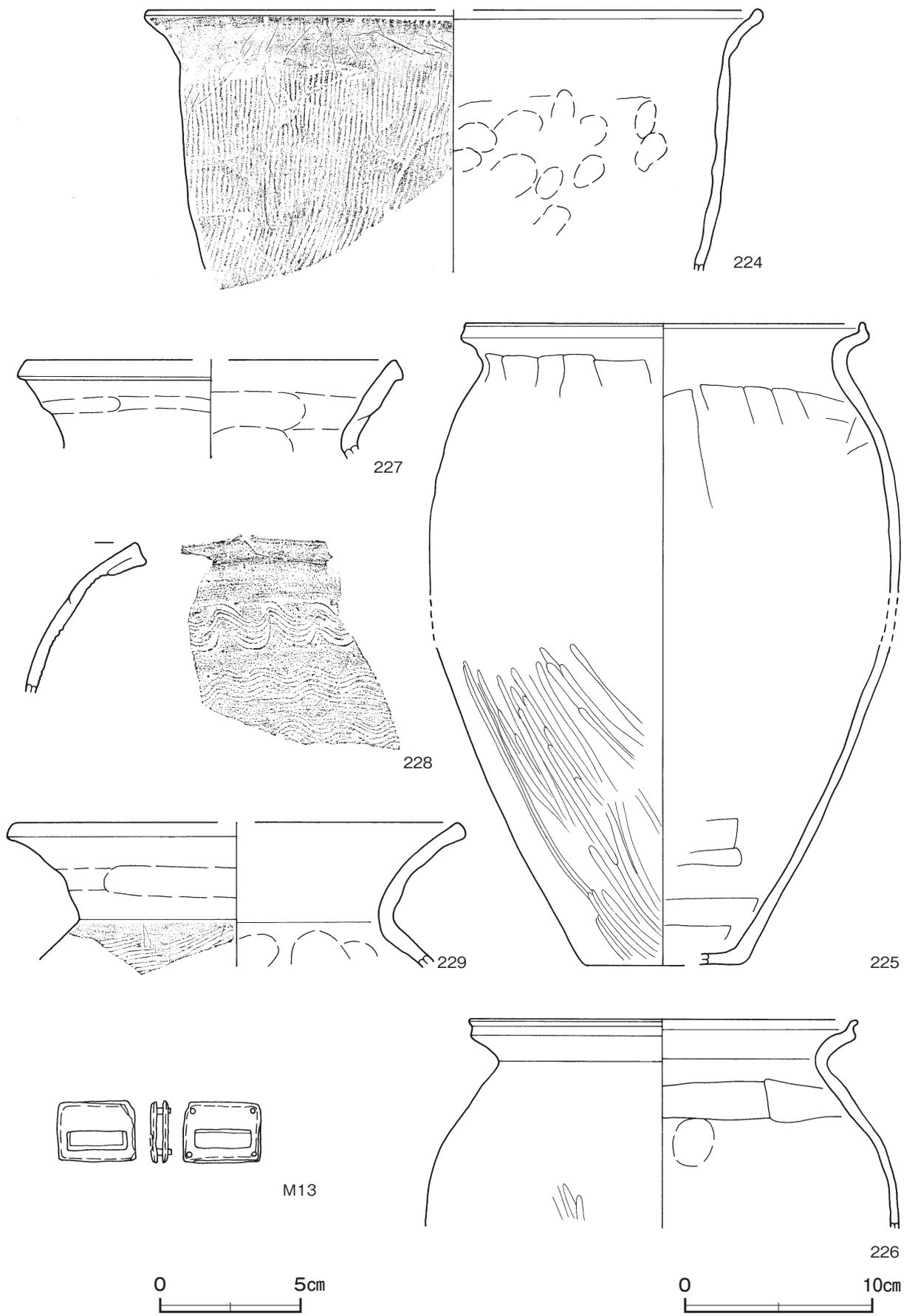
- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック多量, 焼土ブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 6 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック微量
- 7 暗褐色 ロームブロック少量
- 8 暗褐色 ロームブロック中量
- 9 褐色 粘土ブロック多量



第 173 図 第 351 号竪穴建物跡実測図



第 174 図 第 351 号 竖穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 175 図 第 351 号 竖穴建物跡出土遺物実測図 (2)

遺物出土状況 土師器片 294 点 (坏 26, 鉢 1, 甕類 267), 須恵器片 249 点 (坏 92, 高台付坏 5, 蓋 12, 高盤 1, 鉢 2, 甕類 135, 甌 2), 金属製品 3 点 (釘, 腰帯具, 不明) が, 主に竈前方部と南部の覆土下層から出土している。215・229 は竈内, 222・227 は竈前方部, 211・225 は北東コーナ一部, 212 は中央部, 214・220・226・228 は南東部, 216 は南壁付近の床面からそれぞれ出土している。221 は東壁付近の床面と北東部の覆土上層から出土した破片が接合している。210 は東壁溝内から出土している。218 は北東コーナ一部の覆土中層から出土している。215 は竈内, 219 は北東部, M13 は北西部, 223 は竈前方部の覆土上層からそれぞれ出土している。213・217・224 は覆土中から出土している。これらの遺物は, 埋没過程で廃棄された可能性がある。

所見 時期は, 出土土器から 9 世紀前葉に比定できる。

第 351 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 174・175 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
210	須恵器	坏	13.3	4.5	7.0	長石・石英・雲母	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す二方向の手持ちヘラ削り	壁溝内	95% PL51 新治窯
211	須恵器	坏	13.5	4.5	7.3	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部不定方向の手持ちヘラ削り	床面	70% PL51 新治窯
212	須恵器	坏	[13.1]	4.0	6.7	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す二方向の手持ちヘラ削り	床面	60% 新治窯
213	須恵器	坏	[13.8]	4.9	6.7	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部不定方向の手持ちヘラ削り	覆土中	30% 堀之内窯
214	須恵器	坏	[12.5]	4.4	[6.9]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	床面	40% 新治窯
215	須恵器	坏	[13.2]	3.8	5.6	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	竈内	40% 新治窯
216	須恵器	高台付坏	16.0	7.5	9.4	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部外面より高台部を残す穿孔	床面	70% PL52 新治窯
217	須恵器	高台付坏	[10.7]	5.6	5.7	長石・石英・雲母	褐灰	普通	ロクロナデ 高台貼付後ナデ	覆土中	50% 新治窯
218	須恵器	高台付坏	-	(4.9)	7.4	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	覆土中層	50% 新治窯
219	須恵器	蓋	[14.4]	3.5	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土上層	60% 新治窯
220	須恵器	蓋	-	(3.1)	-	長石・石英	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	20%
221	須恵器	蓋	[18.4]	(2.4)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	天井部回転ヘラ削り 宝珠欠損 二次焼成	床面 覆土上層	60% 新治窯
222	土師器	鉢	[21.6]	13.9	7.9	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部下半ヘラ削り 内面ヘラナデ 指頭痕 底部木葉痕	床面	50%
223	須恵器	鉢	[25.7]	(4.5)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部外面斜位の平行叩き 内面ヘラナデ	覆土上層	5%
224	須恵器	鉢	[32.6]	(14.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面縦位の平行叩き 内面指頭痕 輪積痕	覆土中	5%
225	土師器	甕	21.3	[34.7]	[8.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	頸部ヘラナデ 体部外面下半ヘラ磨き 内面ヘラナデ	床面	20%
226	土師器	甕	20.8	(11.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面下半ヘラ磨き 内面ヘラナデ 指頭痕	床面	20%
227	須恵器	甕	[19.7]	(5.3)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	口縁部ヘラナデ 輪積痕 外・内面指ナデ	床面	5%
228	須恵器	甕	-	(8.1)	-	長石・石英・雲母	暗灰	良好	口縁部 6 本櫛歯による波状文を 3 段施文 内面自然釉	床面	5%
229	須恵器	甕	[23.8]	(7.8)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	口縁部外面指ナデ 体部外面斜位の平行叩き 内面指頭痕	竈内	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M13	腰帯具	2.2	2.8	0.7	6.2	銅	巡方 4 か所の鋳で裏金具を固定	覆土上層	PL58

第 352 号竪穴建物跡 (第 176 図 PL37)

位置 調査区中央部の E 7j3 区, 標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 34 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東側が調査区域外に延びていることから南北軸は 2.18 m で, 東西軸は 3.06 m しか確認できなかった。方形又は長方形と推定できる。南北軸方向は N - 0° である。上部が削平されていることから壁は高さ 16cm で, 外傾している。

床 平坦な貼床で, 中央部が踏み固められている。貼床は, 全体を 11cm ほど掘り下げ, 粘土ブロックを含む第 3・4 層を埋土して構築されている。壁溝が南東部を除いて巡っている。

ピット P 1は深さ16cmで、南壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック少量

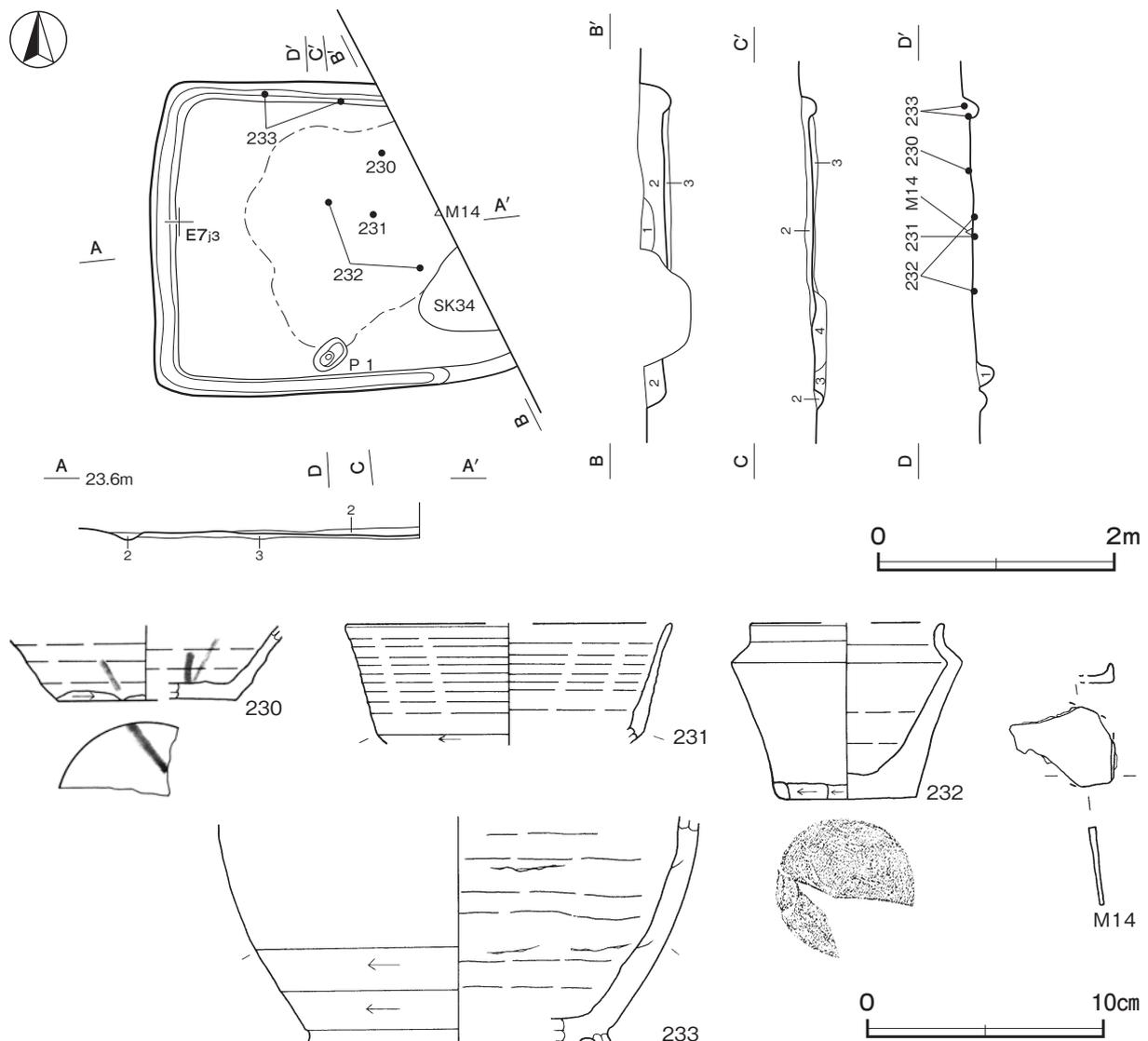
覆土 2層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。第3・4層は貼床の構築土である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック少量
- 3 黒褐色 粘土ブロック少量
- 4 黒褐色 粘土ブロック多量

遺物出土状況 土師器片8点(坏3, 甕類5), 須恵器片25点(坏7, 高台付坏1, 短頸壺1, 長頸瓶1, 甕類15), 金属製品1点(鎌)が, 主に全域の覆土中から出土している。230・233は北壁付近, 231・232は中央部, M14は東部の床面からそれぞれ出土している。これらの遺物は, 埋没過程で廃棄された可能性がある。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉に比定できる。



第176図 第352号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第352号竪穴建物跡出土遺物観察表(第176図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
230	須恵器	坏	-	(32)	[7.6]	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちへラ削り 外・内面火襞	床面	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
231	須恵器	高台付坏	[13.7]	(5.2)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端回転ヘラ削り	床面	10%新治窯
232	須恵器	短頸壺	[8.0]	7.6	5.9	長石・石英	灰	良好	体部下位ヘラ削り 底部不定方向の手持ちヘラ削り	床面	50%堀之内窯
233	須恵器	長頸瓶	-	(9.7)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下位回転ヘラ削り 内面指ナデ 輪積痕	床面	10%新治窯

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M14	鎌	(4.6)	(3.5)	0.3	(24.5)	鉄	刃部欠損 基部断面三角形	床面	

第 354 号竪穴建物跡 (第 177 図)

位置 調査区中央部の E 6j8 区, 標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 21 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北側と東側が第 21 号溝に掘り込まれていることから, 東西軸は 2.38 m で, 南北軸は 1.44 m しか確認できなかった。方形又は長方形と推定できる。出入口ピットから主軸方向は N - 15° - W と推定できる。壁は高さ 10cm で, 外傾している。

床 平坦で, 中央部から南壁にかけて踏み固められている。床は, 地山をそのまま利用している。壁溝が第 21 号溝に掘り込まれた部分を除いて巡っている。

ピット P 1 は深さ 10cm で, 南壁際に位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック少量
- 2 黒褐色 粘土ブロック多量

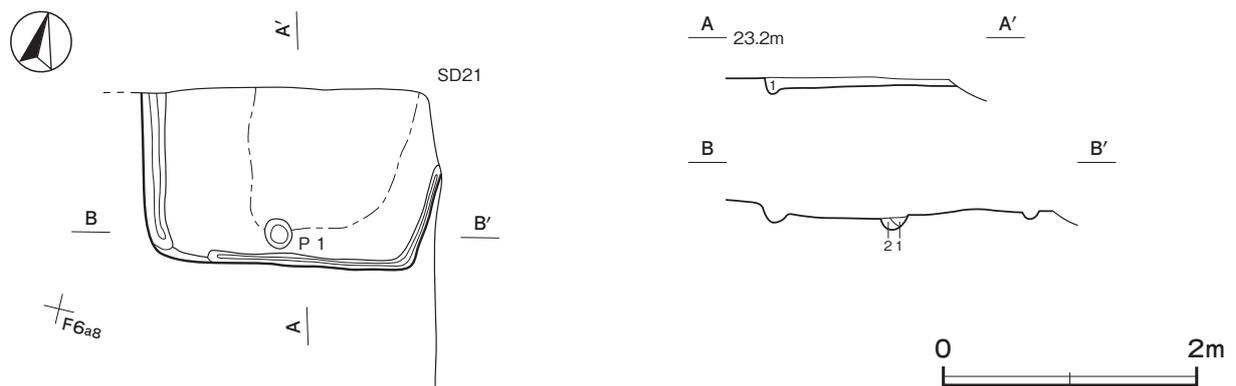
覆土 単一層である。上部が削平されていることから堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック少量

遺物出土状況 土師器片 2 点 (甕類) が覆土中から出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から 9 世紀代に比定できる。



第 177 図 第 354 号竪穴建物跡実測図

第 355 号竪穴建物跡 (第 178 図 PL37)

位置 調査区中央部の E 6h8 区, 標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 1 号粘土採掘坑に掘り込まれている。

規模と形状 上面が削平され、南東部が第1号粘土採掘坑に掘り込まれていることから南北軸は3.25 m、東西軸は2.57 mしか確認できなかった。隅丸方形又は隅丸長方形と推定できる。主軸方向はN-0°である。

床 削平されていることから確認できなかった。壁溝が北西コーナー部を巡っている。

竈 北壁に付設されている。掘方しか確認できなかった。規模は長軸50cm、短軸42cmの不整楕円形で、深さ8cmである。

竈土層解説

1 黒褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量

ピット 2か所。P1・P2は深さ34cm・38cmで、配置関係から西側の支柱穴である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

1 黒褐色 粘土ブロック多量
2 黒褐色 粘土ブロック中量

3 黒褐色 粘土ブロック微量

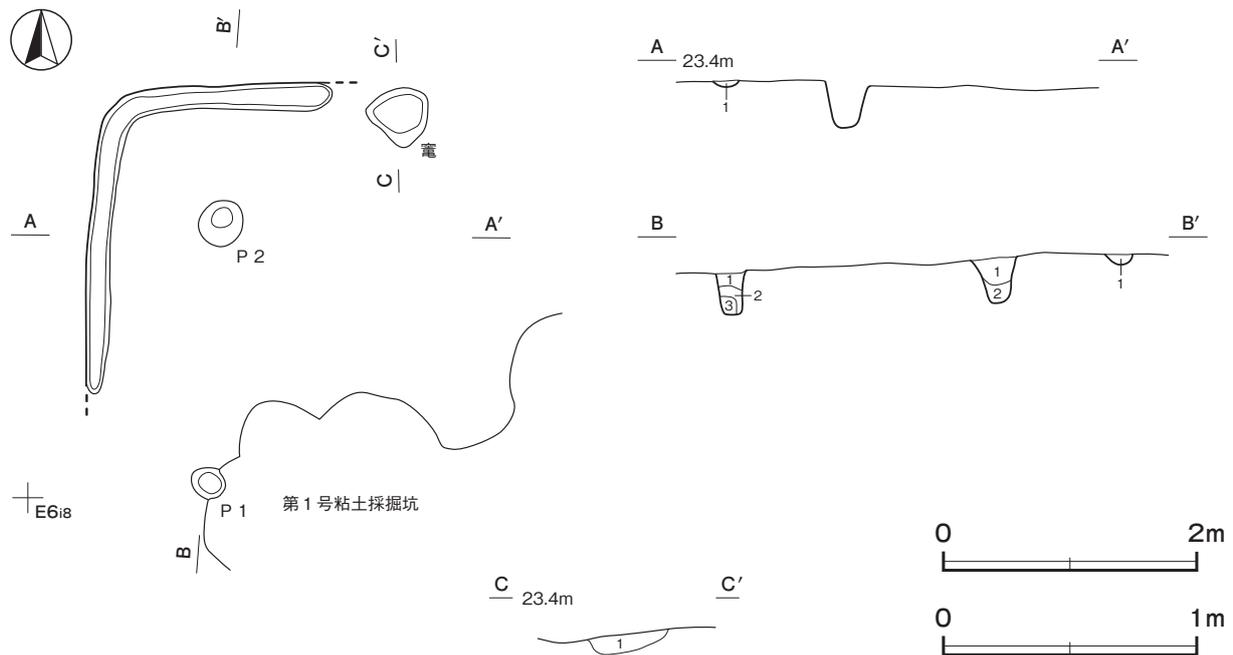
覆土 第1層は壁溝の覆土である。

土層解説

1 黒褐色 粘土ブロック少量

遺物出土状況 土師器片5点(坏1, 甕類4), 須恵器片6点(蓋1, 甕類5)が出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀後葉以前に比定できる。



第178図 第355号竪穴建物跡実測図

第356号竪穴建物跡 (第179図 PL37)

位置 調査区中央部のF6a7区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号粘土採掘坑に掘り込まれている。

規模と形状 西側は調査区域外に延び、北側は第1号粘土採掘坑に掘り込まれていることから南北軸は2.75mで、東西軸は2.03mしか確認できなかった。方形又は長方形と推定できる。主軸方向はN-7°-Wと推定

でき、壁は高さ 34～37cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。床は、地山をそのまま利用している。壁溝は、東壁から南壁に巡っている。

ピット P1は深さ 12cmで、南壁際に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

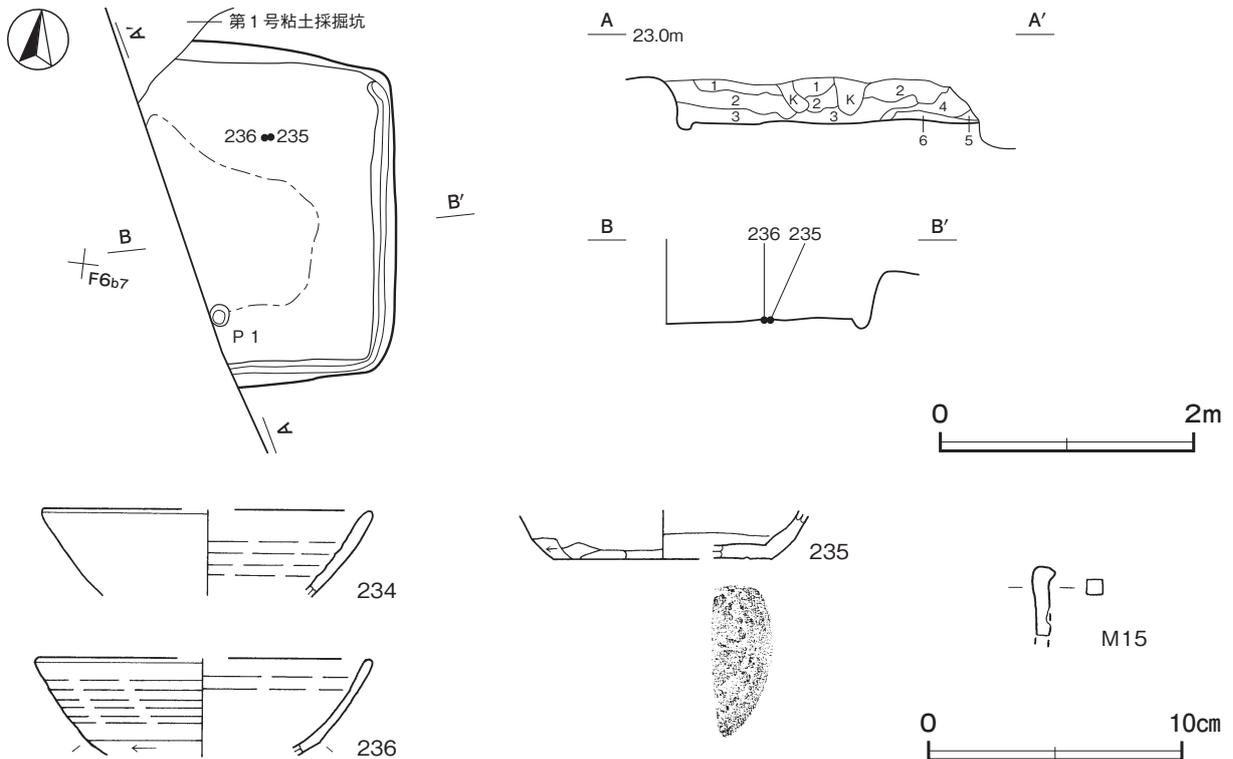
覆土 6層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|-------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量 | 4 黒褐色 | 粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | 粘土ブロック多量, 焼土ブロック少量 | 5 暗褐色 | 焼土ブロック中量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量 | 6 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片 18点（高台付坏1, 甕類17）、須恵器片 11点（坏5, 甕類6）、金属製品 1点（釘）が、主に全域の覆土中から出土している。235・236は、北東コーナー部付近の床面からそれぞれ出土している。234・M15は、覆土中からそれぞれ出土している。これらの遺物は、埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第179図 第356号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第356号竪穴建物跡出土遺物観察表（第179図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
234	須恵器	坏	[12.8]	(3.5)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	体部外・内面ロクロナデ	覆土中	5%
235	須恵器	坏	-	(2.0)	[8.6]	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ロクロナデ 底部ナデ	床面	10%
236	土師器	高台付坏	[13.0]	(3.8)	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面黒色処理	床面	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M15	釘	(2.8)	0.9	0.6	(3.9)	鉄	下部欠損 断面四角形	覆土中	

第 357 号竪穴建物跡 (第 180・181 図 PL38)

位置 調査区中央部の E 6 c9 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 東側が調査区域外に延びていることから南北軸は 2.92 m で, 東西軸は 2.46 m しか確認できなかった。隅丸方形又は隅丸長方形と推定できる。主軸方向は N - 6° - W である。壁は高さ 8 ~ 26 cm で, 外傾している。

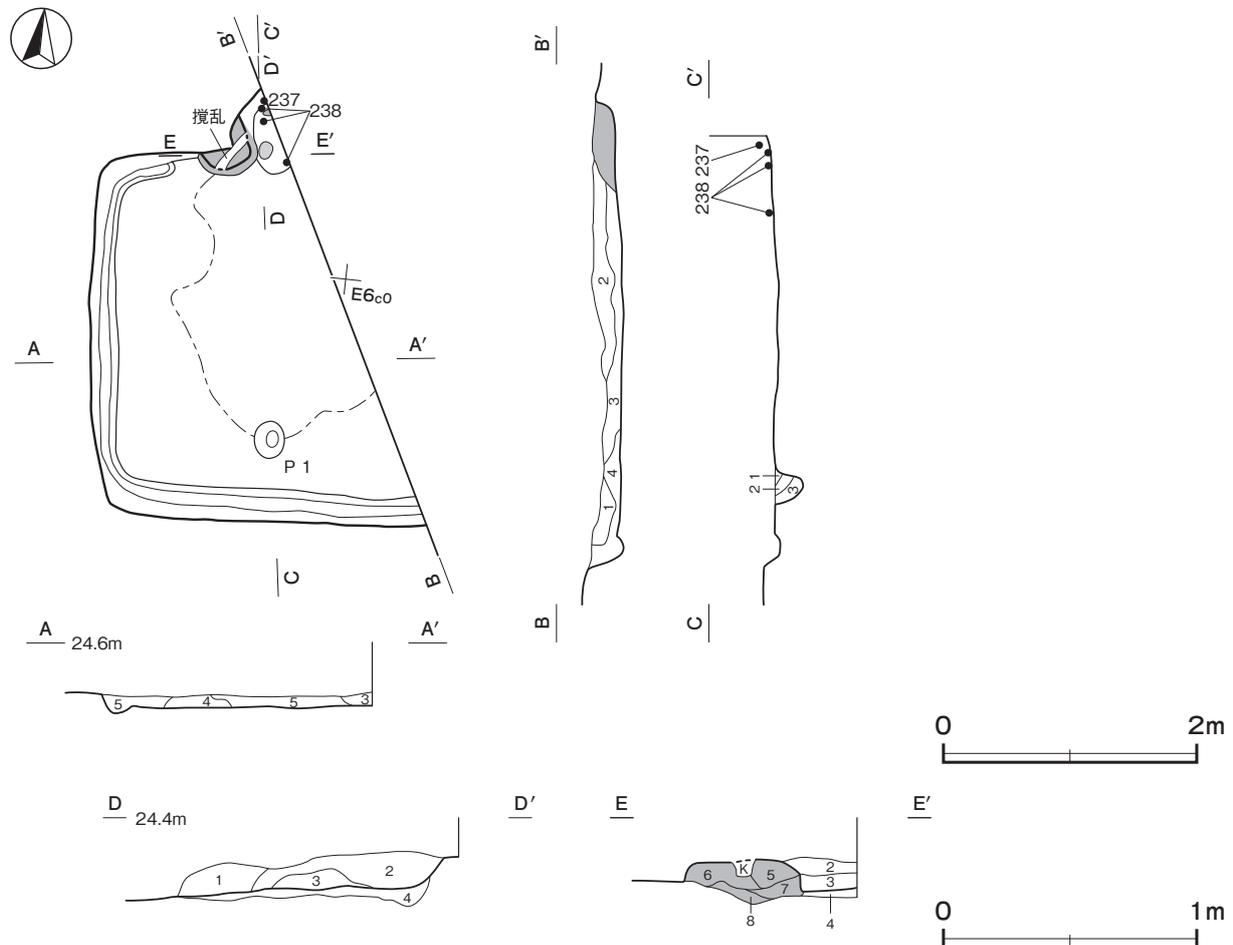
床 平坦で, 竈の前方部が踏み固められている。床は, 地山をそのまま利用している。壁溝が北壁から南壁にかけて巡っている。

竈 北壁の西寄りに付設されている。左袖部から煙道部までしか確認できなかった。規模は焚口部から煙道部まで 68 cm, 燃焼部幅は 21 cm しか確認できなかった。左袖部は地山の上に粘土ブロックやロームブロックを含む第 5 ~ 8 層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形と推定され, 7 cm ほど掘りくぼめ, 焼土ブロックを含む第 4 層を埋土している。火床面は第 4 層上面で火熱を受けて赤変している。煙道部は緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|--------------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量 | 5 暗褐色 粘土ブロック中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック多量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 粘土ブロック微量 | 7 黒褐色 粘土ブロック少量 |
| 4 黒色 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 8 黒褐色 ロームブロック少量 |

ピット P 1 は深さ 22 cm で, 南壁際に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第 180 図 第 357 号竪穴建物跡実測図

ピット土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック多量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

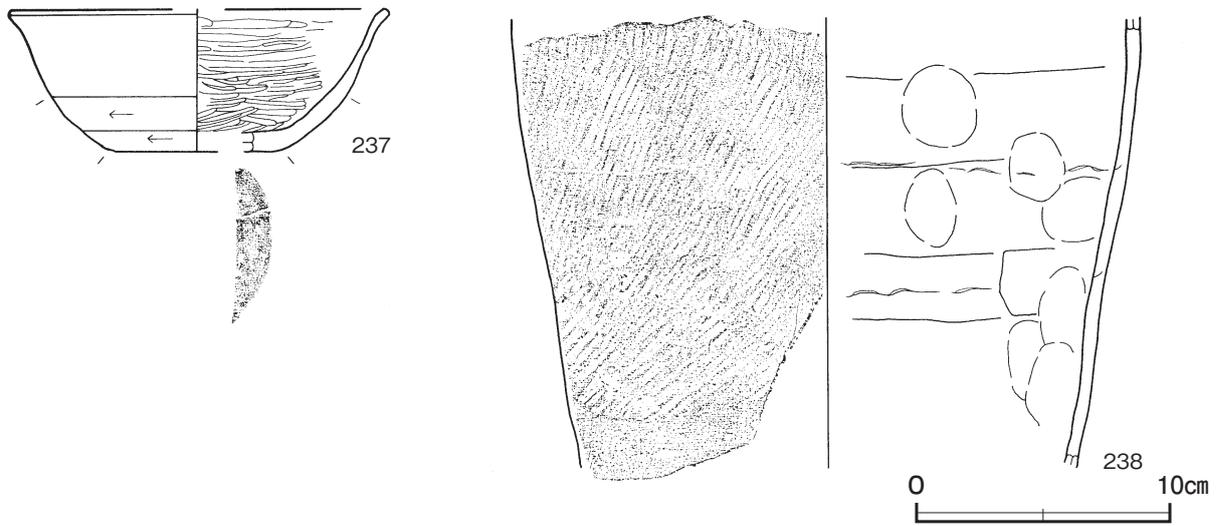
覆土 5層に分層できる。北側から流れ込んだ堆積状況から自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片 18点 (坏4, 椀1, 甕類13), 須恵器片 16点 (高台付坏1, 鉢1, 甕類14) が主に竈前方部の覆土中から出土している。237・238は, 火床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第 181 図 第 357 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 357 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 181 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
237	土師器	椀	[15.0]	5.7	[6.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 黒色処理	火床面	20%
238	須恵器	鉢	-	(18.0)	-	長石・石英・雲母	赤褐	普通	体部外面斜位の平行叩き 内面ヘラナデ 指頭痕 輪積痕 二次焼成	火床面	10% 新治窯

第 359 号竪穴建物跡 (第 182 図)

位置 調査区中央部の E 7 g2 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 北東部が調査区域外に延びていることから, 南北軸は 2.52 m, 東西軸は 1.40 m しか確認できなかった。隅丸方形又は隅丸長方形と推定できる。主軸方向は不明である。壁は高さ 4~6 cm である。

床 平坦で, 西壁の北側が踏み固められている。床は, 地山をそのまま利用している。壁溝が西壁から南西コーナー部を巡っている。

ピット P 1 は深さ 52cm で, 性格は不明である。

ピット土層解説

- 1 褐灰色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量
- 2 にぶい褐色 ローム粒子中量, 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量, 粘土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量, 粘土ブロック少量, 炭化粒子微量

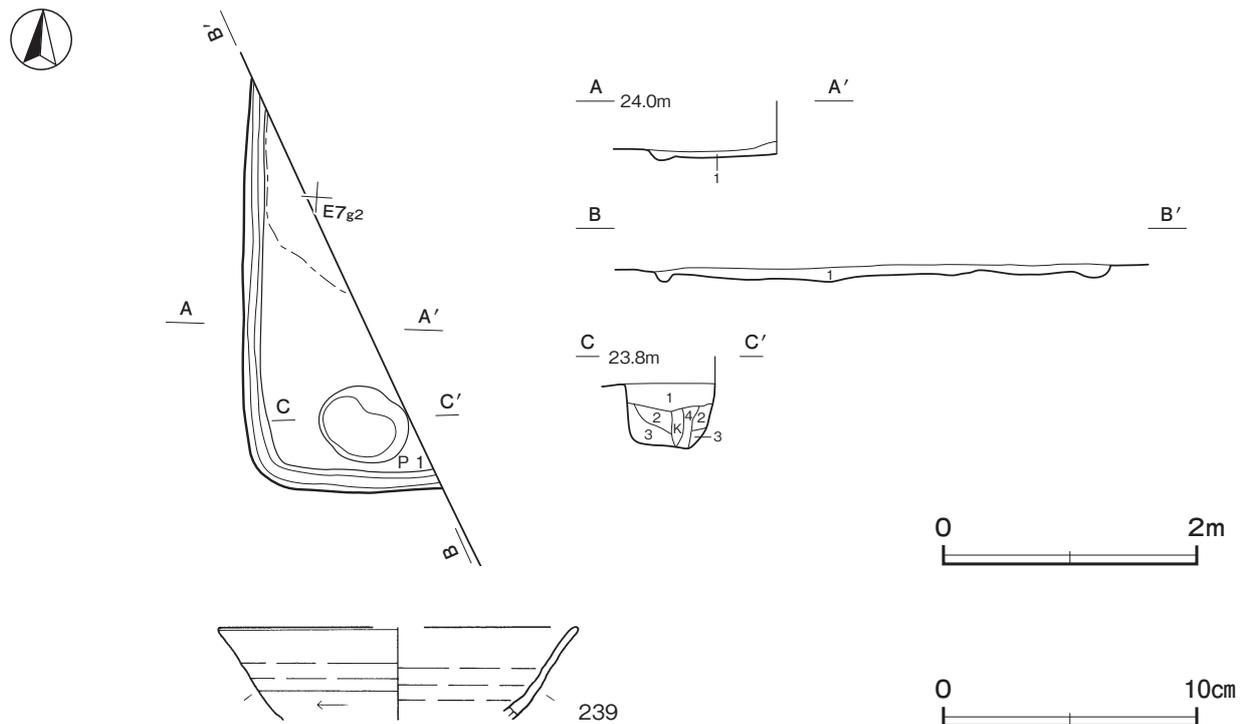
覆土 単一層で薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

1 黒 褐 色 粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土ブロック少量

遺物出土状況 土師器片 7 点 (甕類), 須恵器片 6 点 (坏 4, 甕類 2) が出土している。239 は南部の覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 9 世紀中葉に比定できる。



第 182 図 第 359 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 359 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 182 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
239	須恵器	坏	[14.2]	(3.7)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ロクロナデ	覆土中	5%

第 360 号竪穴建物跡 (第 183 図 PL38)

位置 調査区中央部の E 7 f1 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 42 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 3.00 m, 短軸 2.40 m の長方形で, 主軸方向は N - 1° - E である。壁は, 4 cm である。上面が削平されていることから東部しか確認できなかった。

床 平坦な貼床で, 中央部が踏み固められている。貼床は, 全体を 10cm ほど掘り下げ, ロームブロックと粘土ブロックを含む第 2 ~ 6 層を埋土して構築されている。竈の前方部に焼土塊が 2 か所確認されている。

竈 北壁の西寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 68cm で, 燃焼部幅は 56cm である。袖部は地山の上に粘土ブロックを含む第 5・6 層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に 6cm ほど掘りくぼめ, ロームブロックや粘土ブロックを含む第 7 層を埋土している。火床面は第 7 層上面で火熱を受けて赤変し

ている。煙道部は壁外に37cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | | | |
|---|-------|------------------------------------|---|-------|----------------------------------|
| 1 | にぶい褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 | 灰褐色 | 粘土ブロック多量, ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 | 灰褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 6 | にぶい褐色 | 粘土ブロック多量, ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 | 灰褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・粘土ブロック少量 | 7 | にぶい褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 | にぶい橙色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・粘土ブロック | | | |

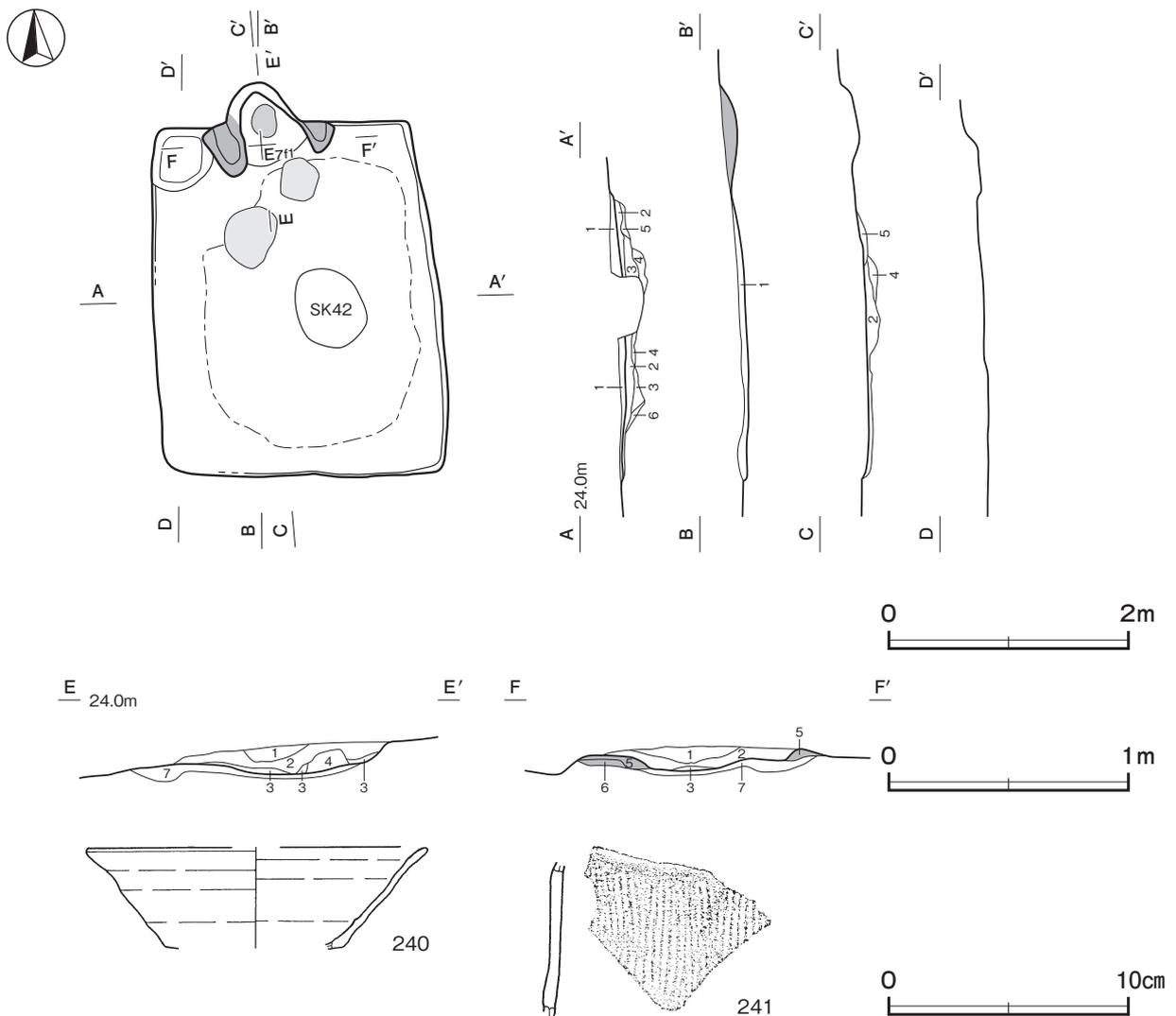
覆土 単一層で薄いため堆積状況は不明である。第2～6層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-------|---------------------------------|---|-----|---------------------------|
| 1 | 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 5 | 灰褐色 | 粘土ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 | 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 | 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 3 | にぶい褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 | | | |
| 4 | 灰褐色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック少量, 炭化粒子 | | | |

遺物出土状況 土師器片 25 点 (坏 1, 甕類 24), 須恵器片 21 点 (坏 3, 甕類 18) が, 北東部の覆土中から出土している。240 は覆土中, 241 は貼床の構築土からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から 9 世紀中葉に比定できる。



第 183 図 第 360 号 竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 360 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 183 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
240	須恵器	坏	[14.2]	(4.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	体部外・内面ロクロナデ	覆土中	10% 新治窯
241	須恵器	甕	-	(6.2)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部外面縦位の平行叩き 内面ヘラナデ 指頭痕	貼床構築土	5%

第 363 号 竪穴建物跡 (第 184・185 図)

位置 調査区北部の C 5 i9 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 5 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南側半分が攪乱を受けていることから, 南北軸は 2.28 m, 東西軸は 3.20 m しか確認できなかった。方形又は長方形と推定でき, 主軸方向は N - 15° - E である。壁は高さ 11 ~ 16cm で, 外傾している。

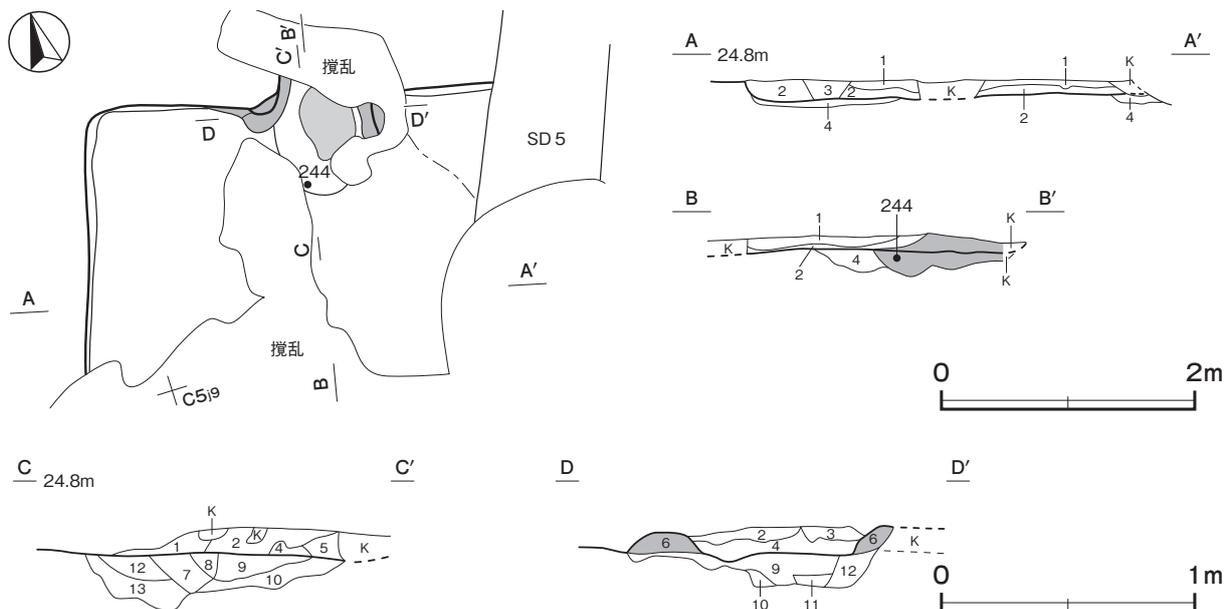
床 平坦な貼床で, 竈の前方部が踏み固められている。貼床は, 全体を 12cm ほど掘り下げ, ロームブロックや焼土ブロックを含む第 4 層を埋土して構築されている。

竈 北壁に付設されている。右袖部から煙道部にかけて攪乱を受けている。規模は焚口部から燃焼部の 65cm しか確認できなかった。燃焼部幅は 58cm である。袖部は第 9・12 層の上に粘土ブロックを含む第 6 層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に 15cm 掘りくぼめ, 焼土ブロックやロームブロックを含む第 7 ~ 13 層を埋土している。火床面は第 7 ~ 9 層上面で火熱を受けて赤変している。煙道部は確認できなかった。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------------|-----------|--------------------------|
| 1 灰褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 7 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック中量, 粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 9 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化物少量 |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量, ロームブロック少量 | 10 にぶい赤褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子少量 | 11 明赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 灰褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子中量, 焼土ブロック少量 | 12 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・ロームブロック中量 |
| | | 13 暗褐色 | ローム粒子中量 |

覆土 4層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。第 5 層は貼床の構築土である。



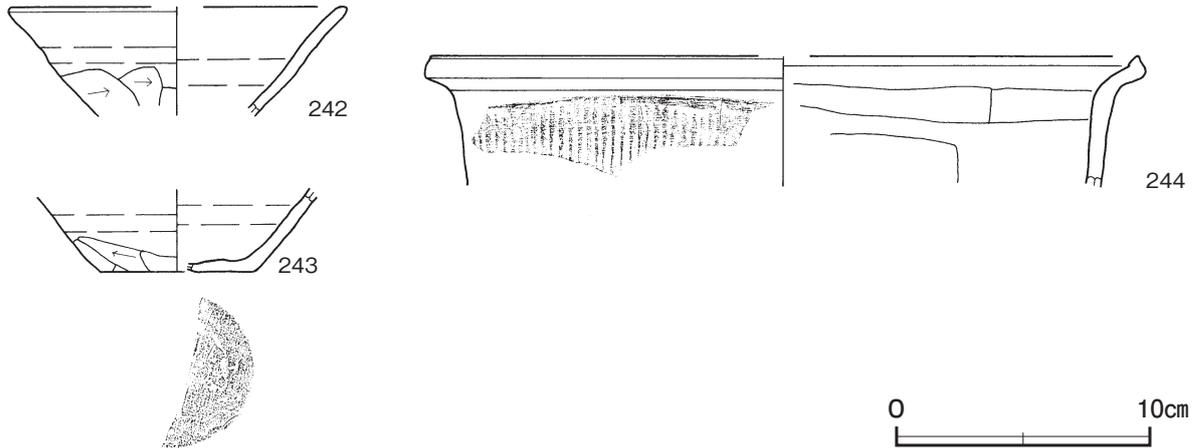
第 184 図 第 363 号 竪穴建物跡実測図

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片 37 点 (坏 10, 甕類 27), 須恵器片 38 点 (坏 15, 蓋 1, 鉢 1, 甕類 19, 甗 2) が, 主に北東の覆土中から出土している。244 は竈掘方, 243 は北東部の貼床の構築土からそれぞれ出土している。242 は北東部の覆土中から出土している。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から 9 世紀中葉に比定できる。



第 185 図 第 363 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 363 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 185 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
242	須恵器	坏	[13.2]	(4.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り	覆土中	20% 新治窯
243	須恵器	坏	-	(3.3)	[6.1]	長石・石英	暗灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	貼床構築土	20%
244	須恵器	鉢	[27.9]	(5.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐灰	普通	体部外面縦位の平行叩き 内面横ナデ	竈掘方	5%

第 367 号竪穴建物跡 (第 186 図)

位置 調査区中央部の E 7h1 区, 標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 21 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南半分が第 21 号溝に掘り込まれ, 上面は削平されていることから東西軸は 3.00 m で, 南北軸は 1.45 m しか確認できなかった。方形又は長方形と推定できる。主軸方向は N - 0° である。壁は確認できなかった。

床 平坦で, 地山をそのまま利用している。

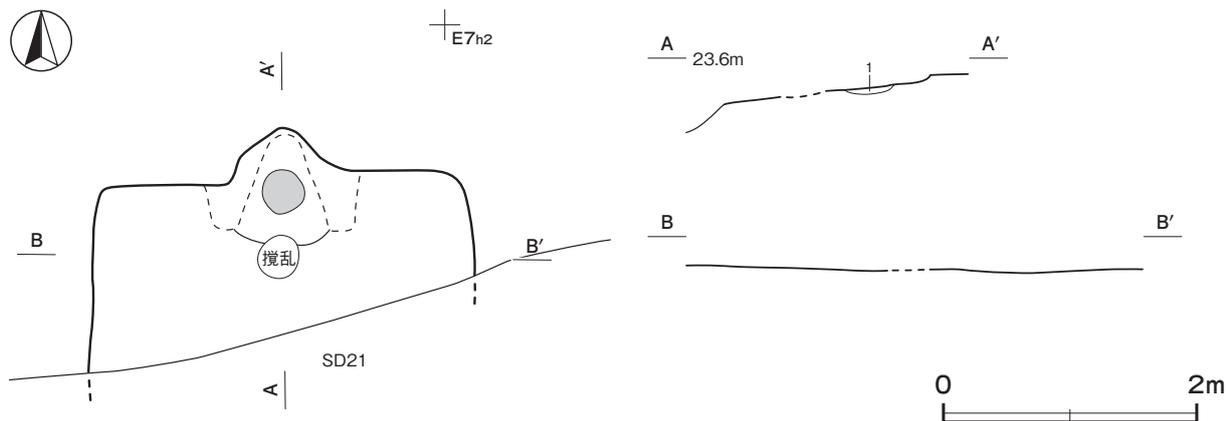
竈 北壁に付設されている。上面は削平されているが, 規模は焚口部から煙道部まで 91cm で, 燃烧部幅は 66 cm である。袖部は粘土の痕跡しか確認できなかった。火床部は円形に 7 cm 掘りくぼめ, 粘土ブロックや焼土粒子を含む第 1 層を埋土している。火床面は第 1 層上面で火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外に 42cm 掘り込まれ, 火床部から緩やかに立ち上っている。

電土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子多量, 粘土ブロック少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 2 点 (甕類), 須恵器片 2 点 (坏) が床面から出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から 9 世紀代に比定できる。



第 186 図 第 367 号竪穴建物跡実測図

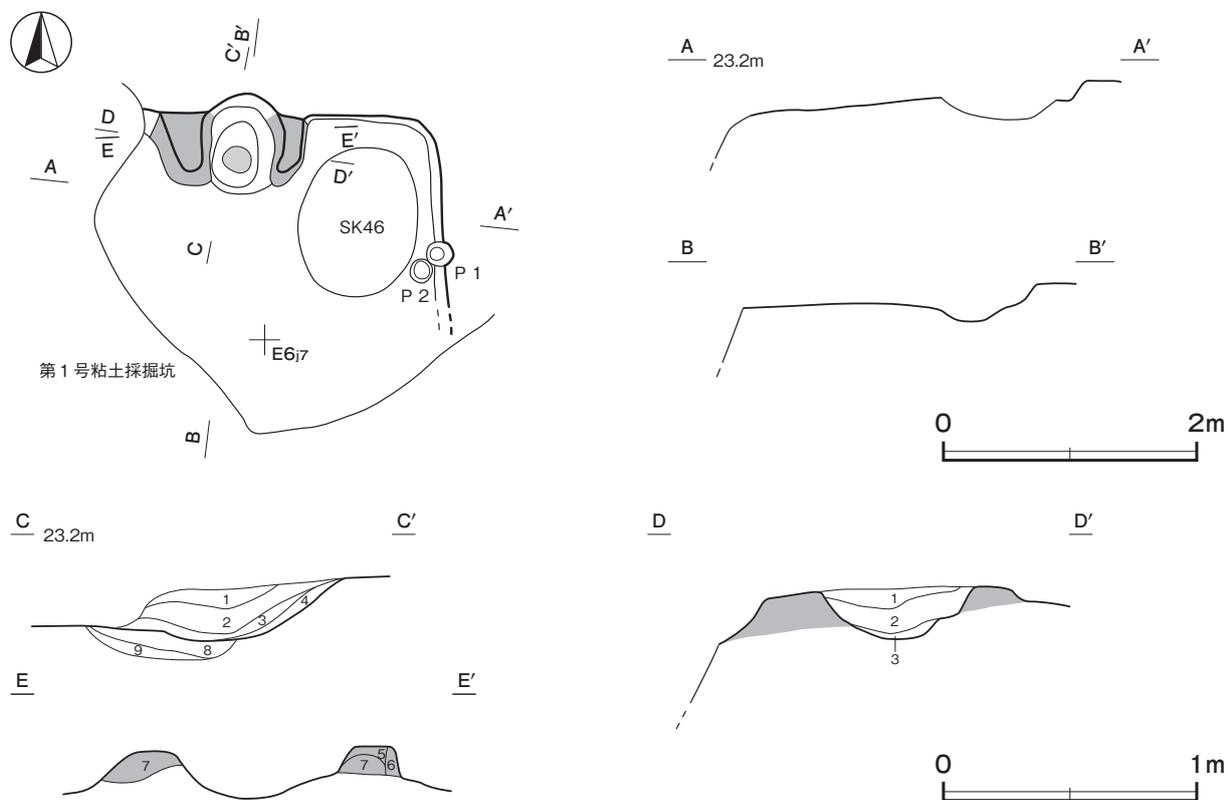
第 368 号竪穴建物跡 (第 187 図)

位置 調査区中央部の E 6i7 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 1 号粘土採掘坑に掘り込まれている。第 46 号土坑とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 第 1 号粘土採掘坑に西側から南側にかけて掘り込まれているため、南北軸は 2.74 m、東西軸は 2.50 m しか確認できなかった。方形又は長方形と推定できる。主軸方向は $N-0^\circ$ である。壁は高さ 15cm で、外傾している。

床 確認できた部分は平坦である。



第 187 図 第 368 号竪穴建物跡実測図

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで82cmで、燃焼部幅は52cmである。袖部は地山の上に粘土ブロックを含む第5～7層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に12cmほど掘りくぼめ、粘土ブロックや焼土ブロックを含む第8・9層を埋土している。火床面は第8層上面で火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外に16cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------------|---------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 6 灰褐色 | 粘土ブロック多量 |
| 2 にぶい褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 7 にぶい褐色 | 粘土ブロック中量 |
| 3 灰褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 8 にぶい褐色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 |
| 4 赤褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 にぶい橙色 | 粘土ブロック中量, 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子少量 | | |

ピット 2か所。P1・P2は深さ5cm・7cmで性格は不明である。

遺物出土状況 土師器片15点(甕類), 須恵器片5点(坏4, 甕類1)が、床面から出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀代に比定できる。

第369号竪穴建物跡 (第188～190図 PL38・39)

位置 調査区中央部のE6h7区, 標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号粘土採掘坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.72m, 短軸4.68mの方形で、主軸方向はN-5°-Wである。壁は高さ12～18cmで、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、竈前方部から南壁にかけて踏み固められている。貼床は、全体を21cmほど掘り下げ、粘土ブロックや焼土ブロックを含む第5～11層を埋土して構築されている。壁溝が、北東コーナー部から南壁中央部にかけて巡っている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで134cmで、燃焼部幅は76cmである。袖部は地山の上に粘土ブロックを含む第7・8層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に16cm掘りくぼめ、粘土ブロックや炭化粒子を含む第9層を埋土している。火床面は第9層上面で火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外に62cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

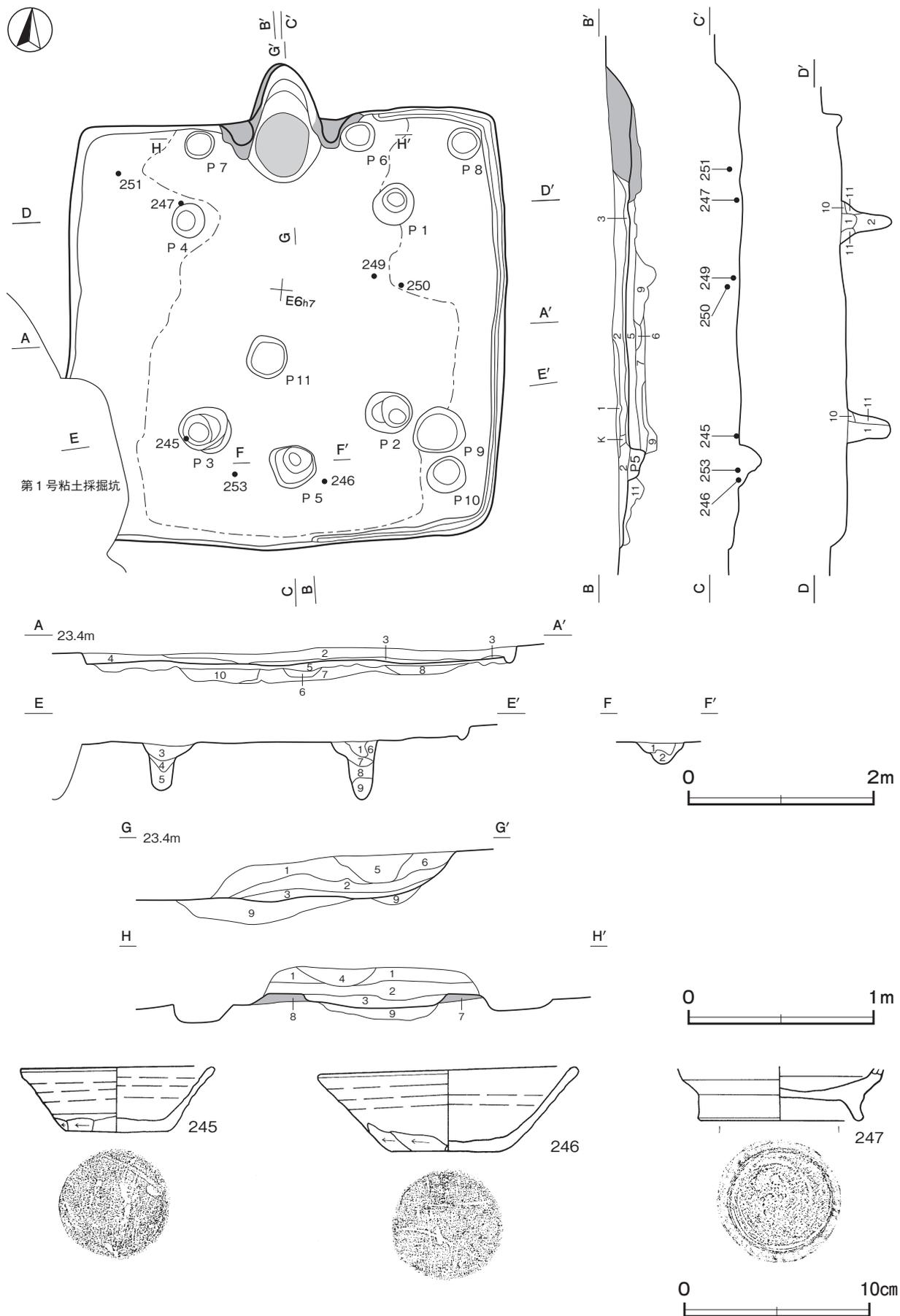
竈土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------|-------|--------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | 焼土ブロック中量, 粘土ブロック微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック・焼土粒子中量, 粘土粒子少量 | 7 暗褐色 | 粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 8 灰褐色 | 粘土ブロック多量, 炭化粒子微量 |
| | | 9 黒褐色 | 粘土ブロック中量, 炭化粒子微量 |

ピット 11か所。P1～P4は深さ48～68cmで支柱穴である。P5は南壁際に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7は深さ15cm・20cmで補助柱穴である。P8～P11は深さ10～16cmで性格は不明である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|-------|-------------------------|--------|---------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量 | 7 黒褐色 | 粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | 粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量 | 8 黒褐色 | 粘土ブロック多量 |
| 3 黒褐色 | 粘土ブロック・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 | 9 黒褐色 | 粘土ブロック少量 |
| 4 黒褐色 | 粘土ブロック中量 | 10 黒褐色 | 粘土ブロック多量, ロームブロック少量 |
| 5 黒褐色 | 粘土ブロック少量 | 11 黒褐色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック少量 |
| 6 黒褐色 | 粘土ブロック中量 | | |



第 188 图 第 369 号竖穴建物跡・出土遺物実測図

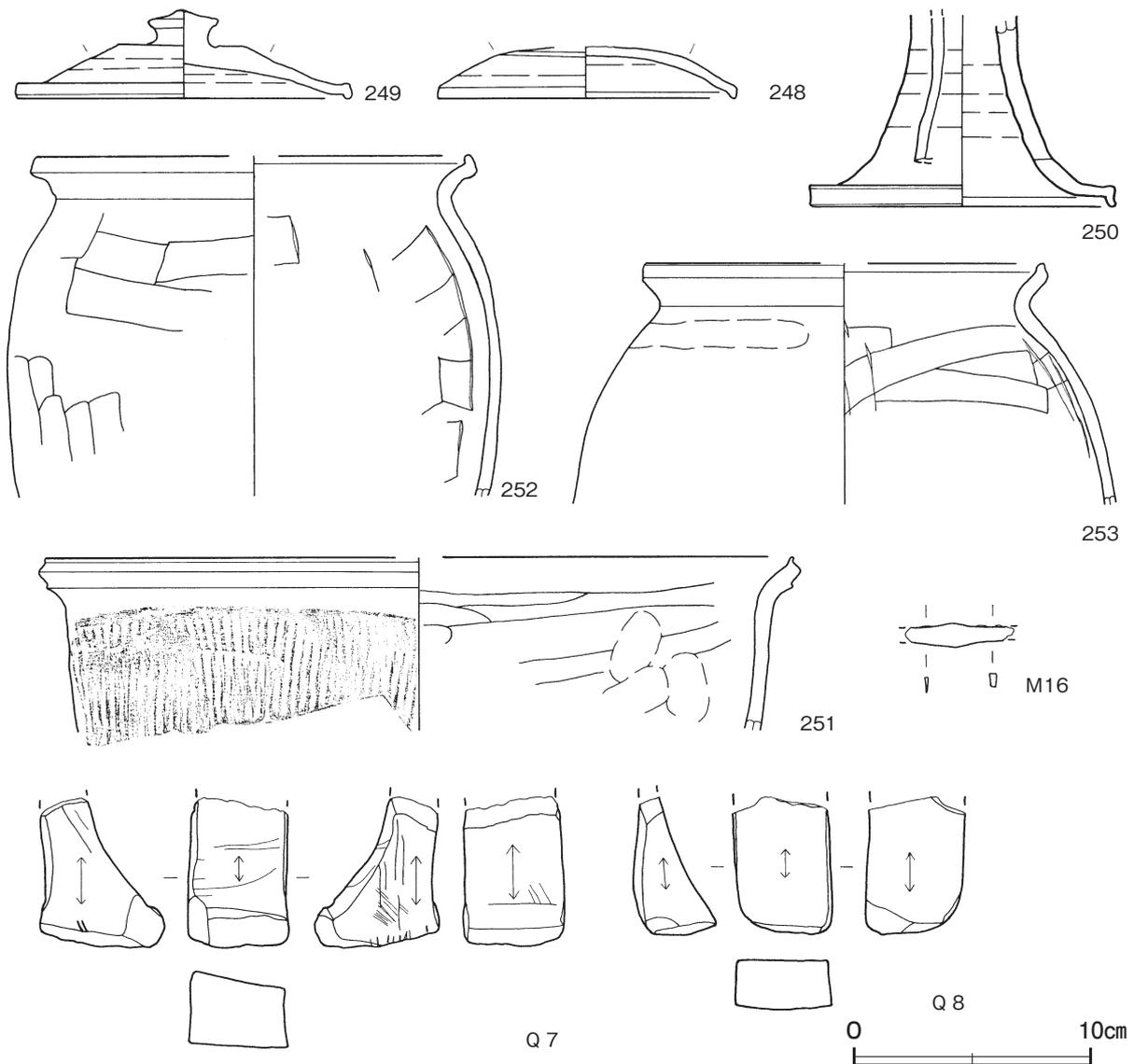
覆土 4層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。第5～11層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|--------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 7 黒褐色 | 粘土ブロック中量 |
| 3 褐色 | 粘土ブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック微量 |
| 4 灰褐色 | 粘土ブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 9 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック微量 |
| 5 黒褐色 | 粘土ブロック多量, 焼土ブロック少量 | 10 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量 |
| | | 11 黒褐色 | 粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片 298 点 (坏5, 蓋1, 甕類292), 須恵器片 219 点 (坏63, 高台付坏7, 蓋15, 高盤1, 鉢1, 甕類120, 甌12), 石器2点 (砥石), 金属製品1点 (刀子), 瓦2点 (丸瓦, 平瓦) が, 主に竈前方部の覆土中から出土している。247は北西部, 249は北東部, 246・253は南壁付近の床面からそれぞれ出土している。245はP3の上面, 252は竈内から出土している。250は北東部, 251は北西コーナー部の覆土下層から出土している。248・Q7は, P3内から出土している。Q8・M16・T2は, 覆土中から出土している。これらの遺物は, 埋没過程で廃棄された可能性がある。

所見 時期は, 出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第189図 第369号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 190 図 第 369 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第 369 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 188 ~ 190 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
245	須恵器	坏	10.4	3.6	5.6	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方方向の手持ちヘラ削り	P 3 上面	80% PL51 新治窯
246	須恵器	坏	13.8	4.7	6.0	長石・石英・雲母	黒褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方方向の手持ちヘラ削り	床面	95% PL51 新治窯
247	須恵器	高台付坏	-	(2.9)	8.6	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り	床面	30% 新治窯
248	土師器	蓋	12.5	(2.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	天井部回転ヘラ削り 内面黒色処理	P 3 内	50% PL52
249	須恵器	蓋	[13.9]	3.8	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	30% 新治窯
250	須恵器	高盤	-	(8.2)	[12.7]	長石・石英・雲母	灰	普通	脚部透かし 3 か所	覆土下層	20% 新治窯
251	須恵器	鉢	[31.6]	(7.4)	-	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	体部外面縦位の平行叩き 内面横ナデ 指頭痕	覆土下層	5%
252	土師器	甕	[18.4]	(14.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面横・縦位のナデヘラ当て痕 内面横・斜位のナデ	竈内	10%
253	土師器	甕	[16.8]	(10.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面指ナデ 内面横・斜位のナデヘラ当て痕	床面	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 7	砥石	(6.4)	4.3	5.4	(159.2)	凝灰岩	砥面 4 面	P 3 内	PL57
Q 8	砥石	(6.0)	4.2	3.6	(89.1)	凝灰岩	砥面 3 面	覆土中	PL57

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M16	刀子	(4.6)	1.0	0.3	(4.2)	鉄	刃部・茎部欠損 刃断面三角形 両関	覆土中	

番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
T 2	瓦	丸瓦	(9.9)	6.4	(27.6)	長石・石英・雲母	にふい赤褐	普通	玉縁式 凸面筒部・玉縁部縦位のヘラ削り 凹面布目痕	覆土中	PL59

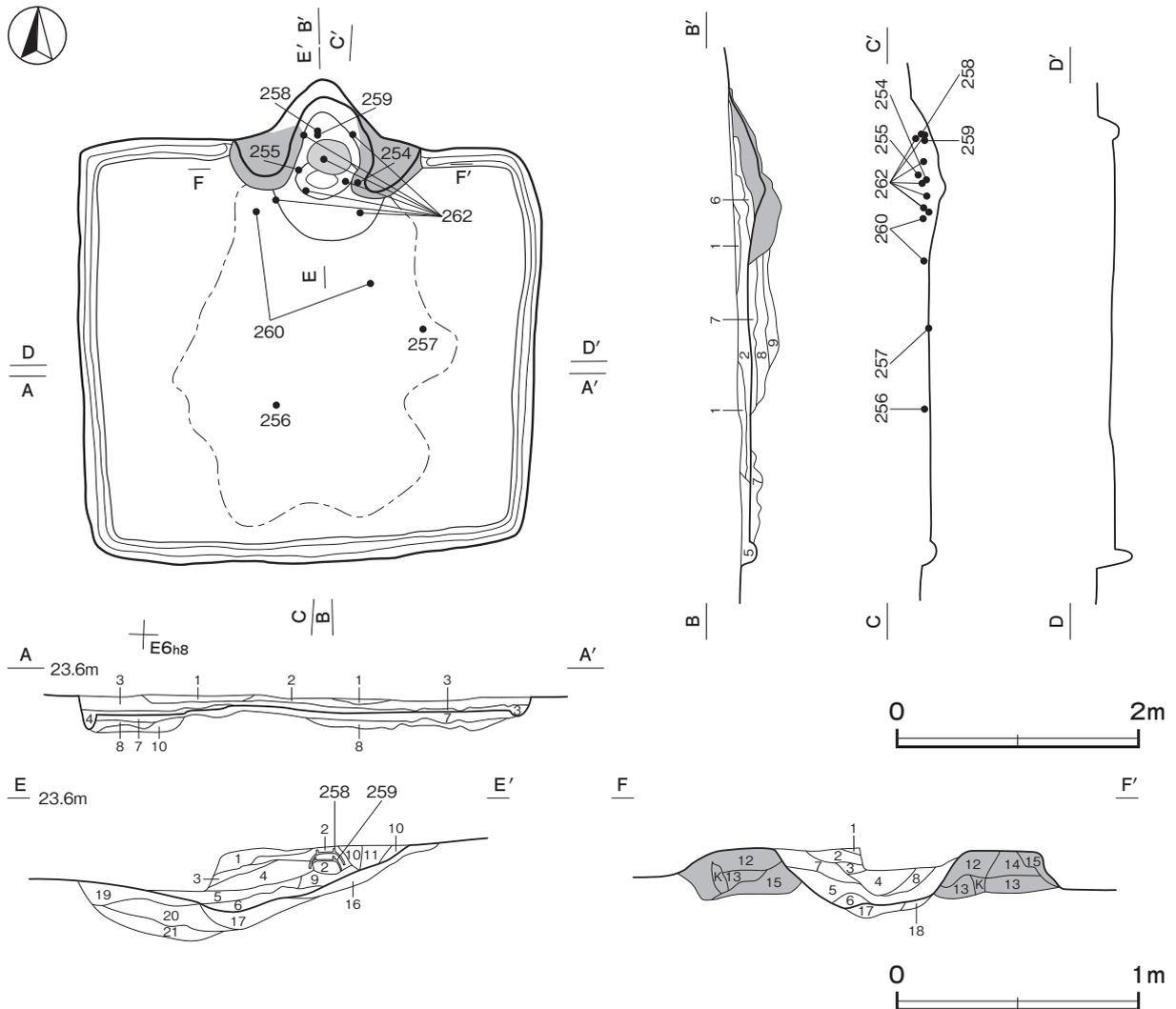
第 370 号 竪穴建物跡 (第 191・192 図 PL39)

位置 調査区中央部の E 6g8 区, 標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

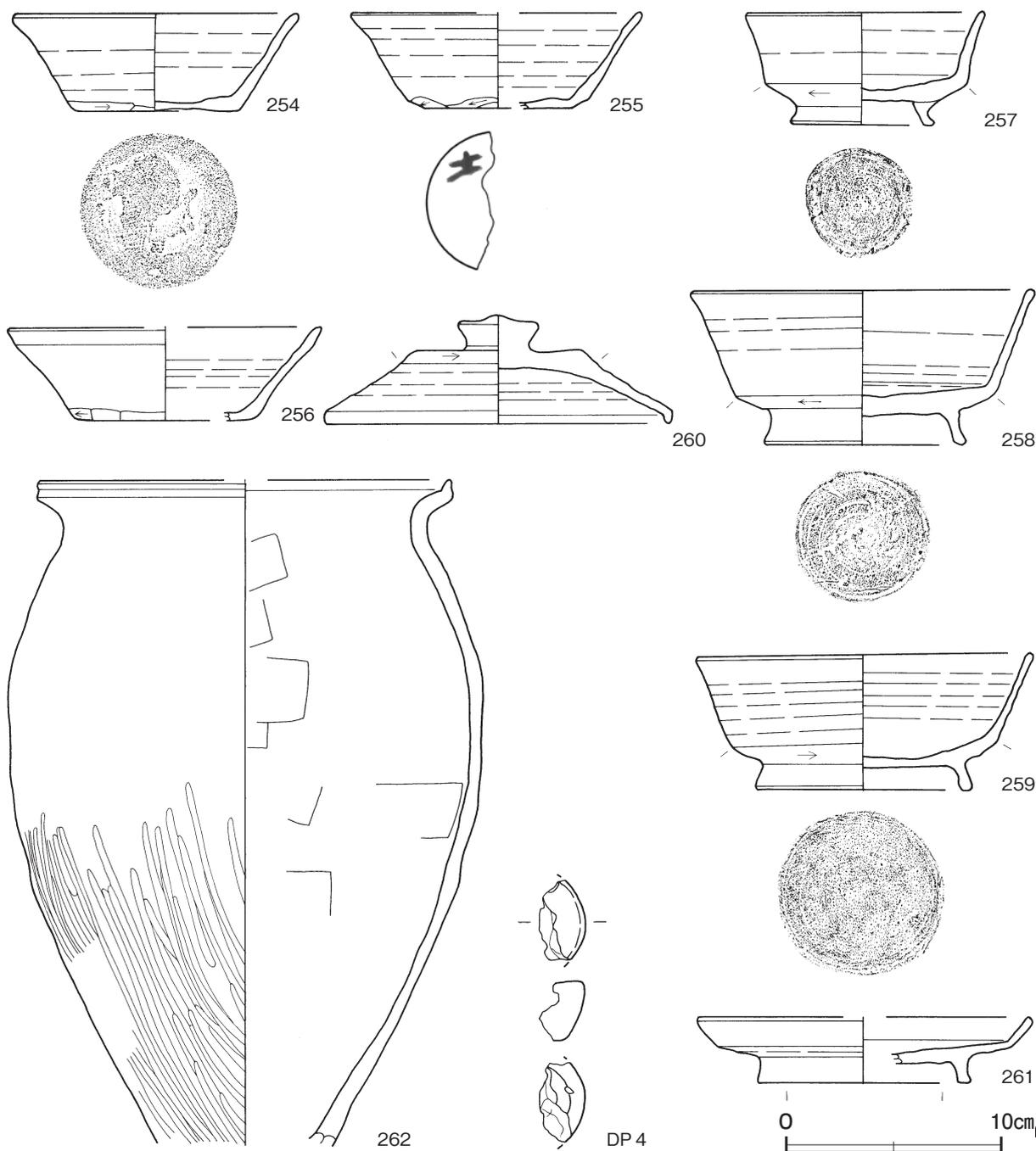
規模と形状 長軸 3.82 m, 短軸 3.54 m の方形で, 主軸方向は N - 3° - W である。壁は高さ 8 ~ 12cm で, ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で, 竈前方部から南壁にかけて踏み固められている。貼床は, 全体を 23cm ほど掘り下げ, 焼土ブロックや粘土ブロックを含む第 7 ~ 10 層を埋土して構築されている。壁溝が全周している。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 135cm で, 燃焼部幅は 54cm である。袖部は地山の上に粘土ブロック・焼土ブロックやロームブロックを含む第 12 ~ 15 層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に 8cm 掘りくぼめ, ロームブロックや粘土ブロックを含む第 17・18 層を埋土している。火床面は第 17 層上面で火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外に 51cm 掘り込まれ, 火床部から緩やかに立ち上がっている。



第 191 図 第 370 号 竪穴建物跡実測図



第 192 図 第 370 号 竪穴建物跡出土遺物実測図

竈土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------------------|----------|------------------------------------|
| 1 灰褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 灰褐色 | 粘土ブロック多量, 焼土ブロック中量, 炭化物少量 |
| 2 黒褐色 | 粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 褐灰色 | 焼土ブロック少量, 粘土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 にぶい褐色 | 焼土ブロック多量, 粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック中量, 炭化粒子少量 |
| 4 にぶい褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 12 灰褐色 | 粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 13 にぶい褐色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量 | 14 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 黒褐色 | 焼土ブロック多量, 炭化粒子微量 | 15 暗褐色 | 粘土ブロック多量, ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 8 灰褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量 | 16 灰褐色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |

- 17 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 18 にぶい褐色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック中量, 炭化粒子微量
- 19 灰 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 20 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 21 灰 褐 色 粘土ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

覆土 6層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第7～10層は貼床の構築土である。

土層解説

- 1 にぶい褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 粘土ブロック多量, ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐 灰 色 ロームブロック・粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 にぶい褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 にぶい褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 にぶい褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック中量, 炭化粒子少量
- 7 黒 褐 色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 8 灰 褐 色 粘土ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 9 にぶい褐色 粘土ブロック中量, 炭化粒子微量
- 10 暗 褐 色 粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 252 点 (坏 7, 甕類 245), 須恵器片 102 点 (坏 56, 高台付坏 6, 蓋 12, 盤 2, 高盤 6, 甕類 20), 土製品 1 点 (紡錘車), 瓦 1 点 (平瓦) が, 全域の覆土中から出土している。260 は竈前方部, 257 は東部, 256 は中央部の床面からそれぞれ出土している。254・255・258・259・262 は竈内から出土している。258・259 は逆位の状態で重なって出土している。261・DP 4 は, 覆土中から出土している。これらの遺物は, 埋没過程で廃棄された可能性がある。

所見 時期は, 出土土器から 9 世紀前葉に比定できる。

第 370 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 192 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほか	出土位置	備 考
254	須恵器	坏	13.2	4.6	7.5	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り後ナデ 底部ヘラ切り痕を残すナデ	竈内	80% PL51 新治窯
255	須恵器	坏	[13.4]	4.5	[6.8]	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り 墨書「□」	竈内	30% PL56 新治窯
256	須恵器	坏	[14.4]	4.4	[8.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り後ナデ 底部ナデ	床面	30% 新治窯
257	須恵器	高台付坏	10.9	5.3	6.4	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	床面	90% PL52 新治窯
258	須恵器	高台付坏	15.8	7.3	9.1	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	竈内	80% PL52 新治窯
259	須恵器	高台付坏	15.4	6.5	9.6	長石・石英・雲母	浅黄	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	竈内	90% PL52 新治窯
260	須恵器	蓋	[15.9]	5.1	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	20% 新治窯
261	須恵器	盤	[15.4]	3.1	[9.8]	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中	20% 新治窯
262	土師器	甕	[19.2]	(31.4)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部下半ヘラ磨き 内面横・斜位のナデ	竈内	40%

番号	器 種	径	厚さ	孔径	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
DP 4	紡錘車	[5.7]	2.8	-	(13.6)	長石・赤色粒子	明黄褐	側面ナデ 欠損	覆土中	

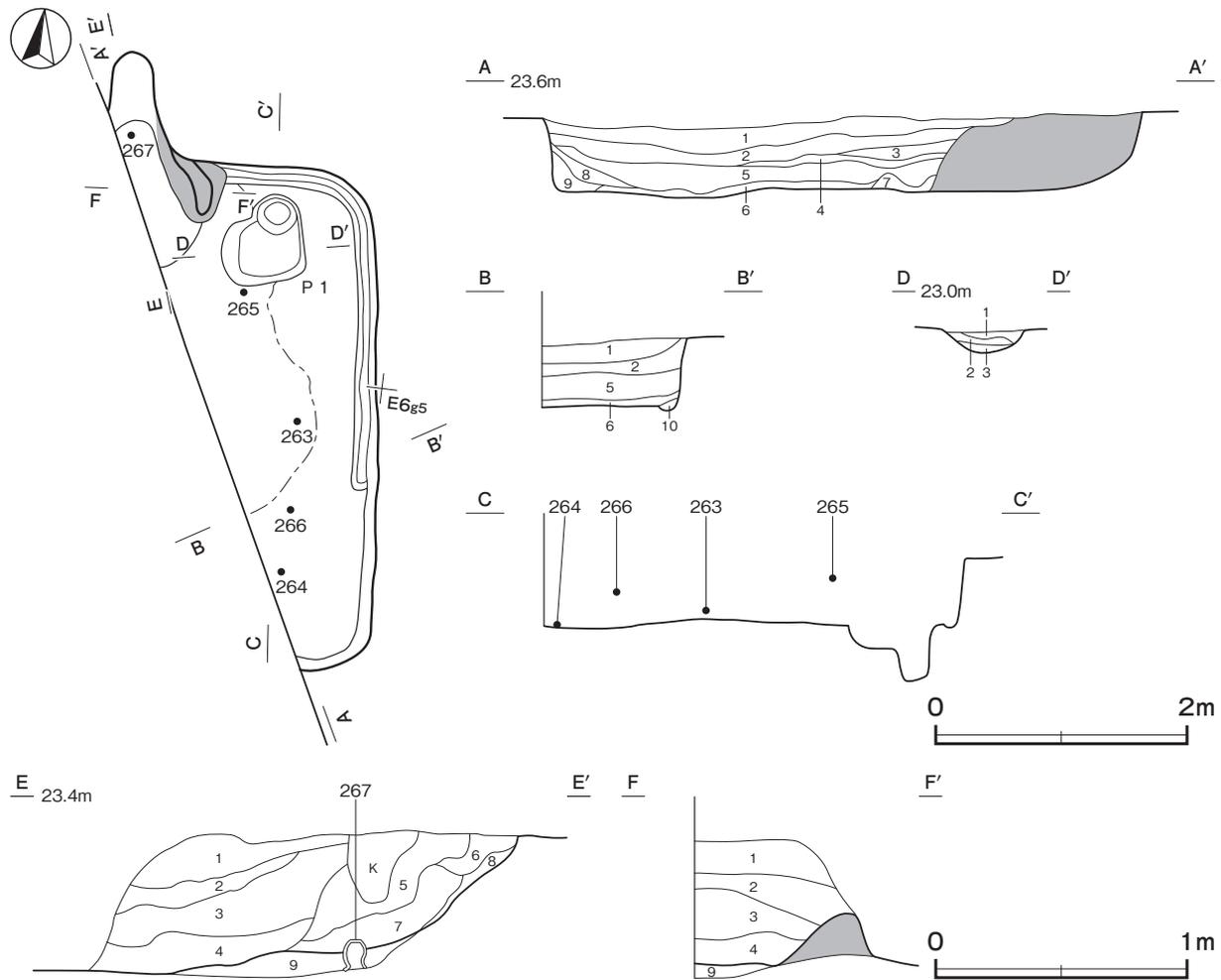
第 372 号竪穴建物跡 (第 193・194 図 PL40)

位置 調査区中央部の E 6 f4 区, 標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 西側が調査区域外に延びているため, 南北軸は 4.02 m で, 東西軸は 1.84 m しか確認できなかった。方形又は長方形と推定できる。主軸方向は N - 2° - W である。壁は高さ 56 ~ 60cm で, ほぼ直立している。

床 平坦で, 竈前方部から中央部にかけて踏み固められている。壁溝が北壁から東壁中央にかけて巡っている。

竈 北壁に付設されている。右袖部から煙道部までしか確認できなかった。規模は焚口部から煙道部まで 168



第193図 第372号竪穴建物跡実測図

cm, 燃烧部幅は38cmしか確認できなかった。右袖部は地山の上に粘土ブロックを含む層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形と推定され、10cmほど掘りくぼめ、粘土ブロック・焼土粒子や炭化粒子を含む第9層を埋土している。火床面は第9層上面で、赤変していない。支脚は小形甕を利用している。煙道部は壁外に83cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|--------------------------|----------------------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量 | 6 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック微量 | 7 黒褐色 焼土ブロック中量, 粘土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 粘土ブロック・焼土ブロック少量 | 8 黒褐色 焼土ブロック少量, 粘土ブロック微量 |
| 4 黒褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量 | 9 黒色 粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック微量 | |

ピット P1は深さ42cmで竈の東側に位置していることから、支柱穴と考えられる。

ピット土層解説

- | | |
|------------------------------|-----------------------------------|
| 1 明褐色 粘土ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 にぶい褐色 焼土ブロック多量, 粘土ブロック中量, 炭化物少量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック多量, 粘土ブロック・炭化物少量 | |

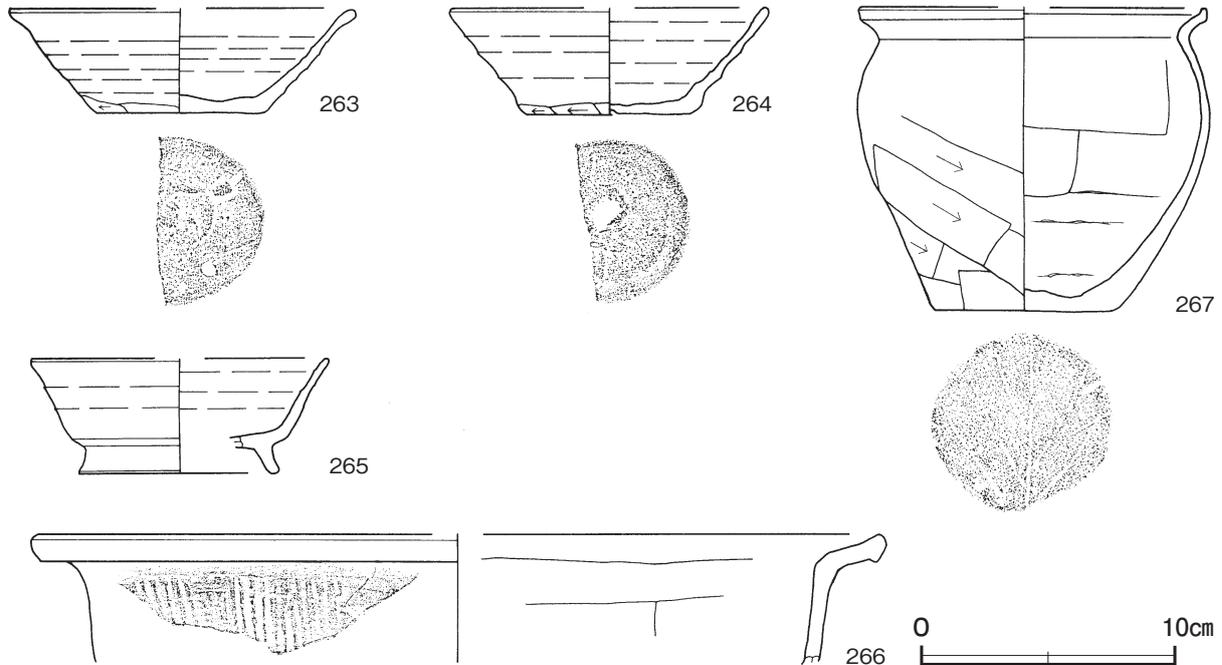
覆土 10層に分層できる。焼土ブロックや粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量, 粘土ブロック・焼土粒子微量 | 6 灰褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 極暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 7 暗褐色 焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック少量 |
| 3 にぶい褐色 粘土ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 灰褐色 粘土ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 褐灰色 粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 にぶい褐色 粘土ブロック多量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 10 褐色 粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片 108 点（坏 3，小形甕 1，甕類 104），須恵器片 284 点（坏 96，高台付坏 14，蓋 16，高盤 2，鉢 1，甕類 152，甗 3），瓦 1 点（平瓦）が，主に北部の覆土上層から出土している。263 は東壁付近，264 は南部の床面からそれぞれ出土している。267 は火床面に逆位の状態に据えられ，支脚に転用されている。265 は北東コーナー部，266 は東壁付近の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は，重複関係や出土土器から 9 世紀中葉に比定できる。



第 194 図 第 372 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 372 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 194 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
263	須恵器	坏	[13.6]	4.2	6.6	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底面回転ヘラ切を残すナデ	床面	30%新治窯
264	須恵器	坏	[12.3]	4.3	6.4	長石・石英・雲母	灰褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り後ナデ 底面回転ヘラ切後ナデ	床面	30%新治窯
265	須恵器	高台付坏	[11.6]	4.6	[7.8]	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部ロクロナデ 二次焼成	覆土上層	30%新治窯
266	須恵器	鉢	[33.0]	(5.2)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部外面縦位の平行叩き 内面横位のナデ	覆土上層	5%
267	土師器	小形甕	[13.7]	12.2	7.0	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部下半ヘラ削り 内面横位のナデ 輪積痕 底部木葉痕 二次焼成	竈内	80% PL53 支脚転用

第 373 号竪穴建物跡（第 195・196 図 PL40）

位置 調査区中央部の E 6 d4 区，標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 南西コーナー部が調査区域外に延びているが，長軸 4.20 m，短軸 4.10 m の方形で，主軸方向は N - 80° - E である。壁は高さ 34 ~ 39cm で，ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で，中央部が踏み固められている。貼床は，全体を 16cm ほど掘り下げ，焼土ブロックや粘土ブロックを含む第 6 ~ 8 層を埋土して構築されている。壁溝が北西コーナー部を除き巡っている。

竈 竈 1 は，東壁のやや南寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 106cm で，燃焼部幅は 69cm である。袖部は地山の上に焼土ブロックや粘土ブロックを含む第 9 ~ 11 層を積み上げて構築されている。火床

部は楕円形に12cm掘りくぼめ、焼土ブロックや炭化粒子を含む第13・14層を埋土している。火床面は第13層上面で火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外に63cm掘り込まれ、竈2の煙道部を短く造り替えている。火床部から外傾している。

竈2は、煙道部のみ遺存している。煙道部は壁外に91cm掘り込まれている。第15層は竈1を構築するために埋め戻した層である。

竈3は北壁に付設されている。焚口部と袖部の一部が壁溝に掘り込まれていることから火床部から煙道部まで136cm、燃焼部幅は53cmしか確認できなかった。袖部は地山の上に粘土ブロックを含む第9層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に6cm掘りくぼめ、焼土ブロックや炭化粒子を含む第10層を埋土している。火床面は第10層上面で火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外に110cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。第11層は支脚痕である。壁溝が竈3の火床面を掘り込んでいる。

竈1・2土層解説

1 黒褐色	焼土ブロック・粘土ブロック少量	8 黒褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子微量
2 黒褐色	粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量	9 黒褐色	粘土ブロック多量
3 黒褐色	粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量	10 黒褐色	焼土ブロック多量、粘土ブロック少量
4 黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量、粘土ブロック微量	11 黒褐色	焼土ブロック・粘土ブロック微量
5 黒褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子少量、粘土ブロック微量	12 黒褐色	焼土ブロック多量
6 黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量	13 黒褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子少量
7 黒褐色	粘土ブロック中量、焼土ブロック微量	14 黒褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子少量
		15 黒褐色	焼土ブロック少量

竈3土層解説

1 黒褐色	粘土ブロック・焼土粒子微量	6 黒褐色	粘土ブロック・焼土ブロック中量
2 黒褐色	粘土ブロック中量	7 黒褐色	焼土ブロック・粘土ブロック少量
3 黒褐色	焼土ブロック・粘土ブロック微量	8 黒褐色	焼土ブロック少量、粘土ブロック微量
4 黒褐色	焼土ブロック中量、粘土ブロック少量、炭化粒子微量	9 黄褐色	粘土ブロック多量
5 黒色	焼土ブロック多量、炭化粒子微量	10 黒褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子少量
		11 黒褐色	焼土ブロック中量

ピット 5か所。P1～P4は深さ28～62cmで支柱穴である。P5は、深さ38cmで南壁寄りに位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

1 黒褐色	粘土ブロック少量	5 黒褐色	粘土粒子中量
2 黒褐色	粘土ブロック中量	6 黒褐色	粘土ブロック少量
3 黒褐色	粘土ブロック少量	7 黒褐色	粘土ブロック多量
4 暗褐色	粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量		

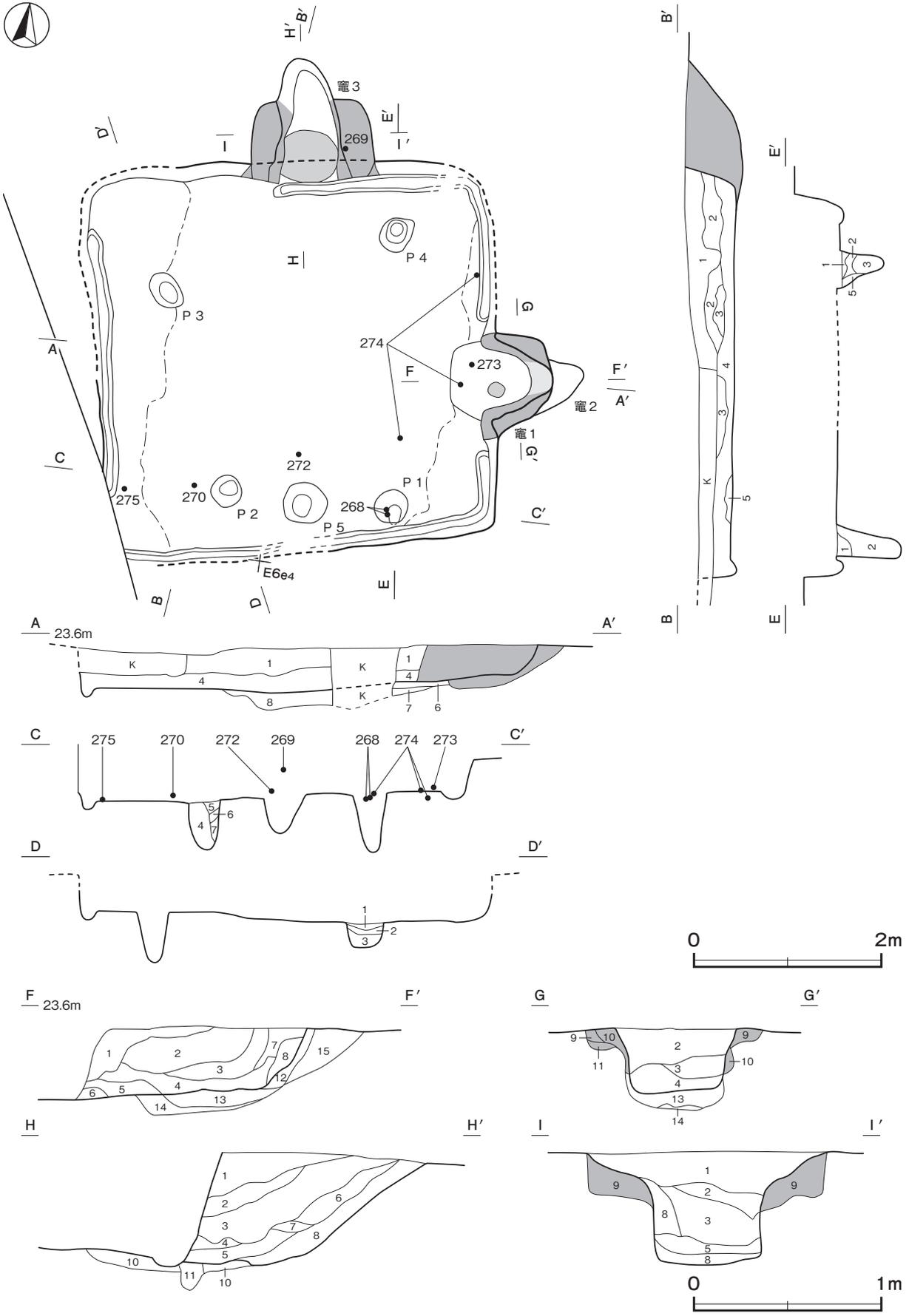
覆土 5層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。第6～8層は貼床の構築土である。

土層解説

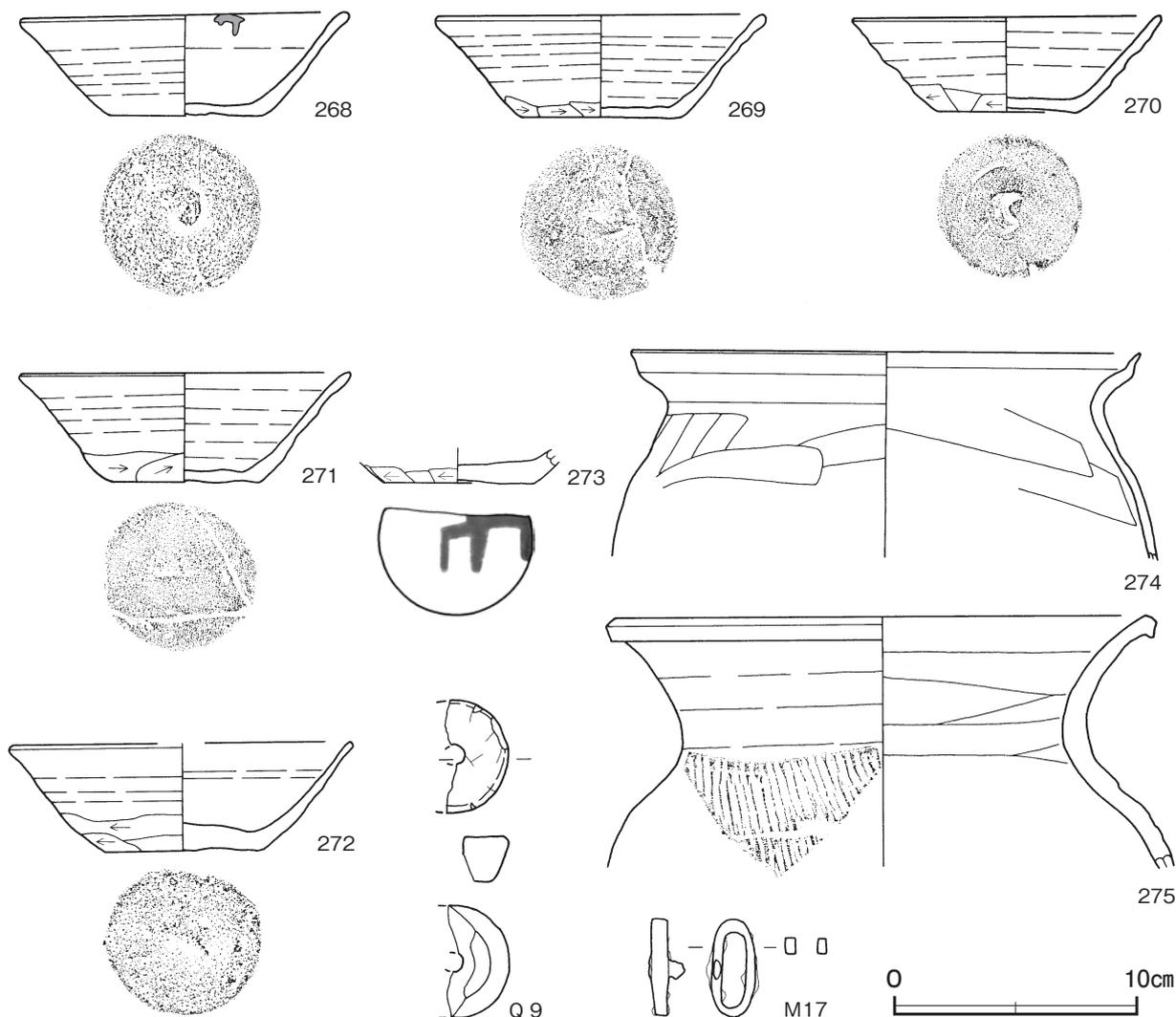
1 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子微量	4 黒褐色	焼土ブロック・粘土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量
2 黒褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量	5 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量	6 黒褐色	粘土ブロック多量、焼土ブロック微量
		7 暗褐色	粘土ブロック微量
		8 黒色	焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片499点(坏10, 高台付坏5, 蓋3, 甕類481), 須恵器片599点(坏182, 高台付坏12, 蓋28, 高盤3, 甕類371, 甗3), 石器1点(紡錘車), 金属製品3点(釘, 責金具, 不明), 瓦1点(平瓦)が、全域の覆土上層から下層にかけて出土している。270・275は南西部, 274は竈1の前方部の床面からそれぞれ出土している。268はP1の上面, 273は竈1内, 269・M17は竈3内からそれぞれ出土している。271・Q9は覆土中から出土している。

所見 竈は北壁の竈3, 東壁の竈2, 竈1の順に造り替えている。時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第 195 図 第 373 号竪穴建物跡実測図



第 196 図 第 373 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 373 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 196 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
268	須恵器	坏	13.3	4.3	6.3	長石・石英・雲母	灰褐	普通	体部下端ナデ 底部ヘラ切痕を残すナデ 油煙	P 1 上面	90% 新治窯 PL51
269	須恵器	坏	13.5	4.3	6.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	暗灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部不定方向の手持ちヘラ削り	竈 3 内	80% 新治窯 PL51
270	須恵器	坏	12.7	4.1	5.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	床面	60% 新治窯
271	須恵器	坏	13.5	4.7	6.0	長石・石英・雲母	褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り後ナデ 二次焼成	覆土中	60% 新治窯
272	須恵器	坏	[14.0]	4.5	6.4	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切痕を残すナデ	床面	40% 新治窯
273	須恵器	坏	-	(1.5)	6.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り後ナデ 墨書「市」	竈 1 内	10% 新治窯
274	土師器	甕	20.8	(8.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面縦・横位のナデ 内面斜位のナデ	床面	20%
275	須恵器	甕	21.9	(10.5)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位の平行叩き	床面	20% 新治窯

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 9	紡錘車	[4.8]	(1.8)	[0.6]	(28.6)	変成岩	上・下面研磨 一方向からの穿孔	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M17	貴金具	4.0	1.9	0.4	8.8	鉄	環状 中央部に突起 断面四角形	竈 3 内	PL58

印刷仕様

編集 OS Microsoft Windows 10 Pro
編集 Adobe InDesign CC
図版作成 Adobe Illustrator CS 4
写真調整 Adobe Photoshop CS 4
Scanning 6×7 film EPSON GT-X980
図面類 RICOH-imagio MPW4001
使用Font OpenType リュウミンPro・L 太ゴB101Pro
写真 線数 モノクロ175線以上 カラー210線以上
印刷 印刷所へは、Adobe InDesign CCでレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第435集

九重東岡廃寺 金田西遺跡 上巻

中根・金田台特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書XXI

平成31(2019)年 3月15日 印刷

平成31(2019)年 3月18日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL 029-225-6587

HP <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 八幡印刷株式会社

〒310-0911 水戸市見和3丁目1528-38

TEL 0120-23-1473

茨城県教育財団文化財調査報告第435集

九重東岡廃寺 金田西遺跡

中根・金田台特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書 XXI

下 卷

平成 31 年 3 月

独立行政法人都市再生機構
首都圏ニュータウン本部
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第435集

ここの え ひがし おか
九重東岡廃寺
こん だ にし
金田西遺跡

中根・金田台特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書 XXI

下 卷

平成31年 3 月

独立行政法人都市再生機構
首都圏ニュータウン本部
公益財団法人茨城県教育財団

目 次

- 下 卷 -

第4章 金田西遺跡

第3節 遺構と遺物

2 平安時代の遺構と遺物

- (1) 竪穴建物跡（第374号竪穴建物跡～第392号竪穴建物跡）…………… 225
- (2) 掘立柱建物跡…………… 245
- (3) 井戸跡…………… 260
- (4) 粘土採掘坑…………… 261
- (5) 土 坑…………… 265
- (6) 柱穴列…………… 270
- (7) 溝 跡…………… 272
- (8) ピット群…………… 273

3 江戸時代の遺構と遺物…………… 274

- (1) 土 坑…………… 274
- (2) 溝 跡…………… 275

4 その他の遺構と遺物…………… 277

- (1) 土 坑…………… 277
- (2) 柱穴列…………… 284
- (3) 溝 跡…………… 285
- (4) ピット群…………… 285
- (5) 遺構外出土遺物…………… 286

第5章 まとめ…………… 291

写真図版…………… PL 1～PL60

抄 録

付 図

第 374 号 竪穴建物跡 (第 197・198 図 PL41)

位置 調査区中央部の E 6 e6 区, 標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 116 号 掘立柱建物に掘り込まれている。

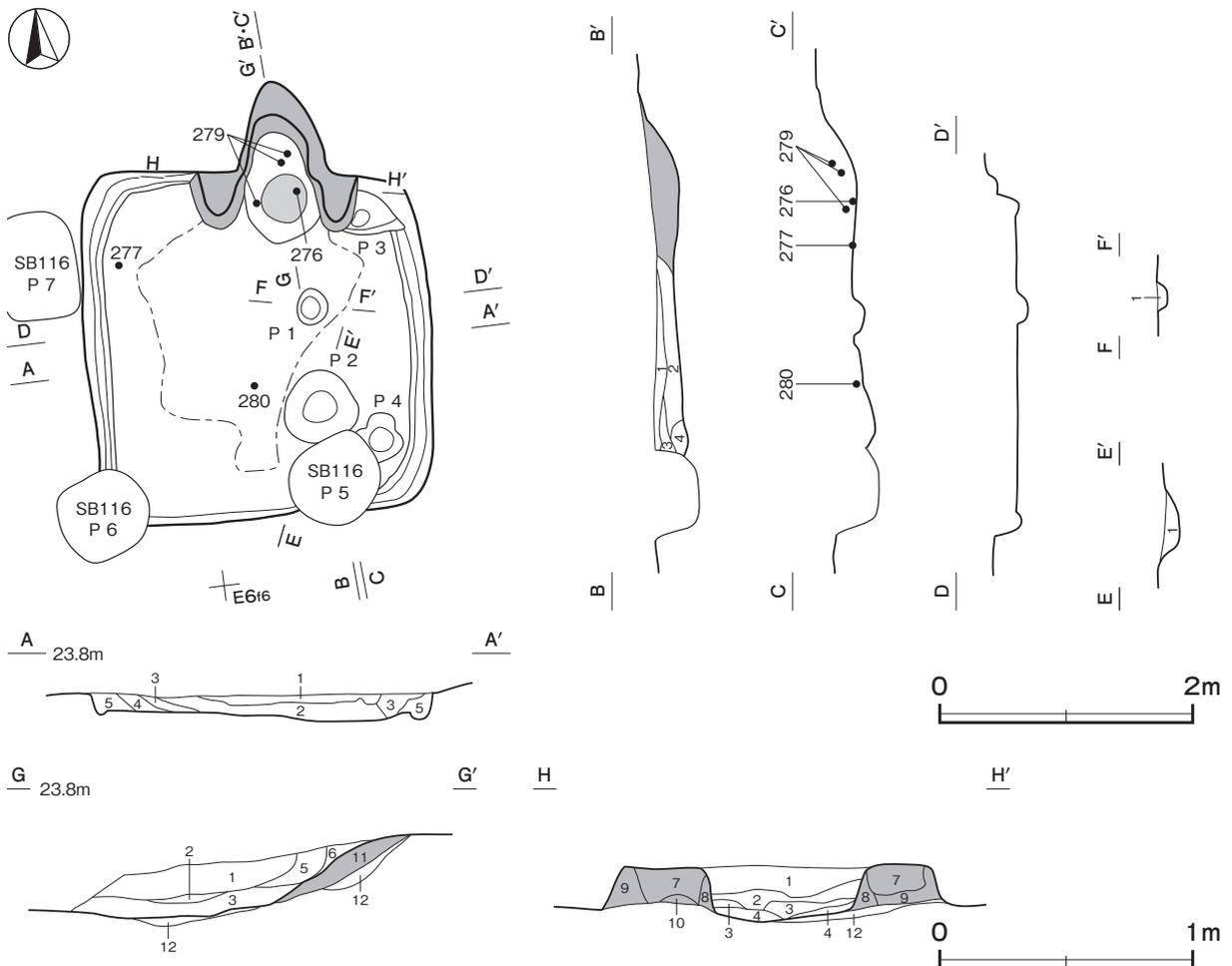
規模と形状 長軸 2.81 m, 短軸 2.69 m の方形で, 主軸方向は N - 2° - E である。壁は高さ 15 ~ 18cm で, 外傾している。

床 平坦で, 竈の前方部から南壁付近にかけて踏み固められている。壁溝は南壁を除いて巡っている。

竈 北壁のやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 130cm で, 燃烧部幅は 59cm である。袖部は地山と第 12 層の上に粘土ブロックや焼土ブロックを含む第 7 ~ 10 層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に 4cm 掘りくぼめ, 粘土ブロックや焼土ブロックを含む第 12 層を埋土している。火床面は第 12 層上面で火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 70cm 掘り込まれ, 火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|----------------------------------|------------|-------------------------------|
| 1 暗 褐 色 | 焼土ブロック中量, 粘土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 6 褐 灰 色 | 粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐 灰 色 | 粘土ブロック中量, 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 暗 褐 色 | 粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 灰 褐 色 | 粘土ブロック多量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 8 褐 灰 色 | 粘土ブロック多量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 4 暗 褐 色 | 粘土ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 灰 褐 色 | 粘土ブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 5 灰 褐 色 | 粘土ブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量 | 10 暗 灰 褐 色 | 粘土ブロック多量, 炭化粒子微量 |
| | | 11 暗 褐 色 | 焼土ブロック・粘土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量 |
| | | 12 暗 褐 色 | 粘土ブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 |



第 197 図 第 374 号 竪穴建物跡実測図

ピット 4か所。P 1～P 4は深さ6～14cmで浅く、規則性がない。性格は不明である。

ピット土層解説（各ピット共通）

1 黒褐色 粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

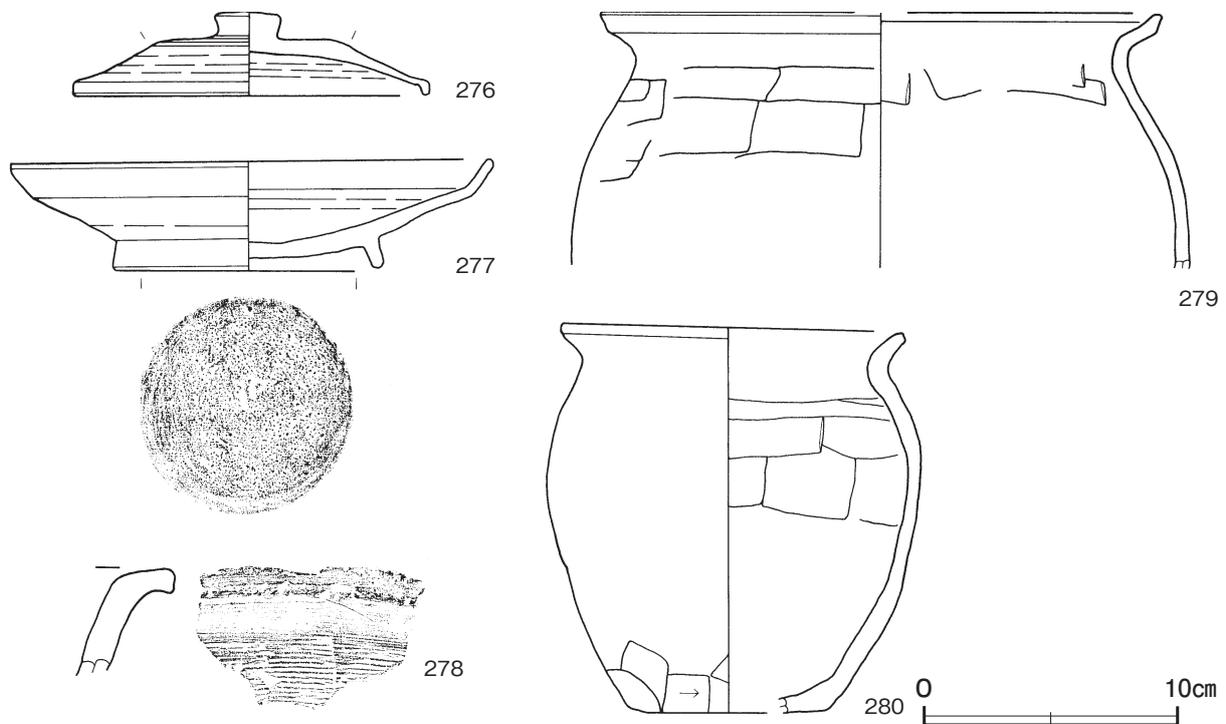
覆土 5層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子 3 褐色 粘土ブロック中量，焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
 2 灰褐色 粘土ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量 4 灰褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子微量
 5 褐色 ロームブロック少量，粘土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 62点（坏1，小形甕1，甕類60），須恵器片 23点（坏9，高台付坏1，蓋2，盤1，高盤1，鉢1，甕類8），瓦1点（平瓦）が，主に東部の覆土中層から出土している。277は西壁付近の床面，280は中央部の床面から正位の状態で出土している。276は竈内から正位の状態で出土している。これらの遺物は廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から9世紀前葉に比定できる。



第198図 第374号竪穴建物跡出土遺物実測図

第374号竪穴建物跡出土遺物観察表（第198図）

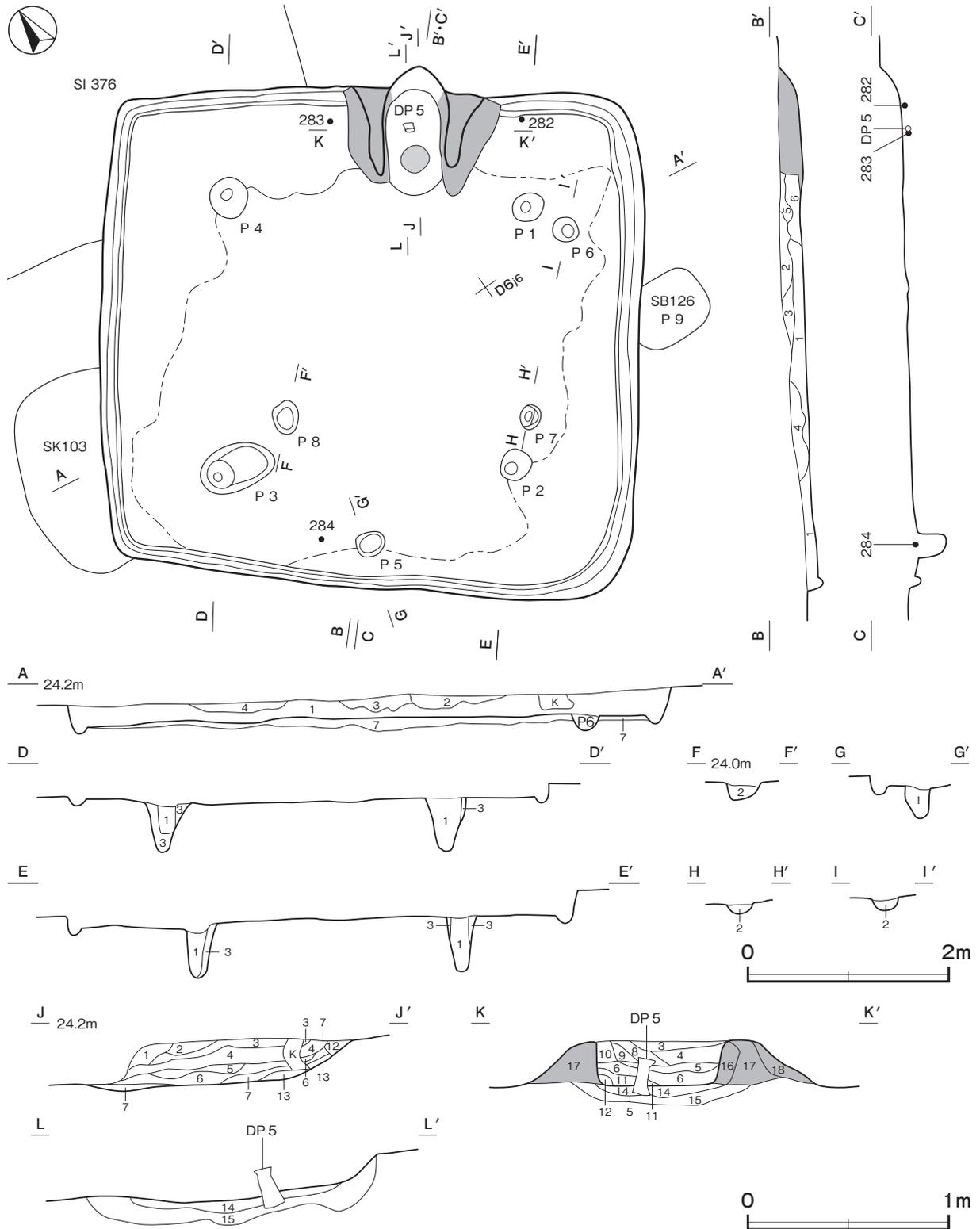
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
276	須恵器	蓋	14.0	3.4	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り	竈内	90% PL52 新治窯
277	須恵器	盤	19.0	4.5	10.3	長石・石英・雲母	灰黄	普通	底部回転ヘラ削り	床面	70% 新治窯
278	須恵器	鉢	-	(4.2)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部外面横位の平行叩き	覆土中	5%
279	土師器	甕	[22.0]	(10.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面横ナデ 内面横・斜位のナデ	竈内	10%
280	土師器	小形甕	13.4	15.6	7.7	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下位ヘラ削り 内面横位のナデ	床面	80% PL54

第 378 号 竪穴建物跡 (第 199・200 図 PL41・42)

位置 調査区中央部の D 6 i5 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 376 号 竪穴建物跡, 第 126・127 号 掘立柱建物跡, 第 90・103 号 土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 5.35 m, 短軸 5.08 m の隅丸方形で, 主軸方向は N - 37° - E である。壁は高さ 2 ~ 25 cm で



第 199 図 第 378 号 竪穴建物跡実測図

ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、竈の前方部から南西壁にかけて踏み固められている。貼床は、全体を12cmほど掘り下げ、焼土ブロックと粘土ブロックを含む第7層を埋土して構築されている。壁溝は全周している。

竈 北東壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで126cmで、燃焼部幅は56cmである。袖部は地山と第14・15層の上に焼土ブロックや粘土ブロックを含む第16～18層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に13cm掘りくぼめ、焼土ブロックや粘土ブロックを含む第14・15層を埋土している。火床面は第14層上面で火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に26cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

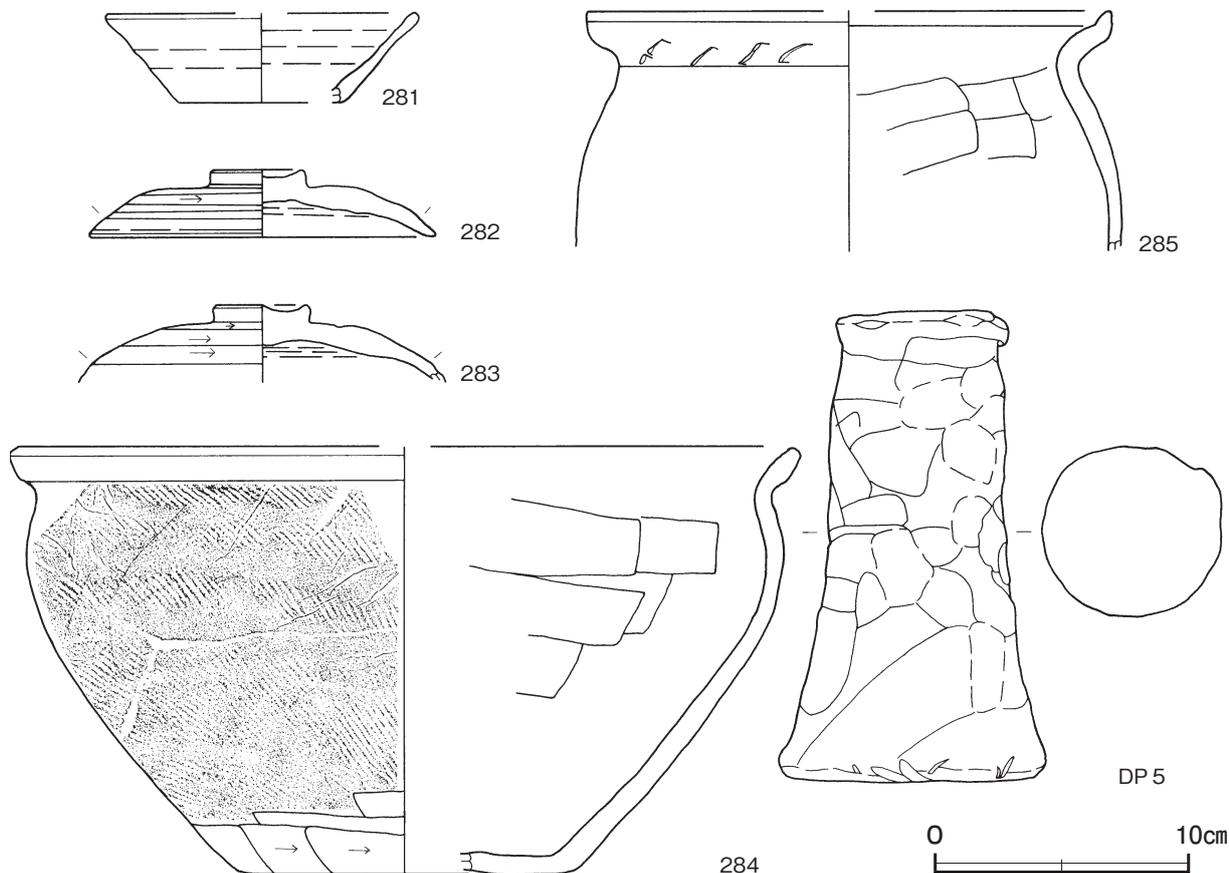
竈土層解説

- | | |
|----------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量 | 9 灰褐色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子・粘土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 11 極暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量, 粘土ブロック微量 |
| 4 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 12 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 13 灰褐色 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 6 黒褐色 焼土ブロック中量, 粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 14 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 7 黒色 焼土ブロック・炭化粒子中量, 粘土ブロック微量 | 15 灰褐色 粘土ブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 8 黒褐色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック中量, 炭化粒子微量 | 16 黒褐色 粘土ブロック・焼土粒子多量 |
| | 17 極暗褐色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| | 18 黒褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 |

ピット 8か所。P1～P4は深さ50～55cmで支柱穴である。P5は、深さ28cmで南西壁寄りに位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6～P8は深さ10～18cmで補助柱穴と思われる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|--------------------------|----------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量 | 3 黒褐色 粘土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量 | |



第200図 第378号竪穴建物跡出土遺物実測図

覆土 6層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。第7層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|---------|------------------|---------|----------------------------|
| 1 黒 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 5 暗 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 6 暗 褐 色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック少量 |
| 3 黒 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 7 黒 色 | 粘土ブロック少量, ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 4 暗 褐 色 | ロームブロック多量 | | |

遺物出土状況 土師器片 196 点 (坏 5, 甕類 190, 手捏土器 1), 須恵器片 121 点 (坏 23, 高台付坏 1, 蓋 7, 盤 1, 高盤 1, 鉢 1, 甕類 87), 土製品 1 点 (支脚) が, 主に東部の覆土上層から下層にかけて出土している。282 は竈右袖部付近, 283 は竈左袖部付近, 284 は南西壁付近の床面からそれぞれ出土している。DP 5 は, 竈の火床部に支脚として据えられた状態で出土している。281・285 は覆土中からそれぞれ出土している。これらの遺物は, 廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から 9 世紀前葉に比定できる。

第 378 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 200 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
281	須恵器	坏	[12.2]	3.6	[6.6]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端ナデ 底部ヘラ削り	覆土中	20% 新治窯
282	須恵器	蓋	[13.5]	2.7	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	90% PL52 新治窯
283	須恵器	蓋	-	(3.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄褐	普通	天井部回転ヘラ削り 二次焼成	床面	50% 新治窯
284	須恵器	鉢	[30.6]	17.1	[13.0]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部外面斜位の平行叩き 下位ヘラ削り 内面横位のナデ	床面	20% 新治窯
285	土師器	甕	[20.6]	(9.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	頸部外面ヘラ当て痕 内面横位のナデ	覆土中	10%

番号	器 種	長さ	最大径	最小径	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
DP 5	支脚	18.9	10.6	6.1	1481.5	長石・石英・赤色粒子	橙	下半ヘラナデ 指頭痕	竈内	PL56

第 380 号竪穴建物跡 (第 201・202 図 PL42)

位置 調査区中央部の D 5 g0 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 5 号ピット群に掘り込まれている。

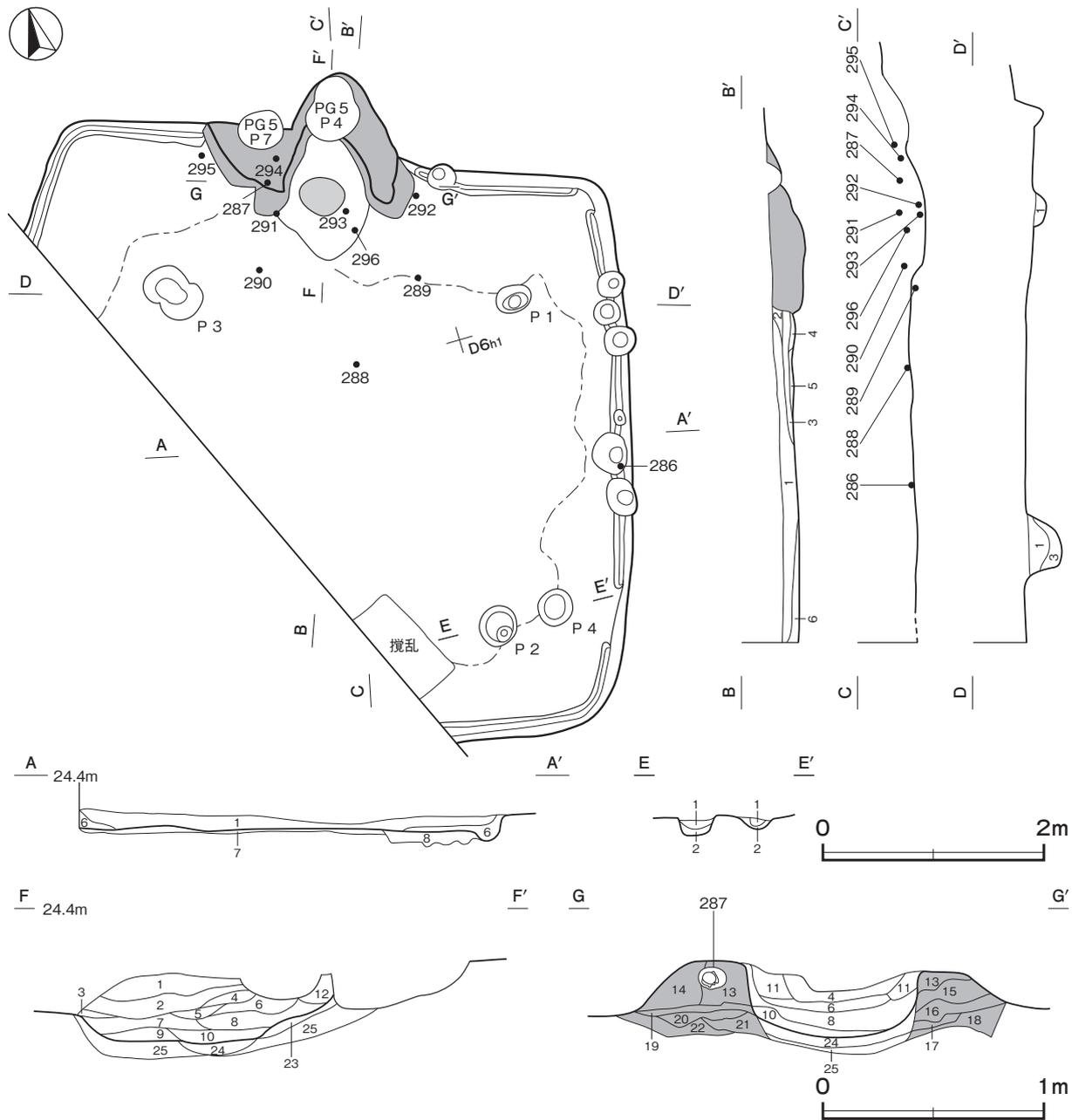
規模と形状 南西部が調査区域外に延びているが, 長軸 5.34 m, 短軸 5.16 m の方形で, 主軸方向は N - 16° - E である。壁は高さ 10 ~ 15cm で, ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で, 竈前方部から中央部にかけて踏み固められている。貼床は, 全体を 6cm ほど掘り下げ, 焼土ブロックや粘土ブロックを含む第 7・8 層を埋土して構築されている。確認した部分では壁溝は巡っている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 172cm で, 燃焼部幅は 71cm である。袖部は地山の上に焼土ブロックや粘土ブロックを含む第 13 ~ 22 層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に 9cm 掘りくぼめ, 粘土ブロックや焼土ブロックを含む第 24・25 層を埋土している。火床面は第 24・25 層上面で火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は第 5 号ピット群に掘り込まれているが壁外に 68cm ほど掘り込まれているものと推定できる。火床部からの立ち上がりは不明である。

電土層解説

- | | | | |
|-----------|-----------------------------------|----------|--------------------------|
| 1 褐 灰 色 | 焼土ブロック中量, 粘土ブロック・炭化物少量, ロームブロック微量 | 5 暗 褐 色 | 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒 褐 色 | 焼土ブロック中量, 粘土ブロック・炭化物少量 | 6 褐 灰 色 | 焼土ブロック中量, 粘土粒子少量 |
| 3 暗 赤 褐 色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量, 粘土ブロック微量 | 7 黒 褐 色 | 炭化物中量, 焼土ブロック・粘土ブロック少量 |
| 4 明 褐 灰 色 | 粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック多量, 粘土ブロック少量 |



第 201 図 第 380 号竪穴建物跡実測図

- | | |
|----------------------------------|---------------------------------|
| 9 灰褐色 粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 17 黒褐色 焼土ブロック中量, 粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 10 黒色 炭化粒子多量, 焼土ブロック・粘土ブロック少量 | 18 暗褐色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 11 暗赤褐色 炭化粒子少量, 焼土ブロック・粘土粒子微量 | 19 黒色 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 12 黒色 炭化粒子多量, 焼土ブロック中量, 粘土ブロック少量 | 20 黒褐色 粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 13 明黄褐色 粘土ブロック多量 | 21 黒褐色 焼土ブロック・粘土粒子中量 |
| 14 黒褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック微量 | 22 黒褐色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック少量 |
| 15 黒褐色 粘土ブロック・焼土ブロック中量, 炭化粒子微量 | 23 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 16 黒褐色 粘土ブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 24 黒褐色 焼土ブロック中量, 粘土ブロック・炭化粒子少量 |
| | 25 黒褐色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック微量 |

ピット 11 か所。P 1～P 3 は深さ 10～30cm で主柱穴である。P 4 は深さ 11cm で、性格は不明である。壁際にある 7 か所の小ピットは、深さは 13～86cm で壁柱穴と考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|-----------------------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 2 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | |

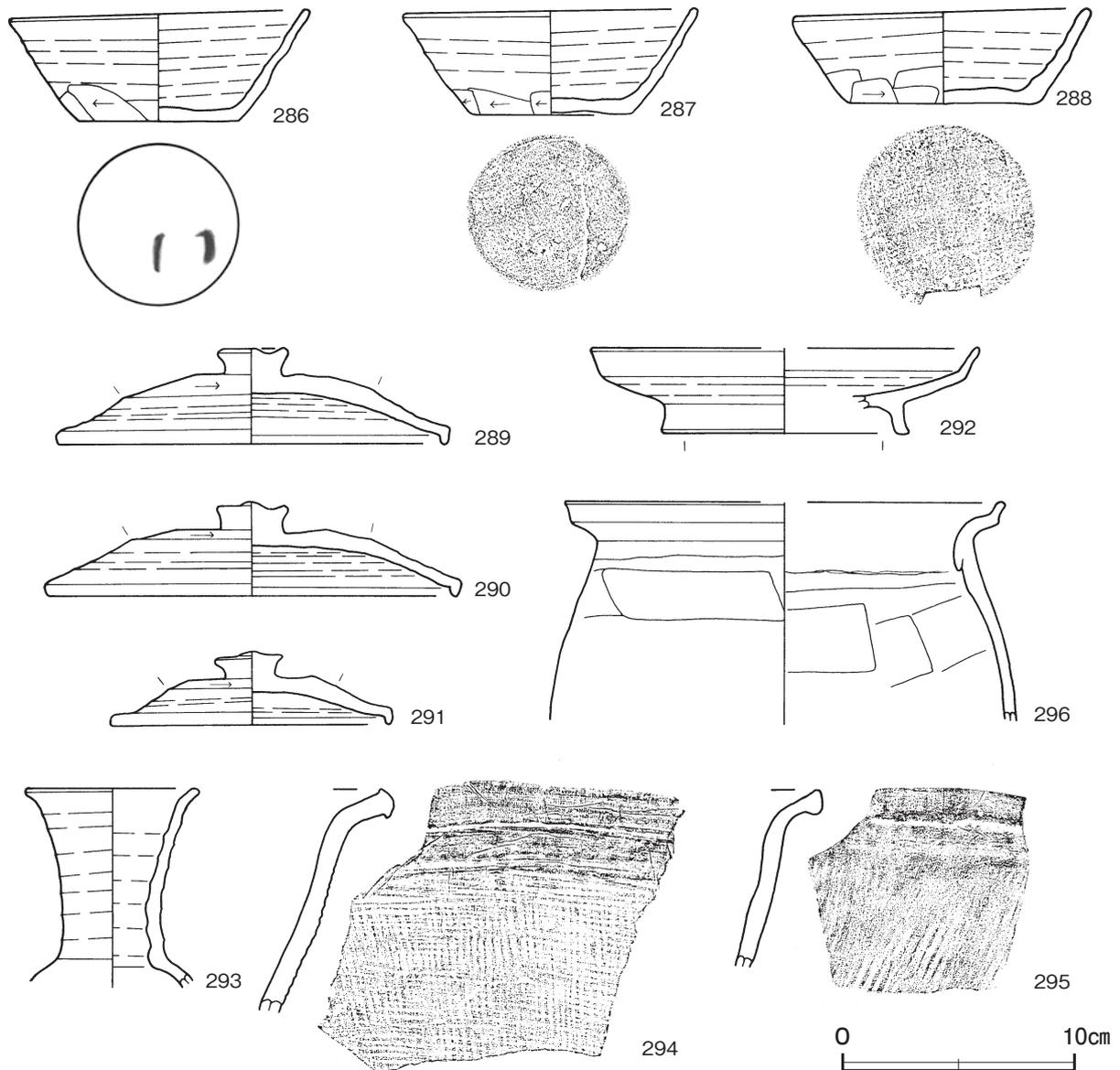
覆土 6層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。第7・8層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | |
|-------------------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 5 黒褐色 粘土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック少量 | 6 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量 |
| 3 黒褐色 焼土ブロック少量, 粘土ブロック微量 | 7 暗褐色 粘土ブロック・炭化粒子中量, 焼土ブロック少量 |
| 4 黒色 焼土ブロック少量, 粘土ブロック・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量 |

遺物出土状況 土師器片 403点 (坏7, 甕類 396), 須恵器片 334点 (坏 130, 高台付坏 14, 蓋 36, 盤 1, 高盤 2, 長頸瓶 1, 鉢 2, 甕類 140, 甌 8) が, 全域の覆土上層から出土している。291・293・296は, 竈内から出土している。287・294は, 左袖部内から出土している。295は左袖部付近, 290は竈前方部, 289・292は右袖部付近, 288は中央部の床面, 286は東壁の壁柱穴上面からそれぞれ出土している。これらの遺物は廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉に比定できる。



第 202 図 第 380 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 380 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 202 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
286	須恵器	坏	12.8	4.9	7.0	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り 墨書「市カ」	壁柱穴上面	100% 新治窯 PL51
287	須恵器	坏	12.7	4.6	6.9	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部二方向の手持ちヘラ削り後ナデ	左袖内	95% 新治窯 PL50
288	須恵器	坏	12.6	4.2	7.8	長石・石英・雲母	黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部二方向の手持ちヘラ削り	床面	95% 新治窯 PL50
289	須恵器	蓋	[16.7]	4.2	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	70% 新治窯
290	須恵器	蓋	[17.6]	4.1	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	60% 新治窯
291	須恵器	蓋	[12.0]	3.1	-	長石・石英・雲母	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	竈内	50% 新治窯
292	須恵器	盤	[16.6]	3.7	[10.6]	長石・石英	褐灰	普通	底部回転ヘラ削り	床面	20%
293	須恵器	長頸瓶	7.2	(8.7)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	頸部ロクロナデ	竈内	10%
294	須恵器	鉢	-	(9.7)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部外面横位の平行叩き後 縦位の平行叩き	左袖内	5%
295	須恵器	鉢	-	(7.7)	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	体部外面斜位の平行叩き	床面	5%
296	土師器	甕	[18.8]	(9.6)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面横ナデ 内面横・斜位のナデ 輪積痕	竈内	20%

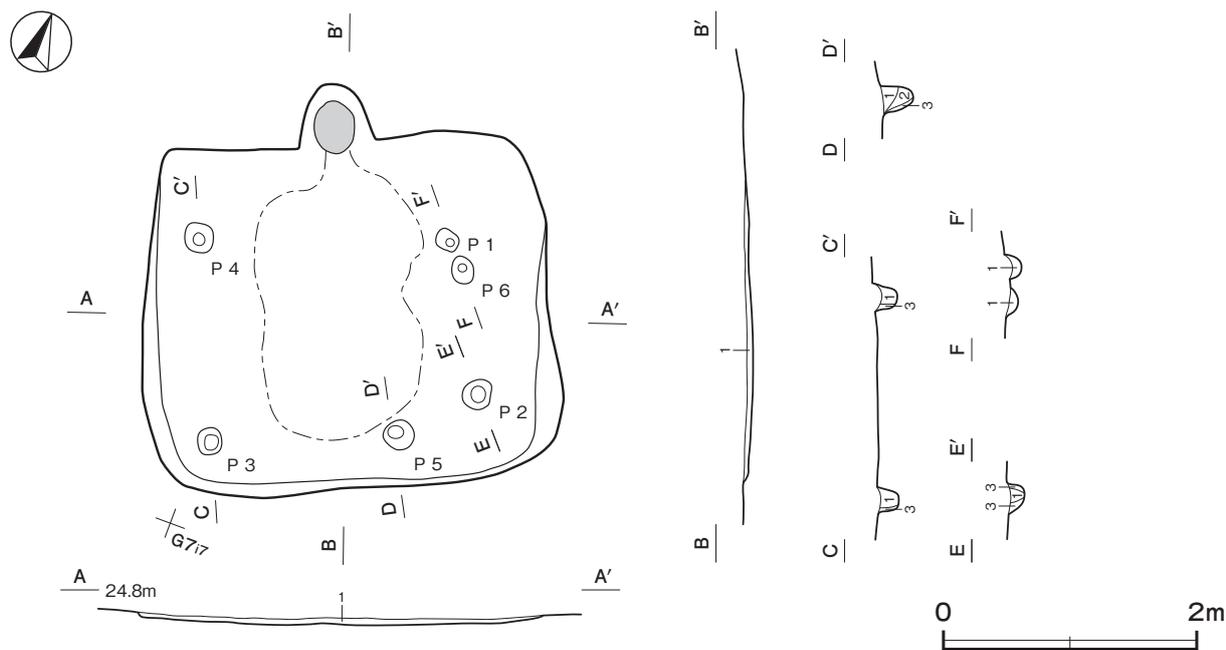
第 383 号 竪穴建物跡 (第 203 図 PL42)

位置 調査区南部の G 7 h7 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 3.31 m, 短軸 2.80 m の方形で, 主軸方向は N - 22° - W である。上部は削平されているが, 壁は高さ 4 cm ほど遺存している。

床 平坦で, 竈前方部から中央部にかけて踏み固められている。

竈 北壁に付設されている。上部が削平されていることから規模は焚口部から煙道部まで 54cm で, 燃烧部幅 56cm しか確認できなかった。火床部はわずかに掘りくぼめ, 地山をそのまま利用している。火床面は火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外に 50cm ほど掘り込まれているものと推定できる。火床部からの立ち上がりは不明である。



第 203 図 第 383 号 竪穴建物跡実測図

ピット 6か所。P 1～P 4は深さ13～21cmで支柱穴である。P 5は深さ27cmで南壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6は深さ11cmで補助柱穴である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子少量

覆土 単一層である。上部が削平されていることから堆積状況は不明である。

土層解説

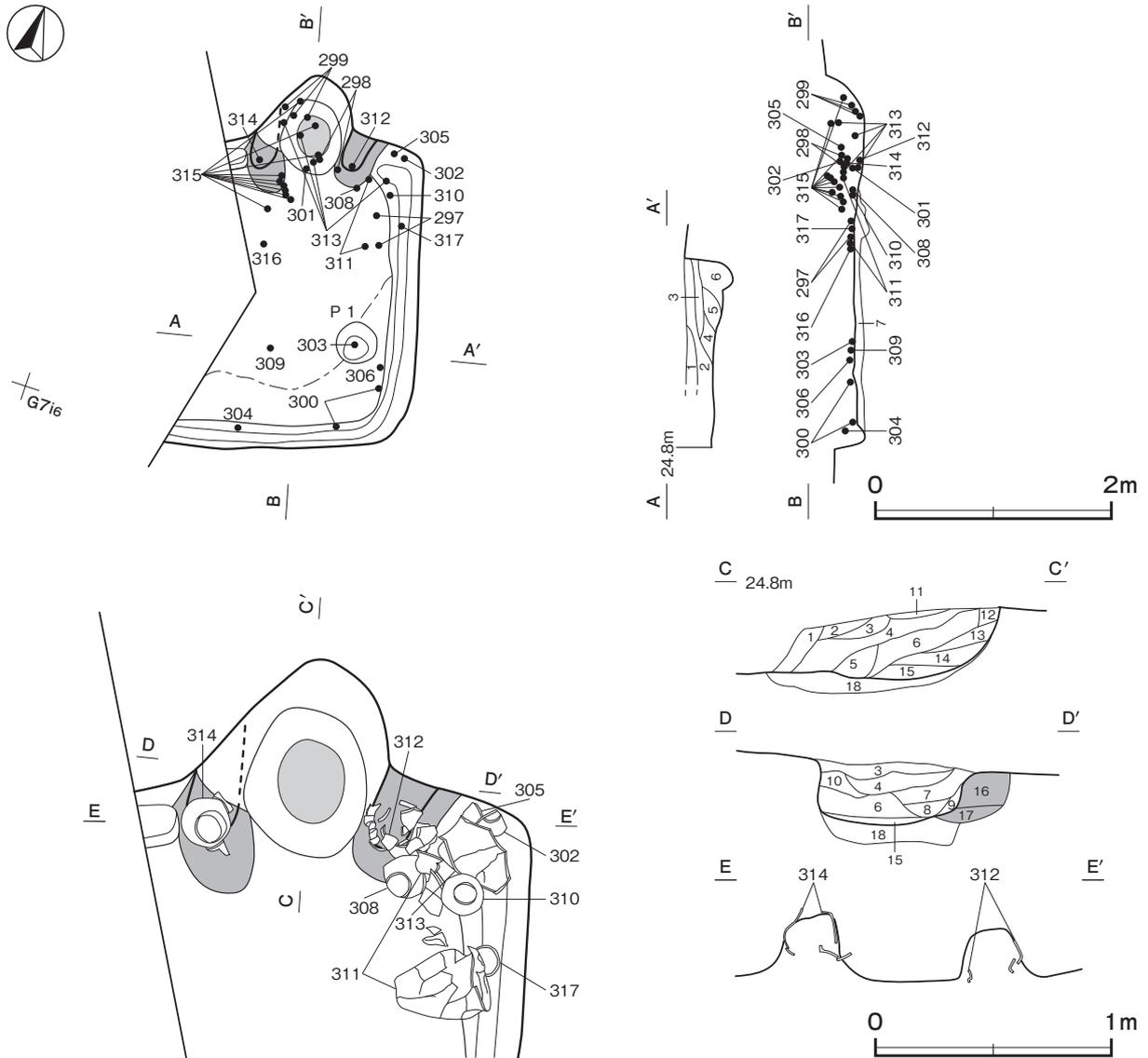
- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 須恵器片1点(坏)が出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器から9世紀代に比定できる。

第385号竪穴建物跡 (第204～208図 PL43)

位置 調査区南部のG7h6区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。



第204図 第385号竪穴建物跡実測図

規模と形状 西側が調査区域外に延びているため、南北軸は2.67 mで、東西軸は1.86 mしか確認できなかった。隅丸方形又は隅丸長方形と推定できる。主軸方向はN-8°-Wである。壁は高さ21～30cmで、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、竈前方部から中央部にかけて踏み固められている。貼床は、全体を8cmほど掘り下げ、ローム粒子や炭化粒子を含む第7層を埋土して構築されている。確認した東側では壁溝が巡っている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで84cmで、燃焼部幅は54cmである。袖部は地山の上に甕を逆位に据え、ロームブロックや粘土ブロックを含む第16・17層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に9cm掘りくぼめ、焼土ブロックやローム粒子を含む第18層を埋土している。火床面は第18層上面で火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外に48cmほど掘り込まれ、火床部から外傾している。

竈土層解説

1 灰黄褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	10 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量
2 褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量	11 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
3 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量	12 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量
4 暗褐色	炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量	13 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量
5 暗褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量	14 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
6 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量、粘土粒子少量	15 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量
7 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量	16 黒褐色	炭化粒子中量、ロームブロック・粘土ブロック少量
8 黒褐色	焼土粒子中量、粘土粒子少量	17 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
9 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量	18 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量

ピット P1は深さ27cmで、東壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 6層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。第7層は貼床の構築土である。

土層解説

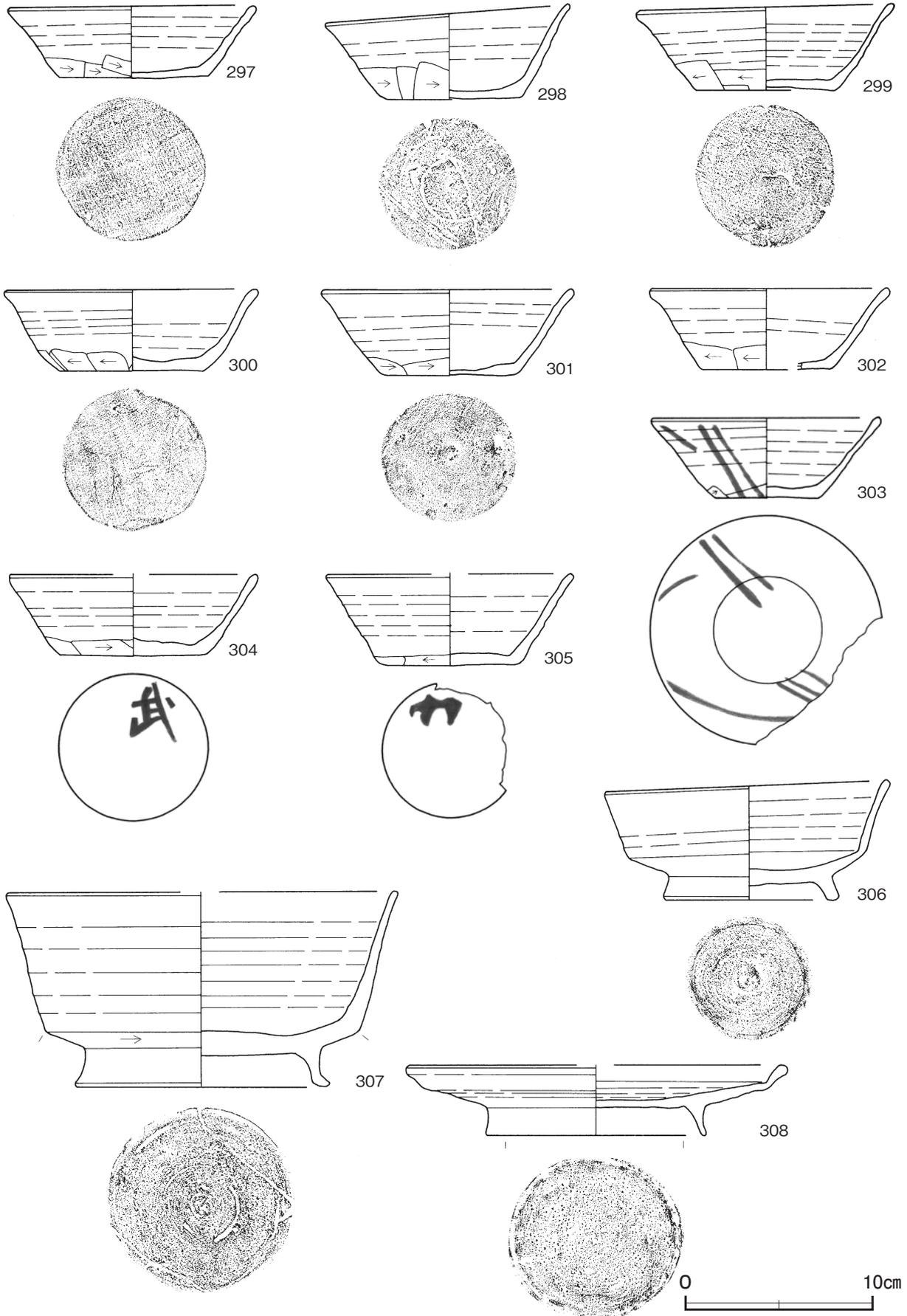
1 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	5 黒褐色	ロームブロック少量、炭化材・焼土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7 黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量
4 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片171点（坏2，小形甕1，甕類167，甗1），須恵器片59点（坏32，高台付坏2，蓋3，盤2，短頸壺1，甕類19），石器3点（砥石），瓦2点（平瓦）が、主に竈内と竈前方部の覆土中から出土している。300・303・306・309は南東コーナー部，308・310は北東コーナー部，297・311・317は東壁付近，316は中央部の床面からそれぞれ出土している。308は斜位，297・317は正位，310は逆位の状態でそれぞれ出土している。298・299・301・313は竈内から出土している。312は右袖部，314は左袖部の補強材として逆位の状態で出土している。302・305は北東コーナー部，304は南壁付近，315は竈前の覆土下層からそれぞれ出土している。これらの遺物は廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

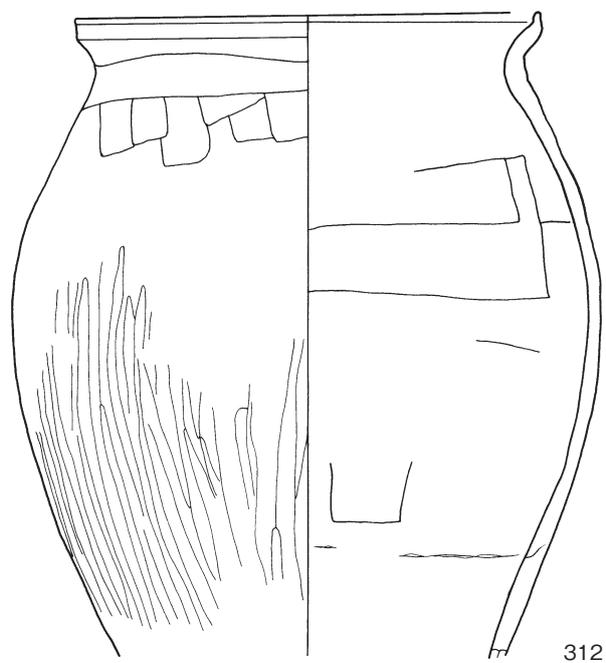
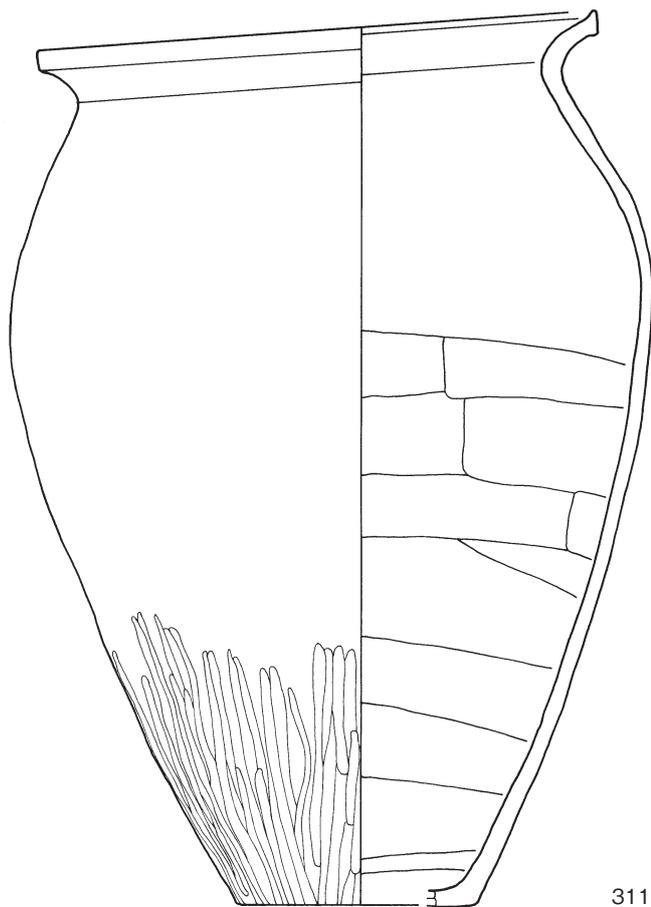
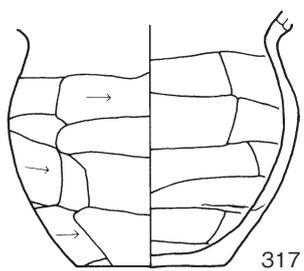
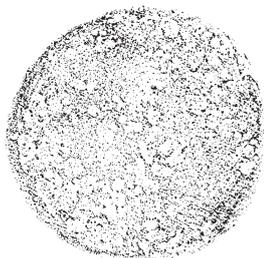
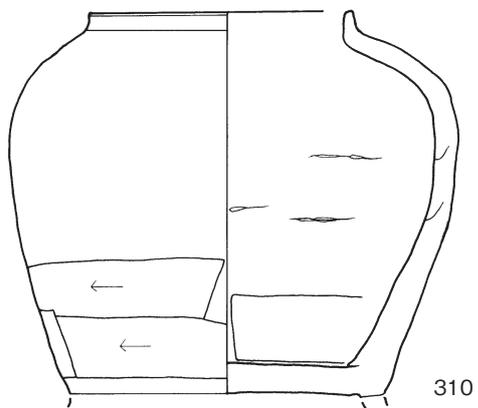
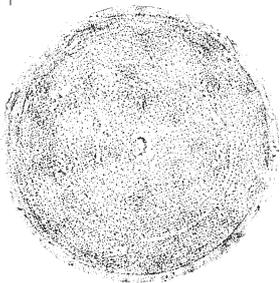
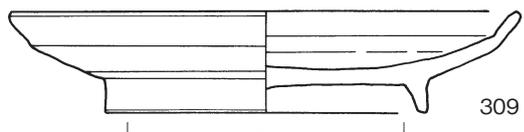
所見 時期は、出土土器から9世紀前葉に比定できる。

第385号竪穴建物跡出土遺物観察表（第205～208図）

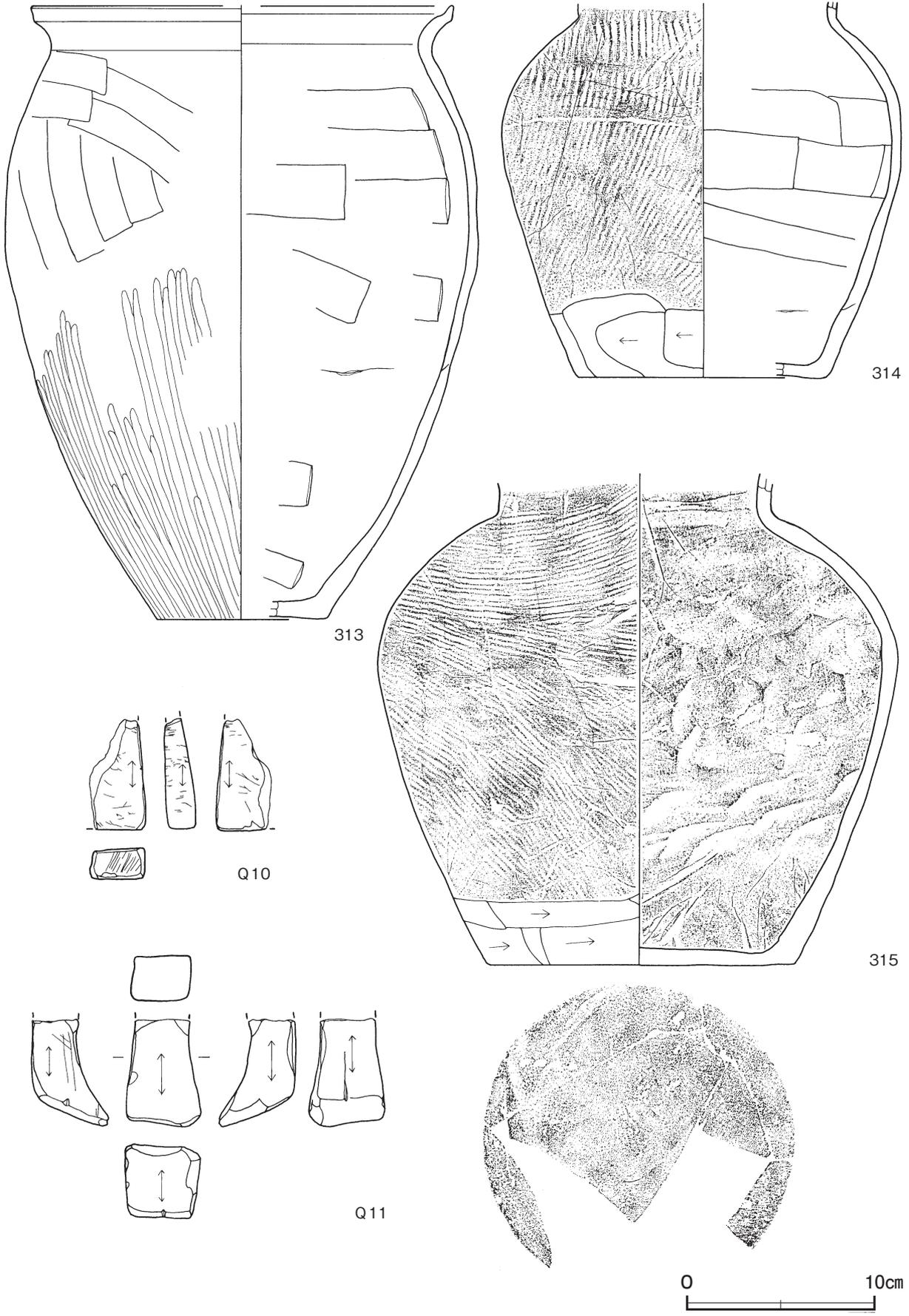
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
297	須恵器	坏	13.0	3.9	7.9	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	床面	95% PL50 新治窯
298	須恵器	坏	12.9	5.1	7.3	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部不定方向の手持ちヘラ削り	竈内	95% PL50 新治窯
299	須恵器	坏	13.5	4.7	7.4	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部ヘラ削り後ナデ	竈内	95% PL50 新治窯
300	須恵器	坏	13.2	4.5	7.6	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部不定方向の手持ちヘラ削り	床面	90% PL50 新治窯
301	須恵器	坏	13.2	4.7	7.0	長石・石英・雲母	黒褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ナデ	竈内	70% PL50 新治窯
302	須恵器	坏	12.6	4.4	[7.0]	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	覆土下層	80% PL50 新治窯
303	須恵器	坏	12.0	4.3	5.6	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り後ナデ 外部火襷 底部ヘラ削り	床面	90% PL50 新治窯
304	須恵器	坏	[13.0]	4.4	7.8	長石・石英・雲母	黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部不定方向の手持ちヘラ削り 底部外面墨書「武」	覆土下層	60% PL51 新治窯



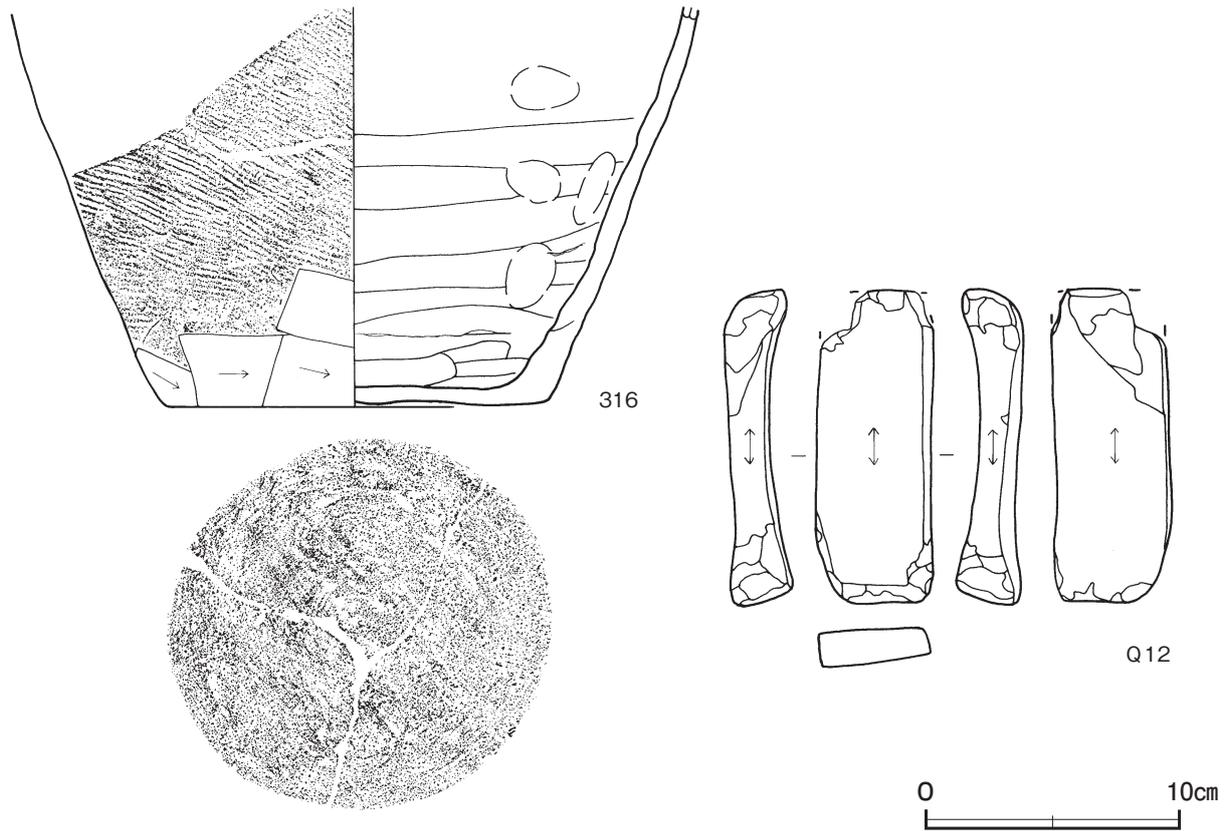
第 205 図 第 385 号 豎穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 206 図 第 385 号 竖穴建物跡出土遺物実測図 (2)



第 207 図 第 385 号 豎穴建物跡出土遺物実測図 (3)



第 208 図 第 385 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (4)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
305	須恵器	坏	[13.2]	4.9	7.1	長石・石英・雲母	褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り後ナデ 底部不定方向の手持ちヘラ削り 底部外面墨書「□」	覆土下層	50% PL51 新治窯
306	須恵器	高台付坏	15.0	6.5	9.0	長石・石英・針状物質	灰黄褐	普通	体部ロクロナデ 底部回転ヘラ切り痕を残すナデ	床面	90% PL52 木葉下窯
307	須恵器	高台付坏	[20.6]	10.6	13.3	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	覆土中	60% 新治窯
308	須恵器	盤	[19.8]	3.8	11.6	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部ロクロナデ 底部回転ヘラ削り	床面	50% 新治窯
309	須恵器	盤	19.9	4.1	12.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	内面円状のナデ 底部回転ヘラ削り 二次焼成	床面	70% PL53 新治窯
310	須恵器	短頸壺	10.1	(15.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	不良	体部下位ヘラ削り 内面横ナデ 輪積痕 底部ナデ	床面	95% PL53 新治窯
311	土師器	甕	22.0	35.8	9.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下半ヘラ磨き 内面横位のナデ	床面	95% PL55
312	土師器	甕	18.2	(25.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	頸部外面縦位のナデ後、横位のナデ 下半ヘラ磨き 内面横位のナデ 輪積痕	右袖内	20% PL54
313	土師器	甕	[22.4]	33.2	[9.1]	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部外面斜位のナデ 下半ヘラ磨き 内面横位のナデ 輪積痕 底部木葉痕	竈内	40%
314	須恵器	甕	-	(20.3)	[13.2]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部外面縦位の平行叩き 下位ヘラ削り 内面横位のナデ 輪積痕	左袖内	70% PL54 新治窯
315	須恵器	甕	-	(26.6)	16.5	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部外面横位の平行叩き 下位ヘラ削り 内面当て具痕 底部ナデ	覆土下層	70% PL54 新治窯
316	須恵器	甕	-	(16.0)	15.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄	普通	体部外面斜位の平行叩き 下位ヘラ削り 内面横位のナデ 指頭痕 輪積痕 底部ナデ	床面	40% 新治窯
317	土師器	小形甕	-	(10.2)	5.8	長石・石英・雲母	黒褐	普通	体部外面ヘラ削り 内面横位のナデ 輪積痕 底部木葉痕 外面煤付着	床面	90% PL53

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 10	砥石	(6.3)	(3.0)	1.7	(37.3)	凝灰岩	砥面 3面	覆土中	
Q 11	砥石	(5.9)	4.1	4.1	(91.3)	凝灰岩	砥面 5面	覆土中	
Q 12	砥石	12.6	4.7	2.6	(162.3)	凝灰岩	砥面 4面	覆土中	PL57

第 386 号竪穴建物跡 (第 209・210 図 PL43)

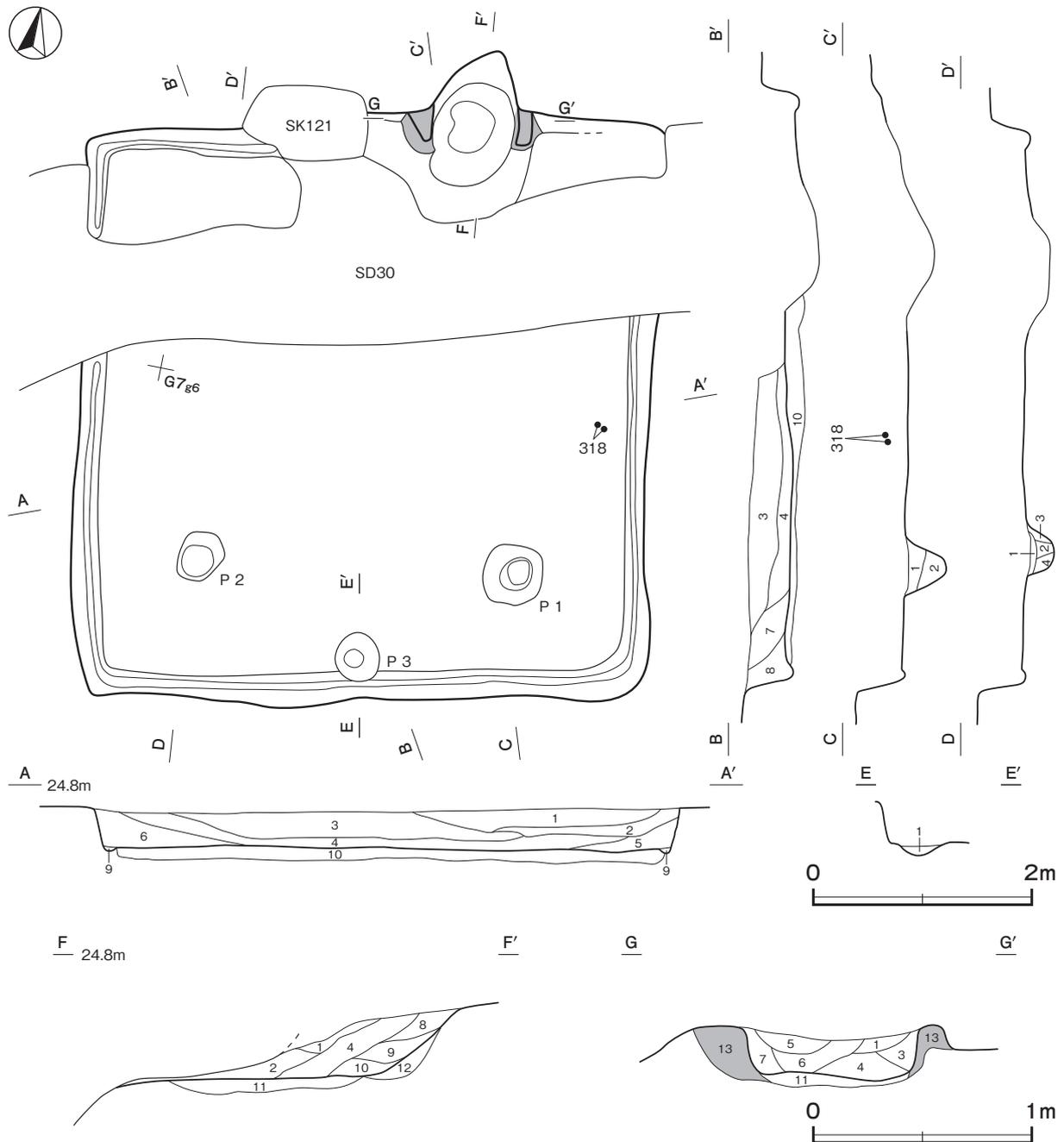
位置 調査区南部の G 7 f6 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第121号土坑, 第30号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.37 m, 短軸5.22 mの方形で, 主軸方向はN-8°-Wである。壁は高さ34~36cmで, ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で, 全体を14cmほど掘り下げ, ローム粒子や炭化粒子を含む第10層を埋土して構築されている。確認した部分では壁溝は巡っている。

竈 北壁のやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで124cmで, 燃烧部幅は72cmである。袖部は地山の上にローム粒子や粘土粒子を含む第13層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に9cm掘りくぼめ, ローム粒子や焼土ブロックを含む第11層を埋土している。火床面は第11層上面で, 赤変していない。煙道部は壁外に58cmほど掘り込まれ, 火床部から緩やかに立ち上がっている。



第209図 第386号竪穴建物跡実測図

竈土層解説

- | | | |
|-------|-------------------------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 | ク・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化物微量 | 8 暗赤褐色 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 9 暗褐色 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土ブロック微量 | ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量 | 10 黒褐色 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 粘土ブロッ | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 |
| | | 11 暗褐色 |
| | | ローム粒子中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| | | 12 暗褐色 |
| | | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| | | 13 黒褐色 |
| | | ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量 |

ピット 3か所。P 1・P 2は深さ36cm・26cmで主柱穴である。P 3は深さ12cmで南壁際に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|-------|-------------------|------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量 | 4 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |

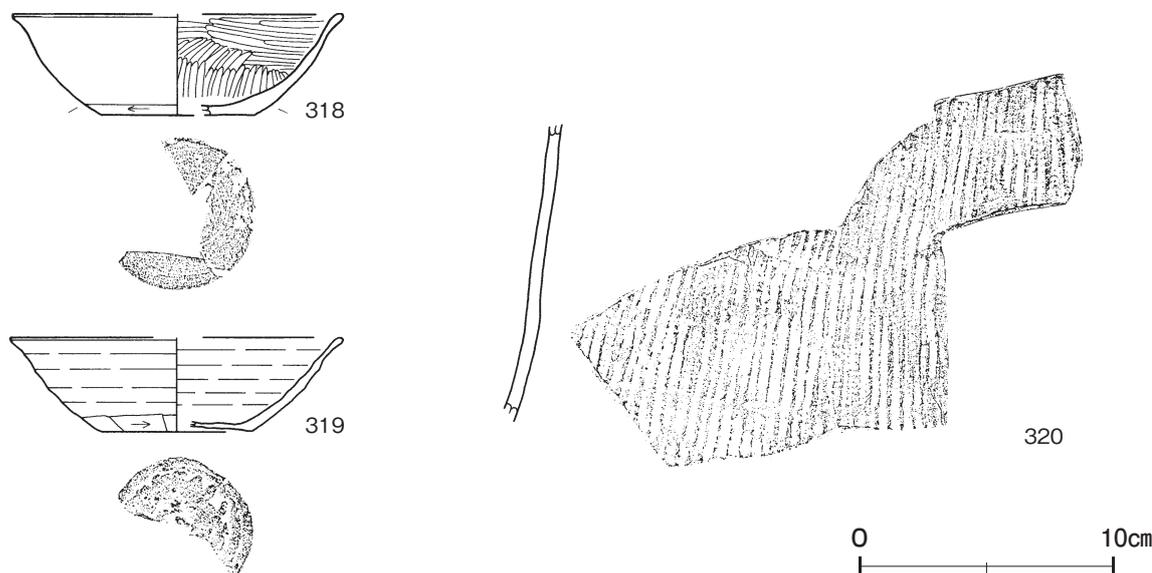
覆土 9層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。第10層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|--------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | 炭化材少量, ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・炭化材少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化物微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック微量 | 9 暗褐色 | 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化物少量 | 10 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片93点(坏14, 甕類79), 須恵器片26点(坏19, 高台付坏1, 蓋4, 高坏1, 鉢1)が、主に南東部の覆土中から出土している。319・320は竈内から出土している。318は、東壁付近の覆土下層から出土している。これらの遺物は埋没過程で廃棄された可能性がある。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第210図 第386号竪穴建物跡出土遺物実測図

第386号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第210図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
318	土師器	坏	[12.9]	4.1	6.0	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	内面ヘラ磨き 黒色処	覆土下層	40%
319	須恵器	坏	[12.9]	3.8	5.8	長石・石英	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り	底部回転ヘラ切り	竈内	30% 新治窯
320	須恵器	鉢	-	(11.8)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部外面縦位の平行叩き	内面横位のナデ	竈内	5%

第 390 号 竪穴建物跡 (第 211 図)

位置 調査区南部の G 7 c6 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 中央部に 2 か所の攪乱があり床面, 東壁と西壁が一部攪乱を受けているが, 長軸 2.52 m, 短軸 2.43 m の方形で, 主軸方向は N - 11° - W である。壁は高さ 10 ~ 13cm で, 外傾している。

床 平坦な貼床で, 全体を 6cm ほど掘り下げ, ロームブロックや炭化粒子を含む第 5 層を埋土して構築されている。壁溝を南壁の西側のみで確認した。

竈 北壁のやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 62cm で, 燃焼部幅は 62cm である。袖部は地山の上に焼土ブロックや粘土粒子を含む第 7 層を積み上げて構築されている。火床部は円形に 6cm ほど掘りくぼめ, 焼土ブロックやローム粒子を含む第 8・9 層を埋土している。火床面は第 8・9 層上面で, 赤変していない。煙道部は壁外に 16cm ほど掘り込まれ, 火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|------------------------------|-------------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子少量, ローム粒子微量 | 7 褐色 粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 8 暗赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子少量, ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量 | 9 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化材微量 |
| 4 暗赤褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 | 10 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量 | |
| 6 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | |

ピット P 1 は深さ 16cm で南壁際に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

- | | |
|-----------------|------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量 | 2 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
|-----------------|------------------------|

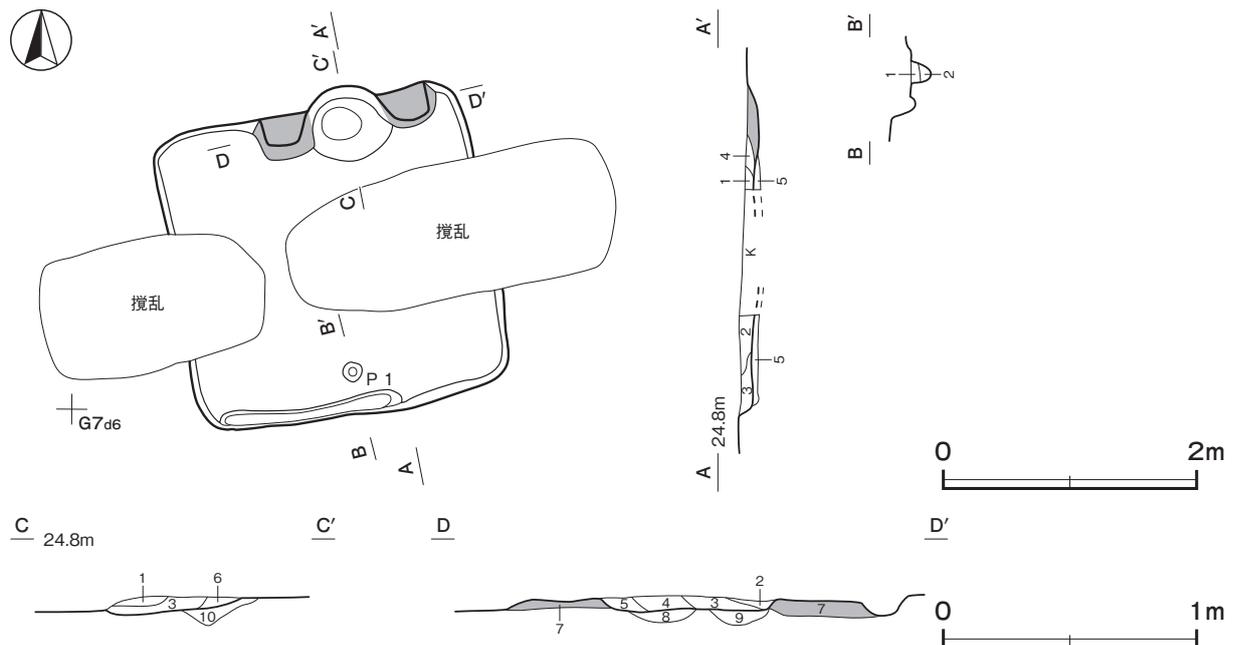
覆土 4 層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。第 5 層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | |
|------------------------------|-------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 | 5 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 須恵器片 1 点 (坏) が覆土中から出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は, 出土土器から 9 世紀代に比定できる。



第 211 図 第 390 号 竪穴建物跡実測図

第 391 号 竪穴建物跡 (第 212・213 図 PL44)

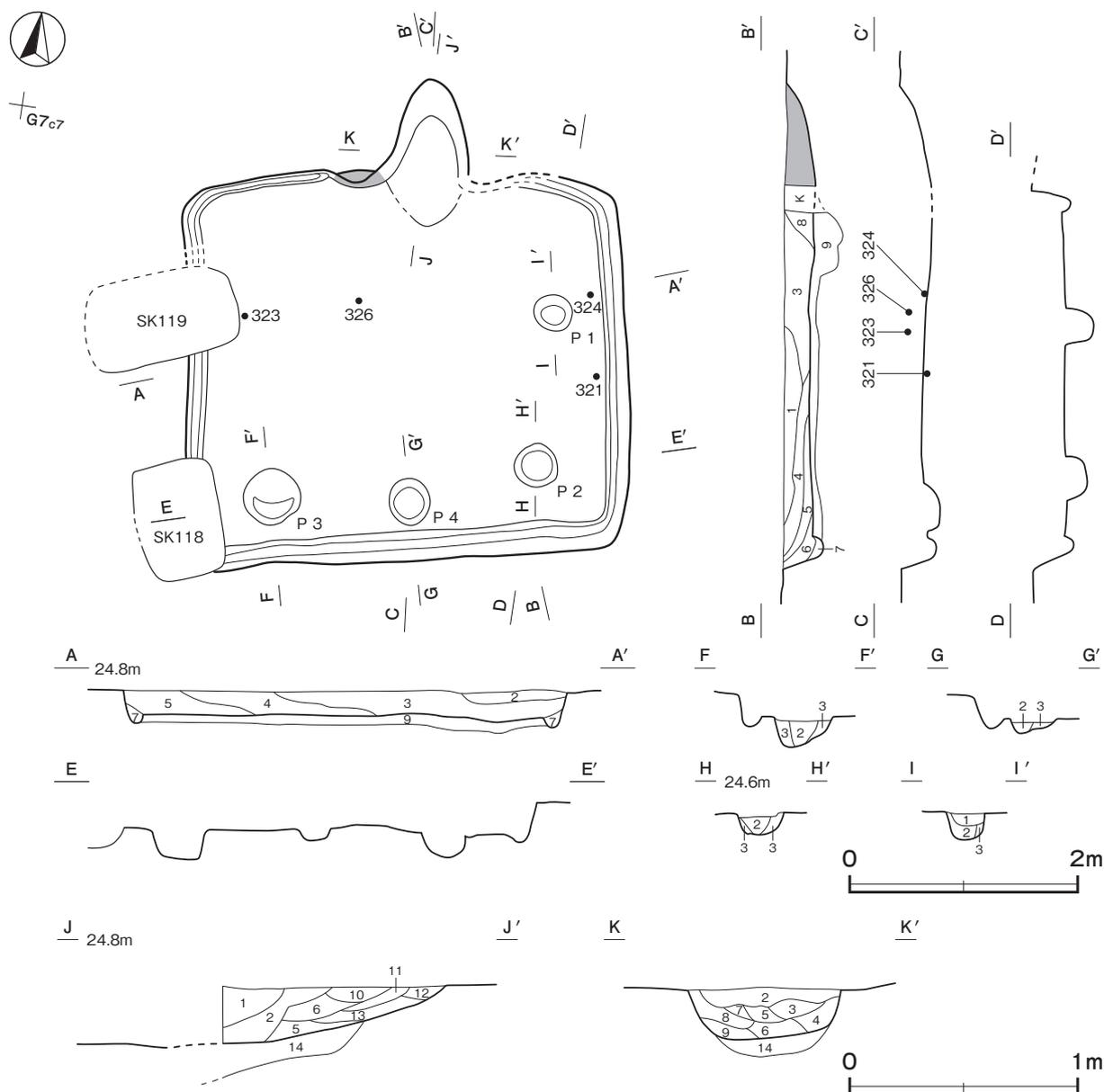
位置 調査区南部の G 7 c7 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 118・119 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 3.88 m, 短軸 3.48 m の長方形で, 主軸方向は N - 9° - W である。壁は高さ 22 ~ 28 cm で, ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で, 全体を 11 cm ほど掘り下げ, ロームブロックや粘土ブロックを含む第 9 層を埋土して構築されている。壁溝が全周している。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 130 cm で, 燃烧部幅は 62 cm である。袖部は攪乱を受けていることから左袖の一部しか確認できなかった。火床部は楕円形に 17 cm 掘りくぼめ, ロームブロックや焼土ブロックを含む第 14 層を埋土している。火床面は第 14 層上面で, 赤変していない。煙道部は壁外に 83 cm ほど掘り込まれ, 火床部から緩やかに立ち上がっている。



第 212 図 第 391 号 竪穴建物跡実測図

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------|---------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化材微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子少量 | 10 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 粘土ブロック・ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック微量 | 12 暗褐色 | 焼土ブロック少量, 粘土ブロック・ローム粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 13 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 6 暗赤色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 14 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | | |
| 8 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | | |

ピット 4か所。P 1～P 3は深さ19～28cmで支柱穴である。P 4は深さ13cmで南壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | | |

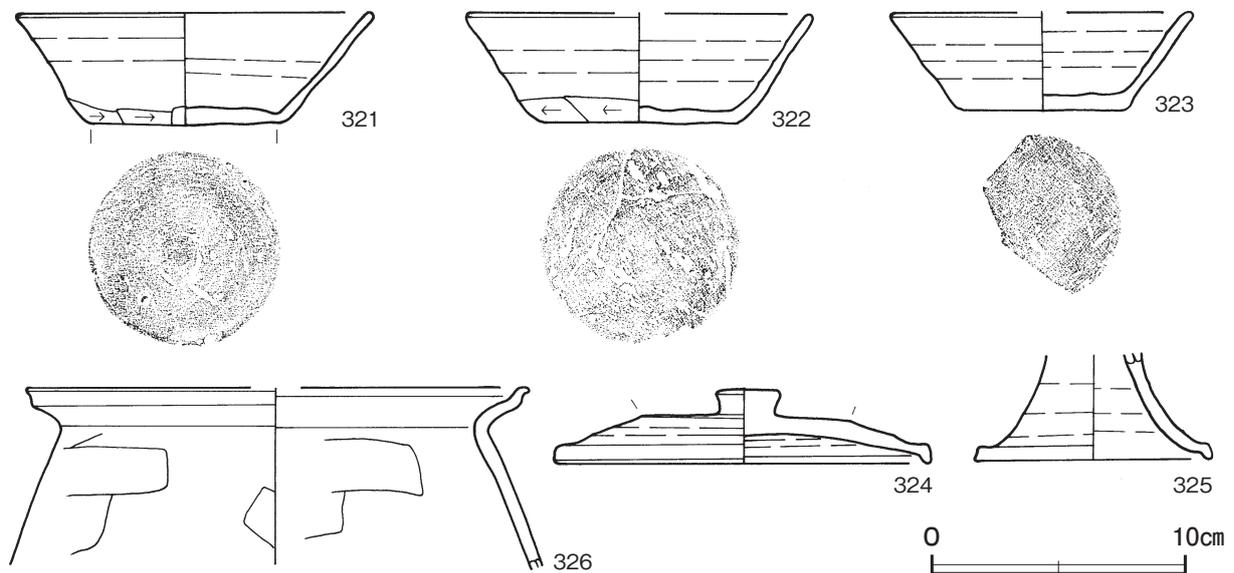
覆土 8層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。第9層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|----------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片 68点 (坏3, 甕類65), 須恵器片 48点 (坏28, 高台付坏3, 蓋6, 高盤1, 甕類10) が、主に北東部の覆土中から出土している。321・324は、東壁付近の床面から出土している。325は竈内から出土している。323は西部, 326は中央部の覆土下層から出土している。322は覆土中から出土している。これらの遺物は廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉に比定できる。



第213図 第391号竪穴建物跡出土遺物実測図

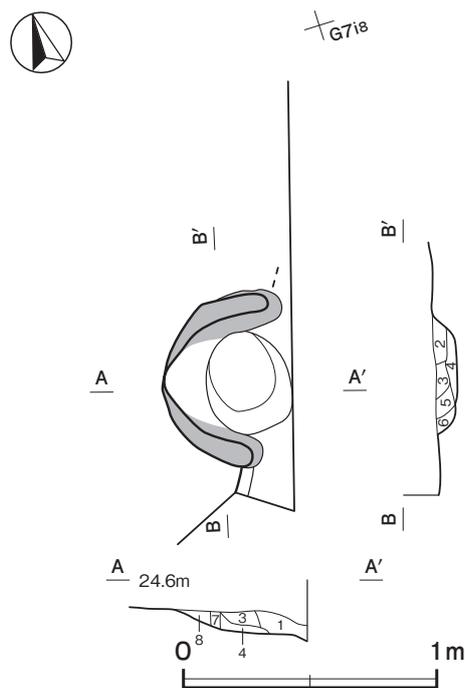
第391号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第213図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
321	須恵器	坏	13.9	4.6	7.7	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り	床面	70% PL51 新治窯
322	須恵器	坏	[13.4]	4.4	7.7	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	覆土中	50% 新治窯
323	須恵器	坏	[11.6]	4.0	[6.4]	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	体部ロクロナア 底部一方向の手持ちヘラ削り	覆土下層	20% 新治窯
324	須恵器	蓋	14.7	3.0	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	良好	天井部回転ヘラ削り	床面	90% PL52 新治窯

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
325	須恵器	高盤	-	(4.3)	9.2	長石・石英・雲母	黄灰	普通	脚部ロクロナデ	竈内	20% 新治窯
326	土師器	甕	[19.6]	(7.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外・内面横位のナデ	覆土下層	5%

第 392 号 竪穴建物跡 (第 214 図)

位置 調査区南部の G 7 i7 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。



規模と形状 東側が調査区域外に延びていることから, 竈しか確認できなかった。規模と形状は不明である。

竈 西壁に付設されていると推定できる。規模は焚口部から煙道部まで 50cm で, 燃焼部幅は 42cm である。火床部は楕円形にわずかに掘りくぼめ, 地山をそのまま利用している。火床面は赤変していない。煙道部は壁外に 33cm ほど掘り込まれ, 火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量, 粘土ブロック微量
- 2 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 暗赤色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量
- 6 暗褐色 粘土粒子少量, 炭化粒子微量
- 7 褐灰色 粘土ブロック中量
- 8 暗褐色 炭化粒子少量, ロームブロック微量

所見 出土土器がないため時期判断が困難である。

第 214 図 第 392 号 竪穴建物跡実測図

表 14 平安時代 竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長軸×短軸 (m)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
								主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
278	C 6 f2	-	方形 長方形	3.18 × (2.70)	18 ~ 25	平坦	全周	-	-	-	-	-	人為	土師器, 須恵器, 金属製品	9 世紀中葉	
339	B 5 h9	N - 8° - E	方形	4.12 × 3.95	29 ~ 40	平坦	全周	-	1	4	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 石器	9 世紀前葉	
340 A	B 5 j9	N - 1° - E	方形	4.58	20 ~ 45	平坦	ほぼ 全周	4	1	3	北壁	-	自然	土師器, 須恵器, 石器, 金属製品	9 世紀中葉	SI340B・340C・ 341, SB128 → 本跡
340 B	B 5 j9	N - 1° - E	方形	4.62 × 4.22	35	平坦	ほぼ 全周	4	-	-	北壁	-	-	土師器, 須恵器	9 世紀中葉	SI340C・341, SB128 → 本跡 → SI340A
340 C	B 5 j9	N - 1° - E	方形	3.68 × 3.52	25	平坦	一部	4	-	-	北壁	-	-		9 世紀中葉 以前	SI341, SB128 → 本跡 → SI340A・340B
341	C 5 a9	N - 5° - E	方形	3.25	30 ~ 38	平坦	ほぼ 全周	-	1	1	北壁	-	自然	土師器, 須恵器, 金属製品	9 世紀前葉	SB129 → 本跡 → 340A・340B・340C
342	C 5 c9	N - 2° - E	方形	3.86 × 3.68	34 ~ 50	平坦	ほぼ 全周	-	1	-	北壁	-	自然	土師器, 須恵器, 金属製品	9 世紀前葉	SB129 → 本跡
343 A	C 5 d9	N - 4° - E	方形	4.15	27 ~ 45	平坦	ほぼ 全周	4	1	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 金属製品	9 世紀前葉	SI343B → 本跡
343 B	C 5 d9	N - 4° - E	方形 長方形	2.68 × (2.10)	-	平坦	一部	4	1	-	北壁	-	-		9 世紀前葉	本跡 → SI343A
350 A	D 6 g2	N - 10° - E	方形	5.54 × 5.20	-	平坦	一部	4	1	-	北壁	-	-	土師器, 須恵器, 土製品, 石器	9 世紀後葉	SI350B・351 → 本跡
350 B	D 6 g2	N - 10° - E	長方形	5.32 × 4.80	8 ~ 12	平坦	一部	6	1	4	北壁	-	-	土師器, 須恵器	9 世紀後葉	SI351 → 本跡 → SI350A
351	D 6 h2	N - 16° - E	方形	4.43 × (4.38)	13 ~ 22	平坦	ほぼ 全周	-	-	2	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 金属製品	9 世紀前葉	本跡 → SI350A・ 350B, SK39・43
352	E 7 j3	N - 0°	方形 長方形	(3.06) × 2.18	16	平坦	一部	-	1	-	-	-	自然	土師器, 須恵器, 金属製品	9 世紀前葉	本跡 → SK34
354	E 6 j8	N - 15° - W	方形 長方形	2.38 × (1.44)	10	平坦	一部	-	1	-	-	-	-	土師器	9 世紀代	本跡 → SD21

番号	位置	主軸方向	平面形	規模	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸 (m)				主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
355	E 6h8	N - 0°	隅丸方形 隅丸長方形	(3.25) × (2.57)	-	-	一部	2	-	-	北壁	-	-	土師器, 須恵器	9世紀後葉以前	本跡→第1号粘土採掘坑
356	F 6a7	N - 7° - W	方形 長方形	2.75 × (2.03)	34 ~ 37	平坦	一部	-	1	-	-	-	人為	土師器, 須恵器, 金属製品	9世紀後葉	本跡→第1号粘土採掘坑
357	E 6c9	N - 6° - W	隅丸方形 隅丸長方形	2.92 × (2.46)	8 ~ 26	平坦	一部	-	1	-	北壁	-	自然	土師器, 須恵器	9世紀後葉	
359	E 7g2	-	隅丸方形 隅丸長方形	(2.52) × (1.40)	4 ~ 6	平坦	一部	-	-	1	-	-	-	土師器, 須恵器	9世紀中葉	
360	E 7f1	N - 1° - W	長方形	3.00 × 2.40	4	平坦	-	-	-	-	北壁	-	-	土師器, 須恵器	9世紀中葉	本跡→SK42
363	C 5i9	N - 15° - E	方形 長方形	(3.20) × (2.28)	11 ~ 16	平坦	-	-	-	-	北壁	-	-	土師器, 須恵器	9世紀中葉	本跡→SD 5
367	E 7h1	N - 0°	方形 長方形	3.00 × (1.45)	-	平坦	-	-	-	-	北壁	-	-	土師器, 須恵器	9世紀代	本跡→SD 21
368	E 6i7	N - 0°	方形 長方形	(2.74) × (2.50)	15	平坦	-	-	-	2	北壁	-	-	土師器, 須恵器	9世紀代	本跡→第1号粘土採掘坑
369	E 6h7	N - 5° - W	方形	4.72 × 4.68	12 ~ 18	平坦	一部	4	1	6	北壁	-	自然	土師器, 須恵器, 石器, 金属製品, 瓦	9世紀中葉	本跡→第1号粘土採掘坑
370	E 6g8	N - 3° - W	方形	3.82 × 3.54	8 ~ 12	平坦	全周	-	-	-	北壁	-	自然	土師器, 須恵器, 土製品, 瓦	9世紀前葉	
372	E 6f4	N - 2° - W	方形 長方形	4.02 × (1.84)	56 ~ 60	平坦	一部	1	-	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 瓦	9世紀中葉	
373	E 6d4	N - 80° - W	方形	4.20 × 4.10	34 ~ 39	平坦	ほぼ全周	4	1	-	東壁 北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 石器, 金属製品, 瓦	9世紀中葉	
374	E 6e6	N - 2° - E	方形	2.81 × 2.69	15 ~ 18	平坦	ほぼ全周	-	-	4	北壁	-	自然	土師器, 須恵器, 瓦	9世紀前葉	本跡→SB116
378	D 6i5	N - 37° - E	隅丸方形	5.35 × 5.08	2 ~ 25	平坦	全周	4	1	3	北東壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品	9世紀前葉	SI376, SB126・127, SK90・103→本跡
380	D 5g0	N - 16° - E	方形	5.34 × 5.16	10 ~ 15	平坦	一部	3	-	8	北壁	-	自然	土師器, 須恵器	9世紀前葉	本跡→PG 5
383	G 7h7	N - 22° - W	方形	3.31 × 2.80	4	平坦	-	4	1	1	北壁	-	-	須恵器	9世紀代	
385	G 7h6	N - 8° - W	隅丸方形 隅丸長方形	2.67 × (1.86)	21 ~ 30	平坦	一部	-	1	-	北壁	-	自然	土師器, 須恵器, 石器, 瓦	9世紀前葉	
386	G 7f6	N - 8° - W	方形	5.37 × 5.22	34 ~ 36	平坦	ほぼ全周	2	1	-	北壁	-	自然	土師器, 須恵器	9世紀中葉	本跡→SK121, SD30
390	G 7c6	N - 11° - W	方形	2.52 × 2.43	10 ~ 13	平坦	一部	-	1	-	北壁	-	自然	須恵器	9世紀代	
391	G 7c7	N - 9° - W	長方形	3.88 × 3.48	22 ~ 28	平坦	ほぼ全周	3	1	-	北壁	-	自然	土師器, 須恵器	9世紀前葉	本跡→SK118・119
392	G 7i7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	西壁	-	-		-	

(2) 掘立柱建物跡

第 111 号掘立柱建物跡 (第 215 図 PL46)

位置 調査区北部の B 5f7 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と構造 桁行 3 間, 梁行 2 間の側柱建物跡で, 桁行方向が N - 3° - E の南北棟である。規模は, 桁行 4.8 m, 梁行 3.6 m で, 面積は 17.28㎡ である。柱間寸法は桁行が北妻から 1.5 m (5 尺), 1.5 m (5 尺), 1.8 m (6 尺), 梁行が 1.8 m (6 尺) で, 柱筋は揃っている。

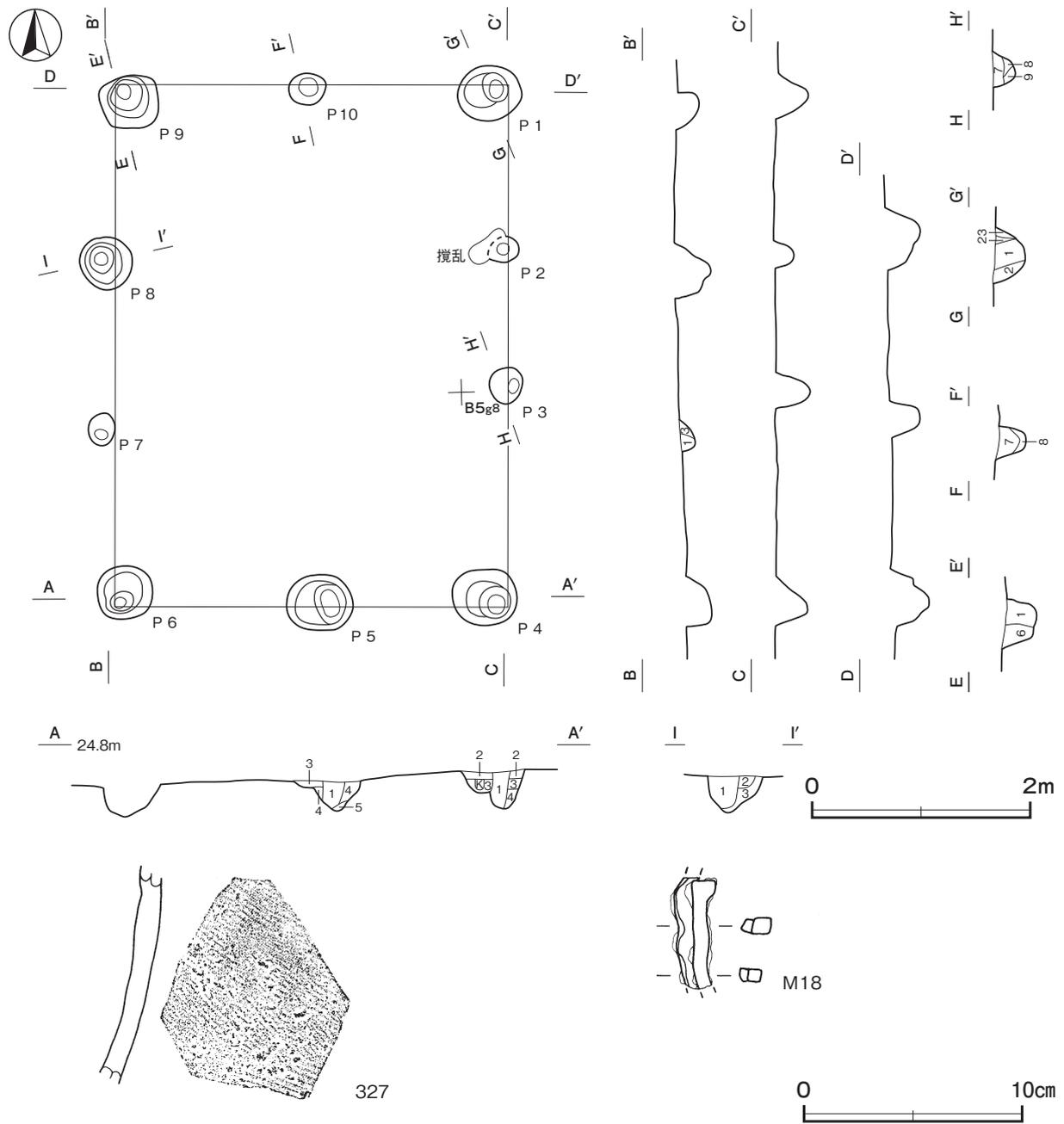
柱穴 10 か所。平面形は円形又は楕円形で, 長径 30 ~ 60cm, 短径 24 ~ 52cm である。深さ 13 ~ 36cm で, 掘方の断面は U 字形である。第 1 層は柱痕跡, 第 2 ~ 9 層は埋土である。

土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 6 黒色 ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 7 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック中量 | 8 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック少量 | 9 黒褐色 ローム粒子中量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片 1 点 (蓋), 須恵器片 3 点 (坏 2, 甕 1), 金属製品 1 点 (釘) が, 埋土から出土している。327 は P 1, M 18 は P 3 の埋土から出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から 9 世紀前葉と考えられる。



第 215 図 第 111 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第 111 号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第 215 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
327	須恵器	甕	-	(9.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面斜位の平行叩き 内面横位のナデ	P 1 埋土	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M18	釘	(5.0) (5.2)	1.2 (0.7)	0.7 0.6	(27.3)	鉄	2本付着 先端部欠損 断面四角形 先端・頭部欠損 断面四角形	P 3 埋土	PL58

第 112 号掘立柱建物跡 (第 216・217 図 PL47)

位置 調査区北部の C 5 b7 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 125 号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-6°-Eの南北棟である。規模は、桁行5.1m、梁行3.0mで、面積は15.3㎡である。柱間寸法は桁行が北妻から1.8m（6尺）、1.5m（5尺）、1.8m（6尺）、梁行が1.5m（5尺）で、柱筋は揃っている。P1～P3、P6、P7、P9、P10の底面で、柱のあたりを確認した。

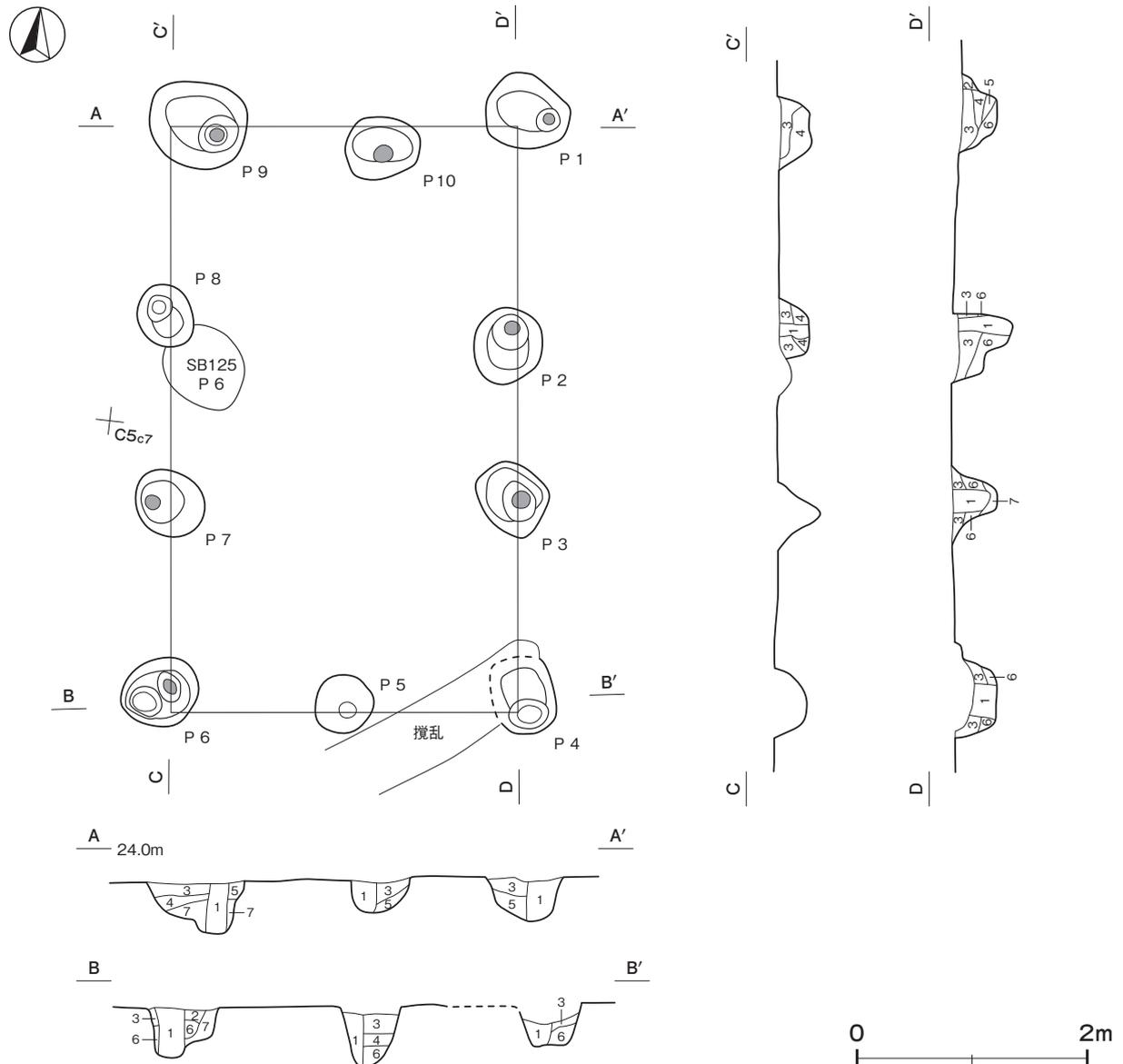
柱穴 10か所。平面形は楕円形又は不整楕円形で、長径51～90cm、短径51～75cmである。深さ37～54cmで、掘方の断面は逆台形又はU字形である。第1層は柱痕跡、第2～7層は埋土である。

土層解説（各ピット共通）

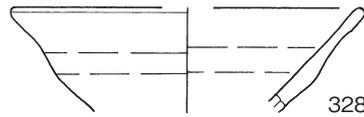
- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒色 | ローム粒子少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片5点（甕類）、須恵器片10点（坏3、蓋2、甕類5）が出土している。328はP6の埋土から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から9世紀中葉に比定できる。



第216図 第112号掘立柱建物跡実測図



第 217 図 第 112 号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第 112 号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第 217 図)

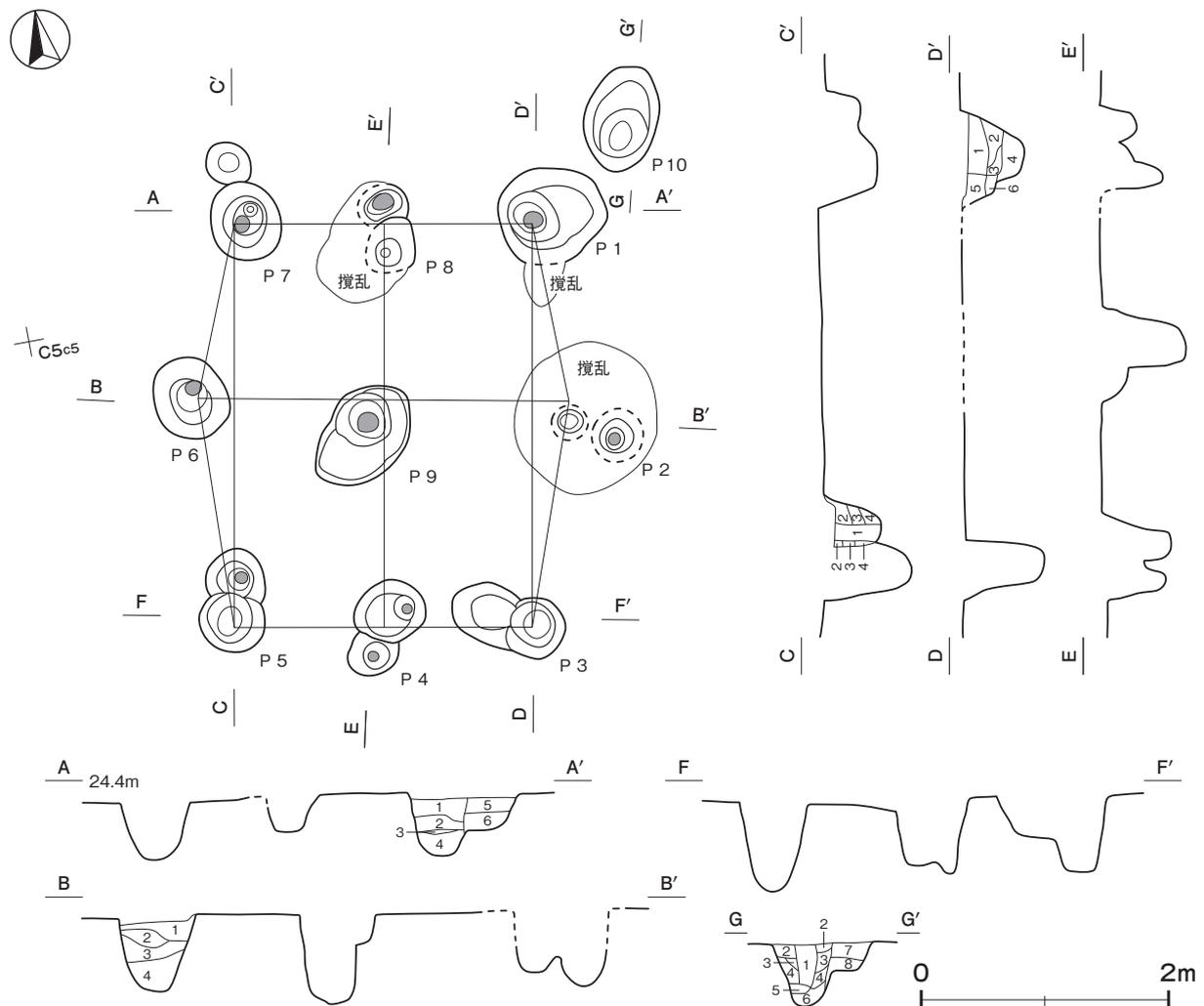
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
328	須恵器	坏	[13.7]	(4.2)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	ロクロナデ	P 6 埋土	20% 新治窯

第 113 号掘立柱建物跡 (第 218 図 PL47)

位置 調査区北部の C 5 c5 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と構造 桁行 2 間, 梁行 2 間の総柱建物跡で, 桁行方向が N - 11° - E の南北棟である。規模は, 桁行 3.3 m, 梁行 2.4 m で, 面積は 7.92m² である。柱間寸法は桁行が北妻から 1.5 m (5 尺), 1.8 m (6 尺), 梁行が 1.2 m (4 尺) で, 柱筋は揃っていない。P 1・P 2・P 4~P 9 の底面で, 柱のあたりを確認した。

柱穴 10 か所。平面形は円形又は楕円形で, 長径 30 ~ 96cm, 短径 28 ~ 80cm である。深さ 28 ~ 74cm で, 掘



第 218 図 第 113 号掘立柱建物跡実測図

方の断面はU字形である。P 1～P 5, P 7・P 8は重複関係がみられることから柱の建て替えが考えられる。P 10は性格不明である。P 1は6層に分層でき、第1～4層が柱抜き後の覆土、第5・6層が埋土である。P 5は4層に分層でき、第1層が柱痕跡、第2～4層が埋土である。P 6は4層に分層でき、第1～4層が柱抜き後の覆土である。

土層解説 (P 1・P 6)

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 4 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量 | 5 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 3 極暗褐色 ロームブロック微量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量 |

土層解説 (P 5・P 10)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 黒色 ローム粒子微量 | 5 暗褐色 ローム粒子多量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 6 黒褐色 ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量 | 7 暗褐色 ローム粒子微量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック少量 | 8 にぶい褐色 ローム粒子多量 |

遺物出土状況 須恵器片8点(坏1, 甕類7)が、P 4とP 5から出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器から9世紀代と考えられる。

第 114A 号掘立柱建物跡 (第 219 図 PL47)

位置 調査区中央部の F 7a3 区, 標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 114B 号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行 3 間, 梁行 2 間の側柱建物跡で, 桁行方向が N - 85° - E の東西棟である。規模は, 桁行 5.1 m, 梁行 3.6 m で, 面積は 18.36㎡である。柱間寸法は北側桁行が西妻から 1.8 m (6 尺), 1.5 m (5 尺), 1.8 m (6 尺), 梁行が 1.8 m (6 尺) で, 柱筋は揃っている。P 9・P10 の底面で, 柱のあたりを確認した。

柱穴 10 か所。平面形は長方形で, 長軸 60～105cm, 短軸 50～76cm である。深さ 12～50cm で, 掘方の断面は逆台形である。P 1～P 3・P 8 は第 114B 号掘立柱建物跡の柱穴と重複している。第 1 層は柱痕跡, 第 2～7 層は埋土である。

土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 | 5 黒褐色 粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量 | 6 黒褐色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック微量 | 7 黒褐色 粘土ブロック中量 |
| 4 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック微量 | |

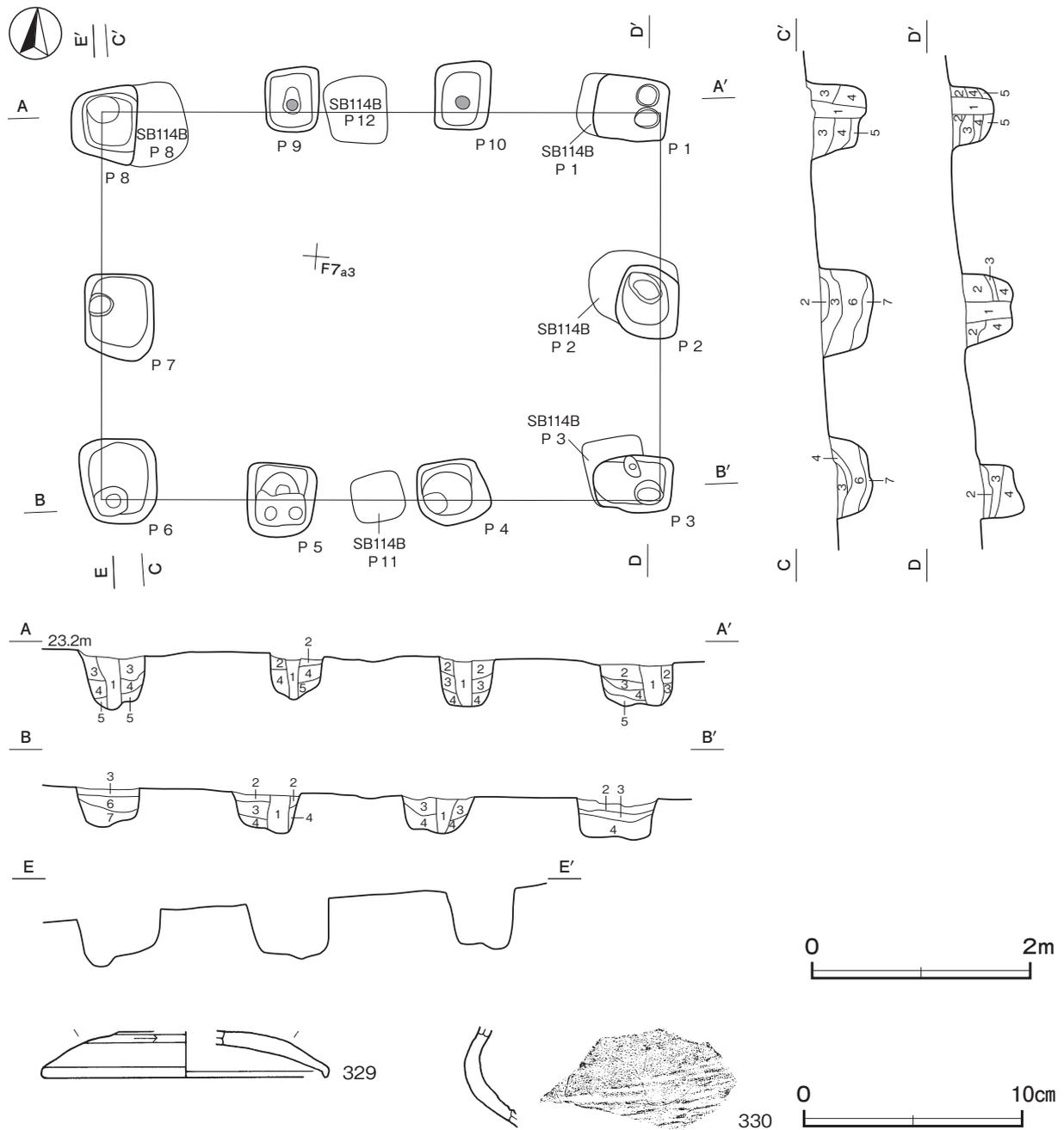
遺物出土状況 土師器片 31 点 (坏 2, 甕類 29), 須恵器片 14 点 (坏 6, 蓋 1, 甕類 7) が出土している。

329 は P 9, 330 は P 4 の埋土から出土している。

所見 柱穴の重複から第 114B 号掘立柱建物跡を東と西側に拡張して建替えが行われたと考えられる。時期は, 出土土器や重複関係から 9 世紀前葉に比定できる。

第 114A 号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第 219 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
329	須恵器	蓋	[13.1]	(2.2)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	天井部回転ヘラ削り	P 9埋土	20% 新治窯
330	須恵器	甕	-	(3.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部外面横位の平行叩き 内面横ナデ	P 4埋土	5%



第 219 図 第 114A 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第 114B 号掘立柱建物跡 (第 220 図 PL47)

位置 調査区中央部の F 7a3 区、標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 114A 号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と構造 桁行 2 間、梁行 2 間の側柱建物跡で、桁行方向が N - 85° - E の東西棟である。規模は、桁行 4.2 m、梁行 3.6 m で、面積は 15.12m² である。柱間寸法は桁行が 2.1 m (7 尺)、梁行が 1.8 m (6 尺) で、柱筋は揃っている。

柱穴 8 か所。平面形は方形又は長方形で、長軸 48 ~ 80cm、短軸 45 ~ 76cm である。深さ 12 ~ 50cm で、掘方の断面は逆台形である。第 1 ~ 4 層は柱抜き後の覆土、第 5・6 層は埋土である。P 1 ~ P 3・P 8 は第

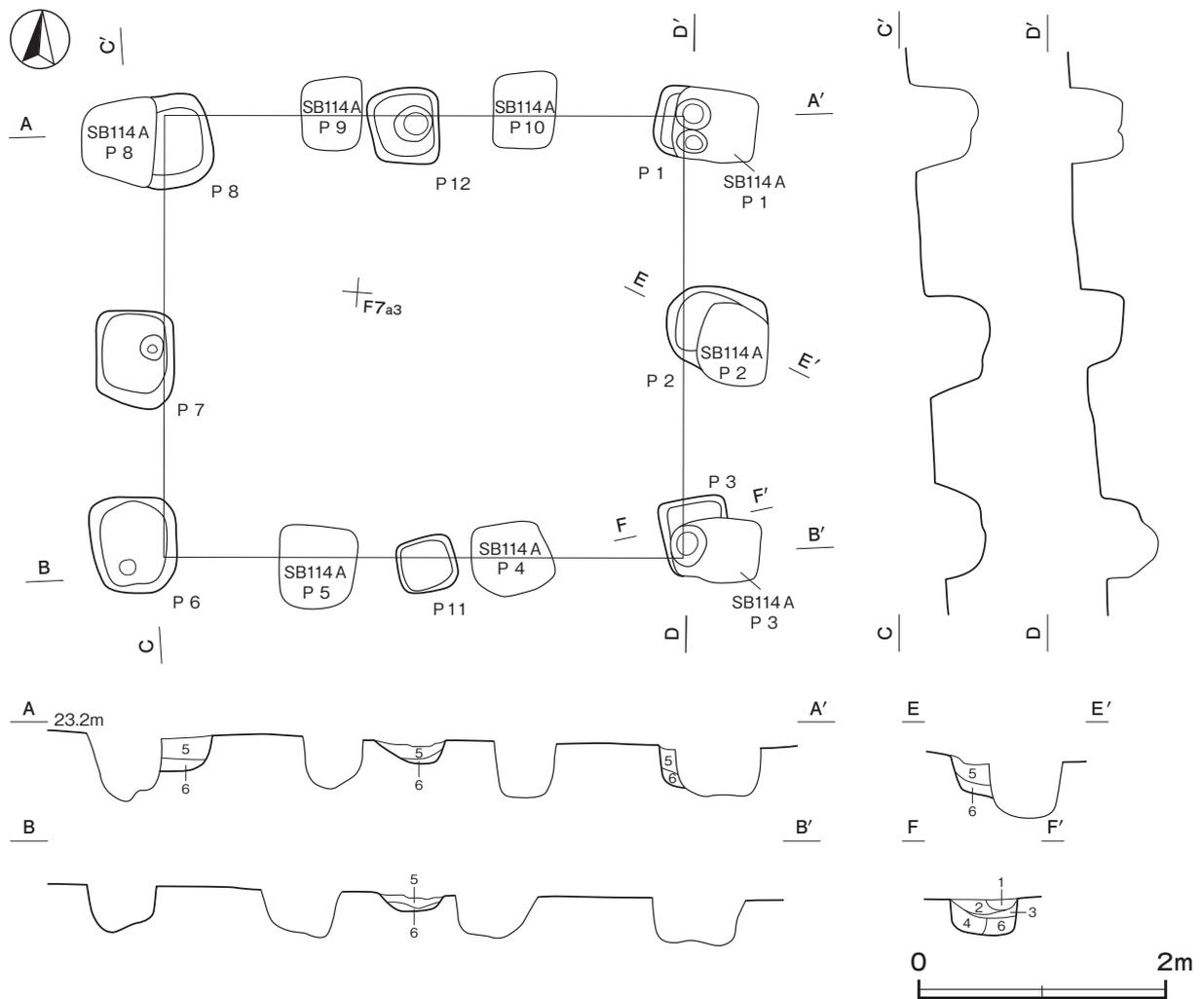
114A 号掘立柱建物の柱穴と重複している。P 6・P 7は重複が確認されなかったことから、第 114A 号掘立柱建物と共有したと考えられる。

土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック多量 | 4 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 | 5 黒褐色 粘土ブロック少量 |
| 3 黒褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック微量 | 6 黒褐色 粘土ブロック・焼土ブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片 7 点 (甕類), 須恵器片 4 点 (坏) が出土している。細片のため図示できない。

所見 柱穴の有り方から第 114A 号掘立柱建物の建替え前の建物であると考えられる。時期は, 出土土器や重複関係から 9 世紀前葉に比定できる。



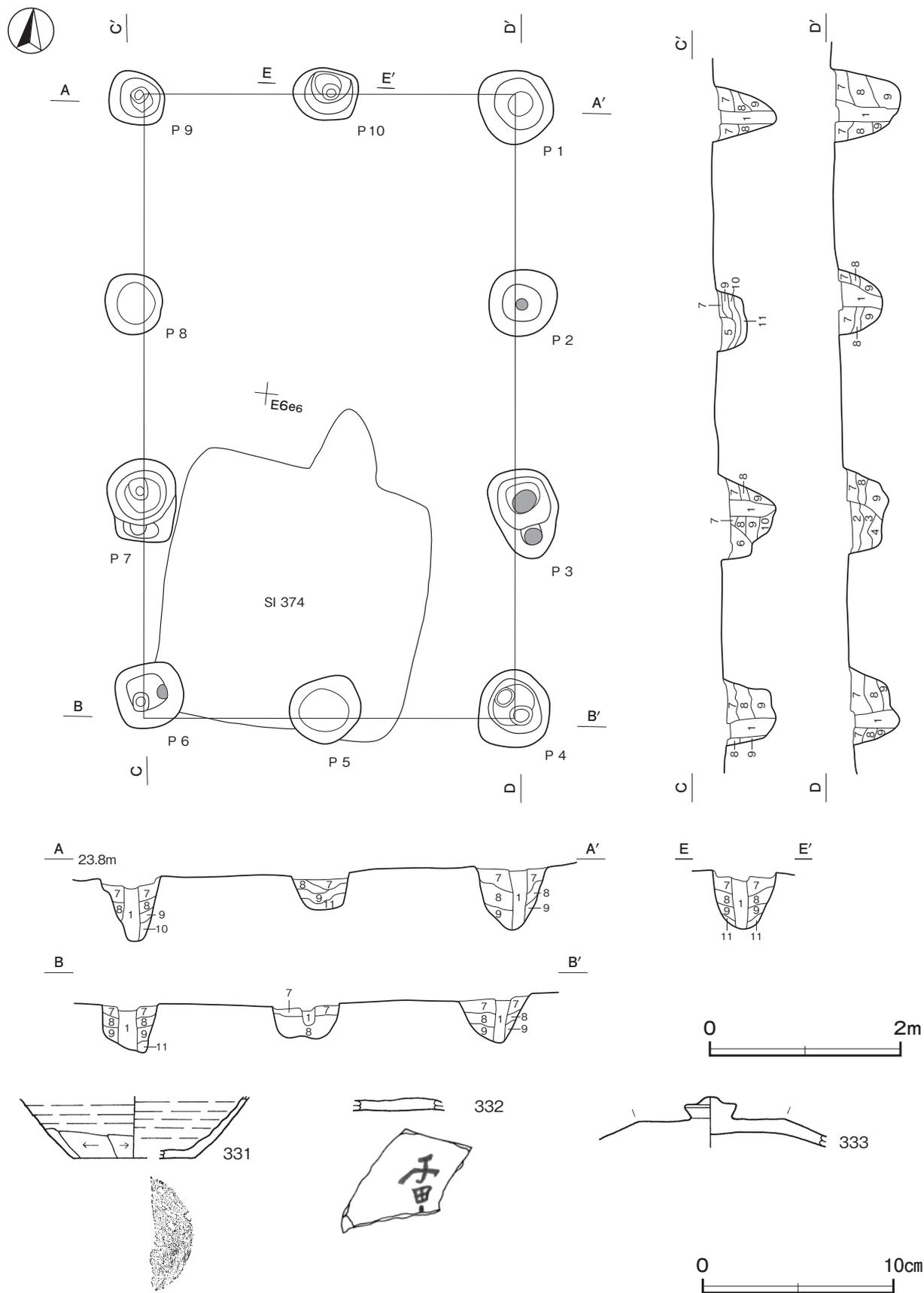
第 220 図 第 114B 号掘立柱建物跡実測図

第 116 号掘立柱建物跡 (第 221 図 PL47)

位置 調査区中央部の E 6 e6 区, 標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 374 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行 3 間, 梁行 2 間の側柱建物跡で, 桁行方向が N - 6° - W の南北棟である。規模は, 桁行 6.6 m, 梁行 3.9 m で, 面積は 25.74㎡ である。柱間寸法は, 桁行が北妻から 2.1 m (7 尺), 2.1 m (7 尺), 2.4 m (8



第 221 図 第 116 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

尺), 梁行が北妻から 1.8 m (6 尺), 2.1 m (7 尺) で, 柱筋は揃っている。P 2・P 3・P 6 の底面で, 柱のあたりを確認した。

柱穴 10 か所。平面形は円形又は楕円形で, 長径 64 ~ 84cm, 短径 55 ~ 76cm である。深さ 32 ~ 71cm で, 掘方の断面は逆台形又は U 字形である。第 1 層は柱痕跡, 第 2 ~ 6 層は柱抜き後の覆土, 第 7 ~ 11 層は埋土である。また, P 3・P 7 は平面形状から建て替えられた可能性がある。

土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|----------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック微量 | 7 黒褐色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 粘土粒子微量 | 8 黒褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 粘土ブロック少量 | 9 黒褐色 粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 4 黒褐色 粘土ブロック中量 | 10 黒褐色 粘土ブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 5 黒褐色 粘土ブロック少量 | 11 暗褐色 粘土ブロック微量 |
| 6 暗褐色 粘土ブロック微量 | |

遺物出土状況 土師器片 49 点 (甕類), 須恵器片 51 点 (坏 14, 蓋 3, 甕類 34) が出土している。331 は P 3, 332 は P 6, 333 は P 8 の埋土から出土している。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から 9 世紀前葉と考えられる。

第 116 号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第 221 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
331	須恵器	坏	-	(3.3)	[6.4]	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちへら削り 底部一方の手持ちへら削り	P 3 埋土	20% 新治窯
332	須恵器	坏	-	(0.7)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部一方の手持ちへら削り 底部外面墨書「子田□」	P 6 埋土	5% PL56
333	須恵器	蓋	-	(2.6)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	天井部回転へら削り	P 8 埋土	20% 新治窯

第 120 号掘立柱建物跡 (第 222 図 PL47)

位置 調査区北部の C 5 e4 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

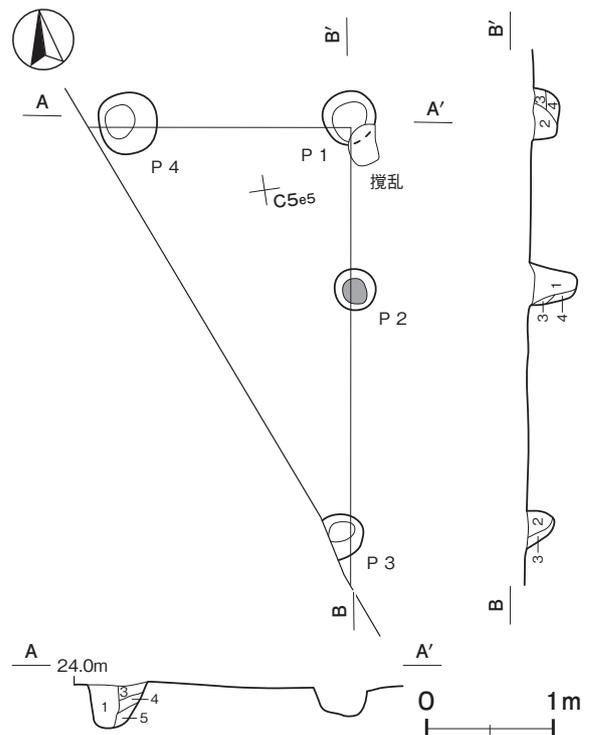
規模と構造 南西部が調査区域外に延びていることから, 桁行 3.3 m, 梁行 1.8 m しか確認できなかった。柱間寸法は桁行が東妻側から 1.2 m (4 尺), 2.1 m (7 尺), 北側梁行が 1.8 m (6 尺) で柱筋は揃っている。P 2 の底面で柱のあたりを確認した。

柱穴 4 か所。平面形は円形で, 径 32 ~ 48cm である。深さ 21 ~ 38cm で, 掘方の断面は U 字形である。第 1 層は柱痕跡, 第 2 層は柱抜き後の覆土, 第 3 ~ 5 層は埋土である。

土層解説 (各ピット共通)

- | |
|----------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 2 極暗褐色 ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 5 褐色 ローム粒子中量 |

所見 出土土器がないため時期判断は困難であるが, 9 世紀代と考えられる。



第 222 図 第 120 号掘立柱建物跡実測図

第 121 号掘立柱建物跡 (第 223 図)

位置 調査区中央部の C 5 g7 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 362 号竪穴建物跡, 第 28 号溝跡を掘り込んでいる。第 40・53 号土坑, 第 17 号溝跡との新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行 2 間, 梁行 1 間の側柱建物跡で, 桁行方向が N - 3° - E の南北棟である。規模は, 桁行 4.5 m, 梁行 4.8 m で, 面積は 21.60㎡である。柱間寸法は北妻から桁行が 2.1 m (7 尺), 2.4 m (8 尺), 梁行が 4.8 m (16 尺) で柱筋は揃っている。

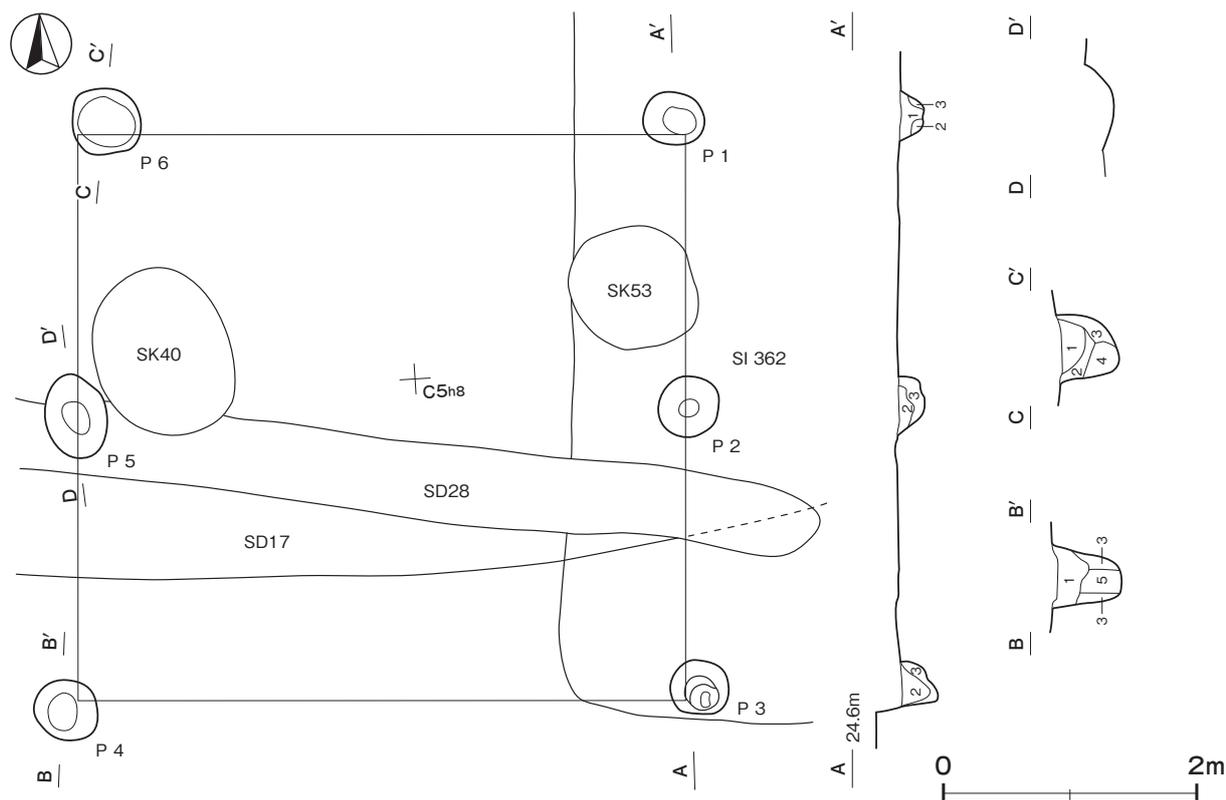
柱穴 6 か所。平面形は楕円形又は円形で, 長径 44 ~ 60cm, 短径 42 ~ 55cm である。深さ 18 ~ 52cm で, 掘方の断面は U 字形である。第 1 層は柱抜き取り後の覆土, 第 2 ~ 4 層は埋土, 第 5 層は柱痕跡である。

土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|--------------------------|---------------|
| 1 黒色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 ローム粒子微量 |
| 2 極暗褐色 ロームブロック少量 | 5 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量 | |

遺物出土状況 土師器片 2 点 (坏・甕類), 須恵器片 2 点 (坏) が P 2・P 3 の埋土から出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は, 重複関係と出土土器から 9 世紀代に比定できる。



第 223 図 第 121 号掘立柱建物跡実測図

第 126 号掘立柱建物跡 (第 224・225 図 PL47)

位置 調査区中央部の E 6 a6 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 127 号掘立柱建物跡を掘り込み, 第 378 号竪穴建物に掘り込まれている。

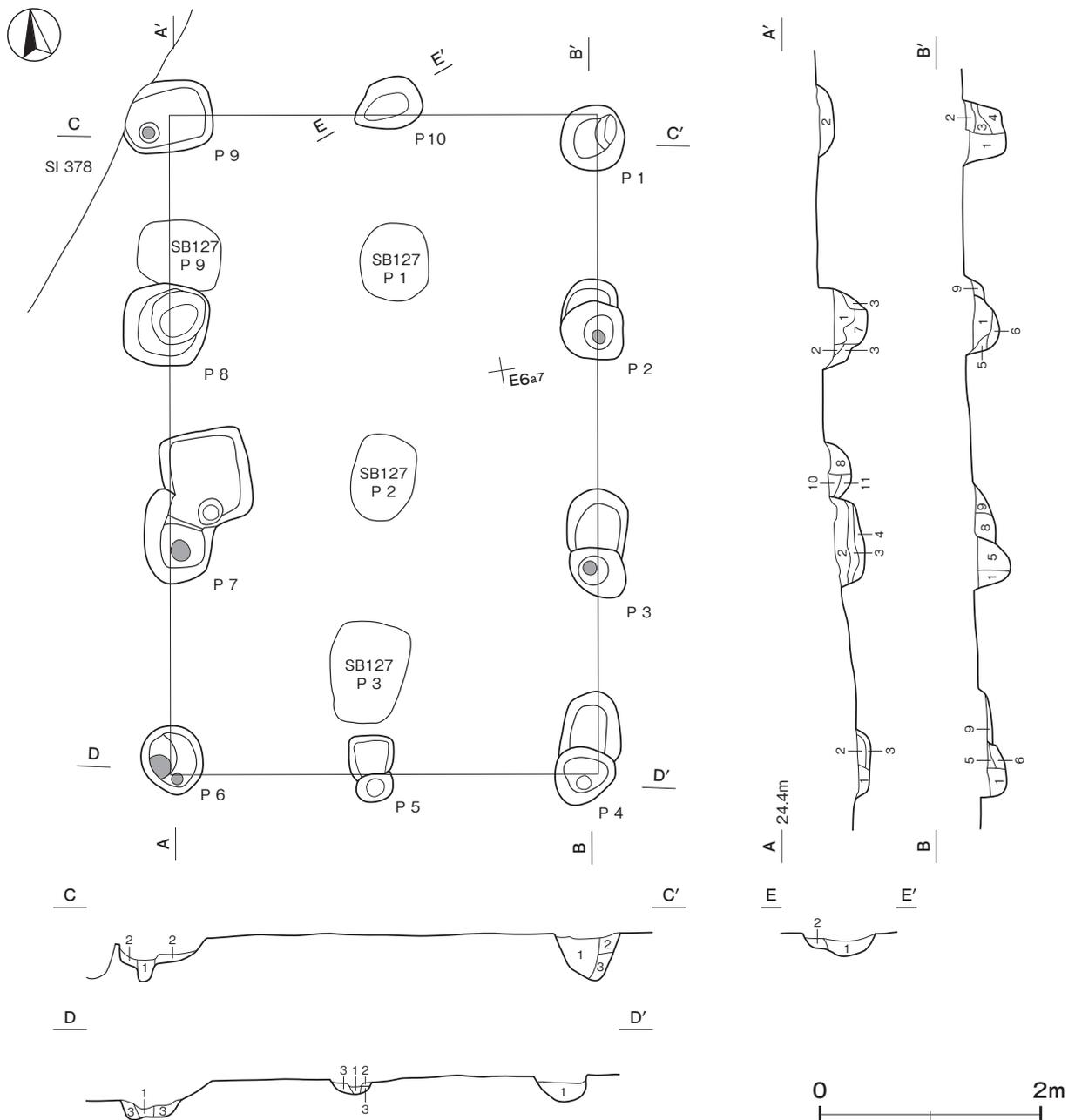
規模と構造 桁行 3 間, 梁行 2 間の側柱建物跡で, 桁行方向が N - 9° - E の南北棟である。規模は, 桁行 6.0 m,

梁行 3.9 m で、面積は 23.40㎡である。柱間寸法は北妻から桁行が 1.8 m (6 尺), 2.1 m (7 尺), 2.1 m (7 尺), 梁行が 2.1 m (7 尺), 1.8 m (6 尺) で柱筋は揃っている。P 2・P 3・P 6・P 7・P 9 の底面で柱のあたりを確認した。

柱穴 10 か所。平面形は円形又は楕円形で、長径 34～86cm, 短径 26～75cm である。深さ 13～44cm で、掘方の断面は U 字形である。第 1・7・8 層は柱抜き後の覆土, 第 2～5・9～11 層は埋土である。また P 6 では柱のあたりが 2 か所あり, P 2～P 5・P 7 は、平面形状や堆積状況から建て替えられた可能性がある。

土層解説 (各ピット共通)

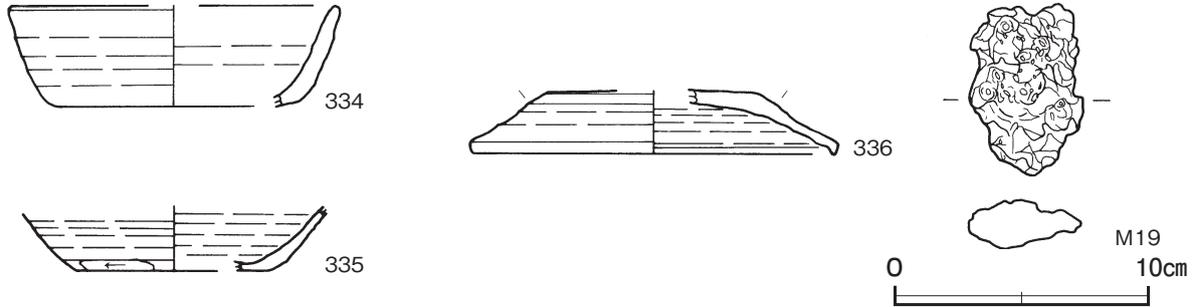
- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| 1 黒 褐 色 焼土ブロック・粘土ブロック少量 | 7 黒 褐 色 焼土ブロック・粘土粒子微量 |
| 2 黒 褐 色 粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量 | 8 黒 褐 色 焼土ブロック・粘土ブロック少量 |
| 3 黒 褐 色 焼土ブロック・粘土ブロック微量 | 9 黒 褐 色 粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 4 黒 色 焼土ブロック・粘土ブロック少量 | 10 黒 褐 色 粘土ブロック中量 |
| 5 黒 褐 色 粘土ブロック中量 | 11 黒 褐 色 粘土ブロック多量 |
| 6 黒 褐 色 粘土ブロック多量 | |



第 224 図 第 126 号掘立柱建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片 58 点（坏 1, 甕類 57）, 須恵器片 61 点（坏 8, 蓋 5, 甕類 47, 甗 1）, 金属製品 1 点（鉄滓）が P 1～P10 から出土している。334 は P 7, 335 は P 8, 336 は P10 の埋土からそれぞれ出土している。M19 は P 3 の覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器と重複関係から 9 世紀前葉と考えられる。



第 225 図 第 126 号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第 126 号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 225 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
334	須恵器	坏	[13.0]	4.1	[10.0]	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	ロクロナデ	P 7 埋土	10% 新治窯
335	須恵器	坏	-	(2.6)	[7.6]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちへら削り 底部一方向の手持ちへら削り	P 8 埋土	10% 新治窯
336	須恵器	蓋	[14.2]	(2.6)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	天井部回転へら削り	P 10 埋土	10% 新治窯

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M19	鉄滓	6.8	4.4	1.9	16.1	鉄	前面錆化 着磁性あり	P 3 覆土中	

第 127 号掘立柱建物跡（第 226 図 PL47）

位置 調査区中央部の E 6 a6 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 378 号竪穴建物, 第 126 号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と構造 北西部が第 378 号竪穴建物に掘り込まれているが, 桁行 3 間, 梁行 2 間の側柱建物跡と推定できる。桁行方向が N - 14° - E の南北棟である。規模は, 桁行 5.7 m, 梁行 3.9 m で, 面積は 22.23m² である。柱間寸法は東側桁行が東妻側から 1.8 m（6 尺）, 1.8 m（6 尺）, 2.1 m（7 尺）, 南側梁行が東妻側から 1.8 m（6 尺）, 2.1 m（7 尺）で柱筋は揃っている。P 1～P 3・P 5・P 7 の底面で柱のあたりを確認した。

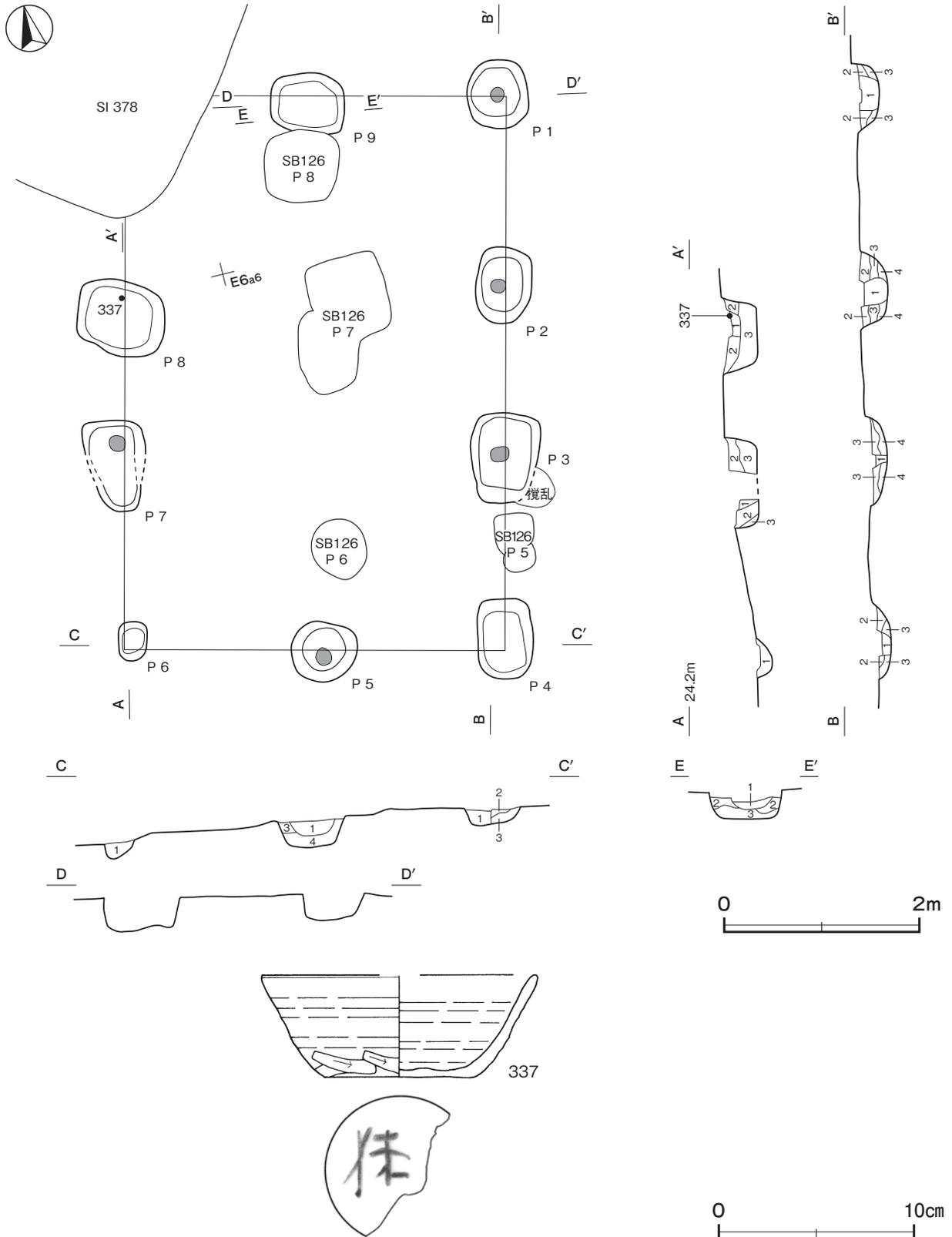
柱穴 9 か所。平面形は楕円形又は円形で, 長径 41～96cm, 短径 29～76cm である。深さ 22～44cm で, 掘方の断面は逆台形である。第 1 層は柱痕跡, 第 2～4 層は埋土である。

土層解説（各ピット共通）

- 1 黒 褐 色 焼土ブロック・粘土ブロック少量
- 2 黒 褐 色 粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量
- 3 黒 褐 色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック微量
- 4 黒 褐 色 粘土ブロック多量

遺物出土状況 土師器片 34 点（甕類）, 須恵器片 18 点（坏 13, 高台付坏 1, 蓋 2, 甕類 2）, 金属製品 1 点（不明）が出土している。337 は P 8 の埋土から出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から 9 世紀前葉と考えられる。



第 226 図 第 127 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第 127 号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第 226 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
337	須恵器	坏	[14.0]	5.3	7.6	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部下端手持ちへら削り 底部一方方向の手持ちへら削り 墨書「 <input type="checkbox"/> 」	P 8 埋土	30% PL56

第128号掘立柱建物跡 (第227図 PL47)

位置 調査区中央部のC 5 a0区, 標高25 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第340 A・340 B・340 C号竪穴建物に掘り込まれている。第129号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

規模と構造 北東部が調査区域外に延びていることから, 梁行は4.8 mで, 桁行は5.4 mしか確認できなかった。桁行方向はN - 83° - Wの東西棟である。柱間寸法は, 桁行が2.1 m (7尺), 梁行が2.4 m (8尺)で柱筋は揃っている。

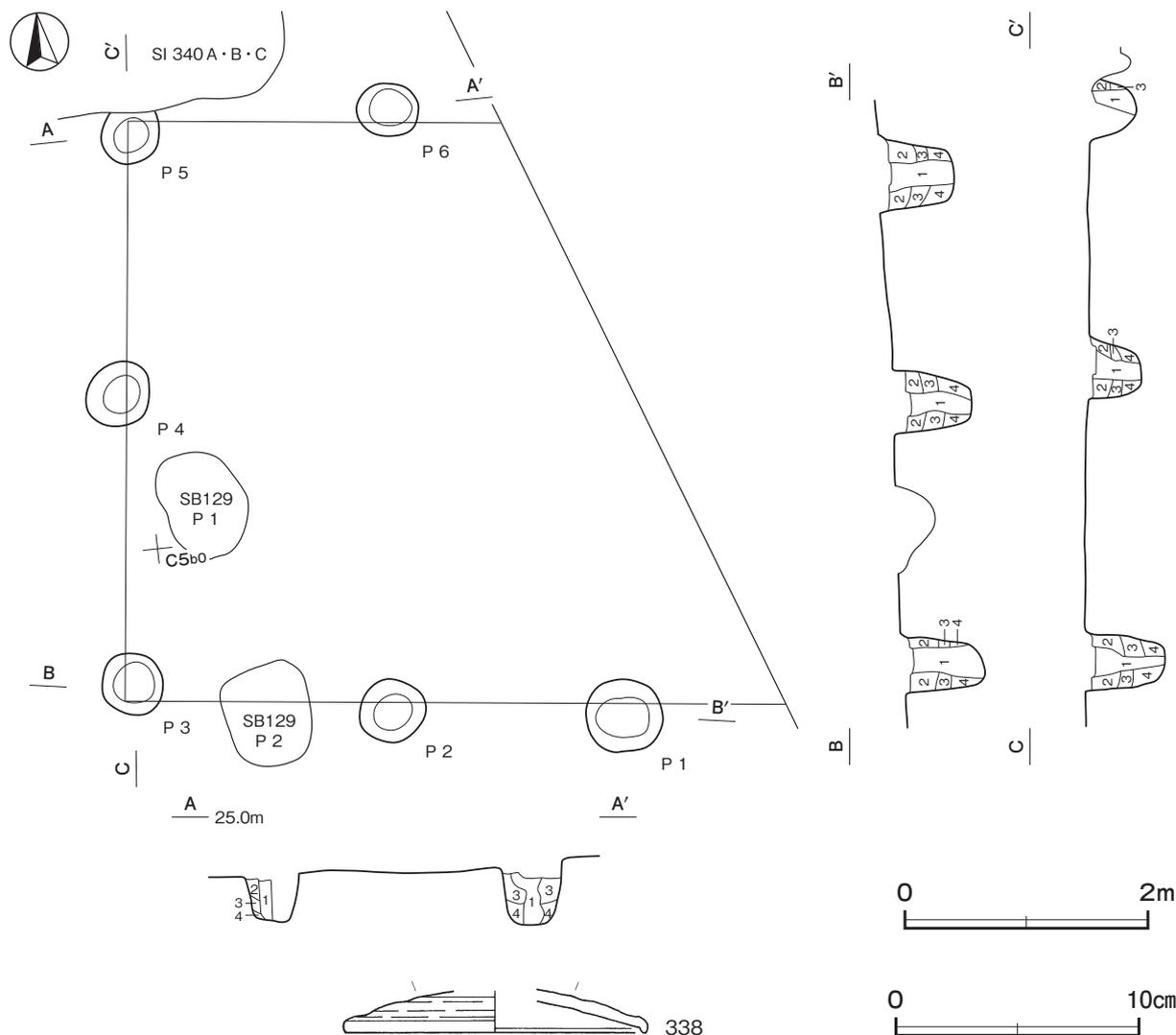
柱穴 6か所。平面形は円形又は楕円形で, 長径51 ~ 63cm, 短径44 ~ 58cmである。深さ40 ~ 65cmで, 掘方の断面はU字形又は逆台形である。第1層は柱痕跡, 第2 ~ 4層は埋土である。

土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 3 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 4 極暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 須恵器片1点(蓋)がP3の埋土から出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から9世紀中葉以前に比定できる。



第227図 第128号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第 128 号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第 227 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
338	須恵器	蓋	[12.4]	(1.7)	-	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	P 3埋土	5%

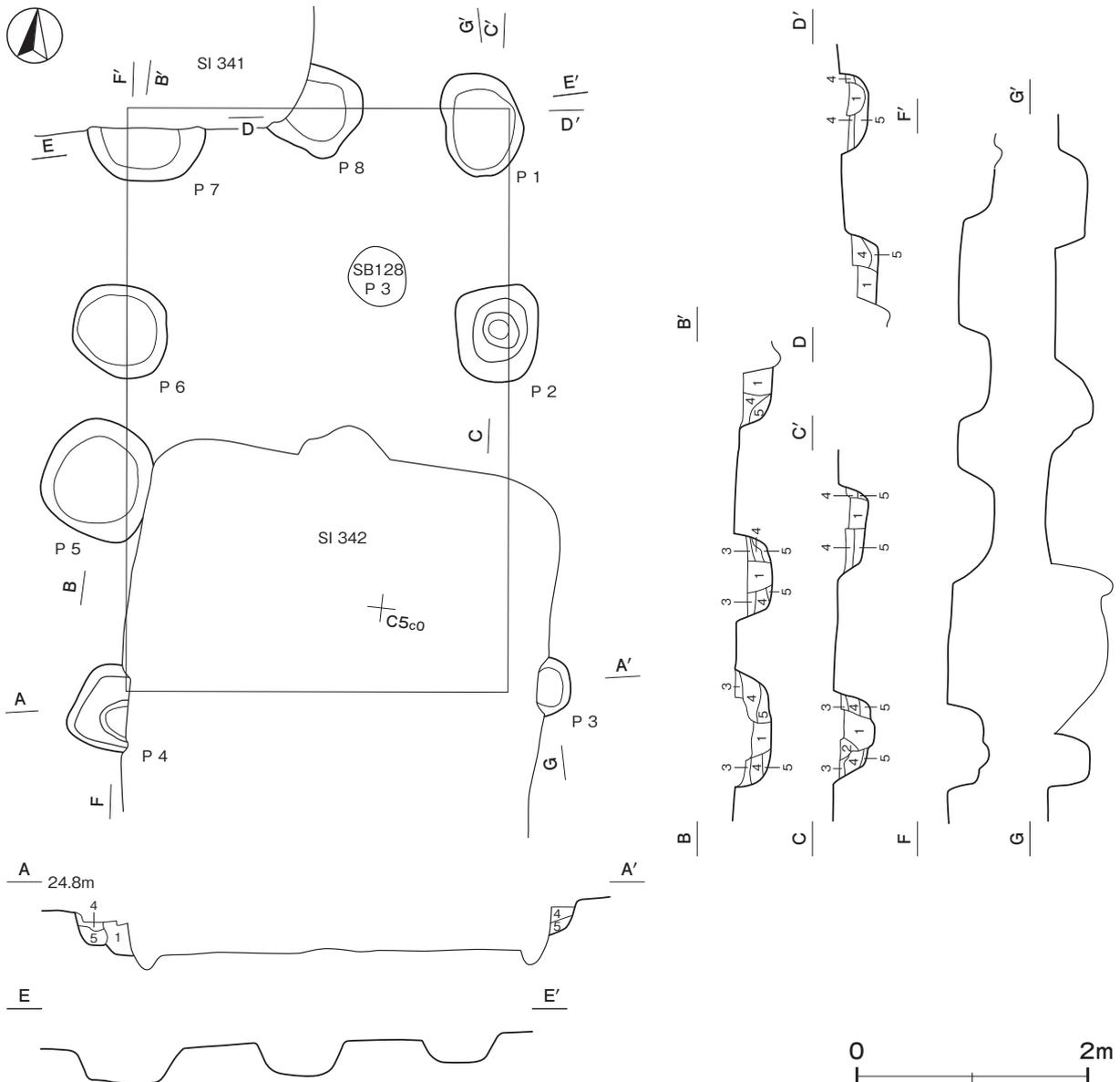
第 129 号掘立柱建物跡 (第 228・229 図 PL47)

位置 調査区北部の C 5 b9 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 341・342 号竪穴建物に掘り込まれている。第 128 号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行 3 間, 梁行 2 間の側柱建物跡で, 桁行方向が N - 6° - W の南北棟である。規模は, 桁行 5.1 m, 梁行 3.3 m で, 面積は 16.83㎡ である。柱間寸法は北妻から桁行が 1.8 m (6 尺), 1.5 m (5 尺), 1.8 m (6 尺), 梁行が 1.8 m (6 尺), 1.5 m (5 尺) で柱筋は揃っている。

柱穴 8 か所。平面形は楕円形又は円形で, 長径 74 ~ 100cm, 短径 69 ~ 97cm である。深さ 28 ~ 36cm で, 掘



第 228 図 第 129 号掘立柱建物跡実測図

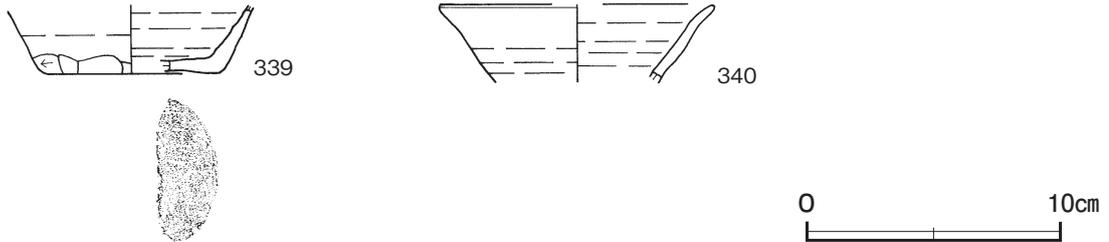
方の断面はU字形又は逆台形である。第1層は柱痕跡，第2～5層は埋土である。

土層解説 (各ピット共通)

- 1 極暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片1点(坏)，須恵器片15点(坏6，高台付坏1，蓋1，甕類7)が出土している。339はP8，340はP5の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は，重複関係と出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第229図 第129号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第129号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第229図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
339	須恵器	坏	-	(2.7)	[6.9]	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部不定方向の手持ちヘラ削り	P8覆土中	20% 新治窯
340	須恵器	坏	[10.8]	(3.1)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	ロクロナデ	P5覆土中	5%

表15 平安時代掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数		規模		面積 (㎡)	柱間寸法		柱穴			主な出土遺物	時期	備考
			桁×梁(間)	桁×梁(m)	桁間(m)	梁間(m)		構造	柱穴数	平面形	深さ(cm)				
111	B5f7	N-3°-E	3×2	4.8×3.6	17.28	1.5~1.8	1.8	側柱	10	円形・楕円形	13~36	土師器, 須恵器, 金属製品	9世紀前葉		
112	C5b7	N-6°-E	3×2	5.1×3.0	15.3	1.5~1.8	1.5	側柱	10	楕円形・不整形楕円形	37~54	土師器, 須恵器	9世紀中葉	SB125→本跡	
113	C5c5	N-11°-E	2×2	3.3×2.4	7.92	1.5~1.8	1.2	総柱	10	円形・楕円形	28~74	須恵器	9世紀代		
114A	F7a3	N-85°-E	3×2	5.1×3.6	18.36	1.5~1.8	1.8	側柱	10	長方形	12~50	土師器, 須恵器	9世紀前葉	SB114B→本跡	
114B	F7a3	N-85°-E	2×2	4.2×3.6	15.12	2.1	1.8	側柱	8	方形・長方形	12~50	土師器, 須恵器	9世紀前葉	本跡→SB114A	
116	E6e6	N-6°-W	3×2	6.6×3.9	25.74	2.1~2.4	1.8~2.1	側柱	10	円形・楕円形	32~71	土師器, 須恵器	9世紀前葉	SI374→本跡	
120	C5e4	-	-	3.3×1.8	-	1.2~2.1	1.8	-	4	円形	21~38		9世紀代		
121	C5g7	N-3°-E	2×1	4.5×4.8	21.60	2.1~2.4	4.8	側柱	6	円形・楕円形	18~52	土師器, 須恵器	9世紀代	SI362, SD28→本跡	
126	E6a6	N-9°-E	3×2	6.0×3.9	23.4	1.8~2.1	1.8~2.1	側柱	10	円形・楕円形	13~44	土師器, 須恵器, 金属製品	9世紀前葉	SB127→本跡→SI378	
127	E6a6	N-14°-E	3×2	5.7×3.9	22.23	1.8~2.1	1.8~2.1	側柱	9	円形・楕円形	22~44	土師器, 須恵器, 金属製品	9世紀前葉	本跡→SI378, SB126	
128	C5a0	N-83°-W	-	5.4×4.8	-	2.1	2.4	-	6	円形・楕円形	40~65	須恵器	9世紀中葉以前	本跡→SI340A・340B・340C	
129	C5b9	N-6°-W	3×2	5.1×3.3	16.83	1.5~1.8	1.5~1.8	側柱	8	円形・楕円形	28~36	土師器, 須恵器	9世紀前葉	本跡→SI341・342	

(3) 井戸跡

第4号井戸跡 (第230図 PL48)

位置 調査区中央部のF7b2区，標高22mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第24号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.46mほどの円形である。形状は円筒状である。確認面から55cmほど掘り下げた時点で，崩

落のおそれがあることから、下部の調査を断念した。

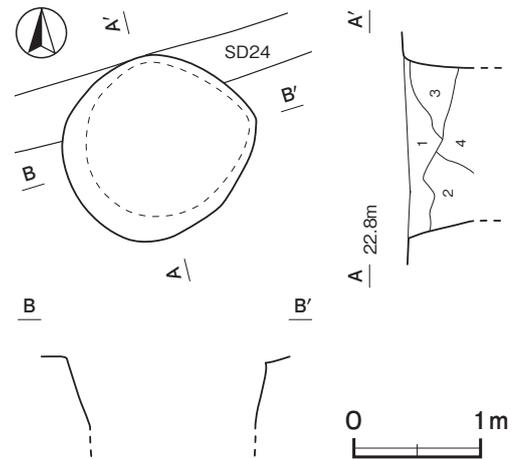
覆土 4層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック多量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片6点(甕類), 須恵器片9点(坏3, 高台付坏2, 甕類4)が, 覆土中から出土している。これらの遺物は, 埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。細片のため図示できない。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から9世紀代と考えられる。



第230図 第4号井戸跡実測図

(4) 粘土採掘坑

第1号粘土採掘坑 (第231・232図 PL48)

位置 調査区中央部のE 6h6区, 標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第355・356・368・369号竪穴建物跡を掘り込み, 第21号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北西部が調査区域外に延びているため, 南北15.2m, 東西13.6mしか確認できなかった。平面形は不定形で, 南北方向はN-5°-W, 東西方向はN-53°-Eである。底面はローム層下の黄褐色粘土層を楕円形に連続して掘り込んでいる。深さは34~74cmで, 底面は凹凸がある。壁は外傾している。

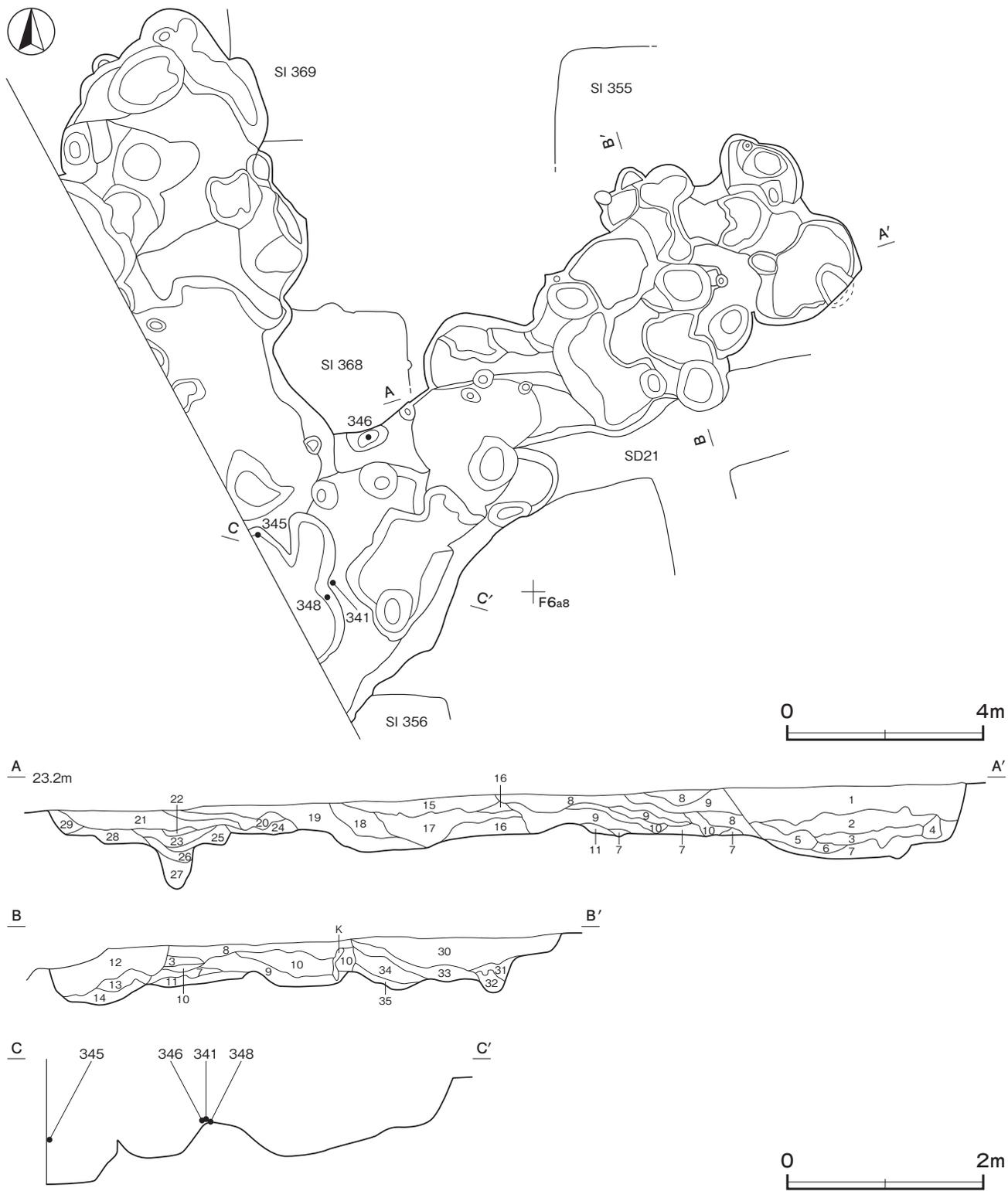
覆土 35層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック微量 | 19 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子多量 | 20 暗褐色 粘土ブロック多量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック多量 | 21 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック多量, 粘土ブロック中量 | 22 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 5 暗褐色 ローム粒子微量 | 23 黒褐色 ロームブロック多量 |
| 6 黒褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量 | 24 暗褐色 粘土ブロック中量 |
| 7 黒褐色 粘土ブロック多量, ロームブロック中量 | 25 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック微量 |
| 8 黒褐色 ロームブロック多量, 粘土ブロック少量 | 26 黒褐色 粘土ブロック中量 |
| 9 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量 | 27 黒褐色 ロームブロック多量 |
| 10 黒褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量 | 28 明黄褐色 粘土ブロック多量 |
| 11 暗褐色 粘土ブロック少量 | 29 黒褐色 ロームブロック中量 |
| 12 黒褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量 | 30 暗褐色 粘土ブロック多量 |
| 13 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量 | 31 黒褐色 粘土ブロック中量 |
| 14 暗褐色 ロームブロック中量, 粘土粒子少量 | 32 暗褐色 粘土粒子多量 |
| 15 黒褐色 焼土ブロック微量 | 33 黒褐色 粘土ブロック少量 |
| 16 暗褐色 ロームブロック多量 | 34 黒褐色 粘土ブロック多量 |
| 17 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 | 35 暗褐色 粘土ブロック少量 |
| 18 黒褐色 粘土ブロック中量 | |

遺物出土状況 土師器片129点(坏35, 皿4, 鉢1, 甕類89), 須恵器片161点(坏21, 高台付坏11, 蓋7, 長頸瓶1, 甕類120, 甗1), 瓦2点(丸瓦, 平瓦)のほか, 陶器片2点(碗), 磁器片2点(碗)が, 主に北側の覆土中から出土している。344は北側の覆土下層, 341・345・346・348は南側の覆土中層からそれぞれ出土している。342・343・347・349・T3は覆土中から出土している。

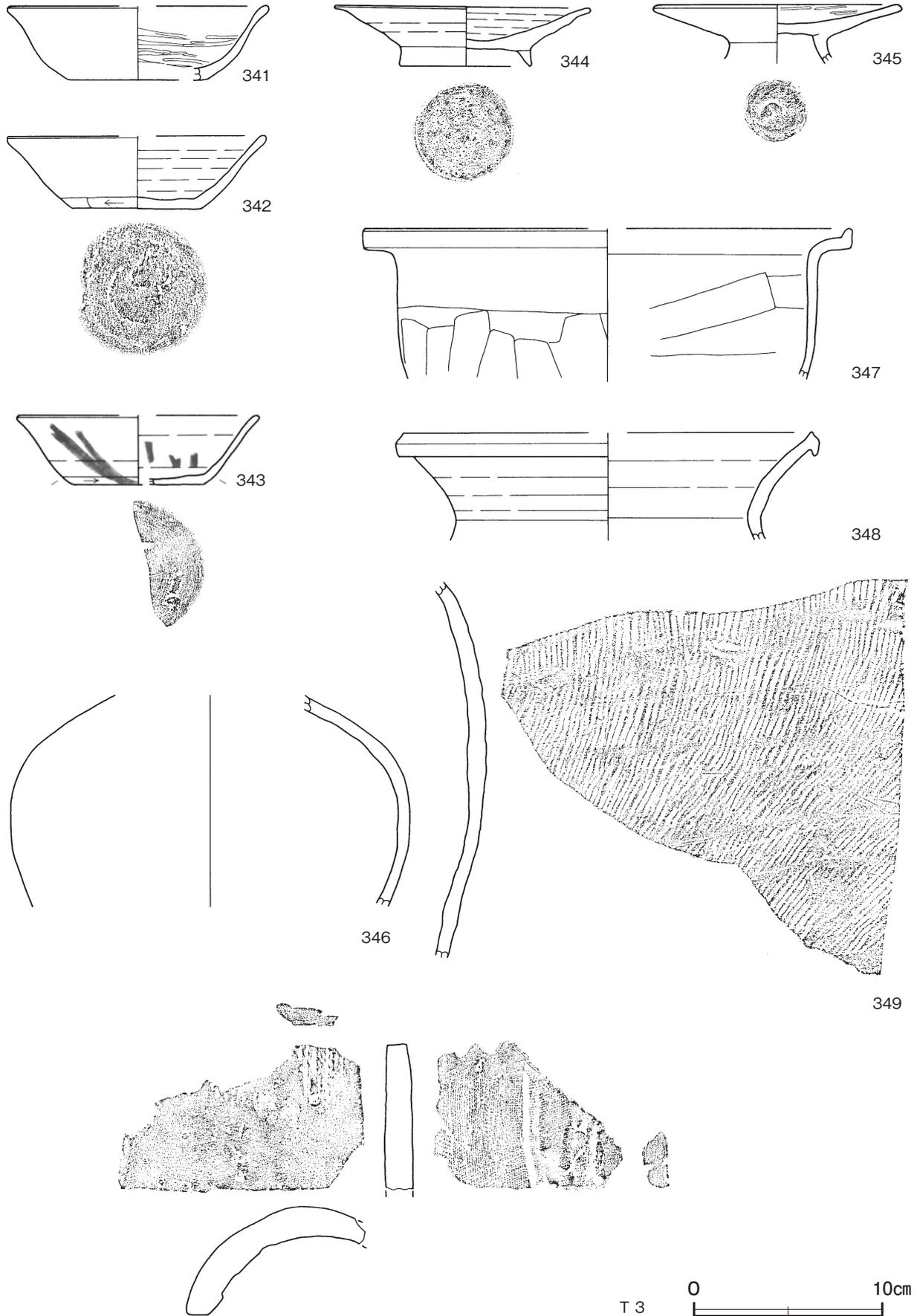
所見 時期は, 重複関係や出土土器から9世紀後葉に比定される。



第 231 図 第 1 号粘土採掘坑実測図

第 1 号粘土採掘坑出土遺物観察表 (第 232 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
341	土師器	坏	[13.8]	4.0	[7.2]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部内面へラ磨き 黒色処理	覆土中層	20%
342	須恵器	坏	13.6	3.9	6.8	長石・石英・雲母	明褐	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部回転へラ切後ナデ	覆土中	50% 新治窯
343	須恵器	坏	[12.6]	3.7	[6.8]	長石・石英	灰	普通	体部下端回転へラ削り 底部回転へラ削り 体部外・内面火襦	覆土中	30% 新治窯



第 232 図 第 1 号粘土採掘坑出土遺物実測図

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
344	土師器	皿	13.4	3.2	[6.9]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 二次焼成	覆土下層	80%
345	土師器	皿	13.0	(3.3)	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	内面ヘラ磨き 黒色処理 内面器面荒れ	覆土中層	70%
346	須恵器	長頸瓶	-	(11.4)	-	長石・石英	暗赤褐	良好	ロクロナデ 体部自然釉	覆土中層	10%
347	土師器	鉢	[25.7]	(8.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面縦位のナデ 内面横位のナデ	覆土中	10%
348	須恵器	甕	[21.7]	(5.8)	-	長石・石英	灰	普通	口縁部外・内面ナデ	覆土中層	5%
349	須恵器	甕	-	(20.2)	-	長石・石英	灰黄褐	普通	体部外面斜位の平行叩き 輪積痕 内面横位のナデ	覆土中	5%

番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
T 3	瓦	丸瓦	(9.6)	5.8	(7.9)	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	凸面縄叩き 凹面布目痕	覆土中	PL59

第2号粘土採掘坑 (第233・234図 PL48)

位置 調査区南部のF7g4区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第96号土坑を掘り込んでいる。

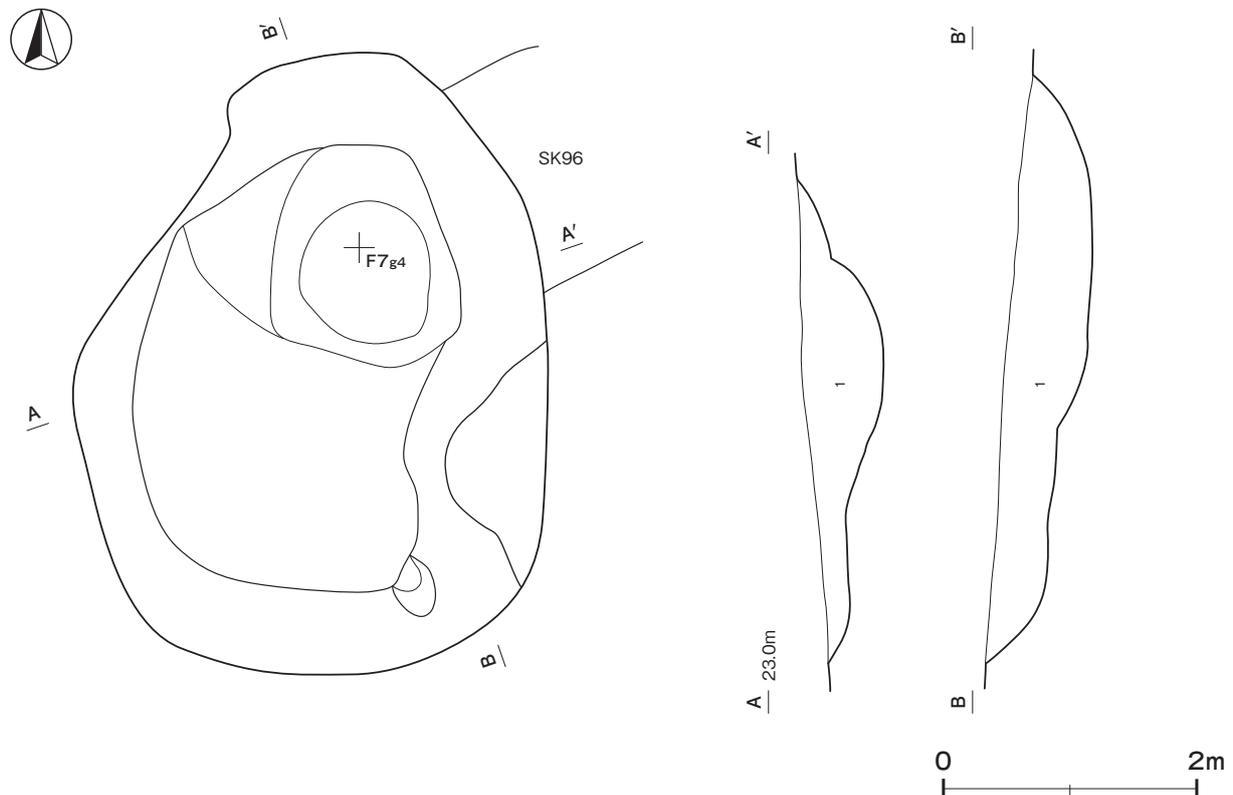
規模と形状 長径4.95m、短径3.74mの不整楕円形で、長径方向はN-0°である。底面は皿状で、深さは65cmである。底面北側には、径1.7mで深さ31cmほどの掘り込みがあり、ローム層下の黄褐色粘土層を掘り込んでいる。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 ロームブロックを含む単一層であることから一度に埋め戻されたものと考えられる。

土層解説

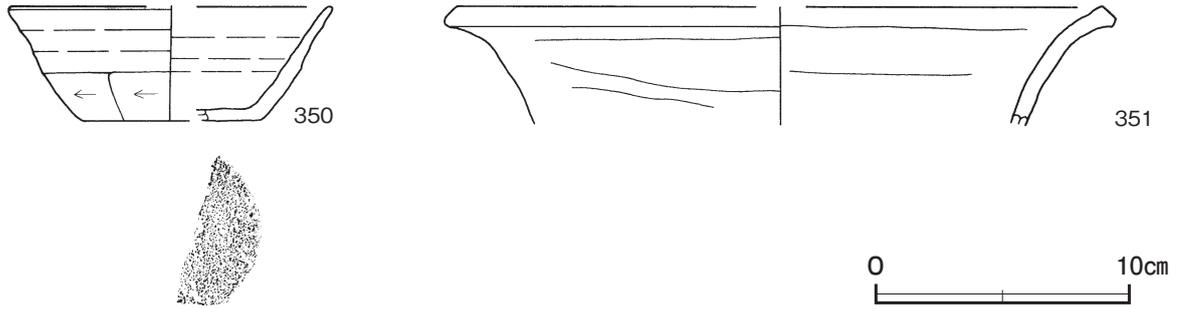
1 黒褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片43点(坏7, 甕類36), 須恵器片55点(坏13, 高台付坏1, 甕類41)が、主に北側の覆土中から出土している。350・351は覆土中から出土している。



第233図 第2号粘土採掘坑実測図

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀前葉に比定される。



第234図 第2号粘土採掘坑出土遺物実測図

第2号粘土採掘坑出土遺物観察表（第234図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
350	須恵器	坏	[12.7]	4.6	[7.0]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部不定方向の手持ちヘラ削り	覆土中	20% 新治窯
351	須恵器	甕	[25.6]	(4.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部外・内面ナデ	覆土中	5%

表16 平安時代粘土採掘坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1	E 6 h6	N - 5° - W N - 53° - E	不定形	15.2 × 13.6	74	外傾	凹凸	人為	土師器, 須恵器, 陶器, 磁器, 瓦	SI355・356・368・369 → 本跡 → SD21
2	F 7 g4	N - 0°	不整楕円形	4.95 × 3.74	65	緩斜	皿状	人為	土師器, 須恵器	SK96 → 本跡

(5) 土坑

第34号土坑（第235図）

位置 調査区中央部のE 7 j3区、標高23 mほどの台地平坦部に位置している。

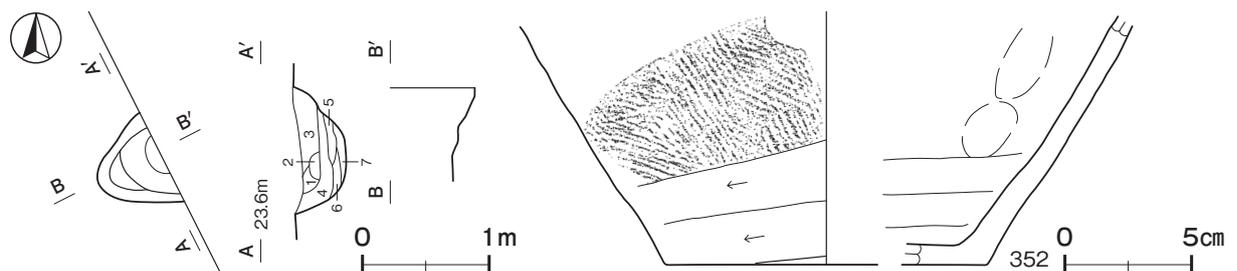
重複関係 第352号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 東側が調査区域外に延びていることから長径は0.53 mで、短径は0.78 mしか確認できなかった。平面形は楕円形と推定でき、長径方向はN - 63° - Eである。深さは55 cmで、底面は皿状である。壁は外傾している。

覆土 7層に分層できる。焼土ブロックや粘土ブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|------------------------|----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 | 5 黒色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック多量 | 6 黒褐色 焼土ブロック多量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子多量 | 7 黒褐色 粘土ブロック中量 |
| 4 黒褐色 焼土ブロック中量 | |



第235図 第34号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片3点（坏2，甕類1），須恵器片6点（鉢1，甕類5）が出土している。352は覆土中から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀前葉以後に比定される。

第34号土坑出土遺物観察表（第235図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
352	須恵器	鉢	-	(9.9)	[12.6]	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	体部外面斜位の平行叩き 横位のナデ 指頭痕	覆土中	5% 新治窯

第37号土坑（第236図）

位置 調査区中央部のF6a9区，標高23mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.38m，短径0.29mの楕円形で，長径方向はN-87°-Eである。深さは34cmで，底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

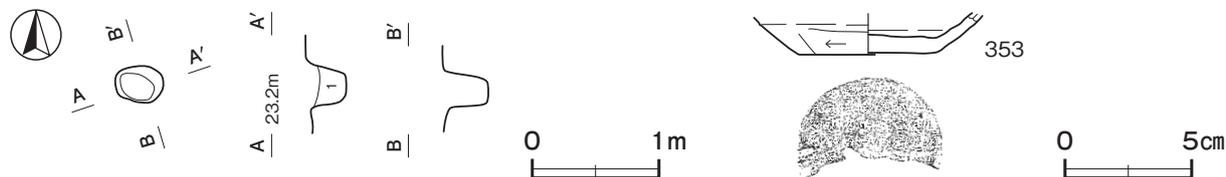
覆土 単一層のため堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片3点（甕類），須恵器片4点（坏1，蓋1，甕類2）が出土している。353は覆土中から出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀後葉に比定される。



第236図 第37号土坑・出土遺物実測図

第37号土坑出土遺物観察表（第236図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
353	須恵器	坏	-	(1.6)	5.5	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部下端手持ちへら削り 底部二方向の手持ちへら削り	覆土中	10% 新治窯

第39号土坑（第237図 PL48）

位置 調査区中央部のD6i2区，標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第351号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.23m，短径0.90mの楕円形で，長径方向はN-35°-Wである。深さは38cmで，底面は平坦である。壁は外傾している。

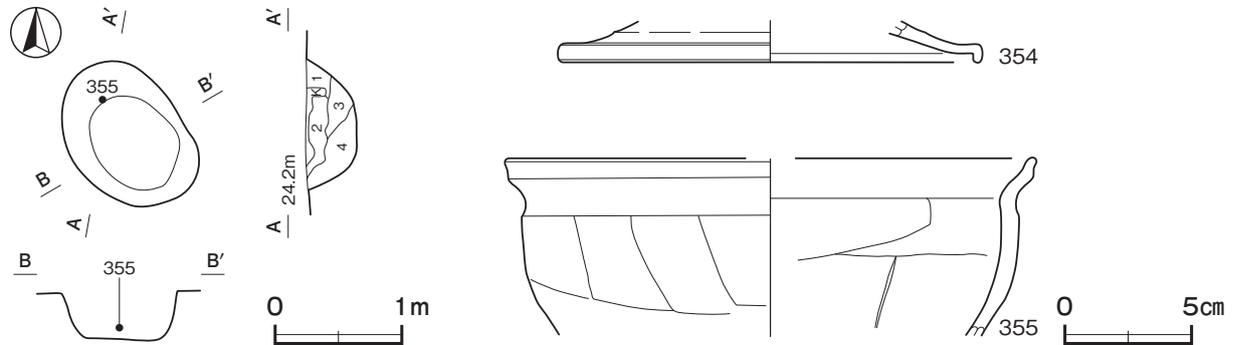
覆土 4層に分層できる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック多量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック少量
- 4 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量

遺物出土状況 土師器片1点（鉢），須恵器片1点（蓋）が出土している。355は北西付近の覆土下層，354は覆土中から出土している。

所見 時期は，重複関係や出土土器から9世紀前葉以後に比定される。



第237図 第39号土坑・出土遺物実測図

第39号土坑出土遺物観察表（第237図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
354	須恵器	蓋	[16.4]	(1.6)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	ロクロナデ	覆土中	5%
355	土師器	鉢	[20.7]	(7.1)	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	体部外面縦位のナデ 内面横位のナデ	覆土下層	10%

第43号土坑（第238図）

位置 調査区中央部のD6h2区，標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第351号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.30mほどの円形である。深さは45cmで，底面は平坦である。壁は外傾している。

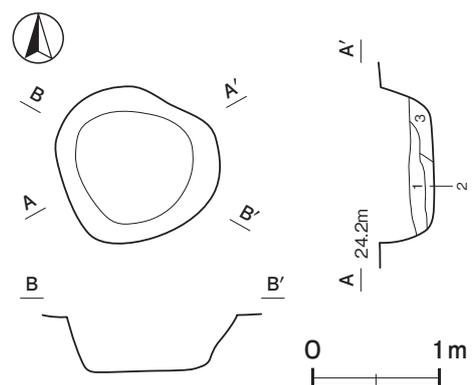
覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含んでいるが，東側から流れ込んだ状況から自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量，焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片5点（甕類），須恵器片5点（甕類）が出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は，重複関係や出土土器から9世紀前葉以前に比定される。



第238図 第43号土坑実測図

第46号土坑（第239図）

位置 調査区中央部のE6i7区，標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第368号竪穴建物跡と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状 長径1.19m，短径0.94mの楕円形で，長径方向はN-2°-Eである。深さは16cmで，底面は

平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

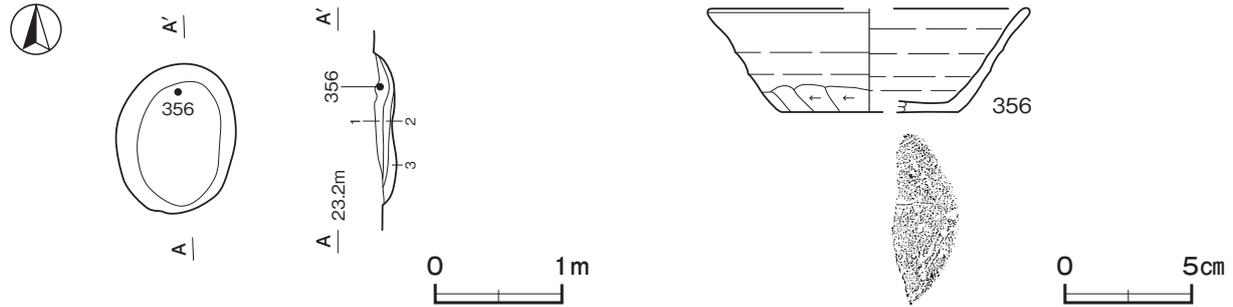
覆土 3層に分層できる。ローム粒子や粘土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | |
|-------|------------------------------|------------------------------------|
| 1 褐灰色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 粒子微量 |
| 2 褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量、炭化 | 3 にぶい褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 須恵器片2点(坏, 蓋)が出土している。356は北部の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉に比定される。



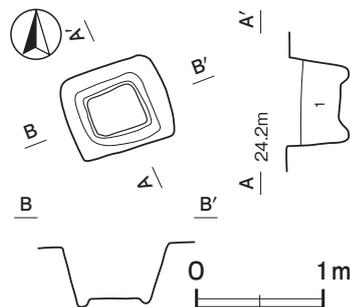
第239図 第46号土坑・出土遺物実測図

第46号土坑出土遺物観察表(第239図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
356	須恵器	坏	[12.6]	4.1	[6.9]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部不定方向の手持ちヘラ削り	覆土上層	20%新治窯

第59号土坑(第240図)

位置 調査区中央部のD6h1区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。



規模と形状 長軸0.82m、短軸0.68mの長方形で、長軸方向はN-69°-Eである。深さは42cmで、底面は平坦である。壁溝状のくぼみが全周している。壁はほぼ直立している。

覆土 単一層のため堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片1点(坏), 須恵器片1点(甕類)が出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器から9世紀代に比定される。

第240図 第59号土坑実測図

第96号土坑(第241図)

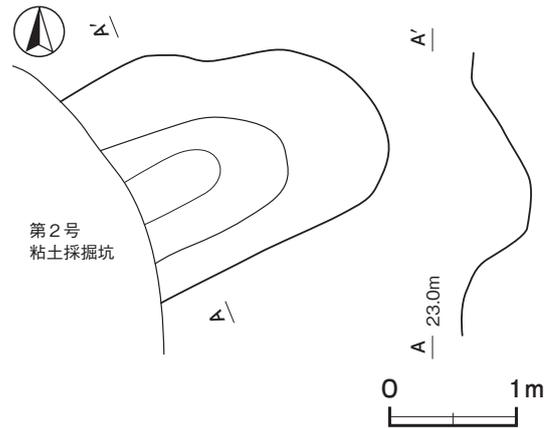
位置 調査区南部のF7f4区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2号粘土採掘坑に掘り込まれている。

規模と形状 第2号粘土採掘坑に掘り込まれているため、長径は2.06 mで、短径は1.80 mしか確認できなかった。確認できた範囲から楕円形と推定でき、長径方向はN - 63° - Eである。深さ48cmで、底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

遺物出土状況 土師器片2点（甕類），須恵器片12点（坏1，高台付坏1，甕類10）が覆土中から出土している。細片のため図示できない。

所見 第2号粘土採掘坑完掘後に確認された。時期は、重複関係や出土土器から9世紀中葉以前に比定できる。



第241図 第96号土坑実測図

第121号土坑（第242図）

位置 調査区南部のG 7 f6区，標高24 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第386号竪穴建物跡を掘り込み，第30号溝に掘り込まれている。

規模と形状 第30号溝に南側が掘り込まれているため、長径は1.16 mで、短径は0.70 mしか確認できなかった。平面形は長方形で、長径方向はN - 81° - Eである。深さは37cmで、底面は皿状である。壁は直立している。

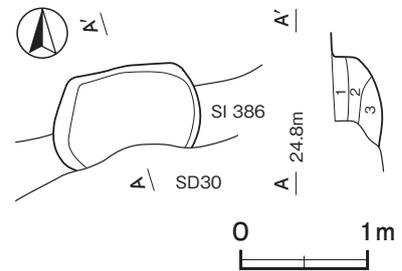
覆土 3層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量，炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片2点（甕類），須恵器片2点（坏，甕類）が出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀中葉以降に比定される。



第242図 第121号土坑実測図

表17 平安時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
34	E 7 j3	N - 63° - E	[楕円形]	(0.53) × (0.78)	55	皿状	外傾	人為	土師器，須恵器	SI 352 → 本跡
37	F 6 a9	N - 87° - E	楕円形	0.38 × 0.29	34	平坦	ほぼ直立	-	土師器，須恵器	
39	D 6 i2	N - 35° - W	楕円形	1.23 × 0.90	38	平坦	外傾	自然	土師器，須恵器	SI 351 → 本跡
43	D 6 h2	-	円形	1.30 × 1.24	45	平坦	外傾	自然	土師器，須恵器	SI 351 → 本跡
46	E 6 i7	N - 2° - E	楕円形	1.19 × 0.94	16	平坦	緩斜	人為	須恵器	
59	D 6 h1	N - 69° - E	長方形	0.82 × 0.68	42	平坦	ほぼ直立	-	土師器，須恵器	
96	F 7 f4	N - 63° - E	[楕円形]	(2.06) × 1.80	48	平坦	緩斜	-	土師器，須恵器	本跡 → 第2号粘土採掘坑
121	G 7 f6	N - 81° - E	[長方形]	1.16 × (0.70)	37	皿状	直立	自然	土師器，須恵器	SI 386 → 本跡 → SD30

(6) 柱穴列

第3号柱穴列 (第243図)

位置 調査区中央部のF 6 b0～F 7 a4区, 標高23 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と構造 東西方向15.6 mの間に並ぶ柱穴11か所を確認した。配列方向はN - 71° - Eである。柱間寸法は0.6～2.7 m (2～9尺)と不揃いである。

柱穴 11か所。平面形は楕円形又は円形で, 長径19～38cm, 短径17～27cmである。深さは7～22cmで, 断面はU字形である。第1・2層は埋土である。

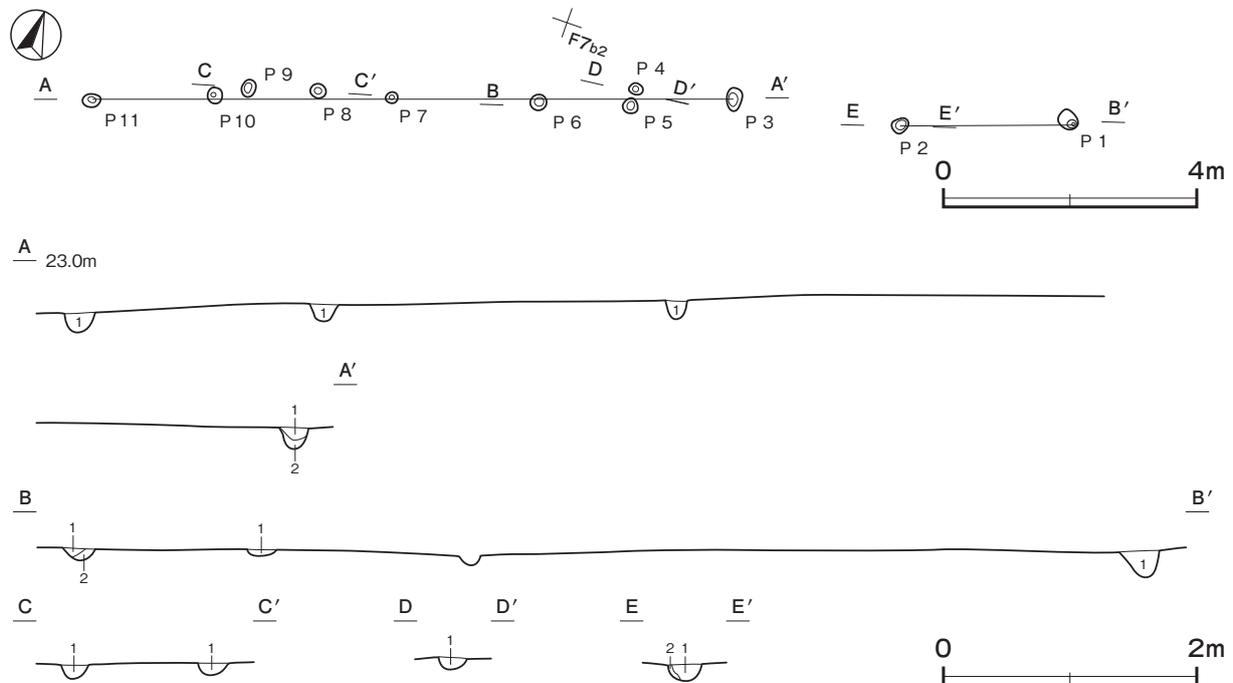
土層解説 (各ピット共通)

1 黒 色 粘土ブロック微量

2 黒 色 粘土ブロック少量

遺物出土状況 土師器片1点 (甕類), 須恵器片2点 (坏) が, P 1・P 2・P 11の埋土から出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は, 出土土器から9世紀代に比定できる。第24号溝に沿って直線状に延びていることから, 柵列跡と考えられる。



第243図 第3号柱穴列実測図

第6号柱穴列 (第244図)

位置 調査区中央部のD 5 f0区, 標高24 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と構造 南北方向7.2 mの間に並ぶ柱穴5か所を確認した。配列方向はN - 27° - Wである。柱間寸法は1.5～2.1 m (5～7尺)で, 柱筋はほぼ揃っている。

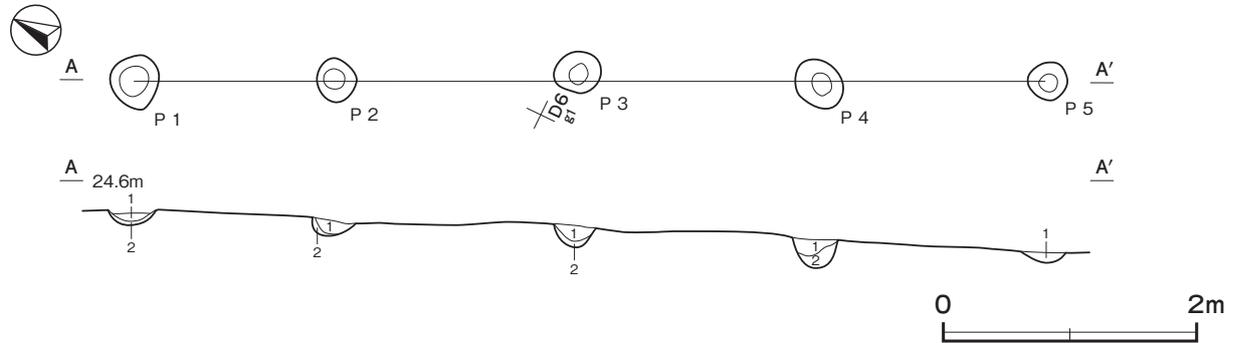
柱穴 5か所。平面形は楕円形又は円形で, 長径30～44cm, 短径29～38cmである。深さは7～23cmで, 断面はU字形である。第1・2層は埋土である。

土層解説 (各ピット共通)

1 黒 褐色 ローム粒子少量, 炭化物微量

2 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片6点(坏2, 甕類4)が, P1・P3の埋土から出土している。細片のため図示できない。
所見 時期は, 出土土器から9世紀代に比定できる。直線状に延びていることから, 塀跡の可能性はあるが, 何に伴うものか不明である。



第244図 第6号柱穴列実測図

第7号柱穴列 (第245図)

位置 調査区中央部のD6i1区, 標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と構造 南北方向3.0mの間に並ぶ柱穴3か所を確認した。配列方向はN-3°-Eである。柱間寸法は1.5m(5尺)で, 柱筋はほぼ揃っている。

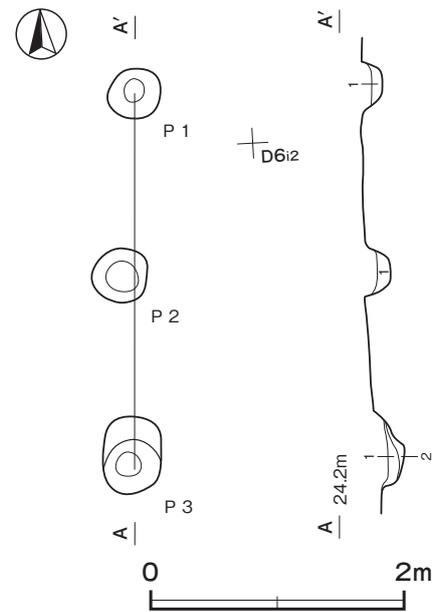
柱穴 3か所。平面形は円形又は楕円形で, 長径45~62cm, 短径40~47cmである。深さは18~23cmで, 断面はU字形又は逆台形である。第1・2層は埋土である。

土層解説 (各ピット共通)

- 1 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片5点(甕類), 須恵器片1点(甕類)が, P1・P3の埋土から出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は, 出土土器から9世紀代に比定できる。直線状に延びていることから, 塀跡の可能性はあるが, 何に伴うものか不明である。



第245図 第7号柱穴列実測図

表18 平安時代柱穴列一覧表

番号	位置	主軸方向	長さ(m)	柱間(m)	柱 穴				主な出土遺物	備 考	
					柱穴数	平面形	長径(cm)	短径(cm)			深さ(cm)
3	F7a4 ~F6b0	N-71°-E	15.6	0.6~2.7	11	円形 楕円形	19~38	17~27	7~22	土師器, 須恵器	
6	D5f0	N-27°-W	7.2	1.5~2.1	5	円形 楕円形	30~44	29~38	7~23	土師器	
7	D6i1	N-3°-E	3.0	1.5	3	円形 楕円形	45~62	40~47	18~23	土師器, 須恵器	

(7) 溝 跡

第5号溝跡 (第246図 PL45)

調査年度 調査区域外の北東部の大部分は平成12年度に調査し、当財団調査報告『第209集』において報告している。

位置 調査区北部のC6d2～D5b8区、標高25mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第17号溝に掘り込まれ、第363号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 D5b8区から北東方向(N-24°-E)に直線状に伸び、平成12年度調査のC区第5号溝につながる。南西部は平成12年度調査の九重東岡廃寺で確認した溝につながるものと考えられる。今回確認できた長さは32.32mで、上幅0.80～1.43m、下幅0.15～0.58m、深さ19～55cmである。断面形はU字状である。

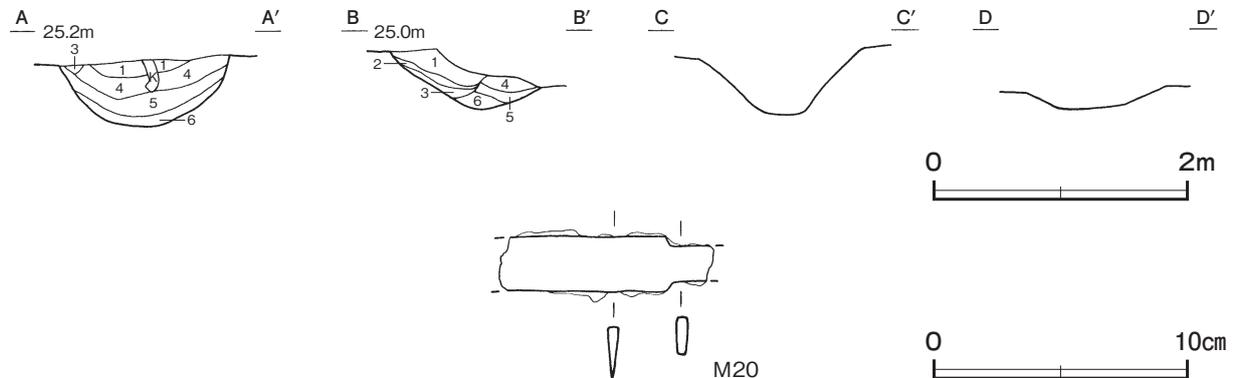
覆土 6層に分層できる。ロームブロックやローム粒子が含まれているが、レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------|----------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | ローム粒子少量 | 6 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 土師器片73点(坏4, 甕類69), 須恵器片141点(坏29, 高台付坏1, 蓋4, 甕類103, 甑4), 金属製品1点(刀子)が出土している。M20は中央部付近の覆土中から出土している。

所見 時期は、第17号溝、第363号竪穴建物跡との重複関係や出土土器から9世紀後葉以前に比定できる。



第246図 第5号溝跡・出土遺物実測図

第5号溝跡出土遺物観察表 (第246図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M20	刀子	(8.5)	2.3	0.4	(28.5)	鉄	刃部先端部欠損 刃部断面三角形 茎部断面四角形 両関	覆土中	PL58

第17号溝跡 (第247図)

位置 調査区北部のC5h7～C6h3区、標高25mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第362号竪穴建物跡、第5・28号溝跡を掘り込んでいる。第121号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

規模と形状 C5h7区から東方向(N-90°-E)へ直線状に東側調査区域外まで伸びているため、長さは

25.5 mしか確認できなかった。上幅 1.32 ~ 2.50 m, 下幅 0.08 ~ 0.40 m, 深さ 22 ~ 32cmである。断面形は浅いU字状である。

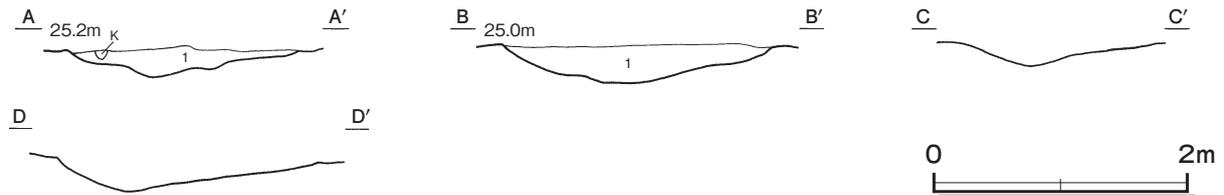
覆土 単一層であるため、堆積状況は不明である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片 24 点 (甕類), 須恵器片 36 点 (坏 4, 高台付坏 1, 長頸瓶 1, 甕類 30) が出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は, 第 5・28 号溝跡, 第 362 号竪穴建物跡との重複関係や出土土器から 9 世紀後葉に比定できる。



第 247 図 第 17 号溝跡実測図

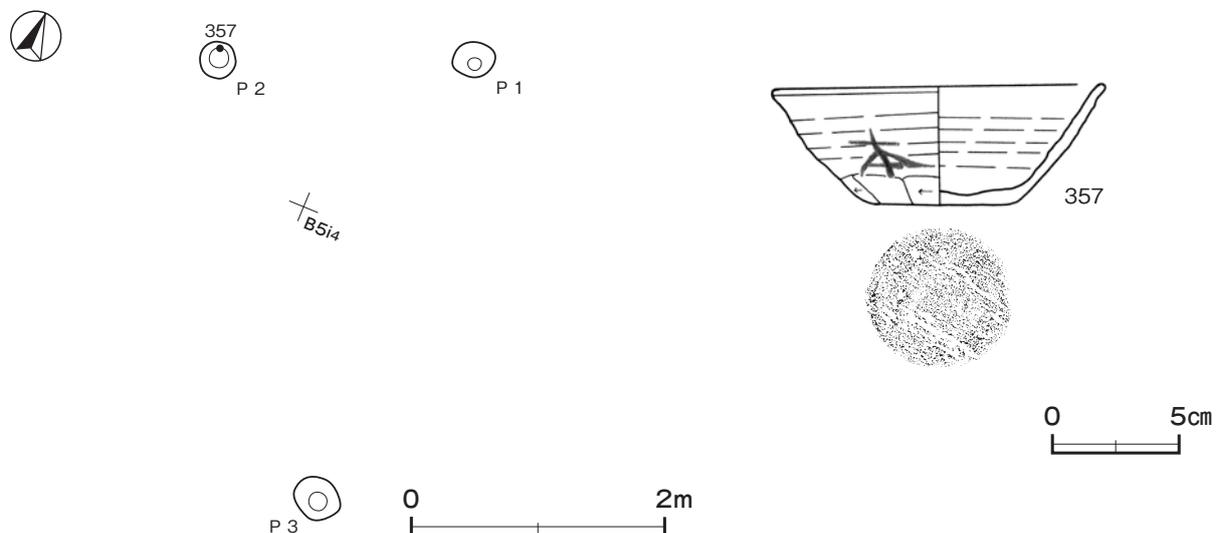
表 19 平安時代溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
5	C6d2 ~ D5b8	N-24°-E	直線状	(32.32)	(0.80 ~ 1.43)	0.15 ~ 0.58	19 ~ 55	U字状	緩斜	自然	土師器, 須恵器, 金属製品	SI363 → 本跡 → SD17
17	C5h7 ~ C6h3	N-90°-E	直線状	(25.5)	1.32 ~ 2.50	0.08 ~ 0.40	22 ~ 32	浅いU字状	緩斜	-	土師器, 須恵器	SI362, SD5・28 → 本跡

(8) ピット群

第 1 号ピット群 (第 248 図)

位置 調査区北部の B 5 h3 ~ B 5 i4 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。



第 248 図 第 1 号ピット群・出土遺物実測図

規模と形状 南北 4.00 m, 東西 2.18 m の範囲に, ピット 3 か所を確認した。個々の形状, 計測値については, 一覧表に記載する。

遺物出土状況 須恵器片 1 点 (坏) が出土している。357 は P 2 の覆土下層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 9 世紀中葉と考えられる。ピットの分布状況から建物跡は想定できないので, 性格は不明である。

第 1 号ピット群ピット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	B 5 h4	楕円形	35	28	45
2	B 5 h3	円形	30	29	30
3	B 5 i4	楕円形	38	32	40

第 1 号ピット群出土遺物観察表 (第 248 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
357	須恵器	坏	13.0	4.8	5.8	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端手持ちへら削り へら削り 体部外面墨書	底部一方向の手持ち 「本」	P 2 覆土下層	90% PL51 新治窯

3 江戸時代の遺構と遺物

当時代の遺構は, 土坑 1 基, 溝跡 4 条を確認した。以下, 遺構及び遺物について記述する。

(1) 土坑

第 28 号土坑 (第 249 図 PL48)

位置 調査区北部の B 5 e7 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 1.19 m, 短軸 0.82 m の隅丸長方形で, 長軸方向は N - 84° - E である。深さは 22cm で, 底面は平坦である。壁は外傾している。

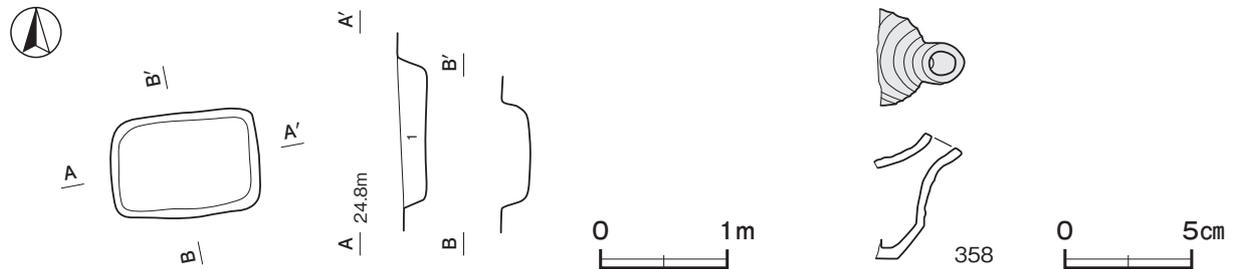
覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 陶器片 3 点 (碗₂, 急須 1) のほか, 土師器片 2 点 (甕類), 須恵器片 3 点 (甕類) が出土している。358 は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から江戸時代に比定できる。性格は不明である。



第 249 図 第 28 号土坑・出土遺物実測図

第 28 号土坑出土遺物観察表 (第 249 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様の特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
358	陶器	急須	-	(5.0)	-	長石・石英にふい黄橙	ロクロナデ	灰釉	瀬戸美濃系	覆土中	5%

(2) 溝 跡

第 21 号溝跡 (第 250 図 PL45)

位置 調査区中央部の D 6 h7 ~ F 7 g1 区, 標高 22 ~ 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 354・358・367 号竪穴建物跡, 第 115 A・115 B 号掘立柱建物跡, 第 1 号粘土採掘坑, 第 25 号溝跡を掘り込んでいる。第 22 号溝跡とも重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 西側の調査区域外の E 6 j6 区から東方向 (N - 69° - E) へ直線状に東側の調査区域外まで延びているため, 長さは 26.32 m しか確認できなかった。中央部付近で 2 方向に分岐している。E 6 i0 区で北方向 (N - 20° - W) へ直線状に長さ 45.70 m 延び, E 6 j8 区で南方向 (N - 161° - E) へ直線状に 29.72 m 延びている。上幅 0.68 ~ 2.46 m, 下幅 0.16 ~ 0.82 m, 深さ 17 ~ 42cm である。断面形は浅い U 字状である。

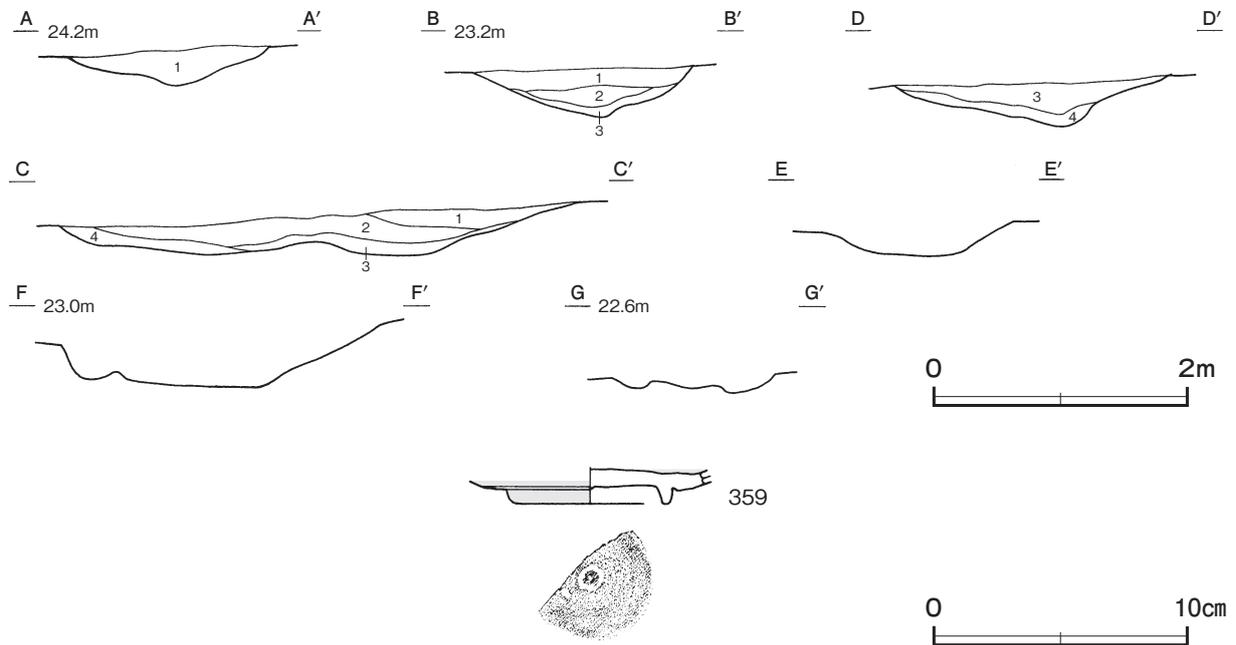
覆土 4 層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれているが, レンズ状に堆積していることから自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 粘土粒子微量
- 3 黒褐色 粘土ブロック少量
- 4 黒褐色 粘土ブロック微量

遺物出土状況 陶器片 11 点 (碗 6, 皿 2, 花瓶 1, 播鉢 2), 磁器片 14 点 (碗 11, 蕎麦猪口 2, 急須 1) のほか, 土師器片 116 点 (坏 7, 甕類 109), 須恵器片 191 点 (坏 18, 高台付坏 4, 蓋 4, 甕類 165), 瓦 12 点 (軒平瓦 1, 平瓦 11) が覆土中から出土している。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から江戸時代以前に比定できる。性格は不明である。



第 250 図 第 21 号溝跡・出土遺物実測図

第 21 号溝跡出土遺物観察表 (第 250 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様の特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
359	陶器	皿	-	(1.4)	6.0	長石 灰オリーブ	外・内面つけ掛け	灰釉	瀬戸美濃系	覆土中	30%

第22号溝跡（第251図）

位置 調査区南部のF 6 b7～F 6 b9区，標高22 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第353号竪穴建物跡を掘り込んでいる。第21号溝跡との新旧関係は不明である。

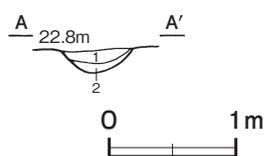
規模と形状 西側が調査区域外のF 6 b7区から東方向（N - 86° - E）へ直線状に第21号溝跡まで延びていることから，長さは6.92 mしか確認できなかった。上幅0.25～1.02 m，下幅0.11～0.31 m，深さ20 cmである。断面形は浅いU字状である。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれているが，レンズ状に堆積していることから自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

2 黒褐色 ロームブロック少量



遺物出土状況 陶器片1点（碗）のほか，土師器片23点（甕類），須恵器片17点（坏1，高台付坏1，甕類15），瓦1点（平瓦）が覆土中から出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は，重複関係や出土土器から江戸時代以前に比定できる。性格は不明である。

第251図 第22号溝跡実測図

第29号溝跡（第252図）

位置 調査区中央部のD 6 d6～D 6 e2区，標高25 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 D 6 e2区から東方向（N - 70° - E）へ直線状に調査区域外に延びていることから，長さは13.64 mしか確認できなかった。上幅0.92～1.40 m，下幅0.40～0.68 m，深さ23～30 cmである。断面形は浅いU字状である。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量

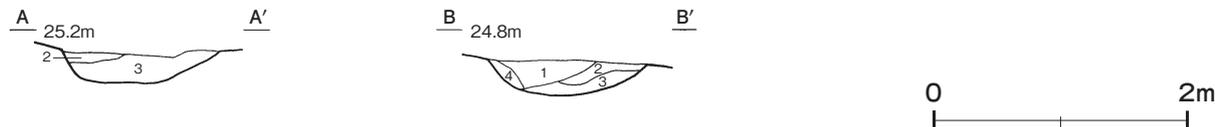
3 黒褐色 ロームブロック少量

2 黒褐色 ロームブロック多量

4 黒褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 陶器片3点（碗），土師質土器片1点（鍋_か）のほか，須恵器片29点（坏3，高台付坏1，甕類25），瓦9点（平瓦）が覆土中から出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は，重複関係や出土土器から江戸時代以前に比定できる。性格は不明である。



第252図 第29号溝跡実測図

第30号溝跡（第253図 PL45）

位置 調査区南部のG 7 g5～G 8 e1区，標高24 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第386号竪穴建物跡，第121号土坑を掘り込んでいる。第34号溝跡との新旧関係は不明である。

規模と形状 G 8 e1区から西方向（N - 105° - W）へ直線状に調査区域外に延びていることから，長さは

23.48 mしか確認できなかった。上幅 1.42 ~ 2.20 m, 下幅 0.18 ~ 0.80 m, 深さ 39 ~ 63cmである。断面形は浅いU字状である。

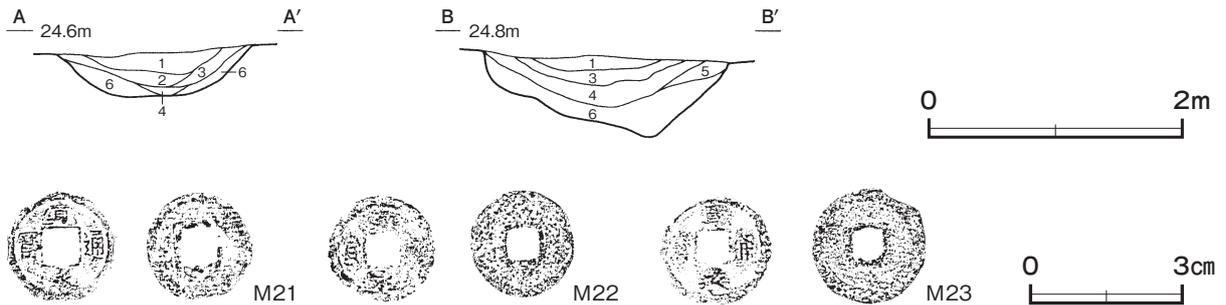
覆土 6層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化材・焼土ブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化物微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 金属製品3点(銭貨)が覆土中から出土している。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から江戸時代に比定できる。性格は不明である。



第 253 図 第 30 号溝跡・出土遺物実測図

第 30 号溝跡出土遺物観察表 (第 253 図)

番号	種別	銭名	径	孔幅	重量	材質	初鑄年	特徴	出土位置	備考
M21	銭貨	寛永通宝	2.20	0.7	1.73	銅	1668	新寛永 背無し	覆土中	PL58
M22	銭貨	寛永通宝	2.14	0.6	2.07	銅	1668	新寛永 背無し	覆土中	PL58
M23	銭貨	寛永通宝	2.31	0.65	1.16	銅	1668	新寛永 背無し	覆土中	PL58

表 20 江戸時代溝跡一覧表

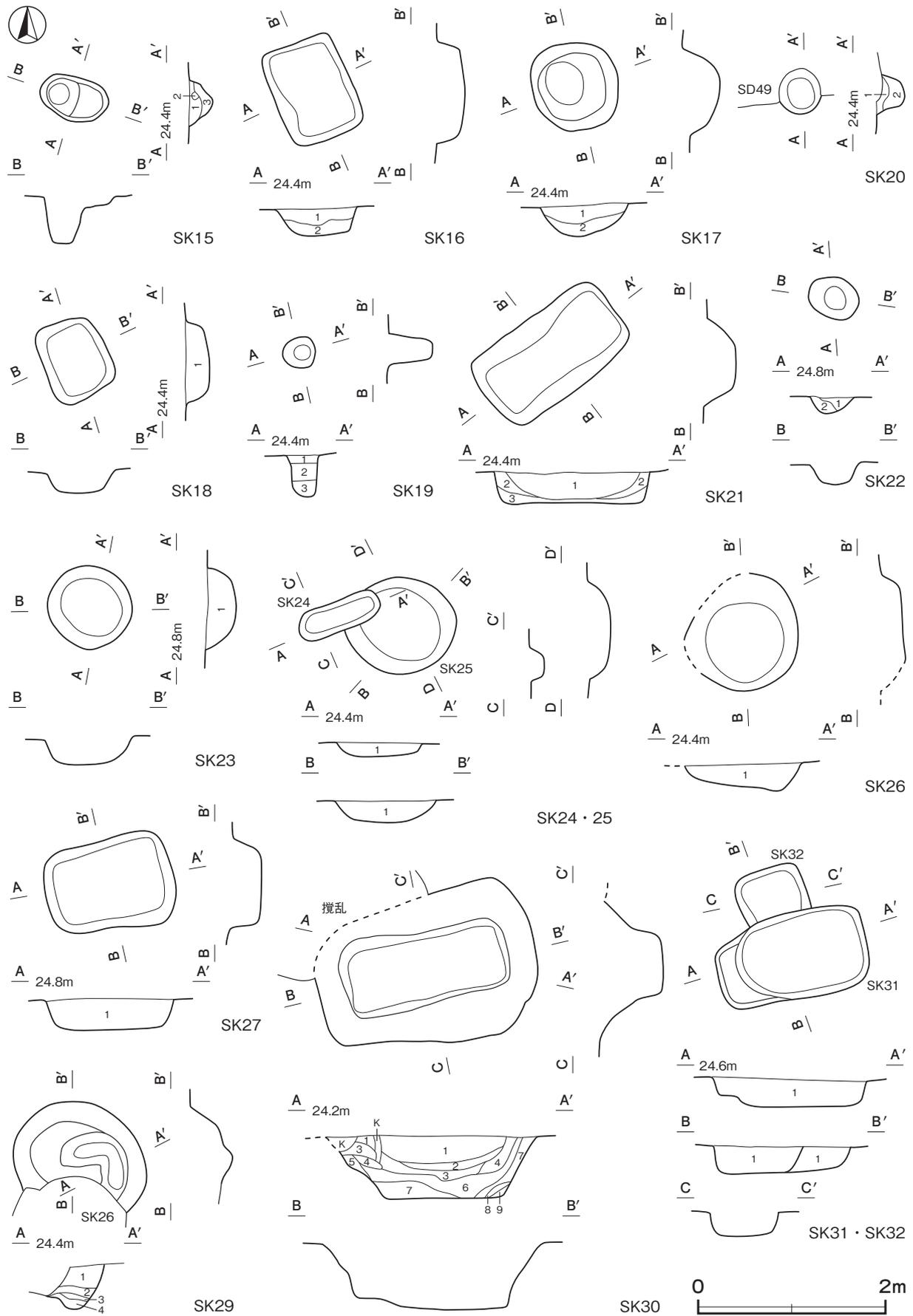
番号	位置	方向	平面形	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
21	D 6h7 ~ F 7g1	N - 69° - E N - 20° - W N - 161° - E	十字状	(26.32) (45.70) (29.72)	0.68 ~ 2.46	0.16 ~ 0.82	17 ~ 42	浅いU字状	緩斜	自然	陶器, 磁器, 土師器, 須恵器, 瓦	SI354358-367, SB115A-115B, 第1号粘土採掘坑, SD25A・25B → 本跡
22	F 6b7 ~ F 6b9	N - 86° - E	直線状	(6.92)	0.25 ~ 1.02	0.11 ~ 0.31	20	浅いU字状	緩斜	自然	陶器, 土師器, 須恵器, 瓦	SI353 → 本跡
29	D 6d6 ~ D 6e2	N - 70° - E	直線状	(13.64)	0.92 ~ 1.40	0.40 ~ 0.68	23 ~ 30	浅いU字状	緩斜	人為	陶器, 土師質土器, 須恵器, 瓦	
30	G 7g5 ~ G 8e1	N - 105° - W	直線状	(23.48)	1.42 ~ 2.20	0.18 ~ 0.80	39 ~ 63	浅いU字状	緩斜	自然	金属製品	SI386, SK121 → 本跡

4 その他の遺構と遺物

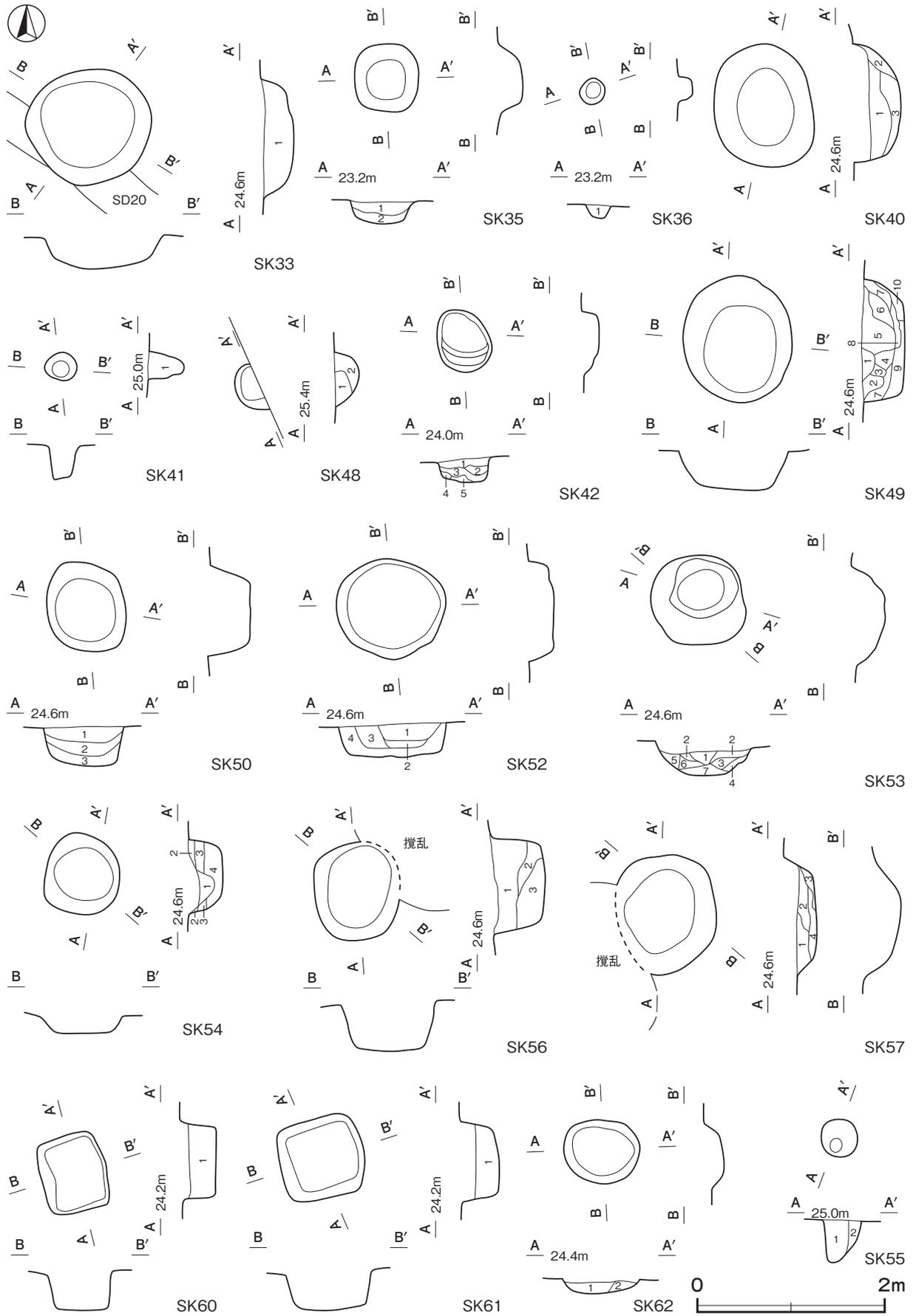
今回の調査で時期が明らかでない土坑 63 基, 柱穴列 1 条, 溝跡 5 条, ピット群 2 か所を確認した。以下, 遺構及び遺物について記述する。

(1) 土坑

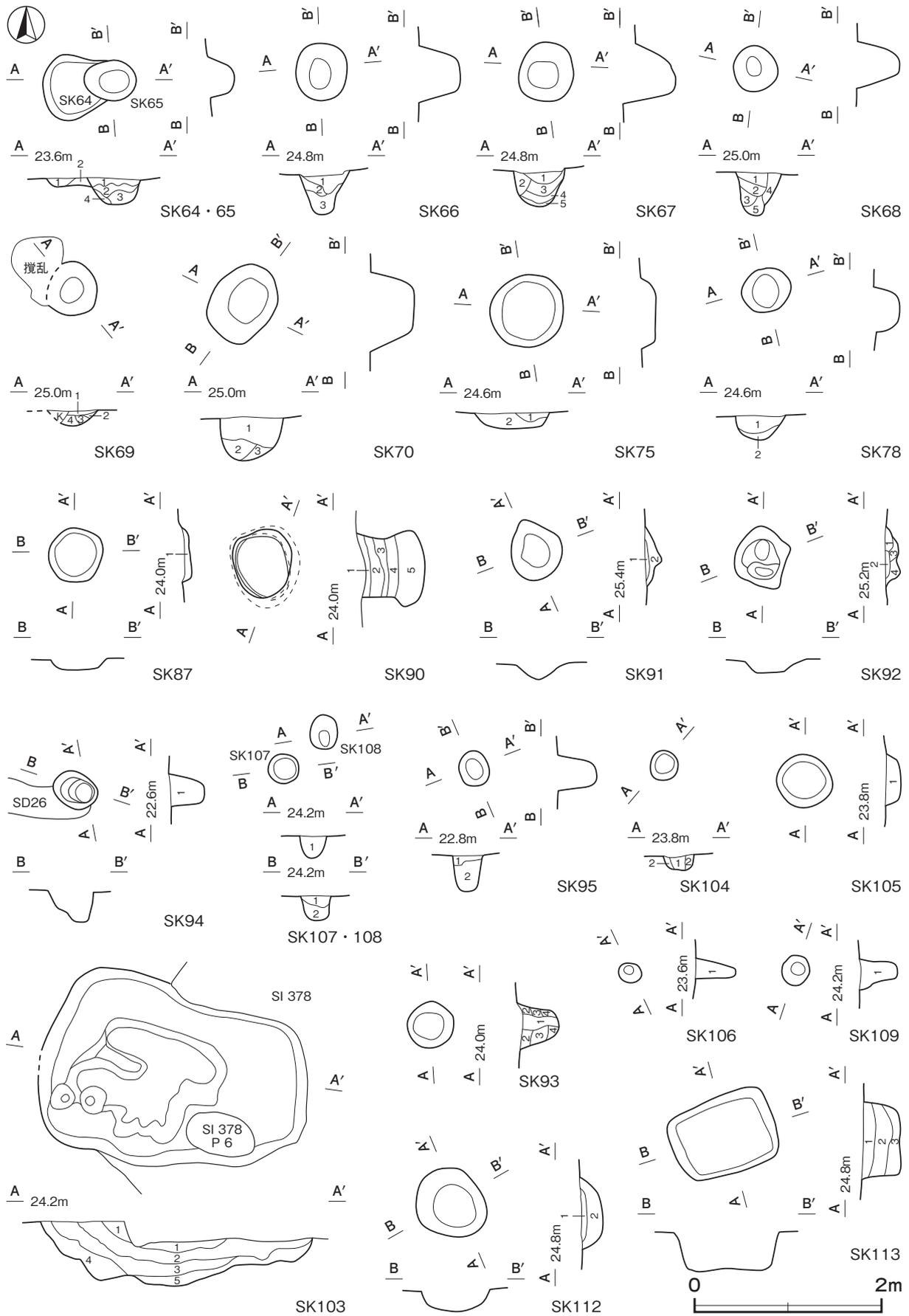
時期や性格が明確でない土坑に関して, 規模・形状等を実測図(第 254 ~ 257 図)と土層解説及び一覧表で掲載する。



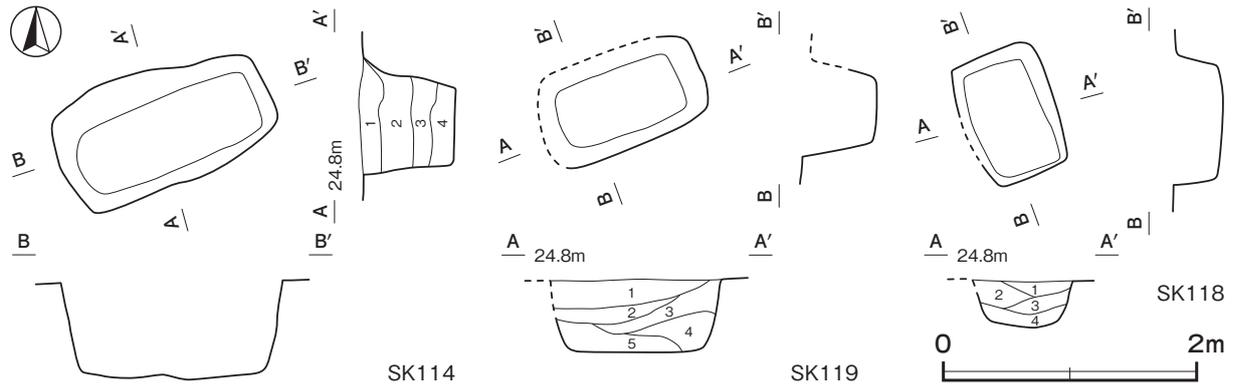
第 254 図 その他の土坑実測図 (1)



第 255 図 その他の土坑実測図 (2)



第 256 図 その他の土坑実測図 (3)



第 257 図 その他の土坑実測図 (4)

第 15 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量

第 16 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第 17 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量

第 18 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 19 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 灰褐色 粘土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 灰褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量

第 20 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒色 ロームブロック微量

第 21 号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第 22 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第 23 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第 24 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量

第 25 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

第 26 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量

第 27 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量

第 29 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ローム粒子多量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック多量

第 30 号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量
- 4 黒褐色 ロームブロック多量
- 5 黒褐色 ロームブロック中量
- 6 黒褐色 ロームブロック少量
- 7 黒褐色 ロームブロック多量
- 8 黒色 ロームブロック微量
- 9 黒褐色 ローム粒子少量

第 31 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量

第 32 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量

第 33 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量

第 35 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 2 黒褐色 焼土ブロック少量, ロームブロック微量

第 36 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック少量

第 40 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量

第 41 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子微量

第 42 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 粘土ブロック少量
- 3 黒褐色 焼土ブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量
- 5 黒褐色 ロームブロック中量

第 48 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量

第 49 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 炭化物少量、ロームブロック微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量
- 5 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 7 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 8 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 9 灰 褐 色 ローム粒子中量
- 10 にぶい褐色 ロームブロック多量

第 50 号土坑土層解説

- 1 褐 灰 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック中量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第 52 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 4 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第 53 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック中量
- 5 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 6 黒 色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 にぶい黄褐色 ローム粒子微量

第 54 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 4 極暗褐色 ロームブロック中量

第 55 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・炭化物微量

第 56 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック多量
- 3 褐 色 ロームブロック中量

第 57 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ローム粒子中量
- 4 灰 褐 色 ロームブロック中量

第 60 号土坑土層解説

- 1 灰 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック中量、炭化粒子微量

第 61 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 粘土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量

第 62 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック中量

第 64 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 粘土ブロック少量、焼土ブロック微量
- 2 黒 褐 色 粘土ブロック中量、焼土ブロック微量

第 65 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 焼土ブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子微量
- 3 黒 褐 色 粘土ブロック中量、焼土ブロック微量
- 4 黒 褐 色 粘土ブロック多量

第 66 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 粘土ブロック中量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子中量

第 67 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 2 極暗褐色 ローム粒子中量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 4 黒 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 5 黒 褐 色 ローム粒子少量

第 68 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子中量
- 4 にぶい褐色 ローム粒子多量
- 5 黒 褐 色 ロームブロック中量

第 69 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 3 明 褐 色 ローム粒子多量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック少量

第 70 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック中量

第 75 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック中量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量

第 78 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック多量

第 87 号土坑土層解説

- 1 黒 色 ロームブロック少量

第 90 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 焼土ブロック少量、粘土ブロック微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子多量、焼土粒子微量
- 3 極暗褐色 粘土ブロック少量
- 4 黒 褐 色 粘土ブロック少量
- 5 黒 褐 色 粘土粒子少量

第 91 号土坑土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック微量
- 2 黒 褐 色 粘土ブロック微量

第 92 号土坑土層解説

- 1 灰 赤 色 焼土ブロック中量、粘土ブロック・炭化物少量
- 2 暗赤褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量
- 3 極暗赤褐色 焼土粒子中量
- 4 褐 色 炭化物多量、焼土ブロック中量、粘土ブロック微量

第 93 号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 4 黒 褐 色 ローム粒子少量

第 94 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック多量

第 95 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック中量
- 2 黒褐色 粘土ブロック少量

第 103 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック中量
- 2 暗褐色 粘土ブロック中量
- 3 黒褐色 粘土ブロック多量
- 4 暗褐色 粘土ブロック多量
- 5 黒褐色 粘土ブロック少量

第 104 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック中量

第 105 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第 106 号土坑土層解説

- 1 黒色 焼土粒子少量

第 107 号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 炭化物微量

第 108 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量

第 109 号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量, ローム粒子少量

第 112 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 113 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量, 焼土ブロック微量

第 114 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物微量
- 2 暗褐色 炭化材・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

第 118 号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 4 極暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量

第 119 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 極暗褐色 ロームブロック微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量

表 21 その他の土坑跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
15	A 5 e4	N - 70° - W	楕円形	0.74 × 0.47	54	平坦	直立・緩斜	自然	須恵器	
16	A 5 f3	N - 22° - W	長方形	1.10 × 0.84	30	平坦	ほぼ直立	自然	土師器	
17	A 5 i4	-	円形	0.96 × 0.91	36	皿状	緩斜	自然	土師器	
18	A 5 f3	N - 20° - W	長方形	0.86 × 0.68	24	平坦	ほぼ直立	自然		
19	A 5 h4	-	円形	0.35 × 0.35	47	皿状	直立	自然		
20	A 5 e4	N - 6° - E	楕円形	(0.50) × (0.44)	30	皿状	外傾	自然		
21	B 5 b4	N - 54° - E	長方形	1.66 × 0.92	32	平坦	外傾	自然		
22	C 5 c9	N - 63° - W	楕円形	0.55 × 0.45	21	皿状	緩斜	自然	土師器	
23	B 5 c6	-	円形	0.90 × 0.85	32	平坦	緩斜	自然	須恵器	
24	B 5 d2	N - 67° - E	隅丸長方形	0.90 × 0.32	15	平坦	外傾	自然		SK 25 →本跡
25	B 5 d2	N - 7° - W	楕円形	1.20 × 1.03	23	平坦	外傾	自然		本跡→SK 24
26	B 5 d3	N - 23° - E	楕円形	1.26 × 1.15	28	平坦	外傾	自然	縄文土器, 土師器, 須恵器, 陶器	本跡→SK 29
27	B 5 e8	N - 77° - E	長方形	1.38 × 1.02	32	平坦	外傾	自然	須恵器	
29	B 5 d3	N - 60° - W	[楕円形]	1.46 × (0.76)	44	凹凸	外傾	自然		SK 26 →本跡
30	B 4 c0	N - 75° - E	隅丸長方形	2.36 × 1.65	70	平坦	外傾	自然		
31	B 5 e6	N - 75° - E	長方形	1.64 × 0.95	31	平坦	外傾	自然	土師器, 土師質土器	SK 32 →本跡
32	B 5 e6	N - 71° - E	長方形	0.75 × 0.54	28	平坦	外傾	自然		本跡→SK 31
33	B 5 e5	-	方形	1.34 × 1.23	34	皿状	外傾	自然	土師器, 須恵器	SD 20 →本跡
35	F 6 a0	-	円形	0.74 × 0.68	24	平坦	ほぼ直立	自然	土師器, 須恵器	
36	F 6 a9	N - 71° - E	楕円形	0.28 × 0.25	16	平坦	外傾	自然		
40	C 5 g7	N - 11° - W	楕円形	1.04 × 0.33	51	平坦	外傾	自然	土師器, 須恵器	SD 28 →本跡
41	C 6 e1	N - 86° - W	[楕円形]	0.34 × 0.30	38	平坦	外傾	自然		

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
42	E 7 f1	N - 18° - W	楕円形	0.70 × 0.54	25	平坦	直立	自然	土師器, 須恵器	SI 360 → 本跡
48	C 6 f2	N - 24° - W	[楕円形]	0.53 × (0.26)	27	皿状	緩斜	自然		
49	C 5 f7	N - 5° - W	楕円形	1.36 × 1.16	42	平坦	外傾	人為	土師器, 須恵器, 陶器	
50	C 5 f8	N - 28° - W	楕円形	0.84 × 0.04	44	平坦	外傾	人為	土師器, 須恵器, 陶器	
52	C 5 e7	-	円形	1.16 × 1.08	26	平坦	外傾	人為	土師器, 須恵器, 陶器	
53	C 5 g8	-	円形	1.10 × 1.05	50	平坦	外傾	人為	土師器, 須恵器	SI 362 → 本跡
54	C 5 h8	-	円形	1.35 × 1.24	55	平坦	外傾	人為	須恵器	SI 362 → 本跡
55	C 6 f1	-	円形	0.41 × 0.40	45	皿状	外傾	人為	須恵器	
56	C 5 g7	N - 3° - E	楕円形	1.06 × 0.90	56	平坦	ほぼ直立	自然		
57	C 5 g8	N - 5° - E	[楕円形]	1.29 × [1.05]	29	平坦	緩斜	自然		
60	D 6 i1	N - 17° - W	長方形	0.84 × 0.70	40	平坦	直立	自然	土師器	
61	D 6 i1	N - 77° - E	方形	0.92 × 0.86	42	平坦	外傾	自然	土師器, 須恵器, 陶器, 磁器	
62	D 6 g1	N - 88° - W	楕円形	0.80 × 0.68	18	平坦	外傾	自然	土師器, 須恵器	
64	E 6 h0	N - 81° - E	[楕円形]	0.71 × (0.66)	8	平坦	外傾	自然		本跡→SK65
65	E 7 h1	N - 78° - W	楕円形	0.55 × 0.44	28	平坦	外傾	自然		SK64→本跡
66	C 5 c0	N - 3° - E	楕円形	0.62 × 0.56	44	平坦	ほぼ直立	自然		
67	C 6 d1	N - 10° - E	楕円形	0.64 × 0.57	52	皿状	外傾	自然		
68	C 6 e1	-	円形	0.48 × 0.46	46	皿状	ほぼ直立	自然		
69	C 5 f0	N - 10° - E	[楕円形]	0.58 × [0.52]	15	皿状	緩斜	自然	土師器, 須恵器	
70	C 5 e0	N - 37° - E	楕円形	0.86 × 0.68	46	平坦	外傾	自然	土師器	
75	D 6 g6	-	円形	0.82 × 0.77	17	平坦	外傾	自然	土師器, 須恵器	
78	D 6 g6	N - 70° - E	楕円形	0.54 × 0.48	26	皿状	外傾	自然	土師器, 須恵器	
87	E 6 a3	-	円形	0.59 × 0.56	10	平坦	外傾	自然		
90	D 6 i5	-	円形	0.70 × 0.64	75	皿状	内彎	自然		本跡→SI 378
91	D 6 a4	N - 24° - W	楕円形	0.66 × 0.55	17	皿状	緩斜	自然		
92	C 6 j2	N - 14° - W	不定形	0.70 × 0.60	15	平坦	緩斜	自然		
93	C 5 j7	-	円形	0.51 × 0.50	44	皿状	直立	自然		
94	F 6 c8	N - 79° - E	楕円形	0.48 × 0.37	36	平坦	ほぼ直立	自然		
95	F 6 b7	N - 73° - W	楕円形	0.37 × 0.32	40	皿状	ほぼ直立	自然		
103	D 6 i4	N - 77° - E	不整楕円形	2.89 × 1.96	70	皿状	外傾	自然		本跡→SI 378
104	E 6 d6	-	円形	0.32 × 0.30	16	平坦	外傾	自然	須恵器	
105	E 6 d5	-	円形	0.60 × 0.55	15	平坦	外傾	自然	須恵器	
106	E 6 e5	N - 73° - W	楕円形	0.26 × 0.22	42	皿状	直立	自然		
107	D 6 i1	-	円形	0.32 × 0.32	26	皿状	直立	自然		
108	D 6 i1	N - 1° - W	楕円形	0.36 × 0.29	23	皿状	外傾	自然	須恵器	
109	D 6 h1	N - 17° - E	楕円形	0.32 × 0.29	40	皿状	ほぼ直立	自然		
112	G 7 g6	N - 31° - W	楕円形	0.81 × 0.71	23	平坦	外傾	自然		
113	G 7 d5	N - 69° - E	長方形	1.12 × 0.84	41	平坦	ほぼ直立	自然	土師器, 須恵器, 陶器	
114	G 7 c5	N - 66° - E	長方形	1.75 × 0.95	75	平坦	ほぼ直立	自然	土師器, 須恵器, 金属製品	
118	G 7 c7	N - 19° - W	長方形	1.04 × 0.76	38	平坦	ほぼ直立	人為		SI 391 → 本跡
119	G 7 c7	N - 71° - E	[長方形]	[1.35 × 0.80]	58	平坦	ほぼ直立	人為		SI 391 → 本跡

(2) 柱穴列

第9号柱穴列 (第258図)

位置 調査区北部のC 5 e0区, 標高25mほどの台地平坦部に位置している。

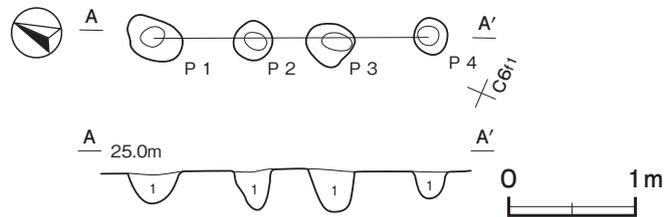
規模と構造 南北方向 2.6 m の間に並ぶ柱穴 4 か所を確認した。配列方向は N - 25° - W である。柱間寸法は 0.6 ~ 0.9 m (2 ~ 3 尺) で、柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 4 か所。平面形は楕円形又は円形で、長径 29 ~ 50 cm, 短径 27 ~ 35 cm である。深さは 21 ~ 32 cm で、断面は U 字状である。

土層解説 (各ピット共通)

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

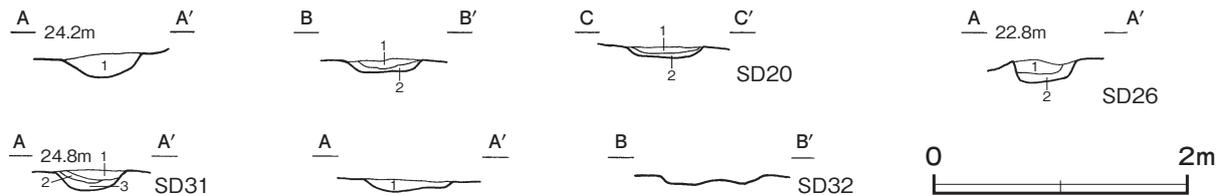
所見 時期は、出土土器がないことから不明である。直線状に延びていて柱間も短いことから、堀跡の可能性はあるが、何に伴うものか不明である。



第 258 図 第 9 号柱穴列実測図

(3) 溝跡

時期や性格が明確でない溝に関して、実測図 (第 259 図・付図)、土層解説及び一覧表で掲載する。



第 259 図 その他の溝跡実測図

第 20 号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量

第 31 号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第 26 号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック少量
- 2 黒色 粘土ブロック微量

第 32 号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量

表 22 その他の溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ (m)	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (cm)					
20	B 4b7 ~ B 5e5	N - 71° - W	直線状	(30.12)	0.25 ~ 0.76	0.13 ~ 0.49	10 ~ 19	浅い U 字状	緩斜	自然	土師器, 須恵器, 陶器, 金属製品	本跡 → SK33
26	F 6c8	N - 82° - W	直線状	(1.32)	0.28 ~ 0.48	0.12 ~ 0.24	20	U 字状	緩斜	自然		
31	G 7e5 ~ G 7f5	N - 25° - W	直線状	(2.77)	0.49 ~ 0.56	0.30 ~ 0.37	16	浅い U 字状	外傾	自然		
32	G 7d4 ~ G 7d8	N - 88° - W	直線状	(18.41)	0.73 ~ 1.28	0.41 ~ 0.90	10	浅い U 字状	緩斜	自然	土師器, 須恵器, 瓦	
34	G 8e1 ~ G 8e2	N - 75° - E	直線状	(5.56)	1.64 ~ 1.92	0.16 ~ 0.44	-	-	-	-		SI384 → 本跡

(4) ピット群

第 3 号ピット群 (付図 PL48)

位置 調査区中央部の D 6 g3 ~ D 6 i3 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 南北 9.40 m, 東西 6.60 m の範囲に, ピット 16 か所を確認した。個々の形状, 計測値については, 一覧表に記載する。

所見 時期は, 出土土器がなかったことから, 不明である。ピットの分布状況から, 建物跡は想定できないので, 性格は不明である。

第3号ピット群ピット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	D 6 g3	円形	30	29	18	7	D 6 i4	円形	58	54	20	12	D 6 i3	方形	47	43	12
2	D 6 g3	円形	30	28	15	8	D 6 i3	円形	31	29	16	13	D 6 i3	楕円形	50	44	31
3	D 6 h3	楕円形	27	20	14	9	D 6 h3	円形	50	49	15	14	D 6 i3	円形	30	28	35
4	D 6 h4	楕円形	61	48	31	10	D 6 h3	楕円形	39	25	13	15	D 6 i3	楕円形	35	26	44
5	D 6 h4	楕円形	42	36	29	11	D 6 i3	楕円形	30	24	20	16	D 6 i3	円形	26	25	22
6	D 6 i4	円形	33	33	25												

第4号ピット群 (付図)

位置 調査区中央部の D 6 i2 ~ D 6 j2 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 379 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南北 4.70 m, 東西 3.00 m の範囲に, ピット 10 か所を確認した。個々の形状, 計測値については, 一覧表に記載する。

所見 時期は, 出土土器がなかったことから, 不明である。ピットの分布状況から, 建物跡は想定できないので, 性格は不明である。

第4号ピット群ピット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	D 6 i2	円形	42	41	26	5	D 6 j2	楕円形	60	50	30	9	D 6 j2	楕円形	38	34	21
2	D 6 j2	円形	26	26	19	6	D 6 j2	楕円形	51	45	14	10	D 6 j2	円形	51	22	13
3	D 6 j2	楕円形	48	40	43	7	D 6 j2	楕円形	49	40	32						
4	D 6 j2	楕円形	58	46	25	8	D 6 j2	円形	71	68	18						

第5号ピット群 (付図)

位置 調査区中央部の D 5 f0 ~ D 5 g0 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 380 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南北 4.10 m, 東西 3.00 m の範囲に, ピット 7 か所を確認した。個々の形状, 計測値については, 一覧表に記載する。

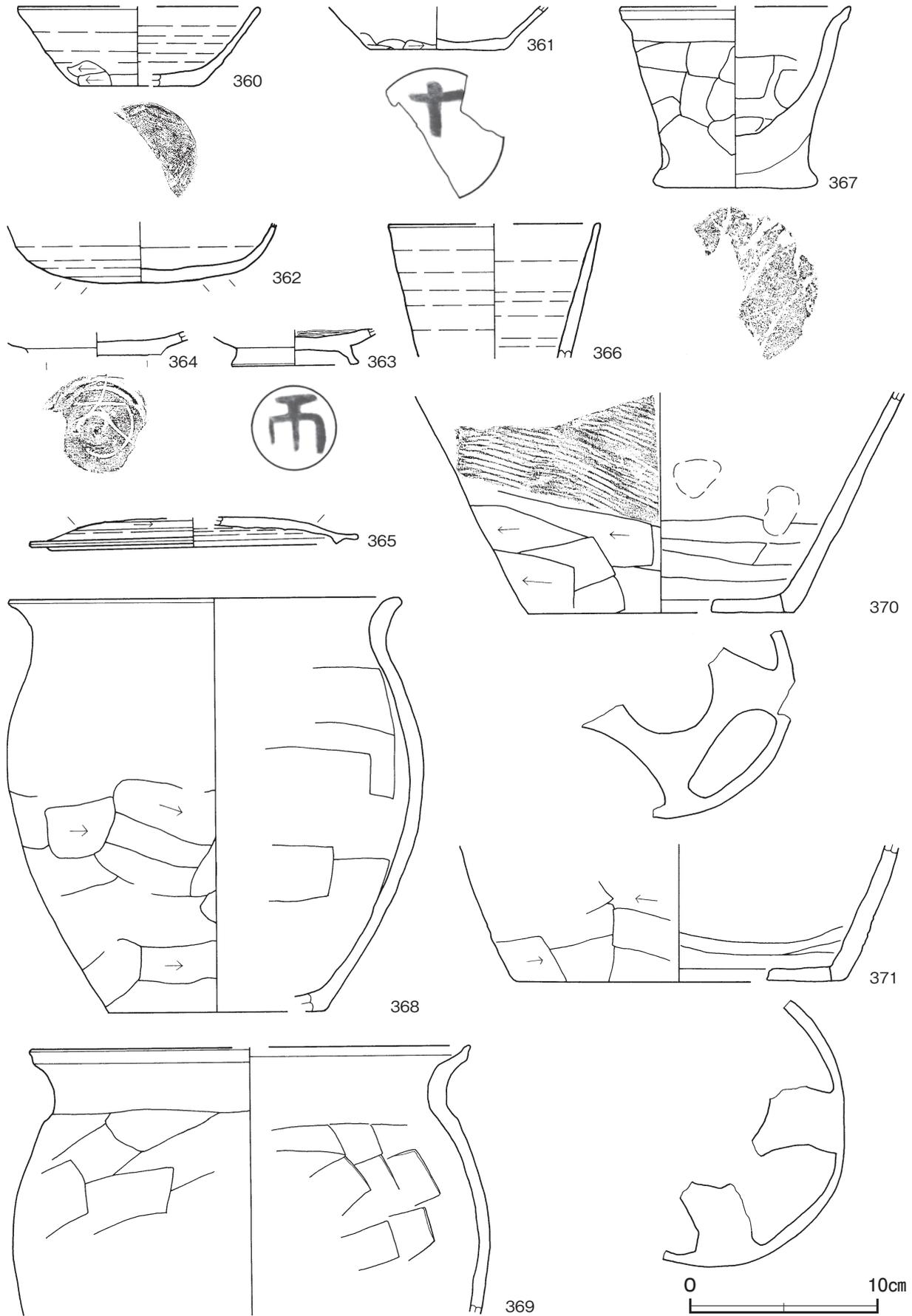
所見 時期は, 出土土器がなかったことから, 不明である。ピットの分布状況から, 建物跡は想定できないので, 性格は不明である。

第5号ピット群ピット計測表

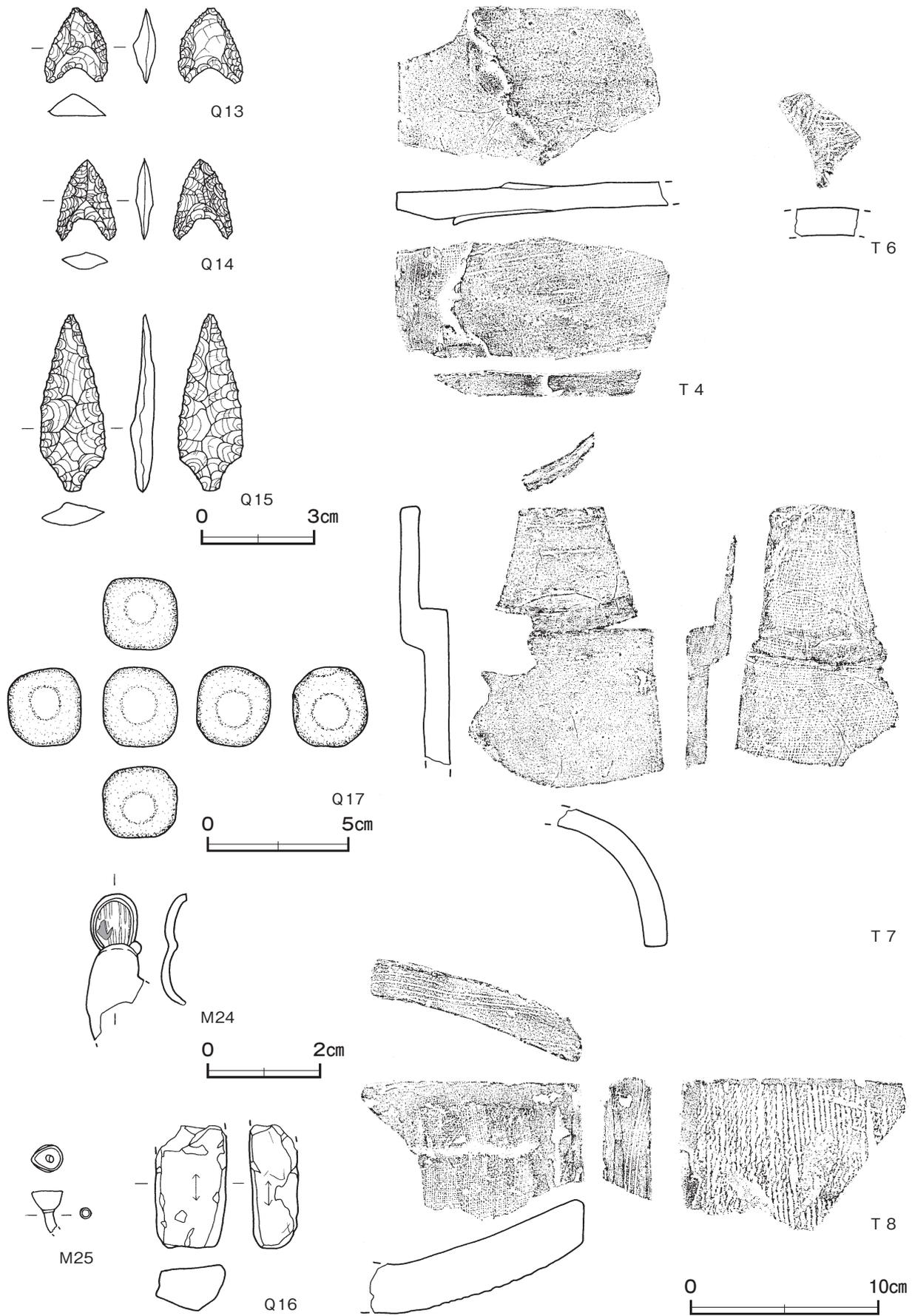
番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	D 5 f0	円形	38	32	28
2	D 5 f0	楕円形	25	18	-
3	D 5 f0	円形	35	24	10
4	D 5 g0	楕円形	59	48	14
5	D 5 g0	楕円形	39	34	7
6	D 5 g0	楕円形	48	39	5
7	D 5 g0	楕円形	42	35	19

(5) 遺構外出土遺物

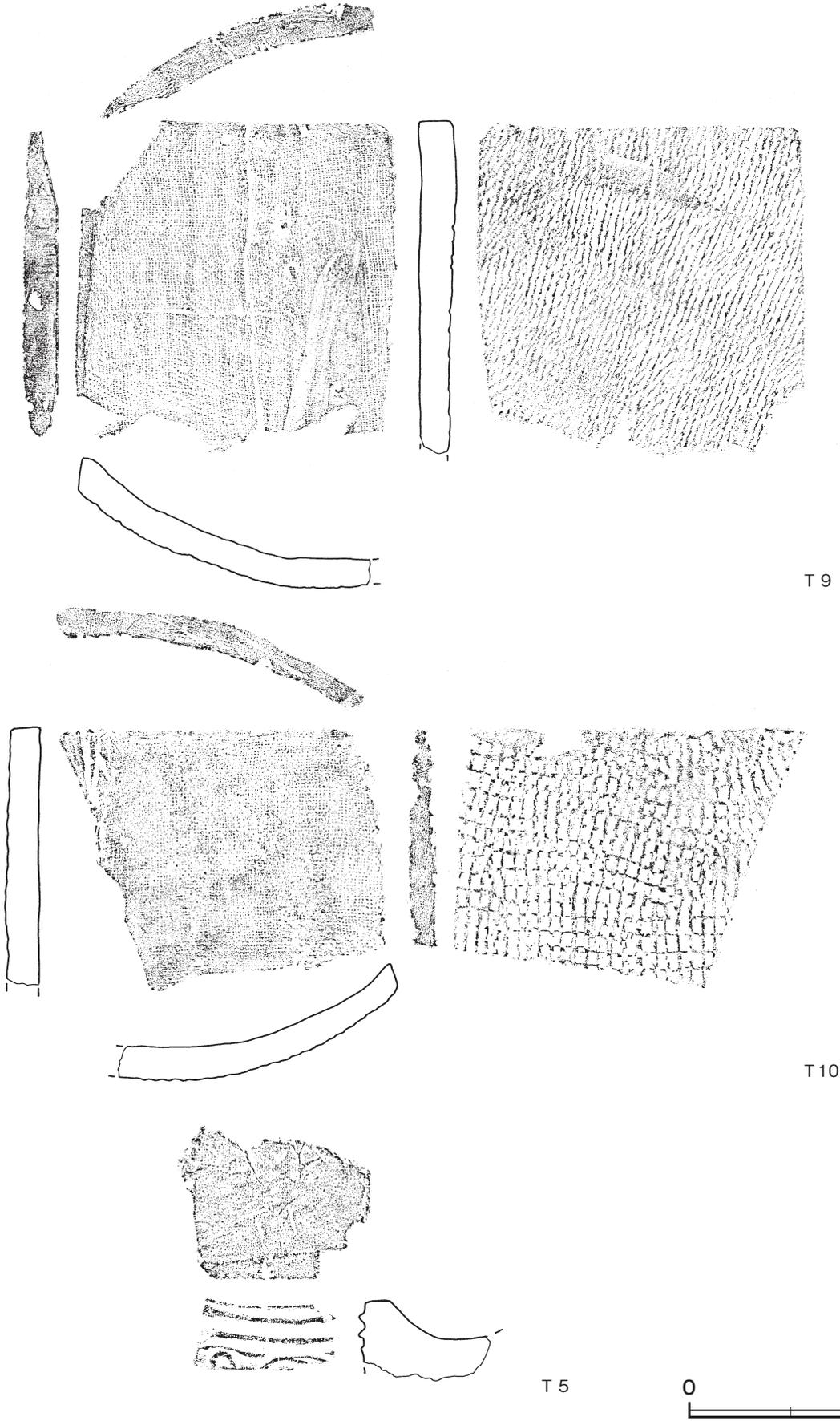
今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物について, 実測図 (第 260 ~ 262 図) と観察表で掲載する。



第 260 図 遺構外出土遺物実測図 (1)



第 261 図 遺構外出土遺物実測図 (2)



第 262 図 遺構外出土遺物実測図 (3)

遺構外出土遺物観察表（第 260～262 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
360	須恵器	坏	[12.8]	4.3	[6.2]	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部二方向の手持ちヘラ削り	表土	30%新治窯
361	須恵器	坏	-	(2.3)	7.2	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部不定方向の手持ちヘラ削り 墨書「十」	表土	20%新治窯 PL56
362	須恵器	坏	-	(3.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	SD21	30%新治窯
363	土師器	高台付坏	-	(2.0)	6.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き 黒色処理 底部墨書「市」	調査区中央部表土	20%新治窯
364	須恵器	高台付坏	-	(1.3)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	底部回転ヘラ削り 底部外面刻書「大」	調査区北部表土	10%新治窯 PL56
365	須恵器	蓋	[17.7]	(1.6)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	天井部回転ヘラ削り	PG 5	20%新治窯
366	須恵器	コップ形土器	[11.2]	(7.3)	-	長石・石英	暗灰黄	普通	体部外・内面ロクロナデ	SD21	20%新治窯
367	土師器	捏鉢	[12.0]	9.8	[8.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部横・斜位のナデ 内面横位のナデ	表土	50%新治窯
368	土師器	甕	20.7	21.4	[11.5]	長石・石英・雲母	灰褐	普通	体部外面下半ヘラ削り 内面横・斜位のナデ	表土	70%新治窯
369	土師器	甕	[23.4]	(14.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面斜位のナデ 内面横位のナデ	表土	20%新治窯
370	須恵器	甌	-	11.9	[14.2]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面斜位の平行叩き 下位ヘラ削り 内面横位のナデ 指頭痕 5孔式	表土	30%新治窯
371	須恵器	甌	-	(7.4)	[17.5]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下位ヘラ削り 内面横位のナデ 5孔式	表土	10%新治窯

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 13	鉢	2.0	1.7	0.6	1.28	黒曜石	両面調整 周辺から細かい連続調整 凹基	SK47	PL57
Q 14	鉢	2.2	1.6	0.5	1.04	瑪瑙	両面調整 周辺から細かい連続調整 凹基	表土	PL57
Q 15	有基尖頭器	4.8	1.7	0.6	3.95	チャート	両面調整 周辺から細かい連続調整 凸基	SI361	PL57
Q 16	砥石	(6.6)	3.8	2.5	(85.5)	凝灰岩	研面2面	表土	
Q 17	不明	2.9	2.6	2.6	27.9	凝灰岩	6面の角部研磨調整により丸み	調査区南部表土	PL57

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M24	小仏像	(2.6)	(1.1)	(0.5)	(2.47)	銅	表面・下部欠如 裏面頭部に金粉付着	北部表土	PL58
M25	煙管	(2.2)	(1.6)	0.1	(2.23)	銅	受け部 管部欠損 管部径0.5cm	表土	

番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
T 4	瓦	軒丸瓦	(8.4)	(2.4)	(14.6)	長石・石英・雲母	褐灰	普通	丸瓦部凸面縦位の削り 凹面布目痕補強粘土貼付	表土	PL59
T 5	瓦	軒平瓦	(9.0)	(4.1)	(7.2)	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	瓦当面一部欠損 凸面欠損 均整唐草文 凹面布目痕	SD21	PL60
T 6	瓦	丸瓦	(4.7)	-	(6.0)	長石・石英・雲母	灰黄	普通	凸面刻書「里」	表土	PL59
T 7	瓦	丸瓦	(5.6)	(7.6)	(14.0)	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐	普通	玉縁式 凸面玉縁部横位の削り 凹面布目痕	表土	PL59
T 8	瓦	平瓦	(11.5)	5.7	(8.4)	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰	普通	凸面縄叩き 凹面布目痕 模骨痕	10トレンチ表土	PL60
T 9	瓦	平瓦	(14.5)	6.3	(16.6)	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	凸面縄叩き 凹面布目痕 模骨痕 糸切り痕 側縁削り調整	表土	PL60
T 10	瓦	平瓦	(13.8)	5.7	(13.0)	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	凸面格子叩き 凹面布目痕	10トレンチ表土	PL60

第5章 ま と め

1 はじめに

九重東岡廃寺及び金田西遺跡は、つくば市の北東部、花室川左岸の標高約 24 mの台地上に立地している。

九重東岡廃寺は、1984年桜村史編纂事業の一環として筑波大学によって調査され、基壇建物跡、瓦溜め土坑の一部などが検出されている¹⁾。その後、平成12年度に当財団が確認調査を行い、基壇建物跡、堂宇跡を確認し、郡寺跡の可能性が高まった²⁾。平成13年度は主要伽藍と寺域溝の確認調査を行ったが、主要伽藍となりうる建物跡は確認できなかった。

金田西遺跡については平成12・13年度に確認調査を行い、区画溝とその内部に掘立柱建物跡や礎石建物で構成される倉庫群を検出し、正倉域が明確になった³⁾。

今回の調査は九重東岡廃寺が基壇建物跡の北側の集落跡、金田西遺跡については平成13・14年度の確認調査で検出した館跡推定地・居宅跡推定地の西側にあたる集落跡を調査した。

以下、平成12・13年度の九重東岡廃寺、金田西遺跡で確認調査した遺構の時期と分布、遺構配置や出土遺物から集落の性格について述べることにする。また九重東岡廃寺については、平成12・13年度の確認調査での成果と課題⁴⁾について今回の調査結果をもとに述べる。

2 建物群の変遷について(表23 第263・264図)

時期区分は、同文化財調査報告書第209集掲載のⅠ期～Ⅶ期に準じて⁵⁾、各時期の特徴について述べる。また、遺構の位置関係については、九重東岡廃寺、金田西遺跡の調査区を基準に方向を示した。

第Ⅰ期(九重東岡廃寺と本格的な河内郡衙関連施設が展開される前段階)

平成12年度確認調査では、館跡推定地と居宅跡推定地から当時期の竪穴建物跡31棟が確認されている⁶⁾。

九重東岡廃寺では、竪穴建物跡1棟、金田西遺跡では竪穴建物跡2棟が該当する。九重東岡廃寺は主軸方向がN-34°-Eの第61号竪穴建物跡の1棟である。遺物はコップ形土器、仏教関連遺物として須恵器の仏鉢と瓦片が出土している。金田西遺跡の竪穴建物跡は、中央部に主軸方向がほぼ北方向に振れる第358号竪穴建物跡と南部に第384号竪穴建物跡がある。両遺跡とも集落は散在しているが、館跡推定地と居宅跡推定地の集落を含めると小規模ながら河内郡衙の前進集落と推定される。また、九重東岡廃寺の竪穴建物跡から仏鉢と瓦が出土していることから、河内郡衙の設立以前に寺院関係施設が存在していたと考えられる。

第Ⅱ期(九重東岡廃寺・郡衙の成立期)

本期は、平成12年度の調査で九重東岡廃寺の指定地から基壇1基と第4・5号掘立柱建物跡が確認され、また金田西遺跡の指定地では、郡庁跡は4面庇の第26・27号掘立柱建物跡、館跡は前半期に2面庇の第71号掘立柱建物跡を中心に配し、西側に1面庇の第72号掘立柱建物跡と第70号掘立柱建物跡、東側に1面庇の第75号掘立柱建物跡、北側には第258号竪穴建物跡の大型建物を口の字状に配置されている。後半期には東側へ館跡が移り、1面庇の第53号掘立柱建物跡と2面庇の第54号掘立柱建物跡を北側の中心に配し、西側に第73・95号掘立柱建物跡を逆L字状に配置されている。居宅跡は第86・90号掘立柱建物跡が並んで配置されている。九重東岡廃寺の基壇建物跡や郡庁、館、居宅等の郡衙関連施設が成立される時期である。

このように郡衙関連施設が成立する時期に、九重東岡廃寺では、竪穴建物跡・掘立柱建物跡は確認されていない。金田西遺跡では、調査区中央部に竪穴建物跡2棟、掘立柱建物跡3棟、北部には掘立柱建物跡2

棟が該当する。中央部の群は、主軸方向がN-7°・89°-Eの第377・379号竪穴建物跡と桁行方向がN-2°~4°-Wの第115A・115B号掘立柱建物跡とN-9°-Eの第117号掘立柱建物跡で構成されている。中央部の群はほぼ均等な間隔で配置されている。北部の群は桁行方向がN-5°-Eの第124号掘立柱建物跡とN-85°-Wの第125号掘立柱建物跡の2棟で構成されている。北部の群は南北棟の第124号掘立柱建物跡と東西棟の第125号掘立柱建物跡の2棟が直交するが、隣接していることから同時の存続ではない。遺物は、第379号竪穴建物跡から蛇紋岩製の温石が出土している。温石は薬石として効能があり、九重東岡廃寺と関連した仏教的色彩がある遺物と考えられる。この時期の集落は郡衙関連施設が成立する時期で、金田西遺跡の北部の掘立柱建物跡は単独で存在することは考えられず、東に隣接する館跡の一部と考えられる。

全体的に郡衙成立期には、調査区内に温石やコップ形土器などから郡衙関連施設と関連する小規模な集落が存在していたと推測される。

表 23 九重東岡廃寺・金田西遺跡時期区分と遺構の変遷

時期	推定河内郡衙変遷	九重東岡廃寺		金田西遺跡	
I 期	竪穴のみ	N-34°-E	SI 61	N-15°	SI 358・384
	前進集落				
II 期 8C 前葉	郡庁 b期 SB 4・5・26・27 館 a期 SB 49・50・70~72・75 b期 SB 44・51・53・54・57・73・95 居宅 a期 SB 86・90 郡寺 基壇 1 (SB1)・SB 4・5			N-7°-E N-89°-E	SI 377 SI 379 (北竪→東竪作り替え)
				N-5°~9°-E N-2°~85°-W	SB 117・124 SB 115A・115B・125
III 期 8C 中葉	郡庁 a期 SB 1・SB 43 館 a期 SB 13・16・31・48・74・79 b期 SB 12 居宅 b期 SB 46・85・87・107 正倉 SB 1・2・3 (金田西坪B遺跡)	N-5°-E	SI 65	N-7°-E N-13°-E	SI 366 SI 362
	郡庁 a期 SB 21 館 a期 SB 8・11・33・34 b期基壇 1・SB 7・9・10・15 c期 SB 14 居宅 b期 SB 45・52・83・92・98・ 105・108・109 正倉 礎石 1~7 (金田西坪B遺跡)	N-18°~32°-E	SI 59・63・64・74・77・ 79・80	N-0°~88°-E N-3°~10°-W	SI 353・361・365・371・ 375・376 SI 364・388
IV 期 8C 後葉		N-17°~34°-E N-70°~76°-W	SB 17・21・23 SB 18・20・25・27	N-5°-E N-3°~87°-W	SB 119 SB 110・118・122・130
	V 期 9C 前葉 衰退期 I (前半)	N-18°~24°-E N-17°~22°-E	SI 66・67・70 SB 28・29・30・31	N-2°~37°-E N-8°~9°-W N-9°~85°-E N-3°~6°-W	SI 339・341・342・343A・ 343B・351・352・370・374・ 378・380 SI 385・391 SB 114A・114B・126・127 SB 111・116・129
9C 中葉 衰退期 I (後半)	居宅 b期 SB 99・103	N-14°~42°-E	SI 58・62・68・71・72・ 73・75・78	N-1°~15°-E N-1°~80°-W N-6°-E N-83°-W	SI 278・340A・340B・340C・ 363 SI 359・360・369・372・373・386 SB 112 SB 128
	VI 期 9C 後葉	衰退→集落化	N-13°~33°-E N-14°~21°-E	SI 60・69・81・82・83 SB 19・26	N-10°-E N-0°~7°-W

第Ⅲ期（郡寺・郡衙の展開期Ⅰ）

本期は、指定地の郡庁跡は南北棟の第1号掘立柱建物跡が並び、館跡は前半に東に移り、第13号掘立柱建物跡を中心に、西側に2面庇の第12号掘立柱建物跡、南側に2面庇の第16号掘立柱建物跡をその北側に第97号竪穴建物跡、居宅跡は第85・87号掘立柱建物跡が南北に並び、東側に離れて第46・107号掘立柱建物跡の総柱建物跡が配置されている。また、金田西坪B遺跡では正倉域が確認されている。郡衙関連施設は機能が整い、充実する展開期を迎える。

本期に、九重東岡廃寺では竪穴建物跡が1棟、金田西遺跡では竪穴建物跡2棟が該当する。九重東岡廃寺では南部に主軸方向がN-5°-Eの第65号竪穴建物跡1棟で、一辺が4.5mと中規模である。遺物は仏教関連遺物として瓦片が出土している。金田西遺跡では北部に竪穴建物跡1棟、中央部に竪穴建物跡1棟である。北部には主軸方向がN-7°~13°-Eの第362号竪穴建物跡と、中央部にはほぼ同じ主軸の第366号竪穴建物跡があるが、2棟とも位置的にあまり離れていないので同一群と考えられる。第362号竪穴建物跡は一辺が6.75mあり、当遺跡の奈良時代の竪穴建物跡では大型である。遺物として高盤が出土している。掘立柱建物跡は該当するものがない。

郡衙関連施設が充実する展開期に、両遺跡とも調査区内には建物跡が少なく、集落はⅡ期よりも小規模な集落になる。

第Ⅳ期（郡寺・郡衙の展開期Ⅱ）

本期は、指定地の郡庁跡が第21号竪穴建物跡1棟、館跡が前半期に東側の第8号掘立柱建物跡、西側の第10号掘立柱建物跡、北側の第11号掘立柱建物跡、その東側に第33・34号の総柱建物跡が並ぶ。後半期に第7・9・15号掘立柱建物跡が逆L字状に並び、その西側に第1号基壇跡が配置されている。居宅跡は、西側に第83・92号掘立柱建物跡、東側に第45・108・109号掘立柱建物跡が一直線に並ぶ。郡衙施設が充実する時期である。

このような郡衙の展開期に、九重東岡廃寺では竪穴建物跡7棟、掘立柱建物跡7棟、金田西遺跡は竪穴建物跡8棟、掘立柱建物跡5棟が該当する。九重東岡廃寺は西部に主軸方向がN-18°~32°-Eの第74・79号竪穴建物跡、南北棟の第23号掘立柱建物跡、第1号井戸跡、その北部にほぼ同じ方向の第59・63・64号竪穴建物跡3棟と同じ桁行方向を持つ南北棟の第17・21号掘立柱建物跡、桁行方向がN-70°~76°-Wの東西棟である第18・20号掘立柱建物跡はL字状に配置される群で構成されている。基壇の西側にN-24°-Eの第77号竪穴建物跡が離れて存在するが、基壇周辺の群とした。また、北東部は主軸方向がN-26°-Wの第80号竪穴建物跡と桁行方向がN-70°-Wの東西棟である第25・27号掘立柱建物跡で構成されている。遺物は仏教関連遺物として瓦片が第59・77号竪穴建物跡から出土している。また、転用硯が第64・74号竪穴建物跡から出土している。金田西遺跡では調査区北部に竪穴建物跡3棟、掘立柱建物跡4棟、中央部に竪穴建物跡が4棟、南部に竪穴建物跡1棟が該当する。北部の群は主軸方向がN-3°~20°-Eの第361・364・365号竪穴建物跡、ほぼ同じ桁行方向を持つ南北棟の第110・119号掘立柱建物跡とN-86°・87°-Wの東西棟の第118・122号掘立柱建物跡で構成されている。第118・119号掘立柱建物跡は重複しており時期差がある。遺物は第365号竪穴建物跡から双耳瓶の破片が出土している。中央部の群では主軸方向がN-0°~88°-Eの第353・371・375・376号竪穴建物跡と第130号掘立柱建物跡で構成されている。第376号竪穴建物跡は一辺が5.24mで中型の建物である。遺物は、瓦片が第353・361・371・388号竪穴建物跡から出土している。東に隣接する居宅跡の一部に含まれる建物と考えられる。南部の群は主軸方向がN-10°-Wの第388号竪穴建物跡が単独である。この時期になるとⅠ期からⅢ期まで少なかった竪穴建物跡と掘立柱建物跡が

増え始める。九重東岡廃寺の群はL字状の掘立柱建物跡が配置されたり、金田西遺跡の北部群では掘立柱建物跡などから郡衙を維持する人々の建物群が増え始める。

第V期（郡寺・郡衙の衰退期I）

郡衙関連施設は、居宅跡の第68・69・96・100・106号掘立柱建物跡しか見られなくなる。Ⅲ・Ⅳ期の展開期に比べて建物が少なく、衰退期と考えられる時期である。

このような衰退期Iの前半には、九重東岡廃寺の竪穴建物跡3棟、掘立柱建物跡4棟、金田西遺跡が竪穴建物跡13棟、掘立柱建物跡7棟が該当する。

九重東岡廃寺の西部の群は、主軸方向がN-18°~24°-Eの第66・67・70号竪穴建物跡で構成され、同じ間隔で配されている。北部は桁行方向がN-17°~22°-Eの第28~31号掘立柱建物跡で構成されている。第28・29号掘立柱建物跡、第30・31号掘立柱建物跡は、同じ桁行方向で重複していることから建て替えがあったと推測される。また、第31号掘立柱建物跡は総柱建物跡であることから倉庫と考えられる。この掘立柱建物群の位置は、第Ⅳ期から掘立柱建物群が集中する場所でもある。遺物は仏教関連遺物として瓦片が第66号竪穴建物跡、短頸壺が第67号竪穴建物跡から出土している。金田西遺跡の北部の群は、主軸方向がN-2°~8°-Eの第339・341~343A・343B号竪穴建物跡と、桁行方向がN-3°・6°-Wの南北棟の第111・129号掘立柱建物跡で構成されている。中央部の群は、主軸方向がN-0°~37°-Eの第351・352・370・374・378・380号竪穴建物跡、桁行方向がN-9°~85°-Eの東西棟第114A・114B号掘立柱建物跡、南北棟の第126・127号掘立柱建物跡、桁行方向がN-6°-Wの南北棟の第116号掘立柱建物跡が該当する。第352号竪穴建物跡は短頸壺が出土している。南部の群は、主軸方向がN-8°・9°-Wの第385・391号竪穴建物跡が該当する。遺物は、第339・341・343A・380号竪穴建物跡から則天文字を使用した「市」と書かれた墨書土器が共に出土している。その他、「弘」・「武」の墨書土器、また猿投産の灰釉陶器、高盤、短頸壺なども出土している。瓦は3棟の竪穴建物跡から出土しており、郡寺や郡衙関連施設に関わる遺物が出土している。

衰退期Iの後半には、九重東岡廃寺は竪穴建物跡8棟、金田西遺跡は竪穴建物跡11棟が該当する。九重東岡廃寺の北西部は、主軸方向がN-15°~42°-Eの第62・68・75号竪穴建物跡と西部にはほぼ同じ方向の第71~73・78号竪穴建物跡で構成されている。大型の第75号竪穴建物跡を中心に小型の建物群が周辺に散在する。北部にN-25°-Eの第58号竪穴建物跡が単独で1棟存在する。この時期の掘立柱建物跡は確認できなかった。遺物は、仏教関連遺物として瓦片が第58・62・71・73・75・78号竪穴建物跡から出土している。瓦片の出土から郡寺の衰退時期と推定される。金田西遺跡は北部の群が竪穴建物跡5棟と掘立柱建物跡2棟、中央部の群は竪穴建物跡5棟、南部の群は竪穴建物跡1棟が該当する。北部の群は主軸方向がN-1°~15°-Eの第278・340A・340B・340C・363号竪穴建物跡と同じ桁行方向の南北棟の第112号掘立柱建物跡と桁行方向がN-83°-Wの東西棟の第128号掘立柱建物跡で構成されている。遺物は第340A号竪穴建物跡から「寺」・「市」の墨書土器が出土しており、郡寺に関わる建物と推測される。中央部の群は、主軸方向がN-1°~80°-Wの第359・360・369・372・373号竪穴建物跡で構成されている。遺物は高盤、短頸壺などの遺物が伴う竪穴建物跡が多くみられる。南部の群は、主軸方向がN-8°-Wの第386号竪穴建物跡1棟のみである。金田西遺跡の北部・中央部の群ともに出土遺物や配置から北部の建物群は東側に隣接する館跡、中央部の群は居宅跡に関連する集落と思われる。この時期に九重東岡廃寺・金田西遺跡の竪穴建物跡や掘立柱建物跡が最も増加し、集落は第Ⅳ期よりも大きくなり、郡衙に関連する施設⁷⁾であったり、維持する人々の居住地であったりすると推測される。

第Ⅵ期（郡寺・郡衙衰退期Ⅱ）

本期は、郡庁、館、居宅の建物が見られなくなり、衰退期となる。

このように郡衙関連施設の衰退時期に、九重東岡廃寺の竪穴建物跡5棟、掘立柱建物跡2棟、金田西遺跡は竪穴建物跡5棟が該当する。

九重東岡廃寺の北西部群は、主軸方向がN-32°・33°-Eの第60・69号竪穴建物跡、桁行方向がN-14°-Eの南北棟の第19号掘立柱建物跡で構成される。北部群は、主軸方向がN-13°～26°-Eの第81～83号竪穴建物跡、桁行方向がN-21°-Eの東西棟の第26号掘立柱建物跡が1棟で構成されている。第26号掘立柱建物跡は、第Ⅳ期からの掘立柱建物跡群の流れを継続している。遺物は、仏教関連遺物として瓦片が第82号竪穴建物跡から出土している。金田西遺跡は中央部の群が主軸方向がN-10°-Eの第350A・350B号竪穴建物跡、N-0°～7°-Wの第355～357号竪穴建物跡で構成されている。この中央部に隣接する居館跡には竪穴建物跡が6棟あり、これらの建物と群をなすものと思われる。第Ⅴ期に増大した集落が、第Ⅵ期は小規模となり、それ以降の時期は、平成12・13年度の金田西遺跡の確認調査で2棟のみが確認された⁸⁾。本期で郡衙関連施設に関わる集落は、終焉を迎えていくものと考えられる。

3 平成12・13年度の九重東岡廃寺の課題と検討内容

平成13年度の「九重東岡廃寺確認調査報告書1」で遺物から3つの課題を上げている⁹⁾。

(1) 課題

- ① 基壇建物跡の版築土には瓦が混じっていることから、これより古い瓦葺き建物が存在したことが明らかである。
- ② 瓦溜め土坑から出土する平瓦はほとんどが桶巻造りであるのに対し、第4号掘立柱建物跡のⅢ期の柱抜き取りの底から出土する平瓦はすべて一枚造りであることから、一枚造りの瓦を使用していた建物の存在が考えられる。
- ③ 9世紀後葉の竪穴建物跡の竈材には平瓦が使用されていることから、このころには当寺院が衰退していたと思われる。

(2) 上記の課題を踏まえての検討内容

- ① 検出された遺構の時期別分布状況
- ② 北側と西側の寺域溝の有無
- ③ 平瓦の一枚造りの有無
- ④ 竪穴建物跡から出土する瓦による九重東岡廃寺の衰退期の検証
- ⑤ 基壇建物跡よりも古い瓦葺き建物の存在の有無

(3) 九重東岡廃寺については、平成13年度の課題を踏まえて検討してみた。

- ① 遺構の時期別分布状況については表23と挿図263・264を参照
- ② 北側と西側の寺域の区画溝は見つからなかったが、前回の調査で確認した第4号溝が、西に延び第21号溝と繋がることを確認した。出土遺物や重複関係から9世紀後葉で時期的に衰退期に当たることから、寺域溝としてはとらえられない。また西側には、寺域溝と考えられる溝は確認できなかった。
- ③ 今回出土した瓦は、一枚造りの瓦でなく、すべて桶巻造りの平瓦であることから九重東岡廃寺の成立以前の建物跡の存在がうかがえる。
- ④ 竪穴建物跡からの瓦の出土は、Ⅰ・Ⅲ期の各1棟、Ⅳに2棟、Ⅴ期の1棟、Ⅵ期の6棟、Ⅶ期の1棟である。

瓦は、竈の構築材として再利用されているものもあり、Ⅵ期の竪穴建物跡からの出土が多かった。このことから、Ⅰ期以前に瓦葺きの建物が存在したことがうかがえる。また、Ⅵ期の竪穴建物跡からの出土が多くなりⅦ期の竪穴建物跡からは少ないことから、寺の衰退期は9世紀中葉から後葉と考えられる。寺域の西側と北側の集落は、Ⅳ期に竪穴建物跡、掘立柱建物跡が造られ、Ⅴ期（9世紀中葉）に最盛期を迎えたと思われる。

⑤ 今回の調査区で基壇建物跡よりも古い瓦葺き建物は検出できなかった。

4 おわりに

九重東岡廃寺、金田西遺跡の移行の時期と分布、遺構配置や出土遺物をもとに集落の変遷や郡衙関連施設との関係を見てきた。今回、九重東岡廃寺と金田西遺跡の遺構の分布から集落の性格について述べる。

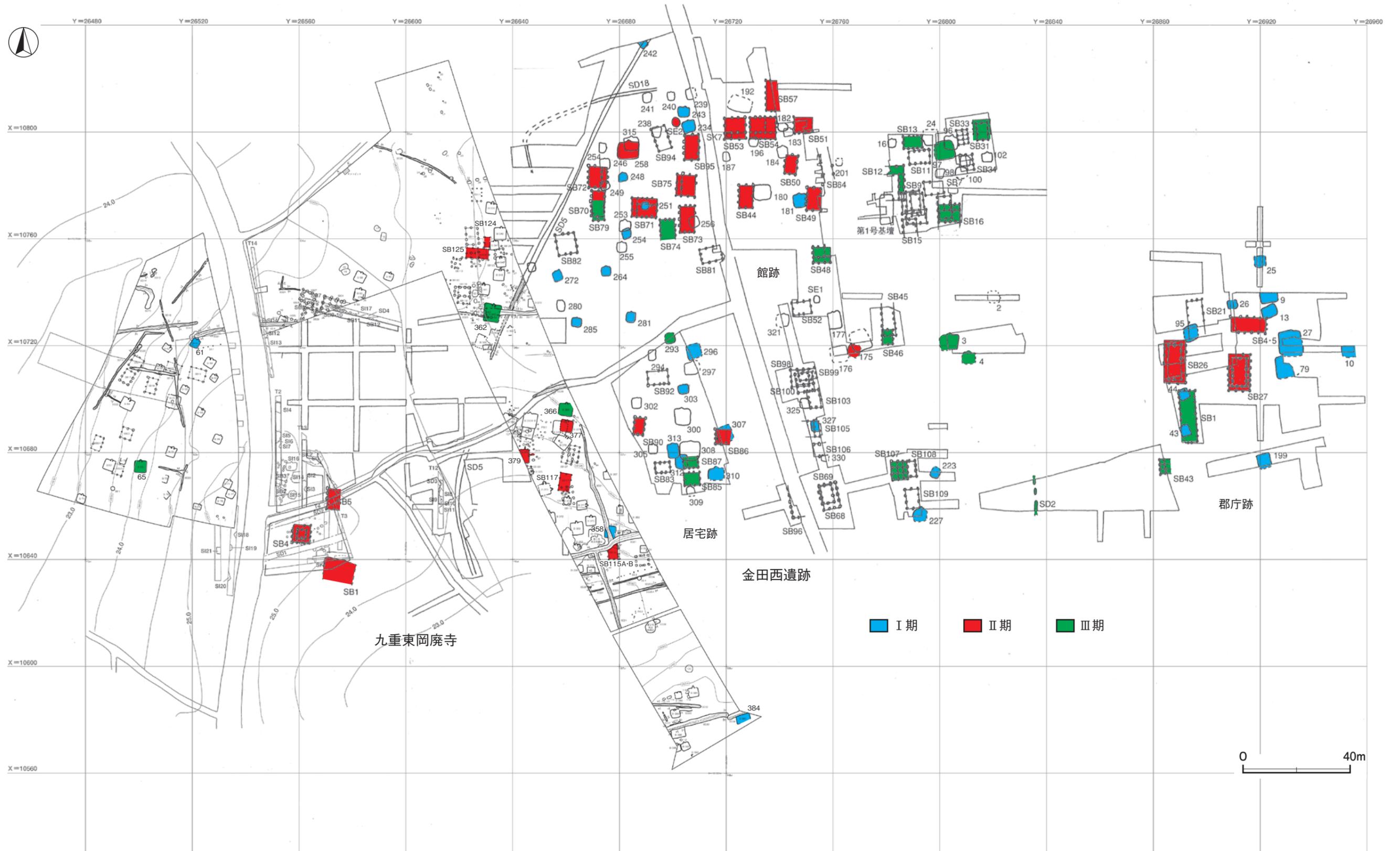
第Ⅳ期の九重東岡廃寺の第17・18・28号掘立柱建物跡はL字状に配置されていることや、第Ⅳ・Ⅴ期の北部の第28～31号掘立柱建物跡に総柱建物跡もあることから、郡衙関連施設が行政的に機能する建物であった集落と推測できる。金田西遺跡においても、北部集落は館跡が、中央部集落は居宅跡が東側に隣接していることや、遺物等も墨書土器・コップ形土器・巡方等が出土していることから、郡衙関連施設と関わりがある集落と推測できる。

九重東岡廃寺・金田西遺跡の建物については、Ⅰ期（成立期）からⅢ期（展開期Ⅰ）にかけては少ない。Ⅳ期（展開期Ⅱ）の両遺跡では竪穴建物跡が15棟、掘立柱建物跡が11棟、Ⅴ期（衰退期Ⅰ）には竪穴建物跡28棟、掘立柱建物跡22棟となり、竪穴建物跡や掘立柱建物跡が増え始める。郡衙関連施設の成立から展開期の竪穴建物跡や掘立柱建物跡は、官衙機能を分散した建物であるとも考えられる。このような遺構配置や遺物により郡衙関連施設について推移を考えると、第Ⅳ～Ⅴ期にかけての竪穴建物跡や掘立柱建物跡が増加し、第Ⅵ期には郡衙関連施設が存在しないことから、郡衙関連施設の機能の終焉を推測できるものと思われる。

今後、河内郡衙の全体像を確定していくには、官衙成立の前身集落と考える東岡中原遺跡¹⁰⁾や正倉院の礎石建物跡・掘立柱建物跡・区画溝が確認された金田西坪B遺跡¹¹⁾、金田西遺跡の北端部で出土した「厨」の墨書土器¹²⁾など周辺遺跡と関連付けて考えていく必要がある。

註

- 1) 九重廃寺遺跡調査団『東岡遺跡－九重廃寺跡調査報告－』桜村教育委員会 1984年3月
- 2) 白田正子『九重東岡廃寺確認調査報告書Ⅰ』茨城県教育財団 2001年3月
- 3) 白田正子『金田西遺跡 金田西坪B遺跡 九重東岡廃寺 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ』茨城県教育財団文化財調査報告第209集 2003年3月
- 4) 前掲註 3)
- 5) 前掲註 3)
- 6) 前掲註 1)
- 7) 佐藤 信『古代の地方官衙と社会』日本史リブレット8 山川出版社 2017年2月 1版5刷
- 8) 前掲註 3)
- 9) 前掲註 2)
- 10) 茨城県考古学シンポジウム実行委員会『古代地方官衙周辺における集落の様相－常陸国河内群を中心として－』茨城県考古学協会 2005年2月
- 11) 前掲註 3)
- 12) 茨城県教育財団『埋蔵文化財 年報』36〈平成28年度〉－埋蔵文化財 40周年記念号－ 2017年8月



第263図 九重東岡廃寺・金田西遺跡遺構変遷図(1)



第264図 九重東岡廃寺・金田西遺跡遺構変遷図(2)

写 真 図 版

九 重 東 岡 廃 寺
金 田 西 遺 跡

PL1



調査区遠景（東方向から）



調査区全景（鉛直から）

PL2

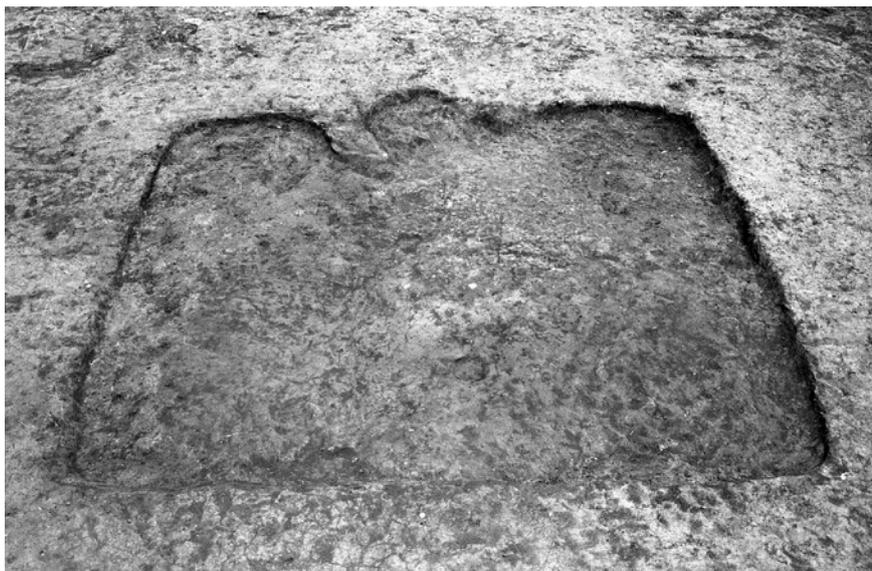


調査区西部全景（鉛直から）



調査区東部全景（鉛直から）

PL3



第59号豎穴建物跡



第61号豎穴建物跡
遺物出土状況

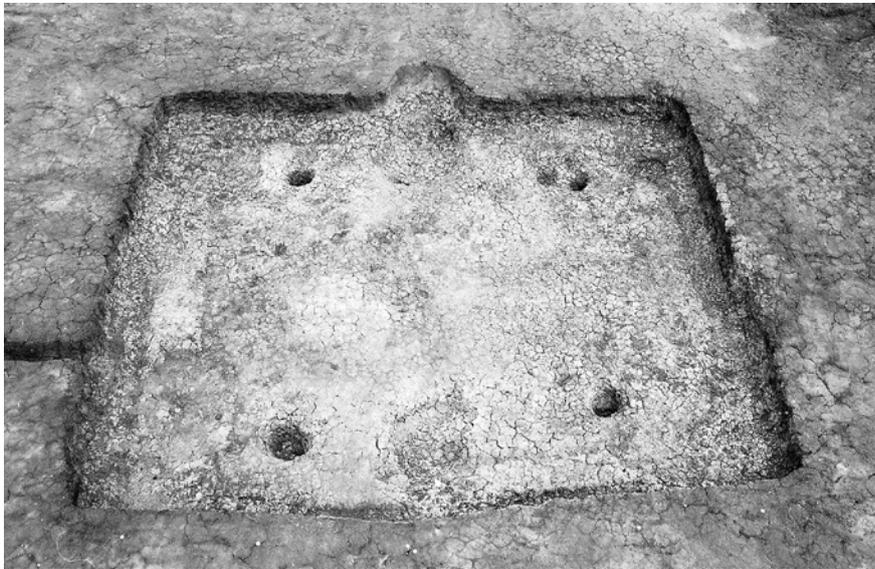


第63号豎穴建物跡

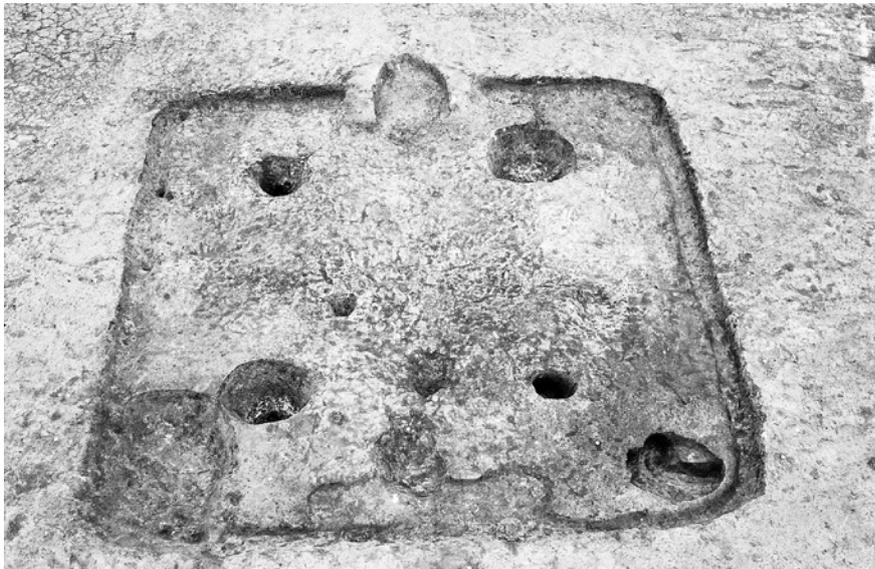
PL4



第64号竖穴建物跡
竈袖遺物出土状況



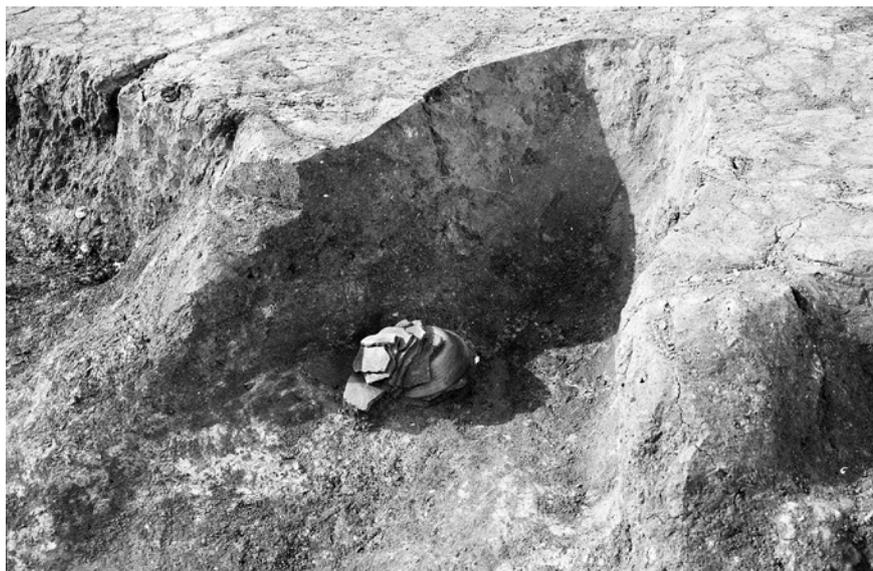
第64号竖穴建物跡



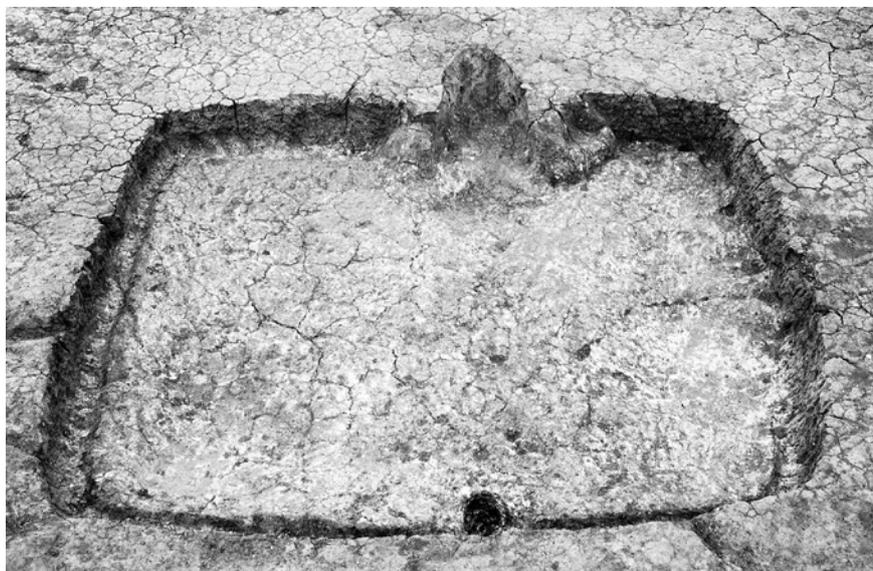
第65号竖穴建物跡

PL5

第80号豎穴建物跡
竈遺物出土状況



第80号豎穴建物跡



第58号豎穴建物跡
遺物出土状況



PL6



第58号竖穴建物跡
竈遺物出土状況



第58号竖穴建物跡



第62号竖穴建物跡



第66号豎穴建物跡



第67号豎穴建物跡
竈掘方遺物出土状況



第67号豎穴建物跡

PL8



第69号竖穴建物跡



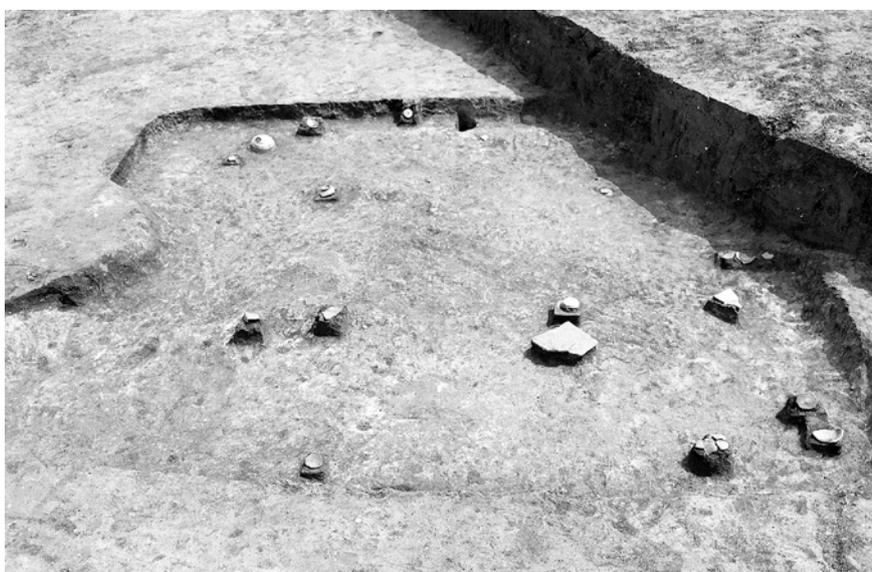
第70号竖穴建物跡
竈遺物出土狀況



第73号竖穴建物跡
竈遺物出土狀況



第73号豎穴建物跡



第82号豎穴建物跡
遺物出土状況



第4号溝跡

PL10



第17号掘立柱建物跡掘方



第18号掘立柱建物跡掘方



第20号掘立柱建物跡掘方



第21号掘立柱建物跡掘方



第22号掘立柱建物跡掘方



第23号掘立柱建物跡掘方



第24号掘立柱建物跡掘方



第25号掘立柱建物跡掘方



第19号掘立柱建物跡掘方



第26号掘立柱建物跡ピット9土層断面



第26～29号掘立柱建物跡掘方



第28・29号掘立柱建物跡掘方



第1号井戸跡遺物出土状況



第1号井戸跡



第5号土坑遺物出土状況



第18号土坑



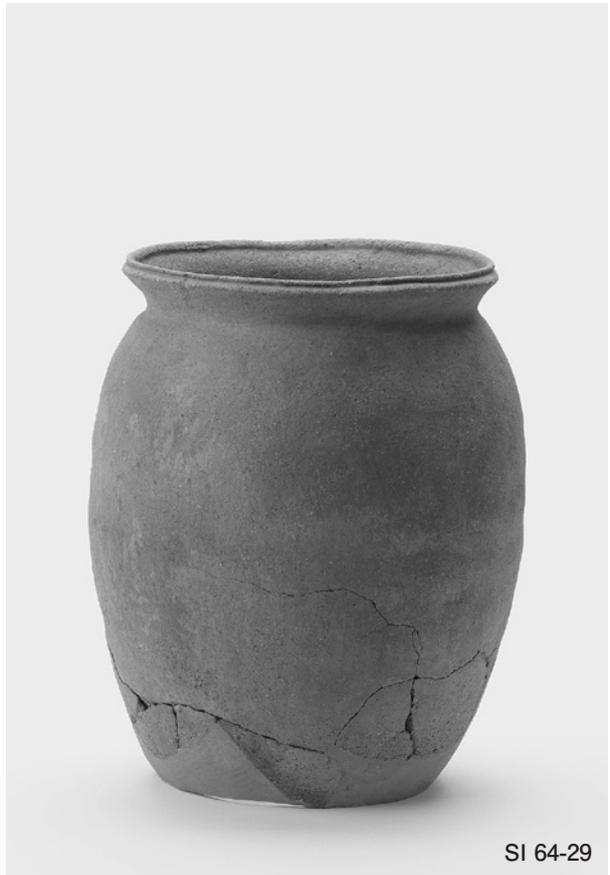
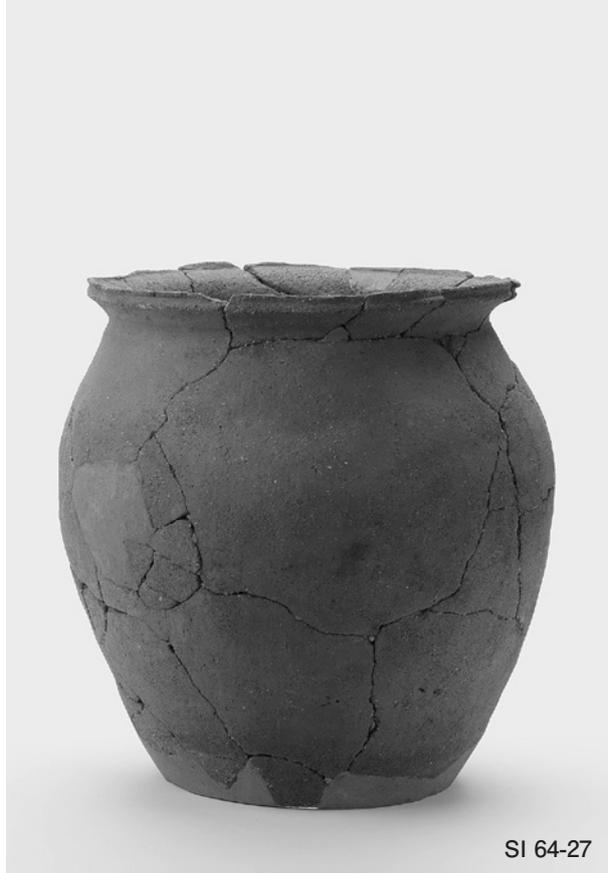
第59・61・63・64・65・80号竪穴建物跡，第1号井戸跡出土土器

PL13



第61・63・64・80号竪穴建物跡，第1号井戸跡出土土器

PL14



第61・64号竖穴建物跡出土土器

PL15



SI 58-59



SI 58-62



SI 69-96



SI 70-100



SI 71-105



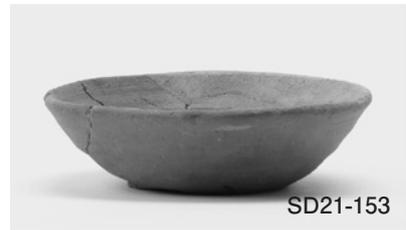
SI 78-115



SI 81-116



SI 82-127



SD21-153



遺構外-155



遺構外-156



SI 66-77



SI 67-80



SI 60-69



SI 82-131



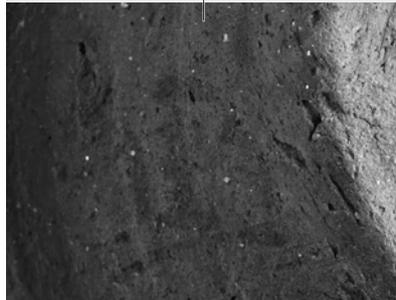
SI 58-60



SI 82-125



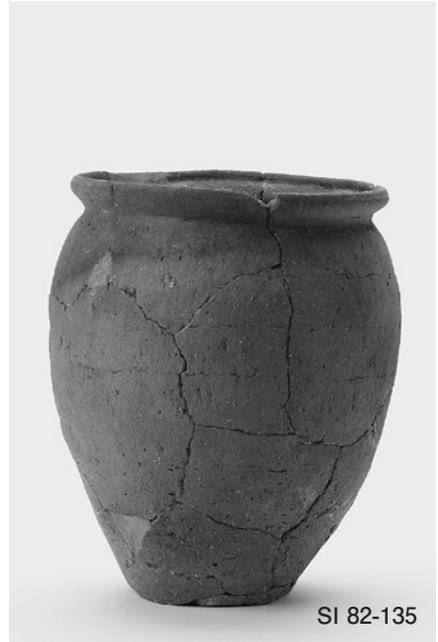
SI 58-63



SI 66-78

第58・60・66・67・69・70・71・78・81・82号豎穴建物跡，第21号溝跡，遺構外出土土器

PL16



第58・62・67・70・73・82号竖穴建物跡出土土器



SI 79-45



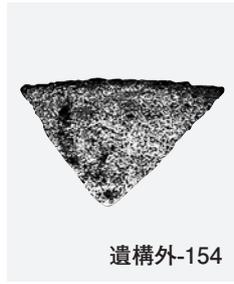
SI 62-73



SI 69-98



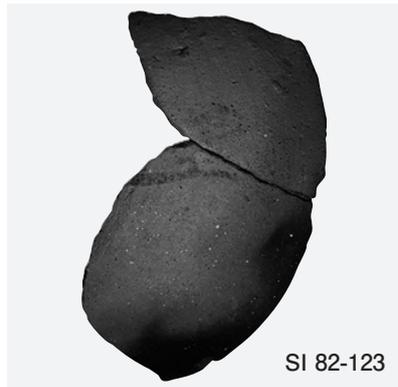
SI 82-124



遺構外-154



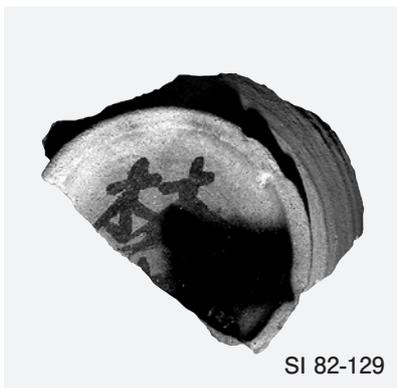
SI 62-75



SI 82-123



SI 82-126



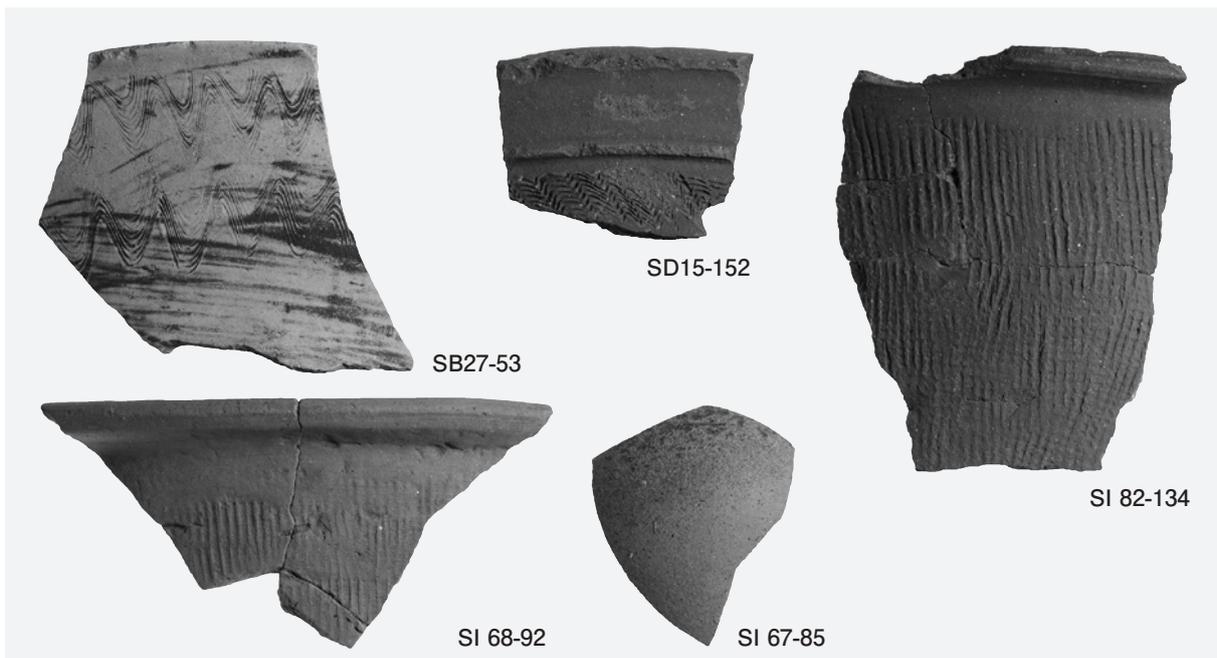
SI 82-129



SB28-139



遺構外-158



SB27-53

SD15-152

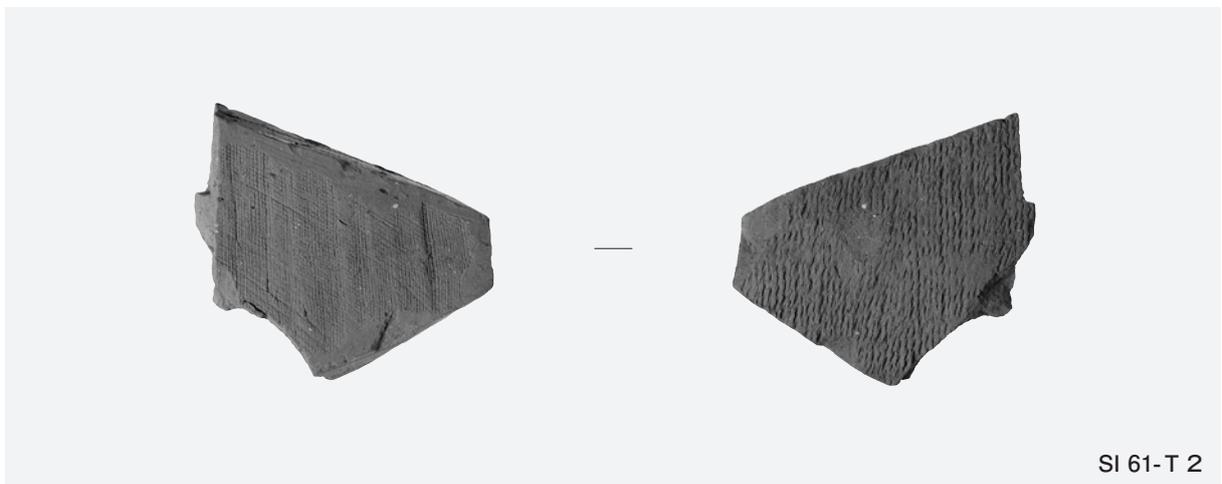
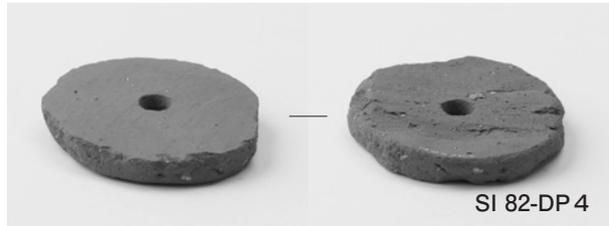
SI 82-134

SI 68-92

SI 67-85

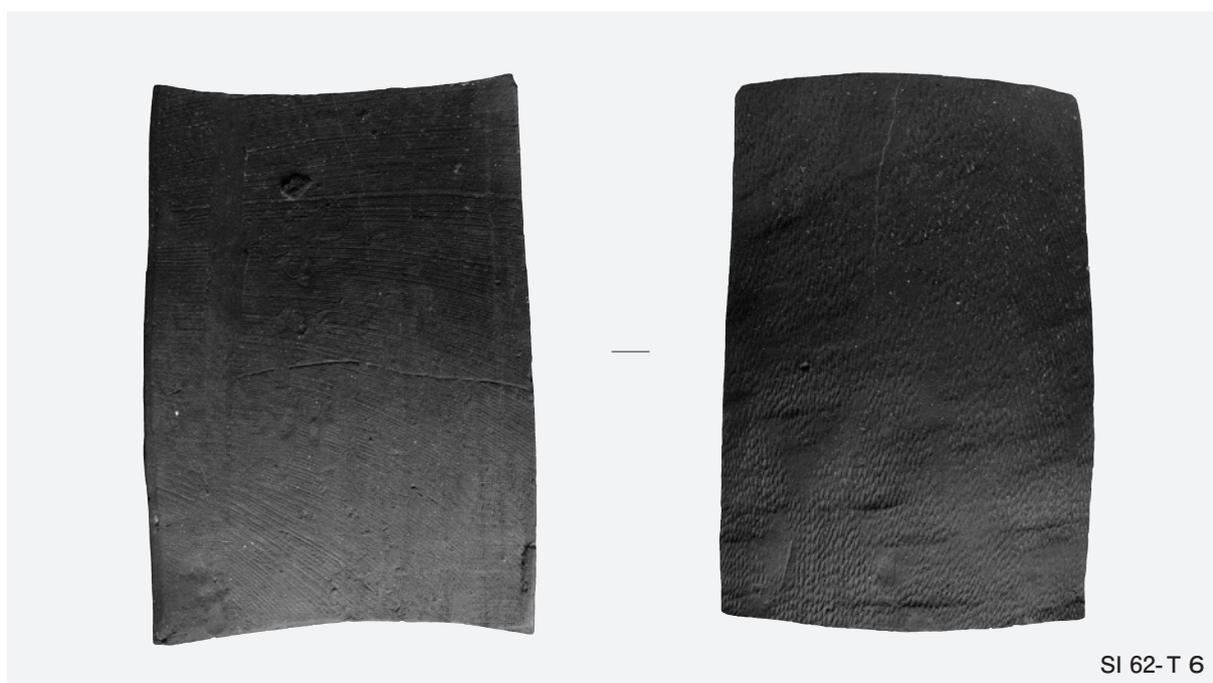
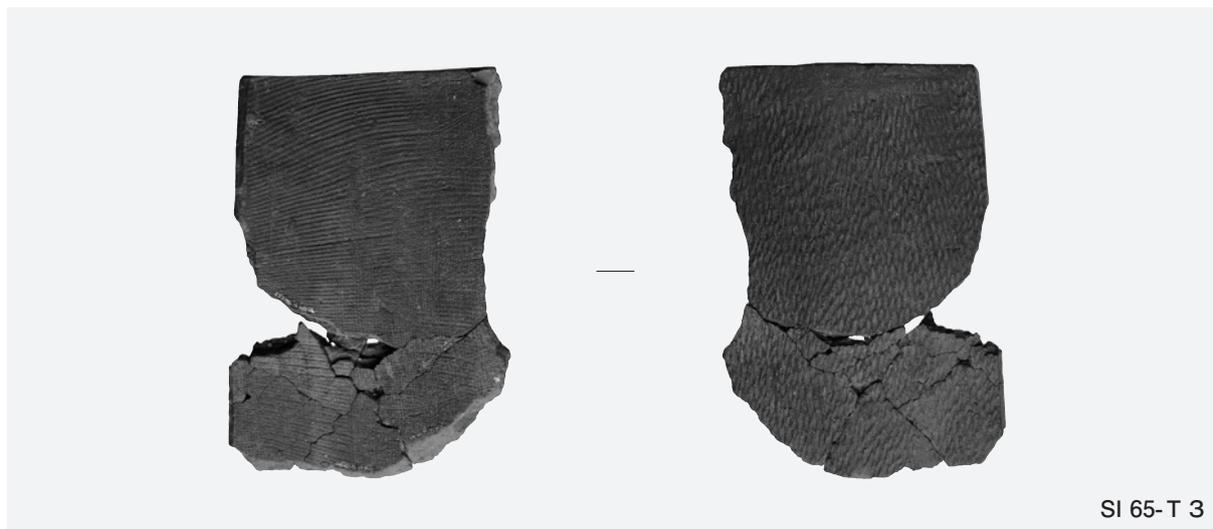
第62・67・68・69・79・82号竖穴建物跡，第27・28号掘立柱建物跡，第15号溝跡，遺構外出土土器

PL18



第58・61・62・65・82号竖穴建物跡，遺構外出土土製品，石器，金属製品，瓦

PL19



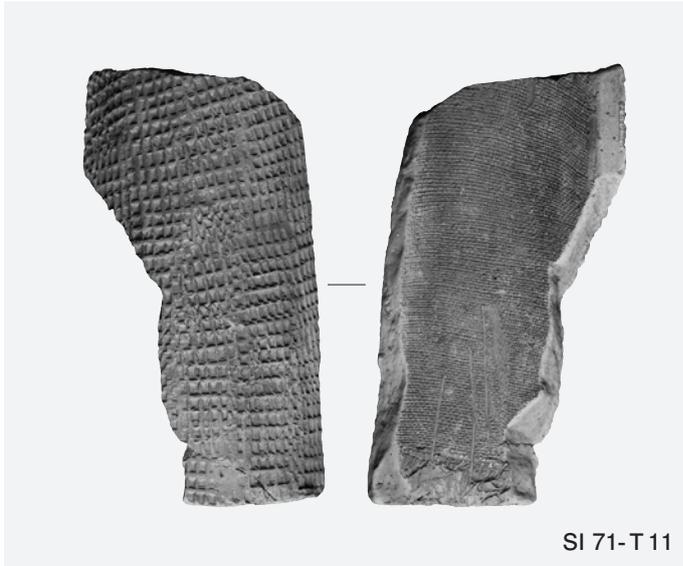
第62・65・77号竪穴建物跡出土瓦

PL20

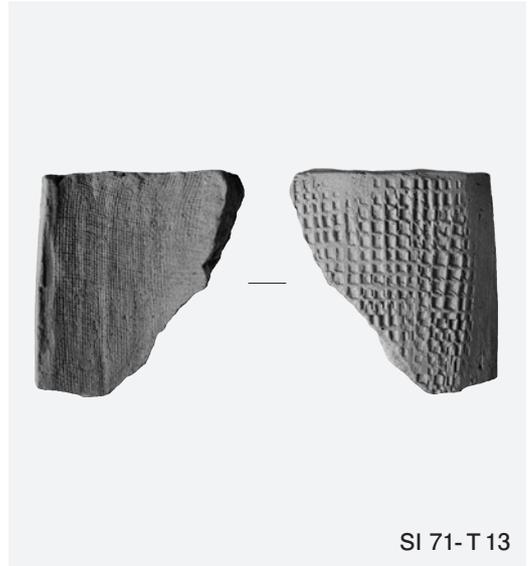


第62・66・71号竖穴建物跡出土瓦

PL21



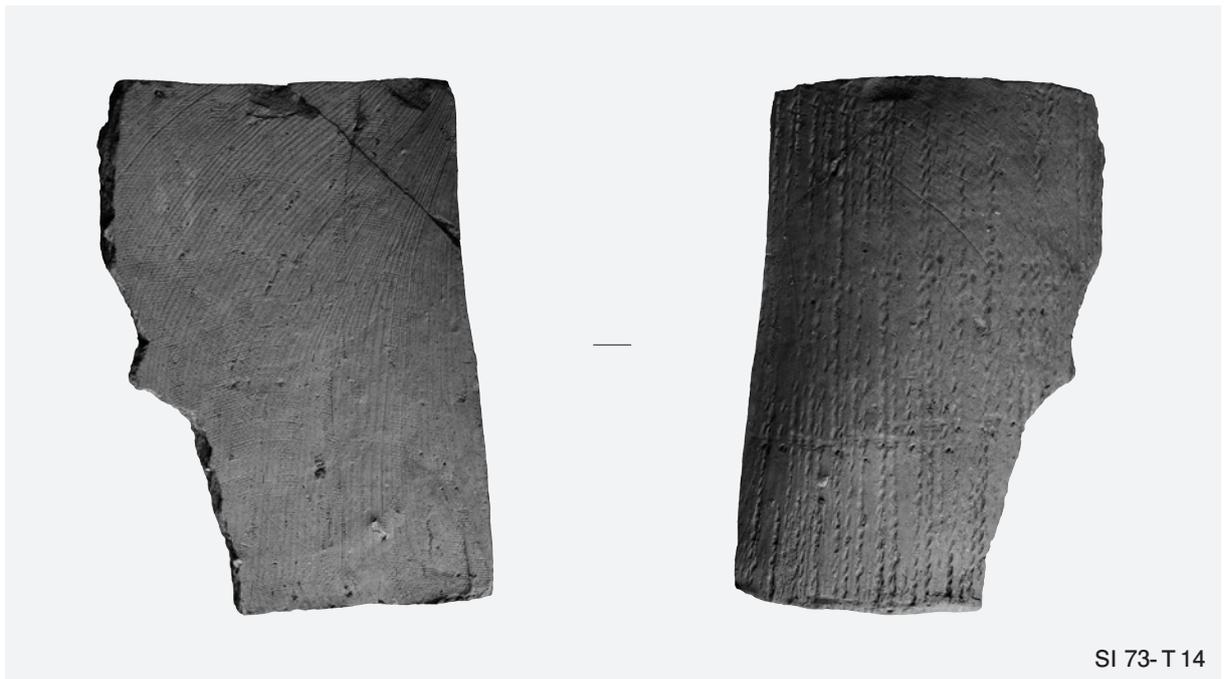
SI 71-T 11



SI 71-T 13



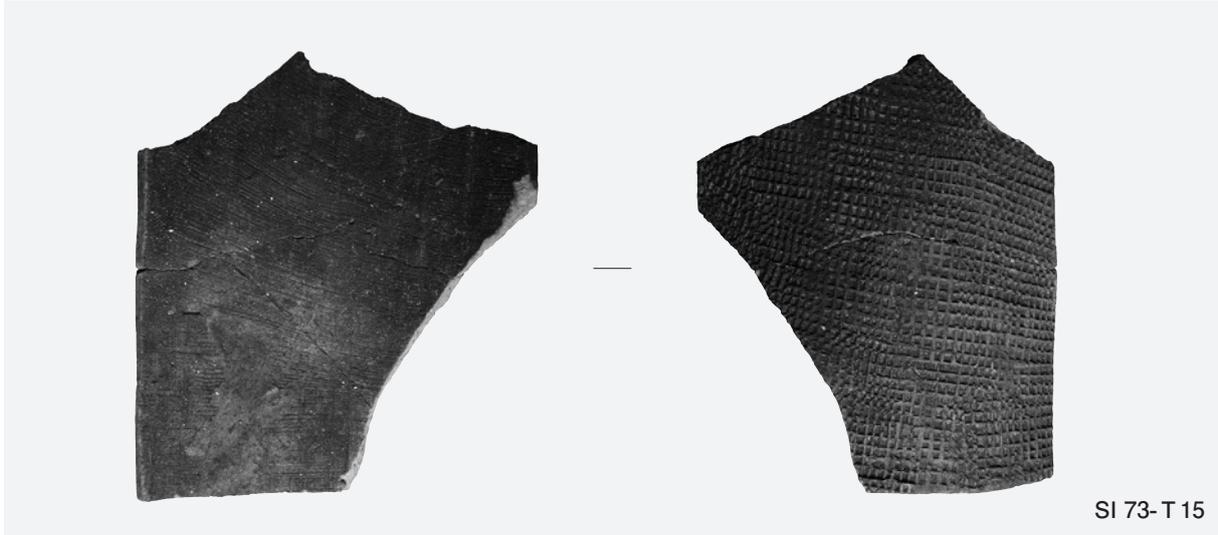
SI 71-T 12



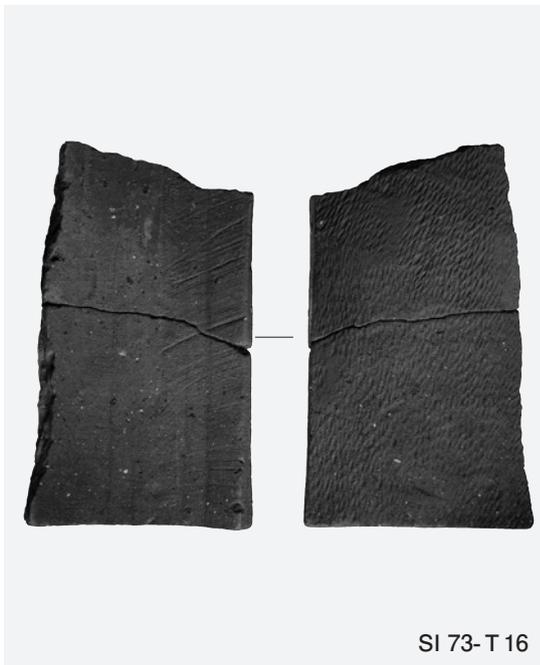
SI 73-T 14

第71・73号竖穴建物跡出土瓦

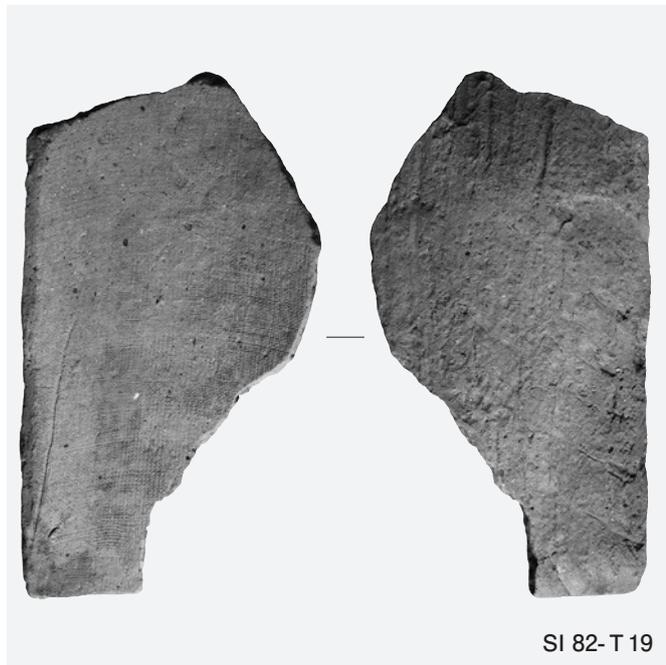
PL22



SI 73-T 15



SI 73-T 16



SI 82-T 19



SI 82-T 18

第73・82号竖穴建物跡出土瓦

PL23



調査区全景 (北部)



調査区全景 (中央部)

PL24



第353号竖穴建物跡



第358号竖穴建物跡
掘 方



第361号竖穴建物跡
遺物出土状況

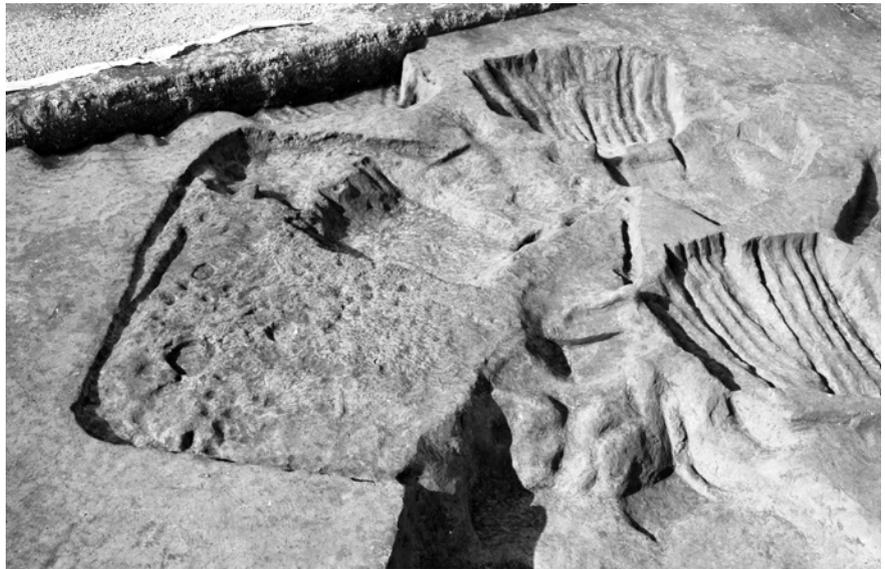
PL25



第361号竖穴建物跡



第362号竖穴建物跡
掘方



第365号竖穴建物跡

PL26



第366号竖穴建物跡



第366号竖穴建物跡
掘 方



第371号竖穴建物跡
竈遺物出土状況

PL27



第371号豎穴建物跡



第375号豎穴建物跡
竈遺物出土狀況 1



第375号豎穴建物跡
竈遺物出土狀況 2

PL28



第375号竖穴建物跡



第376号竖穴建物跡



第377号竖穴建物跡

PL29



第379号豎穴建物跡



第384号豎穴建物跡



第388号豎穴建物跡
竈遺物出土狀況

PL30



第388号竖穴建物跡



第278号竖穴建物跡
遺物出土状況

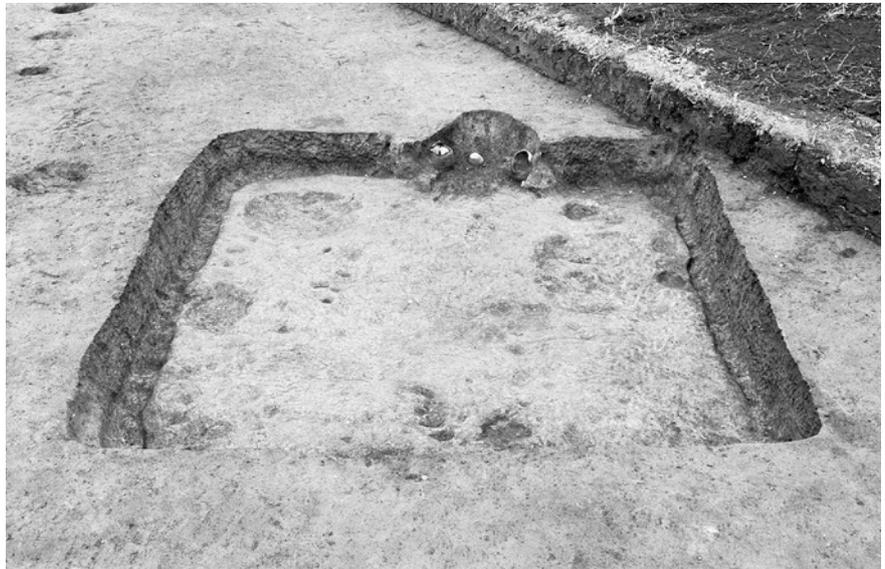


第339号竖穴建物跡
竈遺物出土状況

PL31



第339号竖穴建物跡
竈掘方遺物出土状況



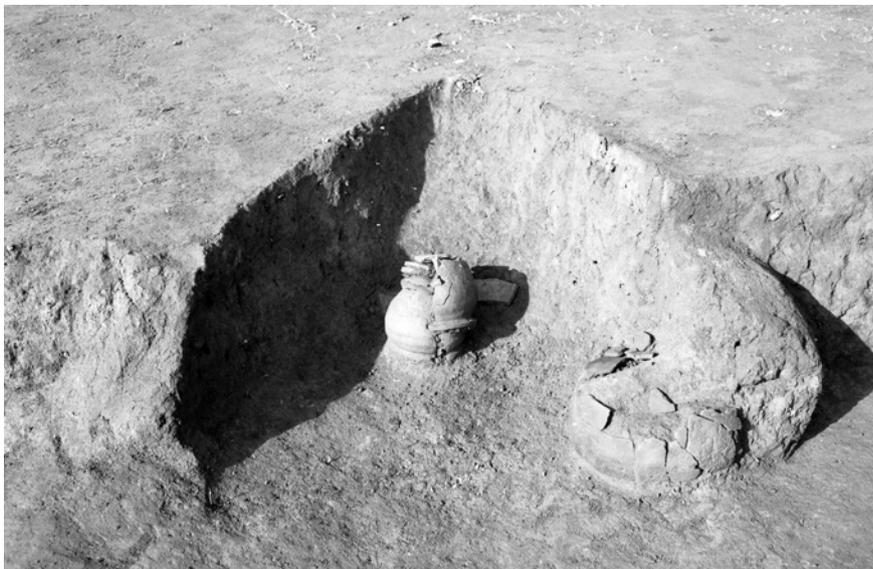
第339号竖穴建物跡



第340A号竖穴建物跡
遺物出土状況



第340A号竖穴建物跡
竈遺物出土状況 1



第340A号竖穴建物跡
竈遺物出土状況 2



第340A・340B・340C号
竖穴建物跡

PL33



第341号竖穴建物跡
遺物出土状況 1



第341号竖穴建物跡
遺物出土状況 2



第341号竖穴建物跡
竈遺物出土状況

PL34



第342号竖穴建物跡
遺物出土状況



第342号竖穴建物跡
竈遺物出土状況



第342号竖穴建物跡

PL35

第343A号豎穴建物跡
竈遺物出土狀況



第 343A・343B 号
豎 穴 建 物 跡



第 343A・343B 号
豎 穴 建 物 跡 掘 方



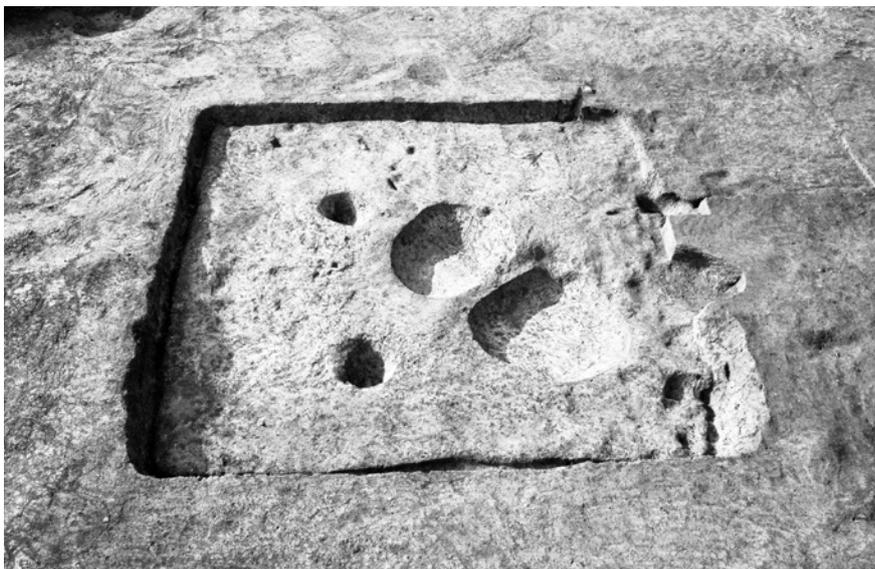
PL36



第 350A · 350B 号
豎 穴 建 物 跡



第351号豎穴建物跡
遺物出土狀況



第351号豎穴建物跡

PL37



第352号豎穴建物跡



第355号豎穴建物跡



第356号豎穴建物跡
遺物出土狀況

PL38



第357号豎穴建物跡



第360号豎穴建物跡
第 42 号 土 坑



第369号豎穴建物跡
遺物出土狀況

PL39



第369号豎穴建物跡



第370号豎穴建物跡
竈遺物出土狀況



第370号豎穴建物跡

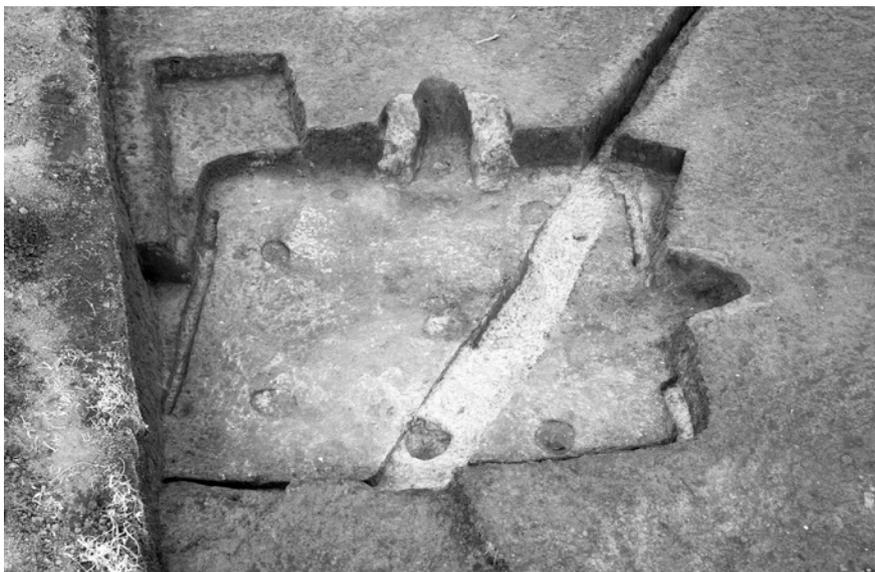
PL40



第372号豎穴建物跡
遺物出土狀況



第373号豎穴建物跡



第373号豎穴建物跡
掘 方

PL41

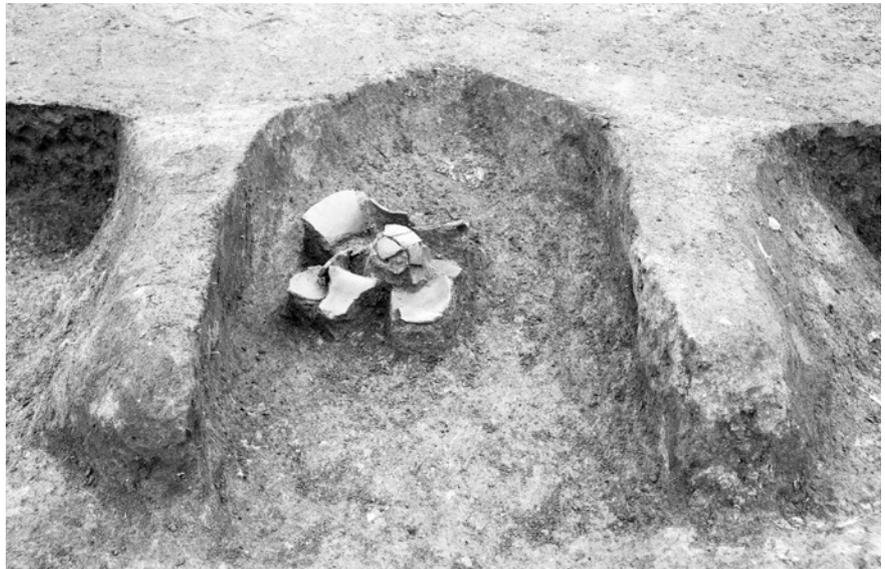
第374号豎穴建物跡
竈遺物出土狀況



第374号豎穴建物跡



第378号豎穴建物跡
竈遺物出土狀況



PL42



第378号竖穴建物跡



第380号竖穴建物跡



第383号竖穴建物跡

PL43

第385号豎穴建物跡
遺物出土狀況 1



第385号豎穴建物跡
遺物出土狀況 2



第386号豎穴建物跡



PL44



第391号竖穴建物跡



第24・25A・25B号
溝 跡



第 28 号 溝 跡

PL45

第 5 号 溝 跡



第 21 号 溝 跡



第 30 号 溝 跡



PL46



第110号掘立柱建物跡掘方



第115A・115B号掘立柱建物跡掘方



第117号掘立柱建物跡掘方



第118号掘立柱建物跡掘方



第119号掘立柱建物跡掘方



第124号掘立柱建物跡掘方



第125号掘立柱建物跡掘方



第111号掘立柱建物跡掘方

PL47



第112号掘立柱建物跡掘方



第113号掘立柱建物跡掘方



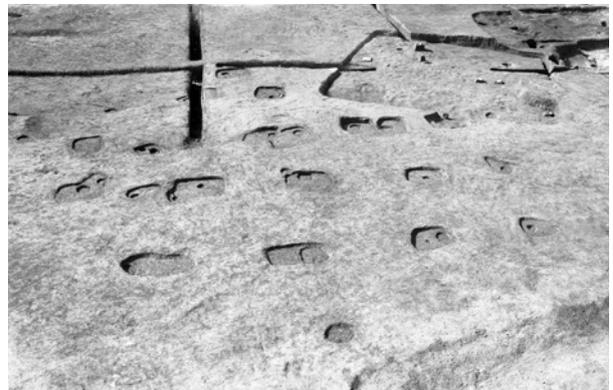
第114A・114B号掘立柱建物跡掘方



第116号掘立柱建物跡



第120号掘立柱建物跡掘方



第126・127号掘立柱建物跡



第128号掘立柱建物跡掘方



第129号掘立柱建物跡掘方



第4号井戸跡



第1号粘土採掘坑



第2号粘土採掘坑



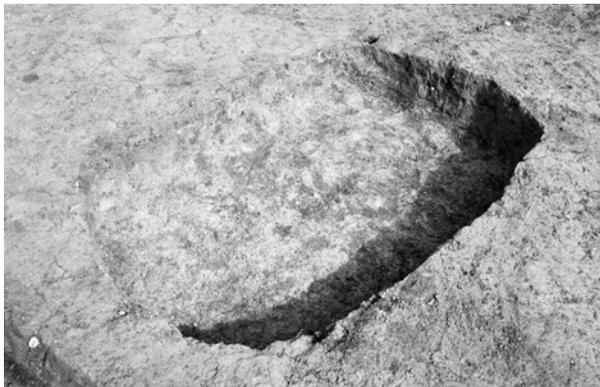
第1号大型円形土坑



第44号土坑



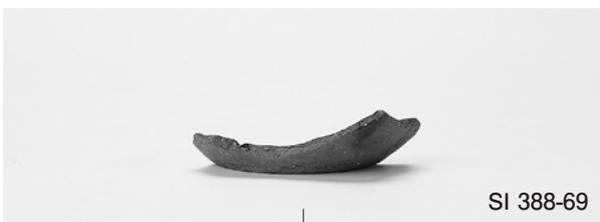
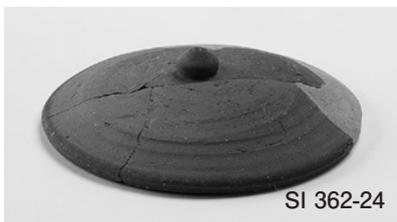
第39号土坑遺物出土状況



第28号土坑

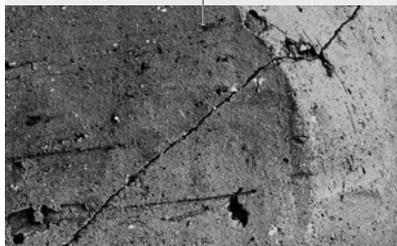
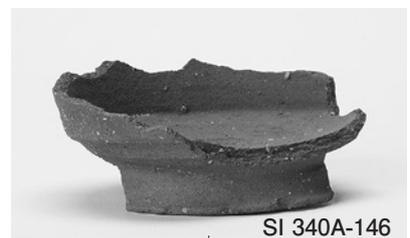


第3号ピット群



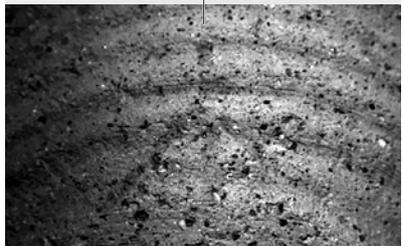
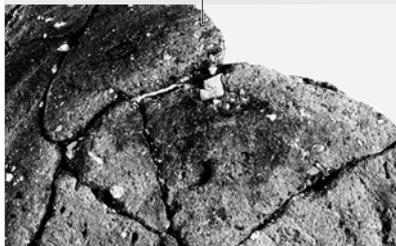
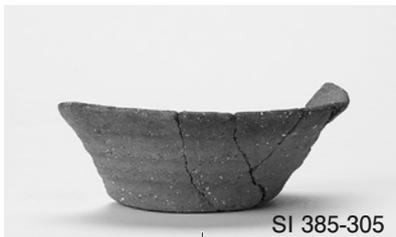
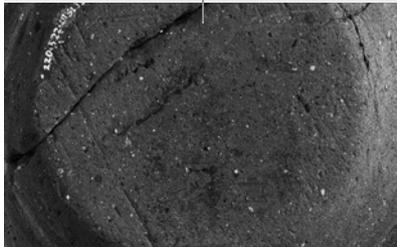
第353・358・361・362・371・375・379・388号竖穴建物跡，第51号土坑出土土器

PL50

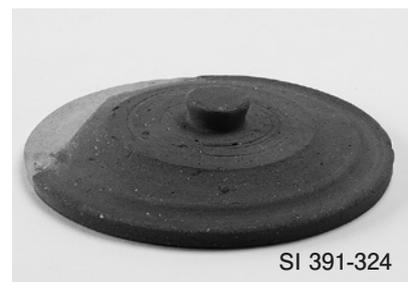


第339・340A・380・385号竖穴建物跡出土土器

PL51



第342・351・369・370・373・380・385・391号竪穴建物跡，第1号ピット群出土土器

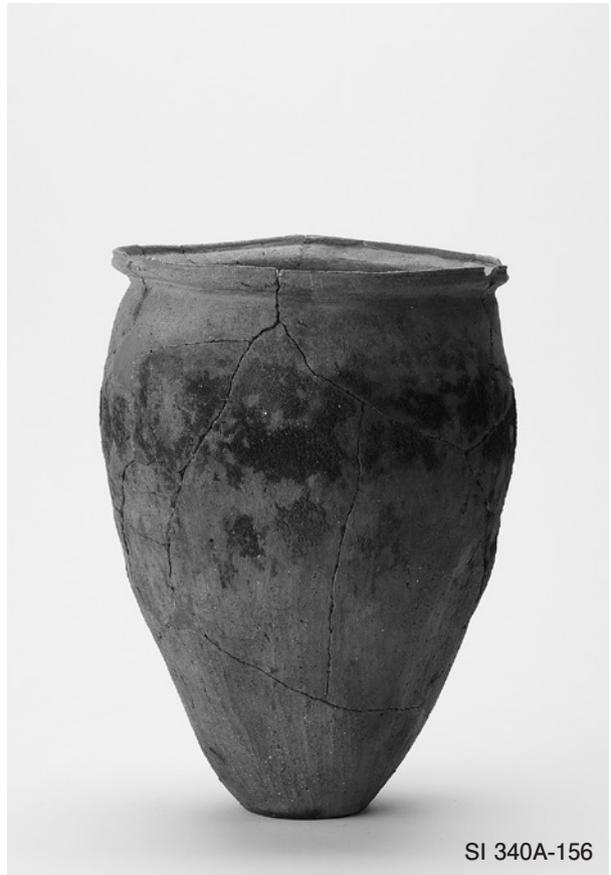


PL53



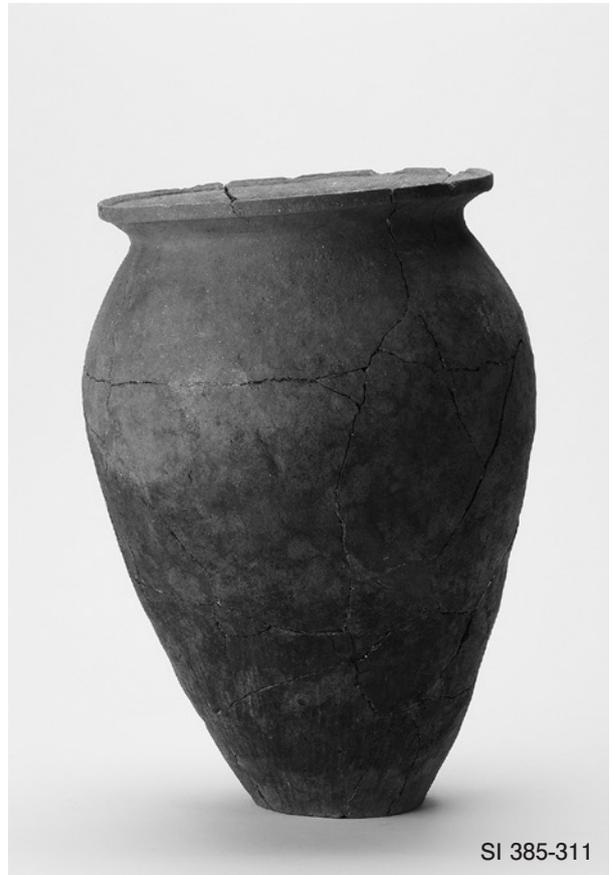
第339・340A・341・342・343A・350B・372・385号豎穴建物跡出土土器

PL54



第340A・374・385号竖穴建物跡出土土器

PL55



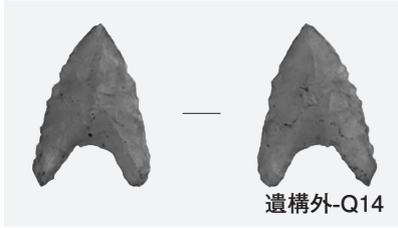
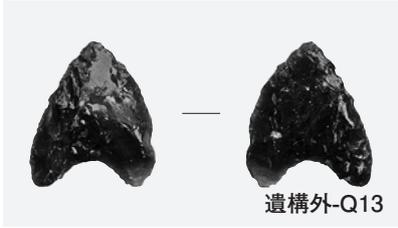
第339・341・385号竪穴建物跡出土土器

PL56

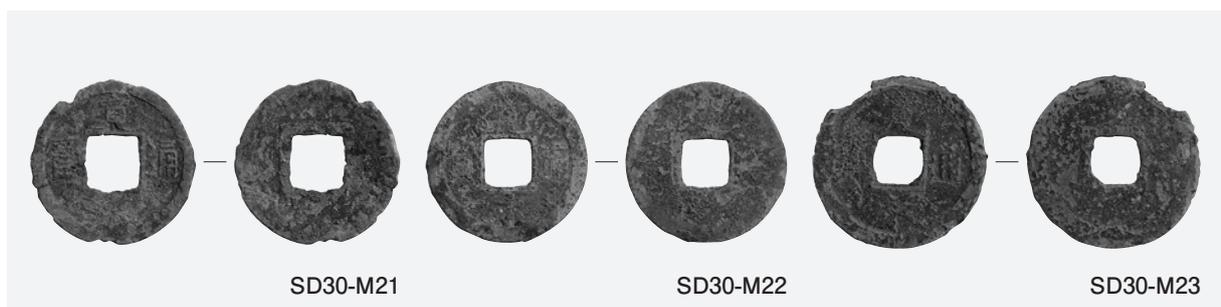
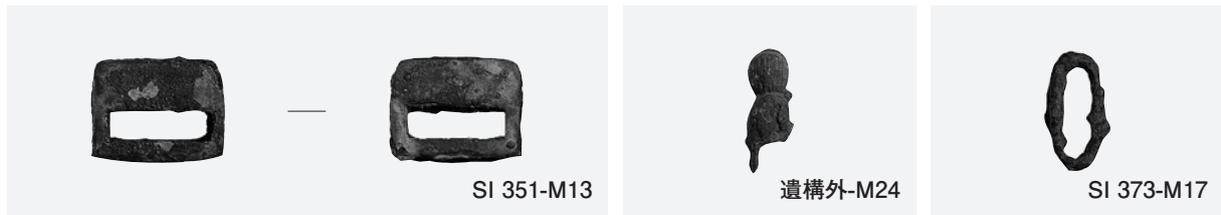


第340A・341・343A・350A・370・378号豎穴建物跡，第116・127号掘立柱建物跡，遺構外出土土器，土製品

PL57

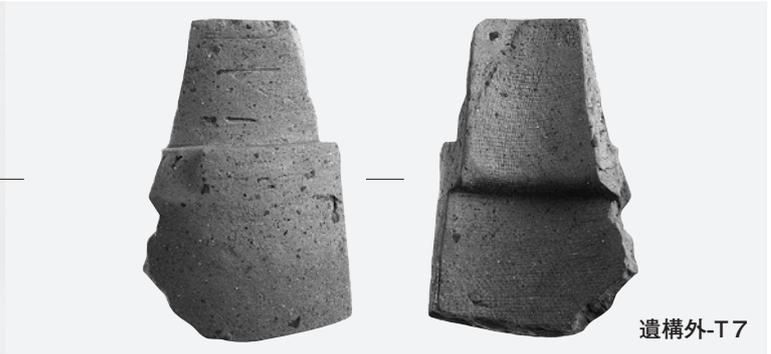
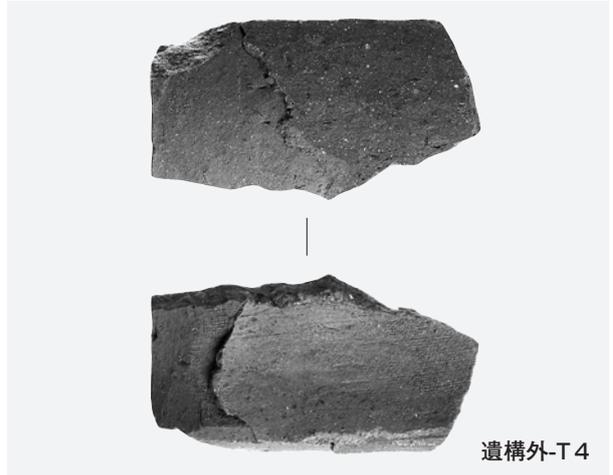
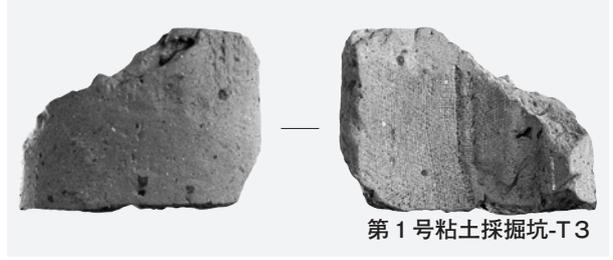
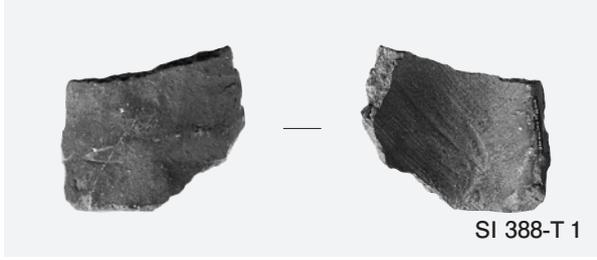


第350A・362・369・379・385号竪穴建物跡，遺構外出土石器



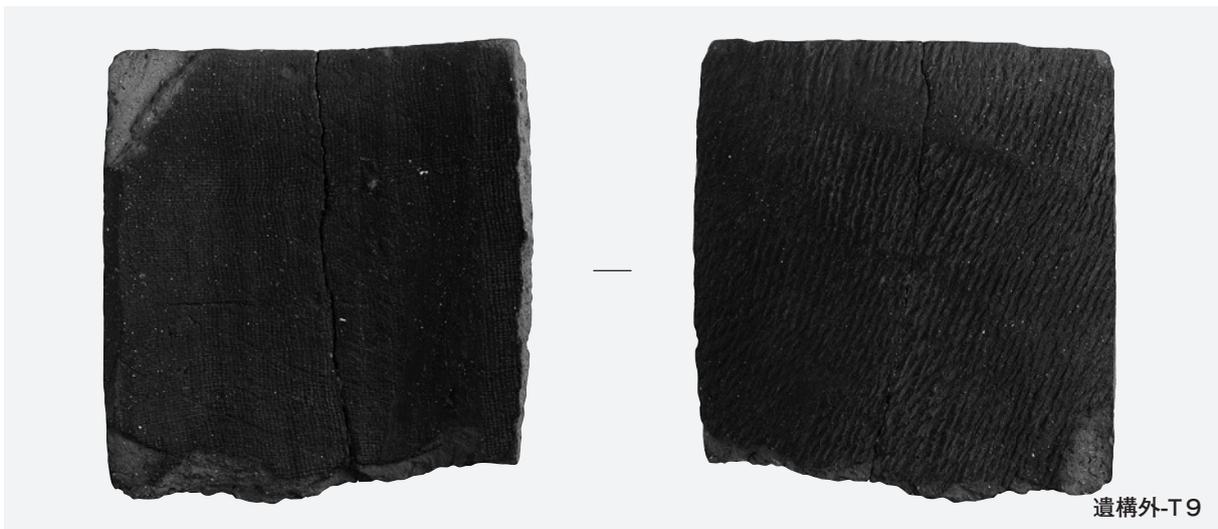
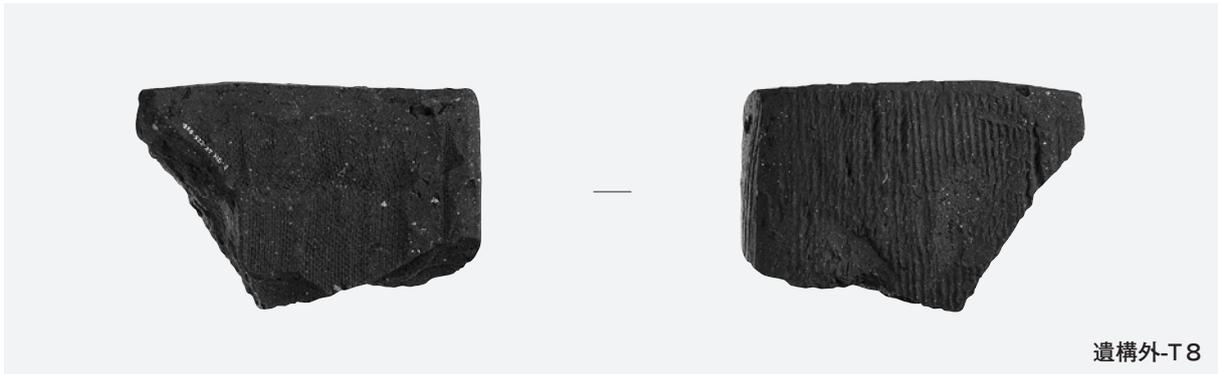
第278・340A・341・342・343A・351・358・365・373・377号豎穴建物跡，第111号掘立柱建物跡，第51号土坑，第5・30号溝跡，遺構外出土金属製品

PL59



第369・388号豎穴建物跡，第1号粘土採掘坑，遺構外出土瓦

PL60



遺構外出土瓦

抄 録

ふりがな	ここのえひがしおかはいじ こんだにしいせき							
書名	九重東岡廃寺 金田西遺跡							
副書名	中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XXI							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第435集							
著者名	荒井保雄							
編集機関	公益財団法人茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行日	2019(平成31)年3月18日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
九重東岡廃寺	茨城県つくば市東岡字海道端252-1番地ほか	08220 - 121	36度 09分 13秒	140度 12分 57秒	24 ~ 25m	20150401 ~ 20150831	8,856㎡	中根・金田台特定土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
金田西遺跡	茨城県つくば市金田字西原1891番地ほか	08220 - 522	36度 10分 29秒	140度 14分 06秒	24 ~ 25m	20151101 ~ 20160331 20160801 ~ 20170831	6,211㎡ 1,469㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物			特記事項
九重東岡廃寺	集落跡	奈良	竪穴建物跡	9棟	土師器(坏・甕・小形甕), 須恵器(坏・高台付坏・蓋・コップ形土器・皿・盤・高盤・仏鉢・短頸壺・長頸瓶・甕・甑), 灰釉陶器(長頸瓶), 土製品(支脚・転用硯), 瓦(軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦・隅切瓦), 金属製品(刀子・鎌)			
		平安	竪穴建物跡	17棟	土師器(坏・甕・小形甕), 須恵器(坏・高台付坏・蓋・コップ形土器・皿・盤・高盤・短頸壺・長頸瓶・甕・甑), 土製品(紡錘車), 石器(砥石), 金属製品(刀子・鎌), 瓦(軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦)			
	その他	時期不明	土坑	13基	土師器(坏・甕), 須恵器(坏・甕), 瓦(平瓦), 金属製品(釘)			
			掘立柱建物跡	9棟				
			井戸跡	1基				
			土坑	5基				
			溝跡	6条				
			溝跡	8条				
			柱穴列	1条				

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
金田西遺跡	集落跡	奈良	竪穴建物跡 14棟 掘立柱建物跡 10棟 大型円形土坑 1基 土坑 4基 柱穴列 1条 溝跡 4条 ピット群 1か所	土師器（坏・甕・小形甕）, 須恵器（坏・高台付坏・蓋・盤・ 高盤・双耳壺・短頸壺・長 頸瓶・甕・甑）,土製品（支脚）, 石器（砥石・温石）, 金属製 品（刀子）, 瓦（丸瓦）	
		平安	竪穴建物跡 35棟 掘立柱建物跡 12棟 井戸跡 1基 粘土採掘坑 2基 土坑 8基 柱穴列 3条 溝跡 2条 ピット群 1か所	土師器（坏・甕・小形甕）, 須恵器（坏・高台付坏・蓋・ コップ形土器・盤・高盤・短 頸壺・長頸瓶・甕・甑）, 灰 釉陶器（長頸瓶）, 土製品（土 玉・支脚・紡錘車）, 金属製 品（刀子・鎌・釘・巡方）	
		江戸	土坑 1基 溝跡 4条	陶器（碗・皿・播鉢・花瓶・ 急須）, 磁器（碗・蕎麦猪口）, 土師質土器（鍋）, 金属製品 （煙管）, 銭貨	
		その他	時期不明	土坑 63基 柱穴列 1条 溝跡 5条 ピット群 3か所	
要約	<p>九重東岡廃寺は、常陸国河内郡衙に付属する寺院跡として国の史跡に指定された遺跡である。調査区は平成12年度に調査された基壇跡の西側と北側にあたり、竪穴建物跡や掘立柱建物跡群が確認された。遺物は、竪穴建物跡から仏鉢、竈袖部の補強材に再利用された瓦が出土している。寺院跡に隣接した集落の様相を反映する遺跡である。</p> <p>金田西遺跡は、常陸国河内郡衙として国の史跡に指定された遺跡である。遺物は、竪穴建物跡から寺院跡に関わる軒平瓦・丸瓦や、「寺」の文字が書かれた墨書土器、蛇紋岩製の「温石」、銅製品の「巡方」、須恵器のコップ形土器等が出土している。竪穴建物や掘立柱建物で構成される建物群は、郡衙や郡寺の機能を担った人々が生活した集落と考えられる。</p>				

印刷仕様

編集 OS Microsoft Windows 10 Pro
編集 Adobe InDesign CC
図版作成 Adobe Illustrator CS 4
写真調整 Adobe Photoshop CS 4
Scanning 6 × 7 film EPSON G T - X980
図面類 RICOH - imagio MPW4001
使用Font OpenType リュウミンPro・L 太ゴB101Pro
写真 線数 モノクロ175線以上 カラー210線以上
印刷 印刷所へは、Adobe InDesign CCでレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第435集

九重東岡廃寺 金田西遺跡 下巻

中根・金田台特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書XXI

平成31（2019）年 3月15日 印刷

平成31（2019）年 3月18日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL 029-225-6587

HP <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 八幡印刷株式会社

〒310-0911 水戸市見和3丁目1528-38

TEL 0120-23-1473



付図 九重東岡廃寺・金田西遺跡遺構全体図 (茨城県教育財団文化財調査報告第 435 集)